內閣印刷局

官報 號外

昭和十四年二月二十六日

○第七十四回帝國議會貴族院議事速記錄第十六號

昭和十四年二月二十五日（土曜日）午前十時九分開議

議事日程　第十六號

昭和十四年二月二十五日

午前十時開議

第一　昭和十二年法律第五十七號中改正法律案（政府提出、衆議院送付）　第一讀會

第二　大正十四年法律第五十一號中改正法律案（政府提出、衆議院送付）　第一讀會

第三　明治四十五年法律第二十三號中改正法律案（政府提出、衆議院送付）　第一讀會

第四　名古屋帝國大學創設ニ伴フ帝國大學特別會計及官立大學特別會計ノ關涉ニ關スル法律案（政府提出、衆議院送付）　第一讀會

第五　寺院等ニ無償ニテ貸付シアル國有財產ノ處分ニ關スル法律案（政府提出）　第一讀會ノ續（委員長報告）

第六　郵便年金法中改正法律案（政府提出）　第一讀會ノ續（委員長報告）

○議長（伯爵松平賴壽君）　報告ヲ致サセマス

（小林書記官朗讀）

去ル二十日本院ニ於テ可決シタル左ノ政府提出案ハ卽日之ヲ衆議院ニ送付セリ

花柳病豫防法中改正法律案

大正十四年法律第五十一號中改正法律案

明治四十五年法律第二十三號中改正法律案

名古屋帝國大學創設ニ伴フ帝國大學特別會計及官立大學特別會計ノ關涉ニ關スル法律案

一昨二十三日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

請願委員會特別報告第四號

同日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ

昭和十三年度歲入歲出總豫算追加案（第二號）

昭和十三年度各特別會計歲入歲出豫算追加案（特第一號）

豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件（追第一號）

○議長（伯爵松平賴壽君）　是ヨリ本日ノ會議ヲ開キマス、本日、豫算委員赤池濃君都合ニ依リ委員辭任ノ申出ガゴザイマシタ、之ヲ許可スルコトニ御異議ハゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス、就キマシテハ第九部ニ於テ其ノ補闕選擧ヲ行ハレムコトヲ望ミマス

○議長（伯爵松平賴壽君）　日程第一、昭和十二年法律第五十七號中改正法律案、日程第二、大正十四年法律第五十一號中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、是等ノ二案ヲ一括シテ議題ニスルコトニ御異議ゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス、松村大藏政務次官

（左ノ送付文及法律案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ玆ニ載錄ス以下之ニ倣フ）

從四位　子爵增山　正興君

去ル二十一日卒去セラル依テ二十三日弔辭ヲ贈レリ

去ル二十一日委員會ニ於テ當選シタル正副委員長ノ氏名左ノ如シ

昭和十四年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案特別委員會

委員長　子爵高橋　是賢君

副委員長　男爵深尾隆太郎君

人事調停法案特別委員會

委員長　伯爵二荒　芳德君

副委員長　男爵渡邊　修二君

軍用自動車檢查法案特別委員會

委員長　侯爵小村　捷治君

副委員長　子爵立見　豐丸君

朝鮮事業公債法中改正法律案特別委員會

委員長　伯爵堀田　正恒君

副委員長　男爵大藏　公望君

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

郵便年金法中改正法律案可決報告書

同日內閣總理大臣ヨリ左ノ通第七十四回帝國議會政府委員仰付ラレタル旨ノ通牒ヲ受領セリ

大藏省所管事務政府委員

大藏書記官　田中　豐君

去ル二十二日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

寺院等ニ無償ニテ貸付シアル國有財產ノ處分ニ關スル法律案修正報告書

請願文書表（第五回報告）

同日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ

昭和十二年法律第五十七號中改正法律案

昭和十二年法律第五十七號中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十四年二月二十二日

衆議院議長伯爵松平賴壽殿

貴族院議長伯爵　小山　松壽

昭和十二年法律第五十七號中改正法律案

昭和十二年法律第五十七號中左ノ通改正ス

第一項中「昭和十四年六月三十日」ヲ「昭和十六年六月三十日」ニ改ム

參　照

昭和十二年法律第五十七號ハ鐵ノ輸入稅免除ニ關スル法律ナリ

大正十四年法律第五十一號中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十四年二月二十二日

衆議院議長伯爵松平賴壽殿

貴族院議長　小山　松壽

大正十四年法律第五十一號中改正法律案

大正十四年法律第五十一號中左ノ通改正ス

別表甲號輸入稅表番號第百六十九號ノ內ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

二〇八ノ內ニトロナフタリン　附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

參　照

大正十四年法律第五十一號ハ關東州ノ生產ニ係ル物品ノ輸入稅免除等ニ關スル法律ナリ

（政務次官松村光三君演壇ニ登ル）

○政務次官（松村光三君）　只今議題トナリマシタ昭和十二年法律第五十七號中改正法

律案及大正十四年法律第五十一號中法律案、提出ノ理由ニ付テ御説明致シマス、先ヅ昭和十二年法律第五十七號中改正法律案ニ付テ説明致シマス、鐵ノ輸入税ハ本法ニ依リ本年六月三十日迄免除セラレテ居ルノデアリマスルガ、最近我ガ國ニ於ケル其ノ生産、輸入、需給等ノ現狀ニ鑑ミマスル時ハ、更ニ免税期間ヲ二箇年延長致シマシテ、鐵鋼需給ノ圓滑ニ資スルヲ適當ト認メ、改正法律案ヲ提出致シタ次第デアリマス、次ニ大正十四年法律第五十一號中改正法律案ニ付キマシテ説明致シマス、最近關東州ニ於テ「ニトロナフタリン」ノ生産ヲ見ルニ至ッタノデアリマスガ、之ガ輸入ヲ便ナラシムル爲、其ノ輸入税ヲ免除スルヲ適當ト認メ、本改正案ヲ提出シタ次第デアリマス、以上兩案ニ付キマシテ何卒御審議ノ上、協贊ヲ與ヘラレムコトヲ希望致シマス

○議長（伯爵松平頼壽君）　別ニ御質疑ガナケレバ、兩案ノ特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス

（小林書記官朗讀）

昭和十二年法律第五十七號中改正法律案外一件特別委員

侯爵蜂須賀正氏君　子爵三室戸敬光君
男爵山根健男君　男爵水谷川忠麿君
菊池恭三君　根津嘉一郎君
宇野勇作君　長野忠次君
野村德七君

○議長（伯爵松平頼壽君）　日程第三、明治四十五年法律第二十三號中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、寺田拓務政務次官

明治四十五年法律第二十三號中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十四年二月二十二日

衆議院議長　小山松壽

貴族院議長伯爵松平頼壽殿

明治四十五年法律第二十三號中改正法律案

明治四十五年法律第二十三號中左ノ通改正ス

第一條第二項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ樺太ニ於テ人造石油製造事業法第二條ノ規定ニ依リ人造石油製造事業ノ許可ヲ受ケタル會社ニ對シテハ行政官廳其ノ採掘料ヲ定メ之ヲ許可スルコトヲ得

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

參　照

明治四十五年法律第二十三號ハ樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律ナリ

（政府委員寺田市正君演壇ニ登ル）

○政府委員（寺田市正君）　只今議題トナリマシタ明治四十五年法律第二十三號中改正法律案ニ付キマシテ、提案理由ヲ簡單ニ御説明致シマス、我ガ國ニ於キマスル液體燃料需給ノ現狀ニ鑑ミマシテ、人造石油製造事業ノ振興確立ヲ圖リマスルコトハ、國防上及産業上、刻下ノ急務ト存ズルノデアリマス、然ルニ御承知ノ如ク人造石油製造事業ハナカ〳〵困難ナル事業デアリマシテ、之ガ經濟的經營ヲ圖リマス爲ニハ、各方面ニ於テ研究ガ進メラレ、原料炭ニ付キマシテハ其ノ炭質ヲ選ブハ勿論、其ノ炭量ニ付相當考慮ヲ要ストサレテ居ルノデアリマスガ、幸ニ樺太ノ所謂封鎖炭田中ニ、最モ好ク此ノ要求ニ適合スルモノガアリマスノデ、政府ニ於キマシテモ、從來ヨリ適當ナル人造石油製造會社ニ對シ封鎖ヲ解キ、原料炭ノ取得ヲ容易ナラシメ、以テ液體燃料國策ノ遂行ニ資シタイト考ヘテ居タノデゴザイマスガ、一方有力會社ノ中ニモ、此ノ炭田ヲ利用シ、大規模ノ人造石油製造事業ヲ經營セムトスル希望ヲ有スルモノヲ生ズルニ至ッタノデアリマス、樺太ノ拓殖上カラモ必要デアリ、速カニ之ガ實現ヲ期シタイノデアリマス、然ルニ封鎖炭田ノ石炭採掘ニ付キマシテハ、現行法ノ下ニ於キマシテハ如何ナル場合ニ於キマシテモ、其ノ採掘量ヲ競爭入札ニ付シマシテ、落札者ニ之ヲ許可スルコトトナッテ居リマスル關係上、縱令人造石油製造會社ガ競爭入札ニ加入致シマシテモ、必ズシモ之ニ落札スルトハ考ヘラレマセヌノデ、特ニ人造石油製造事業法ニ依リ許可ヲ受ケマシタル人造石油製造會社ニ限リ、競爭入札ニ依ラナイデ行政官廳ガ其ノ採掘量ヲ定メ、之ヲ許可シ得ルヤウ改ムルコトガ適當デアルト認メマシテ、本案ヲ提出シタ次第デゴザイマス、何卒御審議ノ上御協贊ヲ賜ハラムコトヲ希望致シマス

○子爵戸澤正己君　只今日程ニ上リマシタ明治四十五年法律第二十三號中改正法律案ハ、關聯スル所ガアリマスルガ故ニ、朝鮮事業公債法中改正法律案外二件ノ特別委員ニ併託セラレムコトノ動議ヲ提出致シマス

○子爵秋田重季君　贊成

○議長（伯爵松平頼壽君）　戸澤子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平頼壽君）　御異議ナイト認メマス

○議長（伯爵松平頼壽君）　日程第四、名古屋帝國大學創設ニ伴フ帝國大學特別會計及官立大學特別會計ノ關渉ニ關スル法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、松村大藏政務次官

名古屋帝國大學創設ニ伴フ帝國大學特別會計及官立大學特別會計ノ關渉ニ關スル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十四年二月二十二日

衆議院議長　小山松壽

貴族院議長伯爵松平頼壽殿

名古屋帝國大學創設ニ伴フ帝國大學特別會計及官立大學特別會計ノ關渉ニ關スル法律案

昭和十三年度末現在ノ官立大學資金ニシテ名古屋醫科大學ノ用ニ供スルモノ及昭和十三年度官立大學特別會計ノ歳入殘餘ニシテ名古屋醫科大學ニ屬スルモノハ之ヲ帝國大學資金ニ編入スベシ

前項ノ規定ニ依リ編入シタル資金ハ之ヲ名古屋帝國大學ノ資金トシテ區分整理スベシ

昭和十三年度官立大學特別會計歳入歳出豫算中翌年度ニ繰越ヲ要スルモノニシテ名古屋醫科大學ニ關スルモノハ之ヲ帝國大學特別會計ニ繰越シ使用スベシ

名古屋醫科大學長ニ經理ヲ委任シタル奬學寄附金ノ支拂殘額ハ大學特別會計法第十條ノ規定ニ依リ名古屋帝國大學總長ニ經理ヲ委任シタルモノト看做ス

附　則

本法ハ昭和十四年度ヨリ之ヲ施行ス

（政府委員松村光三君演壇ニ登ル）

○政府委員（松村光三君）　只今議題トナリマシタ名古屋帝國大學創設ニ伴フ帝國大學特別會計及官立大學特別會計ノ關渉ニ關スル法律案提出ノ理由ヲ御説明致シマス、現下内外ノ情勢ニ鑑ミ、昭和十四年度ニ於テ新タニ醫學部及理工學部ヨリ成ル名古屋帝國大學ヲ創設シ、其ノ醫學部ハ現在ノ名古屋醫科大學ヲ移シ替フルコトト相成リマシタ處、之ニ伴ヒマシテ帝國大學特別會計ト官立大學特別會計トノ關渉ニ關スル法律ヲ制定スルノ必要ガアリマスノデ、本法律案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上、速カニ協贊ヲ與ヘラレムコトヲ希望致シマス

○議長（伯爵松平頼壽君）　別ニ御質疑ガナケレバ、本案ノ特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス

（丸龜書記官朗讀）

名古屋帝國大學創設ニ伴フ帝國大學特別

會計及官立大學特別會計ノ關渉ニ關スル法律案特別委員

侯爵山内豐景君　伯爵後藤一藏君
子爵松平保男君　中川健藏君
男爵今園國貞君　小久保喜七君
藤原銀次郎君　小林嘉平治君
山田仙之助君

○議長（伯爵松平頼壽君）　日程第五、寺院等ニ無償ニテ貸付シアル國有財産ノ處分ニ關スル法律案、政府提出、第一讀會ノ續、委員長報告、委員長柳原伯爵

（左ノ報告書ハ朗讀ヲ經サル、モ參照ノタメ玆ニ載録ス以下之ニ倣フ）

寺院等ニ無償ニテ貸付シアル國有財産ノ處分ニ關スル法律案

右別冊ノ通修正議決セリ依テ及報告候也

昭和十四年二月二十二日

委員長　伯爵柳原義光

貴族院議長伯爵松平頼壽殿

（特別委員ノ修正ニ係ル部分ノミヲ印刷シ其ノ他ハ之ヲ略ス小字及――ハ修正ナリ）

第四條　前條ノ規定ニ依ル讓拂代金ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ[十]五年内ノ年賦延納ヲ認ムルコトヲ得但シ國債ヲ以テ擔保ヲ供シタルトキハ十年内ノ年賦延納ヲ認ムルコトヲ妨ゲズ

（伯爵柳原義光君演壇ニ登ル）

○伯爵柳原義光君　只今議題ト相成リマシタ寺院等ニ無償ニテ貸付シアル國有財産ノ處分ニ關スル法律案ノ特別委員會ニ於ケル審議ノ經過竝結果ヲ簡單ニ御報告申上ゲマス、此ノ案ハ先頃宗教團體法案ト同時ニ提案上程セラレマシタモノデアリマシテ、同一ノ特別委員ニ付託ニ相成ッタノデアリマス、而シテ宗教團體法案ノ委員會ノ審議決定完了後、去ル十七、二十、二十一及二十二ノ四日ノ午前及午後ニ亙リ四回開會ヲ致シマシテ、愼重ニ審議ヲ致シマシタ、結局第四條ニ簡單ナル修正ヲ加ヘテ全會一致ヲ以テ可決ヲ致シタノデアリマス、提案ノ趣旨ハ、寺院佛堂ノ國有境内地讓與ノ問題ハ多年ノ懸案デアッタノデアリマスガ、政府トシテハ寺院佛堂ノ財産管理ノ方法ガ完備スレバ、之ヲ適當ニ解決スル旨ヲ屡々發表サレテ居ルノデアリマス、而シテ今回提案ノ宗教團體法ガ成立致シマスレバ、寺院佛堂ノ財産管理ノ方法モ亦完備致シマスルガ故ニ、從ッテ宗教團體ヲ保護シテ、其ノ教化機能ヲ十分ニ發揮セシメ、以テ國家ノ興隆、文化ノ發展ニ寄與スル所アラシメムト欲シマシテ、古來寺院佛堂ト特殊ノ沿革的關係ヲ有スル國有境内地ヲ、適當ナル條件ノ下ニ讓與スルコトハ時宜ニ適ヘル措置デアル、斯ウ云フノガ此ノ提案ノ要旨デアルノデアリマス、即チ本法施行ノ際ニハ、寺院又ハ佛堂ニ無償ニテ貸付ケアル國有財産ハ、寺院等ガ一定ノ期間内ニ申請ヲ致シマスレバ、境内地トシテ必要ナ部分ハ之ヲ讓與スルコトト相成リ、又其ノ間讓與ヲナス爲ニハ、寺院境内地處分審査會ヲ設置シ、之ニ諮問シ、愼重丁寧且公明正大ニ之ヲ行フノデアリマス、又其ノ讓與ヲ爲サザル部分ニ付テモ、寺院佛堂ノ申請ニ依リ、時價ノ半額ヲ以テ賣拂ヒ、其ノ代金ニ付テモ年賦延納ヲ認メテアルノデアリマス、而シテ政府提出ノ原案ニハ、其ノ年賦延納ノ期限ヲ、法案ノ第四條ニ於テ五年ノ年賦延納ヲ認ムルコトニナッテ居ルノデアリマスガ、特別委員會ニ於テハ、之ヲ十年ト云フコトニ修正ヲ致シ、且同條ノ但書ヲ削除致シタノデアリマス、其ノ理由ハ支拂代金ノ納付ヲシテ成ルベク無理ナカラシメ、完全ニ納付セシメタイト云フ趣旨ナノデアリマス、委員會ニ於テハ此ノ修正ヲ認メ、其ノ他ハ原案通リ全會一致可決シタ次第デアリマス、而シテ質問應答モ多々アッタノデアリマスガ、大體ハ速記録ニ於テ御覽ヲ願ヒタイト考ヘマスルガ、其ノ中ノ主ナルモノダケヲ簡單ニ御紹介申上ゲタイト存ジマス、第一ニ寺院等ニ國有財産ヲ讓與スルノ趣旨如何ト云フ質問ガアッタノデアリマス、之ニ對シ政府カラ、宗教團體法案ガ宗教團體ニ適當ノ保護ヲ與ヘテ、宗教教化ノ宣揚ニ資セムトスルノ精神ナルニ鑑ミ、其ノ教化作用ヲ十分ニ遂ゲシムルガ爲ニ讓與ヲ爲サムトスルモノデアルト、斯ウ云フ答辯ガアッタノデアリマス、第二ニ、宗教團體ヲ保護助長スル趣旨ヲ以テ讓與スルトセバ、寺院佛堂以外ノ宗教團體ニ對シテモ、國有財産ヲ讓與スルノ意思ナキヤト云フ質問ガアッタノデアリマス、之ニ對シテ政府ヨリ、讓與ノ趣旨ハ寺院等ノ保護ニアルモ、古來寺院等ニ沿革的ニ密接ナル關係ヲ有スル無償貸付ノ境内地ヲ、其ノ必要ノ範圍ニ於テ讓與セムトスルモノデアルカラ、他ノ宗教團體ニ對シテハ國有財産ヲ讓與スル等ノ意思ヲ有シテ居ラヌ、斯ウ云フ答辯ガアッタノデアリマス、第三ニ、寺院等ノ境内地等ニ對スル、明治初年ノ上地處分ノ行過ギヲ是正スル趣旨ニ依リ、讓與スルモノナリヤ如何トノ質問ガアッタノデアリマス、之ニ對シテ政府トシテハ、明治初年ノ上地處分又ハ官民有區分ヲ不當ナリトハ決シテ認メテ居ラヌ、唯寺院等ヲ保護シ、其ノ教化作用ヲ遂ゲシムル爲、從來ノ沿革等ニ顧ミテ、適當ニ之ヲ解決セムトスルモノデアルト云フ答辯ガアッタノデアリマスル、第四ニ、讓與ノ範圍ニ付キマシテ質問ガアッタノデアリマスル、之ニ對シ政府ヨリ、讓與ノ範圍ハ勅令ヲ以テ規定スルコトトナルガ、大體ニ於テ寺院佛堂ノ境内地トシテ必要ナリト認メラル、モノハ全部讓與スルコトトナル見込デアル、斯ウ云フ答辯ガアッタノデアリマスル、第五ニ、賣拂ノ範圍ニ付キマシテ質問ガアリマシテ、之ニ對シテ政府ヨリ、賣拂フベキ國有財産ハ、大體寺院等ニ於テ其ノ目的外ニ使用中ノモノデアルトノ答辯ガアッタノデアリマスル、第六ニ、特ニ國有トシテ存置スルノ必要アルモノトハ如何ナルモノヲ指スノデアルカト云フ質問ガアッタノデアリマスル、之ニ對シ政府ヨリ、國土保安其ノ他公益上、又ハ森林經營上必要ナル箇所ヲ云フモノデアルト云フ答辯ガアッタノデアリマスル、第七ニ、寺院境内地處分審査會ハ東京ニ一箇所設置セラル、趣デアルガ、地方ノ事情ニ不案内ナル中央ニ於テ審議スルノハ、不適當デハナイカト云フ質問デアリマス、而シテ不適當デアルトセバ覆審制度トシテハドウカト云フ質問ガアッタノデアリマスルガ、之ニ對シテ政府ヨリ、今回ノ處分ニ當ッテハ其ノ境内地ノ全部ヲ讓與セラル、モノガ大部分ヲ占ムル見込デアルカラシテ、審査會ニ於テ論議セラル、モノハ極メテ少數ナリト豫想セラレ、ノデアルカラシテ、東京ニ於テ關係各省及民間、殊ニ宗教界ノ權威者ヲ以テ組織スル審査會ニ於テ審議スルヲ寧ロ適當トスル、斯ウ云フ答辯ガアッタノデアリマスル、第八ニ、年賦延納ヲ認ムル期間ノ五年ハ短キニ失セザルヤトノ質問ガアッタノデアリマシテ、之ニ對シ政府ヨリ、賣拂申請期間ト併セ考慮スル時ハ、大體其ノ期間ハ十分ナリト認ムル旨ノ答辯ガアッタノデアリマスルガ、本件ニ付テハ更ニ種々檢討ノ結果、現在ノ寺院等ノ資産狀態ヨリ考慮ヲ致シマシテ、前述ノ如ク修正意見ガ提出セラレ、是ガ成立シタノデアリマス、第九ニ、從來ノ國有境内地ヲ公園ニ編入セラレタル寺院ニ對シ、本法ニ依ル讓與ノ取扱ヲ爲スモノナリヤト云フ質問ガアリマシタ、之ニ對シ政府ヨリ斯カル寺院ニ對シテハ速カニ境内地ノ設定ヲ爲シ、本法ノ適用ヲ受クルヤウニ取計ラフベキ旨ノ答辯ガアリマシタ、第十ニ、本法ノ施行期日ニ付テ質問ガアッタノデアリマスル、之ニ對シ政府ヨリ、宗教團體法施行ノ日ヲ以テ施行スル考デアル、斯ウ云フ答辯ガアッタノデアリマスル、以上ガ本法案ニ對シマスル質疑應答ノ主ナルモノデアッタノデアリマスル、

質疑終了ノ後討論ニ入リマシテ、前述ノ如ク修正議決致シタ次第デアリマスル、之ヲ要スルニ本法案ハ、宗教團體法ノ制定ニ伴ヒ、寺院等ヲ保護シ、其ノ教化機能ヲ十分ニ發揮セシムル爲、國有境內地ヲ讓與シ、又ハ低價ヲ以テ賣却スル必要ニ基クモノデアルノデアリマスル、何卒此ノ修正案ニ御贊成ヲ賜ハリタク存ジマス、之ヲ以テ御報告ヲ終リマス

○議長（伯爵松平賴壽君）　別ニ御發言モナケレバ本案ノ採決ヲ致シマス、本案ノ第二讀會ヲ開クコトニ御異議ハゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君　直チニ本案ノ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君　贊成

○議長（伯爵松平賴壽君）　西大路子爵ノ動議ニ御異議ガゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス

○議長（伯爵松平賴壽君）　本案ノ第二讀會ヲ開キマス、御異議ガナケレバ全部ヲ問題ニ供シマス、本案全部、委員長ノ報告通リデ御異議ガゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君　直チニ本案ノ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君　贊成

○議長（伯爵松平賴壽君）　西大路子爵ノ動議ニ御異議ガゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス

○議長（伯爵松平賴壽君）　本案ノ第三讀會ヲ開キマス、本案全部、第二讀會ノ決議通リデ御異議ガゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス

○議長（伯爵松平賴壽君）　日程第六、郵便年金法中改正法律案、政府提出、第一讀會ノ續、委員長報告、委員長淺野侯爵

郵便年金法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十四年二月二十一日

委員長　侯爵淺野長之

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

（侯爵淺野長之君演壇ニ登ル）

○侯爵淺野長之君　只今議題ニナリマシタ郵便年金法中改正法律案ノ特別委員會ノ經過竝結果ヲ御報告申上ゲマス、本委員會ハ本月ノ十八日、二十、二十一日ノ三日ニ亙リマシテ會議ヲ開キ、最初ニ政府當局ヨリ本案ニ付テ詳細ナル御說明ガゴザイマシタ、是ハ速記錄ニテ御覽ヲ戴クコトニ願ヒマス、次ニ審議ノ概要ヲ申上ゲマスト、郵便年金制度ハ古來敬老ノ美風アル我ガ國ニ非常ニ相應シイ制度デアルト考ヘルガ、之ヲ簡易保險制度ト比較スルト、マダ日本國民ニ一般的ニ行渡ッテ居ナイノデハナイカト云フ感ジガスル、政府當局ノ努力ガ足リナイノデハナイカト思フガドウカト云フ質疑ガゴザイマシテ、之ニ對シ政府ハ、此ノ制度ノ普及ニハ十分努力ヲ拂ッテ居ルガ、普及シナイ原因ハ國民ノ心理狀態ニ於テ、死後ノ備ヲスルト云フコトノ方ガ老後ノ安定ト云フコトヲ考ヘルヨリ痛切ナ爲デアル、又一原因トシテ年金ハ保險ヨリ掛金ガ澤山要ルト云フ點ガアルガ、政府ハ分割拂ニシテ其ノ普及ニ努力シテ居ル次第デ、殊ニ事變以來從來ヨリモ一層良キ效果ヲ收メテ居ルトノ答辯デゴザイマシタ、次ニ政府トシテ如何ナル種類ノ年金制度ノ一番增加ヲ希望シテ居ラル、カト云フ質問ニ對シマシテ、大體ニ於テ我ガ國ノ家族主義ノ建前カラ、又實際生活上カラ保證期間附終身年金ノ如キハ、多クノ契約者ニ便利ナ制度デハナイカト考ヘテ居ルト云フ答辯ガゴザイマシタ、其ノ他ニ關シテ熱心ナル質疑應答ガ行ハレ、愼重審議ヲ盡サレマシタガ、是ノ詳細ハ速記錄ニ讓ルコトニ致シタウゴザイマス、質疑終了致シマシテ直チニ討論ニ入リ、一委員カラ贊成意見ノ陳述ガゴザイマシタ、今回ノ改正案ノ主要ナル點ハ保證期間附年金制度ノ創設ト、戰時事變ニ際シテ死亡シタル年金契約者ノ遺族ニ對スル特別給付トノ二ツデアルガ、特ニ此ノ遺族ニ對スル措置ハ、將來出來ルダケ多額ニ支出ガ出來ルヤウニ研究ヲ願ヒタイト思フト云フ希望意見ガゴザイマシタ、其ノ他ハ省略致シマシテ、討論ヲ終ッテ採決ニ入リ、全會一致政府原案通リニ可決致シマシタ、簡單ナガラ右御報告申上ゲマス

○議長（伯爵松平賴壽君）　別ニ御發言モナケレバ本案ノ採決ヲ致シマス、本案ノ第二讀會ヲ開クコトニ御異議ガゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君　直チニ本案ノ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君　贊成

○議長（伯爵松平賴壽君）　西大路子爵ノ動議ニ御異議ガゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス

○議長（伯爵松平賴壽君）　本案ノ第二讀會ヲ開キマス、御異議ガナケレバ全部ヲ問題ニ供シマス、本案全部、委員長ノ報告通リデ御異議ガゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君　直チニ本案ノ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君　贊成

○議長（伯爵松平賴壽君）　西大路子爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス

○議長（伯爵松平賴壽君）　本案ノ第三讀會ヲ開キマス、本案全部、第二讀會ノ決議通リデ御異議ゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス

○議長（伯爵松平賴壽君）　次會ノ議事日程ハ決定次第公報ヲ以テ御通知ニ及ビマス、本日ハ是ニテ散會致シマス

午前十時四十一分散會

貴族院議事速記錄第十四號正誤

頁	段	行	誤	正
一四一	三	二五	新京	新疆
一四二	一	一三	ブルバンガリー	クルバンガリー
〃	〃	二九	ブルバンガリー	クルバンガリー

貴族院議事速記錄第十五號正誤

頁	段	行	誤	正
一五三	三	一八	會計中	會計法中
一六〇	四	一四	員	其
〃	〃	一七	私	司
〃	〃	一九	アル	爲ス
一六一	一	二一	間	中
一六九	二	一六	締役ハ總管理人	締役又ハ總管理人
一七〇	三	九	第六十七條第一	第百六十七條第一
一七一	一	一五	請申	申請
一七三	四	五	施行令	施行法

內閣印刷局

官報　號外　昭和十四年三月二日

○第七十四回帝國議會貴族院議事速記錄第十七號

昭和十四年三月一日（水曜日）午前十時八分開議

議事日程　第十七號
昭和十四年三月一日
午前十時開議

第一　昭和十三年度歳入歳出總豫算追加案（第二號）　會議（委員長報告）
第二　昭和十三年度各特別會計歳入歳出豫算追加案（特第一號）　會議（委員長報告）
第三　豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件（追第一號）　會議（委員長報告）
第四　森林法中改正法律案（政府提出、衆議院送付）　第一讀會
第五　林業種苗法案（政府提出、衆議院送付）　第一讀會
第六　軍用自動車檢査法案（政府提出、衆議院送付）　第一讀會ノ續（委員長報告）

○議長（伯爵松平賴壽君）　報告ヲ致サセマス

（石橋書記官朗讀）

去月二十五日本院ニ於テ修正議決シタル左ノ政府提出案ハ即日之ヲ衆議院ニ送付セリ
　寺院等ニ無償ニテ貸付シアル國有財產ノ處分ニ關スル法律案
同日本院ニ於テ可決シタル左ノ政府提出案ハ即日之ヲ衆議院ニ送付セリ
　郵便年金法中改正法律案
同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ
　軍用自動車檢査法案可決報告書
同日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ
　森林法中改正法律案
　林業種苗法案
去月二十七日第九部ニ於テ豫算委員赤池濃君ノ補闕選擧ヲ行ヒシニ其ノ結果土方久徵君當選セリ
同日委員長ヨリ豫算委員土方久徵君ヲ第四分科擔當委員ニ選定シタル旨ノ報告書ヲ提出セリ
同日內閣總理大臣ヨリ左ノ通第七十四回帝國議會政府委員仰付ラレタル旨ノ通牒ヲ受領セリ
　陸軍省所管事務政府委員
　　陸軍砲兵大佐　中西貞喜君
　　陸軍書記官　日高巳雄君
去月二十八日委員會ニ於テ當選シタル正副委員長ノ氏名左ノ如シ
　昭和十二年法律第五十七號中改正法律案特別委員會
　　委員長　子爵三室戶敬光君
　　副委員長　男爵山根健男君
　名古屋帝國大學創設ニ伴フ帝國大學特別會計及官立大學特別會計ノ關涉ニ關スル法律案特別委員會
　　委員長　伯爵後藤一藏君
　　副委員長　男爵今園國貞君
同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ
　昭和十三年度歳入歳出總豫算追加案（第二號）、昭和十三年度各特別會計歳入歳出豫算追加案（特第一號）、豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件（追第一號）可決報告書
　昭和十二年度歳入歳出總決算、昭和十二年度各特別會計歳入歳出決算審査報告書
　昭和十二年度國有財產增減總計算書審査報告書
同日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ
　短期現役小學校教員俸給費國庫負擔法中改正法律案
同日衆議院ヨリ本院ノ送付ニ係ル左ノ政府提出案ハ同院ニ於テ之ヲ可決シ奏上セル旨ノ通牒ヲ受領セリ
　兵役法中改正法律案
同日內閣總理大臣ヨリ左ノ通第七十四回帝國議會政府委員仰付ラレタル旨ノ通牒ヲ受領セリ
　商工省所管事務政府委員
　　商工書記官　山本茂君

○議長（伯爵松平賴壽君）　是ヨリ本日ノ會議ヲ開キマス、日程第一、昭和十三年度歳入歳出總豫算追加案第二號、日程第二、昭和十三年度各特別會計歳入歳出豫算追加案特第二號、日程第三、豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件追第一號、是等ノ三案ヲ一括シテ議題トスルコトニ御異議ハゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス、豫算委員長渡邊子爵

（左ノ報告書ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載錄ス以下之ニ倣フ）

一昭和十三年度歳入歳出總豫算追加案（第二號）
一昭和十三年度各特別會計歳入歳出豫算追加案（特第一號）
一豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件（追第一號）

右衆議院ヨリ受領シタル各案ヲ審査シ總テ衆議院議決案ノ通可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十四年二月二十八日

委員長　子爵渡邊千冬

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

（子爵渡邊千冬君演壇ニ登ル）

○子爵渡邊千冬君　只今議題トナリマシタ昭和十三年度歳入歳出總豫算追加第二號、同各特別會計歳入歳出豫算追加特第一號及豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件追第一號ノ各案ニ付、豫算委員會ニ於ケル審議ノ經過ノ大要竝ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、昭和十三年度歳入歳出總豫算追加第二號ハ歳入七百八十餘萬圓、歳出千九百八十萬餘圓デアリマシテ、差引歳入不足額ハ千百九十餘萬圓デアリマス、右ハ昭和十三年度豫算實行上行ヒマシタ歳出節約ニ依ル財源餘裕額ノ中ヨリ充當スル計畫ト相成ッテ居ルノデアリマス、右歳入豫算ノ內譯ハ森林收入ノ增加十餘萬圓、刑務所收入ノ增加ガ二百三十餘萬圓、職業紹介事業ニ伴フ地方負擔金ノ增加ガ百二十餘萬圓、官立大學特別會計資金部ヨリ繰入ノ增加ガ四十餘萬圓、治水事業費分擔金ノ增加ガ百二十餘萬圓、輸出資金前貸補償收入二百十餘萬圓、其ノ他二十餘萬圓トナッテ居ルノデアリマス、次ニ歳出豫算額ハ經常部ガ千四百四十餘萬圓、臨時部ガ五百三十餘萬圓デアリマシテ、其ノ中ノ大部分ハ既ニ第二豫備金ヨリ支出致シタモノノ年度內ノ所要額デアリマシテ、其ノ他ハ補充費途ニ屬スル經費ノ增額ニ關スルモノデアリマス、經費ノ中主要ナルモノヲ擧ゲマスルト、檢丁及新兵旅費ノ增加ガ百五十萬餘圓、警察費連帶支辨金ノ增加ガ三百萬餘圓、內國稅拂戾金ノ增加ガ七百七十餘萬圓、小額紙幣製造費ノ增加ガ五十餘萬圓、興亞院ニ關スル經費ガ四十餘萬圓、興亞院連絡部設置ニ關ス

明治二十五年三月三十一日第三種郵便物認可

ル經費ガ百六十萬圓、刑務所軍需作業施行等ニ要スル經費ノ增加ガ百七十萬餘圓、小學校敎員俸給費臨時補助ノ增加ガ十餘萬圓、農林省所管ノ災害其ノ他施設費ノ增加ガ二百十餘萬圓、國有林臨時木材增產ニ關スル經費ガ十餘萬圓等デアリマス、右ノ中興亞院ニ關スル經費ハ、支那事變中支那ニ於テ處理ヲ要スル政治經濟及文化ニ關スル事務ヲ掌ラシムル爲ニ、昨年十二月內閣ニ設置セラレマシタ興亞院ノ經費デアリマシテ、其ノ一部ハ曩ニ第二豫備金ヨリ支出セラレマシタガ、其ノ本年度內所要額ト興亞院ノ連絡部設置ニ伴ヒ增加スベキ額トヲ計上シタノデアリマス、又興亞院連絡部設置ニ關スル經費ハ、支那ニ於ケル興亞院ノ事務ノ連絡ヲ掌ラシムル爲、今回現地ニ設置セラル、コトトナッタ連絡部ニ關スル經費デアリマス、小額紙幣製造費ノ增加ハ、昭和十四年度ニ於テ回收セラルベキ流通不便銀貨幣ノ引換ニ充ツル爲ニ、小額紙幣ノ製造ヲ更ニ增加スル必要ガアリマスルノデ、之ニ要スル經費ノ增加デアリマス、又小學校敎員ノ俸給費臨時補助ノ增加ハ、今次事變ニ依リ召集セラレマシタ小學校敎員ノ補充ノ爲、財政ニ困難ヲ來セル市町村ニ對シ、其ノ俸給費ノ一部ヲ補助スルモノデアリマスガ、其ノ後ノ情勢ニ依リ更ニ增加ヲ必要トスルニ至ッタモノデアリマス、農林省所管ノ災害其ノ他施設費ノ增加ハ、昨年各地ニ於ケル暴風雨等ノ爲損害ヲ被リマシタ耕地、林地等ノ復舊費、其ノ他ニ關スル補助等ニ要スルモノデアリマシテ、右ノ一部ハ曩ニ第二豫備金ヨリ支出致シタノデアリマスガ、其ノ本年度內所要額ヲ要求シテ居ルモノデアリマス、檢丁及新兵旅費、警察費連帶支辨金、內國稅拂戾金等ハ何レモ補充費途ニ屬スル經費デ、豫算ニ不足ヲ告ゲマシタノデ其ノ增加ヲ要求シテ居ルモノデアリマス、次ニ昭和十三年度各特別會計歲入歲出豫算追加特第一號ハ對支文化事業、造幣局、大藏省預金部、關東局、海軍工廠資金、帝國大學、官立大學、帝國鐵道、朝鮮總督府、臺灣總督府、樺太廳、健康保險及簡易生命保險ノ各特別會計ニ關スルモノデアリマス、又豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件追第一號ハ、一般會計ニ於テハ昨年ノ災害ニ依ル自作農創設維持資金ノ償還猶豫ニ伴フ臨時助成金ニ關スルモノ外三件デアリマス、特別會計ニ於テハ海軍工廠資金特別會計ノ造船造兵材料購入費ニ關スルモノデアリマス、以上ハ只今議題トナッテ居リマス豫算各案ノ大要デアリマス、右豫算追加各案ハ、先月二十三日衆議院ヨリ受領致シタノデアリマスガ、是ヨリ先豫算委員會ハ同日午前既ニ昭和十四年度豫算各案ノ質疑ヲ終了致シ、二十五日ヨリ之ヲ各分科ニ付託スルコトニナッテ居リマシタノデ、審議ノ進捗ヲ圖リマス爲、豫メ豫算委員會ニ諮リマシテ、豫算總會ヲ省略シ、直チニ分科會ニ於テ審議致スコトニ定メタノデアリマス、先ヅ二十五日午前十時ヨリ開會セラレマシタ第一分科會ニ於テ、劈頭大藏大臣ヨリ議案全體ニ亙ッテ其ノ內容ニ付テノ說明ガアリ、是ト同時ニ各分科會ニ於テ關係大臣ヨリソレ〲所管事項ニ關スル說明ヲ聽取致シマシタ後、各質疑ニ入ッタノデアリマス、今玆ニ簡單ニ質疑應答ノ一二ヲ申上ゲ、詳細ノコトハ速記錄ニ依ッテ御覽ヲ願ヒタイト存ジマス、先ヅ興亞院及興亞院連絡部ノ組織權限ノ內容ニ關スル質疑ガ行ハレマシタノデアリマスガ、右ニ關シテ政府ヨリ過般公布セラレマシタ官制ニ基キ、ソレ〲兩官廳ノ組織權限等ニ付詳細說明ガアリマシタ、次ニ今後支那ニ於テ如何ナル政策ヲ實施セムトスルモノデアルカトノ質問ニ對シ、政府ヨリ今後ニ於ケル支那各地ノ軍事行動ノ進展ニ即應シテ、是ト密接ナル連絡ヲ保チツツ政治、經濟文化ノ各方面ニ亙リ逐次事變目的達成ニ必要ナル政策ヲ實行スル積リデアルト云フ答辯ガアリマシタガ、委員ノ中ニハ此ノ政府ノ答辯ニ滿足セズ、更ニ詳細ナル說明ヲ求メ、之ニ對シ政府ヨリ祕密會ヲ要求シテ說明ヲ致シ、委員モ大體滿足ヲ致シタ趣デアリマス、右ノ外各省及各特別會計其ノ他ノ重要事項ニ付、質疑應答ガ行ハレタノデアリマスガ、是ハ全部速記錄ニ讓リタイト存ジマス、分科會ニ於ケル審議ハ二十七日迄ニ全部終了致シ、昨二十八日豫算總會ヲ開キマシテ、各主査ヨリノ報告ガアリ、右三案ヲ一括シテ付議致シマシタ處、別ニ質疑モナク、討論モナク、直チニ採決ニ入リマシタ、採決ノ結果各案共原案通リ、委員會ハ滿場一致ヲ以テ可決ヲ致シタノデアリマス、右ヲ以テ私ノ報告ヲ終リマス

○議長(伯爵松平賴壽君)　別ニ御發言モナケレバ是ヨリ採決ヲ致シマス、御異議ガナケレバ三案全部ヲ問題ニ供シマス、三案全部、委員長ノ報告通リデ御異議ハゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(伯爵松平賴壽君)　御異議ナイト認メマス

○議長(伯爵松平賴壽君)　日程第四、森林法中改正法律案、日程第五、林業種苗法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、是等ノ兩案ヲ一括シテ議題トスルコトニ御異議ハゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(伯爵松平賴壽君)　御異議ナイト認メマス、櫻內農林大臣

(左ノ送付文及法律案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ玆ニ載錄ス以下之ニ倣フ)

森林法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十四年二月二十五日

衆議院議長　小山　松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

森林法中改正法律案

森林法中左ノ通改正ス

第三條中「地租條例」ヲ「地租法」ニ改ム

第九條　命令ヲ以テ定ムル公有林、社寺有林又ハ私有林ノ所有者ハ其ノ所有スル森林又ハ造林ノ用ニ供スル土地ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ施業案ヲ編成シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ認可ヲ受ケタル施業案ヲ變更セントスルトキ亦同シ

地方長官必要アリト認ムルトキハ前項ノ施業案ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第一項ノ規定ニ依リ施業案ヲ編成スルコトヲ要スル者又ハ前項ノ規定ニ依リ施業案ノ變更ヲ命セラレタル者之ヲ編成セス又ハ變更セサルトキハ地方長官ハ其ノ者ニ代リテ之ヲ編成シ又ハ變更スルコトヲ得

第十條　地方長官森林生產ノ保續ヲ圖ル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ公有林、社寺有林又ハ私有林ノ所有者ニ對シ其ノ森林ニ付區域又ハ箇所及期間ヲ定メ伐採方法又ハ造林其ノ他伐採ニ伴フ必要ナル事項ヲ指定スルコトヲ得

前項ノ規定ハ前條ノ規定ニ依ル施業案ノ編成アリタル森林及第六十九條ノ三ノ規定ニ依ル森林組合ノ施業案ノ編成アリタル森林ニ付テハ之ヲ適用セス

第十一條　公有林、社寺有林又ハ私有林ノ所有者第九條ノ規定ニ依ル施業案ニ定メタル伐採、造林其ノ他ノ施業要件ニ準據セス又ハ前條ノ規定ニ依ル指定ニ從ハサルトキハ行政官廳ハ伐採ノ停止ヲ命シ又ハ其ノ者ニ代リテ自ラ伐採、造林其ノ他施業上必要ナル行爲ヲ爲シ若ハ公共團體ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ伐採停止ニ關スル規定ハ森林所有者カ其ノ生活ヲ維持スル爲已ムヲ得サルニ出テタル伐採ニ付テハ之ヲ適用セス

第十一條ノ二　第九條第三項ノ規定ニ依リ施業案ヲ編成シ若ハ變更スルニ要シタル費用又ハ前條ノ規定ニ依リ伐採、造林其ノ他施業上必要ナル行爲ヲ爲シ又ハ爲サシムルニ要シタル費用ハ行政官廳ニ於テ行政執行法第六條ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

第十一條ノ三　地方長官國土保安其ノ他公益上特ニ必要アリト認ムルトキハ公有林、社寺有林又ハ私有林ノ所有者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ所有スル森林ニ付施業技術者ノ雇入ヲ命スルコトヲ得

第十三條ノ次ニ左ノ二條ヲ加フ

第十三條ノ二　行政官廳必要アリト認ムルトキハ森林產物ノ生產若ハ取引又ハ森林產物ヲ原料トスル物品ノ製造ヲ爲ス者ニ對シ森林產物ノ需給ノ狀況ニ關スル事項ノ報告ヲ命シ又ハ之ニ關スル帳簿書類其ノ他ノ物件ニ付必要ナル調査ヲ爲スコトヲ得

第十三條ノ三　二以上ノ府縣ニ亙ル事項ニ關シテハ本章ニ規定シタル地方長官ノ職權ハ勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第十八條及第二十三條中「市町村役場」ノ下ニ「(町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ之ニ準スヘキ場所)」ヲ加フ

第三十四條中「第十一條」ノ下ニ「及第十一條ノ二」ヲ加フ

第四十條、第四十九條、第五十條、第五十八條及第六十一條中「御料局」ヲ「帝室林野局」ニ改ム

「第五章　森林組合」ヲ「第五章　森林組合及森林組合聯合會」ニ改ム

第六十二條　森林組合ハ組合員ノ所有スル森林ニ付自ラ施業ヲ爲シ又ハ組合員ノ施業ヲ調整シ以テ森林生產ノ保續ヲ圖ルヲ以テ目的トス

組合ハ前項ノ目的ヲ達スル爲定款ノ定ムル所ニ依リ左ノ各號ノ一ノ事業ヲ行フ

一　組合員ノ所有スル森林ニ付施業案ヲ編成シ之ニ基キ施業ヲ爲スコト

二　組合員ノ爲ニ施業案ヲ編成シ之ニ基キ組合員ノ爲ス施業ヲ調整シ及地區內森林ノ施業ニ必要ナル共同施設ヲ爲スコト

第六十四條　一定ノ地區內ニ於ケル森林ヲ所有スル者ハ定款ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ得テ森林組合ヲ設立スルコトヲ得

組合ノ地區ハ市町村又ハ之ニ準スヘキモノノ區域ニ依ル但シ特別ノ事情アル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第六十五條　森林組合ハ其ノ名稱中ニ森林組合ナル文字ヲ用フヘシ

森林組合ニ非サルモノハ其ノ名稱中ニ森林組合ナル文字ヲ用フルコトヲ得ス

第六十六條ノ二　地方長官森林生產ノ保續ヲ圖ル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ地區ヲ指定シ組合員タル資格ヲ有スル者ニ對シ森林組合ノ設立ヲ命スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ設立ヲ命セラレタル者ハ前條ノ條件ニ從ヒ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第六十九條ノ二　森林組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ經費ヲ組合員ニ分賦スルコトヲ得

第七十條第一項ノ規定ニ依リ組合員ニ出資ヲ爲サシムル森林組合ニ付テハ前項ノ規定ニ依ル經費分賦ハ第六十二條第二項ニ規定スル事業ニ關シ命令ヲ以テ定ムル經費ニ限ル

第六十九條ノ三　森林組合ハ組合員ノ所有スル森林ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ施業案ヲ編成シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ認可ヲ受ケタル施業案ヲ變更セントスルトキ亦同シ

第九條第二項及第三項ノ規定ハ組合ニ之ヲ準用ス

第六十九條ノ四　第十一條及第十一條ノ二ノ規定ハ第六十二條第二項第一號ノ事業ヲ行フ森林組合及同項第二號ノ事業ヲ行フ森林組合ノ組合員ニ之ヲ準用ス

第六十九條ノ五　第十一條ノ三ノ規定ハ森林組合ニ之ヲ準用ス

第六十九條ノ六　第六十二條第二項第一號ノ事業ヲ行フ森林組合ハ定款ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外組合員ノ所有スル森林ニ付組合ノ施業ノ範圍ニ於テ使用及收益ヲ爲スノ權利ヲ有ス

前項ノ規定ニ依ル組合ノ收益ハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合員ノ所有スル森林ノ評價額其ノ他命令ヲ以テ定ムル標準ニ依リ之ヲ組合員ニ分配スヘシ

第七十條　森林組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合員ニ出資ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ組合員ニ出資ヲ爲サシムル組合ハ第六十二條第二項ニ規定スル事業ノ外定款ノ定ムル所ニ依リ左ノ事業ヲ行フコトヲ得

一　組合又ハ組合員ノ生產シタル森林產物ノ運搬、加工、保管及販賣ニ關スル施設ヲ爲スコト

二　組合員ノ森林ノ維持又ハ施業ニ必要ナル資金ノ貸付ヲ爲スコト

三　地區內ニ居住スル森林所有者ヲ創設スル爲地區內ノ森林ヲ取得スルコト

四　第六十二條第二項第二號ノ事業ヲ行フ組合ニ在リテハ組合員ノ委託ニ依リ其ノ森林ノ施業ヲ爲スコト

第七十條ノ二　前條第一項ノ規定ニ依リ組合員ニ出資ヲ爲サシムル森林組合ノ組合員ハ出資一口以上ヲ有スヘシ

出資一口ノ金額ノ最高限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十條ノ三　第七十條第一項ノ規定ニ依リ組合員ニ出資ヲ爲サシムル森林組合ニ在リテハ組合財產ヲ以テ其ノ債務ヲ完濟スルコト能ハサル場合ニ於テ組合員ノ全員ハ其ノ出資額及第六十九條ノ二ノ規定ニ依ル費用負擔ノ外定款ノ定ムル一定ノ金額(追補金額)ヲ限度トシテ組合ニ對シ責任ヲ負擔ス

前項ノ組合ハ拂込未濟出資額及追補金額ニ付組合員ノ所有スル地區內ノ森林ノ上ニ先取特權ヲ有ス

前項ノ先取特權ハ其ノ優先權ノ順位ニ付テハ之ヲ不動產賣買ノ先取特權ト看做シ其ノ效力ニ付テハ民法中不動產賣買ノ先取特權ニ關スル規定ヲ準用ス

第七十三條ヲ削リ第七十四條ヲ第七十三條トス

第七十四條　森林組合聯合會ハ所屬ノ森林組合及森林組合聯合會ノ共同ノ目的ヲ達スル爲之ヲ設立スルコトヲ得

聯合會ハ森林組合又ハ森林組合聯合會ヲ以テ之ヲ組織ス

聯合會ヲ設立セントスルトキハ定款ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第七十四條ノ二　森林組合聯合會ハ其ノ名稱中ニ森林組合聯合會ナル文字ヲ用フヘシ

森林組合聯合會ニ非サルモノハ其ノ名稱中ニ森林組合聯合會ナル文字ヲ用フ

官報號外　昭和十四年三月二日　貴族院議事速記錄第十七號　森林法中改正法律案外一件　第一讀會

一八四

ルコトヲ得ス

第七十四條ノ三　森林組合聯合會ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ所屬組合又ハ聯合會ニ出資ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ聯合會ノ所屬組合又ハ聯合會ノ責任ハ第七十四條ノ五ニ於テ準用シタル第六十九條ノ二第一項ノ規定ニ依ル費用負擔ノ外其ノ出資額ヲ限度トス

第七十四條ノ四　森林組合聯合會ハ主務大臣之ヲ監督ス

前項ノ規定ニ依ル主務大臣ノ職權ノ一部ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

第七十四條ノ五　第六十三條、第六十八條、第六十九條、第六十九條ノ二第一項、第七十條ノ二、第七十一條第二項及第七十二條ノ規定ハ森林組合聯合會ニ之ヲ準用ス

第七十五條中「森林組合」ノ下ニ「及森林組合聯合會」ヲ、「其ノ他組合」ノ下ニ「及聯合會」ヲ加フ

第七十五條ノ次ニ左ノ三條ヲ加フ

第七十五條ノ二　森林組合又ハ森林組合聯合會ニ於テ本章ノ規定（第六十九條ノ四ニ於テ準用シタル第十一條及第六十九條ノ五ニ於テ準用シタル第十一條ノ三ノ規定ヲ除ク）又ハ之ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ其ノ役員ヲ百圓以下ノ過料ニ處ス

第七十五條ノ三　第六十五條第二項及第七十四條ノ二第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ過料ニ處ス

第七十五條ノ四　非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前二條ノ過料ニ之ヲ準用ス

第八十三條中「重禁錮」ヲ「懲役」ニ、「贓額以上贓額二倍」ヲ「千圓」ニ改ム

第八十四條中「二月以上三年以下ノ重禁錮及贓額以上贓額二倍以下ノ罰金ニ處ス」ヲ「五年以下ノ懲役若ハ五千圓以下ノ罰金ニ處シ又ハ其ノ刑ヲ併科ス」ニ改ム

第八十七條　森林窃盗ノ贓物ヲ收受シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

森林窃盗ノ贓物ノ運搬、寄藏、故買又ハ牙保ヲ爲シタル者ハ五年以下ノ懲役若ハ五千圓以下ノ罰金ニ處シ又ハ其ノ刑ヲ併科ス

第八十八條　他人ノ森林ニ放火シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

自己ノ森林ニ放火シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス因テ他人ノ森林ニ延燒シタルトキハ七年以下ノ懲役ニ處ス

第八十九條　火ヲ失シテ他人ノ森林ヲ燒燬シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

火ヲ失シテ自己ノ森林ヲ燒燬シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者亦前項ニ同シ

第九十條中「前條第二項ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス」ヲ「第八十八條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス」ニ改ム

第九十一條中「三十圓」ヲ「百圓」ニ改メ同條但書ヲ削ル

第九十二條中「二十圓」ヲ「百圓」ニ改ム

第九十三條第一項中「二百圓」ヲ「三百圓」ニ、同條第二項中「重禁錮及二百圓」ヲ「懲役又ハ三百圓」ニ改ム

第九十四條中「五十圓」ヲ「百圓」ニ改ム

第九十四條ノ二　第十一條第一項（第六十九條ノ四ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ノ規定ニ依ル伐採停止ノ命令ニ違反シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第九十五條中「二十圓」ヲ「五十圓」ニ改ム

第九十五條ノ二　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　第十三條ノ二ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サス又ハ虚僞ノ報告ヲ爲シタル者

二　第十三條ノ二ノ規定ニ依ル調査ヲ拒ミタル者

第九十六條中「百圓」ヲ「二百圓」ニ改ム

第九十七條中「二百圓」ヲ「三百圓」ニ改ム

第九十八條中「三十圓」ヲ「五十圓」ニ改ム

第九十九條ヲ削ル

第百條ヲ第九十九條トシ同條中「二十圓」ヲ「五十圓」ニ改ム

第百一條ヲ第百條トシ同條中「二十圓」ヲ「百圓」ニ改ム

第百二條ヲ第百一條トシ同條中「五十圓」ヲ「百圓」ニ、「二百圓」ヲ「三百圓」ニ改ム

第百三條ヲ第百二條トス

第百三條　法人又ハ人ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者カ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ第九十四條ノ二又ハ第九十五條ノ二第一號ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ其ノ法人又ハ人ハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第百三條ノ二　第九十四條ノ二又ハ第九十五條ノ二第一號ノ罰則ハ其ノ者カ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第百六條　北海道ニ於テ本法ヲ適用スルニ付必要ナル事項ニ關シテハ勅令ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ得

第百七條第二項中「第十一條」ノ下ニ「及第十一條ノ二」ヲ加フ

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

公有林又ハ社寺有林ニ付本法施行前地方長官ノ認可ヲ受ケタル施業案又ハ施業要領ハ本法ニ依リ認可ヲ受ケタル施業案ト看做ス

從前ノ規定ニ依リ設立セラレタル森林組合ニシテ本法施行ノ際現ニ存スルモノハ本法施行ノ日ヨリ五年ヲ限リ仍從前ノ例ニ依ル

前項ノ組合ハ前項ノ期間内ニ命令ノ定ムル所ニ依リ監督官廳ノ認可ヲ得テ改正規定ニ依ル組合ト爲ルコトヲ得

第三項ノ組合ニシテ同項ノ期間内ニ改正規定ニ依ル組合ト爲ラサルモノハ其ノ期間滿了ノ日ニ於テ解散ス

本法施行前從前ノ罰則ヲ適用スヘカリシ行爲ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

林業種苗法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十四年二月二十五日

衆議院議長　小山松壽

貴族院議長伯爵松平頼壽殿

林業種苗法案

林業種苗法

第一條　本法ニ於テ種苗トハ林業ノ用ニ供スル樹木ノ種子及苗ヲ謂フ

第二條　本法ヲ適用スル種苗ノ樹種ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條　行政官廳ハ命令ノ定ムル所ニ依リ優良ナル種苗ノ採取ニ適スル樹木又ハ其ノ集團ヲ母樹又ハ母樹林トシテ指定スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル指定ヲ受ケタル母樹又ハ母樹林ハ行政官廳ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ伐採スルコトヲ得ズ

第四條　行政官廳前條第一項ノ規定ニ依リ母樹又ハ母樹林ノ指定ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ其ノ樹木又ハ樹木ノ集團ノ所有者ニ通知シ且命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ公示スベシ

第五條　行政官廳ハ母樹又ハ母樹林ノ所有者ニ對シ母樹又ハ母樹林ノ保護又ハ管理ニ關シ必要ナル處置ヲ命ジ又ハ有害ナル行爲ヲ制限シ若ハ禁止スルコトヲ得

第六條　行政官廳ハ母樹又ハ母樹林ノ所有者ニ對シ母樹又ハ母樹林ニ關シ必要ナル事項ノ報告ヲ命ズルコトヲ得

第七條　政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ母樹又ハ母樹林ノ所有者ニ對シ伐採ヲ停止セラレタルニ因ル直接ノ損失ヲ補償ス

前項ノ規定ニ依ル補償金額ニ付不服アル者ハ其ノ補償金額ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三月以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第八條　行政官廳母樹又ハ母樹林トシテ存置スルノ必要ナシト認ムルトキハ母樹又ハ母樹林ノ指定ヲ解除スルコトヲ得

第四條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九條　行政官廳ハ配付ノ目的ヲ以テスル種苗ノ採取ニ關シ命令ノ定ムル所ニ依リ採取時期ヲ指定シ又ハ採取ニ適セザル樹木若ハ其ノ集團ヨリノ採取ヲ禁止スルコトヲ得

第十條　行政官廳必要アリト認ムルトキハ種苗ノ種類ニ應ジ之ニ適スル配付區域ヲ指定シ又ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ種苗ノ輸出若ハ輸入ヲ制限シ若ハ禁止スルコトヲ得

第十一條　種苗ノ販賣ヲ業トスル者ハ其ノ業務ニ關シ命令ノ定ムル事項ヲ行政官廳ニ屆出ヅベシ

第十二條　行政官廳必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ種苗ノ販賣ヲ業トスル者ヲシテ其ノ販賣スル種苗ニ保證票ヲ添附セシムルコトヲ得

第十三條　行政官廳必要アリト認ムルトキハ種苗ノ販賣ヲ業トスル者ニ對シ種苗ノ配給ノ狀況ニ關スル事項ノ報告ヲ命ジ又ハ之ニ關スル帳簿書類其ノ他ノ物件ニ付必要ナル調査ヲ爲スコトヲ得

第十四條　母樹又ハ母樹林ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リテ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ母樹又ハ母樹林ノ所有者ノ承繼人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第十五條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　第三條第二項ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ母樹又ハ母樹林ヲ伐採シタル者

二　第五條ノ規定ニ依ル命令又ハ制限若ハ禁止ニ違反シタル者

三　第六條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ又ハ虚僞ノ報告ヲ爲シタル者

四　配付ノ目的ヲ以テ第九條ノ規定ニ依ル指定又ハ禁止ニ違反シ種苗ヲ採取シタル者

五　第十條ノ規定ニ依ル指定ニ違反シ種苗ノ配付ヲ爲シ又ハ同條ノ規定ニ依ル制限若ハ禁止ニ違反シ種苗ノ輸出若ハ輸入ヲ爲シ若ハ爲サントシタル者

六　第十二條ノ規定ニ違反シ保證票ヲ添附セズシテ種苗ヲ販賣シ又ハ虚僞ノ保證票ヲ添附シテ種苗ヲ販賣シタル者

第十六條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　第十三條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ又ハ虚僞ノ報告ヲ爲シタル者

二　第十三條ノ規定ニ依ル調査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者

第十七條　種苗ノ販賣ヲ業トスル者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ第十五條第二號、第三號、第五號若ハ第六號又ハ前條第一號ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第十八條　第十五條第二號、第三號、第五號、第六號竝ニ第十六條第一號ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十九條　第十一條ノ規定ニ依ル屆出ヲ爲サズ又ハ虚僞ノ屆出ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ過料ニ處ス

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ之ヲ準用ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔國務大臣櫻内幸雄君演壇ニ登ル〕

○國務大臣（櫻内幸雄君）　只今議題トナリマシタ森林法中改正法律案及林業種苗法案ノ提出ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、戰時經濟態制ノ進展スルニ伴ヒマシテ、建築用材、製炭資材、「パルプ」資材、坑木用材、其ノ他木材ノ需要ガ顯著ニ增加シツヽアル反面ニ於キマシテ、國際收支改善ノ爲、外國產木材ノ輸入ガ强度ニ制限ヲ受ケルニ至リマシタ爲、木材ノ需要ハ主トシテ內地產木材ヲ以テ充足セネバナラヌ情勢ニ立至ッタノデアリマシテ、其ノ結果內地森林、特ニ從來比較的施業ノ放漫デアリマシタ民有林ニ付テハ、漸次過伐早伐ノ傾向ヲ來シ、就中搬出ニ便利ナル地方ニ於テ、此ノ傾向ハ一層顯著デアリマス、從ッテ從來動モスレバ植伐不均衡ノ爲ニ貧弱トナッテ居リマシタ民有林ノ蓄積ハ、之ガ爲ニ最近頓ニ減耗シツヽアリマシテ、今後此ノ儘之ヲ放置致シマスルナラバ、內地ニ於ケル木材給源ガ次第ニ枯渇シ、重要資源ノ自給方策ニ破綻ヲ來シマスルノミナラズ、治山治水其ノ他國土ノ保安ヲ阻害シ、各種災害頻發ノ誘因トナリ、銃後產業經濟ノ圓滑ナル進展及國民生活ノ安定ヲ甚ダシク脅威シ、延イテ戰時經濟ノ目的遂行ニ對スル重大ナル障碍ヲ來ス虞ガアルノデアリマス、茲ニ於テ民有林ニ於ケル施業ヲ合理化スルコトニ依リマシテ、間伐ノ徹底的普及、老齡過熟林分ノ經濟的利用開發ヲ促進スルト共ニ、幼齡未熟林分ノ濫伐ヲ抑制シ、又伐採跡地ノ造林ヲ勵行致シマシテ、以テ木材需給ノ現勢ニ即應シタ合理的植伐關係ノ確立ヲ圖リ、森林資源ヲ培養シ時局下ニ於ケル各種木材ノ供給ヲ確保スルト共ニ、一面治山ノ基礎ヲ固クシテ災害ヲ防除スルコトハ、誠ニ喫緊ノ要務デアルト存ジマス、仍テ今回森林法中第二章營林ノ監督ニ關スル規定及第五章森林組合ニ關スル規定ヲ改正補足致シマシテ、民有林施業ヲ充實セシメ、以テ其ノ目的ノ達成ヲ圖ラムトスルモノデアリマス、尙此ノ機會ニ於テ同法第七章罰則ニ關スル規定ヲ、現行刑法ノ規定ニ即應スル等、ソレ〳〵改正致シタイト存ズル次第デアリマス、次ニ林業種苗法案ニ付テ申上ゲマス、右ニ述ベマシタ如ク、現下木材需給ノ實勢ニ稽ヘマシテ、森林資源ノ造成ハ誠ニ刻下ノ急務ト存ジマスガ、造林ノ成績ハ其ノ種苗ノ良否ニ依存スルコトガ多大デアリマシテ、而モ種苗ノ良否ハ永年ノ歲月ガ經過シタ後ニ至ッテ初メテ外部ニ現レテ來ルモノデアリマスカラ、一旦種苗ノ選擇ヲ誤ッタ場合ハ、十數年間ノ努力ヲ水泡ニ歸セシメルヤウナ結果ヲ招來スルノデアリマス、從ッテ造林ノ成績ヲ確保スル爲ニ、林業用種苗ノ主要ナモノニ付、優良ナル種子及苗木ヲ供給セシメルコトヲ主眼トシ、且適地適木ノ配置ニ萬全ヲ期スル爲、種苗配付及販賣ニ關シテ必要ナル施設ヲ講ジ、以テ森林生產ノ成果ヲ確保シ、林業經營ノ基礎ヲ安定セシムル爲、林業種苗

官報號外　昭和十四年三月二日　貴族院議事速記錄第十七號　森林法中改正法律案外一件　第一讀會

一八五

法ヲ制定致シタイト存ズル次第デアリマス、何卒御審議ノ上速カニ御協贊アラムコトヲ希望致シマス

○議長(伯爵松平賴壽君)　質疑ノ通告ガゴザイマシタ、御許シヲ致シマス、山本米三君

（山本米三君演壇ニ登ル）

○山本米三君　私ハ只今上程サレマシタ森林法中改正法律案ニ付キマシテ御質問ヲ申上ゲタイノデアリマス、本法案ハ農林大臣ノ御説明ノ如ク、近時木材ノ需要激增ニ連レ、民有林ニ於ケル植伐關係ハ益〻不均衡ナル虞ガ多分ニアリマシテ、若シ此ノ儘ニ放置スレバ、漸次森林資源ヲ涸渇スルノミデナク、治山治水共ノ他國土保安上重大ナル結果ヲ招來シ、且又銃後國民生活ノ安定ヲ脅威シ、更ニ戰時經濟ノ運行上、大支障ヲ來ス虞アル爲、民有林ノ施業ヲ合理化スルコトニ依リ、資源培養ト森林生産ノ保續擴充ヲ圖ラムトスル爲ニ、此ノ森林法中改正案ヲ御提出ニナリマシタコトト思フノデアリマス、私ガ今更事新シク申ス迄モナク、我ガ國ノ森林ハ國土ノ大部分ヲ占メテ居ルノデアリマス、元來森林ハ獨リ建築、土木、薪炭等、國民生活資材ノ給源ヲ爲スノミナラズ、農業、電氣其ノ他各種ノ重要産業ノ基礎ヲ爲シ、更ニ又治水、國土保安及堅實ナル國民風尙ヲ涵養確保スル、眞ニ偉大ナル役目ヲ持ッテ居ルノデアリマシテ、森林ノ興廢ガ國運ノ消長、國家ノ存亡ニ至甚ノ關係ヲ持ッテ居ルコトハ既ニ歷史ノ敎フル所デアリマス、我ガ國藩制時代ニ見ルモ、森林ノ此ノ重大性ヲ認メタルモノハ、常ニ林政ヲ一藩施政ノ根幹トシテ、之ニ主力ヲ傾注セラレタノデアリマス、而シテ我ガ國森林ノ現狀ハ如何ト申シマスニ、其ノ面積ハ國土ノ七割ヲ占メテ居ルニ拘ラズ、多年ニ亙ル國內山村ノ疲弊困憊ハ、植林事業ヲ著シク阻害シマシテ、伐採ハ遙カニ植栽ヲ超過シ、造林未濟ノ土地ガ漸次增加シツヽアルコトハ、國家ノ爲誠ニ痛歎ニ堪ヘザル所デアリマシテ、此ノ儘デ推移スレバ將來由々敷キ事態ヲ招來スルニ至ルベク、眞ニ寒心スベキコトデアリマス、加之最近國運ノ興隆、文化ノ進運ト共ニ、木材ヲ原料トスル化學工業、特ニ「パルプ」工業ノ急激ナル勃興發達ヤ、其ノ他鑛山業ノ進展ニ伴ヒ、木材ノ需要ガ更ニ增加シ、國産材ノミニテハ不足ヲ告ゲマシテ、連年外國ノ輸入ニ依ッテ漸ク需給ノ調整ヲ保ッテ居ル狀態デアリマシタ處、今回ノ日支事變勃發以來、國ノ産業經濟ハ戰時體制ニ移行致シマシテ、國際收支ノ調整上、木材モ「パルプ」モ皆輸入ヲ防遏制限シテ自給自足ノ建前ヲ取リ、木材ノ增産ヲ必要トスルニ至ッタノデアリマス、玆ニ於テ一面ニハ努メテ幼齡樹ノ伐採ヲ抑制スルト共ニ、間伐ノ徹底ト老齡林ノ經濟的利用開發ヲナシ、以テ非常時局下ノ林業體制ヲ整備シ、木材ノ自給自足經濟ノ遂行ト、國土保安ノ完璧ニ資シ、森林ノ持ツ豫テノ重大使命ヲ果サネバナラヌノデアリマス、斯樣ナ御趣旨ト斯樣ナ目的デ今回民有林ノ施業合理化ヲ企圖スル此ノ改正案トナッタモノデアラウト思フノデアリマスカラ、其ノ御趣旨ニハ贊成スル者デアリマス、併シナガラ法案各條ヲ通讀致シマスルト、之ヲ實行ニ移シマシタ場合ニ於テ幾多ノ疑問ガアリマス、仍テ其ノ中三ツノ點ニ付質問申上ゲタイト存ジマス、第一ハ金融ノ問題デアリマス、此ノ法案ノ骨子ハ施業案ヲ作製シ、ソレニ依ッテ森林ノ合理的經營ヲナサシメ、早伐過伐ヲ禁止シ、又伐採跡地ニハ必ズ造林ヲナサシメルノガ目的デアリマス、元來林業ハ長年月ニ亙リ投下セル經費ヲ固定シ、其ノ主タル收入ハ數十年ノ後ニ待ッ譯デアリマスカラ、其ノ間此ノ事態ニ適應セル金融ヲ必要トスルノデアリマス、而シテ早伐又ハ過伐ヲ差控ヘテ、施業案デ取極メテ居ル植伐計畫通リニ實行スルニハ、我ガ國山村ノ實情ヲ以テシマシテハ、其ノ間小山林業家ハ必ズヤ山林ヲ金ニ換ヘタイ場合ノ、金融ノ必要ガ生ジテ來ルモノト認メナケレバナリマセヌ、此ノ金融問題ニ付衆議院本會議デ松尾議員ノ質問ニ對シ、政府ノ御答辯ハ「此ノ森林ニ對スル所ノ金融ニ付キマシテハ、是ハ餘程大問題デアリマスガ故ニ、先刻御話ノ如ク森林組合中央金庫ノ如キモノヲ設ケルト云フ風ナ御意見モ私共誠ニ傾聽致スノデアリマス、併シナガラ此ノ施業案ガ發達ヲ致シテ、餘程多數ノ施業組合ガ出來マシタ後ニハ、斯ウ云フコトモ出來ルノデアラウカト思フノデアリマスケレドモ、當初カラハムツカシイノデアリマス、併シ此ノ金融問題ニ對シマシテハ、政府ニ於テハ金融改善研究會ヲ設ケマシテ、鋭意其ノ金融ノ途ヲ講ジタイト云フコトヲ研究シテ居ルヤウナ譯デアリマス」、又馬岡議員ノ質問ニ對シテ政府ノ御答辯ハ「先刻松尾君ニ御答ヘ申上ゲマシタ通リ、金融改善研究會ヲ設ケマシテ十分此ノ點ニ付テハ研究考慮シテ、其ノ不便ヲ除キタイト思ッテ居リマス」ト申サレテ居リマス、サウシマスルト、金融機關トシテハ差當リ勸業銀行又ハ農工銀行ニ扱ハセル御考カト存ゼラレマスガ、果シテ銀行ガ林業者ガ希望スル低利、長期ニ亙ル貸付ニ應ズルヤハ疑問デアリマス、到底是ハ期待シ難キコトト思ヒマス、是ハ何トシテモ林業ニ特殊ナ强力ナル機關銀行ヲ此ノ法案ト竝行シテ作ラネバ、法案ノ實施ト共ニ生ジテ來ル金融問題ノ解決ガ付キマセヌ、從ッテ折角ノ法案モ空文ニ終リ、之ガ徹底ヲ期スルコトガ出來マセヌ、第二ニ此ノ法案ノ改正ト共ニ、第三章ノ保安林ノ條項ヲ何故改正ナサラヌノデアルカ、此ノ問題ニ對シ衆議院ニ於テ馬岡議員ノ質問ニ對スル政府ノ御答辯ハ「保安林ニ付キマシテハ種々考究スベキ點ガゴザイマスルケレドモ、色々研究致シマシタ結果、現在ハ此ノ儘ニ致シテ置キタイト考ヘルノデアリマス、唯施業案ガ實行サレマシタ曉ニ於テ、保安林ヲ解除竝ニ整理スベキ所ノモノガ澤山出テ來ルダラウト思ヒマス、從ッテ玆ニ緩和點ヲ見出スコトガ出來ルデハナカラウカト思ッテ居リマス」ト答辯サレマシタガ、本改正案ニテハ原則トシテハ民有林ハ、第九條ニ依リ施業案ヲ編成シ、植伐ヲ實行スルコトニナリ、若シ之ニ準據セザル場合ハ、行政官廳ハ第十一條ノ規定ニテ伐採ヲ停止シ、又ハ伐採造林等ノ代執行ヲ認メ、飽ク迄施業案ヲ實行セシムルコトニナッテ居ル故、保安林制度中水源涵養林ノ如キハ、右ノ施業合理化ニ依リ其ノ目的ヲ達シ得ルモノト認メラレ、從ッテ此ノ點ニ付保安林ノ現規定ノ改正ヲ考慮スルノ要アリト御認メニナルヤ如何デアリマスカ、又國土保安上特ニ治水ノ根源ヲナス治山事業ハ、現在農林內務兩省ニ依リ施行セラレッヽアリマス、而シテ兩省ノ事業計畫及實行ニ付テハ、各〻其ノ分界ヲ定メ、ソレ〳〵計畫シ實行セラルベキ筈デハアリマスルガ、實際其ノ間連絡統一ヲ缺キ、爲ニ治水事業ノ成果ヲ阻害シツヽアルノハ周知ノ事實デアリマシテ、是ハ畢竟スルニ農林省所管ノ森林法ト內務省所管ノ砂防法トニ依リ、同一場所ニ對シ同一ノ目的ヲ以テ治水ノ施設ヲ爲シ得ルコトニナッテ居ル、法制上重複ノ缺陷ガ原因トナッテ居ルモノト認メラルルノデアリマス、仍テ森林法改正ニ當ッテハ、此ノ點ニ關シ保安林制度ト砂防法ニ關聯シ改正ヲ加ヘ、治水事業ノ完璧ヲ期スルノ要アリト御認メニナリマセヌカヲ御尋ネ致シマス、第三、此ノ法案ノ實施ニ依リ小林業者ハ資本家ニ兼併セラレル、虞アリマセヌカ、本法案ノ實施ニ依リ山林所有者ハ、自ラ山林處分ヲ拘束セラレ、從來ニ比スレバ相當窮屈ナルモノトナルノデアルガ爲ニ、少クトモ過渡的ニハ小林業者ハ將來ニ於テ從來ノ如キ自由ヲ失フコトヲ憂ヒ、自己所有ノ山林ヲ資本家ニ賣却スル傾向ヲ生ジ、林業ニ最モ肝要ナル愛林ノ美風ヲ滅却スル虞ガ多分ニアルモノト思ヒマス、愛林思想ハ其ノ山林ガ土着ノ所有者多キ所ニ厚ク、其ノ山林ガ土地ヲ離レテ居ル資本家ノ所有ニ歸シタル場合、稀薄ナルハ爭ハレナイ事實デアリマス、此ノ點ニ關シ如何ニ考慮シ、如何ナル用意ヲ持ッテ居ラルヽヤ、以上ノ三點ニ對シ明快ナル御答辯ヲ煩ハシタイノデアリマス

（國務大臣櫻內幸雄君演壇ニ登ル）

○國務大臣(櫻內幸雄君)　只今ノ御質疑ニ對シテ御答ヲ致シマス、第一點ハ森林ニ對スル所ノ金融ニ付テノ御意見デアッタト思ヒマス、御話ノ如ク現在ノ森林金融ハ全然其ノ設備ガナイト申シテモ宜シイ程ノ狀態ニナッテ居リマス、是ハ何ニ因ルカト申シマスト、申ス迄モナク森林事業ガ永年ニ亙ッテ經營サレルベキモノデアルト云フコトガ一點デアリマス、又之ヲ抵當ニ取リ若シクハ金ヲ貸シマシタ際ニ、其ノ處分ノ方ニ於テ因ルト云フ點ガ含マレテ居ルノデアリマス、若シ現在ノ狀態ニ置キマスト、極ク平地ニ近イ所ノ森林デアリマスレバ、直チニ之ヲ伐採シテ市場ニ出スコトガ出來マスノデ、比較的金融ガ容易デアリマスケレドモ、若シ之ガ山嶽ノ上部ニ位スル森林デアリマスナラバ、容易ニ之ガ金融ヲ圖ルコトガ出來ナイノデアリマス、而モ森林ノ增殖ヲ圖リ、之ガ開發ヲ致スコトガ刻下ノ急デアルト云フ所カラ考ヘマスト、何トシテモ此ノ點ニ付キマシテハ力ヲ注ガナケレバ相成ラヌノデアリマス、從ヒマシテ政府ニ於キマシテハ此ノ森林ニ對スル所ノ金融ノ途ヲ開キマス爲ニ、森林ノ火災保險ト云フモノヲ國營ニ致シマシテ、金融ヲサレル方々ガ、森林業者ニ對シテ貸出ス所ノ點ニ付テ、一ツノ安心ヲ與ヘル點ヲ考慮致シタノデアリマス、此ノ度ノ施業案モ此ノ金融ヲ援ケル上ニ於テ少カラザル貢獻ヲ致スコトト我々ハ考ヘルノデアリマス、如何トナレバ此ノ施業案ガ確定ヲ致シマスル結果ト致シマシテ、玆ニ林道ノ設備ガ出來、又伐採、造林等ガ總テ計畫的ニ決定致シマス結果、此ノ山林ニ對シテハ何年度ニハドノ位ノ木材ヲ容易ニ伐出スコトガ出來ル、而シテ年々其ノ搬出スル所ノ木材ノ量モ凡ソ見込ガ立ツノデアリマス、又之ニ伴ッテ造林ヲ致スノデアリマスルガ故ニ、將來ニ永續性ヲ以テ其ノ山林ノ價格ヲ生ズルコトトナルノデアリマス、殊ニ大山林ヲ所有シテ居ラナイ、即チ極メテ小イ所ノ區域ヲ御所有ニナッテ居ル方々ハ、森林組合ヲ作ラセルノデアリマシテ、其ノ森林組合ヲ作ラセマシタ結果ハ、其ノ持分ガ假ニ擔保トナリマス、若シ之ガ金融業者ニ於テ處分ヲ致スコトニナリマシタ時ニ於テ、其ノ山林ヲ矢張リ森林組合ニ於テ管理サレテ居リマスルガ故ニ、安心シテ自分ガ經營セズトモ、其ノ組合ニ於テ其ノ事業ヲ繼續シテ行クコトガ出來ルノデアリマシテ、其ノ點ニ於テ比較的容易ニ金融ガ出來ルノデアリマス、詰リ金融業者ト致シマシテハ安ンジテ之ニ對シテ金融ヲ致スノ途ガ開ケルコトト相成ルノデアリマシテ、從來カラ見マスルト、金融ヲ圖ル上ニ於キマシテハ少ナカラザル利便ガアルト考ヘマス、此ノ問題ニ付キマシテ森林ノ特異性ニ鑑ミテ或ハ森林銀行ノ如キ、或ハ森林金庫ノ如キ、斯ウ云フ金融機關ヲ設備スル必要ハナイカト云フ議論ガ相當アルノデアリマスガ、是ハ我々ト致シマシテモ其ノ必要ヲ認メナイノデハナイノデアリマスケレドモ、斯クノ如キ施業案ガ各地ニ普及致シマシタ後ニ於テハ、サウ云フコトガ自然考ヘラレル狀態ニナルノデアリマシテ、差當リト致シマシテハ、即チ臨機ノ方法ニ於テ此ノ金融ニ不便ナキヲ期スルガ爲ニ、省內ニ於ケル所ノ者竝ニ他ノ有力ナル方々ヲ網羅シタ所謂森林金融改善會ト云フモノヲ組織シマシテ、今之ガ審議ヲ續ケテ居ル次第デアリマシテ、適當ナル成案ヲ遠カラズ得ルコトト考ヘルノデアリマス、第二ニ保安林ニ關スル所ノ法律ヲ改正スルノ意思ハナイカ、又砂防法ニ關スル所ノ法律ヲ改正スルノ意思ハナイカト、斯ウ云フ風ナ御質疑デアッタヤウデアリマスガ、本施業案ガ出來マスル結果ト致シマシテハ、施業案ガ普及致シマスト云フト自然ニ保安林ト云フモノハ整理致サレマシテ、改良致ス部分ガ相當出來ルデアラウト思ヒマス、又施業案ノ實施ニ伴ヒマシテ、保安林ニ指定スベキ所モ指定セズシテ濟ム場合ガ起ッテ來ルト考ヘマス故ニ、將來ニ於テ、其ノ發達ヲ致シタ曉ニ於テ、ドウ云フ方法ヲ講ジテ保安林ノ改正ヲスルカセヌカト云フコトニ付キマシテハ檢討ノ必要ガアルト思ヒマスケレドモ、今日ニ於テハ保安林ニ對スル所ノ法律ヲ改正スル意思ハ持ッテ居ラナイノデアリマス、治山治水ノ關係ニ於テ、農林ト內務トノ間ニ於テ各〻別ナヤリ方ヲヤッテ居ルカラシテ、治山治水ノ目的ヲ達スルコトガ容易デハナカラウト云フ風ナ御意見ガアリマスケレドモ、現在農林內務ノ兩省ノ間ニ於キマシテハ嚴然タル區畫ヲ設ケマシテ、所謂植林竝ニ森林地帶ノ事柄ハ農林省ガ掌ッテ居リマス、河川ノ砂防ノ問題ハ內務省ノ所管ニナッテ居ルノデアリマシテ、常ニ雙方相連絡ヲ取リマシテ、互ニ注意ヲシ合ッテ居ルノデアリマシテ、單ニ農林內務ダケガ單獨ニヤッテ居ルヨリモ、ヨリ以上ニ成果ヲ擧ゲテ居ルト考ヘテ居ルノデアリマシテ、今後ト雖モ十分ニ緊密ナル連絡ヲ取ッテ又遺憾ナキヲ期シタイト存ジテ居リマス、第三ニ中小工業者ヲ脅威スルガ如キコトハナイカト云フ風ナ御意見デアッタト思ヒマスガ、此ノ施業案ノ爲ニ、小サナ山林ヲ持タレル方々ガ組合ヲ組織シナケレバナラヌ、施業案ヲ設ケナケレバナラヌ、少シク御不便デアルヤウニ思ハレマスケレドモ、併シ一面カラ申セバ、從來搬出スルコトノ出來ナカッタ所ノ木材ガ容易ニ搬出出來ル、又色々ナル設計、計畫ハ總テ計畫的ニ是ガ實行サレルノデアリマスルガ故ニ、單獨ニオヤリニナルヨリハ非常ニ利益ガアル、唯濫伐デアルトカ或ハ無暗矢鱈ニ自分ノ考ニ依ッテ樹ヲ伐リ出スト云フヤウナコトハ出來ヌノデアリマスケレドモ、ソレハ今日ニ於テモ各縣ニ於テ取締ッテ居ル所デアリマシテ、此ノ施業案ガ出來タ爲ニ、小山林ヲ持タレル方ノ不便ノ點ハ殆ド無イト言ッテ宜カラウト思ヒマス、幾分ノ不便ハアルカモ知レマセヌケレドモ、其ノ不便ヲ補ヒマス上ニ於テ、大ナル取得ガアルト存ズルノデアリマス、殊ニ此ノ小森林ヲ御持チニナッテ居ル方々ガ、其ノ持分ヲ御賣却ニナルコトハ御隨意デアルノデアリマス、故ニソレヲ何等拘束スルコトハ起ッテ參リマセヌ、又此ノ森林伐採方法デアルトカ、其ノ他ノ計畫ニ對シマシテモ、主トシテ自治的ニヤラセルノデアリマシテ、政府トシテハ之ガ指導ヲ致ス地位ニ立ッテ居ルダケデアリマス、加フルニ此ノ施業案ヲ實施スルニ至リマシテハ、其ノ設計ノ費用ニ於キマシテモ亦施業ヲ實施スルニ於テ、或ハ林道デアルトカ、間伐デアルトカ、造林デアルトカ云フモノニ對シマシテハ、政府ハ相當ノ金額ヲ之ニ助成致シマシテ、其ノ發達ヲ期シタイト考ヘテ居ルヤウナ次第デアリマシテ、御心配ノヤウナ點ハナイト私ハ斯樣ニ考ヘルノデアリマス、大體御答辯ヲ申上ゲマス

○山本米三君　簡單デゴザイマスノデ、此ノ席ヨリ發言ヲ御許シ願ヒマス

○議長(伯爵松平賴壽君)　宜シウゴザイマス

○山本米三君　只今大臣ヨリ御答辯ヲ得マシタガ、私十分滿足スルニハ至リマセヌノデアリマス、併シナガラ他ノ機會ニ御伺ヲスルコトト致シマシテ、私ノ質問ハ是デ打切リマス

○子爵戸澤正己君　只今上程セラレマシタ森林法中改正法律案外一件ハ、重要ナル法案デアリマスルガ故ニ、此ノ特別委員ノ數ヲ十五名トシ、其ノ委員ノ指名ヲ議長ニ一任スルノ動議ヲ提出致シマス

○子爵秋田重季君　贊成

○議長(伯爵松平賴壽君)　戸澤子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(伯爵松平賴壽君)　御異議ナイト認メマス、書記官ヲシテ委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス

(佐藤書記官朗讀)

森林法中改正法律案外一件特別委員會委員

公爵一條　實孝君　侯爵佐竹　義春君
伯爵川村鐵太郎君　子爵伊集院兼知君
子爵鍋島　直縄君　子爵梅園　篤彦君
木場　貞長君　男爵小畑大太郎君
男爵近藤　滋彌君　男爵三須　精一君
松本　學君　宇野　男作君
小林嘉平治君　山本　米三君
綠原武太郎君

○議長(伯爵松平賴壽君)　日程第六、軍用自動車檢査法案、政府提出、衆議院送附、第一讀會ノ續、委員長報告、小村侯爵

軍用自動車檢査法案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十四年二月二十五日

委員長　侯爵小村　捷治

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

(侯爵小村捷治君演壇ニ登ル)

○侯爵小村捷治君　二月二十日本會議場デ提案セラレマシタ軍用自動車檢査法案ノ委員會ハ、翌二十一日午前正副委員長ノ互選ヲ行ヒ、引續キ會議ニ移リ、重ネテ二十五日午後議事ヲ續行致シマシテ、委員會ハ議案ヲ通過致シマシタ、提案理由ノ御説明ハ二月二十日ニ陸軍大臣ヨリ既ニ御話ガゴザイマシタコトデ、重複致スヤウデゴザイマスルガ、其ノ要點ヲ申上ゲマスルト、陸軍ニ常備致ス所ノ自動車數ニハ自ラ制限ガゴザイマシテ、玆ニ徴發ノ必要ヲ生ジマス、殊ニ全軍動員ノ場合ヲ慮リマシテ、又軍ノ需要スルノ條件ヲモ考ヘ、各地師團長ヲシテ民間自動車ノ種類、性能、移動ノ状況乃至製造能力等ヲ不斷ニ調査致シマシテ、正確迅速ニ出動準備ヲ完成シ置クコトニ其ノ目的ガゴザリマス、海軍モ亦同樣デゴザリマス、委員會ニ於キマシテハ陸軍當局ハ固ヨリ、商工當局ノ御説明ヲモ煩ハシマシテ、時局柄、又問題柄、折々速記ヲモ中止致シマシテノ問答モゴザリマシタ、玆ニ其ノ當局ノ御答ノ中主ナルモノヲ列擧致シマスレバ、此ノ法律ニ依ル檢査ノ對象ハ貨物自動車ニ限ルコト、將來ハ「バス」モ或ハ含メルカモ知レナイ、而シテ其ノ檢査ハ一年一回行フト云フコトデゴザリマス、ソレカラ第二ニ現行軍用自動車補助法ニ依ル保護自動車ハ、是ハ六輪車ニ限ッテ居ルト云フコトデゴザリマシタ、是ハ此ノ法案ノ外デゴザリマスガ、サウ云フ御説明ガゴザリマシタ、ソレカラ乘用車ヲ徴用スルコトハナイカト云フコトカラ、此ノ法律ニ含メナイノカト云フ質問ガゴザリマシタノニ對シテ、乘用車ヲ要スルコトハ軍トシテ極メテ少數ナ爲ニ、本法デハ之ヲ含マナイ、但シ滿鮮等ニ於テハ其ノ必要ガアリ得ルト云フコトデゴザリマシタ、ソレカラ規格統一ノ必要ニ付テノ質問ニ對シマシテハ、規格統一ハ勿論望マシイコトデゴザリマスガ、他關係省トモ能ク連絡シテ行ッテ行キタイト云フコトデゴザリマシタ、ソレカラ内務省ニ此ノ點ヲ委セタ方ガ宜イノデハナイカト云フ説モ委員カラ出マシタ時ニ、内務省ノ自動車取締令ハ是ハ主トシテ危險防止ヲ目的トシテ居ルモノダカラ、是ハ軍ノ要求スル所ト聊カ異ルノデ、此ノ立法ヲ必要トスルト云フ御答ガゴザリマシタ、ソレカラ運轉手ヲモ徴用サレルノカト云フ御質問ニ對シマシテハ、運轉手ハ軍ニ於テ、平時ニ既ニ養成シテ居ルコトダカラ車ト共ニ徴用セザルコトヲ原則トスルト云フ御答ガゴザリマシタ、斯樣ナ問答ノ末討論ニ入リ、委員ヨリ隣邦トノ關係モアリ、此ノ立法ハ軍トシテハ或ハ遲キニ失スルヤノ感ガアル、軍當局ハ宜シク業者ニ對シ出來得ル限リ不便損失ヲ少クスルヤウ留意サレタイ、斯ウ云フヤウナ注意ヲ附シテ贊成意見ノ開陳ガゴザイマシテ、其ノ結果全員一致贊成ノ下ニ、委員會ハ此ノ法案ヲ可決スベキモノナリト決議致シタ次第デゴザイマス、尙附加ヘマスレバ當局カラ此ノ議事ノ間、軍ニハ單ニ軍部官省ダケデナク、産業關係省竝ニ内務省等種々此ノ自動車ト關係スルコトガゴザイマスノデ、十分此ノ間ノ有機的關係ヲ付ケテ、緊密ナル連絡ヲ保チ、過チナカラシムルコトヲ期スル旨ノ言明ガゴザリマシタコトヲ附言致シマス、以上ヲ以テ誠ニ簡單デハゴザリマスガ、此ノ委員會ノ經過竝ニ結果ノ御報告ト致シマス

○議長(伯爵松平賴壽君)　別ニ御發言モナケレバ本案ノ採決ヲ致シマス、本案ノ第二讀會ヲ開クコトニ御異議ゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(伯爵松平賴壽君)　御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君　直チニ本案ノ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君　贊成

○議長(伯爵松平賴壽君)　西大路子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(伯爵松平賴壽君)　御異議ナイト認メマス

○議長(伯爵松平賴壽君)　本案ノ第二讀會ヲ開キマス、御異議ガナケレバ全部ヲ問題ニ供シマス、本案全部、委員長ノ報告通リデ御異議ゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(伯爵松平賴壽君)　御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君　直チニ本案ノ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君　贊成

○議長(伯爵松平賴壽君)　西大路子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(伯爵松平賴壽君)　御異議ナイト認メマス

○議長(伯爵松平賴壽君)　本案ノ第三讀會ヲ開キマス、本案全部、第二讀會ノ決議通リデ御異議ゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(伯爵松平賴壽君)　御異議ナイト認メマス

○議長(伯爵松平賴壽君)　次會ノ議事日程ハ、決定次第官報ヲ以テ御通知ニ及ビマス、本日ハ是ニテ散會致シマス

午前十一時七分散會

內閣印刷局

官報　號外

昭和十四年三月五日

○第七十四回帝國議會 貴族院議事速記錄第十八號

昭和十四年三月四日(土曜日)午前十時九分開議

議事日程　第十八號
昭和十四年三月四日
午前十時開議

第一　請願委員長報告

第二　短期現役小學校教員俸給費國庫負擔法中改正法律案(政府提出、衆議院送付)　第一讀會

第三　裁判所構成法中改正法律案(政府提出、衆議院送付)　第一讀會

第四　人事調停法案(政府提出、衆議院送付)　第一讀會ノ續(委員長報告)

第五　非訟事件手續法中改正法律案(政府提出)　第一讀會ノ續(委員長報告)

第六　久留里線上總龜山、房總東線安房天津ノ兩驛間鐵道敷設ノ請願　會議

第七　樺太敷香郡敷香町ニ區裁判所設置ニ關スル請願　會議

第八　函館本線余市驛、積丹郡余別村間ニ鐵道敷設ノ請願　會議

第九　函館本線神居古潭、伊納間鐵道線路改良ノ請願　會議

第十　北海道旭川市ニ貯金支局設置ノ請願　會議

第十一　豫定線三股、上川間鐵道速成ノ請願　會議

第十二　大雪山國立公園層雲峽ヨリ常呂郡留邊蘂町ニ至ル自動車道路開鑿ノ請願　會議

第十三　水産行政機構ノ擴充ニ關スル請願　會議

第十四　水産教育ノ振興ニ關スル請願　會議

第十五　漁業從業員共濟施設ニ關スル請願　會議

第十六　水産食糧ノ供給確保ニ關スル請願　會議

第十七　水産物ノ輸出振興ニ關スル請願　會議

第十八　漁村漁家及漁業ノ實態調査ニ關スル請願　會議

第十九　博覽會統制法制定ニ關スル請願　會議

第二十　姫新線播磨新宮、若櫻線若櫻ノ兩驛間鐵道敷設ノ請願　會議

第二十一　東北廳設置ニ關スル請願　會議

第二十二　久留里線上總龜山、房總東線安房鴨川ノ兩驛間鐵道敷設ノ請願　會議

第二十三　邊富内線鐵道速成ノ請願　會議

第二十四　北海道室蘭市ニ高等工業學校設置ノ請願　會議

○議長(伯爵松平賴壽君)　報告ヲ致サセマス

(丸龜書記官朗讀)

去ル一日本院ニ於テ可決シタル左ノ政府提出案ハ即日裁可ヲ奏請シ又可決ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ

昭和十三年度歳入歳出總豫算追加案(第二號)
昭和十三年度各特別會計歳入歳出豫算追加案(特第一號)
豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件(追第一號)

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

軍用自動車檢査法案
人事調停法案可決報告書
非訟事件手續法中改正法律案修正報告書
請願文書表(第六回報告)

同日政府ヨリ左ノ議案ヲ提出セリ

裁判所構成法中改正法律案

同日内閣總理大臣ヨリ左ノ通第七十四回帝國議會政府委員仰付ラレタル旨ノ通牒ヲ受領セリ

內務省所管事務政府委員
內務書記官　三好　重夫君

一昨二日森林法中改正法律案特別委員會ニ於テ當選シタル正副委員長ノ氏名左ノ如シ

委員長　伯爵川村鐵太郎君
副委員長　男爵三須　精一君

同日衆議院ヨリ左ノ議案ヲ提出セリ

裁判所構成法改正法律案
檢察廳法案

同日内閣總理大臣ヨリ左ノ通第七十四回帝國議會政府委員仰付ラレタル旨ノ通牒ヲ受領セリ

政府委員
內閣恩給局長　平木　弘君

昨三日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

請願委員會特別報告第五號

明治二十五年三月三十一日 第三種郵便物認可

○議長(伯爵松平賴壽君)　是ヨリ會議ヲ開キマス、一昨二日、内親王殿下御誕生アラセラレマシタニ付キマシテ、昨三日、議長ハ議院ヲ代表シテ參内致シ、天皇、皇后兩陛下ニ御祝詞ヲ言上致シマシタ、又大宮御所ニ參入シマシテ、皇太后陛下ニ御祝詞ヲ言上致シマシタ、此ノ際御諮リヲ致シマス、尚御命名ノ御儀當日、議長ハ議院ヲ代表シテ同ジク御祝詞ヲ言上致シタイト存ジマス、只今ノ議長ノ申上ゲマシタコトニ、御同意ノ諸君ノ起立ヲ願ヒマス

(總員起立)

○議長(伯爵松平賴壽君)　全會一致ト認メマス

○議長(伯爵松平賴壽君)　請暇ノ件ニ付キマシテ御諮リ致シマス、稲永吉之助君病氣ニ付、十二日間ノ請暇ノ申出ガゴザイマシタ、之ヲ許可致シマシテ御異議ガゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(伯爵松平賴壽君)　御異議ナイト認メマス

○議長(伯爵松平賴壽君)　次ニ再ビ御諮リヲ致シマスルガ、自今議案配付後及各讀會間ニ於ケル定規ノ日數ヲ經マセヌデ、議事ヲ開クコトニ致シタイト存ジマスルガ、御異議ゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平頼壽君）　御異議ナイト認メマス

────

○議長（伯爵松平頼壽君）　陸軍大臣ヨリ大阪府下枚方陸軍倉庫爆發ニ關シテ發言ヲ求メラレマシタ、此ノ際之ヲ許可致シマス、板垣陸軍大臣

（國務大臣板垣征四郎君演壇ニ登ル）

○國務大臣（板垣征四郎君）　報告ヲ致シマス、去ル三月一日大阪府下枚方ニ於ケル陸軍ノ倉庫ガ爆發シマシテ、右倉庫ノ大部ヲ焼失致シマシタノミナラズ、貴重ナル人命ヲ喪ヒ且折柄ノ強風ノ爲ニ、附近ノ部落ノ多數家屋ヲ類焼スルニ至リマシタコトハ、眞ニ遺憾ニ堪ヘヌ所デゴザイマス、早速本省ヨリ次官以下關係官ヲ現場ニ急派シ、詳細ヲ調査致サセマスルト共ニ、罹災者ノ慰問、救恤、負傷者ノ救護其ノ他應急ノ處理ニ任ゼシメテ居リマス、現狀附近ニ於キマシテハ、今尚約一中隊ノ兵力ヲ以テ警戒シ、憲兵約百名、警官約五百名ヲ以テ警備致シテ居リマス、併シ事件發生以來、關係諸機關ノ適切ナル處置ト、絶大ナル努力トニ依リマシテ、負傷者ノ救護モ概ネ適切ニ實施セラレ、民心モ安定シ、罹災者ハ逐次歸宅シツヽアル狀況デアリマス、危險ノ爲メ現狀ノ檢證ハ今尚困難デアリマスルガ、現在迄ニ知リ得マシタル所ニ依リマスレバ、今回ノ事件ハ砲彈ノ取扱中ニ於ケル過失ニ基クモノヽヤウデアリマス、又今日迄ノ調査ニ依リマスレバ、官民合セマシテ死者六十七名、重軽傷者五百八十名、外ニ百八十七名ノ行方不明者ガアリマス、又家屋ノ損害ハ全壊三十九戸、半壊百七十六戸、全燒二百八十六戸、半焼五十七戸及住宅以外ノ損害六十八戸ニ及ビマシテ、就中、中ノ宮、禁野ハ殆ド全部焼失シ、其ノ他附近ノ部落ニ於キマシテモ多大ノ損害ヲ生ジテ居リマス、但此ノ事件ニ依リマシテ、作戰ハ何等障碍ヲ受クルコトナク遂行致シ得ルノデアリマスルガ、聖戰ノ途上眞ニ軍民一體ノ實ヲ擧ゲ、銃後ニ大ナル努力ヲ拂ヒツヽアル住民ノ諸君ニ、多大ノ損害ヲ與ヘマシタルコトハ、眞ニ遺憾トスル所デアリマシテ、特ニ死歿者ニ對シマシテハ深甚ノ弔意ヲ表シ、又罹災者ニ對シマシテモ眞ニ御氣ノ毒ニ堪ヘヌ所デアリマシテ、速カニ所要ノ處置ヲ講ズル積リデアリマス、之ヲ以テ報告ヲ終リマス

────

○議長（伯爵松平頼壽君）　是ヨリ日程ニ移リマス、日程第一、請願委員長報告、委員長伯爵酒井忠克君

（伯爵酒井忠克君演壇ニ登ル）

○伯爵酒井忠克君　請願委員會ノ御報告ヲ致シマス、去ル二月六日第一回ノ御報告ヲ致シマシタ以後、二月五日ヨリ三月三日迄ノモノヽ御報告ヲ致シタイト致シマス、請願書ノ受領件數ハ百二十四件、之ガ連署人數ハ三萬八百七十三名デアリマシテ、右百二十四件ト、第一回報告ノ際申上ゲマシタ文書表未掲載ノモノ六件トヲ合セマスト百三十件ト相成リマス、此ノ百三十件ノ内、文書表掲載ノモノハ九十九件、未掲載ノモノハ三十一件ゴザイマス、第一回報告後、分科會ハ十二回開イテ居リマス、之ヲ分科別ニ致シマスルト、第一分科二回、第二分科四回、第三分科四回、第四分科二回、委員會ハ四回、二月十日、十七日、二十三日、三月三日ニ開會致シマシタ、文書表報告ハ四回、委員會特別報告ハ四回致シテアリマス、以上申述ベマシタモノト第一回報告トノ累計ヲ申述ベマスト、委員會ハ六回、分科會ハ合計十四回、文書表報告ガ六回、委員會特別報告五回デアリマス、請願書ノ受領件數ガ百七十三件、右連署人數ガ四萬千四十七名トナッテ居ルノデアリマス、此ノ中文書表掲載ノモノガ百四十二件、未掲載ノモノ三十一件デアリマス、委員會ニ於キマシテ之ガ審査ノ結果、議院ノ會議ニ付スベシトスルモノ五十七件、議院ノ會議ニ付スルヲ要セズトスルモノ七件トナッテ居リマス、此ノ議院ノ會議ニ付スルヲ要セズトスルモノノ中二件ハ、既ニ第一回ノ御報告ノ際ニ申述ベマシタ、ソレ故此處ニハ他ノ五件ニ付テ其ノ號ヲ申上ゲマスガ、第二十七號國字改善ニ關スル件、第三十一號矢島鐵道株式會社救濟ニ對スル件、第百號北海道網走刑務所改稱ノ件、第百一號國費ヲ以テ小都市ニ於ケル水道布設ノ件、第百十八號「ローマ」字教授ヲ小學校正科目ニ加フルノ件、此ノ五件デゴザイマス、以上ハ今日迄ノ累計デアリマシテ、第一回報告後文書表掲載ノモノ九十九件ト、第一回報告ノ際申上ゲマシタ文書表掲載ノモノデ、尚審査終了ニ至ラナカッタモノニ付テ愼重審査ノ結果、議院ノ會議ニ付スベシトスルモノ四十九件、議院ノ會議ニ付スルヲ要セズトスルモノ五件アッタノデアリマス、以上ハ既ニ本會議場ニ於キマシテ御報告致シマシタモノモ合セマシタ總件數デアリマス、本日此處ニ御報告致シマスモノガ二十一件デアリマシテ、其ノ中議院ノ會議ニ付スベシトスルモノ十九件ハ本日ノ日程ニ上程セラレテ居ルノデアリマス、以上ハ、委員會ニ於キマシテ何等異議ナク分科會決定通リ採擇ト議決相成ッタ次第デアリマス、其ノ經過ノ詳細ハ速記錄ニ依ッテ御承知ヲ願ヒタイト存ジマス、尚二十一件ノ中不採擇ト決定致シマシタ二件、第二十七號國字改善ニ關スル件、第三十一號矢島鐵道株式會社救濟ニ關スル件ニ付キマシテ、簡單ニ其ノ經過ニ付キマシテ申述ベタイト存ジマス、第二十七號國字改善ニ關スル件、國字ノ簡易化ハ教育ヲ刷新シテ經費ヲ輕減シ、國民ノ智能ヲ向上シテ生活ヲ能率化サセルモノデアルカラ、請願人所案ノ如キ新字、請願者ハ新字ト申シマシテ、補字ト云フヤナウモノヲ使ヒタイト云フコトニ申シテ居リマス、此ノ新字ヲ調査シテ國字ノ改善ヲ圖ラレタイト云フノデアリマス、國字ノ改善又ハ國字ノ整理統一ト云フコトハ教育上極メテ必要重大ナ問題デアリマスルノデ、國語審議會ニ於キマシテハ、國語ニ關スル事項ヲ調査審議致シテ居ルノデアリマシテ、先ヅ漢字ノ調査ヨリ審議ヲ開始シ、目下常用漢字表ノ修正ニ著手シテ居ル現狀デアリマシテ、鋭意國字ノ改善ニ努力サレテ居ル次第デアリマシテ、國字ノ改善、整理統一ト云フコトハ時局ノ進展ニ伴ヒ、新東亞建設等ヲ考慮致シマスルナラバ、益〻其ノ必要ヲ痛感スルノデアリマス、併シナガラ請願者ノ申サレル補字即チ補フ字ト名ヅケテ居リマスガ、「漢字ニモ非ズ、假名ニモ非ズ、我々ガ見マスル時ハ字ト云フ感ジガ出ナイノデアリマシテ、大體速記ノ字ニ似タモノデアリマス、之ヲ直チニ從來ノ國字ヲ捨テテ採用スルコトハ如何ナモノデアルカ、國字ト云フモノハ我ガ國ノ歷史、文化竝ニ國民ノ生活、心理等ト密接ナル關係ヲ持ッテ居ルモノデアリマスカラ、國字ノ改善ト云フコトハ愼重ニ研究致サナケレバナラナイノデアリマシテ、請願者ノ言フ補字ノ如キハ、今日現在ノ國字ニ換ヘ之ヲ採用スルコトハ賛成出來ナイト云フ委員會ノ意見デゴザイマシタ、委員會ニ於キマシテハ全會一致、採擇セズト決定致シタ次第デゴザイマス、次ハ第二回文書表、第三十一號矢島鐵道ニ關スル件デゴザイマス、矢島鐵道株式會社ノ軌道ニ殆ド竝行シテ國有鐵道矢島線著工ノ發表ヲ見ルニ及ビ營業不能トナリ、今ヤ會社ハ潰レテシマウカラ、之ガ救濟ヲシテ戴キタイト云フノデアリマス、矢島鐵道ト云フノハ羽後黒澤カラ矢島ニ至ル軌道デ、元横荘鐵道ト申シマシテ、大正十年末敷設免許ヲ受ケタ延長約十「キロ」ノ軌道デアリマシテ、一部ノ工事著手以來會社ガ資金難ニ陥リ、工事竣工期間ノ延期ヲ重ネルコト八回、數設特許以來十四箇年ヲ費シテモ、尚工事ノ進行ガ少シモ見ルベキモノガナイ、其ノ内ニ沿線ニハ是ト竝行致シマシテ乘合自動車ノ營業ガ始マリ、又省線ガ出來ルト云フ譯デ、會社ノ財政ヨリシテモ全ク成業覺束ナイト認メマシタノデ、昭和十年八月免許ヲ取消ヲ爲シタノデアリマス、而シテ延期願ヲ却下致シマシテ、其ノ爲ニ株主ニ於テハ損害ヲ蒙ッタノデアリマスルガ、一旦免許取消ニナッタモノニ對シマシテハ、甚ダ遺憾ナガラ法規上救濟ヲスル途ガナイノデアリマス、委員會ニ於キマシテハ殘念ナガラ之ヲ採擇セズト決定致シタ次第デゴザイマス、以上ハ三月三日迄ノ御報告デゴザイマス

○議長（伯爵松平頼壽君）　日程第二、短期現役小學校教員俸給費國庫負擔法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、荒木文部大臣

（左ノ送付及法律案ハ朗讀ヲ經ザルモ參照ノタメ茲ニ載錄ス以下之ニ倣フ）

────

短期現役小學校教員俸給費國庫負擔法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十四年二月二十八日

衆議院議長　小山松壽

貴族院議長伯爵松平頼壽殿

────

短期現役小學校教員俸給費國庫負擔法中改正法律案

短期現役小學校教員俸給費國庫負擔法中左ノ通改正ス

「短期現役小學校教員俸給費國庫負擔法」ヲ「現役小學校教員俸給費國庫負擔法」ニ改ム

第一條　師範學校ヲ卒業シタル市町村立小學校正教員ニシテ陸軍又ハ海軍ノ現役ニ服スル者ノ俸給ノ爲市町村ニ於テ要スル費用ハ國庫之ヲ負擔ス

前項ノ規定ニ依リ俸給費ヲ國庫ニ於テ負擔スル者ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

本法ハ昭和十四年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

（國務大臣男爵荒木貞夫君演壇ニ登ル）

○國務大臣（男爵荒木貞夫君）　只今上程ニ相成リマシタ短期現役小學校教員俸給費國庫負擔法中改正法律案ニ付御説明申上ゲマス、今般政府ハ本會議ニ兵役法中改正法律案ヲ提出致シマシテ、既ニ御協贊ヲ得テ居ルノデアリマスガ、右兵役法ノ改正ニ伴ヒ、短期現役兵ノ制度ガ廢止致サレルコトト相成ッテ居ルノデアリマス、從ッテ短期現役小學校教員俸給費國庫負擔法モ當然改メラレナケレバナラヌ次第デアリマス、御承知ノ如ク短期現役ニ服スル小學校教員ニ對シテハ、其ノ在學中教員タル身分ハ現職ノ儘トシ、俸給ハ三分ノ一ヲ支給シ來ッテ居ッタノデアリマスガ、之ガ理由ト致シマスル所ハ、小學校教員ハ國民教育ニ任ズベキ重責ニアリ、教員自ヲ軍隊教育ヲ受ケ、其ノ得タ所ヲ國民教育ニ及シ、以テ次代國民ヲシテ國民ノ必任義務ヲ完全ニ履行セシムルノ重大ナル任務ヲ有スル點ニアルノデアリマス、今回兵役法ノ改正ニ依リ、短期現役兵ノ制度ハ之ヲ廢止セラルヽコトト相成ルノデアリマスガ、小學校教員ガ有スル此ノ國民教育上ノ重責ハ、短期現役兵制度ノ廢止ニ依ッテ消滅セザルノミナラズ、現時ノ國情ニ鑑ミマスル時ハ、益〻其ノ重要性ヲ加ヘタルモノト考ヘルノデアリマス、此ノ故ニ短期現役兵制度ノ廢止後モ、師範學校卒業者ニシテ現役ニ服スル小學校教員ニ對シテハ、其ノ身分取扱ハ從前通リトシ、其ノ俸給支給ニ付テハ短期現役兵當時ノ待遇ト懸隔ヲ生ゼシメザルヤウ支給致シタイト考ヘテ居リマス、而シテ其ノ俸給費負擔ニ關シテハ、市町村財政ノ現狀ニ照シ、從前通リ之ヲ國庫ノ負擔トナスコトト致シタイト存ズル次第デアリマス、從ッテ本案ハ兵役法改正ニ伴ヒ短期現役兵制度ノ廢止ニ依リ、改ムベキ點ヲ改正セムトスルニ外ナラナイノデアリマス、何卒愼重審議ノ上速カニ御協贊アラムコトヲ切望致シマス

○議長（伯爵松平頼壽君）　別ニ御質疑モナケレバ本案ハ之ヲ名古屋帝國大學創設ニ伴フ帝國大學特別會計及官立大學特別會計ノ關渉ニ關スル法律案ノ特別委員ニ併託致シタイト存ジマス

────

○議長（伯爵松平頼壽君）　日程第三、裁判所構成法中改正法律案、政府提出、第一讀會、鹽野司法大臣

────

裁判所構成法中改正法律案

右勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス

昭和十四年三月一日

内閣總理大臣　男爵平沼騏一郎

司法大臣　鹽野季彥

────

裁判所構成法中改正法律案

裁判所構成法中左ノ通改正ス

第十四條ノ二中「區裁判所ハ」ノ下ニ「他ノ法律ニ特別ノ規定アルモノヲ除ク外」ヲ加フ

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（國務大臣鹽野季彥君演壇ニ登ル）

○國務大臣（鹽野季彥君）　只今議題トナリマシタ裁判所構成法中改正法律案ニ付キマシテ、其ノ提案ノ趣旨ヲ御説明申上ゲマス、現行法ニ於キマシテハ破産事件ハ總テ區裁判所ノ管轄トナッテ居ルノデアリマス、然ルニ御承知ノ如ク商法ノ會社編ガ改正ト相成リマシタ結果、株式會社ノ整理又ハ特別清算ノ手續カラ破産手續迄移ッテ行ク場合ガ新タニ認メラレマシタガ、株式會社ノ整理及特別清算ニ關スル事件ハ、其ノ性質ニ鑑ミマシテ地方裁判所ノ管轄ニ屬セシメルコ

トヲ必要ト致シマス、從ッテ此ノ整理又ハ特別清算ノ手續カラ、破產ニ移リマシタ場合ニハ、矢張リ整理又ハ特別清算ヲ取扱ヒマシタ其ノ地方裁判所ノ管轄ト致サネバナラヌト思ヒマス、仍テ現行法ニ一ツノ例外ヲ認メマシテ、其ノ趣旨ノ改正ヲ致サムトスルノデアリマス、即チ本改正案ヲ提出スル所以デアリマシテ、其ノ詳細ニ付キマシテハ他ノ機會ニ十分御說明ヲ申上ゲタイト存ジマス、何卒十分御審議ノ上ニ、本案ニ對シ御協贊ヲ與ヘラレムコトヲ切望致ス次第デアリマス

○議長（伯爵松平賴壽君）　戶澤子爵

○子爵戶澤正己君　只今議題トナリマシタ裁判所構成法中改正法律案ハ、關聯致シマスルコトガアリマスノデ、人事調停法案外一件ノ特別委員ニ併託セラレムコトノ動議ヲ提出致シマス

○秋田重季君　贊成

○議長（伯爵松平賴壽君）　戶澤子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス

○議長（伯爵松平賴壽君）　日程第四、人事調停法案、政府提出、衆議院送付、日程第五、非訟事件手續法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長報告、是等ノ兩案ヲ一括致シマシテ議題トスルコトニ御異議ゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス、委員長二荒伯爵

（左ノ報告書ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ玆ニ載錄ス以下之ニ倣フ）

人事調停法案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十四年三月一日

委員長　伯爵二荒芳德

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

非訟事件手續法中改正法律案

右別冊ノ通修正議決セリ依テ及報告候也

昭和十四年三月一日

委員長　伯爵二荒芳德

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

（特別委員ノ修正ニ係ル部分ノミヲ印刷シ其ノ他ハ之ヲ略ス小字及――ハ修正ナリ）

第百三十八條ノ十五　第百三十五條ノ二十六乃至第百三十五條ノ三十七、第百三十五條ノ三十八第二項、第百三十五條ノ三十九乃至第百三十五條ノ四十一、第百三十五條ノ四十三乃至第百三十五條ノ四十六、第百三十五條ノ四十八乃至第百三十五條ノ五十二、第百三十五條ノ五十五乃至第百三十五條ノ五十七ト第百三十五條ノ五十八、第百三十五條ノ六十及ヒ第百三十五條ノ六十一ノ規定ハ特別清算ニ關スル事件ニ之ヲ準用ス

第二百一條ノ二中「第百九十五條ノ二」ヲ
「。第百八十條ノ二、第百八十八條ノ二、第百八
「。第百九十五條ノ四」ニ改メ同條ヲ第二
十八條ノ三及ヒ
百一條ノ三トス

（伯爵二荒芳德君演壇ニ登ル）

○伯爵二荒芳德君　人事調停法委員會ノ報告ヲ申上ゲマス、人事調停法案特別委員會ハ先月ノ二十一日、二十二日、二十三日及本月ノ一日ノ四日間ニ亙リマシテ開會致シマシタ、先ヅ政府委員カラ細密ナル御說明ヲ伺ヒマシテ、又委員カラ種々質問ヲ致シタノデアリマスガ、抑〻此ノ法律案ハ一般家庭ニ關スル紛爭ニ付テノ調停、之ヲ解決致シマスル途ヲ開イタモノデアリマシテ、專ラ道義溫情ニ基イテ處理スルト云フコトガ本旨デアリマスコトハ、本會議ニ於キマシテモ當局ヨリ說明ガアッタ所デアリマス、而シテ政府ノ說明ニ依リマスレバ、現在ノ裁判所ニ於キマシテ借家借地調停竝ニ其ノ外四種類ノ調停制度ガ行ハレテ居ルノデアリマスガ、此ノ法律ナルモノハ動モスレバ醇風美俗ノ特有性ト家庭紛爭トノ關係ヲ圓滑ナラシメザル虞ガアリマス爲ニ、委員ニ於キマシテハ種々質問ガ出タノデアリマス、デ此ノ委員カラハ家族、親族ノ間ニ起ッタ紛爭モ、恰モ金錢貸借ノ方法ニ依リマシテ調停ニ入ルヤウデアル場合ニハ、之ヲ如何ニ片付ケルカト云フヤウナ質問ガゴザイマシタ、又此ノ各種ノ調停制度ガ不統一デアルガ故ニ、此ノ統一ヲ期スル意嚮ハナイカ、又或委員カラハ斯カル調停ノ事項ヲ取扱ヒマス前ニ豫ネテ　明治天皇ノ仰セ出サレタ御製ノ精神ト云フモノヲ根本ニシテ、サウシテ醇風美俗ノ風ヲ能ク保ッテ行カナケレバナラヌノデハナイカト云フ御質問モアリマシタ、之ニ對シマシテ政府ハ全ク其ノ方針ニ依ッテ、是等ノ法律ヲ活用シテ行クベキデアルト云フコトヲ說明セラレタ譯デアリマス、其ノ外種々ノ質疑ガゴザイマシタノデアリマスガ、其ノ詳細ニ付キマシテハドウゾ速記錄ヲ御覽戴キタイト存ジマス、而シテ討論ニ入リマシテ、或委員カラ政府ハ速カニ諸種ノ調停制度ヲ整備シ、弊害ヲ生ズル虞アルモノニ付テハ適當ナル改廢ヲ行フベシト云フ希望決議ノ動議ガゴザイマシテ、此ノ動議ハ一人ノ贊成者ニ依リマシテ成立致シマシタノデ、採決ノ結果全會一致ヲ以チマシテ、右ノ希望決議ヲ附シテ贊成可決ヲ致シタノデアリマス、尙當時司法大臣ハ委員會ノ希望ニ對シテ十分之ヲ尊重スルト云フ御挨拶ガアッタ次第デアリマス、以上御報告ヲ終リマス、次ニ非訟事件手續法中改正法律案ノ委員會ノ御報告ヲ申上ゲタイト存ジマス、本案ニ付キマシテハ先月二十三日、同ジク二十七日及本月ノ一日ノ三日間ニ亙リマシテ、逐條的ニ政府委員ヨリ說明ヲ伺ッタノデアリマス、此ノ改正法律案ハ頗ル複雜ナ法律的ノ內容デゴザイマス爲ニ、今玆ニ細カク之ヲ申上ゲルコトハ其ノ煩ヲ避ケマシテ、是亦速記錄ニ依ッテ御覽ヲ戴キタイト思フノデアリマス、デ要スルニ去ル第七十三回ノ帝國議會ニ於キマシテ成立致シマシタ商法中改正法律ハ、會社制度ノ健實ナ發達ヲ圖ル爲ニ企テラレマシタ劃期的ノ立法デゴザイマシテ、幾多ノ新シイ制度ヲ含ンデ居ルノデアリマス、デソレニ付キマシテ其ノ手續法デアリマス非訟事件ニ關シマシテ、之ニ適當スル規定ヲ新設致シマシタ、又適當ナラザル舊規定ヲ改正スルト云フノガ本改正案ノ趣旨デゴザイマシタ、尙此ノ法律案ノ審議ニ付キマシテハ、委員中特ニ此ノ方面ニ練達ノ士ガ多クゴザイマシタノデ、種々質疑應答ヲ重ネラレマシテ、サウシテ其ノ法文ノ中ニ稍〻適當デナイ箇所ガ數箇所ゴザイマシタノデ、之ニ付キマシテ修正ヲ加ヘテ可決スルコトニ致シタノデアリマス、其ノ修正ヲ加ヘマシタ點ノ內容ニ付キマシテハ、之ヲ報告書ニ讓リタイト存ジマスノデアリマスガ、此ノ修正ニ付キマシテハ政府ハ進ンデ贊意ヲ表サレマシテ、サウシテ此ノ條文ノ修正ト云フモノヲ、能ク趣旨ノ徹底スルヤウニ訂正ヲ致シテ行クト云フ御答辯デアッタノデアリマス、斯ク致シマシテ全會一致ヲ以チマシテ之ヲ可決致シタ次第デアリマス、尙專門的ノ御質疑等ニ付キマシテハ、御質問ニ應ジマシテ、當時ノ委員ノ擔任セラレマシタ方カラ又御返事ヲ煩ハスコトモ出來ルト存ジマスノデ、之ヲ以チマシテ委員長ノ報告トシテハ終リト致ス次第デアリマス

○議長（伯爵松平賴壽君）　別ニ御發言モナケレバ兩案ノ採決ヲ致シマス、兩案ノ第二讀會ヲ開クコトニ御異議ゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君　直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君　贊成

○議長（伯爵松平賴壽君）　西大路子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス

○議長（伯爵松平賴壽君）　兩案ノ第二讀會ヲ開キマス、御異議ガナケレバ全部ヲ問題ニ供シマス、兩案全部、委員長ノ報告通リデ御異議ハゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナシト認メマス

○子爵西大路吉光君　直チニ兩案ノ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君　贊成

○議長（伯爵松平賴壽君）　西大路子爵ノ動議ニ御異議ハアリマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス

○議長（伯爵松平賴壽君）　兩案ノ第三讀會ヲ開キマス、兩案全部、第二讀會ノ決議通リデ御異議ハゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス

○議長（伯爵松平賴壽君）　日程第六ヨリ第二十四迄ノ請願、會議

（左ノ意見書案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ玆ニ載錄ス以下之ニ倣フ）

意見書案

久留里線上總龜山、房總東線安房天津ノ兩驛間鐵道敷設ノ件

千葉縣安房郡天津町長高濱三四郎外百二十六名呈出

右ノ請願ハ久留里線上總龜山驛ヨリ房總東線安房天津驛ニ至ル鐵道ヲ敷設スルハ外房地方ト京濱地方間ノ捷徑トナリ海產物ノ輸送竝沿線地方ニ於ケル林產資源ノ開發、佛閣、名勝ノ參詣、觀光上等利便少カラサルヲ以テ速ニ之カ實現ヲ圖ラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十四年　月　日

貴族院議長　伯爵松平　賴壽

內閣總理大臣男爵平沼騏一郎殿

意見書案

樺太敷香郡敷香町ニ區裁判所設置ニ關スル件

樺太敷香郡敷香町大字敷香字千草通南一丁目公吏松尾鑛治外二千一名呈出

右ノ請願ハ樺太敷香郡敷香町ハ近時交通竝各種產業ノ發達ニ伴ヒ司法事務增加セルニ拘ラス管轄知取區裁判所トノ距離遠ク住民ノ不利不便尠カラサルニ依リ同町ニ區裁判所ヲ設置シ樺太地方裁判所甲號支部ノ事務ヲ開始セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十四年　月　日

貴族院議長　伯爵松平　賴壽

內閣總理大臣男爵平沼騏一郎殿

意見書案

函館本線余市驛、積丹郡余別村間ニ鐵道敷設ノ件

北海道積丹郡余別村大字余別村百十八番地回漕業飯田久治外百五十三名呈出

右ノ請願ハ函館本線余市驛ヨリ古平町、美國町及入舸村ヲ經テ余別村ニ至ル鐵道ヲ敷設スルハ之等町村等ニ於ケル船入澗ノ竣功ト相俟テ豐富ナル海陸資源ノ開發上貢獻スル所大ナルノミナラス運輸交通竝軍事上利便少カラサルニ依リ速ニ之カ實現ヲ圖ラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十四年　月　日

貴族院議長　伯爵松平　賴壽

內閣總理大臣男爵平沼騏一郎殿

意見書案

函館本線神居古潭、伊納間鐵道線路改良ノ件

北海道旭川市旭川商工會議所會頭鶴間禮藏呈出

右ノ請願ハ函館本線神居古潭、伊納兩驛間ノ線路ハ灣曲著シキ箇所アルノミナラス殆ト石狩河岸ニ沿ヒ殊ニ神居古潭驛附近ニ於テハ奇巖兩側ニ迫リ且地盤定マラサル爲落磐脫線等ノ事故頻出シ交通ノ安全感竝速度化ヲ減殺シツツアルハ甚遺憾ナルニ依リ之カ對策トシテ地勢上有利ナル對岸ニ線路ノ一部ヲ移轉シ以テ交通、產業竝軍事上ノ重要幹線タル同鐵道ノ機能達成ニ資セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十四年　月　日

貴族院議長　伯爵松平　賴壽

內閣總理大臣男爵平沼騏一郎殿

意見書案

北海道旭川市ニ貯金支局設置ノ件

北海道旭川市旭川商工會議所會頭鶴間禮藏呈出

右ノ請願ハ北海道旭川市ヲ中心トスル中部地方ノ郵便振替貯金口座加入數ハ同道

全加入口座ノ三分ノ一ヲ占ムル多數ナルニ拘ラス振替貯金ニ依ル送金決濟ハ遠隔ナル小樽貯金支局ヲ經由スル爲其ノ利用價値著シク減殺セラレ地方民ノ不利不便尠カラサルヲ以テ速ニ恰當地旭川市ニ振替貯金主管ノ貯金支局ヲ設置セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十四年　月　日

貴族院議長　伯爵松平　頼壽

内閣總理大臣男爵平沼騏一郎殿

意見書案

豫定線三股、上川間鐵道速成ノ件

北海道旭川市旭川商工會議所會頭鶴間禮藏呈出

右ノ請願ハ豫定線三股、上川間鐵道ハ沿線地方ニ於ケル豐富ナル農、林、鑛産資源ノ開發竝大雪山國立公園ノ觀光等ニ多大ノ利便アルノミナラス軍事上亦須要ノ線路ナルニ依リ速ニ同豫定線ヲ工事線ニ編入シ之カ完成ヲ期セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十四年　月　日

貴族院議長　伯爵松平　頼壽

内閣總理大臣男爵平沼騏一郎殿

意見書案

大雪山國立公園層雲峽ヨリ常呂郡留邊蘂町ニ至ル自動車道路開鑿ノ件

北海道旭川市旭川商工會議所會頭鶴間禮藏呈出

右ノ請願ハ北海道大雪山國立公園層雲峽ヨリ常呂郡留邊蘂町ニ至ル自動車道路ハ沿線地方ニ於ケル農、林、鑛産資源ノ開發上貢獻スルノミナラス大雪山、阿寒ノ兩國立公園ヲ結フ捷徑トシテ觀光上利便ナルニ依リ速ニ該道路ノ未成區間ヲ開鑿セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十四年　月　日

貴族院議長　伯爵松平　頼壽

内閣總理大臣男爵平沼騏一郎殿

意見書案

水産行政機構ノ擴充ニ關スル件

東京市赤坂區溜池町一番地帝國水産會長子爵野村益三呈出

右ノ請願ハ漁村ノ更正振興ヲ圖リ水産資源ノ確保培養ト輸出増進ニ努ムルト共ニ海外漁業ノ發展特ニ權益ノ獲得確保ニ萬全ヲ期スルハ現下ノ要務ナルニ依リ水産行政機構ノ擴充ヲ斷行シ以テ緊迫セル國際情勢ニ對處スルト共ニ水産政務ノ圓滑ヲ期セラレタシトノ趣旨ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十四年　月　日

貴族院議長　伯爵松平　頼壽

内閣總理大臣男爵平沼騏一郎殿

意見書案

水産教育ノ振興ニ關スル件

東京市赤坂區溜池町一番地帝國水産會長子爵野村益三呈出

右ノ請願ハ我國ニ於ケル水産教育機關僅少ニシテ内容亦整備セサルハ水産日本ノ施設トシテ未十分ナラサルニ依リ速ニ水産教育振興ニ關シ適當ノ方策ヲ講セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十四年　月　日

貴族院議長　伯爵松平　頼壽

内閣總理大臣男爵平沼騏一郎殿

意見書案

漁業從業員共濟施設ニ關スル件

東京市赤坂區溜池町一番地帝國水産會長子爵野村益三呈出

右ノ請願ハ漁船ニシテ厚生省立案ノ船員保險制度ノ適用ヲ受クルハ三十噸以上ノ少數ノモノニ限ラル爲ニ大部分ノ漁船ハ之カ均霑ニ浴セサルヲ以テ船員保險制度ト併行シテ小型漁船(三十噸未滿)ノ乘組員ニ對シ適切ナル社會施設的保險制度又ハ共濟制度ヲ實施セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十四年　月　日

貴族院議長　伯爵松平　頼壽

内閣總理大臣男爵平沼騏一郎殿

意見書案

水産食糧ノ供給確保ニ關スル件

東京市赤坂區溜池町一番地帝國水産會長子爵野村益三呈出

右ノ請願ハ現下ノ時局ニ鑑ミ水産食糧ノ生産ヲ確保シ價格及配給ノ統制等ニ遺憾ナカラシメ以テ食糧供給ノ萬全ヲ圖ルハ喫緊ノ要務ナルニ依リ速ニ之ニ必要ナル施設ヲ整備セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十四年　月　日

貴族院議長　伯爵松平　頼壽

内閣總理大臣男爵平沼騏一郎殿

意見書案

水産物ノ輸出振興ニ關スル件

東京市赤坂區溜池町一番地帝國水産會長子爵野村益三呈出

右ノ請願ハ水産物ハ我國重要輸出品トシテ今後尙飛躍ヲ期待セシムルモノアルモ今次事變ニ關シ種種ノ難關ニ遭遇セムトス依テ速ニ之カ輸出振興ニ關シ諸般ノ施設ヲ講セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十四年　月　日

貴族院議長　伯爵松平　頼壽

内閣總理大臣男爵平沼騏一郎殿

意見書案

漁村漁家及漁業ノ實態調査ニ關スル件

東京市赤坂區溜池町一番地帝國水産會長子爵野村益三呈出

右ノ請願ハ我國ニ於ケル漁村、漁家及漁業ニ關スル綜合的調査極メテ少ナク斯クテハ漁村生活ノ安定ヲ招來スヘキ適切ナル對策ヲ樹立スル所以ナラサルヲ以テ速ニ之カ實態調査ヲ爲スト共ニ諸般ノ資料ヲ整備セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十四年　月　日

貴族院議長　伯爵松平　頼壽

内閣總理大臣男爵平沼騏一郎殿

意見書案

博覽會統制法制定ニ關スル件

東京市麴町區丸ノ内三丁目十四番地東京商工會議所内日本博覽會協會子爵秋元春朝呈出

右ノ請願ハ博覽會ハ産業ノ發達、文化ノ進展ニ貢獻スル所大ナリト雖近時之カ濫設ノ弊漸ク著シク却テ博覽會本來ノ趣旨目的ニ悖ルモノ少カラサルハ甚遺憾ナルニ依リ速ニ博覽會統制法ヲ制定シ其ノ健全ナル發達ヲ圖ラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十四年　月　日

貴族院議長　伯爵松平　頼壽

内閣總理大臣男爵平沼騏一郎殿

意見書案

姬新線播磨新宮、若櫻線若櫻ノ兩驛間鐵道敷設ノ件

兵庫縣宍粟郡山崎町長前野修二外四十名呈出

右ノ請願ハ姬新線播磨新宮驛ヨリ若櫻線若櫻驛ニ至ル鐵道ヲ敷設スルハ沿線地方ニ於ケル農、畜、林、鑛等各種産業ノ發展ニ貢獻スル所大ナルノミナラス運輸交通竝軍事上亦須要ナルニ依リ速ニ之ヲ實現セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十四年　月　日

貴族院議長　伯爵松平　頼壽

内閣總理大臣男爵平沼騏一郎殿

意見書案

東北廳設置ニ關スル件

宮城縣仙臺市長町字門前町九番地平民鳥海亥太郎外四十名呈出

右ノ請願ハ東北地方疲弊ノ原因ハ同地方ノ地理的關係上天惠薄ク加フルニ水災冷害凶作相踵キ未天與ノ資源開發ニ力及ハサル等多多アルヘシト雖畢竟同地方ノ特異性ヲ沒却セル畫一的行政ノ缺陷ニ存スルヲ以テ政府ハ速ニ東北廳ヲ設置シ地方ノ實情ニ即應セル特殊ノ行政ヲ實施シ以テ東北振興ノ根本的解決策ヲ實現セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十四年　月　日

貴族院議長　伯爵松平　頼壽

内閣總理大臣男爵平沼騏一郎殿

意見書案

久留里線上總龜山、房總東線安房鴨川ノ兩驛間鐵道敷設ノ件

千葉縣安房郡鴨川町長服部岩吉外十名呈出

右ノ請願ハ久留里線上總龜山、房總東線安房鴨川ノ兩驛間ニ鐵道ヲ敷設スルハ千葉縣鴨川町ト京濱地方ノ捷路トシテ産業竝運輸交通上裨益スル所大ナルノミナラス遊覽觀光上ノ利便亦尠カラサルヲ以テ速ニ之カ實現ヲ圖ラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十四年　月　日

貴族院議長　伯爵松平　頼壽

内閣總理大臣男爵平沼騏一郎殿

意見書案

邊富内線鐵道速成ノ件

北海道勇拂郡苫小牧町長八卷耕三外千三百五十二名呈出

右ノ請願ハ未成線邊富内線鐵道ノ完通ハ啻ニ沿線地方ノ豐富ナル林、鑛資源ノ開發ニ止マラス運輸交通竝軍事上亦裨益スル所多大ナルニ拘ラス今次事變ノ爲之カ工事一時中止セレ且其ノ完成年度ノ繰延ヲ見タルハ甚遺憾ナルニ依リ同鐵道ノ完成年度ヲ繰上ケ速ニ著工セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十四年　月　日

貴族院議長　伯爵松平　頼壽

内閣總理大臣男爵平沼騏一郎殿

意見書案

北海道室蘭市ニ高等工業學校設置ノ件

北海道室蘭市長土屋通次外一名呈出

右ノ請願ハ政府ハ昭和十四年度ニ於テ時局對策トシテ北海道ニ高等工業學校ヲ一校新設セラルルヤニ仄聞スルモ室蘭市ハ近時工業ノ興隆發展著シク北海道ニ於ケル唯一最大ノ工業都市タルノミナラス氣候風土良好ニシテ景勝ニ富ミ高等工業學校設立ノ最適地ナルニ依リ同市ニ之ヲ設置セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十四年　月　日

貴族院議長　伯爵松平　頼壽

内閣總理大臣男爵平沼騏一郎殿

○議長(伯爵松平賴壽君)　是等ノ請願ハ請願委員長ノ報告通リ、採擇スルコトニ御異議ゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(伯爵松平賴壽君)　御異議ナイト認メマス

○議長(伯爵松平賴壽君)　次會ノ議事日程ハ決定次第公報ヲ以テ御通知ニ及ビマス、本日ハ是ニテ散會致シマス

午前十時四十六分散會

內閣印刷局

官報 號外

昭和十四年三月八日

○第七十四回帝國議會貴族院議事速記錄第十九號

昭和十四年三月七日（火曜日）午前十時十五分開議

議事日程　第十九號

昭和十四年三月七日

午前十時開議

第一　昭和十四年度歲入歲出總豫算案竝昭和十四年度各特別會計歲入歲出豫算案

會議（委員長報告）

第二　豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件

會議（委員長報告）

第三　軍馬資源保護法案（政府提出、衆議院送付）　第一讀會

第四　種馬統制法案（政府提出、衆議院送付）　第一讀會

第五　競馬法ノ臨時特例ニ關スル法律案（政府提出、衆議院送付）　第一讀會

第六　裁判所構成法改正法律案（衆議院提出）　第一讀會

第七　檢察廳法案（衆議院提出）　第一讀會

○議長（伯爵松平賴壽君）　報告ヲ致サセマス

（佐藤書記官朗讀）

去ル四日本院ニ於テ可決シタル左ノ政府提出案ハ卽日裁可ヲ奏請シ又可決ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ

人事調停法案

同日本院ニ於テ修正議決シタル左ノ政府提出案ハ卽日之ヲ衆議院ニ送付セリ

非訟事件手續法中改正法律案

同日本院ニ於テ採擇スルコトヲ議決シタル久留里線上總龜山、房總東線安房天津ノ兩驛間、鐵道敷設ノ請願外十八件ノ請願ハ各、意見書ヲ附シ卽日之ヲ政府ニ送付セリ

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

昭和十四年度歲入歲出總豫算案、昭和十四年度各特別會計歲入歲出豫算案、豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件可決報告書

昭和十二年、法律第五十七號中改正法律案可決報告書

大正十四年、法律第五十一號中改正法律案可決報告書

同日內閣總理大臣ヨリ左ノ通第七十四回帝國議會政府委員仰付ラレタル旨ノ通牒ヲ受領セリ

司法省所管事務政府委員

司法書記官　森山武市郎君

同日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ

軍馬資源保護法案

種馬統制法案

競馬法ノ臨時特例ニ關スル法律案

昨六日內閣總理大臣ヨリ左ノ通第七十四回帝國議會政府委員仰付ラレタル旨ノ通牒ヲ受領セリ

內務省所管事務政府委員

內務書記官　町村　金五君

○議長（伯爵松平賴壽君）　是ヨリ本日ノ會議ヲ開キマス、日程第一、昭和十四年度歲入歲出總豫算案竝昭和十四年度各特別會計歲入歲出豫算案、日程第二、豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件、會議委員長報告、是等ノ兩案ハ之ヲ一括シテ議題トスルコトニ御異議ゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス、委員長渡邊子爵

（左ノ報告書ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ玆ニ載錄ス）

一昭和十四年度歲入歲出總豫算案

一昭和十四年度各特別會計歲入歲出豫算案

一豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件

右衆議院ヨリ受領シタル各案ヲ審査シ總テ衆議院議決案ノ通可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十四年三月四日

委員長　子爵渡邊　千冬

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

（子爵渡邊千冬君演壇ニ登ル）

○子爵渡邊千冬君　只今上程セラレマシタ昭和十四年度歲入歲出總豫算及同各特別會計歲入歲出豫算竝ニ豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件ニ付キマシテ、豫算委員會ニ於ケル審議ノ經過ノ概略竝ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、今回政府ノ提出ニ係ル昭和十四年度歲入歲出總豫算ノ金額ハ歲入歲出共ニ三十六億九千四百餘萬圓デアリマスガ、歲入豫算ハ經常部二十三億七千二百餘萬圓、臨時部十三億二千百餘萬圓デアリマシテ、歲出豫算ハ經常部十九億六千二百餘萬圓、臨時部十七億三千百餘萬圓デアリマス、之ヲ前年度豫算額ト比較致シマスル時ハ、歲入歲出共ニ一億八千餘萬圓ヲ增加致シタノデアリマス、先ヅ歲入豫算ノ內譯ハ租稅等ノ普通歲入二十八億百餘萬圓、前年度剩餘金繰入八千四百餘萬圓デアリマシテ、右債金收入八億九百餘萬圓デアリマシテ、右ノ普通歲入ハ之ヲ前年度豫算額ニ比較致シマスレバ、二億九千四百餘萬圓ノ增加トナッテ居リマスガ、是ハ主トシテ租稅收入ノ增加ニ基クモノデアリマス、次ニ歲出豫算ノ大體ニ付申上ゲマス、昭和十四年度豫算ノ編成ニ當ッテハ前年度ニ引續キ國家各般ノ施設ヘ、軍變目的遂行ヲ目標トシテ之ニ集中スルノミナラズ、更ニ一層之ヲ强化スルノ趣旨ヲ以テ事變關係施設ハ出來ルダケ之ガ充實ヲ期スルト共ニ、其ノ他ノ諸經費ニ至ッテハ緊急差措キ難キモノノ外ハ計上ヲ見合ハセルコトニ致シタトノ政府ノ說明デアリマス、先ヅ軍事扶助費、軍事援護諸費、傷痍軍人保護諸費等ノ統後對策ニ要スル經費トシテ九千七百餘萬圓ノ新規增加額ヲ計上致シテアル外、生產力擴充ニ關スル經費、物資需給調整ニ關スル經費、輸出增進ニ關スル經費、滿洲移民ニ關スル經費、民間航空及防空ニ關スル經費等、現下ノ時局ニ鑑ミ緊要ナル經費ガ計上セラレテアルノデアリマス、尙近時各地ニ起リマシク水害ニ鑑ミ、治水ニ關スル經費ヲ增加計上シ、其ノ他失業又ハ轉業對策ニ關スル經費、農村對策ニ關スル經費、中小工業振興ニ關スル經費等ニ付テモ、ソレ〴〵所要額ヲ計上シテアリマス、又事變等ニ伴フ豫算超過及豫算外支出ノ必要ニ應ズル爲ニ、第一豫備金ハ前年度ヨリ千萬圓ヲ增加シテ三千萬圓トシ、第二豫備金ハ前年度通リ六千萬圓ヲ計上シテアリマス、次ニ昭和十四年度ニ於ケル旣定經費ノ節約額竝ニ部隊竝艦船ノ出征等ニ伴フ經費ノ減少額ノ合計ハ三億一千七百餘萬圓ニ上ッテ居ルノデアリマス、而シテ昭和十四年度豫算ニ於ケル歲入不足ノ金額ハ公債財源ニ依ルコトトシ、其ノ一般會計ニ於ケル公債發行豫定額ハ八億九百餘萬圓デアリマシテ、前年度ニ比シ一億九千八百餘萬圓ノ減少トナッテ居リマス、尙朝鮮總督府、臺灣總督府、帝國鐵

明治二十五年三月三十一日　第三種郵便物認可

バ殊更、工藝教育振興ノ必要ヲ御認メニナッテ居ラッシャルノデハナカラウカト存ジマスル、以上私ガ申上ゲマシタ事每ニ對シ、文相閣下ノ御高見ヲ拜承致シタク存ジマス

（國務大臣男爵荒木貞夫君演壇ニ登ル）

○國務大臣（男爵荒木貞夫君）　只今ノ御尋ノ工藝教育振興ニ付キマシテ、現在ノ我ガ國ノ工藝技術教育ハ、專門學校ニ於テ五學科ヲ設ケテ居リマスル、府縣ノ中等程度ノ工業學校ニ於テ百八ノ學科ヲ設ケマシテ、此ノ方面ニ於ケル技術者ノ養成ニ努力致シテ居ルノデアリマス、而シテ其ノ方ニ於テハ只今御述ニナリマシタ如ク、我ガ國民ノ天賦ヲ十分ニ發揮致サセマシテ、之ヲ總テノ工藝ノ上ニ活用致サスルヤウニシテ、獨創的ナ種々工夫ヲサスルヤウナ方針ヲ執ッテ居ル次第デアリマス、併シナガラ只今御述ニナリマシタ如ク、工藝技術ガ輸出入ノ收支關係ニ大ナル關係ヲ持ッテ居リマスルコトニ鑑ミマシテ、更ニ世界ノ此ノ方面ニ對スル趨勢ニ能ク鑑ミ、又各國民、各國家ノ趣味ヲ能ク斟酌致シマシテ、斯樣ナ意味ニ於ケル工業教育ノ進展ニ關シテ、將來一段ノ努力ヲ致シ、更ニ商工省方面トモ連絡ヲ緊密ニ圖リマシテ、今日ノ必要性ニ應ジテ、ソレ〲適當ノ處置ヲ執ッテ其ノ振興ヲ圖リタイト存ジテ居ル次第デアリマス、ドウゾ御了承ヲ願ヒマス

○佐々木八十八君　至極簡單デゴザイマスルノデ、自席ヨリノ發言ヲ御許シ願ヒタイト存ジマス

○議長（伯爵松平賴壽君）　宜シウゴザイマス

○佐々木八十八君　只今ハ文相閣下ヨリ、イトモ詳細ヲ極メタル御答辯ヲ辱ウ致シマシタニ對シ感謝ノ意ヲ表シマス、何卒政府ニ於テ之ガ爲ニ能ク善處ヲ爲サレマシテ、之ガ實現スルコトノ一日モ速カナラムコトヲ庶幾シテ私ノ質問ヲ終リマス

○議長（伯爵松平賴壽君）　二荒伯爵

（伯爵二荒芳德君演壇ニ登ル）

○伯爵二荒芳德君　會期切迫ノ今日ニ當リマシテ、暫ク時間ヲ頂戴致シマシテ、豫算ノ執行ト云フコトニ付キマシテ、質問ヲ致シタイト存ズルノデアリマス、問題ハ文部省關係ニ亙ルコトガ主デアリマスガ、又外務省ノ關係ニモ及スト存ジマスノデ、此ノ點御含ミヲ願ッテ置キタイト存ジマス、先ヅ御斷リヲ致シテ置キタイト存ジマスルノハ、昨年文部省ノ補助費ト致シマシテ、日獨青少年交驩ノ費用ト致シマシテ、十萬圓ヲ計上致シタノデアリマス、而シテ委員會ニ於キマシテハ、此ノ十萬圓ノ使途ニ付キマシテハ詳細ナル質疑應答ガゴザイマシテ、或團體ヲ特ニ作リマシテ、其ノ團體ヲシテ青少年交驩ノ事業ヲ行ハシメルト云フコトデアッタノデアリマス、凡ソ補助費ナルモノハ、補助サル、團體ガアッテ初メテ計上サルベキモノデアルノデアリマスガ、其ノ團體ガ數箇團體ゴザイマシタノデ、其ノ數箇團體ヲ一括致シマシテ、玆ニ交驩團ト云フモノヲ作ッテ之ニ補助費ヲ與ヘタノデアリマス、從ッテ其ノ補助費ヲ受ケタ交驩團ハ、其ノ補助費ヲ計上サレタ目的ニ從ヒマシテ、能ク之ヲ使フト云フコトガ必要デアルノデアリマス、然ルニ其ノ補助費ノ使用方法及此ノ補助費ヲ助クル爲ニ更ニ民間カラ集メマシタ所ノ其ノ費用等ニ付キマシテ、不幸ニシテ私ノ見ル所ハ政府當局ノ見ル所ト全ク相反スルモノガアリマスルガ故ニ、今日ノ如ク多額ノ補助費ヲ用ヒマス國家ノ現狀ニ於キマシテハ、ドウシテモ政府ノ御方針ヲ聽キマシテ、之ニ對スル我々ノ心構ヲ致シタイト思フノデアリマス、尚此處デ御斷リヲ申シテ置キタイノハ、此ノ十萬圓竝ニ寄附金八萬何千圓ト云フモノノ使途ガ、會計法上ノ見地ヨリ見テ不正デアッタトカ、或ハ疑惑ガアルトカ云フ意味ヲ含ンダモノデハ毛頭ナイノデアリマス、又私ノ只今申出マス質問ニ對シテハ、一ツノ行政上ノ方法ノ批判ニモナリマスノデ、或ハ議政壇上ニ於テ問題トスルノニハ小サイ事デアルト云フ御考ヲ御持チニナル方ガアルカモ知レマセヌガ、此ノ問題ヲ此ノ壇上ニ於テ論ジマスコトハ、實ハ一ツノ例示ニ過ギナイノデアリマス、由來社會教育關係ニ於テハ斯クノ如キ事柄ガ多々アルノデアリマシテ、之ヲ具體的ニ申上ゲナケレバ問題ノ核心ニ觸レルコトガ出來ナイカラ、已ムヲ得マセヌデソレヲ申上ゲル所以デアリマス、尚更ニ國民精神ノ根本的ノ原動力ハ、私常ニ申シテ居リマスヤウニ社會教育ニ在ルト思フノデアリマス、從ッテ社會教育ノ振興ナルモノハ、國防上實ニ軍備等ニモ匹儔スベキト申サムヨリハ、ソレ以上ニ道義的、精神的ノ意味ニ於テ重大性ヲ持ット思フノデアリマスガ故ニ、其ノ中核ヲ衝イテ質問ヲ致シタイト思フノデアリマス、尚最後ニ御斷リ申上ゲタイト存ジマスルノハ、近頃官吏獨善ト云フ言葉ガ流行リマスガ、私ハ斯クノ如キ重大ナル事變下ニ於テハ、種々革新或ハ改善、總テノ整理ト云フモノガ急速ニ行ハレナケレバナラヌト思フノデアリマス、從ッテ舊態ヲ維持シテ居ル人々ノ眼カラ見マスレバ、恰モ官吏ガ獨善主義ニ事ヲ運ンデ居ルカノ如ク見エル場合モアラウト思フノデアリマスガ故ニ、一面ニハ官吏ノ獨善ヲ我々ハ十分警戒スル必要ガゴザイマスガ、他ノ意味ニ於テハ革新ノ企テヲ一概ニ官吏獨善ナリトシテ貶スヤウナ見方ハ、深ク注意ヲ致シテ差控フベキモノダト思フノデアリマス、唯官吏ノ所信ニ邁進スル以上、苟モ其處ニ嚴肅ナル批判ヲ加ヘラレタトキニハ、心ヲ虛シクシテ其ノ批判ヲ聽キ、サウシテ直チニ次ノ正シキ途ニ蹈ミ進ムト云フ寛容ナ、又眞摯ナル態度ガ必要デアルト思フノデアリマス、斯クノ如キ諸點ヨリ見マシテ、私ハ今日次ノ質問ヲ申上ゲタイト思フノデアリマス、卽チ日獨青少年團交驩ノ費用十萬圓ナルモノガ與ヘラレマシタ交驩會ハ、數個團體ノ青少年團教育ノ團體デゴザイマシテ、民間カラ更ニ此ノ團體ノ名前ニ於テ八萬數千圓ノ寄付金ヲ仰ギマシテ、日獨青少年ノ交驩ヲ完成致シタノデアリマスガ、不思議ナコトニハ、此ノ民間カラ得マシタ八萬數千圓ノ寄附金ト云フモノハ、未ダ曾テ交驩會ノ理事等ニ於テハ報告サレタコトガナイノデアリマス、同時ニ政府補助ノ十萬圓ト云フモノノ使途ニ付テモ、未ダ曾テ其ノ內容ヲ

（副議長侯爵佐佐木行忠君議長席ニ著ク）

交驩會ノ理事ニハ說明サレタコトヲ聞カナイノデアリマス、卽チ交驩會ト云フ存在ハゴザイマシタケレドモ、諸費ノ經理、其ノ外重要ナ事項ニ付テハ理事會ト云フモノヲ僅ニ一回開イタバカリデ、此ノ交驩會ノ事業ト云フモノハ、或一人ノ常務理事、而シテ官吏ノ身分ヲ有スル人々ニ依ッテ專行サレタト云フ所ニ私共ハ非常ナル道義的ノ責任ヲ其ノ人達ガ持ツベキモノデアルト云フコトヲ申シタイト思フノデアリマス、勿論理事會ハ二回開カレテ居ルノデアリマスガ、其ノ二回目ハ實ハ交驩事業ノ濟ンダ時ニ行ハレマシタ理事會デアリマシテ、交驩事業ノ前ニハ唯一回ノ理事會シカ開カレテ居ラヌノデアリマス、御承知ノヤウニ、斯クノ如キ重大ナル國家事業、而シテ國際的ノ影響ノ大キナモノガ、誠ニ輕卒ニ誠ニ不用意ニ、而モ專斷ニ依ッテ行ハレタト云フコトニナリマスレバ、將來斯クノ如キ場合ニ、再ビ此ノ轍ヲ踏ムコトアルヲ非常ニ惧レルモノデアリマス、而シテ私ハ決算ノ委員會ニ於キマシテ、數字上ノ質問ヲ致スコトハ、勿論十三年度ニ行ハレマシタコトデアリマスカラ、之ニ付キマシテ其ノ以外ノ點卽チ如何ニ交驩會ト云フモノガ出來、如何ニ事務ガ取リ運バレタカト云フコトヲ質問致シマシタノニ對シテ、又不思議ナ御答辯ヲ得タノデアリマス、「ドイツ」ノ青少年團體ハ國家機關ガヤッテ居ルモノデアル、卽チ國家ガ中心ニナッテヤッテ居ルモノデアルガ故ニ我ガ國ニ於テモ文部省ガ中心ニナッテヤックノデアルト云フ御答辯デアッタノデアリマス、是ハ實ニ蔽姿ヲ排ヘナイ答辯デアルト思フノデアリマス、「ドイツ」ノ青少年指導廳ナルモノハ、文部省ニモ匹敵スベキヤウナ千人ニ近イ役人ヲ使ッテ居リ、其ノ部局ハ十五部局ニ分レテ居リマシテ、中ニハ外交關係ヲ扱フ部局、宣傳ヲ扱フ部局、或ハ教育其ノモノヲ扱フ部局等々ゴザイマシテ、一見厖大ナル一大官省デアルノデアリマス、然ルニ文部省ノ中ニ存在致シマスル所ノ社會教育局ナルモノハ、僅カニ專任八名乃至九名ノ高等官ヲ有シ他ハ屬僚ト致シマシテ二十數人ノ官吏ヲ有スルニ過ギナイ一局內ノ一課デアルノデアリマス、「ヒットラーユーゲント」ノ團體ガ、國家機關ニ依ッテ行ハレテ居ルガ故ニ、文部省ガ當然此方モ其ノ積リデ國家的ニヤルノダト云フヤウナコトハ、內容ト云フコトニ一ツモ注視スルコトナク、全ク獨斷的ノ判斷ニ依ッテ之ガ行ハレタト云フ所ニ、甚ダシキ不聰明ト不用意ガアルト申サナケレバナラヌノデアリマス、斯ク私ガ申シマスコトハ、文部省自身ニ對シテノ非難ヲシテ居ルノデハアリマセヌ、社會教育局ガドンナ大切ナ役割ヲ此ノ事變下ニ持タナケレバナラヌト云フ點ニ付テ、非常ナル不安ヲ持チマスガ故ニ之ヲ申シテ居ルノデアリマス、又其ノ事務ノ執リ方ニ付テモ、斯クノ如ク文部省ガ直接ニヤルノデアルカラシテ、或官吏ヲ之ニ專屬セシメテ、サウシテ其ノ官吏ガ專ラ之ヲ行フコトニ致シタノデアル、斯ウ云フ說明デアリマス、若シ斯クノ如キコトデアルナラバ、初カラ交驩團ナドト云フモノヲ作ルト云フコトハ、形式的ニ之ヲ扱フ考デ、文部省自身ガ之ニ當リ、或ハ文部省ノ社會教育局自身ガ之ニ當ルト云フ肚ヲ持ッテ居ッタコトニナルノデアリマシテ、昨年ノ豫算ノ時ノ質問應答ト云フモノヘ、全ク一ツノ方便ニ過ギナカッタト云フ結果ニナルノデアリマス、交驩團ハ一ツノ團體デアリ、是ノ意思決定ヲ爲スモノハ理事會ガアルノデアリマス、是ガ唯常務理事ダケノ考ニ於テ行ハレルコトスラ適當デハナイノデアリマスルガ、而モ其ノ一常務理事ノ專斷ト云フコトニナリマスレバ、將來非常ナル恐ロシキ結果ヲ生ズルト思フノデアリマス、今年度ニ出シマシタ文部省ノ豫算中ノ補助費ダケデモ百七十六萬圓ト云フ多額ノモノヲ計上致シテ居ルノデアリマス、斯ウ云フヤウナ多額ノ金ガ先程申スヤウナ事例ニ從ヒマシテ使用サレルト云フコトニナリマスレバ、其ノ結果タルヤドウ云フ恐ロシイモノガアルカト云フコトハ、皆樣ノ御想像ニ委セテ御判斷ヲ願ヒタイト思フノデアリマス、之ヲ要スルノニ今後ノ國際的文化事業ト云フモノハ、一文部省ノヤルベキコトデハ決シテナイト思フノデアリマス、他面ニハ外國ノ事情ニ通ジタ外務省ノ部局ガヤラナケレバナリマスマイシ、之ガ全國的ニ或ハ旅行シ或ハ研究ヲスル爲ニ、其ノ團體ガ動クト云フコトニナリマスレバ、內務省モ亦大キナ役割ヲ持タナケレバナラヌト思フノデアリマス、而シテ文部省ノ今日ノ社會教育局ノ威力ト云フモノハ、地方ノ社會局主事等ニモ十分徹底シナイヤウナ有樣デアリマスナラバ、不用意ナ計畫ハ、時ニハ國家ノ體面ヲモ傷ツケル、又精神的ニ與フベキ色々ノ輸ヲ、外來ノ賓客ニ與ヘ損ナッテシマウト云フコトハ、軈テ國民精神ノ本質ヲモ彼等ニ知悉セシムル機會ヲ逸シテシマフト云フコトニナルノデアリマス、假ニ「オリムピック」大會ガ行ハレタト云フヤウナ場合デモ、斯ウ云フ一種ノ無氣力ノ失態ト云フモノハ想像サレルト思フノデアリマス、私ハ事ハ小ニ似テ居リマスケレドモ、國家ノ前途ノ爲ニ、斯クノ如キ事ガ今後絕對ニナイコトヲ望ムト同時ニ、今日ノ世ノ中ハ兵力ノ戰爭ヲ一面ニ致シテ居リマスガ、實ハ思想戰ノ戰鬪、又精神力ノ戰鬪ノ時期ニ入ッテ居ルノデアリマス、其ノ本營デアル所ノ文部省ガ斯クノ如キ不用意ナ立場ニ立ッテ居ルト云フコトハ、ドウシテモ國防ノ上カラ私共ハ默視シ得ナイノデアリマス、此ノ點ニ付キマシテ、一面ニハ文部大臣ノ御決意ヲ伺ヒタイト存ジマスシ、國際問題ノ重要性ニ付キマシテハ、外務大臣ノ御答辯ヲ辱ウシマスナラバ誠ニ幸ト存ズル次第デアリマス

（國務大臣男爵荒木貞夫君演壇ニ登ル）

○國務大臣（男爵荒木貞夫君）　只今二荒伯爵カラ日獨青少年交驩會ノ事務ノ內容ニ關スル卽チ理事會ノ運營ニ關シテ適當ナラズト云フ御趣意ノ第一ノ御質問ガアッタノデアリマスルガ、日獨青少年交驩會ヘ、御承知ノ如ク一昨年ヨリ此ノ問題ガ起リマシテ、文部省ガ主任トナッテ此ノ成果ヲ收メルコトニ、事務ヲ進捗致シタノデアリマシテ、玆ニ交驩會ナル一ツノ事務ヲ取扱フベキ組織ヲ作リマシテ、只今御述ニナリマシタ理事ガ出來ラレテ、此ノ理事ニ依ッテ總テノ進捗ヲ致シタノデアリマス、其ノ理事會ノ內容、其ノ運營ニ付テ御指摘ノヤウナ點ガアリトセバ、是ハ理事會ニ於ケル問題ト致シマシテ、能ク精査致シマシテ、是等ノ運營ニ誤リナカラシムルヤウニ、ソレ〲ノ主任ヲ督勵致スコトニ、御指摘ニ從ッテ議慮ニ此ノ點ヲ十分研究致シテ、將來誤ナカラシメルヤウニ期シタイト存ジマス、此ノ交驩會ハ御承知ノナヤウ徑路ヘ取リマシタガ、日獨兩國ノ親善關係、殊ニ其ノ基礎的ノ青少年ノ交驩ニ付テハ、多大ノ寄與スル所ガアリマシテ、今後ニ於テモ此ノ交驩會ハ更ニ繼續スル必要ヲ認メテ居ルノデアリマス、更ニ日獨文化協定モ成立致シマシタノデ、是等ノ點ニ付キマシテハ、重ネテ日獨ノミナラズ他ノ諸邦トノ間ニ於キマシテモ、文化ノ興隆、之ヲ通ジテノ理解、更ニ心ヨリ民族ノ親善ヲ期スル上ニ付テ、將來更ニ活躍ヲ期セネバナラヌト存ズルノデアリマス、之ガ爲ニ只今御指摘ニナリマシタ如ク、今日ノ組織ヲ以テシテハ決シテ十分トハ申シ兼ネルノデアリマシテ、國際文化ノ振興ニ於キマシテハ、各種ノ團體ト共ニ中央機關ト致シマシテ、我ガ國ノ文化、更ニ協定ヲシテ居リマス所ノ各國ノ文化ノ眞髓ヲオ互ニ交換ヲ致シマシテ、基礎アル系統ヲ立テテ、我ガ國ノ文化ヲ彼等ニ紹介スル必要ガアリマスノデ、此ノ點ニ付テハ文部省ハ主管省ト致シマシテ、今後モ更ニ是等ノ機關ヲ擴大强化致シマシテ、外務省トノ間ニ是等紹介ノ、又事務進捗ノ緊密ナル連鎖ヲ取ッテ、更ニ其ノ有終ノ美ヲ濟シタイト期シテ居ル次第デアリマス、以上御質問ノ點ニ關シマスル過去ノ經過竝ニ將來ノ考ニ付テ御答ヘ申ス次第デアリマス

○副議長（侯爵佐佐木行忠君）　有田外務大臣

（國務大臣有田八郞君演壇ニ登ル）

○國務大臣（有田八郞君）　只今ノ二荒伯爵ノ御質問ニ對シマシテハ、文部大臣カラ一應御答辯ガアッタノデアリマス、外務省ト致シマシテハ、從來國際關係ノゴザイマスル問題ニ付キマシテハ、各省トノ間ニ連絡ヲ取リ來ッタノデアリマス、昨年「ヒットラー・ユーゲント」ノ參リマシタ時ノ狀況ニ付キマシテハ、私詳細承知ヲ致シテ居ラナイノデアリマスガ、或ハ此ノ連絡ニ於テ缺クル所ガアッタノデアルカトモ存ズルノデアリマスガ、只今文部大臣ノ申サレタヤウニ、日獨ノ間ノ文化協定モ出來、又其ノ他ノ國

トモ是等ノ協定ガ出來ムトシツヽアリマス、從ッテ是カラハ益々外國トノ間ノ文化事業ニ對スル提携、各種ノ催等ガゴザイマスコトト思フノデアリマスガ、是等ノ際ニハ外務省ト致シマシテハ、主管省ト十分ニ連絡ヲ取リマシテ、成績ヲ擧グルコトニ遺憾ノナイヤウニ努メタイト考ヘテ居ル次第デアリマス

○伯爵二荒芳德君　簡單デゴザイマスカラ、自席カラ發言ヲ御許ヲ願ヒマス

○副議長（侯爵佐佐木行忠君）　宜シウゴザイマス

○伯爵二荒芳德君　只今文部大臣、外務大臣ヨリ御答辯ヲ得マシテ滿足ニ存ジマス、「ヒットラー・ユーゲント」ノ日本訪問ト云フコトハ、其ノ效果ニ於テハ、彼我多大ノ功績ヲ殘シタト存ジテ居リマス、殊ニ「ドイツ」方面ニ於ケル交驩團ノ歸國以後ノ活動、即チ日本文化ヲ國内ニ宣傳シテ、實ニ最努力ヲ拂ッテ日本ヲ諒解セシメテ居リマスコトヲ知リマシテ、其ノ效果ハ非常ニ大キカッタト存ズルノデアリマス、又我ガ國内ニ於テモ其ノ效果ハ決シテ少クナカッタト存ジマスガ、先程兩大臣カラ御話ノヤウニ、今後此ノ種ノ企テハ益々起ッテ來ルト思フノデアリマス、從ヒマシテ此ノ事業ノ十分ナル用意ノ下ニ行ハレムコトヲ切望致シマシテ已マナイ次第デアリマス、之ヲ以チマシテ私ノ質問ヲ終リト致シマス

○副議長（侯爵佐佐木行忠君）　三上參次君

（三上參次君演壇ニ登ル）

○三上參次君　私ハ戰時及戰後ノ國民思想問題ニ付テ、總理大臣、内務大臣ニ、半バハ希望ヲ申上ゲ、半バハ御質問ヲ申上ゲタイト考ヘルノデアリマス、世ノ中ノ泰平ガ續キマスト云フト、或ハ社會ノ狀態ガ固著シマシタリ、又其ノ間ニ色々ノ學說ガ起リナド致シマシテ、矢張リ思想問題ガ時々起ルノデアリマス、サウシテソレガ往々世ノ中ニ大ナル波瀾ヲ起スト云フコトハ、今古東西ノ國々ノ能ク體驗シテ居ル所デアルノデアリマス、況ヤソレガデス、此ノ度ノ如キ國ヲ擧ゲテノ大戰爭ト云フ風ナコトニナリマスト云フト、一段サウ云フ心配ハ加ルノデアリマス、大正十二年ノ彼ノ大震火災、誠ニ見ルニ忍ビズ、言フニ堪ヘザル大慘害デアリマシタケレドモ、之ヲ地方カラ見マスルト云フト、尙一地方ノ事デアッタノデアリマス、然ルニ若シ斯カル出來事ガ全國民ノ頭ノ上ニ直接ニ繫ルト云フコトデアッタナラバ、其ノ影響スル所ハ、及ス所ハ如何ニ大キイカト云フコトハ、大抵想像ノ出來ルコトデアラウト思フノデアリマス、アノ震火災ノ時デサヘモ可ナリ自暴自棄的ナ考ヲ起シタリ、即チ俗ニ申ス所ノ捨鉢的ノ考ヲ述ベタ者モアッタヤウニ私ハ記憶致シテ居リマス、大戰爭ガ續キマスト云フト、之ニ依ッテ一種ノ宗敎心ガ強クナッタリ、若シクハ社會ニ迷信ノ程度ガ增スナドト云フコトガ多イノハ、即チ原因ハソコニアルト思フノデアリマス、戰爭ニ於テ古來敗北ヲ致シタ所ノ國ハ、其ノ社會ノ機構ガ或ハ變リ、又人情風俗ガ大イニ變ルト云フコトハ、固ヨリ申ス迄モナイ話デアリマスルガ、戰捷ヲ最後ニ占メタ國ニ於テデモ、同樣ノコトガ屢々是迄繰返サレテ居ルノデアリマス、殊ニ今日ノ我ガ國ノ事變ノ如ク、當面ノ支那ハ申スニ及バズ、其ノ背面ニハ最モ厭フベキ「ロシア」ノ共產主義ト云フモノガ織込マレテ居ルノデアリマスルガ、此ノ共產主義、「ロシア」主義ト云フモノハ、苟モ我ガ國體ト相容レナイモノデアル、私共ハ之ヲ不俱戴天ノ仇ト考ヘテ居ルノデアリマスルガ、ソレガ敵方ニ廻ッテ大イニ腕ヲ揮フテ居ルノデアリマスルカラシテ、我ガ國ノ上下ノ人ノ之ニ對シテ關心ヲスルト云フコトモ誠ニ尤モナコトデアリマス、申上ゲマスル迄モナク、支那ニ於テハ四五千年ノ昔ヨリ、或ハ時ニ依ッテハ均產主義ヲ採ル、或ハ共產主義ヲ以テ國ヲ治メル、若シクハソレニ反シテ、全ク自由競爭デ、弱肉強食ノ時代、即チ漢詩ニモアリマス通リ、一方デハ富王侯ニ等シク、他ニハ立錐ノ地モ有シナイト云フヤウナ不權衡ナ時代ガ出來テ來ル、サウ云フ不權衡ナ時代ガ出來テ來マスト、共產主義若シクハ均產主義、ソレガ行詰リマスト、元ノ如ク又自由競爭ノ時代ニナルト云フヤウナコトハ、支那ニ於テハヤリ過ギテ居ルノデアリマスルカラシテ、恐ラクハ蔣介石ノ政府ニ於テハ、我々ガ不思議ニ思ヒ、苦痛ニ思ッテ居ルコトヲ、彼等ハ歷史的ニ考ヘテ、我々ノ先祖ノヤッテ居ル事ヲ繰返シテ居ルニ過ギナイト云フヤウナコトヲ思ッテ居ルカモ知レナイト思フノデアリマス、サウシテ其ノ支那大陸ニ於テサウ云フコトガアリマス度每ニ、大ナリ小ナリ我ガ國ニ影響ヲ及シタノデアリマスルガ、其ノ最モ大ナル影響ハ、即チ例ノ大化ノ時デアリマシテ、班田收授ノ法ト云フモノハ即チ均產主義デ、ソレヲ我ガ國ニ用ヒタガ爲ニ、將來大キナ影響ヲ殘シテ居ルト云フコトハ歷史上ノ一ツノ大キナ問題ニナッテ居ルコトデアリマス、然ルニ幸ニシテ金甌無缺ノ我ガ國體ハサウ云フ主義ヲ用ヒタト雖モ、却テ皇威ヲ發揚スルコトコソアレ、我ガ皇威ヲ毀損スルト云フコトハ少シモナカッタト云フコトハ、我々國民タル者ノ大イニ誇リトシ、喜ブベキ所デアルノデアリマス、處ガ今日ノ共產主義ハ、支那ノ昔用ヒマシタ所ノ共產主義及均產主義ヨリモ、餘程變ッタ油斷ノナラヌモノニナッテ居ルト云フコトハ、今更此處デ申上ゲズトモ宜シカラウカト思フノデアリマスケレドモ、私共ハ大化ノ昔ノコトヲ考ヘテ、今日ノコトヲ想ヒマスルト云フト、慄然トシテ膚ニ粟ヲ生ズルヤウナ感ジヲ時々致スノデアリマス、申ス迄モナク今日ノ支那ニ於ケル我ガ國ノ戰爭ト云フモノハ、恐クハサウ云フ禍根ヲ絶ツト云フコトガ戰爭ノ目的ノ過半デアルト云フコトモ我々信ジテ居ルノデアリマスルガ、兎角此ノ戰爭ト云フモノガアリマスルト云フト、其ノ戰爭ノドサクサ紛レニ、サウ云フ思想ガ入ッテ來ルト云フコトハ餘程注意ヲ致シマセヌト云フト、是迄ニモ例ノアルコトデアッタノデアリマス、政府ニ於キマシテモ、十分其ノ邊ノ御注意ハアッタノデアラウト思ヒマシテ信賴ヲ致シ、感謝ヲ致シテ居リマスルガ、併シナガラ尙昨日デシタカ、今日デシタカノ新聞ニ、黑色「ギャング」團ガ檢擧サレタトカ、告發サレタトカ、若シクハサウ云フ硬派ノ「ギャング」デナク、軟派ノ「ギャング」ノ或印刷物ガ押收セラレタト云フヤウナコトヲ見マスルト云フト、此ノ上下一致、聖戰ニ從事シテ居ル間ニ於テ、尙我ガ同胞中ニ斯クノ如キ者ガアルカト云フ感ジヲ深ク致スノデアリマス、大體ニ於テ此ノ問題ニ對シテハ政府ニ於テモ十分ニ警戒ヲシ、各方面ニ向ッテソレゾレ施設ヲシテ下サルコトデアルト信ズルノデアリマスルケレドモ、尙ソレニ關聯シマシタ事柄ニ於キマシテハ、アチラコチラニ多少ノ穴ガアルヤウニ思フノデアリマス、大キナ堤モ蟻ノ穴カラ崩レルト云フヤウナコトガアリマスヤウニ、我々ハサウ云フ點ヲ懸念セズニハ居ラレナイノデアリマス、昔カラシテ德ヲ以テ政ヲスレバ民ガ悅ンデ服スル、法ヲ以テ政ヲスルト云フト民免レテ恥ヅルコトナシト云フコトヲ言ッテ居リマスルガ、今日ノ世ノ中ノ狀態ヲ見マスルト云フト、甚ダ言ヒタクナイ言葉デアリマスルケレドモ、免レテ恥ヅルコトナシト云フ民ガ餘程マダ多イヤウニ考ヘラレルノデアリマス、私ハ靑少年ニ接觸スル機會ガ割合ニ多イノデアリマシテ、彼等ノ心理狀態、思想ナドヲ少シク知ッテ居ル積リデアリマス、又古ク昔ニ遡ッテ之ヲ比較シテ見マスルト云フト、成ル程斯ウ云フモノデアラウト云フヤウニモ感ズルノデアリマスルガ、今日ノ靑少年ハ法律萬能主義ト個人主義ト云フモノヲ固ク持ッテ居ルト云フコトハ、我々驚クノデアリマス、斯ク迄モサウ云フ風ニ固マッテ居ルカト云フコトヲ驚クコトガ屢々アルノデアリマス、サウ云フ風デアリマスカラシテ政府カラ法律ガ雨ノ降ル如クニ出マス、法案ガ多ク出マスルト云フト、之ニ馴レル者ガ多クナッテ來マス、從ッテ昨年ノ何月デアリマシタカ、判事、檢事ガ一時ニ數十人增加セラル、ト云フヤウナコトモ出來テ來ルノデアリマス、是ハ世ノ中ガ進步シ、社會ガ複雜ニナルニ從ヒマシテ已ムヲ得ナイ現象デアリマシテ、判檢事ノ一時ニ數十人增加ト云フヤウナコトモ、蓋シ其ノ時ニ於テハ已ムヲ得ナカッタコトデアラウト思フノデアリマス、併シナガラ政治ノ本ヲ成スモノハモウ少シ末ニ走ラズニ、本ニ立還ッテ、本ヲ正スト云フコトヲシナケレバイケナイノヂヤナカラウカ、私共ノ敬愛シテ居ル平沼首相ナドハ、平生サウ云フ御考ノ人デアリマセウト思ヒマスルカラシテ、私ハ是ハ平沼首相ニ向ッテハ特ニ御註文モシ、サウ云フ御心持デイラッシャルノデアルカト云フコトヲ確メテ置キタイノデアリマス、今日屢々地方カラ參ッタ者ナドニ聞キマス所ニ依リマスト云フト、此ノ度ノ聖戰ニ於テ支那ヲ膺懲シ、君國ノ爲ニ身ヲ犧牲ニ供シ、東亞興隆ノ爲ニ捨石トナッテ亡クナッタ所ノ忠勇義烈ノ士ハ、實ニ澤山アルノデアリマスルガ、其ノ人々ノ遺族ノ間ニ於テ、一時賜金ヲ繞ッテ甚ダ面白カラザル爭ノ起ルコト云フモノハ、地方ニ依ッテハナカ〱多イト云フコトヲ承ッタノデアリマス、而モ其ノ數タルヤ分數ニ於テ甚ダ少クナイト云フコトヲ承ッタノデアリマス、私ハ斯ウ云フコトハ縱令此ノ壇上ニ於テデサヘモ申スコトハ甚ダ辛イノデアリマシテ、若シサウ云フコトガ第一線ニ於テ働イテ居ル人ノ耳ニ入リ目ニ觸レマスト云フト、此ノ上モナク氣ノ毒ニ感ズルノデアリマス、若シモ國民ガ、殊ニソレ等ノ遺族ノ人々竝ニ親戚、鄕黨ノ人々ガ一般ニ謙讓ノ德ニ富ンデ居ッテ、唯法律上ノ議論ヲシテ、金錢ヲ爭フト云フ風ナコトガナカッタナラバ、左樣ナ醜イコトハ見ズシテ濟ムコトガ出來ルノデナイカト、大變ニ遺憾ニ思フノデアリマス、サウ云フ場合ニ於テ遺族竝ニ家族ニ付テ政府ハ固ヨリ十分ナル御注意ガアリ、御手當ガアルト云フコトデアリマセウト存ジマスケレドモ、其ノ上下トノ間ニハ、ドウモシックリ取扱ナドガ一致ヲシナイデ、不平ヲ言ヒ、若シクハ中ニハ困難ニ陷ッテ居ル人モアルト云フヤウニ聞イテ居リマスガ、斯ウ云フコトハ或ハ陸軍大臣ノ御所管ノコトカモ知レマセヌガ、私ハ唯一般ニ總理大臣ニ向ッテ、國民ノ間ニサウ云フ怨嗟ノ聲ガ聞エルト云フコトヲ御耳ニ入レテ置キタイト思フノデアリマス、又其ノ遺族ノコトニ付テ關聯シテ申シマスルガ、日々ノ官報ヲ見マスルト云フト、數十人ノ戰死者ノ遺族ガ一時賜金ヲ貰ッテ居ル辭令ガ出テ居リマス、其ノ中ニハ隨分婦人ノ名前モ多イノデアリマシテ、殊ニ婦人ノ名前ノ方ガ多イデアリマセウ、若クシテ寡婦トナッタ人モアル、處ガ斯ウ云フ氣ノ毒ナル、若クシテ寡婦トナッタ人ノ將來ヲ考ヘテ見マスルト云フト、是ハ一ツノ社會問題デアルノデアリマス、私ハ嘗テ記憶致シテ居リマスルガ、明治二十七八年戰役ノ時ニ、或有名ナル官員ガ自分ノ子ヲ戰死サセタ、若イ未亡人ガソコニ出來タ、茲ニ於テ其ノ方ハ或時私ニ向ッテ、君、昔カラシテ貞女兩夫ニ見エズト云フ言葉ガアルガ、アレハドウ云フ意味ノ言葉デアル、僕ノ近頃ノ研究ノ解釋ニ依ルト云フト、貞女ハ一時ニ兩夫ニ見エズト云フ解釋デ宜カラウト云フコトヲ言ハレタ、ソレハ餘リニ寬大過ギル言葉デアル、一時ニ兩夫ニ見エタラ、ソレハ法律上ノ問題ニモナルコトデアッテ、當時其ノ說ハ、其ノ方ハ雜誌ニモ出サレタコトガアル、其ノ方ノサウ云フコトヲ言ハレ、サウ云フ說ヲ雜誌ニ發表サレタ動機ト云フモノハ、誠ニ同情ニ堪ヘナイモノデアッテ、若イ寡婦ヲ此ノ儘ニ宅ニ置クノハ氣ノ毒ダト云フ點カラ、サウ云フ風ニ言ハレタノデアリマセウガ、其ノ昔ノ言葉ノ解釋ニ迄持ッテ行カレルト云フコトハ、餘リ寬大過ギルト云フ風ニ私ハ思ッタノデアリマス、斯カル寬大過ギル思想ノ言葉ト、在來ノ道德思想トノ對立ト云フモノモ、是カラ追々現レテ來ルコトデアラウト思フ、武家時代ノコトデ言ヒマスト云フト、御承知ノ通リニ貞永式目ノ中ニ、人ノ妻妾タル者夫ノ讓リヲ受ケタ其ノ時ニハ專ラ夫ノ菩提ヲ弔フベキデアルガ、改メテ他ニ嫁シタ時ニハ、其ノ領地ハ其ノ當人ハ持ッテ居ルコトガ出來ナイト云フコトガ原則ニナッテ居ル、ソレハ多少形ガ變リマシタケレドモ、武家時代ヲ通ジテズットソレガ婦人ノ道德デアリマシテ、今日ニ至ル迄堅イ方面デハサウ云フコトヲ原則トシテ居ルト云フコトハ御承知ノ通リデアラウト思フ、處ガ今日ニ於テハ、一方ニ於テハ餘程軟カクナリ過ギル、制裁ガ少クナリ過ギル、寬大ニナリ過ギル、一方ニ於テハ依然トシテ昔ノ道德ヲ成ルタケ守ラウト云フ說ガアリマシテ、政府ニ於テモ日本ノ古來ノ醇風美俗ヲ維持シテ行カウト云フ一般ニ付テノ御考デアラウト思フ、是ハ文部大臣ニハ別ニ御意見ヲ伺フ機會モ幾ラモアリマスカラシテ、今日ハ御考ヲ伺フ必要モアリマセヌガ、總理大臣ニ於テハ大體ニ於テサウ云フ古イ醇風美俗ヲ出來ルダケ維持シテ行ク御考デアルカ、固ヨリ時代ニ依ッテ多少ノ變化ハ免レヌト云フコトハ承知ヲ致シテ居リマス、併シナガラ進ンデ其ノ醇風美俗ヲ離レタ當世風ノ御考デ、世ノ中ノ事ヲ律シテ行ク御考デアリマセウカ、ソコノ所ヲ一ツ伺ヒタイノデアリマス、總理大臣ノ此ノ御答辯ヲ下サレバ、其ノ一言ハ世間ノ、是カラ後ニ向ッテノ人心ニ如何ニ大ナル影響ヲ與ヘルカ、ソレガ根源トナルカト云フコトニ、私ハ極メテ重キヲ置ク者デアルノデアリマス、又一ツ是ハ同ジヤウナ性質ノモノデアリマスガ、内務大臣ニ御伺ヲ致シタイノデアリマスガ、是ハ決シテ今日ノ内務大臣ノ御關係ニナッタコトデハアリマセヌ、少シ古イコトデアリマス、或友人ガ近頃不思議ナ芝居ヲ見タ、ソレハ袈裟御前ハ貞節ヲ守ッタ者デナイト云フコトノ芝居ヲヤッテ居ルト云フコトデアル、ドウモ變ナコトダト思ッテ私ハ態々其ノ芝居ヲ見ニ行キマシタ、處ガ成ル程袈裟御前ガ一旦遠藤武者盛遠ノ脅迫ニ遭ッテ其ノ身ヲ許シテ、結局ソレノ繼續ヲ強ヒラレルガ爲ニ、昔ノ傳說ノ通リニ自分ノ身ヲ殺シタト云フ筋書ニナッテ居ッタノデアリマス、是ハ實ニ驚イタコトデアリマス、文學者ガ自分ノ構想ニ依ッテ新シイモノヲ如何樣ニ書カウトモ、是ハ警保局ナドデ御止メニナラヌ限リハ御自由デアリマスガ、苟モ七八百年來我ガ國ニ於テ貞女ノ鑑トナリ、國民道德ノ龜鑑トナッテ居ル人ヲ、サウ云フコトニ於テ傷ツケテシマウト云フコトガ甚ダ怪シカラヌコトデアル、サウ云フコトノ興行ヲ芝居ニ許サレタト云フコトノ御取締ハ、私ハ當局者ニ於キマシテモ其ノ責ナシトハ言ハレナイト思フノデアリマス、況ヤ其ノ芝居ノ筋書ハ其ノ人ノ全集ニ載ッテ世ノ中ニ流布サレテ居ルト云フコトデアリマス、併シ是ハ其ノ後、アトカラ其ノ御注意ガアリマシテ、ソコガ削除セラレテ居ルカ、其ノ儘ニナッテ居ルカハ存ジマセヌガ、兎ニ角サウ云フ事實ガ一ツアル、ソレデ斯ウ云フ方面ニ向ッテハ矢張リ一方黑色「ギャング」ト云フヤウナモノヲ御取締ヲ爲サルト同ジヤウニ、一

方ニ向ッテモサウ云フ軟派ノ「ギャング」ト私ハ申シテ差支ナカラウト思フ、サウ云フモノニ向ッテモ相當ノ御取締ヲシテ下サレタイト思フノデアリマス、內務大臣果シテ私ノ希望ヲ容レテ下サルデアリマセウカ、ドウデアリマセウカ、殊ニ私ノ憂慮スル所ハ、戰爭中ニハ國民上下一般ガヒドク緊張シテ居リマス、固クナッテ居リマスノハ申スニ及バヌコトデアリマス、併シナガラ一旦戰爭ガ濟ミマスト云ヲト、久シイ間ノ緊張ノ反動カト云フモノガ起リマスト云フコトハ、是ハ世ノ常ノコトデアルノデス、然ルニデス、不思議ナコトニハ今日ニ於テハ戰爭中ニ於テ、既ニ社會ノ或一部分ニ於テハ反動デハアリマセヌガ、大イニ其ノ弛緩シタ形勢ノ見エルト云フコトヲ聞キモシ、新聞雜誌ニ見ルノデアリマス、勿論政府ニ於テハサウ云フ餘裕ノアルモノニ向ッテハ、出來ルダケ貯蓄ヲ奬勵セラレテ居リマスト云フコトモ能ク存ジテ居リマス、其ノ外サウ云フ方面ノコトモ講ゼラレテ居ルト云フコトモ承知シテ居リマスケレドモ、私ノ眼カラ見マスルト云フト、マダ其處ニ十分ナラザル所ガアルト思フノデアリマス、是ハ私ハ大藏大臣ニ對シテ申スノデハアリマセヌ、矢張リ國政一般ノコトニ於テサウ云フ遺憾ガアリマスト云フコトヲ總理大臣ニ申上ゲテ置キタイト思フノデアリマス、ソレカラ最後ニモウ一ツ申上ゲテ置キタイコトハ、御承知ノ通リ官報ニハ時々彙報欄內ニ褒賞、卽チ御褒美ヲ貰フ人ノ名前ガ列擧セラレテアリマス、又ドウカスルト云フト地方行政ト云フ欄ニ旌表、卽チ篤行家ガアッテ、之ヲ賞美セラレタト云フコトノ揭示ノ出テ居ルコトガアルノデアリマス、偶〻金錢ニ餘裕ノアル人ガ社會事業ニ貢獻スルトカ、學校ノ建築費ヲ寄附スルトカ、水難救濟ノ爲ニ金ヲ出ストカ、赤十字ノ事業費、滿洲事變ノ義金、學藝奬勵費、其ノ外有ラユル方面ノコトニ向ッテ金ヲ寄附セラルヽト云フコトハ實ニ結構ナコトデアッテ、申ス迄モナク賞讚スベキコト、政府ガ之ニ向ッテ褒賞條例ニ依ッテ紺綬褒章ヲ與ヘ、ソレニ飾版ヲ加ヘテ與ヘラレルト云フコトハ是ハ當然ノコト、至極結構ナコトデアリマス、金錢ニ餘裕ノアル方ハサウ云フ方面ニ常ニ心ヲ用ヒテ戴キタイノデアリマス、併シナガラ之ニ對シテ地方行政ノ欄ニ出テ居ル所ノ國民ノ篤行表彰ト云フコトニ付テハ其ノ割合ガ甚ダ少イヤウニ私ハ感ズルノデアリマス、其ノ數ノ割合ヲ統計的ニ取ッテ申スコトデハアリマセヌケレドモ、ドウモ少イヤウニ思フ、卽チ孝子、義僕、節婦、其ノ外昔カラ孝子傳トカ忠義傳トカ云フヤウナモノニ出テ居ルヤウナ、平和ノ時ニ於テノ最モ國民ノ模範トスベキ、龜鑑トスベキ出來事ニ付テノ政府カラノ注意ガマダモウ少シ足リナイノヂヤナカラウカト思フノデアリマス、例ヘバ多クハ每年ノ紀元節ノ佳節ヲトシテ各地方廳ニ於テサウ云フモノヲ旌表セラレルノデアリマシテ、官報ニハ二月ノ末カラ三月四月頃ニ亙ッテ出ルノデアリマス、中ニハ纖弱キ女ガ永イ間病氣ノ夫ヲ看護シタガ遂ニ亡クナッタ、寡婦トナッタ、併シナガラ尙病メル所ノ舅姑ヲ看護シ、家ノ經濟ヲ計ッテ行ッテ、幼弱ナル子供、娘等ヲ育テテ行クト云フヤウナ艱難辛苦ガ數十年ニ亙ッテ居ル、之ニ依ッテ表彰セラレルト云フヤウナ涙グマシイ記事ガ時々出ルノデアリマス、サウ云フコトハ之ヲ仕組ンデハ小說ニ致シテモ立派ナモノニモナリマセウシ、或ハ芝居ノ一幕モノニシテモ觀ルベキモノニナルデアラウト感ズルコトガ多イノデアリマス、ケレドモドウ云フモノカ其ノ地方ノ新聞ニハ出ルデアリマセウケレドモ、東京ノ新聞ナドニハ餘リ其ノ事ハ見ナイノデアリマス、或友人ノ新聞記者ノ有名ナル人ニ其ノ事ヲ申シマシタ所ガ、ソレハ官報ニ出テシマフト云フト、ドウモ「ニュース・ヴァリュー」ガナイカラネト云フヤウナコトヲ言ハレル、モウアトハ私ハ何モ申シマセヌケレドモ、ソレデハ甚ダドウモ物足リナイ感ジガ致スノデアリマス、是ハドウ云フヤウナ取扱ニナッテ居ルカ分リマセヌケレドモ、學校ヘ「ピアノ」ヲ一臺寄附シタト云ッテ褒賞デ取扱フ、サウ云フ孝子、節婦ノアッタ時ニハ地方廳限リデ取扱ハレテ、最モ立派ナル國民ノ龜鑑ガ出テモ、ソレハ地方廳限リノ取扱ニ任シテ中央政府ニ於テハ關知セラレナイノデアリマセウカ、此處ハ私ハ能ク存ジマセヌガ、若シソレデアリマスナラバ、私少シ物足ラナク感ジルノデアリマス、餘裕ノアル人ガ金錢ヲ寄附シタルト同ジヤウニ、民間ノ如何ナル職業ニ從事シテ居ル者ト雖モ、數十年ノ間忠孝、貞烈、鄕黨ヲ感ゼシメタト云フヤウナコトデアルナラバ、ソレハ同ジヤウニ御取扱下サッテ宜クハナイカト思フノデアリマス、要スルニ私ガ感ジマス所ハ、是カラ一方ニ向ッテハ戰時及戰爭ガ濟ミマスト云フト、新シイ思想ガ各方面カラ湧イテ來ルダラウト思フ、卽チ貧富ノ懸隔ト云フコトモ昔ト違ッテ新シイ形デ現レテ來マセウ、學說デモ新シイ學說ガ又昔ト違ッタ形デ現レテ來ルダラウト思フ、其ノ外色々ノ事ニ付テ人情、風俗ニ付テ、世ノ中ノコトニ付テ殆ド總テニ亙ッテ新シイ思想ニ支配サレルモノガ出來テ來ルデアラウト思フ、此ノ際ニ於テ政府ハ出來ルダケ之ヲ適當ニ手綱ヲ御取リ下サルコトヲ願ヒタイ、無論悉ク之ヲ阻止スルコトハ出來マスマイケレドモ、又之ヲ悉ク其ノ水ノ低キニ流ルヽガ如ク、世ノ中ノナルガ儘ニ委シテ置クト云フコトハ勿論出來ナイコトデアリマセウト思ヒマス、幸ニ現總理大臣ハ平生ノ御思想カラシテ私共トハ大變ニ御共鳴下サル方ト思フノデアリマスガ、果シテサウデアリマセウカ、ドウデアリマセウカ、是ハ私一人ニ御答ヘ下サルコトガ卽チ世ノ中ヲ御指導下サル所以デアリマスカラシテ、御返答ヲ願ヘレバ有難イ仕合セデアリマス、又內務大臣ハ今ノ印刷物ノコトニ付テ一層御注意ヲシテ下サルコトガ出來マセウカ、ドウデセウカ、ソレヲ御伺ヒ致シタイト思ヒマス

(國務大臣男爵平沼騏一郎君演壇ニ登ル)

○國務大臣(男爵平沼騏一郎君) 三上君ノ御質問ニ御答ヲ致シマス、御述ニナリマシタ中ニ、御希望ニ屬スル點又御質問ニ屬スル點ト兩樣ゴザイマスルガ、併シ之ヲ纏メマシテ御答ヲ致シタイト考ヘマス、最初御述ニナリマシタ泰平ノ續イタ場合ニ色々ナ思想ガ入ッテ世ヲ紊スコトモアル、殊ニ此ノ事變ノ後ニハ其ノ憂ガ最モ多イヤウデアリマス、現今ノ事態ニ於テ共產主義ノ思想ガ蔓延致シマシテ、我ガ國國民ヲ蠱毒スルト云フ憂ガアルヤウデアリマス、之ニ對シテハ如何考ヘルカト云フ御趣意ノヤウニ承リマシタガ、固ヨリ三上君ノ御心配ニナリマス點ハ同樣ニ心配ヲ致シテ居リマス、御承知ノ如ク斯クノ如キ思想ニ對シマスル是迄ノ取扱方ハ、先ヅ教育ノ方面カラ致シマシテ成ルベク之ニ陷ラヌヤウニ、又既ニ之ニカブレマシタ者モ、成ルベク之ヲ改メシムル、尙之ニ服シマセヌ者ハ之ヲ彈壓スルト云フノガ御承知ノ通リマア大體ノ方針デアリマス、今後ニ於キマシテモ此ノ方針ヲ以テ臨ミマスル積リデゴザイマス、又現今此ノ事變中、殊ニ此ノ取締ハ嚴重ニ致シテ居ルノデゴザイマス、ソレカラ次ニ政治ハ德ヲ以テ導クト云フコトガ本デナケレバナラヌ、法ヲ以テ臨ミ、刑ヲ以テ齊フルト云フコトデアッテハ、所謂民免レテ恥ナシト、斯ウ云フ事態ニ陷ルノデアルガ、近頃靑少年ノ如キ者モ、多ク此ノ法律ト云フコトヲノミ考ヘテ居ルヤウデアル、是ハ三上君ノ御述ノ通リ、大體政治ハ德ヲ以テ導クト云フコトガ大切デゴザイマス、法モ必要デゴザイマスルガ、唯法律ノミデ治メヨウト致シマスルト、御心配ニナルヤウナ結果ニ相成リマス、近頃靑少年ノ、固ヨリ三上君ノ御述ニナリマシタヤウナ思想ノ人モゴザイマセウガ、併シ段々靑少年モ日本ノ固有ノ道ヲ尊重スルト云フコトハ、現今ノ靑少年ニ於キマシテハ殊ニ能ク心得テ居リマスヤウデゴザイマス、殊ニ地方ノ農村ノ靑少年ノ如キハ、最モ此ノ點ニ付キマシテ正シイ道ニ進ンデ居ルヤウニ自分ハ考ヘテ居リマス、段々能ク指導シテ參リマスレバ、唯法律ニ偏レナケレバソレデ宜シイト云フヤウナ觀念ハ、段々改ッテ參ルコトト自分ハ考ヘテ居リマス、又之ニ對シマシテハ教育方面カラ致シマシテ十分ニ指導ヲ致シテ參ル積リデゴザイマス、ソレカラ次ニ具體的ノ事實ヲ御擧ゲニナリマシテ、現今出征將兵ノ戰歿セラレタ人々ノ遺族、之ニ對シテ與ヘラレル所ノ手當、之ニ付テ親族間ニ爭ノ生ズルヤウナコトガアルヤウデアル、是ハ誠ニ憂フベキコトデアル、蓋シ唯一片カラ致シマシテ、其ノ曲直ヲ爭フト云フコトハ善クナイコトデアルト云フ御趣意ノヤウニ承リマシタ、先達テ政府ガ提出致シマシタ人事調停法ノ如キモノモ、此ノ點ニ最モ重キヲ置キマシテ、斯クノ如キコトハ法律ニ依ッテ裁クト云フコトデナシニ、成ルベク圓滿ニ總テガ納得シテ解決ノ出來ルヤウニ致シタイト斯ウ云フ考デ居リマス、ソレカラ次ニ我ガ國ノ醇風美俗ハ嚴格ニ之ヲ維持スル、是ハチョット私ガ誤解ヲ致シテ居ルカモ知レマセヌガ、戰歿者ノ寡婦ニ對シテ賜ッタ賜金、其ノ他是ハ其ノ家ヲ去リマシタ者ニモ尙與ヘル、斯ウ云フコトハ貞永式目等ニハナイヤウデアルガ、之ヲ與ヘルト云フコトハ餘リ寬大ニ過ギルデハナイカト云フ御趣意ニ承リマシタ、現今左樣ニハナッテ居リマセヌノデ、其ノ家ヲ去リマスレバ其ノ恩典ニハ與ラヌコトニ相成ッテ居リマス、又概括的ニ我ガ國ノ醇風美俗、之ヲ具體的ニ個々ノコトニ付テ考ヘマスレバ、是ハ古來ノ醇風美俗デアルヤ否ヤト云フコトニ付テハ色々異論ノアルコトモゴザリマセウ、大體醇風美俗ハ是ハ何處迄モ維持スルノガ至當ト考ヘルノデアリマス、一面ニ於テハ舊來ノ陋習ヲ打破スルト共ニ、醇風美俗ハ總テ是ハ維持セラルベキモノト考ヘルノデアル、併シ個々ノ事項ヲ、是ハ醇風美俗ニ屬スルカ或ハ否ヤト云フコトハ是ハ個個ノ問題ニ付テ決スベキコトト考ヘルノデゴザイマス、其ノ他事項ヲ擧ゲテノ御尋ガゴザイマシタ、是等ハ主管大臣ヨリ御答ヲ致スコトニ致シマシテ、尙漏レマシタ點ハ其ノ後ニ申上ゲルコトニ致シタイト存ジマス

(國務大臣侯爵木戶幸一君演壇ニ登ル)

○國務大臣(侯爵木戶幸一君) 三上サンノ私ニ對シマスル御尋ハ、芝居ノ脚本ノ取締ニ付テノコトデゴザイマシタ、此ノ問題ハ實ハ私ハ詳シイコトハ承知致シテ居リマセヌノデアリマス、唯御話ノ通リデゴザイマスレバ、卽チ歷史上顯著ナル人物ノ事績ヲ殊更歪曲致シマシテ、國民ヲシテ其ノ事績ヲ誤リ認識サセマスト云フコトハ、是ハ餘程國民ニ與ヘマス影響ハ大キイノデアリマスカラ、注意ヲ要スルコトデアルト考ヘテ居リマス、事ハ具體的ノ問題デゴザイマスカラ、尙取調ベマシテ善處シタイト思ヒマス、尙三上サンカラノ御尋ノ中ノ孝子、義僕、節婦等ヲ表彰致シマスコトニ付テノ御尋デゴザイマシタ、從來是等ノ孝子、義僕、節婦等ハ、御話ノ通リ大體ニ於キマシテ地方長官ニ於テ、紀元節ノ機會ニ於テ表彰ヲ致シテ居ルノデアリマス、併シナガラ御話ノ通リ此ノ種ノ表彰ハ、トモスレバ地方的ニノミ傳ヘラレルダケニ止マリマシテ、中央ニ於テ關心ヲ持タヌト云フ點ニ付テハ御話ノ通リノ缺點ガアルト存ジマス、從ヒマシテ殊ニ此ノ事變下ニ於テ、益〻斯ウ云フ方面ノ道義心ヲ涵養致ス必要ガアル際デアリマス、十分此ノ點ハ考慮シタイト考ヘテ居リマス

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 三上君ニ御尋ネ致シマスガ、御質疑ハ終了致シタモノト認メテ宜シウゴザイマスカ

○三上參次君 兩大臣ノ御答辯デ滿足致シマシタ

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 是ニテ休憩致シマス、午後ハ二時ヨリ開會致シマス

午後零時三十七分休憩

午後二時八分開議

○議長(伯爵松平賴壽君) 報告ヲ致サセマス

(丸龜書記官朗讀)

本日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

裁判所構成法中改正法律案可決報告書

○議長(伯爵松平賴壽君) 是ヨリ休憩前ニ引續キ會議ヲ開キマス、本日男爵今園國貞君病氣ニ付名古屋帝國大學創設ニ伴フ帝國大學特別會計及官立大學特別會計ノ關涉ニ關スル法律案外一件特別委員ヲ辭任致シタイ旨御申出ガゴザイマシタ、之ヲ許可スルコトニ御異議ハゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス、就キマシテハ男爵沖貞男君ヲ補闕トシテ指名ヲ致シマス、土方寧君

(土方寧君演壇ニ登ル)

○土方寧君 從來總理大臣其ノ他ノ國務大臣ニハソレ〻〻官舍ヲ持チ、且相當多數ノ巡査ヲシテ其ノ官邸私宅等ニ身邊ノ護衞ヲサスコトニナッテ居リマス、之ニ付キマシテハサウ云フ待遇ヲ受ケテ居ラレル方々ノ御考ハドウデアルカ、多分ソレガ善イトモ惡イトモ別段ニ今迄御考ニナッタコトハナカラウト思ヒマス、世人モ亦多年ノ慣例デ、サウ云フ事ガ善イカ惡イカ、無駄デハナイカト云フヤウナコトヲ何モ考ヘテ居ラナイダラウカト想像致シマスケレドモ、私ハ官邸モ護衞ノ巡査モ、二者共ニ無用無益、見ヤウニ依ッテハ有害デアルト豫テ考ヘテ居マスノデ、是ハ廢スベキモノト存ジテ居リマス、ソレニ付キマシテ政府ノ御所見ヲ伺ヒタイ、先ヅ第一ニ官邸ノコトデアリマス、總理大臣ニハ別ニ主務官廳ガアリマセヌカラ、無論サウ云フ總理大臣ノ官邸ハ必要デアリマセウ、ソレカラ又外務大臣モ外交官トノ交際上或ハ必要デアリマセウ、ケレドモ他ノ各大臣ノ官舍ハ全ク無用デアル、實ハ外務大臣ノ官舍モ同樣デアリマス、同ジ構內ニアリマス陸軍大臣ノ官舍トカ、海軍大臣ノ官舍トカハ主務官廳ノ隣ニアリマスカラシテ、是ハ在ル物ハ態〻廢スルコトモアリマスマイガ、其ノ他ノ官邸ハ多クハ主務官廳ガ多少ノ距離ヲ隔テテアリマス、斯ウ云フ主務官廳ト多少離レタ所ニアル官邸ニ居ラレル大臣ハ主務官廳ニ出勤シテ職務ヲ執ラレルコトモアリマセウシ、官邸デ職務ヲ執ラレルコトモアリマセウ、ソレハ各大臣デ色色區々ニナッテ居リマセウガ、主務官廳ニ出勤シナイデ、官邸ニ居ッテ事務ヲ見ル時ニハ部下ノ官吏ガ書類ヲ持ッテ主務官廳ト官邸ノ間ヲ往復シマス、其ノ時ヲ浪費スル、今日最モ節約ヲ要スル「ガソリン」モ浪費シマス、ソンナ不合理ナコトハナイト思ヒマス、私ノ考デハ、各大臣ハ主務官廳ニ出勤シテ事務ヲ見ラレルト云フコトニシテ、官邸ヲ設ケナクテモ宜イト思フ、官邸ハ私邸デハアリマセヌガ、兎角官邸デ國務ヲ見ラレルト、公私混淆スルト云フ弊害モ起リ易イノデアリマス、今日銃後ノ國民ハ平時ト違ヒマシテ擧國一致、節約ニ各〻分ニ應ジテ奮鬪努力シテ居ル時期デアリマス、ソレニ比シマスト

講ヲ煩ハシタイト考ヘテ居ルヤウナ譯デアリマス、何ニ致セ只今申シタヤウナ種々ナル點ニ於テ困難ガ伴ッテ居ルノデアリマスガ故ニ、此ノ對策モ亦種々多樣ニ亙ッテ居リマス、又生產物モ單ニ米トカ繭トカ云フモノバカリデハナイ、例ヘテ言ヘバ「ガソリン」ノ代用タル所ノ「アルコール」ノ資材デアル所ノ甘藷ノ增產ノ如キ、或ハ「ガソリン」代用ノ木炭ノ增產ノ如キ、斯ウ云フ問題モ伴ッテ居ルノデアリマシテ、此ノ點ニ付キマシテハ深ク留意ヲ致シテ居ル譯デアリマス、其ノ具體的方法ヲドウ云フ手段ニ依ッテヤルカト云フ御話デアリマスガ、只今ノ所ハ各中央カラ府縣、地方町村、之ニ至リマスル迄總テ農村ニ對シテ一定ノ計畫ヲ立テマシテ、此ノ計畫ニ依ッテ進ンデ行ク方法ヲ講ジテ居リマス、米穀ノ增產ニ付キマシテハ、或ハ勞働班ノ移動ヲ行ヒ、或ハ機械ノ共同使用ヲ行ヒ、或ハ螟蟲其ノ他稻熱病ト申ス如キモノノ害蟲ノ驅除ニ對シテ全力ヲ注ギ、或ハ冷溫床ノ如キモノヲ用ヒマシテ、冷害地ニ備ヘ、種々雜多ナ方法ヲ講ジテ居リマス、是等ノ問題ニ付キマシテハ、農事ニ關係ノアル有ラユル團體ノ總動員ヲ致シマシテ、卽チ農村ノ總力ヲ茲ニ集中ヲ致シマシテ、此ノ目的達成ニ努力ヲ致シテ居ルヤウナ譯デアリマス、今御話ノ其ノ一番前線デアル所ノ農事實行組合、又一面カラ言ヘバ部落、此ノ部落ノ活動ニ對シテ、相當ナ考慮ヲ拂フカト云フ風ナ御意見デアリマシタガ、此ノ點ニ付キマシテモ相當ノ考ヲ以テ、今日對案ヲ講ジツヽアル際デアリマス、勞力ノ不足ヲ補フ點、茲ニ肥料ノ缺乏ニ對シマシテモ、所謂自給肥料ニ對シマシテ力ヲ注グ點、有ラユル方面ニ付キマシテ、政府ハ最善ノ努力ヲ致シマシテ、今日ノ此ノ難局ヲ突破シ、以テ農村將來ノ繁榮ヲ期シタイト期シテ居ルヤウナ次第デアリマスガ故ニ、一應御諒承ヲ願ッテ置キタイト思ヒマス

○小林嘉平治君　肝腎ノ財源ヲ有セラル、大藏大臣ノ一ツ、此ノ際私ノ所見ニ對スル御批判ヲ仰ギタイト思ヒマス、尙文部大臣ハ御缺席デアリマスノデ、私ノ速記錄ヲ見テカラ、適當ナ機會ニ一ツ御答辯ヲ得タイト思ヒマス

（國務大臣石渡莊太郞君演壇ニ登ル）

○國務大臣（石渡莊太郞君）　農產物ノ數量ノ增加維持、又國際收支ニ關係ノアリマスル農產物ノ增產、其ノ他ニ付キマシテ、只今農林大臣ガ詳細ニ述ベラレタノデアリマスガ、大藏省ト致シマシテモ、大體ニ於テ御同感デゴザイマス、此ノ問題ハ銃後對策トシマシテ、極メテ緊要ナ問題デゴザイマスルノデ、私ト致シマシテモ、出來ルダケノ事ヲ致シタイト存ジテ居リマス

○小林嘉平治君　只今大藏大臣ノ御答辯ヲ承リマシテ、所謂財源ヲ持ッテ居ラレル大藏大臣カラ、只今ノヤウナ御答辯ヲ得マシタコトハ、非常ニ私ハ滿足ヲ致シマス、先刻書記官ガチョットコチラヘ見エマシテ、批評ヲ仰ギタイト云フコトヲ私ガ申シタノハ、答辯ヲ願ヒタイ、斯ウ云フコトデアッタノデアリマス、此ノ點訂正ヲ致シテ置キマス、尙總理大臣及農林大臣ノ御答辯ハ、私ハ信賴シマシテ、近ク提案サレル所ノ追加豫算ヲ樂シンデ待ツコトニ致シタイト思ヒマス、先例ガ餘リナイサウデアリマシテ、私ハ御是ハ單ニ私バカリデナイ、此ノ點ニ思ヲ致シテ居ル者ハ大イナル期待ヲ致シテ居ルノデアリマスカラシテ、何分ニ宜シク御願ヲ致シマス

○議長（伯爵松平賴壽君）　山隈康君

（山隈康君演壇ニ登ル）

○山隈康君　內閣總理大臣及內務大臣ニ御伺ヲ致シタイト存ジマス、地方自治制度ガ國家ノ根幹デアリ、又其ノ基礎ヲ爲スベキモノデアルト云フコトハ今更事新シク述ベル迄モナイコトデアルト存ズルノデアリマス、自治制ガ布カレマシタ以來、產業、教育、衞生社會、其ノ他國民ノ生活ニ必要ナル施設ニ對シマシテ、各地到ル所充實普及シ、之ガ爲ニ國運ノ進展興隆ニ寄與シタルコトノ大ナルコトハ明カナ事實デアリマス、現ニ明治二十四年度ニ於ケル地方ノ歲出總計ハ四千三百八十八萬一千圓ニ過ギナカッタノデアリマスルガ、昭和十二年度ノ地方歲出ノ總計ハ實ニ二十億七千八百九十萬五千二百九十二圓、丁度僅カナ年月ノ間ニ四十七倍ノ膨脹ヲ見テ居ルノデアリマス、是ハ如何ニ地方自治團體ノ活動ガ非常ニ旺盛デアッタカト云フコト、從ッテ此ノ旺盛ノ爲ニ我ガ國運ノ發展興隆ニ偉大ナル力ヲ與ヘタト云フコトハ、數字ニ依ッテ明白ニ證明ガ出來テ居ルト思フノデアリマス、東亞新秩序ノ建設ガ提唱サレマシテ、我ガ帝國ハ其ノ指導者トナリ、又中心トナルベキ大使命ヲ有シテ居リマスル上カラ致シマシテモ、國家ノ根幹デアル自治精神ノ振興ヲ圖リ、自治行政ノ刷新ヲ圖リマシテ、之ニ對應スル覺悟ヲ有スルコトハ、是亦議論ノ餘地ガナイト存ズルノデアリマス、殊ニ此ノ時代ノ進運ト社會生活ノ複雜化ニ伴ヒマシテ、現在ノ地方制度ノ上ニ於テ尠ナカラザル缺陷ヲ見出スニ至ッタノデアリマス、現在ノ制度ヲ此ノ儘ニ放任致シマスレバ、折角築キ上ゲマシタル自治ノ地盤ニ龜裂ヲ生ジ、延イテハ國家ノ基礎ニ緩ミヲ來シハシナイカト云フコトヲ惧ルルモノデアリマス、此ノ地方議會ノ議員ノ選擧自體ニ於キマシテモ、段々此ノ制度ノ不備ノ爲ニ、議員ノ素質ガ低下致シマシテ、議場ニ於ケル議論ハ徒ニ無責任或ハ空漠ナ議論ヲ鬪ハシ、此ノ爲ニ其ノ地域內ニ於ケル有力者、若シクハ德望、經驗學識アル者ハ、ソレ等ノ者ト伍スルコトヲ潔シトセヌ、此ノ爲ニ地方ノ自治團體ニ住ム相當識見ノアル人ハ、次第ニ自治ニ對スル關心ヲ失フ傾向ガ現ニアルノデアリマス、又現在ノ自治制度ノ上ニ於キマシテ、市町村長ガ縣務執行ノ上ニ付テ何等權限ガナイ、此ノ故ニ市町村長ガ自治制ノ圓滿ヲ期セムト致シマスレバ、執行機關タル此ノ執行機關ノ意思ニ迎合致シマシテ行クヨリ外ニハ、圓滿ニ自治制ヲ運行スル方法ハナイ、是等ノ缺陷ニ乘ジマシテ、色々ナ忌ハシキ策動ガ行ハレ、更ニ自治制ノ上ニ於テ、醜怪ナル事實ガ續出スルコトハ諸君ノ御承知ノ通リデアルト存ズルノデアリマス、恐ラク此ノ裏面ヲ遠慮ナク爬羅剔抉ヲ致シマシタナラバ、或ハ諸君ノ御承知以上ノ腐敗、色々ナ事實ガ現ル、コトト存ズルモノデアリマスル、此ノ故ニ地方制度ノ改正ニ關シマシテハ、數年前ヨリ屢〻絕叫サレマシテ、全國ノ町村長會議、全國ノ市長會議更ニ市會議長會議等ニ於キマシテ、屢〻此ノ改正ニ關スル決議ヲナシ、政府ニ對シテ其ノ實行ヲ迫ッタコトハ政府モ御承知ノコトト存ズルノデアリマス、政府ニ於カレマシテモ、此ノ現在ノ自治制ノ弊害ヲ御認メニ相成ッテ、旣ニ地方制度調査會ヲ設ケテ之ニ付議サレマシテ、調査會ハ數箇月ニ亙リ、愼重審議地方制度改正ノ綱要ヲ決定シテ答申ヲセラレタ次第デアリマス、此ノ地方制度ノ改正、町村制ノ改正、是ハ議會ノ初メ、其ノ後ニ於キマシテモ、內務當局ヨリ屢〻本議會ニ提出ヲスルト云フコトヲ御言明ニ相成ッテ居リマスル、殊ニ昨年十二月發行サレマシタル「地方行政」ト題スル雜誌ニ、內務事務官吉岡惠一君ガ自ラ自己ノ職名ヲ揭ゲテ、サウシテ此ノ今議會ニ町村制ノ改正案ヲ提出スル旨發表サレテ居ルノデアリマス、又先刻渡邊豫算委員長ヨリモ御話ニナッタ如ク、平沼內閣ハ近衞內閣ノ延長デアッテ、其ノ政策ヲ踏襲スル、普段ノ內閣ノ編成等トハ違ッテ居ルト云フコトヲ、屢〻御聲明ニモ相成ッテ居ルノデアリマス、此ノ故ニ私共ハ近衞內閣ノ革新政策中、最モ力ヲ入レラレタル地方自治殊ニ町村制ノ改正案ダケハ御提出ニ相成リマシテ、近衞內閣承繼ノ實ヲ示サレルモノト深ク期待ヲシテ居ッタノデアリマス、昨年東京ニ於ケル全國ノ町村長會議モ矢張リ私共ト其ノ感ヲ同ジク致シマシテ、此ノ改正案ガ當然當議會ニ提出サレルモノト云フ期待ノ下ニ、全部殆ド滿場一致ニ近キ決議ヲ以チマシテ、此ノ改正案ニ贊同スル意思ヲ表シ、更ニ提案ヲ待チマシテ其ノ通過ヲ圖ル爲ニ、適當ナ機會ニ再度ノ町村會ヲ開催スル豫定ニ相成ッテ居ッタノデアリマス、斯クノ如ク國民ノ全體ガ此ノ重要ナル改正案ノ提案ヲ期待シ翹望ヲシテ居ル際ニ、案外ニモ突如トシテ此ノ提案ヲ爲サナイト云フ旨ヲ御發表ニ相成リマシテ、私共ハ期待ガ裏切ラレテ殆ド啞然トシタノデアリマス、昨年四月十七日ノ自治制發布五十周年記念式ニ畏多クモ　天皇陛下ノ御親臨ヲ辱ク致シマシテ優渥ナル勅語ヲ賜リ、其ノ御言葉ノ中ニ「益々自治ノ根柢ニ培ヒ以テ國家無疆ノ休福ヲ增進セムコトヲ期セヨ」、此ノ有難キ御言葉ヲ拜シマシテ、私共ハ全力ヲ自治制ノ根柢ニ培ヒ、自治制度ノ改正ヲ行ヒ、サウシテ此ノ有難キ聖旨ニ應ヘ奉ラムト存ジテ居ッタノデアリマス、然ルニ折角政府ガ提案ヲスルト云フコトヲ御決定ニナッタモノヲ突如トシテ提出ヲシナイト云フ御聲明ニ對シマシテ、私共ハ實ニ痛恨措ク能ハザルモノガアリマス、政府ガ未提出ノ理由トシテ仰セラレル所ニ依リマスルト、法案中ニ若干ノ不備ノ點ヲ發見シタ、又町村制ノ改正案ハ市制、府縣制、是ト同時ニ提案スルノ必要ヲ認メタト云フ御聲明ニ相成ッテ居リマス、甚ダ言葉ガ穩當デナイカモ知レマセヌガ、率直ニ申述ベマスレバ、是ハ政府ガ世間ヲ裝フ御言葉デアッテ、眞ニ御提出ヲサレナカッタ理由ハ、別ニアルンヂヤナイカ、是亦不遠慮ニ申述ベマスレバ、或一部ノ反對、詳シクハ申述ベマセヌ、或一部ノ反對ノ氣勢ニ押サレテ、所謂相剋摩擦ヲ惧レタル爲ニ、政府ノ腰ガ碎ケラレテ、提出ヲ見合ハスルノ已ムナキニ至ッタト云フ疑ヲ國民ハ懷イテ居リマス、非常時局ニ際シマシテ、私共ハ首相ノ仰セノ如ク、總親和、總協力ノ趣旨ニ基キ、飽迄現政府ヲ支持シ、現政府ト協力一致致シマシテ、東亞新秩序建設ニ邁進セムト存ジテ居ッタノデアリマス、然ルニ折角出シタ重大ナル法案ヲ中途突如トシテ提案ヲシナイ其ノ態度ニ對シマシテハ、頗ル國民ハ不安ガアリマス、政府ノ方針、政府ノ力、政府ノ態度ニ對シテ非常ナル不安ガアリマス、ソレハ一面ニハ、豫テ平沼首相ノ御人格、手腕、平生ノ主張カラ致シマシテ、所信ニ邁進セラレル堅キ決意ヲ有シテ居ルト云フコトニ對シテ、私共ハ常ニ首相ヲ尊敬シテ居ッタノデアリマス、ソレニ非常ニ裏切ラレタ感ガアリマス、若シ政府ノ態度ニ疑ヲ懷キ、信任ヲ缺クガ如キコトガアリトセバ、此ノ非常時局ノ上ニ於キマシテ由々敷コトナリト存ズル者デアリマスル、此ノ改正案ハ、先刻來申述ベマスル如ク、地方制度調査會デ有力ナ方々ガ集ッテ、數箇月ニ亙リテ愼重審議ヲサレ、又政府殊ニ內務省デハ、自治制ニ對スル弊害、缺點ハ多年ノ經驗ニ依ッテ十二分ニ御承知ニ相成ッテ居ル筈デアリマス、又之ヲ矯正スル爲ニ、如何ナル態度ニ依ルベキカト云フコトモ普段研究シ盡サレテ居ルベキ筈デアリマス、ソレニ今ニナッテ俄カニ、出來上ッタ成案ニ不滿ノ點ガアリト云フ御釋明、更ニ當初ハ府縣制度及市制ハ次ノ議會ニ提出ヲスル、併シナガラ町村制ノ改正案ハ本議會ニ提出ヲスルト云フ肚ヲ極メ、他ニ之ヲ表明シ、之ニ關スル一切ノ準備モ整ヘテ居リナガラ、今ニナッテ府縣制若シクハ市制ト同時デナケレバイケナイ、此ノ釋明ニ對シテハ何トモ國民ハ諒解ガ出來マセヌ、サウ云フ簡單ナ理由デ、折角決心ヲサレタ改正案ノ提出ヲ見合ハセラレタル理由トシテハ、何トシテモ受取リニクイ、デ私ハ此ノ際、政府ハ成案ヲ得タル改正案中ドノ點ニ付テドウ云フ缺點ヲ發見シタ、故ニ更ニ再考ヲ要スルモノデアル、又當初ハ府縣制、市制ト離シテ單獨ニ町村制ヲ提案ヲスル覺悟デアッタガ、是非是ガ府縣制若シクハ市制ト同時デナケレバイケナイト云フ理由ヲ御見出シニナッタナラバ、其ノ理由、之ヲ明白ニ率直ニ御說明ニ相成リマシテ、國民ノ疑ヲ解クト云フコトハ政府ノ當然ノ責務ダト思フノデアリマス、私共ハ旣ニ政府ガ改正案ノ提案ヲ御見合セニ相成リマシタル現時ニ於テ、尙會期切迫ノ今日ニ於テ、町村制改正案ノ提出ヲ迫ル者デハアリマセヌ、併シ此處デ政府ノ言明ヲ得タイト思ヒマスルコトハ、地方制度調査會デ決定セラレタル綱領、是ハ一旦政府ノ方デハ其ノ綱領ヲ御採入レニナッテ居ルヤウデアリマス、デ此ノ綱領ニ基キ、百難ヲ排シ敢然トシテ所信ニ邁進セラルベキ御決意ガアルカドウカ、他ノ色々ナ反對障碍、其ノ爲ニヘコタレルヤウナコトガナイカ、ドウカ、更ニ其ノ決心ヲ以テ次ノ議會ニ府縣制、市制ト共ニ町村制ノ改正案ヲ御提出ニナル御決意ガアルカト云フコトヲ明白ニ承リタイト存ジマス、次ニ御伺ヒシタイコトハ國家ノ事業、之ヲ地方ニ御經營ニ相成リマスル場合、ドウモ近來其ノ國家ノ施設經營ニ關シ設備費ノ幾分ヲ寄附セヨ、敷地ヲ提供セヨ、斯ウ云フヤウナコトガ段々多クナッテ居リマス、國家直接ノ事業ノ施設ガ中央タルト地方タルトヲ問ハズ、苟モ國營事業デアル以上ハ總テ國費ヲ以テ支辨セラレルト云フコトガ、是ハモウ無論當然ノ事デアルト存ズルノデアリマス、政府ハ是等ノ事業ヲ計畫セラレマスル場合ニハ、其ノ建設設備費及敷地、經營ノ費用、之ニ關スル一切ノ經費ヲ御計上ニナルコトハ勿論ノコトデアリマス、經費ノ出所モ考ヘズ、事業ノ施設ヲナサルベキコトハアリ得ナイコトト存ズルノデアリマス、近來私ハ殊ニ甚ダシク感ジマスルコトハ、國家ノ經營ニ關スル學校卽チ大學、工業學校、斯ウ云フモノノ施設ニ對シマシテモ、矢張リ土地ノ提供ヲセヨトカ、或ハ建設費ノ若干ヲ寄附セヨト云フヤウナコトヲ示唆セラレルバカリデナク、明カニ要求セラレルコトガアリマス、是ハ若シ政府ノ方デ實例ヲ示セト云フ御言葉ガアッタナラバ、私ノ直接ニ關係致シマシタル實例ヲ四五申上ゲルコトハ差支アリマセヌ、併シ是ハ恐ラク政府モ御承知ノコトト存ジマスカラ、實例ヲ擧ゲマスコトダケハ差控ヘタイト存ジマス、是等ノ國家事業ノ施設ハ地方ニ取リマシテハ、地方ノ貫祿ヲ高メ、又地方ノ繁榮ヲ招來スルモノデアリマスカラ、地方民ハ極メテ熱意ヲ以テ其ノ事業ノ施設ヲ誘致シタイト云フ、熱意ニ溢レテ居リマス、從ッテ地方ノ公共團體ハ地方民ノ熱意ヲ體シマシテ、假令誘致ノ見込ナキモノデモ、大體誘致ノ見込ハ困難ダト云フ場合デモ、地方民ノ熱意ニ動カサレマシテ、運動員ヲ動員致シマシテ數回、數十回政府ニ對シテ陳情、御相談ヲスル、政府ノ當局デモ事務御繁多ノ際ニ、澤山ノ地方運動員ガ來テ、種々ノ陳情ヲ申上ゲルコトハ相當御迷惑ノコトト存ズルノデアリマス、唯地方ト致シマシテハ今申上ゲマスル如ク、若干ノ運動ノ費用ヲ投ジ、又物資ノ提供ヲ致シマシテモ、將來ノ其ノ土地ノ繁榮ヲ招來スルコトヲ考ヘマスレバ放ッテ置ケナイ、矢張リ是ハ誘致シテ目的ヲ達シ得ベキ場合ニ於テハ、運動モ已ムヲ得ナイ事柄デアルト思フノデアリマス、唯私共ガ非常ニ心配ヲスルノハ、國家ノ事業ハ國策ノ上カラシテ其ノ經營ニ關スル方法モ、亦設置ノ場所ノ計畫モ、當初ニ於テ決定サルベキモノデアル、

考ヘテ居ラヌ、高イトハ思ッテ居ナイ、又生產セラレル所ノ品物ガ負擔シ切ラナイ程ノ値段デハナイノニ、俄ニ之ヲ休止シタ、休止シタガ爲ニ値段ガ落チタ、其ノ落チタ原因ハ何處ニアルカ、茲ニ私ハ政府ニ注意ヲシテ貰ヒタイト思フ點ガ存スルノデアリマス、固ヨリ私ハ政府ノ意思ヲ忖度スルダケデアリマス、聞イテ居リマセヌケレドモ、ソレハ國內一般ノ物價政策ト云フモノヲ片方ニ持ッテ居ッタヲウト思ヒマス、又一方ニ於テハ此ノ生絲ヲ原料ニシテ輸出スル所ノ絹織物ノ輸出ト云フモノヲ減少サセヌヤウニショウト云フ肚ガアッタノデハナイカト思フノデアリマス、是ハサウ云フ見方カラサウ云フ政策ヲ執ラレルノモ其ノ主務官廳トシテハ或ハ已ムヲ得ヌコトデアルカモ知レマセヌガ、併シナガラ今日ノ如キ少シデモ輸出ヲ增進シテ正貨獲得ヲ努メナケレバナラヌト云フ此ノ時機ニ於テ、折角大イニ輸出ヲ盛ニシ、正貨獲得ノ出來ルヤウナ狀況ノ現レテ來テ居ルモノヲ、單ニ此ノ國內ニ於ケル一般物價ニ對スル政策ノミ、又僅カナルト言フト、語弊ガアリマスガ、生絲ノ輸出カラ較ベレバ、其ノ金額ハ誠ニ少イ絹織物ノ輸出ト云フヤウナ點カラノミ考ヘテ、此ノコトヲ處理セラレタト云フコトガ、私ハ非常ナ茲ニ斯ウ云フ我々ノ遺憾ナル現象ヲ現シタ原因デハナイカト考ヘルノデアリマス、蠶絲ニ關スル主管官廳ハ農林省デアリマス、而シテ其ノ蠶絲ヲ商品トシテ取扱フ所ノ淸算市場ハ商工省ノ主管デアリマス、而シテ商工省ヘ一般物價ニ關スル統制ヲショウト考ヘテ居ラレル、又其ノ生絲ヲ原料トシテ作ル所ノ絹織物ハ、是ハ商工省ガ主管サレテ居ル所デアリマス、ソコデ此ノ取引所ニ向ッタ所ノ處置ハ、商工省ガ自分ノ主管シテ居ル職務ニ忠實ナル餘リ、外ノコトヲ十分ニ考ヘル餘地ガアッタカナカッタカハ分リマセヌガ、ソレガ考ニ入ルヨリモ、自分ノ主管ノ方ガ非常ニ多カッタガ爲ニ、己ノ主管スルコトノミニ意ヲ取ラレタノデハナイカト云フヤウナ考ヲ私ハ起サシメルノデアリマス、殊ニ此ノ淸算市場ニ於テ生絲ガ斯クモ一旦騰ッタモノガ下リマシタト云フノニハ、賣物ガ多ク出タト云フコトモ一ツノ原因デアリマスルケレドモ、又政府ガ之ニ對シテハ物價ヲ騰貴サセルコトヲ止メヨウト云フ政策ヲ行ハレルノデアラウカ、生絲ニ對シテモ其ノ政策ヲ行フノデアラウカト云フ危惧ノ念ガ當業者ニ起ッタノデアリマス、ソレデ或ハ其ノ時ニ色々ナル風說ガ飛ビマシテ、政府ハ國內ニ於ケル生絲ノ消費ヲ是ハ制限スルダラウト云フヤウナコトモアリマシタ、輸出ヲ奬勵スルガ爲ニハ國內ノ消費ヲ制限スル必要ガアルト云フヤウナ見地カラ、多分サウ云フ擧ニ出ヅルノデハナイカト云フ說ガ飛出シタ、或ハ絹織物ノ値段ヲ制限スルデアラウト云フ說モ飛出シマシタ、現ニ生絲ノ消費ヲ制限スルト云フコトハ、是ハ少シ考ヘタラバ、政府ガサウ云フ政策ヲ執ラレルヤウナ氣遣ハアルマイト云フコトハ分ルノデアリマセウガ、併シ絹織物ノ價格ヲ制限スルト云フコトハ遂ニ是ハ實現ヲ見マシテ、政府ハ旣ニ之ヲ聲明サレテ居ルノデアリマス、卽チ一月十日ニ於ケル絹織物ノ値段ヲ以テ制限トシテ、ソレ以上ノ價格デ賣買スルコトヲ許サヌト云フヤウナ趣旨ヲ持ッテ居ラレルヤニ聞キマスガ、今ヤ此ノ絹織物ノ價格ノ制限額ハ物價委員會カ何カニ諮問サレテ居ルヤニ承リ及ビ居リマス、是ハ商工省ガ主管事務トシテサウ云フ處置ヲ執ラレルコトハ當然ト致シマシテモ、政府ハソレニ依ッテ何モ生絲ノ値段ヲ制限ショウト云フ積リヂヤナカッタ、併シ民間ノ方デハ其ノ眞意ガ分ラナイ、ソコデス、一月ノ十日ニ於ケル絹織物ノ價格カラ勞力賃等ヲ計算シマシテ、原料トナル生絲ノ値段ヲ計算致シマスルト、九百五十圓カラ千圓ノ相場ニナルヤウナ程度デアルサウデアリマス、然ルニ當業者ハサウ云フ當然ナ所ニ解釋ヲ取ラナカッタ、或者ガ……サウシテ政府ハ一月ノ十日ノ絹織物ノ價格ヲ取ッテ標準トセラレルト云フコトダカラ、生絲ノ相場モ一月ノ十日ノ生絲相場ヲ標準トセラレルノデアラウト云フ風ニ諒解ヲシタ者ガ多ク起ッタノデアリマス、ソコデ是デハ堪ラヌト云フノデ賣リニ出タ者ガ多少アッタト云フコトヲ私ハ聞キ及ビマシタ、斯樣ニ此ノ取引所ニ於ケル取引ニハ、實ニ皆ノ神經ガ非常ニ鋭敏ニ働イテ居リマスルカラシテ、政府ノ執ラレル處置ト云フモノガ實ニ敏感ニ此處ニ響クノデアリマス、而シテ此ノ生絲ハ固ヨリ取引所ハ商工省ノ主管ニ屬シテ居ルノデアリマスルケレドモ、而モ蠶絲ノ大體ト云フモノハ、桑カラ繭ニナリ生絲ニナル迄ノコトト云フモノハ、農林省ガ主管サレテ居ルノデアリマスルカラ、此ノ蠶絲ニ對スル政策ハ常ニ農林省ガ主體トナッテ考ヘラレナケレバナラヌヤウニ我我ハ思フノデアリマス、此ノ度ノ此ノ取引所休止ガ果シテ主管官廳ノ意思ヲ反映シタモノデアルカナイカト云フコトヲ、私ハ追究ハ致シマセヌケレドモ、確カニ主管官廳ノ意思ガ其處ニ或程度迄加ッテ居ッタト云フコトハ爭ハレヌ事實ノヤウニ考ヘラレマス、サレバサウ云フ意思ヲ傳ヘラレルニ付テハ蠶絲ノ主管官廳デアル所ノ農林省ト常ニ能ク一致シテ十分ナル熟議ヲ遂ゲテ、之ヲヤラレタカドウカト云フコトヲ私ハ尋ネタイト思フ位デアリマスルガ、左樣ナルコトヲ今私ハ此處デ追究ヲシテ見タ所デ、旣ニ起ッタ事實ハ如何トモスルコトガ出來ナイノデアリマスカラ、ソレ迄私ハ此處ニ政府當局ノ辯明ヲ得ヨウトハ希望致シマセヌ、ガ、今後ハ再ビ斯樣ナル過ヲ繰返サヌヤウニサセルト云フコトガ私ハ必要デアルト考ヘマスルノデ、ソレニ付テハ是非商工、農林兩省ガ一體トナッテ、眞ニ此ノ輸出品ニ付テノ處置ハ十分ニ愼重ナル態度ヲ以テ臨マレルヤウニセラレル必要ガアルト思フノデアリマスルシ、尙茲ニ生絲ニ對シテハ將來政府ハドウ云フ方針ヲ持ッテ行クノダ、サウ皆ガ惑ウテ居ルヤウナ生絲ノ消費ノ制限ヲスルトカ云フヤウナコトハシナイ、又絹織物ノ價格ノ制限ヲシテモ、ソレニ使用スル所ノ生絲ノ値段迄、ソレニ依ッテ、制限ヲスルモノデハナイト云フヤウナコトヲ、是ハ此ノ際國民ノ前ニ明カニシテ貰フト云フコトガ最モ必要デアルト考ヘルモノデアリマス、其ノ次ニ私ハ是ハ特ニ農林大臣ニ御尋ヲシタイノデアリマス、今日ノ蠶絲業ニ對スル對策ハ、平時ノ場合、卽チ言ヒ換ヘレバ、此ノ支那事變ガ起ル前ニ確立セラレタル所ノモノデアリマス、今ヤ事情ハ非常ニ變化シテ居ル、殊ニ輸出ヲ最モ盛ニシナケレバナラヌ時期ニ當面シテ居ルノデアリマス、是迄ノ政策ヲ何等カ變更セラレル必要ガアリト私ハ考ヘマスルガ、政府ハドウ考ヘラレルカト云フコトヲ承リタイト思フ、私ノ此ノ質問ヲ致ス趣旨ノ說明ノ爲ニ、一二ノ例ヲ申述ベテ見タイト思フノデアリマス、私ハ政府ニ對シテ政策ヲ新タニスル氣ガアルカナイカト云フコトヲ聽キマスルノハ、今輸出スル所ノ生絲ト內地デ消費スル所ノ生絲トハ、負擔ノ上ニ非常ナ不權衡ガアルノデアリマス、其ノ一二ノ例ヲ申上ゲマスト、曩ニ昭和四年頃ニ絲ガ非常ニ暴落ヲ致シマシタ、ソコデ絲價ヲ維持致シマス爲ニ、製絲業者ガ寄リマシテ共同保管ヲ致シマシタ、併シ到底製絲家ノ聯合デハ之ヲ背負ヒ切ルコトガ出來マセヌノデ、遂ニ政府ニ肩替リヲ願ッタノデアリマス、其ノ時ニ非常ナ損失ガ方々ニ起リマシテ、政府ハ定メラレタル三千萬圓ノ限度ニ損失ヲ負擔シ、民間ノ製絲業者ハ三千八百五十萬圓ト云フモノヲ負擔ヲ致シ、銀行ハ又其ノ金ノ利子ヲ犧牲ニシ、保管料ヲモ銀行ガ負擔ヲシタト云フノデアリマシテ、銀行及民間ノ負擔ハ殆ド一億圓位デアル、其ノ損失ヲ補塡致シマス爲ニ、只今輸出スル所ノ生絲ハ千人ニ付テ七十圓ヅヽ徵收サレマシテ、ソレデ此ノ損失ヲ補塡シツヽアルノデアリマス、是ハ絲價維持ノ爲ニ起ッタ損失デアリマスノデ、獨リ輸出スル生絲ノミガ負擔スルモノデハゴザイマセヌ、全國ノ製絲家ガ之ヲ負擔シナケレバナリマセヌノデ、ソレヲ徵收スル方法ガナイト云フノデ、輸出スル生絲ガ之ヲ拂ッテ居ルノデアリマス、ソレカラ又先般製絲業ヲ整理スル必要ガアルト云フノデ、釜數ノ整理ヲ致シマシタ、丁度八萬程ノ釜ノ整理ヲシテ買ヒ潰シタノデアリマス、其ノ費用ガ一千萬圓程掛リマシタ、其ノ費用ハ是ハ矢張リ日本ノ製絲家全體ノ爲ニ行ッタモノデアリマスノニ、其ノ一千萬圓ノ負擔ハ輸出スル生絲ノミガ之ヲ負擔シテ居ル、是ガ千人ニ付テ十三圓ヅヽ支拂ッテ居ルノデアリマス、ソレカラ又生絲ノ値段ノ變動ヲ防グト云フガ爲ニ、絲價安定施設組合ト云フモノガ法律ニ依ッテ出來テ居ル、此ノ絲價安定ノ組合ノ經費ハ是迄一般ニ製絲家ガ內地ノ需要ト外國ノ輸出ノモノトヲ問ハズ、同ジク恩典ニ浴スルニ拘ラズ、其ノ費用ヲ矢張リ此ノ輸出生絲ノミガ負擔シテ居ルノデアリマス、其ノ他輸出ニ付テハ强制シテ檢査ヲ受ケナケレバナリマセヌカラ、檢査ノ手數料ト云フモノヲ拂ヒマス、又其ノ檢査ノ手數料ヲ拂フコトガ、是ハ輸出生絲ノミガ受ケルノデアリマスカラ、是ハ致方ナイト致シマシテモ、其ノ檢査ノ結果カラ間接ニ受ケル所ノ損害ト云フモノモ少クナイノミナラズ、其ノ損害ト云フモノガ內地デ使フ所ノ生絲ト輸出スル所ノ生絲トノ間ニ權衡ヲ失シテ居ル所ガアルノデアリマスガ、是等ハ甚ダ微細ニ入リマシテ、左樣ナコトヲ說明スル必要モナイガ、兎ニ角斯ノ如ク輸出スル生絲ト內地デ消費スル生絲トノ間ニ不公平、不均衡ガアルノデアリマス、是モ平素ノ如ク輸出スル生絲ノ方ガ遙カニ內地ニ於テ消費セラレル生絲ヨリモ上値ヲ走ッテ居リマス時ハ、是ハ何モ問題ニナリマセヌ、易々ト負擔ヲ致シテ居ッタノデアリマス、然ルニ今日ノ如ク國內ノ事情ガ生絲ニ依存スルコトガ非常ニ多クナッテ來タト云フヤウナ場合ニハ、內地ノ需要ノ値段ト輸出スル所ノ生絲ノ値段ノ値幅ニ違ヒガナイヤウニナッテ來タ、斯ウ云フ違ヒガナイヤウニナッタ時期ニハ、是ハ何トカシテ內地ノ需要ト外國輸出トノ間ニ均衡ヲ保ツヤウニシテヤラナケレバ、自然最モ容易ク賣リ捌クコトノ出來ル內地需要ノ方ニ生絲ガ向フト云フコトハ當然ナ話デアリマス、ソコデ私ハ政府ハ此ノ問題ニ付テ、輸出生絲ト內地消費生絲トノ間ニ橫ハッテ居ル不均衡ヲ是正スル、訂正スル所ノ方策ヲ持ッテ居ラレルヤ否ヤ、是正スル必要ヲ認メラレルカドウカ、必要ヲ認メラレルナラバ、ソレニ對スル方策ヲ持ッテ居ラレルヤ否ヤ、若シ幸ニシテ其ノ方策ガ御アリニナルナラバ、ドウ云フ風ニスル積リデアルカト云フコトヲ說明シテ貰ヘバ、私ハ皆ガ非常ニ安心ヲスルデアラウト思フノデアリマス、此ノ二點ニ付テ私ハ政府ノ所信ヲ質シテ、一般ニ惑フ所ノナイヤウニ致シタイト考ヘマシテ、茲ニ此ノ質問ヲ提起スル所以デゴザイマス

（國務大臣八田嘉明君演壇ニ登ル）

○國務大臣（八田嘉明君）　只今有吉サンカラ御尋ノ點ニ付キマシテ、商工當局ト致シマシテ一通リ御答ヲ申上ゲタイト存ジマス、只今御話ノアリマシタル通リ、今日輸出ノ增進ガ急務デアリマスル際ニ、此ノ生絲卽チ我ガ國ノ國產、而シテ同時ニ輸出ノ大宗デアリマスル所ノ生絲ニ對シマシテハ最モ愼重ナル態度ヲ要スルコトハ、全ク御話ノ通リデアルト存ズルノデアリマス、國內需要ト國外ノ需要ニ付キマシテモ御話ガゴザリマシタガ、又其ノ點ニ付キマシテモ同感ニ考ヘテ居ルヤウナ次第デアリマス、デ、之ニ關聯致シマシテ只今取引所ノ休止ノコトニ對シテ御話ガゴザリマシタ、是ハ敢テ特ニ御質問ト云フコトデハナイヤウニモ考ヘマシタケレドモ、此ノ際申上ゲテ置ク方ガ宜シイカト存ジマシテ、極ク簡單ニ商工當局ノ關シテ居リマスル點ダケヲ申上ゲタイト存ズルノデアリマス、御承知ノ如ク、近時一般ノ商品ハ投機的ニ取引ヲ致スト云フコトハ大變鎭靜ニ歸シテ居ル次第デアリマスルケレドモ、特ニ或制限ノ加ッテ居リマセヌ所ノ品物ニ對シマシテハ、兎角動モスレバ思惑的取引ト云フモノモ起リツヽ、又起ラムトスル傾向ノアリマスルコトハ否ミ難イノデアリマス、生絲ニ對シマシテハ斯カル情勢ガアッタカドウカト云フコトハ、只今御話ノ中ニモアリマシタル通リ、見方ニ依ッテ或ハ異說ガアルカト存ズルノデアリマス、併シナガラ何レニ致シマシテモ思惑取引若シクハ思惑ニ依リマスル所ノ商品ノ賣買ト云フコトニ付キマシテハ、當局ニ於キマシテハ極力之ヲ事前ニ於テ、或ハ已ムヲ得ナイ時ニハ、法ノ力ニ依リマシテ之ヲ抑制スルト云フコトガ必要デアルト云フコトヲ現下痛切ニ感ジテ居ルノデアリマス、處デ此ノ取引所ニ關シマシテハ、商工當局ガ其ノ監督指導ノ立場ニアリマスル責任上、常ニ其ノ取引物品ノ徒ラナル奔騰ト申シマスカ、上下ヲ致シマスト云フコトニ付キマシテハ、成ルベク之ヲ差控ヘルヤウナ風ニ平生ニ於テ關係理事者トモ話シ合ッテ居ルト云フ事實ハアルノデアリマス、先頃神戶竝橫濱ノ取引所ニ於キマシテ、二日ノ日デゴザイマシタカ、一日ヲ休ンダト云フコトニ付キマシテハ、其ノ前日ニ於キマシテ一日ニ五十圓ノ暴騰ヲ致シタノデアリマス、此ノ五十圓一日ニ暴騰スルト云フコトハ、見方ニ依ッテハ當然他ノ方面ノ需要供給ノ關係カラサウナッタトモ見レマセウシ、或ハ又思惑的傾向ガ及シタモノトモ考ヘラレルノデアリマスルガ、其ノ點ハ只今申上ゲタ通リ、必ズシモドノ點ガ、ドウ云フ理由ガ最モ正鵠ヲ得テ居ルカト云フノハ各々觀察ニ依ッテ違フト存ジマスルノデ、御話ニモアリマシタル通リデアルト存ズルノデアリマス、併シナガラ其ノ時ノ情勢ガ動モスレバ更ニ爆發的暴騰ヲ續ケルヤニ考ヘラレタノデ、其ノ當事者ニ於キマシテ、平生話合ッテ居ルヤウナ關係カラ、自發的ニ一日ノ休止ヲサレマシテ、其ノ間ニ申合ヲサレ、詰リ取引所ニ於テ申合ヲサレテ、サウシテ之ヲ委託者ニ徹底サセルノ時間ト、サウシテ又整理等ノ都合ガアッテ、自發的ニ立會ヲ中止シタト云フ事實ガアルノデアリマス、之ニ付キマシテハ其ノ翌日又營業開始ヲシタノデアリマスガ、今日迄營業ヲ繼續致シテ居リマスルケレドモ、幸ニモソレニ依ッテ生絲ノ暴落ヲ見ズ、又非常ナ暴騰モ見ナイト云フヤウナノガ今日ノ事實デアルノデアリマス、卽チ千何十圓ト云フ所ニ只今其ノ價ガアルヤウニ承知致シテ居ルノデアリマス、併シナガラ只今御話ノ如ク徒ニ物品ノ價格ニ響クヤウナコトハ特ニ注意ヲ要スルコトデアルト考ヘマスルノデ、御注意ノ點ハ今後ニ於キマシテ特ニ愼重ナル注意ヲ致シタイト考ヘテ居リマスノデ、御了承ヲ願ヒタイト思フノデアリマス、要スルニ生絲ノ如キモ亂調子ヲ以テ上下スルト云フコトヲ非常ニ當業者ニ於テモ懼レテ居ルト云フコトハ事實ノヤウニ考ヘルノデアリマス、又之ニ關聯致シマシテ、絹織物竝其ノ製品ヲ……本月ノ四日デゴザイマシタカ、物品販賣取締規則ニ依リマシテ告示ヲ致シタノデアリマスガ、之ニ付キマシテモ實ハ絹織物ハ昨年ノ十二月頃カラ非常ナ暴騰ヲ續ケマシテ、先頃ニ至リマシテハ五割、六割ノ暴騰ヲ見ルト云

フヤウナコトニナリマシタノデ、他ノ纖維品ニ付キマシテハ總テ價格ガ抑制サレテ居リマスルモノデアリマスルカラ、此ノ純絹織物ニ向ッテノミ思惑ガ殺到致シテ參ッタコトハ疑ナイ事實デアルノデアリマス、併シ之ヲ下手ニ抑制ヲ致シマスルト、其ノ結果ハ縦令其ノ製品、其ノ原料ハ國內向ノ絹絲デハアリマスルケレドモ、併シナガラソレガ動モスレバ輸出等ノ關係ニ響キ、或ハ農業生産ト云フ見地カラシテ、是ガ惡影響ヲ來スト云フコトヲ惧レマシテ、其ノ暴騰ヲ見ナガラ恐ラク二三箇月手ヲ著ケナカッタノモ御承知ダト思ヒマス、併シナガラ新聞紙上等ニ於キマシテハ此ノ問題ハ盛ニ取扱ハレ、又各銀行關係ニ於キマシテモ思惑的資金ニ付テハ融通ヲ禁止スルト云フヤウナ申合モシテ居ッタコトヲ承知致スノデアリマス、斯樣ナ次第デアリマスノデ、出來ルダケ成ルベク手ヲ著ケナイノガ宜シイノデアリマシタガ、只今申上ゲタヤウナ非常ナル暴騰デアリマスノデ、他ノ自肅價格等ノ關係モアリ或ハ他ノ纖維品ハ悉ク之ヲ抑制シテ一ツノ價格ニ止メテ居リマスヤウナ關係上、之ヲ放置スルコトガ出來ナカッタ事情モ一ツ御諒察ヲ願ヒタイノデアリマス、併シナガラ此ノ結果、幸ニモ此ノ原料デアリマス生絲ニハ何等響カナカッタト云フコトハ、誠ニ幸ト存ジテ居リマスル次第デアリマスガ、併シナガラ御説ノ如ク十分ナル注意ヲ拂ヒマシテ、今後ニ於キマシテハ特ニ農林當局其ノ他トモ、更ニ將來ノコトニ付キマシテハ十分聯繋ヲ取リマシテ、徒ニ世間ニ於テ恐怖等ノ起ラナイヤウニ努メタイト存ズルノデアリマス、此ノ點ヲ私カラ御答ヘ申上ゲル次第デアリマス

(國務大臣櫻內幸雄君演壇ニ登ル)

○國務大臣(櫻內幸雄君) 只今有吉君カラ生絲ニ對スル所ノ私共ノ考ノ持チ方ニ付テ御尋ガアッタノデアリマス、此ノ問題ハ極メテ重要ナル問題デアリマスガ故ニ、大要私共ノ意見ヲ申上ゲテ置キタイト思ヒマス、生絲ガ最近ニ至リマシテ非常ナ騰貴ヲ致シタ、是ハ今御話ノ如ク現實ノ事實デアリマス、何ガ故ニ斯樣ナ騰貴ヲ致シタカ、是ハ御承知ノ如ク昨年繭ガ約一割三分程減産致シマシテ、約七千數百萬石ト云フ數字ニ減ッタノデアリマス、其ノ結果本年生絲ノ生産量ガ減ルト云フコトガ想像致サレマス、是ガ生絲ノ騰貴シタ一ツノ重要ナ原因ヲ成シテ居ルコトト思ヒマス、更ニ大ナル原因ヲ成シテ居リマスモノハ國內ニ於ケル所ノ生絲ノ需要デアリマス、棉花ノ入リマセヌ結果ハ、自ラ綿絲ニ關係シ綿絲布ニ關係ヲ致シマスノデ、自然ト綿布類ガ騰貴ヲ致シマス、殊ニ制限ガサレテ居ルノデアリマス、又人絹類モ原料タル「パルプ」資材ヲ輸入致シマス關係上、是モ統制ヲ致サレテ居リマス、獨リ生絲ガ自由ニ賣買ヲサレテ居リマスル結果、絹織物ニ對スル所ノ需要ト云フモノガ急激ニ增加致シタノデアリマス、殊ニ重工業ニ從事サレテ居ル所ノ從業員諸君其ノ他ノ方々デ、所謂現在ノ時局ニ沿ウテ相當ノ收入ガアル方々ハ自然ト絹布ヲ買フ情勢ニ相成リマシタ、是ハ織物工場ニ付テ調ベテ見マシテモ、又三越、白木屋等ノ「デパート」ニ付テ調ベテ見マシテモ相當ナル增加デアリマス、卽チ何レモ生絲ヲ要スルノデアリマスガ故ニ、自然ニ國內需要ト云フモノガ增加ヲ致シマシタ結果、玆ニ生絲ガ缺乏ヲ致スコトトナッタノデアリマス、此ノ生絲ガ値上リヲスル情勢デアリマスノデ、「アメリカ」ノ市場ニ於キマシテハ、今ニ下ルデアラウ、去年ノ情勢カラ見テモサウ騰貴ハシナイデアラウト云フ關係上カラ、仕入ヲ手控ヘテ居ッタ傾モアルノデアリマス、私共ノ方デ調査致シマスル所ニ依リマスルト「アメリカ」ニ於ケル所ノ、所謂靴下業者ノ手持ノ在庫品ト云フモノハ、非常ニ激減ヲ致シテ居リマス、是等ノ事情ガ綜合サレテ、今日ノ生絲ノ騰貴ヲ見タモノト斯樣ニ解釋致シテ居リマス、而シテ政策ト致シマシテハ、今日位ノ相場ヲ維持スルコトハ、農村ノ繭ノ增産ヲ圖ル上ニ於テモ私ハ必要ダト思ッテ居リマス、又幸ニシテ輸出ガ出來マスルナラバ、八百圓デ一俵ヲ賣ルヨリモ、千圓デ賣ッタ方ガ國際貸借ノ上ニ利益ガアリマス、故ニ此ノ點ニ付キマシテハ「アメリカ」ノ市場ニ於テ、ドノ程度迄日本ノ生絲ヲ買ヘレバ引合フデアラウカト云フコトニ付テ、深キ研究ヲ致サナケレバナラヌト思ヒマシテ、私就任以來百方調査ヲ致シタノデアリマス、其ノ結果ハ、何レノ輸出商モ、亦「アメリカ」ニ市場ヲ持ッテ居ラレル方々モ、九割五分迄ハ、千圓程度若シクハ千百圓程度迄ハ買ッテ來ルダラウト云フ風ナ解釋ヲオ持チデアリマス、ソレハ何故ニサウ云フ解釋ガ下ッテ來ルカ、「アメリカ」ノ市場ハ決シテ活潑デハナイ、然ルニ斯樣ナ事情ガ、何處ニサウ云フ風ニ起ッテ來ルノデアルカト云フ御意見モアリマスルガ、只今有吉君ノ御話ノ如ク、從來我ガ國ニ輸出致シマシタ所ノ生絲ノ六割、七割ト云フモノハ、織物ニナッテ「アメリカ」ノ婦人等ガ使ッテ居リマシタガ、數年此ノ方ハソレガ非常ナル變化ヲ致シマシテ、靴下ニ大分使フヤウニナリマシタ、年々ニ靴下ニ使用スルモノガ殖エテ織物ニスルモノガ非常ニ減ッテ、今日デハ七割何分ト云フモノハ靴下ニ使ッテ居リマス、二割幾分ト云フモノガ僅カニ織物トシテ殘ッテ居ル譯デアリマス、此ノ靴下ニ對シマシテハ「アメリカ」ノ婦人ハ全ク日本品ノ「ファン」デアリマシテ、日本品ニアラザレバ靴下ヲ使ハナイト云フ位ノ流行ニナッテ居リマス、肌觸リノ點ニ於キマシテモ、持チノ點ニ於キマシテモ、有ラユル點ニ於テ日本ノ生絲ガ優秀デアルト云フコトニナリマシテ、最早世界何レノ國モ日本ノ生絲ニ敵スルモノハナイノデアリマス、殊ニ況ヤ一足ノ價格ガ八十「セント」內外デアリマスノニ、之ニ要スル所ノ生絲ハ僅カニ十何「セント」デアリマス、卽チ極メテ生絲ガ小部分デアリマス、從ヒマシテ不幸ナル日米間ノ感情ノ疎隔ノ來リマシタ際ニモ、日本品排斥ガ起リマシタ場合ニモ、卽チ此ノ生絲ノ輸入ニ依ッテ、「アメリカ」ノ非常ニ多數ノ人ガ生活ヲ致シテ居リマスガ故ニ、此ノ生絲ニ對シテダケハ排貨ガ起ラナカッタ、斯樣ナ關係ニナッテ居リマス、故ニ最近非常ニ暴騰致シマシタケレドモ、「ニューヨーク」ノ電報ヲ見マスルト一「ダース」ニ付テ僅カニ二十五「セント」上ッタダケデアリマス、靴下ノ値段卽チ一足ニ對シマシテ二「セント」ホカ上ッテ居リマセヌ、故ニ此ノ二「セント」或ハ三「セント」位ノモノハ値上リヲシテ居ルガ、「アメリカ」カラシテ生絲ハ買フデアラウ、斯ウ云フ解釋デアリマス、故ニ價格ト致シマシテハ、現在ノ價格ヲ下ゲナケレバ「アメリカ」ニ賣レヌト云フ事柄ハナイト思ヒマス、唯賣ル品物ガ果シテ確保出來ルカ否カト云フコトヲ私ハ心配致シテ居リマス、從來七十萬俵出來マス中デ、四十七萬俵乃至四十五萬俵ガ輸出デアッテ、二十三萬乃至二十五萬ガ國內需要デアリマシタノガ、此ノ國內需要ガ急激ナ增加ヲシテ三十萬ガ三十五萬トナリ四十萬トナッタ場合ニ於テ、輸出スル生絲ガ確保サレルカト云フト、是ハ非常ニ心配ナ事柄デアルノデアリマス、固ヨリ輸出ハ十四中ト申シマシテ極メテ高級品デアリマス、國內デ使ッテ居リマスモノハ二十一中ト云フノガ大部分デアリマシテ、稍劣ッテ居ル品物デアリマス、併シナガラ順次此ノ高級品ヲ使フ風習ガ起ッテ來ツヽアルノデアリマスガ故ニ、此ノ品物ヲ確保スルト云フ事柄ハ非常ニ大事ナコトデアリマス、故ニ政府ハ此ノ點ニ付キマシテ深ク考慮ヲ拂ッテ、此ノ輸

出生絲ト云フモノノ確保ニ對シテ實ハ全力ヲ盡シテ居リマス、併シナガラ政府ガ若シ輸出品ヲ、必ズ輸出スベキ品物ヲ、此處ニ斯ウ云フ風ナ方法ニ依ッテ、確保スルノダト云フコトガ、若シ是ガ外國ノ見ル所トナリマスレバ、ソレハ是ハ安クテモ賣ルデアラウト云フノデ、又相場ノ崩レル處ガアルノデアリマス、政府ト致シマシテハ適當ニ之ヲ調節シナケレバナラヌト、考ヘテ居リマス、併シナガラ一面カラ申セバ、生絲ノ値段ガ上レバ上ル程宜イデハナイカ、千圓ノモノガ千二百圓ニナリ千三百圓ニナル、サウスレバ、四十七萬俵ノモノガ約四十萬ニ減ッテモ、三十五萬ニ減ッテモ、三十五萬ニ減ッテ千二百圓ナラバ、卽チ四億二千萬圓入ルデハナイカ、昨年ノ三億六千萬圓ヨリズット宜イデハナイカ、斯樣ナ議論モ議論トシテ受取レルノデアリマスケレドモ、併シナガラ我々此ノ監督ノ地位ニ在ル者ト致シマシテハ、是ガ餘リニ騰貴致シタ場合ニハ、ドウ云フ影響ヲ及スカ、一面ニ於テハ國內ノ物價ヲ刺戟シテ、總テノ物價ヲ上ゲル傾向ヲ起シハシナイカ、是モ恐ルベキコトデアリマス、是ハ容易ナラザル問題デアリマス、又一面ニハ日本ノ品物ガ高クナッタ結果、「アメリカ」ノ市場ニ於ケル所ノ日本品ノ愛好者ガ他ニ奪ハレル虞ハナイカ、卽チ是ガ代用品ノ方面ニ奪ハレ、或ハ「イタリー」品ニ之ヲ蠶食サレル、斯樣ナル事柄ガアッテハナラヌト又考ヘルノデアリマス、卽チ適當ナル價格ニ於テ「アメリカ」ノ要求スルダケノ品物ヲ供給致シタイト云フコトガ我々ノ考ヘテ居ル所デアリマシテ、其ノ正當ナル價格ガドノ程度デアルカ、又確保スベキ所ノ生絲ノ數量ガドレダケ必要デアルカ、之ヲ確保スルノニハ如何ナル方法ニ依ッテヤルカト云フコトダケハ、今日只今此ノ席デ私ハ言明スルコトガ出來ナイノデアリマス、唯此ノ點ニ付キマシテハ深ク注意致シテ居ルト云フコトダケニ付テ御諒承ヲ願ヒタイト思ヒマス、商工省ニ於テ先般告示セラレタ品物ヲ、卽チ暴騰シタル絹絲布、絹織布ヲ相當ノ値段ニ調節シタ、是ハ申ス迄モナク低物價政策ニ卽應スルト云フ事柄ト、餘リニソレガ生絲其ノ他ニ較ベテ多ク騰貴シテ居ッタト云フ關係上カラ、是ハ統制サレタモノト考ヘマス、併シ今後ニ於キマシテドウ云フ風ナ絹織物ニ對シテノ政策ヲ執ルカト云フコトニ付テハ、ソレハ我々常ニ商工當局ト密接ナル關係ヲ取ッテ十分協議ヲ致シテ決メタイト考ヘテ居リマス、最後ニ生絲政策ヲ變換スルノ考ハナイカ、斯樣ナ御質疑デアリマス、卽チ輸出生絲ニ對シマシテハ、今日從來ノ損害ノ補償ヤラ或ハ其ノ他ノ關係ニ於テ或「ハンディキャップ」ガ附イテ居リマス、之ヲ一掃シテシマッテ、輸出生絲ノ便利ヲ圖ルノ意思ガナイカ、生絲輸出ニ對シテ奬勵スルノ意思ガナイカト云フ風ナ御意見ノヤウデアリマシタガ、此ノ點ニ付テモ研究ヲ致シテ居リマス、之ニ對シテ今ドウ云フ方策ヲ以テ之ニ對スルカト云フコトハ申上ゲニクイノデアリマスケレドモ、併シ現在ノ國內ノ需要ト云フモノハ、單ニ其ノ位ナ開キノモノデハナイノデアリマス、國內ノ需要ハ恐ラク國外ニ出ル値段ヨリハ更ニ百圓、百五十圓ト云フヤウナ差額ガ起リツヽアルデハナイカト思ヒマス、元來申セバ、輸出品ガ千圓デアルナラバ國內品ハ九百二三十圓デアッテ宜シイノデアリマスケレドモ、此ノ相場ガサウ云フ風ナ懸隔ヲ持ツカ持タヌカト云フコトハ、餘程ノ疑問ガアルコトデアリマス、從ヒマシテ輸出生絲ニ對スル政策ト、又國內需要ニ對スル所ノ生絲ノ奬勵デアルトカ、生絲ノ生産デアルトカ或ハ織リ方デアルトカ云フコトニ付キマシテハ、自ラ變ヘテ行クト云フコトニ付キマシテハ、是ハ考究スベキ必要ガアルト斯樣ニ考ヘテ居リマス、サウ云フ點ニ付キマシテハ十分商工、農林兩省ノ間ニ於テ密接ナ連絡ヲ取リマシテ、萬遺算ナキヲ期シタイト斯業ニ心得テ居リマスノデ、一應玆ニ御答辯ヲ申上ゲマス

○有吉忠一君 簡單ニ致シマスカラ、此處カラ御許ヲ願ヒマス

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 宜シウゴザイマス

○有吉忠一君 只今私ノ質問ニ對シテ商工大臣ハ、今後大イニ其ノ取扱ニ付テ注意シヨウ、又愼重ニ取扱フコトヲ心掛ケル積リデアルト云フコトヲ明言サレマシテ、私ハソレニ滿足致シマス、尙櫻內農林大臣ノ述ベラレマシタルコトハ、私ガ先ニ述ベタ所ト殆ド同一デアリマシテ、私ハ其ノ所感ヲ農林大臣ガ同ジウシテ居ラレルコトニ付テ是モ滿足ヲ致シマス、唯輸出生絲ト內地消費ノ生絲トノ間今日執ッテ居ル所ノ政策ヲ變更スル所ノ意思ガアルカナイカト云フコトヲ御尋ネシタニ對シテハ、私ハ必ズシモ輸出生絲ニ對シテハ何等カノ補助ヲヤレト云フヤウナ、サウ云フ特別ナル待遇ヲ與フルカドウカト云フヤウナコトヲ御尋ネシタ積リハゴザイマセヌ、唯不均衡ナル負擔ヲシテ居ルノデアリマスカラ、其ノ不均衡ヲ訂正スルト云フコトガ、特ニ輸出ヲ奬勵シナケレバナラヌ時期ニ際會シテ居ルノデアルカラ、サウ云フコトデ尙均衡ヲ得ルヤウニスルト云フコトガ必要デハナイカト云フコトヲ申上ゲタノデアリマス、今農林大臣ハ內地ノ需要ガ非常ニ盛デアルガ故ニ、內地ノ生絲ノ價格ハ輸出ノ價格ヨリモ餘程上走ッテ居ル、サレバソレ位ノコトヲ訂正シテモ果シテ輸出ニ生絲ガ向キ得ルカ否カト云フコトハ疑問デアルト云フヤウナ御答デアッタヤウニ諒解ヲ致シマシタ、併シ若シ斯樣ニ內地ニ於ケル生絲ノ値段ガ、輸出スル生絲ヨリモ遙カニ上走ルト云フヤウナコトデアッタトシマスルナラバ、幾ラ輸出ヲ奬勵ショウトシテモ、ナカ〱其ノ奬勵ハ效果ヲ擧ゲル見込ガ薄イト申サネバナラヌノデアリマス、是ハ實ニ重大ナル問題デアルト考ヘマス、私ハドウカ內地ノ消費ニ向フ所ノ生絲ノ値段ガ、輸出セラレル生絲ヨリモ遙カニ上走ルト云フヤウナコトノ起ラヌヤウニ十分ナル注意ヲ農林大臣ニ於テ執ラレムコトヲ切望シテ已マヌノデアリマス

(議長伯爵松平賴壽君議長席ニ復ス)

尙又今日ハ生産增殖ガ最モ大事デアリマス、只今農林大臣ガ述ベラレマシタル如ク、農家ハ此ノ際織物ノ原料トナルベキ色々ナル物ガ不自由ヲ感ジテ居リマスル際ニハ、成ルベク斯ウ云フ國內ノ消費ニ當テ得ルダケノ品物ヲ造リ得ラレルヤウニシテヤルト云フコトガ最モ大事デアリ、又ソレガ一般公衆ニ便宜ヲ與ヘルバカリデナク、農家ノ經濟ヲ助ケルコトニモナリマス、サレバ此ノ增産ヲ妨害スルヤウナル政策ハ成ルベク執ラヌヤウニシテ貰ヒタイト云フコトヲ私ハ希望致シマス、今日ハ時間モ延ビテ參リマシタカラ私ノ質問ハ是デ打切リマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 小林嘉平治君

○小林嘉平治君 時間ガ切迫致シテ居リマスノデ、私モ簡單ニ此ノ席カラ質問ヲ御許シ願ヒマス、私ハ只今ノ內務大臣ノ御答辯ニ對シテ確メテ置キタイコトガアルノデゴザイマス、內務大臣ノ御答辯ニ依リマスト、此ノ際市制ノ改正ハ、又府縣制トモ睨ミ合ハシテ研究センナラヌカラシテ、此ノ際提案ヲ見合セタノデアル、斯ウ云フ御答デアリマシタ、此ノ市制ノ改正ト云フコトハ單ナル市制ノ改正デナイノデ、大キナ問題ガ其ノ中ニ隱レテ居ルノデアリマス、何カト云フト、アノ都制案デアリマス、是ト切離シテ市制ノ改正ト云フコトハ私ハ出來ナイト思フ、都制案ヲ改正スルト云フコトニナラネバ市制案ヲ改正スルコトハ出來ナイ、ソレデナケレバ町村制モ延イテ改正ガ出來

ナイト云フコトニナリマシタナラバ、我々ノ期待ニ反スルコトハ非常ニ大キイノデアリマス、政府ニ於カレテハ、衆議院ニ多少ノ反對ガアルト云フヤウナコトヲ御認メニナッテ居ルヤウデアリマスルガ、私ノ知ル範圍ニ於テハ、如何ニモ最初サウ云フ聲ガ一部ニアリマシタガ、相當有力ナ人デ內相ノ詳シイ說明ヲ聽イテ見タガ、アレナラバ結構デアル、多少ノ修正ハシナケレバナラヌガ、ナゼ出サヌノデアラウカト云フコトヲ現ニ私ニ告ゲテ居ル人ガアルノデアリマス、又御見合セニナッテカラ、此ノ都下ノ大新聞ガドウ云フ論調ヲ取ッテ居ルカト云フコトヲ能ク御考ヘ下スッテ、サウシテ都制案ノヤウナ大キナ問題ノ潛ンデ居ル此ノ市制案トハ切離シテ、サウシテ此ノ町村制ノ改正ニ一日モ早ク御掛リ下サルヤウニ切ニ望ンデ置キマス

〔國務大臣侯爵木戶幸一君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(侯爵木戶幸一君)　小林サンノ御尋ニ御答ヘ致シマス、此ノ町村制ノ改正ニ付キマシテハ、先般內閣ニ於テ其ノ提案ヲ見合セタコトニ付キマシテノ聲明ヲ致シタノデアリマス、其ノ中ニハ要スルニ市制、自治制度ノ改正ハ、市制、町村制及府縣制ニ亙ッテ考究スルヲ要スルヲ以テ、政府ハ更ニ自治制度全般ニ關スル方針ヲ決定シタル上、法案ノ提出ヲナスコトニシ、今回ノ町村制ノミノ改正案ハ見合ス、斯ウ云フコトニ決メテ居ルノデアマリス、從ヒマシテ只今御話ノヤウニ、市制ニ關聯致シマシテ都制案ノ方モ研究致ス筋合ニナッテ居リマス、唯問題ハ要スルニ是等ノ方針ガ一應決定致シマスレバ、必ズシモ全部ノ法案ヲ揃ヘナケレバナラヌト云フ建前ニハナッテ居ラヌノデアリマス、町村制、市制其ノ他總テノ方針ヲ決定致シマシタ上デ成ルベク速カニ此ノ問題ヲ解決シタイト考ヘテ居ル次第デアリマス

○小林嘉平治君　只今ノ御答辯ニ依ッテ私ハ全ク誤解デアッタコトヲハッキリ申上ゲテ置キマス、私ノ了解スル所ニ依レバ市制モ睨ミ合シテ研究ハスルガ、併シ其ノ意味ハ市制ト切離シテ町村制ヲ提案スルノデアルト云フ斯ウ云フコトニ了解致シマシタ、滿足致シマス、ドウゾ宜シク御願ヒ致シマス

○議長(伯爵松平賴壽君)　是ニテ質疑通告者ハ全部濟ミマシタ、是ヨリ討論ニ移リマス、通告順ニ依リマシテ發言ヲ御許ヲ致シマス、長岡隆一郎君

〔長岡隆一郎君演壇ニ登ル〕

○長岡隆一郎君　本員ハ只今議題ト相成ッテ居リマスル昭和十四年度歲入歲出總豫算案竝昭和十四年度各特別會計歲入歲出豫算案及豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件、右諸案ニ對シテ贊成ノ意ヲ表スル者デアリマス、但シ之ヲ贊成スルト共ニ本員ノ希望ノ二三ヲ述ベマシテ、贊成ノ理由ヲ明カニ致シタイト存ズルノデアリマス、固ヨリ是ハ本員一人ノ意見ニ止リマシテ、本員ノ所屬スル會派ノ意見ヲ代表スルモノデハゴザイマセヌ、第一ハ政府部內ノ統一、融和ト云フコトデアリマス、事變以來政府ハ屢々國民ニ對シテ國民精神ノ融和ト云フコトニ付キ御論シヲ示サレ、又國內ノ相剋摩擦ヲ戒メテ居ラレマス、併シナガラ國民ハ政府ノ御論シヲ待ツ迄モナク互ニ相戒メ、其ノ精神ヲ緊張致シテ居リマス、大都會ニ於ケル狀況ヲ見マスト如何ニモ苦々シイ幾多ノ現象ニ接シマスルケレドモ、斯カル悲シムベキ例外ハ比較的少數デアリマシテ、國民ノ大部分ハ相一致シ、又精神ヲ緊張致シ、銃後ノ護リヲ固ク致シテ居リマス、殊ニ地方農村ニ參リマスト、男モ女モ老イタル者モ幼キ者モ富メル者モ貧シキ者モ、各々其ノ分ニ應ジテ涙グマシキ程努力致シ、擧國一致ノ實ヲ擧ゲテ居リマス、帝國議會ニ於キマシテモ事變勃發以來、政府ノ事變遂行ニ關スル政策ト方針トハ極力之ヲ支持致シテ居リマス、固ヨリ議員ノ本分ト致シマシテ、或ハ立入リタル質問、討論ヲ致シタコトハゴザイマセウ、併シナガラ結果ニ於テ見マスルナラバ、政府ノ提案サレタ事變遂行ニ關スル豫算案、法律案ニ對シテハ全部協贊ヲ與ヘテ居リマス、政府ガ現地不擴大主義ト言ハレヽバ國民ハ之ニ從ッテ居リマス、政府ガ蔣介石ヲ相手ニセズト言ハレヽバ國民モ亦之ニ從ッテ居リマス、政府ガ帝國不動ノ方針ト決意トヲ宣言致サレヽバ國民ハ又默々トシテ之ニ從ッテ居リマス、國民ハ此ノ未曾有ノ大事變ニ際シ只管政變ノ起ルコトヲ憂ヘ、政府當局ガ長ク其ノ職ニ御留リニナリマシテ、誠心ヲ披瀝シ、全力ヲ擧ゲテ時局ノ拾收ニ當ラレムコトヲ希望致シテ居ルノデアリマス、然ルニ過去ニ於キマスル內閣ニ於ケル實情ハ如何デアリマセウカ、國民精神ノ統一融和ヲ說カレル政府部內ニ於テ、果シテ相剋摩擦ガナカッタデゴザイマセウカ、申ス迄モナク人其ノ面ヲ異ニスル每ニ各々其ノ心ヲ異ニス、政府ヲ構成スル各省官吏ノ間ニ意見ノ相違アルコトハ、是ハ已ムヲ得ザルコトデアリマス、又斯カル事實ハ如何ナル時代ニ於テモ見ラレタ現象デゴザイマス、併シナガラ斯カル場合ニ於キマシテハ、其ノ異レル各省ノ意見ヲ檢討致シ、十分調査研究ヲ重ネラレタ後ニ、內閣總理大臣ニ於テ最後ノ決定斷案ヲ與ヘラレタル上ニ、國策トシテ定メラレタル方針ヲ國民ノ前ニ提示發表セラレタモノデアリマス、然ルニ近來ニ於テハ然ラズ、新聞記者ガ第六感ヲ以テ「スクープ」シタル事實ナラバイザ知ラズ、各省官吏ガ口頭又ハ文書ヲ以テ新聞記者ニ獨自ノ意見ヲ發表致シ、內閣ノ方針未ダ定マラザルニ先チ、他省ノ方針ヲ論難攻擊致シテ居ル、斯クノ如キ事例ハ或ハ總動員法第十一條ノ問題起レル際ニ於テ、綜合「リンク」制ノ問題紛糾セル際ニ於テ、又最近ニ於テ生絲暴騰問題ニ對スル農林、商工兩省ノ對立ノ如キ、其ノ他屢々我々ノ見聞シタル事實デアリマシテ、我々國民ハ國策果シテ何レニアリヤ、其ノ歸趨ニ迷フノデゴザイマス、本員ハ關係各省ノ甲ノ意見ハ是ナリ、乙ノ意見ハ非ナリト云フガ如キ內容ノ批評ヲ致ス意思ハ毛頭ゴザイマセヌ、併シナガラ各省區々ノ意見ヲ發表セラルヽ結果、國民歸趨ニ迷フコト尙之ヲ忍ブベシ、又平時ニ於テハ各省時トシテ其ノ未定稿ヲ公ニ致シ、輿論ニ探リヲ入レルト云フコトモ是亦一策デゴザイマセウ、然レドモ現在ハ非常時デアリマス、交戰國竝ニ我ガ國ニ好意ヲ有セザル第三國ハ飛耳長目、虎視眈々トシテ日本ノ國情ヲ凝視シテ居ル時デアリマス、政府部內ノ意見ノ不統一ヲ發表セラルヽコトハ百害有ッテ一利無シ、平沼內閣總理大臣ハ宜シク前車ノ覆轍ニ鑑ミテ、將來ニ於テハ國民ノ相剋摩擦ヲ戒メラレル前ニ、政府部內ノ意見ノ相違ヲ內部ニ於テ統一セラレルヤウ希望スル次第デゴザイマス、第二ハ官吏、官僚ノ自肅自戒デアリマス、之ニ關シマシテハ從來屢々貴衆兩院ニ於テ論議セラレ、平沼內閣總理大臣ニ於カセラレマシテモ亦官僚獨善ノ非ナルコトヲ認メラレ、二月二十四日付內閣訓示號外ヲ以テ各官廳ニ對シ、濫リニ高ク自ラ標置シ獨リ自ラ大ナリトスルハ取ラザル所ナリト戒メラレテ居リマス、本員ハ平沼內閣總理大臣ガ民ノ聲ヲ聽クニ吝カナラザル御態度ニ對シ、敬意ヲ表スルモノデゴザイマスガ、久シク官界ニ浸潤シ、習性トナッテ居リマスル傲慢尊大ノ惡風ガ、一片ノ御訓示ニ依ッテ掌ヲ覆スガ如ク改マルモノトハ思ハレマセヌ、固ヨリ本員ハ事變以來各官廳ノ事務ノ激增セルコトハ知ッテ居リマス、又官吏諸君ガ御勉强ニ增ナッテ居ラレルコトモ能ク承知致シテ居リマス、又固ヨリ本員ハ官廳ニ於テ許可スベカラザル事項ヲ許可スベ

シト云フガ如キ、行政ノ內容ニ立入ッテ論議スル意思ハ勿論ゴザイマセヌ、併シナガラ許可スルニセヨ、許可セザルニセヨ、之ガ決定ハ成ルベク速カニ致シ、又國民ニ對スル態度ハ深切丁寧ヲ旨ト致サナケレバナリマセヌ、天ニ口無シ人ヲシテ之ヲ言ハシム、今ヤ官廳ニ於ケル行政處分ノ遲延ト、官吏ノ尊大傲慢ナル態度ニ對スル怨嗟ノ聲ハ巷ニ溢レテ居リマス、之ニ付テハ內閣總理大臣ノ御訓示モ誠ニ結構デゴザイマスルガ、官吏、官僚全員互ニ相戒メ、國民民衆ニ對シテハ一視同仁、深切丁寧ヲ旨ト致サルヽヤウ、嚴ニ自肅自戒セラルヽヤウ希望スル者デゴザイマス、第三ハ行政ノ行過ギデゴザイマス、此ノ問題モ各方面ニ於テ國民ノ苦シンデ居ル所デゴザイマス、本員ハ事變以來政府ノ御方針ニ付テハ何ノ異存ヲ申スモノデハゴザイマセヌ、併シナガラ親ノ心子知ラズト申シマスルカ、執行ノ任ニ當ッテ居ラルヽ下級官吏ガ、功名ヲ急グノ餘リ兎角行政ノ行過ギヲヤリタガル、例ヘバ綿絲布統制ノ實情ヲ見マスルト、政府最高幹部ノ御方針、卽チ惡質ナル法規違反ニ對シテハ嚴罰ヲ以テ之ニ臨ムト雖モ、手續ヲ知ラザリシ爲ニ犯シタル、形式上ノ違反ニ對シテハ、成ルベク說諭ニ止ムルト云フ此ノ御方針、是ハ誠ニ御尤ト存ジマス、然レドモ此ノ御方針ヲ遵守スベキ下級官吏ノ中ニハ、動モスレバ功名ヲ焦セルノ餘リ、檢擧件數ノ多キヲ競ヒ、國民ノ怨ヲ買ヒシ實例實ニ枚擧ニ遑アリマセヌ、又例ヘバ落綿問題ヲ初メト致シ、當局ノ御方針、朝令暮改致サレタ爲ニ善良ナル國民ガ犯意ナクシテ法律ニ觸レシ實例實ニ多イノデアリマス、又極メテ些細ナル例デアリマスルガ、怠惰ナル學生ニ對シ、親心ヲ以テ取締ヲナサレルト云フノハ誠ニ結構デゴザリマスルガ、或ハ往來ニ於テ學生ヲ毆打シ、或ハ十分ナル法令ノ根據ナクシテ長ク人身ノ自由ヲ拘束サルヽ如キハ、是亦行政ノ行過ギト存ジマス、斯カル事例ヲ擧ゲマスレバ幾ラデモゴザリマスルシ、又事柄ガ小問題デアルヤウニ御聽取ニナルカモ知レマセヌ、又私ハ政府當局ノ御趣旨ノアル所モ能ク了承シテ居ルノデアリマス、然レドモ上ノ定ムル所、時トシテ下ニ徹底セズ、國民ヲシテ怨嗟ノ聲ヲ放タシムルコトガ多イノデアリマス、勿論寬嚴宜シキヲ得ルト云フコトハ口ニ之ヲ言フコトハ容易デアリマスケレドモ、之ヲ實行スルコトハナカ〳〵困難デアリマスルケレドモ、所謂上意下達、下意上達ト云フコトニ付テハ、政府當局ニ於テ更ニ一段ノ御留意アラムコトヲ望ム次第デゴザイマス、第四ハ豫算經理ニ關スル問題デゴザイマス、近時ノ跛行景氣ハ其ノ進行益々急速度トナッテ參リマシテ、一方ニ於テ軍需工業ノ成金ガ美酒ニ醉フト同時ニ、他方ニ於テハ業ヲ失ヒ生活ニ苦シム者、街ニ充チ滿チテ居リマス、假令職ヲ失ハザルニセヨ、一定ノ收入ニ依リテ衣食スル所謂低額所得者ハ、物價ノ暴騰ト增稅トニ脅サレマシテ、事實ノ減俸ニ遭ウテ居ルノト同樣デゴザイマス、而モ彼等ハ戰線ニ於ケル將兵ノ勞苦ヲ思ヒ、何ノ不平モ唱ヘズシテ生活難ト鬪ッテ居ルノデアリマス、帝國議會モ亦事變勃發以來、政府ノ提出セラレル豫算案ニ對シテハ一錢ノ削減モ加ヘテハ居リマセヌ、政府ハ、此ノ國民ノ血ノ結晶トモ申スベキ財政ヲ經理スルニ當ラレマシテハ、一厘一毛モ之ヲ濫費シテハナリマセヌ、然ルニ政府ノ爲ス所、非常時ノ蔭ニ隱レテ國民ノ期待ヲ裏切ルコトナキヤ否ヤ、各省豫算ノ經理ニ付テ濫費、濫給、跡ナキヤ否ヤ、私ハ關係者ニ御迷惑ヲ及スコトヲ惧レマスガ故ニ、事件モ年月日モ今日ハ申上ゲマセヌガ、巷間傳フル所ニ依レバ、或情勢ノ變化ニ依リ莫大ナル經費ヲ要スルコトト相成リ、內閣首腦部ニ於テ臨時議會ヲ召集シテ、追加豫算ヲ要求スル決心ヲシテ居ラレタコトガアル、然ルニ再調査ノ結果、既定歲出豫算ノ見積甚ダ過大ナリシ爲ニ、右歲出豫算ノ剩餘殘額ヲ以テ裕ニ其ノ經費ヲ賄ヒ得ルコトヲ發見シ、臨時議會ノ召集ノ御取止メニナッタ事實ガアリ、而モ此ノ事實ガ豫算査定ノ事務ヲ大藏省ヨリ企畫院ニ移管セムトスル政府部內一部ノ主張ノ、直接ノ動機ト相成ッテ居ルヤニ承ッテ居ルノデアリマス、政府ハ昭和十四年度ノ豫算ヲ實行セラルヽニ當リ、愼重ノ上ニモ愼重ノ注意ヲ加ヘラレ、苟モ國民ノ眼ニ濫費、冗費ノ影ヲ留メザルヤウ御留意ヲ望ム次第デゴザイマス、最後ニ國內革新ニ對スル希望ヲ簡單ニ申上ゲタイト存ジマス、近衞前內閣總理大臣ハ、帝國ハ必要ナル國內諸般ノ改新ヲ斷行シテ、愈々國家總力ノ擴充ヲ圖リ、萬難ヲ排シテ、使命ノ達成ニ邁進セザルベカラズト聲明セラレ、而シテ平沼內閣總理大臣ハ、大體ニ於テ近衞內閣ノ方針ヲ踏襲スルト述ベラレテ居ラレマス、然ルニ國內革新ニ關スル諸政策ハ今日ノ所行方不明ノ形デアリマシテ、少クトモ帝國議會ニハ今日迄殆ド提案サレテ居リマセヌ、此ノ爲ニ或一部ニハ既ニ容易ナラザル不滿ノ聲ガ起ッテ居ルヤウニ承ッテ居リマス、勿論現內閣ハ成立日未ダ淺キガ故ニ、難キヲ責ムルコトハ酷デゴザイマセウ、又平沼內閣總理大臣ハ、衆議院ニ於テ斯カルコトハ徒ニ聲ヲ大ニシテハイカヌガ、著々トシテ實行スル積リデアルト答辯セラレ、ドウヤラ不言實行ヲ期シテ居ラレルヤウデゴザイマスルノデ、本員ハ此ノ平沼內閣總理大臣ノ御言明ニ信賴シテ、其ノ御實行ヲ待ッテ居ル者デゴザリマスルガ、何卒不言實行ガ不言不實行ニ終ラザルヤウ御願ヒ致ス次第デゴザイマス、以上本員ノ一個人ノ希望ヲ述ベマシテ、本案ニ贊成ノ意思ヲ表スル者デゴザイマス

○議長(伯爵松平賴壽君)　前田利定子爵

〔子爵前田利定君演壇ニ登ル〕

○子爵前田利定君　只今議題ニ上リマシタ昭和十四年度一般會計豫算各案ニ對シマシテ、私ハ時局ノ重大性ニ鑑ミ、小異ヲ捨テテ大同ニ就クト云フ所存ヲ以チマシテ、無修正可決ノ意見ヲ有スル者デアリマス、サリナガラ此ノ機會ニ於キマシテ私ハ、當議會開會以來我ガ貴族院ノ各會議ヲ通ジマシテ、未ダ議員ノドナタカラモ政府ニ對シテ强調論議ヲナサラナカッタ問題ヲ取上ゲマシテ、私ハ私ノ口カラ此ノ議場ニ於キマシテ臺閣諸公ニ御傳ヘヲ致シ、政府ノ御賢察ヲ請ヒ、御賢慮ヲ煩ハシマシテ、政府經綸ノ貧困ナル場面ヲ一日モ速ニ是正追補セラレムコトヲ要望セムトスル者デアリマス、ソレハ國民生活ノ安定ニ關スルコトデアリマスルガ、主トシテ私ハ國民中ノ貧困者ニ對シマスル救護ニ付テ申上ゲタイト思フノデアリマス、豫算ト致シマシテハ厚生省ノ所管ノ豫算ニ觸レル問題デアルノデアリマス、抑々本豫算案ハ、申上グル迄モナク聖戰目的ヲ達成スルト云フコトヲ眼目ト致シマシテ編成セラレタモノデアリマス、從ヒマシテ長期建設ヲ企圖スルト云フコトニ付キマシテハ、國民大衆ヲシテ堅忍持久ノ決心ノ臍ヲ固メシメルト云フコトノ必要ナルコトハ論ヲ俟タナイ所デアリマス、右ニ付キマシテハ先ヅ以テ國民ノ生活ノ安定ト云フコトヲ十分ニ圖ラレルト云フコトガ喫緊ノ要務デアルト信ジマス、就中國民中ニ於キマシテ、社會ノ下層ニ沈淪シテ居リマスル窮民ニ對シマス救護ハ最モ大切デアルト思フノデアリマス、然ルニ政府ニ於カレマシテハ、銃後ノ諸對策ニ付キマシテハ、隨分ト御行屆ニナッテ居ルニ拘リマセズ、餘リモ其ノ方ニ御行屆ニナッタガ爲カ、其ノ方ニ御心ヲ取ラレタ所以ダラウト思フノデアリマスガ、只今申上ゲマシタ一事ニ付キマシ

テハ、昔ノ儘ニ打捨テ置カレ閑却サレテ居リマシテ、丁度置イテキボリニナツタヤウナ感ジガ致サレルノデアリマス、抑〻厚生省ノ新設セラレマシタト云フコトハ何ノ爲デアリマシタカ、國民保健、國民ノ體位ノ向上竝ニ國民生活安定ノ爲ニ綜合的國策ヲ遂行スルト云フノガ趣旨デアッタト思フノデアリマス、私ハ此ノ御趣旨ニ對シマシテハ誠ニ結構ト存ズルノデアリマスルガ、扨テ其ノ實績如何ト見マスルト云フト、國民生活、殊ニ窮民ニ對シマスル所ノ救護ガ甚ダ不十分不徹底デアリマシテ、誠ニ身窄シイ感ジガ致スノデアリマス、此ノ點ハ國家社會ノ爲ニ轉タ寒心深憂ニ堪ヘナイノデアリマス、現下ニ於ケル所ノ窮民救護ノ有樣ヲ申上ゲマスレバ、私ノ調査スル所ニ依リマスレバ、全國ニ居ラレル所ノ方面委員ノ手ニ依ッテ保護ヲ受ケテ居リマス貧民世帶ノ總人員ハ、二百二十萬ノ多數ニ上ッテ居ルノデアリマス、而シテ其ノ中ノ極貧者ニ對シマシテハ、政府ハ既ニ救護法竝ニ母子保護法ヲ運用サレマシテ、所謂公的ノ保護ヲ加ヘラレテ居リマス、ソレト同時ニ隣保相扶ノ原動力トナッテ働イテ居ラレマスル方面委員ノ手ニ於テ、保護セラレル所謂私的ノ保護ニ付キマシテモ、政府ハソレガ指導誘掖ヲ努力サレテ居ラレルノデアリマス、公私ノ兩面カラシテ萬全ヲ策シテ居ラレマスル政府ノ御心構ニ對シマシテハ私ハ之ヲ多トスル者デアリマス、但シ御心構ヲ多トスルト云フノデアリマシテ、其ノ實績ヲ見マスト云フト誠ニ寂寞ノ感ガ致スノデアリマス、昭和十二年ノ四月以降、半箇年間ニ於キマシテ、此ノ救護法ノ發動ニ依ッテ救護ヲ受ケマシタ人員ハ僅カニ十五萬八千人デアリマス、之ニ對シマスル救護費ハ三百十二萬餘圓デアリマシテ、一人平均當リハ二十六圓餘ニ相成ルノデアリマス、又母子保護法ニ依リマシテ、保護ヲ受ケマシタ人員ハ二萬一千人デアリマシテ、之ニ對シマスル經費ハ三十一萬七千餘圓デアリマス、之ヲ一人平均ニ致シマスト云フト、十四圓餘ニナルノデアリマス、誠ニ少額デアルト思フノデアリマス、ドウシテ此ノ救護費ガ少額デアルカト申シマスト云フト、救護法ニ依ル救護ハ、生活ノ扶助費、兒女ノ教育費、疾病ニ對シマス療養費ナドガアルノデアリマスルガ、其ノ救護ノ限度ハ勅令ニ於テ定メラレテアルノデアリマス、而シテ救護法ノ救護ノ場合ヲ申上ゲマスト云フト、居宅救護即チ被救護人ノ居宅ニ於テ致シマス救護ハ、一日一人二十五錢以內、一世帶一日一圓以內ト定メラレテアルノデアリマス、地方ニ於キマシテハ、地方長官ガ此ノ勅令ノ規定ノ限度ニ鑑ミマシテ、其ノ地方ノ情勢ニ應ジテ手加減ヲスルコトニナッテ居ルノデアリマス、多クノ府縣ニ於ケル現狀ニ於キマシテハ、都市ニ於テモ、町村ニ於キマシテモ、其ノ限度ハ只今申上ゲマシタ勅令ノ最高限度以內デ、而モ遙カニ、遙カニ低位ニ定メラレテ居ルノデアリマス、デアリマスカラシテ、全國ヲ平均シテ見マスルト云フト、一日一人十錢餘ニシカ付カヌノデアリマス、皆樣方モ御承知ノ通リニ、淺草觀音ノ境內ニ居リマス鳩デサヘモ、毎日々々明ケテモ暮レテモ、一年三百六十五日、絕間ナキ善男善女ノ參詣ニ依リマシテ、又其ノ子供達ヨリ鳩ガ撒イテ貰フ所ノ豆代ノ一日ノ總高ハ、私ハナカ〳〵相當ノ高ニナルデアラウト思フノデアリマス、鳩ノ一日ノ餌代ニモ遠ク〳〵及バナイヤウナ心細イ救護費ヲ以テ、救護ヲスル者モスル者デアリマスケレドモ、其ノ救護ヲ受ケル者ノ慘メサ加減ト云フモノハ實ニ想像ニ餘リアリト思フノデアリマス、如何ニ落チブレタリトテモ、萬物ノ靈長タル人間一匹ガ鳩ニ顏負ケスルヤウナ悲慘ナ生活ヲスルト云フコトハ誠ニ同情ニ堪ヘヌ次第デアリマシテ、是等窮民ノ生活ノ狀況ノ上ニ思ヲ御運ビニナリマシタナラバ、皆樣トテモ必ズ眼頭ガ熱クナラレルコトデアラウト私ハ思フノデアリマス、況シテヤ救護法ノ實施ニナリマシタノハ昭和十二年ノ一月カラデアリマスガ、其ノ當時ハ皆樣御記憶ニアル通リニ、經濟界ハ誠ニ沈衰ヲシテ居リマシタ時代デアリマシタ、從ヒマシテ物價ハ著シク低落ヲシ、國民生活ハ今日ノソレト較ベテ見マシテ、比較的樂ナ時勢デアッタノデアリマス、其ノ時勢デアリマシテモ、一人一日平均十錢餘ノ生活費ト云フコトデアリマシテハ、ナカ〳〵ニ生活ヲ支ヘル所カ、生命ヲ支ヘルコトスラモ容易ナコトデハナカラウト思フノデアリマス、況ヤ其ノ後數年後ヲ經マシテ、經濟界ハ年ヲ逐ウテ上向ニナリ、諸物價ハ騰貴ノ一路ヲ辿ッテ居リマス、殊ニ戰時態勢強化ノ今日ニ於キマシテハ、各物價ハ一齊ニ騰貴シテ居リマシテ、國民ハ之ガ爲ニ生活上ノ脅威ヲ受ケツヽアル今日デアリマス、斯ク經濟狀況ノ變異ニ伴ハナイ所ノ依然タル救護費ヲ被救護人ハ受ケテ居ルノデアリマス、デアリマスカラ、被救護人ト致シマシテハ已ムヲ得ナイ、自分ガ毎日常食トシテ居ル所ノ米ナリ、麥ナリ、鹽ナリ、味噌ナリ、野菜ナリ、其ノ量目ヲ二割方モ切詰メナケレバナラヌト云フ事態ニナッテ居ルノデアリマス、ト申シマスモノハ、最近ノ小賣物價指數ヲ調ベテ見マスルト、昭和十三年十二月中ノ平均ト、昭和七年中ノ平均トヲ較ベテ見マスルト云フト、七割七分ノ騰貴ヲ示シテ居ルノデアリマス、尙又朝日新聞社調ノ、全國生計費指數ヲ調ベテ見マスルト云フト、昭和十三年中ノ平均ト、昭和七年中ノ平均ノ指數トデハ、二割七分五厘ノ昂騰ヲ示シテ居ルノデアリマス、デアリマスカラ、被救護者ハ金高ノ方ハ變ラナイノデアリマシテ、物價ガ騰貴スルノデアリマスカラ、自分ノ食スル分量ヲ減ラスヨリ外ニハナイノデアリマス、誠ニ慘澹タル憫ムベキ境遇ニ居ルモノト、皆樣方ニ於テモ十分御想像ヲ願ヒタイト思フノデアリマス、斯クノ如ク經濟界ノ變動ハアリマシテモ十年一日ノ如クニ、切詰メラレタル救護費ノ限度ト云フモノハ、未ダ曾テ引上ゲラレテ居ラナイノデアリマス、釘付ケニサレテ居ルノデアリマス、若シモ此ノ事實ヲバ袞閣諸公ガ御承知ニナッタナラバ、必ズヤ打棄テ、置カレナイコトデアラウト私ハ信ズルノデアリマス、我々常識デ考ヘテ見マシテモ、物價ガ高クナッテ收入ガ變ラナケレバ、ソコニ破綻ノ生ズルト云フコトハ是ハモウ自明ノ理デアリマス、詰リ今日迄是等ノ給與限度ノ引上ガ行ハレナカッタト云フコトハ、又ソレニ關スル勅令ナゾノ改訂ガナカッタト云フコトハ、恐ラク袞閣諸公ハ此ノ邊ノ消息ヲ、餘リ高イ處ニ居ラレマスカラ御耳ニ達セラレナイノデアラウト思フノデアリマス、此ノ際此ノ席ニ於キマシテ、其眞情ヲ御耳ニ達シマスルデ、十分御考慮ヲ願ヒタイト思フノデアリマス、之ニ對シマシテハ、要シマスルノニ、救護費ノ増額ヲスルト云フコト、ソレカラ關係勅令ノ規定ヲ所要ニ應ジテ改訂スルト云フコト、府縣ニ御指揮ニナリマシテ、其ノ府縣ノ標準限度ヲバ引上ゲサセルト云フ必要ガ迫ッテ居ルモノト、私ハ確信ヲ致シテ居ルノデアリマス、或一部ノ人ハ斯樣ナコトヲ申スカモ知レマセヌ、救護費ハ其ノ額ノ僅デ宜シイノデアル、未ダ曾テ救護費ガ足ラナイカラト云ッテ餓死シタ者ハ一人モ居ラナイノデアル、日本ニハ古來隣保相扶ト云フ美風ガアッテ、救護費デ足ラナイ所ハ隣人ガ互ニ助ケ合フト云フコトニナッテ居ル、此ノ美風ハ何時迄モ尊重シテ行キタイモノデアル、デアルカラ、濫ニ救護費ヲ増額スルト云フヤウナコトハソレハ不可デアル、斯樣ナ見解ヲ持ツヤウナ方ガ、廣イ世ノ中ニ

若シアリトシタナラバ、ソレハ非常ナ御料簡違ヒデアルト私ハ思フノデアリマス、此ノ隣保相扶ノ美風ハ誠ニ尊重スベキコトハ勿論デアリマスルガ、此ノ隣保相扶ニ依リマシテ、貧民ノ救護ヲ致シテ居ル者ハ、是ハ寧ロ方面委員ノ手ニ於テ行ハレテ居ルノデアリマス、何サマ、二百二十萬以上ノ窮民ニ對シマシテ、法律ノ保護ヲ受ケテ居ル者ハ、前述ノ如クニ僅カニ約二十萬人位ニ過ギナイノデアリマス、アトノ二百萬人ト云フモノハ、方面委員ガ此ノ隣保相扶ノ美風ニ則リマシテ、益〻ソレヲ普及徹底サセマシテ、今日迄モ懸命ニ努力シテ居ラレル其ノ方ノ範圍ニ屬スルモノデアルノデアリマス、ノミナラズ、救護ヲ受ケル者ハ元來ドウ云フ人デアルカト申シマスト云フト、老人トカ子供トカ疾病者、癈疾者ノ手合ヒデアリマシテ、自ラ立ッテ立チ働イテ活路ヲ求メルト云フコトノ不自由ナ徒輩デアリマス、ソレガ人間並ミラシクナイ暗イ〳〵生活ヲ、陽ノ目モ見ナイヤウナ路次裏デ、呻キ喘イデ居ルヤウナ有樣デアリマス、デアリマスルカラ、救護費ガ殖エナケレバ、先程申上ゲタ通リニ食ベル物ヲ減ラシテデモ何トカシテ行カナケレバナラナイト云フ、悲シキ境遇ニ陷ッテ居ルノデアリマス、デアリマスカラ、救護法ニ依ル救護ハ、獨リ此ノ生活ノ扶助バカリデアリマセヌ、子女ノ教育トカ、疾病ノ療養費ナドモアリマスルケレドモ、ナカ〳〵以テ露命ヲ繫イデ行クト云フコトスラモ困難デアリマスルカラ、ナカナカ自分ノ保健トカ榮養トカ云フヤウナコトニ手ノ屆キヤウ筈ハアリマセヌ、況ヤ子女ノ教育ニ於テヲヤデアリマス、斯カル手合ヒガ自分ノ健康ヲ害シ、天壽ヲ全ウスルコトヲ得ズシテ死期ヲ早メ、其ノ影響トシテ子女ガ不良ノ仲間ニ入リ込ンデ行クト云フコトモ、是モ分リ切ッタコトデアラウト思フノデアリマス、斯ウ云フヤウナ境地ニハ得テ惡思想ガ釀成サレルモノデアリマス、所謂主義者ノ手ガソレニ伸ビマシテ、之ニ誘致サレ引込マレ易イ所ノ素質ガ、斯カル所ニ醱酵シ醞釀セラレルモノデアラウト思フノデアリマス、故ニ斯ク考ヘテ參リマスレバ、外ニ對シマシテ、日獨伊ノ防共ノ協同ノ鐵陣ヲ張ルコトヲ圖ラレマスルト同時ニ、內ニ對シマシテハ、地元タル國民ノ生活ノ安定、殊ニ最モ呻吟シテ居ル所ノ、生活ノドン底ニ居ル所ノ此ノ窮民ノ救護ト云フ上ニ溫キ手ヲ差伸ベテ、サウシテ自分ノ足許ヲバ踏ミ固メ、ドンナ主義ガ舞ヒ込ミマシテモ、貧乏搖ギモシナイヤウナ地盤ヲ作ルト云フコトガ、誠ニ私ハ喫緊ノ急務デアルト思フノデアリマス、抑〻思想犯人ト云フモノハドウ云フ者ガナルノデアルカ、ドウ云フ人ガ思想犯人ニナルノデアルカ、ト斯ウ申シマスト云フト、私ノ乏シイ考カラ考ヘマシテモ、先ヅ第一ニハ親代々ノ貧乏暮シノ者デアリマス、第二ニハ、自分ノ家ガ貧シクシテ、學校ニモ通フコトガ出來ズニ、徒ニ身丈バカリ伸ビシテシマヒマシテ、人夫的ノ勞働ハ出來マスト致シマシテモ、他ニ何モ能ガ無イヤウナ人間、サウ云フヤウナ手合ヒ、又第三者ニハ、自分ノ身體ガ病氣デアルトカ、又自分ガ病氣デナクテモ、其ノ家族內ニハ母親トカ女房トカ云フ者ガ病ミ續キデアリマシテ、ドンナニ〳〵朝カラ晚迄働キ續ケマシテモ貧乏神ガ側カラ離レテ吳レナイ、稼ギニ追ヒ付ク貧乏ナシト云フノハ昔ノ諺デアリマスガ、幾ラ稼イデモ稼イデモ貧乏ノ淵カラ免レルコトガ出來ナイ、丁度恰モ底無シノ沼ニ足ヲ踏ン込ンダヤウナモノデ、幾ラ藻搔イテモ喚イテモ、其ノ沼カラ足ガ離レナイト云フヤウナ情勢ニ在ル者ガ社會ノ隅々ニ夥シク存在シテ居ルノデアリマス、斯樣ナ手合ヒガ假ニ威儀堂々タル所ノ大厦高樓ノ、富ンダ人ノ、所謂物ヲ持ッタ人ノ立派ナル邸宅ヲ見マシタリ、都大路ヲバキラビヤカナ服裝ヲシテ贅澤三昧ニ練リ歩ク所ノ、所謂持テル人々ノ得意ノ有樣ヲ見マシタ場合ニ、フト自分ノ慘メナ境遇ニ思ヒ較ベマシテ、人ヲ呪ヒ世ヲ呪ヒ、此ノ世間ト云フモノニ對シマシテ不滿ト反感トヲ持ツト云フヤウナ、若シ場合ニナリマシタナラバ、其處へ主義ノ話ヲ持チ込マレマシタナラバ、如何デアリマセウカ、若シモコチラノ身體ガ左樣ナ話ヲ受付ケナイヤウナ境遇デアリマシタナラバ、碌々ニ聽キモ致シマスマイシ、又聽キマシテモ聞キ流シテシマフノデアリマスルケレドモ、自分ノ慘メナ有樣ニ思ヒ較ベマシテ、其ノ話ガ如何ニモ面白ク聽キ取レルデアラウト思ヒマス、此ノ社會デハナイ、自分ノ行手ニハモット美シイ樂シイ所謂樂園ガアルヤウニモ思ハレマシテ、而モ話ヲ聽イタダケデモ、自分ノ毎日々々憂鬱ナ、不快ナ暮シヲタテ居ル身ニ取リマシテハ、誠ニ心ノ慰メニモナルト云フヤウナ所カラ、知ラズ識ラズニ主義ノ話ニ聽キ惚レマシテ、又主義モ研究シテ見タクナリ、遂ニハ主義者ノ群ニ入リ、主義者ノ群カラ引張リ込マレルト云フヤウナ徑路ヲ辿ルモノデアラウト私ハ思フノデアリマス、固ヨリ思想犯ニナリマス者ハ、獨リ貧民階級バカリノ者デハナイノデアリマス、婦人ニ致シマシテモ、學生ニ致シマシテモ、其ノ境遇ニ依リマシテハ、フト思想犯ニ入ルヤウナ傾向ヲ持ッテ居リマスヤウナ者ハ、又入ルト云フヤウナ場合モアリ得ルノデアリマスケレドモ、此ノ場合ハ貧民ノコトニ限局ヲ致シマシテ申上ゲテ居ルノデアリマス、如何ナル理論デアリマシテモ、其ノ理論ガ良クテモ、之ヲ受入レ易イヤウナ缺陷ガ、社會ニゴザイマセヌデアリマシタナラバ、何ノ恐レル所ハナイト思フノデアリマス、左樣ナ理論ヲバ受ケ易イヤウナ缺陷ガ社會ニアリマシタ場合ニ於キマシテ、政府ノ政治ノ御行屆キ方ガ惡カッタ場合ニ於キマシテハ、主義ハ其ノ缺陷ニ乘ジテ割込ンデ來マシテ、擴ガッテ行クコトガ燎原ノ火ヲ睹ルヤウナモノデアラウト思フノデアリマス、堯舜ノ時代ニハ、社會問題ヤ生活問題ハ蓋シ無カッタラウト思フノデアリマスガ、恐ロシイノハ貧苦ニ、生活ノ苦ニ呻吟シテ居リマス者ガ、此ノ世ノ中ニ對シマスル不滿反感ノ情デアリマス、故ニ政府ニ於カレマシテハ、思想犯人ヲ檢擧シタリ、罰シタリスル事前ニ於キマシテ、斯樣ナ感情ノ懷カレナイヤウニ、十分溫イ政治ヲ御ヤリニナラナケレバナラヌト思フノデアリマス、殊ニ先程モ二荒伯爵ノ仰セラレマシタ通リニ、現時ノ戰爭ハ、兵力戰ノミナラズ思想戰ニナッテ居ルノデアリマス、而モ長期ノ建設ノ長帳場ノ上ヲ進ンデ行ク我ガ國ト致シマシテハ、斯樣ナル窮民ヲシテ更生セシメテ、サウシテ貧シイナガラモ、是等ノ人々ノ軒カラ朝晚炊事ノ煙ノ立昇ルヤウニ致サレルヤウナ御施設ガナケレバナラヌ時デアラウト思フノデアリマス、ソレニ付キマシテハ、畏多クモ　明治天皇ハ斯樣ナ御製ヲモノサレマシタ、「事アルニツケテイヨ〳〵オモフカナ民ノカマトノ煙イカニト」、是ハ明治三十七年中ノ御作デアリマス、惟フニ日露戰爭ノサ中ニ御詠出ニ相成ッタ御製デアラウト拜察シ奉ルノデアリマス、只今モ日本建國以來ノ未曾有ノ國難ニ臨ンデ居リマシテ、大イニ事アル時デアリマス、尙又此ノ御製ト大昔ノ仁德天皇ノ高キ屋ノアノ御製ト照シ合ハセテ誦シ奉ル時ニ、誠ニ一天萬乘ノ神ノ御末ノ光輝アル御位ニ在ラセラレナガラ、國ツ民ヲバ大御寶ト思召ス大御心ノ程返ス〳〵モ恐懼至極ニ存ジ奉ルノデアリマス、且又皇室ニ於カレマシテモ、社會慈惠事業ノ上ニ軫念アラセラレマシテ、毎年紀元節ノ佳節ニハ尠カラザル御內帑金ヲバ民間ニ御下賜ニ相成ッテ居ルノデアリマス、誠ニ天恩ノ山ヨリ高ク

一ニ昭和十四年度ニ於テハ豫備費カラ增額スルトカ云フヤウナコトガ、御出來ニクイヤウナ御事情ガアリト致シマスルナラバ、已ムヲ得マセヌ、昭和十五年度ノ豫算編成ニ際シマシテ、救護法ニ依ル救護費ノ補助、母子保護法ニ依ル所ノ保護費補助ノ費用ニ付キマシテモ、十分ニ一ツ御考慮アラムコトヲ得

第五條　軍用保護馬ノ所有者其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ハ其ノ軍用保護馬ニ付本法ノ定ムル鍛錬ヲ受ケシムルコトヲ要ス

第六條　本法ニ依ル軍用保護馬ノ鍛錬ハ普通鍛錬及鍛錬競技トシ政府之ヲ管理ス

普通鍛錬ハ軍馬トシテ必要ナル能力及馴致ノ向上維持ヲ圖ルコトヲ目的トス

鍛錬競技ハ普通鍛錬ヲ受ケタル軍用保護馬ノ能力及馴致ヲ審査シ併セテ軍馬ノ資質ニ關スル知識ノ普及ヲ圖ルコトヲ目的トス

第七條　普通鍛錬ノ事業ハ命令ノ定ムル所ニ依リ地方長官之ヲ行フ

市町村長ハ命令ノ定ムル所ニ依リ普通鍛錬ニ關スル事務ノ一部ヲ行フ

普通鍛錬ノ施行ニ因リ軍用保護馬死亡又ハ傷害ヲ受ケタルトキハ政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ補償金ヲ交付ス

第八條　鍛錬競技ハ命令ノ定ムル所ニ依リ北海道、府縣、畜産組合聯合會、畜産組合其ノ他政府ノ指定スル團體ヲシテ之ヲ行ハシム

鍛錬競技ニシテ優等馬ノ投票ニ關スル施設ヲ伴フモノ（以下鍛錬馬競走ト稱ス）ヲ行フコトヲ得ル者ハ命令ヲ以テ定ムル畜産組合聯合會又ハ道府縣ノ區域ニ依ル畜産組合其ノ他政府ノ指定スル法人ニシテ鍛錬馬場ニ付政府ノ許可ヲ受ケタルモノニ限ル

○議長（伯爵松平賴壽君）　是ニテ討論ハ終リマシタ、是ヨリ採決ヲ致シマス、御異議ガナケレバ兩案全部ヲ問題ニ供シマス、兩案全部ニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ願ヒマス

（總員起立）

○議長（伯爵松平賴壽君）　全會一致ト認メマス

○議長（伯爵松平賴壽君）　日程第三、軍馬資源保護法案、日程第四、四種馬統制法案、日程第五、競馬法ノ臨時特例ニ關スル法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、是等ノ三案ヲ一括致シテ議題ト爲スコトニ御異議ハゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス　櫻內幸雄林大臣

（左ノ送付文及法案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ玆ニ載錄ス以下之ニ倣フ）

軍馬資源保護法案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十四年三月四日

衆議院議長　小山　松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

（小字ハ衆議院ノ修正ナリ）

軍馬資源保護法案

軍馬資源保護法

第一條　本法ハ國防上特ニ必要トスル馬ノ資質ノ向上ヲ圖リ軍馬資源ノ充實ヲ期スルコトヲ目的トス

第二條　政府ハ軍馬タルベキ資質アル馬ヲ選定スル爲命令ノ定ムル所ニ依リ每年馬ノ檢定ヲ行ヒ之ニ合格シタルモノヲ軍用保護馬ニ指定スルコトヲ得

市町村長ハ前項ノ檢定ニ立會ヒ又ハ當該市町村ノ吏員ヲシテ之ニ立會ハシムベシ

第三條　政府ハ前條第一項ノ檢定ヲ受クル者ニ對シ勅令ノ定ムル所ニ依リ手當及旅費ヲ給ス

第四條　政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ每年度豫算ノ範圍內ニ於テ軍用保護馬ヲ飼養スル者ニ對シ補助金ヲ交付スルコトヲ得

第五條　軍用保護馬ノ所有者其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ハ其ノ軍用保護馬ニ付本法ノ定ムル鍛錬ヲ受ケシムルコトヲ要ス

第六條　本法ニ依ル軍用保護馬ノ鍛錬ハ普通鍛錬及鍛錬競技トシ政府之ヲ管理ス

普通鍛錬ハ軍馬トシテ必要ナル能力及馴致ノ向上維持ヲ圖ルコトヲ目的トス

鍛錬競技ハ普通鍛錬ヲ受ケタル軍用保護馬ノ能力及馴致ヲ審査シ併セテ軍馬ノ資質ニ關スル知識ノ普及ヲ圖ルコトヲ目的トス

第七條　普通鍛錬ノ事業ハ命令ノ定ムル所ニ依リ地方長官之ヲ行フ

市町村長ハ命令ノ定ムル所ニ依リ普通鍛錬ニ關スル事務ノ一部ヲ行フ

普通鍛錬ノ施行ニ因リ軍用保護馬死亡又ハ傷害ヲ受ケタルトキハ政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ補償金ヲ交付ス

第八條　鍛錬競技ハ命令ノ定ムル所ニ依リ北海道、府縣、畜産組合聯合會、畜産組合其ノ他政府ノ指定スル團體ヲシテ之ヲ行ハシム

鍛錬競技ニシテ優等馬ノ投票ニ關スル施設ヲ伴フモノ（以下鍛錬馬競走ト稱ス）ヲ行フコトヲ得ル者ハ命令ヲ以テ定ムル畜産組合聯合會又ハ道府縣ノ區域ニ依ル畜産組合其ノ他政府ノ指定スル法人ニシテ鍛錬馬場ニ付政府ノ許可ヲ受ケタルモノニ限ル

鍛錬馬競走ヲ行フコトヲ得ル鍛錬馬場ノ數ハ一府縣一箇所以內、北海道三箇所以內トス

鍛錬馬競走ノ施行ハ鍛錬馬場每年二回以內トシ其ノ期間ハ每回四日以內トス

第九條　鍛錬競技ニハ勅令ノ定ムル所ニ依リ地方長官ノ指定シタル軍用保護馬ニ非ザレバ出場セシムルコトヲ得ズ

第十條　鍛錬馬競走ノ施行者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ入場者ヨリ入場料ヲ徵收スベシ

鍛錬馬競走ノ施行者ハ鍛錬馬場ニ於テ入場者ニ對シ額面金額三圓以下ノ優等馬票ヲ額面金額ヲ以テ發行スルコトヲ得

優等馬票ノ發行ハ鍛錬馬競走一競技ニ付一人一枚ヲ限リ單式優等馬票及複式優等馬票ヲ發行スル場合ニ於テハ鍛錬馬競走一競技ニ付一人各一枚ヲ限ル

優等馬票ハ之ヲ讓渡スコトヲ得ズ

學生生徒又ハ未成年者ニ對シ優等馬票ヲ發行スルコトヲ得ズ

當該鍛錬馬競走ニ於ケル命令ヲ以テ定ムル所ニ依リ入場者ニ對シ亦前項ニ同ジ

鍛錬馬競走ノ施行者ハ優等馬投票ノ的中者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ當該競技ニ付テノ優等馬票ノ發行ニ依リ得ル金額ヲ超エザル範圍內ニ於テ拂戾ヲ爲スモノトス但シ其ノ金額ハ優等馬票ノ額面金額ノ十倍ヲ超エルコトヲ得ズ

優等馬投票ノ的中者無キ場合ニ於ケル優等馬票ノ發行ニ依リ得タル金額又ハ前項但書ノ規定ニ依リ生ジタル超過金ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ優等馬票ヲ購買シタル者ニ拂戾スベシ

前二項ノ拂戾金ノ債權ハ一年間之ヲ行ハザルトキハ時效ニ因リテ消滅ス

海ヨリモ深キ御仁恤ノ辱ナサハ、唯感泣感激スルミノデアリマス、抑〻救護法ノ救護ト云フモノハ、啻ニ生命ノ維持バカリデハアリマセヌ、先程モ申上ゲマシタ通リニ、生業ノ補助、疾病ノ治療、子女ノ敎育ナドノ目的ヲモ含ンデ居ルモノデアルノデアリマスガ、現狀ノ支給ノ限度カラ見マシテ、到底ソレハ及ビモ付カナイコトデアリマス、政府ノ折角ノ御仁政モ徹底シテハ居ラヌノデアリマス、又母子保護法ノ方ヲ見マシテモ、是ハ政府ニ於テモ大變ニ誇リ顏ニ仰セラレタコトガアリマスガ、母子保護法ハ單ナル救貧法制デハナイ、母性ノ保護ト子女ノ敎養ニ重點ヲ置クノデアッテ、是ハ積極的ノ法制デアルト云フコトヲ申サレテ居ルノデアリマス、何ガ積極的ノ法制デアリマスカ、其ノ保護ノ經費ヲ見マスト云フト、是亦救護法ノ救護費ト同樣ニ、一日一人二十五錢以內、養育扶助費モ一日一人二十五錢以內、親子共ノ扶助費一世帶一圓以內、救護法ト何等變ル所ハナイノデアリマス、デアリマスルカラ、是モ矢張リ母子保護法ノ此ノ保護金額モ時ノ經濟情勢ニ應ジテ、眞實ニ最下限ノ生活ヲ支ヘテ行クニ足ルダケノモノ位ハ、奮發ヲ、政府ガナサラナケレバナラヌト思フノデアリマス、之ヲ要シマスルノニ、救護サルベキ所ノ人員ハ、先程申上ゲマシタ通リニ二百萬人以上ニモ上ッテ居ルノデアリマシテ、之ニ對シマスル救護費ハ、誠ニ較ベテ見マスレバ雀ノ淚ミタヤウナモノデアルノデアリマス、是デハ到底所期ノ目的ヲ達スルコトハ出來ナイ、折角有難イオ役所ガ出來、又有難イ法律ガ出來テモ、其ノ實際ノ救護、保護ヲ受ケル者ノ側カラ申シマスルト云フト、誠ニ頼ミニナラナイ心細イ次第デアリマシテ、ソレコソ譯ノ玉ノ緒ヲ繫ギ留メテ居ルト云フヤウナ有樣デアリマス、是デハ何トカ此ノ際政府ノ方ニ於テキマシテモ、此ノ窮民ノ救護ノ上ニ十分思ヒヤリノ御頭ヲ傾ケラレマシテ、サウシテ是等ノ窮民ノ法ノ目的タル更生ヲシテ參リマスヤウニ御仕向ケニナッテ、其ノ成績ヲ御擧ゲニナルト云フコトガ、平沼內閣ノ口癖ニ仰シヤル所ノ萬民輔翼、總親和ノ實ガ其ノ時ニ擧ルモノダラウト私ハ思フノデアリマス、サウナッテコソ初メテ廣大無邊ナル御仁慈ニ浴シ、御仁慈カラ湧レル者ガナイヤウニナルノデアラウト思フノデアリマス、以上ノ理由ニ依リマシテ私ハ政府ニ要望スルコトハ、敎護法ニシテモ、母子保護法ニシテモ、其ノ扶助額ヲバ、給與額ヲバ增額ヲナサレルト云フコトデアリマス、幸ナコトニハ此ノ救護法ニ依ル救護費補助モ、母子保護法ニ依ル處ノ保護費ノ補助モ、之ハ補充科目ニナッテ居ルノデアリマスカラ、昭和十四年度ノ豫算ノ運用ニ當ラレマシタ時ニ、所要ニ應ジテ增額支給ヲ爲サレバ足ルノデアリマス、又關係勅令ノ限度ヲバ御直シニナルト云フコトモ、左迄困難ナコトデハナイノデアリマス、誰ガ聞イテモ是ハ合理的ノ話デアリマス、又府縣ニ對シマシテハ、府縣ノ限度ヲバ引上ゲルコトヲ御命令ニナリマスレバ宜シイノデアリマス、此ノ際終リニ臨ミマシテ私ハ厚生大臣ニ對シマシテ御留意ヲ請ヒタイト思フコトガアリマス、ソレハ昭和十四年度ノ厚生省豫算、經常部第十五款ノ第五項ニ、敎護法ニ依ル敎護費ノ補助費額ガ計上サレテアリマスガ、又同第十項ニハ、母子保護法ニ依リマスル保護費補助ガ計上サレテアルノデアリマス、然ルニ此兩方ノ補助費ガ本年、十四年度ノ要求額ト、前年度ノ要求額ヲ較ベテ見マスト云フト、兩方共ニ各〻三十萬圓宛減額ニナッテ居ルノデアリマス、誠ニ怪訝ニ堪ヘナイ次第デアリマス、惟ヒマスノニ、政府ニ於カレマシテハ、昨年度ノ精算ノ結果、豫算所要額ヨリモ支拂ガ少クナリマシテ使ヒ殘リガ出タカラ、其ノ使ヒ殘リガ出タコトニ鑑ミマシテ査定減ヲ行ハレタコトデアラウト、御推察ヲ申上ゲルノデアリマス、成ル程現狀ノ儘デ、六七年前ノ物價ノ廉イ時ニ決メタ勅令ノ限度、其ノ當時サヘモ誠ニ覺束ナイ程ノ少額ナナッテ居ルノデアリマス、諸物價貴シタ今日ニ於テモ依然トシテ變ラヌノデアリマスルカラ使ヒ殘リモット發達進歩セシメマスト同時ニ、他面ニ於キマシテハ、此ノ方面委員ノ手ニ於テスル敎護ノ方モ拍車ヲ掛ケテ、モット之ヲ强化シテ行カナケレバナラヌ必要ニ迫ッテ居ルト思フノデアリマス、ソレニ付キマシテハ、此ノ方面委員ニ對シマシテモ、一ツ政府ノ方デ御奮發ニナッテ、精神的ノ優遇ノ途ヲ與ヘ、又ソレト共ニ相當ノ經濟的ノ援助ヲバ與ヘルト云フコトニナサッタナラバ宜カラウト私ハ思フノデアリマス、成ル程方面委員ニ對シマシテハ後援ヲスル所ノ助成團體ハ、アルコトハアリマスルケレドモ、全國ヲ通ジマシテ僅カ二千五百ノ團體キリシカナイノデアリマス、然ルニ委員設置ノ市町村ヲ數ヘテ見マスルト云フト、九千餘ニナッテ居ルノデアリマスカラ、助成團體ガ其ノ四分ノ一ニシカ滿タナイ譯デアリマス、ノミナラズ、助成團體ト申シマシテモ敢テ資力ガ豐富デアルト云フ譯デハナイノデアリマシテ、事實ニ於テ隨分苦詰ッテ居ル狀況ラバ見聞ヲ致シテ居ルノデアリマス、要シマスルノニ、法的ノ敎護ニ於テ十分ニ御考慮ニナルコト、又別働團體トシテ働イテ居ル所ノ、法律以外ニ働イテ居ル所ノ此ノ方面委員ニ對シマスル一層ノ活躍、活潑ニ努力ノ出來マスルヤウナ途ヲ講ジテヤルト云フコトガ、私ハ兩々必要ナコトデアラウト思フノデアリマス、尙先程申上ゲマシタ通リニ、昭和十四年度ノ豫算ノ運營ニ付キマシテ、政府ノ御考ニツヂハ直チニ實行ノ出來ルコトデアリマスルケレドモ、萬々慮シタ所ノ救護費ヲ御遣ハシニナリ、窮民ヲシテ更生セシムルヤウニ爲サラネバナラヌト思フノデアリマス、尙玆ニ申上ゲテ置キタイコトハ、從來トテモ隣保相互扶助ノ原動力ナッテ隨分勉强シテ働イテ涙グマシキ努力ヲ續ケラレテ居ルノデアリマスガ、斯樣ナ戰時下ニ於キマシテハ、此ノ法的ノ敎護ヲ

第十一條　鍛錬馬競走ノ施行者優等馬票ヲ發行シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ發行ニ依リ得タル金額ノ百分ノ二十五以内ノ金額ヲ收得スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ鍛錬馬競走ノ施行者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ納付金ヲ軍用保護馬鍛錬中央會ニ納付スベシ

前項ノ納付金ハ軍用保護馬鍛錬中央會ノ目的ヲ達スル爲必要ナル經費ニ充ツルコトヲ要ス

鍛錬馬場ノ開設又ハ維持、競走ノ觀覽、優等馬票ノ發行又ハ購買、拂戾金又ハ賞金ノ交付又ハ受領其ノ他鍛錬馬競走ノ施行又ハ開催ニ關シテハ地方稅ヲ課スルコトヲ得ズ

第十二條　軍用保護馬鍛錬中央會ハ法人トシ鍛錬競技ノ健全ナル發達ヲ圖リ以テ軍用保護馬ノ能力及馴致ノ向上ニ資スルト共ニ軍馬ノ資質ニ關スル知識ノ普及ヲ期スルコトヲ目的トス

軍用保護馬鍛錬中央會ハ全國ヲ通ジ一箇トシ第八條第二項ノ許可ヲ受ケタル者ヲ以テ之ヲ組織ス

軍用保護馬鍛錬中央會成立シタルトキハ會員タル資格ヲ有スル者ハ總テ會員トス

第十三條　政府ハ軍用保護馬鍛錬中央會ノ保有スル資金ガ勅令ヲ以テ定ムル額ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ヲ政府ニ納付セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル納付金ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徴收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次グモノトス

第十四條　軍用保護馬鍛錬中央會ニハ所得稅及營業收益稅ヲ課セズ

軍用保護馬鍛錬中央會ガ本法ニ基キテ爲ス登記ニ付テハ登錄稅ヲ課セズ

第十五條　本法ニ定ムルモノノ外軍用保護馬鍛錬中央會ノ設立、登記、管理、監督、解散、淸算其ノ他軍用保護馬鍛錬中央會ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條　行政官廳ハ鍛錬競技ノ施行者ニ對シ鍛錬競技ノ施行ニ關シ監督上必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第十七條　政府ハ鍛錬馬競走ノ施行者又ハ軍用保護馬鍛錬中央會ニ對シ鍛錬競技ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲必要ナル施設ヲ命ズルコトヲ得

第十八條　政府ハ鍛錬馬競走ノ施行者又ハ其ノ役員若ハ施行委員ノ行爲ガ法令若ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一　第八條第二項ノ許可ノ取消

二　鍛錬馬競走ノ停止

三　優等馬票發行ノ停止又ハ制限

四　施行委員ノ職務執行ノ停止

第十九條　軍用保護馬ハ政府ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ輸出シ又ハ移出スルコトヲ得ズ第二條第一項ノ檢定ニ合格シタル馬ニ付命令ヲ以テ定ムル期間內亦同ジ

第二十條　政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ毎年軍用保護馬ノ檢査ヲ行ヒ之ニ合格セザルモノニ付軍用保護馬ノ指定ヲ取消スコトヲ得

第二條第二項ノ規定ハ前項ノ檢査ニ之ヲ準用ス

第二十一條　政府ハ第二條第一項ノ檢定又ハ前條第一項ノ檢査ノ爲必要アリト認ムルトキハ區域及期間ヲ指定シ馬ノ移動ヲ制限スルコトヲ得

第二十二條　本法ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル馬ニ付之ヲ適用セズ

一　當歲ノモノ又ハ明ケ十八歲以上ノモノ

二　國又ハ道府縣ノ所有ニ係ルモノ

三　前二號ノ外命令ヲ以テ定ムルモノ

第二十三條　軍用保護馬ガ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ軍用保護馬ノ指定ハ其ノ效力ヲ失フ

一　明ケ十八歲ニ達シタルトキ

二　輸出又ハ移出セラレタルトキ

三　國又ハ道府縣ノ所有ト爲リタルトキ

四　前三號ノ外命令ヲ以テ定ムル場合

第二十四條　市町村長ハ命令ノ定ムル所ニ依リ左ノ各號ノ一ニ該當スル馬ニ付馬籍ニ其ノ旨記載スベシ

一　第二條第一項ノ檢定ニ合格シタルモノ

二　軍用保護馬ニ指定セラレタルモノ又ハ軍用保護馬ノ指定ヲ取消サレタルモノ若ハ其ノ指定ノ效力ヲ失ヒタルモノ

第二十五條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役若ハ五千圓以下ノ罰金ニ處シ又ハ其ノ刑ヲ併科ス

一　鍛錬競技ニ關シ第八條第二項ノ許可ヲ受ケズシテ優等馬票ヲ發行シ又ハ之ニ類似ノ行爲ヲ爲シタル者

二　第十八條第三號ノ停止又ハ制限ニ違反シ優等馬票ヲ發行シタル者

三　鍛錬競技ニ關シ常習トシテ多數ノ者ニ對シ財物ヲ以テ賭事ヲ爲シタル者

四　第十條第六項ニ掲グル者ニシテ前號ニ規定スル行爲ノ相手方ト爲リタルモノ

第二十六條　鍛錬馬競走ノ施行委員鍛錬馬競走ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

團體若ハ多衆ノ威力ヲ示シ、團體若ハ多衆ヲ假裝シテ威力ヲ示シ又ハ兇器ヲ示シ若ハ數人共同シテ前項ノ罪ヲ犯シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條　第十九條ノ規定ニ違反シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第九條ノ規定ニ違反シ同條ニ規定スル軍用保護馬ニ非ザル馬ヲ鍛錬競技ニ出場セシメタル者

二　第十條第二項又ハ第三項ノ規定ニ依ル制限ニ違反シ優等馬票ヲ發行シタル者

三　第十條第五項又ハ第六項ノ規定ニ違反シ優等馬票ヲ發行シタル者

四　第十條第六項ニ掲グル者ニシテ優等馬票ヲ購買シタルモノ

五　第十條第七項ノ規定ニ依ル制限ニ違反シ拂戾金ヲ交付シタル者

六　第二十五條第一號乃至第三號ノ一ニ規定スル行爲ノ相手方ト爲リタル者

第二十九條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　第十條第二項又ハ第三項ノ規定ニ依ル制限ニ違反シ優等馬票ヲ購買シタル者

二　第十條第五項ニ掲グル者ニシテ優等馬票ヲ購買シタル者

三　優等馬票ヲ讓渡シ又ハ讓受ケタル者

四　第十條第七項ノ規定ニ依ル制限ニ違反シ拂戾金ノ交付ヲ受ケタル者

第三十條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　第二條第一項ノ檢定、第七條第一項ノ普通鍛錬又ハ第二十條第一項ノ檢査ニ應ゼザル者

二　第二條第一項ノ檢定、第七條第一項ノ普通鍛錬又ハ第二十條第一項ノ檢査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者

三　第二十一條ノ規定ニ依ル制限ニ違反シタル者

第三十一條　軍用保護馬鍛錬中央會ノ役員又ハ鍛錬馬競走ノ施行委員ガ其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サザルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第三十二條　前條第一項ニ掲グル者ニ對シ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第三十三條　法律ノ規定ニ依ラザル馬ノ競走ニ關シ優等馬票、勝馬投票券若ハ之ニ類似ノモノヲ發賣シ又ハ之ニ類似ノ行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役若ハ五千圓以下ノ罰金ニ處シ又ハ其ノ刑ヲ併科ス

第三十四條　法人又ハ人ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ第二十七條又ハ第三十條第一號若ハ第三號ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ其ノ法人又ハ人ハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第三十五條　第二十七條竝ニ第三十條第一號及第三號ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第三十六條　前二條ノ場合ニ於テハ懲役ノ刑ニ處スルコトヲ得ズ

第三十七條　鍛錬競技ノ施行者又ハ鍛錬馬競走ノ施行委員第十六條、第十七條又ハ第十八條第四號ノ規定ニ依ル行政官廳ノ命令ニ違反シタルトキハ千圓以下ノ過料ニ處ス

軍用保護馬鍛錬中央會ノ役員第十五條ノ規定ニ依ル勅令又ハ第十七條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタルトキハ千圓以下ノ過料ニ處ス

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前二項ノ過料ニ之ヲ準用ス

第三十八條　本法ニ於テ市町村又ハ市町村長トアルハ市制第六條ノ市及市制第八十二條第三項ノ市ニ在リテハ區又ハ區長トシ町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ町村又ハ町村長ニ準ズベキモノトス

附　則

本法施行ノ期日ハ各規定ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム

軍用保護馬鍛錬中央會ハ本法公布ノ日ニ於テ現ニ優勝馬投票ニ依リ景品券ヲ發行スル競馬施行ノ許可ヲ受ケ居ル畜產組合聯合會又ハ畜產組合ガ第三十三條ノ規定ノ施行ニ關聯シ當該競馬場ニ付爲ス設備ノ處分其ノ他ノ整理ニ關シ勅令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル事業ヲ行フコトヲ得

種馬統制法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十四年三月四日

衆議院議長　小山松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

種馬統制法案

種馬統制法

第一條　本法ハ種馬ヲ整備シ其ノ配合ヲ統制シ以テ馬ノ改良增殖ヲ圖ルコトヲ目的トス

第二條　馬ノ種付事業ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府之ヲ管掌ス

北海道、府縣、畜產組合、畜產組合聯合會其ノ他政府ノ適當ト認ムル者ニ限リ前項ノ規定ニ拘ラズ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ特許ヲ受ケ馬ノ種付事業ヲ行フコトヲ得

第三條　種牡馬ハ總テ國ニ於テ之ヲ所有スルモノトス但シ第七條ノ規定ニ依リ指定セラレタル種牡馬ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第四條　政府ハ種牡馬タルベキ資質アル馬ヲ選定スル爲命令ノ定ムル所ニ依リ毎年公共團體又ハ私人ノ所有（以下民有ト稱ス）ニ係ル牡馬ノ檢定ヲ行ヒ之ニ合格シタルモノヲ候補種牡馬ニ指定スルコトヲ得

第五條　政府ハ國有ノ種牡馬ヲ整備スル爲毎年度豫算ノ範圍內ニ於テ所要ノ頭數ヲ限リ民有ノ候補種牡馬ヲ購買ス

第六條　政府ハ必要ニ應ジ國有ノ牡馬ヲ候補種牡馬ニ、國有ノ牡馬又ハ候補種牡馬ヲ種牡馬ニ決定ス

第七條　政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ第二條第二項ノ特許ヲ受ケタル者ノ所有スル牡馬又ハ候補種牡馬ヲ種牡馬ニ指定スルコトヲ得

第八條　種牡馬ニ非ザレバ種付ニ供用スルコトヲ得ズ

第九條　種牡馬又ハ候補種牡馬ニハ去勢ヲ行フコトヲ得ズ

第十條　政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ國有ノ種牡馬又ハ候補種牡馬ヲ北海道、府縣、畜產組合又ハ畜產組合聯合會ニシテ第二條第二項ノ特許ヲ受ケタルモノニ無償ニテ貸付スルコトヲ得

第十一條　政府必要アリト認ムルトキハ第二條第二項ノ特許ヲ受ケタル者ニ對シ種牡馬ノ飼養管理又ハ種付ニ關スル設備ノ改善ヲ命ジ其ノ他監督上必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第十二條　政府ハ第二條第二項ノ特許ヲ受ケタル者ノ行爲ガ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ特許ヲ取消シ又ハ種牡馬ノ種付ニ關スル業務ヲ停止シ若ハ制限スルコトヲ得

第十三條　政府ハ優良種牝馬タルベキ資質アル馬ヲ選定スル爲命令ノ定ムル所ニ依リ毎年明ケ二歲ノ民有ノ牝馬ノ檢定ヲ行ヒ之ニ合格シタルモノヲ候補優良種牝馬ニ指定スルコトヲ得

政府ハ前項ノ檢定ヲ受クル者ニ對シ勅令ノ定ムル所ニ依リ手當及旅費ヲ給ス

第十四條　政府必要アリト認ムルトキハ所有者又ハ命令ヲ以テ定ムル者ノ申請ニ依リ明ケ三歲以上ノ民有ノ牝馬ノ檢定ヲ行フ

政府ハ前項ノ檢定ニ合格シタル馬ヲ優良種牝馬又ハ候補優良種牝馬ニ指定スルコトヲ得

第十五條　政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ候補優良種牝馬ヲ優良種牝馬ニ指定スルコトヲ得

第十六條　政府馬ノ改良增殖ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ馬ノ配合ノ統制上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第十七條　政府ハ種付ヲ爲スコト不適當ト認ムル牝馬ニ付命令ノ定ムル所ニ依

リ其ノ種付ヲ制限スルコトヲ得

第十八條　政府必要アリト認ムルトキハ優良種牝馬又ハ候補優良種牝馬ノ所有者其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ニ對シ當該馬ノ飼養管理又ハ種付ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十九條　政府ハ學術研究ノ爲ニスル馬ノ種付ニ付テハ命令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第二十條　政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ政府ノ貸付シタル種牡馬若ハ候補種牡馬ヲ飼養スル者又ハ優良種牝馬若ハ候補優良種牝馬ヲ飼養スル者ニ對シ補助金ヲ交付スルコトヲ得

第二十一條　種牡馬、候補種牡馬、優良種牝馬又ハ候補優良種牝馬ハ政府ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ輸出シ又ハ移出スルコトヲ得ズ

第二十二條　政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ毎年民有ノ種牡馬、候補種牡馬、優良種牝馬又ハ候補優良種牝馬ノ檢査ヲ行ヒ之ニ合格セザルモノニ付其ノ指定ヲ取消スコトヲ得

第二十三條　民有ノ種牡馬、候補種牡馬、優良種牝馬又ハ候補優良種牝馬ガ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ指定ハ效力ヲ失フ

一　國有ト爲リタルトキ

二　輸出又ハ移出セラレタルトキ

三　前二號ノ外命令ヲ以テ定ムル場合

第二十四條　市町村長ハ命令ノ定ムル所ニ依リ種牡馬、候補種牡馬、優良種牝馬又ハ候補優良種牝馬ニ指定セラレタル馬ニ付馬籍ニ其ノ旨記載スベシ其ノ指定ヲ取消サレタル馬又ハ其ノ指定ノ效力ヲ失ヒタル馬ニ付亦同ジ

前項ノ市町村長トハ市制第六條ノ市及市制第八十二條第三項ノ市ニ在リテハ區長トシ町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ町村長ニ準ズベキモノトス

第二十五條　第二十一條ノ規定ニ違反シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第二條第二項ノ特許ヲ受ケズシテ馬ノ種付事業ヲ行ヒタル者

二　第八條ノ規定ニ違反シタル者

三　第二條第二項ノ特許ヲ受ケタル者ニシテ第十六條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタルモノ

四　第二條第二項ノ特許ヲ受ケタル者ニシテ第十六條ノ規定ニ依ル處分ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタルモノ

第二十七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　第九條ノ規定ニ違反シタル者

二　第十一條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

三　第十一條ノ規定ニ依ル處分ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者

四　第十二條ノ規定ニ依ル業務ノ停止又ハ制限ニ違反シタル者

第二十八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　第十三條第一項ノ檢定又ハ第二十二條ノ檢査ニ應ゼザル者

二　第十三條第一項ノ檢定又ハ第二十二條ノ檢査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者

三　第二條第二項ノ特許ヲ受ケタル者以外ノ者ニシテ第十六條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタルモノ

四　第二條第二項ノ特許ヲ受ケタル者以外ノ者ニシテ第十六條ノ規定ニ依ル處分ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタルモノ

五　第十七條ノ規定ニ依ル種付ノ制限ニ違反シタル者

六　第十八條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

第二十九條　法人又ハ人ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ第二十五條、第二十六條第二號若ハ第三號、第二十七條第一號、第二號若ハ第四號又ハ前條第一號、第三號、第五號若ハ第六號ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ其ノ法人又ハ人ハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第三十條　第二十五條、第二十六條第二號及第三號、第二十七條第一號、第二號及第四號竝ニ第二十八條第一號、第三號、第五號及第六號ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第三十一條　前二條ノ場合ニ於テハ懲役ノ刑ニ處スルコトヲ得ズ

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

政府ハ當分ノ內勅令ノ定ムル所ニ依リ島嶼ヲ指定シ本法ノ全部又ハ一部ヲ施行セザルコトヲ得

種牡馬檢査法ハ之ヲ廢止ス

本法施行前種牡馬檢査法ニ依ル檢査ニ合格シ本法施行ノ際現ニ同法ノ種牡馬タルモノハ第七條ノ規定ニ依リ種牡馬ニ指定セラレタルモノト看做ス

本法施行ノ際現ニ馬ノ種付事業ヲ行フ者又ハ其ノ事業ヲ承繼シタル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法施行ノ日ヨリ一年間ヲ限リ引續キ其ノ事業ヲ行フコトヲ得

前項ノ者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受ケ前項ノ期間經過後引續キ其ノ事業ヲ行フコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル許可ノ申請ヲ爲シタル者ハ其ノ申請ニ對スル許可又ハ不許可ノ處分ノ日迄引續キ其ノ事業ヲ行フコトヲ得

政府ハ勅令ヲ以テ定ムル期間內ニ限リ第十條ノ規定ニ拘ラズ國有ノ種牡馬又ハ候補種牡馬ヲ北海道、府縣、畜産組合又ハ畜産組合聯合會ニ無償ニテ貸付スルコトヲ得

本法施行前種牡馬檢査法ノ罰則ヲ適用スベカリシ行爲ニ付テハ仍其ノ罰則ニ依ル

馬匹去勢法第一條中「種牡馬」ノ下ニ「又ハ候補種牡馬」ヲ加フ

馬匹去勢法第二條ヲ左ノ如ク改ム

第二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル牡馬ニハ去勢ノ施行ヲ猶豫ス

一　疾病又ハ發育不全ニ因リ去勢ヲ行フニ堪ヘスト認メタルモノ

二　學術研究ノ爲行政官廳ノ許可ヲ得タルモノ

三　前二號ノ外命令ヲ以テ定ムルモノ

馬匹去勢法第四條第三號中「種牡馬ニシテ檢査合格ノ證明ノ效力ヲ失ヒタルモノ」ヲ「種牡馬又ハ候補種牡馬ニシテ其ノ指定ヲ取消サレ又ハ指定ノ效力ヲ失ヒタルモノ」ニ改ム

馬匹去勢法第九條中「種牡馬檢査法」ヲ「種馬統制法中種牡馬又ハ候補種牡馬ニ關スル規定」ニ改ム

競馬法ノ臨時特例ニ關スル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十四年三月四日

衆議院議長　小山松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

競馬法ノ臨時特例ニ關スル法律案

競馬法第八條第一項ノ規定ニ依リ日本競馬會ガ政府ニ納付スベキ金額ハ同項ノ制限ニ拘ラズ其ノ賣得金ノ額ノ百分ノ十一・五以內ニ於テ命令ノ定ムル金額トス

前項ノ規定ニ依ル政府ニ納付スベキ金額ト競馬法第九條ノ規定ニ依ル賣得步合金額トノ合計ハ賣得金ノ額ノ百分ノ十八ヲ超ユルコトヲ得ズ

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法ハ支那事變終了後其ノ翌年十二月三十一日迄ニ之ヲ廢止スルモノトス

（國務大臣櫻內幸雄君演壇ニ登ル）

○國務大臣（櫻內幸雄君）　只今議題トナリマシタ軍馬資源保護法案外二法律案ノ提案理由ヲ申上ゲタイト存ジマス、先ヅ軍馬資源保護法案及種馬統制法案ニ付テ御說明申上ゲマス、今次ノ支那事變ニ依リ我ガ國トシテハ未曾有ノ多數ノ馬ガ徵發セラレ、支那各地ニ於テ軍馬トシテ大規模ニ各種ノ作戰ニ供用セラレマシタ結果、軍事上ニ於テハ勿論、産業上ニ於テモ幾多貴重ナル經驗ヲ得タノデアリマス、右支那事變ノ經驗ト、最近軍備各般ノ施設ニ一大變革ヲ來シマシタ等ノ事情ニ依リ、陸軍ノ馬政ニ關スル要望ノ次第モアリマシテ、此ノ際廣義國防ノ見地ニ立チ、有事ノ際ニ於テ國軍所要ノ軍馬ノ供給ヲ容易ナラシムルト共ニ、努メテ産業上ニ及ス支障ヲ輕減致シマス爲ニハ、一面ニ於テ日滿等ヲ通シ、馬ノ生産及分布ノ調整ヲ圖リ、以テ馬資源ノ培養充實ニ努メマスルト共ニ、他面國內ニ於キマシテ、國內保有馬ノ資質及能力ノ向上、馬ノ生産力ノ擴充ヲ圖リ、以テ馬政上遺憾ナキヲ期スルコトヲ緊要ト認ムルノデアリマス、仍テ國內保有馬ノ資質及能力ノ向上ヲ圖ル方策トシテ玆ニ軍馬資源保護法ヲ制定シ、又馬ノ生産力ヲ擴充スル方策ト致シマシテ種馬統制法ヲ制定シ、國防上特ニ必要トスル馬ノ資質ノ向上ヲ圖ルト共ニ、有能馬ノ造成ニ努メムトスルモノデアリマス、而シテ軍馬資源保護法案ノ主要ナル內容ト致シマシテハ、國防上特ニ必要トスル馬ヲ軍用保護馬ニ指定シ、之ガ飼養管理ヲ十分ナラシムル爲、飼養費ノ一部ニ對シ助成ヲ爲シ、又軍用保護馬ニハ一定ノ鍛錬ヲ行ハシメ、常ニ軍馬タル必要ナル能力ヲ充實セシムルト共ニ、軍馬ノ資質ニ關スル知識ノ普及ニ資スル爲、鍛錬馬競走ノ施行ヲ認メ、且軍馬資源確保ノ爲、輸移出ニ付政府ノ許可ヲ要スルコトトシ、尙又軍用保護馬鍛錬中央會ヲ設置スル等ノ規定ヲ設ケマシテ、軍馬資源ノ保護充實ヲ圖ルコトヲ目的ト致シテ居ルノデアリマス、種馬統制法案ノ主要ナル內容ト致シマシテハ、優良ナル種牡馬及種牝馬ヲ整備充實スルト共ニ其ノ配合ヲ統制シ、以テ馬ノ改良增殖ヲ圖ルコトヲ目的ト致シ、之ガ爲種牡馬及ビ候補種牡馬ノ制度、優良種牝馬及候補優良種牝馬ノ制度、馬ノ種付事業ノ特許制度等ヲ設クルコトトシテ居ルノデアリマシテ、種牡馬ハ之ヲ國有トシ、又優良種牝馬等ノ飼養者ニ對シテハ保護助成ノ途ヲ講ズルノ外、生産資源確保ノ爲、其ノ輸移出ニ付政府ノ許可ヲ要スルコトトシ、以上ノ制度ノ運用ニ依リマシテ馬ノ改良增殖上遺憾ナキヲ期シタイト存ズルノデアリマス、次ニ競馬法ノ臨時特例ニ關スル法律案ニ付テ御說明申上ゲマス、今次支那事變ノ推移ニ對處シ、併セテ最近ニ於ケル競馬施行ノ實況ニ鑑ミマシテ、此ノ際競馬法ニ依ル政府納付金ニ關シ所要ノ改正ヲ加フルノ要アリト認メマシテ、右ニ關シ過般馬政調査會ニ對シテ諮問ヲ致シ、其ノ答申ニ基イテ本法案ヲ立案致シタモノデアリマシテ、競馬法ニ依ル政府納付金率及ビ之ニ關聯スル勝馬投票券ノ賣得金ニ對スル控除率ニ關シ、臨時的ニ必要ナル改正ヲ加ヘムトスルモノデアリマス、以上ガ軍馬資源保護法案、種馬統制法案及競馬法ノ臨時特例ニ關スル法律案提出ノ理由ノ大要デアリマス、何卒御審議ノ上速カニ御協贊アラムコトヲ希望致シマス

○議長（伯爵松平賴壽君）　質疑者ガゴザイマス、通告ノ順ニ依リマシテ御許シ致シマス、大河內輝耕子爵

○子爵大河內輝耕君　簡單デゴザイマスカラ、此ノ席カラ……

○議長（伯爵松平賴壽君）　宜シウゴザイマス

○子爵大河內輝耕君　私ハ內務大臣ニ質問シタイ、此ノ軍馬資源保護法案ニ付キマシテハ衆議院デ修正ニナリマシタ、此ノ修正ニ付キマシテ政府ハ御同意デアルヤ否ヤ、其ノ點ヲ伺ヒタイ、尙御同意アルニシテモ、ナイニシテモ、其ノ理由ヲ併セテ伺ヒタイ

（國務大臣侯爵木戶幸一君演壇ニ登ル）

○國務大臣（侯爵木戶幸一君）　大河內サンニ御答ヲ致シマス、此ノ軍馬資源保護法案ニ付キマシテ衆議院ハ修正ヲ致シタノデアリマスガ、此ノ修正ニ對シマシテハ政府ハ此ノ際同意致シ兼ネル次第デアリマス、其ノ理由ト致シマシテハ、內務省ノ關係ニ於キマシテ、所謂馬券ヲ買ヒマスル者ニ對シマシテ地方稅又ハ之ニ代ル寄附金ノ制度ヲ存置致シマスコトハ相當理由ノアルコトデアルト考ヘマスルシ、又此ノ所謂馬券ヲ買ヒマスル者ノ擔稅力竝ニ他ノ奢侈的ノ課稅トノ間ノ均衡其ノ他ニ考ヘマシテ、之ニ課稅スルノハ何等差支ナイト思ハレマス、從前此ノ地方稅ヲ課シ、又ハ之ニ代リマスル寄附金ヲ收納シテ居リマシタ地方團體ノ財政ニ付テモ相當影響ガアリマスノデ、此ノ際此ノ修正ニハ應ジ兼ネル次第デアリマス

○子爵大河內輝耕君　仰セノ通リ此ノ問題ハ財政上相當ノ關係モアルノミナラズ、次ノ問題トシテ統制ノ上カラモ重大ナ問題ダト私ハ考ヘル、ドウカ此ノ委員會ノ議ヲ進メラレルニ付キマシテモ十分其ノ點ヲ考慮ノ中ニ入レテ御審議ヲ願ヒタイト存ジマス、是デ質問ハ終了致シマシタ

○議長（伯爵松平賴壽君）　土方寧君

（土方寧君演壇ニ登ル）

○土方寧君　只今議題ニ上ッテ居リマスル三號乃至五號ノ中ノ一番オ終ヒノ競馬法ノ法案デアリマスガ、是ハマア現行ノ競馬法ヲ基礎トシタモノデアリマシテ、之ニ付テ兎ヤ角言フ考デハアリマセヌ、現行ノ競馬法ト云フノハ、所謂馬券附競馬法デアリマス、是ハ私ハ思想ヲ惡化スルモノデアルカラ斷然廢スベキモノデアルト固ク豫テカラ信ジテ居ルノデアリマス、長イコトハ申シマセヌガ、日淸戰爭ノ時分ニ、日本ノ馬匹ト云フモノハ非常ニ貧弱ナモノデアッタノデ、ソレカラ後、馬匹改良ノ必要ヲ感ジテ馬政局ガ出來、其ノ改良ノ方法トシテ、馬券附競馬ヲ行フヤウニナッタ、日露戰爭ノ時ニハ幾分改良サレタ結果ガ見エタト云フコトデアリマス、日露戰爭後大變ニ繁昌シタ時分ニ、人心ガ輕佻浮薄ニ流レテ、馬券附競馬ト云フモノガ盛ニ行ハレタノデアリマスガ、其ノ弊害ヲ御憂慮遊バサレタノデアリマセウ、明治天皇カラ戊申詔書ヲ拜スルヤウニナッタノデアリマス、時ノ政府ハ其ノ戊申詔書ノ御趣旨ニ基イテデアリマセウ、馬券附競馬法ヲ斷然廢シマシタ、處ガ何回デアリマスカ知ラヌガ、大正十一年カラ十二年ニ跨ル議會デ、矢張リ馬匹ノ改良ヲスルノニハ競馬ヲ盛ニシナケレバナラヌ、競馬ヲ盛ニスルニハ、馬券附デナケレバイケヌト云フノデ提案サレタ、其ノ時ニ私ハ極力反對シマシタガ、仕甲斐ガナクテ今日行ハレテ居ル、ソレカラ又地方ニモ色々ノ小規模ノモノガ段段殖エマシテ、私ハ都會ノ人心ガ隨分惡化シテ居ルト思ヒマスガ、ソレニ比スレバ實ニ堅實ナ農村ノ住民ニ對シテ、多ク競馬ハ郡部デ行

ハレマスカラ、都會ノ近クデモ何程害ヲ及シテ居ルカ分ラヌ、私ハ長イコトハ申シマセヌガ、何事ニ付テモ思想ガ根本デアリマス、思想改善、善導ト云フコトハドノ内閣デモ常ニ仰シヤル、斯ウ云フ時局ニ際シテハ尚更必要デアリマス、私ノ考デハ、此ノ馬券附競馬ト云フモノハ賭博類似ノモノト思フ、賭博トハ申シマセヌ、賭博ハ維新前カラ國禁デアリマス、處ガナカ〳〵根絶スルコトハムヅカシイ、支那人ハ賭ケガ好キデ、麻雀ナント云フモノハ賭ケノ道具ダサウデアリマスガ、是ガ輸入セラレテ、近頃都會等……東京ナンゾデモ隨分麻雀倶樂部ガ澤山アルヤウデスシ、斯ウ云フ風ナ國禁ノ賭ケ事ヲスルト云フコトハ、ソレト類似ノ馬券附競馬ヲ公許シテ居ルト云フコトガ、一大原因ヲ爲シテ居ルト思フ、國民ハソレ程惡イト思ッテ居ナイ、是ハ大變ナ間違ヒト私ハ思ヒマス、馬匹改良ノ爲ニハ競馬ガ必要、競馬ヲ盛ニスル爲ニハ馬券ノ賣買ヲ許サナケレバナラヌト言ヒマシテモ、人心ヲ惡化スルモノデアルナラバ比較ニナラヌ、輕重顚倒シタ話デ、是程人ヲ馬鹿ニシタ考ハナイト思ヒマス、馬匹ノ改良ガ必要デモ人心ガ惡化シタラドウナリマセウ、是程人ヲ馬鹿ニシタヤリ方ハナイト私ハ考ヘル、ソレデ此ノ件ニ付キマシテ、總理大臣ガ非常ニ國民思想ニハ深甚ノ關心ヲ持ッテ居ラル、コトハ豫テ承知シテ居リマス、デスカラ文部大臣ハ先刻迄御出席デアリマシタガ御歸リデアリマシタカラ他日デ宜シウゴザイマスガ、是ハ教育ノ方ノ主管デアリマスカラ、總理大臣ト文部大臣ニ馬券附競馬ヲ許スト云フコトガ、思想ヲ惡化セシムルモノデアルカラ宜クナイト云フヤウニ私ハ考ヘマスガ、サウ御考ニナラナイカ、廢スベキモノト思フケレドモ存置シテ置イテモ宜イト思ッテ居ラレルノカ、斯ウ云フコトヲ御尋シマシテ、抽象的ニ御伺ヒスル代リニ、私ノ考デハ明治十五年ノ陸海軍軍人ニ賜ッタ、　明治天皇カラ賜ッタ軍人ニ對スル勅諭デス、ソレカラ二十三年ノ十月、欽定憲法ガ實施セラレル一年數箇月後、是ハ大イニ前後ノ關係ニ意味ガアルト思ヒマスガ、教育勅語、ソレカラ先刻申シマス所ノ戊申詔書、時ノ政府ハ之ニ依ッテ殿シタノデアリマス、ソレカラ大正十二年ノ關東震火災ノ後、御承知ノ通リ下町ハ殆ド灰燼ニ歸シ、人心ガ混亂狀態ニ陷ッタ時ニ、　大正天皇カラ精神作興ノ詔書ヲ拜シテ居マス、此ノ中デ教育勅語ニ反スルト御考ハナイカト申シタヲ、ソレハ直グニ御答ガ出來ルト思フ、多分總理大臣ニ於テハ暗誦シテ御イデダラウト思フ、暗誦シテ御イデニナラナケレバ大變ナ不心得ダト思フ、　明治天皇御自身、拳拳服膺云々ト云フコトガアリマスガ、私ノ考デハ立憲治下ニ於テ、　天皇ヲ輔弼シ奉ル重責ニアル國務大臣ハ、毎日朝何デスネ、殆ド教育勅語ト云フモノノ暗誦、復習ヲサレル積リデ職ニ當ルモノト思ッテ行カナケレバナラナイ、是ハ御承知デアリマセウガ、十五年ノ軍人ニ對スル勅諭ト云フモノハ長イモノデアル、是ハ陸軍大臣ハ大體ノ趣意ハ御承知ダラウケレドモ、文句ハ一々御存ジナイト思ヒマス、私讀ンデ見マシタガ大變長イ、戊申詔書デアリマストカ、大正十二年ノ精神作興ノ詔書ト云フヤウナモノニ反シナイカト云フタ時ニ、其ノモノヲ御覽ニナラナケレバ御答ガ出來ナイト思ヒマスカラ、即答ハ促サナイ、此ノ四ツノモノニ照ラシ、之ニ示サレテ居ル所ノ一貫シタル御聖旨ニ反スルモノデナイカ、私ハ反スルト思フノデスケレドモ、反スルモノナラ無論廢シナケレバナラヌ、其ノ點ヲ今日ハモウ即答ハ出來ナイダラウト思フガ、是等ノモノヲ見ナイデ御答ハ出來マスマイ、之ニ反シナイカ、見ナイデハ即答ハ出來マスマイ、ソレダカラ、サウ云フ質問ヲシテ、後日御回答ヲ得タイト思ヒマス

○子爵戸澤正己君　只今議題トナリマシタ軍馬資源保護法案外二件ハ重要ナル法案デアリマスルガ故ニ、其ノ特別委員ノ數ヲ十八名トシ、其ノ委員ノ氏名ヲ議長ニ一任スルノ動議ヲ提出致シマス

○子爵秋田重季君　贊成戸澤子爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平頼壽君）　御異議ナイト認メマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス

（丸山書記官朗讀）

軍馬資源保護法案外二件特別委員

侯爵西鄕從德君　侯爵四條隆德君
伯爵溝口直亮君　子爵高倉篤麿君
子爵曾我祐邦君　子爵西尾忠方君
大島健一君　宇佐美勝夫君
男爵千田嘉平君　堀切善次郎君
男爵關義壽君　男爵佐藤達次郎君
太田大三郎君　金杉英五郎君
高島順作君　三橋彌君
宇野勇作君　米原章三君

○議長（伯爵松平頼壽君）　日程第六、裁判所構成法改正法律案、日程第七、檢察廳法案、衆議院提出、第一讀會、是等ノ兩案ヲ一括シテ議題ト爲スコトニ御異議ハゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平頼壽君）　御異議ナイト認メマス

裁判所構成法改正法律案

右本院提出案及送付候也

昭和十四年三月二日

衆議院議長　小山松壽

貴族院議長伯爵松平頼壽殿

裁判所構成法

第一章　總則

第一條　裁判所ハ民事及刑事ヲ裁判ス

第二條　裁判所ハ區裁判所、地方裁判所、控訴院及大審院トス

司法事務上必要アルトキハ法律ヲ以テ或ル地方裁判所ヲ民事ノミヲ管轄スル裁判所又ハ刑事ノミヲ管轄スル裁判所ト爲スコトヲ得

第三條　裁判所ニ判事ヲ置ク

第四條　裁判ニ關スル職務ノ執行ニ付テハ判事ハ獨立ノ地位ヲ有ス

第五條　區裁判所ニ於テハ判事單獨ニテ裁判ヲ爲ス

地方裁判所ニ於テハ三人ノ判事、控訴院ニ於テハ五人ノ判事、大審院ニ於テハ七人ノ判事ヲ以テ組織シタル部ニ於テ合議ニ依リ裁判ヲ爲ス

第六條　裁判所ノ設置及管轄區域ハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第七條　裁判所ニ於テハ國語ヲ用フ

第八條　司法年度ハ一月一日ニ始マリ十二月三十一日ニ終ル

第九條　裁判所ノ事務章程ハ司法大臣之ヲ定ム

大審院ハ自ラ事務章程ヲ定ム

第二章　區裁判所

第十條　區裁判所ハ民事訴訟ニ於テ左ノ事件ニ付管轄權ヲ有ス

一　千圓ヲ超過セサル金額又ハ價額千圓ヲ超過セサルモノニ關スル事件

二　價額ニ拘ラス左ノ事件

イ　住家其ノ他ノ建物ノ賃貸借關係ニ基ク事件

ロ　占有ノミニ關スル事件

反訴ニ付テハ前項ノ規定ニ拘ラス訴訟法ノ定ムル所ニ依リ管轄權ヲ有ス

第十一條　區裁判所ハ刑事訴訟ニ於テ左ノ事件ニ付管轄權ヲ有ス但シ豫審ヲ經タルモノ及特ニ大審院ノ管轄ニ屬セシメタルモノハ此ノ限ニ在ラス

一　拘留又ハ科料ニ該ル罪ノ事件

二　短期一年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ヲ除ク外有期ノ懲役若ハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ノ事件

第十二條　區裁判所ハ破産事件ニ付管轄權ヲ有ス

第十三條　區裁判所ハ法律ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外非訟事件ニ付管轄權ヲ有ス

非訟事件中登記事務ハ錄事ヲシテ之ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第十四條　區裁判所ノ權限及權限行使ノ方法ハ本法ニ規定スルモノノ外訴訟法其ノ他ノ法律ノ定ムル所ニ依ル

第十五條　司法大臣ハ區裁判所ノ事務ノ一部ヲ同一地方裁判所ノ管轄區域內ノ他ノ區裁判所ヲシテ取扱ハシムルコトヲ得

第十六條　司法大臣ハ區裁判所ノ事務ノ一部ヲ取扱ハシムル爲區裁判所出張所ヲ設置スルコトヲ得

第十七條　判事二人以上ヲ置キタル區裁判所ニ於テハ司法大臣ハ其ノ一人ヲ監督判事トス

第十八條　監督判事又ハ判事一人ノ區裁判所ニ於テハ其ノ判事ハ其ノ廳ノ行政事務ヲ掌ル

監督判事差支アルトキハ他ノ判事席次ノ順序ニ依リ之ヲ代理ス

判事一人ノ區裁判所ニ於テ其ノ判事差支アルトキハ裁判事務ノ代理ヲ爲ス判事之ヲ代理ス

第十九條　區裁判所ノ事務ハ各判事ニ分配ス

第二十條　判事差支アルトキハ其ノ區裁判所又ハ他ノ區裁判所判事之ヲ代理ス

第二十一條　區裁判所ニ於ケル事務分配及代理順序ハ地方裁判所長每年豫メ之ヲ定ム

第二十二條　司法大臣ハ區裁判所カ事務ヲ取扱フコトヲ得サル事由ヲ生シタル場合ニ於テハ地方裁判所長ノ每年豫メ定メタル順序ニ依リ他ノ區裁判所ヲシテ代リテ之ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第二十三條　事務ノ分配ハ司法年度中之ヲ變更セス但シ判事事務分擔著シク不均衡ト爲リタル場合又ハ轉職、退職、疾病其ノ他ノ事故ニ因リ引續キ差支ヲ生シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十四條　區裁判所判事差支ノ爲或ル事件ヲ取扱フコトヲ得ス裁判所ノ判事中其ノ代理ヲ爲シ得ヘキ者ナキ場合ニ於テ其ノ事件緊急ナリト認ムルトキハ地方裁判所長ハ地方裁判所判事ニ其ノ代理ヲ命スルコトヲ得

第三章　地方裁判所

第二十五條　地方裁判所ハ民事訴訟ニ於テ左ノ事件ニ付管轄權ヲ有ス

一　第一審トシテ

區裁判所ノ管轄ニ屬スルモノヲ除キ其ノ他ノ事件

二　第二審トシテ

イ　區裁判所ノ判決ニ對スル控訴

ロ　區裁判所ノ決定及命令ニ對スル抗告

第二十六條　地方裁判所ハ刑事訴訟ニ於テ左ノ事件ニ付管轄權ヲ有ス

一　第一審トシテ

區裁判所ノ管轄ニ屬スルモノ及特ニ大審院ノ管轄ニ屬セシメタルモノヲ除キ其ノ他ノ事件

二　第二審トシテ

イ　區裁判所ノ判決ニ對スル控訴

ロ　大審院ノ管轄ニ屬スルモノヲ除ク外區裁判所ノ決定命令ニ對スル抗告

第二十七條　地方裁判所ハ非訟事件ニ關スル區裁判所ノ決定及命令ニ對スル抗告ニ付管轄權ヲ有ス

第二十八條　地方裁判所ニ一又ハ二以上ノ民事部及刑事部ヲ置ク

部ノ數ハ司法大臣之ヲ定ム

第二十九條　地方裁判所ニ所長ヲ置ク

部ニ部長ヲ置ク

第三十條　所長ハ部長ト爲リ且其ノ廳ノ行政事務ヲ、部長ハ裁判長ト爲リ部ノ行政事務ヲ掌ル

第三十一條　所長差支アルトキハ席次ノ順序ニ依リ部長之ヲ代理ス

部長差支アルトキハ席次ノ順序ニ依リ部員之ヲ代理ス

第三十二條　豫審事務ヲ取扱フヘキ判事ハ司法大臣之ヲ命ス

第三十三條　地方裁判所ノ事務ハ之ヲ各部各豫審判事及其ノ他ノ各判事ニ分配ス各部長、部員ノ配置及所長、部長、部員差支アル場合ニ於ケル代理ノ順序ハ部長及上席判事ト協議シテ所長每年豫メ之ヲ定ム

第三十四條　地方裁判所判事差支ノ爲或ル事件ヲ取扱フコトヲ得ス且其ノ廳ノ判事中代理ヲ爲シ得ヘキ者ナキ場合ニ於テ所長ハ其ノ管轄區域內ノ區裁判所判事又ハ豫備判事ニ其ノ代理ヲ命スルコトヲ得但シ豫備判事ハ各部一人ニ限ル

前項ノ場合ニ於テ緊急ノ必要アリト認ムルトキハ控訴院長ハ管轄區域內ノ他ノ地方裁判所判事ヲシテ豫審事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第三十五條　民事地方裁判所及刑事地方裁判所アル場合ニ於テ裁判事務上必要アリト認ムルトキハ控訴院長ハ民事地方裁判所又ハ刑事地方裁判所ノ判事ニ其ノ管轄區域ヲ同シクスル刑事地方裁判所又ハ民事地方裁判所ノ判事ノ代理ヲ命スルコトヲ得

第三十六條　第十四條及第二十三條ノ規定ハ地方裁判所ニ之ヲ準用ス

第三十七條　司法大臣ハ地方裁判所ノ事務ノ一部ヲ取扱ハシムル爲支部ヲ設置スルコトヲ得

支部ノ上席ノ部長又ハ上席ノ判事ハ支部ノ行政事務ヲ掌ル

上席ノ部長又ハ上席ノ判事差支アル場合ニ之ヲ代理スヘキ者ハ司法大臣ノ定ムル所ニ依ル

第四章　控訴院

第三十八條　控訴院ハ左ノ事件ニ付管轄權ヲ有ス

一　地方裁判所ノ第一審判決ニ對スル控訴

二　大審院ノ管轄ニ屬スルモノヲ除ク外地方裁判所ノ第一審トシテ爲シタル決定及命令ニ對スル抗告

第三十九條　控訴院ニ院長ヲ置ク

部ニ部長ヲ置ク

第四十條　院長ハ部長ト爲リ且其ノ廳ノ行政事務ヲ、部長ハ裁判長ト爲リ其ノ部ノ行政事務ヲ掌ル

第四十一條　院長ハ判事差支ノ爲或ル事件ヲ取扱フコトヲ得ス且其ノ廳ノ判事

中代理ヲ爲シ得ヘキ者ナキ場合ニ於テ其ノ事件緊急ナリト認ムルトキハ管轄區域內ノ地方裁判所判事ニ其ノ代理ヲ命スルコトヲ得但シ豫備判事ニ之ヲ命スルコトヲ得ス

第四十二條　第十四條、第二十三條、第二十八條、第三十一條及第三十三條ノ規定ハ控訴院ニ之ヲ準用ス

第五章　大審院

第四十三條　大審院ハ左ノ事件ニ付管轄權ヲ有ス

一　終審トシテ

イ　上告

ロ　地方裁判所ノ第二審トシテ爲シタル決定及命令竝控訴院ノ決定及命令ニ對スル抗告

ハ　地方裁判所又ハ區裁判所ノ爲シタル上告棄却ノ決定ニ對スル抗告

二　第一審ニシテ終審トシテ

刑法第七十三條、第七十五條、第七十七條乃至第七十九條及第八十一條乃至第八十九條ノ罪竝治安維持法第一條第一項ノ罪及其ノ未遂ノ罪ノ事件

第四十四條　大審院ニ院長ヲ置ク

部ニ部長ヲ置ク

第四十五條　院長ハ部長ト爲リ且其ノ廳ノ行政事務ヲ掌ル

部長ハ裁判長ト爲リ其ノ部ノ行政事務ヲ掌ル

第四十六條　院長ハ判事差支ノ爲或ル事件ヲ取扱フコトヲ得ス且其ノ廳ノ判事中代理ヲ爲シ得ヘキ者ナキ場合ニ於テ事件緊急ナリト認ムルトキハ控訴院ノ判事ニ其ノ代理ヲ命スルコトヲ得

第四十七條　法律上ノ點ニ付爲シタル大審院ノ裁判ハ當該事件ノ裁判ニ付裁判所ヲ羈束ス

第四十八條　大審院ニ於テ法律上ノ點ニ付前ニ爲シタル裁判ト異ル裁判ヲ爲サントスルトキハ事件ノ性質ニ從ヒ民事若ハ刑事ノ總部又ハ民事及刑事ノ總部ヲ聯合シタル部ニ於テ審判ヲ爲ス

聯合審判ハ當該事件ヲ擔任スル部ノ請求ニ因リ院長之ヲ命ス

第四十九條　聯合部ハ相當ト認ムルトキハ當該法律上ノ點ニ限リ裁判ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ聯合審判ノ請求ヲ爲シタル部ニ於テ事件ヲ完結ス

第五十條　聯合部ノ審判ハ聯合部ノ判事三分ノ二以上關與シテ之ヲ爲ス

前項ノ場合ニ於テハ聯合部ノ判事中席次最モ高キ者ヲ部長トス但シ院長ハ自ラ部長ト爲ルコトヲ得

第五十一條　院長ハ第一審ニシテ終審タルヘキ刑事ノ事件ニ付其ノ廳ノ判事ニ豫審ヲ命ス但シ便宜ニ依リ他ノ裁判所ノ判事ニ豫審ヲ命スルコトヲ得

第五十二條　第十四條、第二十三條、第二十八條、第三十一條及第三十三條ノ規定ハ大審院ニ之ヲ準用ス

第六章　判事

第五十三條　判事ハ三年以上辯護士トシテ實務ニ從事シタル者ヨリ之ヲ任ス

第五十四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ判事ニ任セラルルコトヲ得ス

一　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

二　破産ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者

三　懲戒處分ニ因リ免官セラレタル者又ハ辯護士法ニ依リ除名セラレタル者

第五十五條　新ニ判事ニ任セラレタル者ハ一時豫備判事トシテ地方裁判所ニ勤務セシムルコトヲ得

第五十六條　判事ハ終身官トシ親任、勅任又ハ奏任トス

第五十七條　大審院長ハ親任判事ヲ以テ之ヲ親補ス

控訴院長、大審院部長及地方裁判所長ハ司法大臣ノ上奏ニ因リ勅任判事ヲ以テ之ヲ補シ其ノ他ノ判事ノ職ハ勅任判事又ハ奏任判事ヲ以テ司法大臣之ヲ補ス

第五十八條　五年以上判事タル者ニ非サレハ控訴院判事ニ補セラルルコトヲ得ス

第五十九條　十年以上判事タル者ニ非サレハ大審院判事ニ補セラルルコトヲ得ス

第六十條　判事タル資格ヲ有スル者ニシテ左ニ掲クルモノノ在職ハ前二條ノ適用ニ付テハ之ヲ判事ノ在職ト看做ス

一　朝鮮總督府判事

二　臺灣總督府法院判官

三　關東廳法院判官

四　南洋廳判事

五　實務ニ從事スル辯護士

六　帝國大學令又ハ大學令ニ依ル大學ニ於テ民事又ハ刑事ニ關スル法律學ノ教授ヲ擔任スル教授、助教授又ハ專任教員

七　行政裁判所長官及行政裁判所評定官

八　司法次官、司法省各局長及司法書記官

九　訴訟事件及非訟事件ニ關スル事務竝登記事務ニ從事スル領事官

第六十一條　判事ハ在職中左ノ諸件ヲ爲スコトヲ得ス

一　公然政事ニ關係スルコト

二　政黨ノ黨員又ハ政社ノ社員ト爲ルコト

三　帝國議會ノ議員又ハ道府縣市町村ノ議會ノ議員トナルコト

四　行政事務ニ關スル公務ヲ兼ヌルコト

五　商業ヲ營ミ又ハ營利ヲ目的トスル法人ノ役員ト爲ルコト

第六十二條　司法事務上必要アルトキハ司法大臣ハ控訴院又ハ大審院ノ總會ノ決議ニ依リ判事ニ轉職ヲ命スルコトヲ得

第六十三條　判事身體又ハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルコト能ハサルニ至リタルトキハ控訴院又ハ大審院ノ總會ノ決議ニ依リ之ニ退職ヲ命スルコトヲ得

疾病其ノ他已ムコトヲ得サル事由アル場合ニ於テハ本人ノ願ニ依リ前項ノ規定ニ拘ラス之ニ退職ヲ命スルコトヲ得

第六十四條　前二條ノ總會ニ關スル事項ハ司法大臣之ヲ定ム

第六十五條　法律ヲ以テ裁判所ノ組織ヲ變更シ又ハ之ヲ廢シタル場合ニ於テ其ノ判事ヲ補スヘキ闕位ナキトキハ司法大臣ハ之ニ俸給ノ半額ヲ給シテ闕位ヲ待タシム

第六十六條　判事禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ官ヲ失フ

第六十七條　判事ハ第六十二條ノ規定ニ依ルノ外懲戒ノ處分ニ因ルニ非サレハ其ノ意ニ反シテ轉官、轉職又ハ免官セラルルコトナシ

前項ノ規定ハ豫備判事ニ對シ勤務スヘキ裁判所ノ變更ヲ命スルコトヲ妨ケス

第六十八條　判事ニ對シ懲戒訴追又ハ刑事訴追ヲ始メタル爲法律上職務ヲ執ラシムルコト能ハサル期間內ハ俸給ノ三分ノ一ヲ減ス

第六十九條　判事ノ席次ハ司法大臣之ヲ定ム

第七章　錄事及通譯官吏

第七十條　裁判所ニ錄事ヲ置ク錄事ハ奏任又ハ判任トス

錄事ハ民事及刑事ノ審理ニ關スル準備、法廷ノ立會、調書ノ作成、記錄ノ整理保管其ノ他法令ノ定ムル事務ヲ取扱フ

錄事ハ前項ノ外上官ノ指揮ヲ承ケ裁判所ニ於ケル諸般ノ事務ヲ取扱フ

第七十一條　地方裁判所及錄事二人以上ヲ置キタル區裁判所ニ監督錄事、控訴院及大審院ニ錄事長ヲ置ク

錄事ノ職ハ司法大臣之ヲ補ス

監督錄事及錄事長ハ上官ノ命ヲ受ケ錄事ノ事務ヲ監督ス

第七十二條　裁判所ニ通譯官及通譯吏ヲ置クコトヲ得

通譯官ハ奏任、通譯吏ハ判任トス

通譯官及通譯吏ノ職ハ司法大臣之ヲ補ス

第八章　開廷

第七十三條　開廷ハ裁判所又ハ支部ニ於テ之ヲ爲ス

事務ノ處理上必要ナル事情アルトキハ司法大臣ノ許可ヲ受ケ管轄區域內ノ一定ノ場所ニ於テ開廷ヲ爲スコトヲ得

第七十四條　開廷中秩序ノ維持及審判ノ指揮ハ裁判長ニ屬ス

第七十五條　開廷ハ定數ノ判事列席シテ之ヲ爲ス但シ裁判所ノ長ハ裁判長ノ請求ニ因リ補充判事ヲ命スルコトヲ得

補充判事ハ審判ニ立會ヒ判事差支アルトキ之ニ代ルモノトス

第七十六條　安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ對審ノ公開ヲ停ムルコトヲ得

第七十七條　對審ノ公開ヲ停ムルノ決定ハ理由ヲ開示シテ之ヲ言渡スヘシ

第七十八條　判決ノ言渡ハ之ヲ公開ス但シ理由ニ付テハ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ公開ヲ停ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第七十九條　公開ヲ停メタルトキト雖裁判長ハ相當ト認ムル者ノ入廷ヲ許スコトヲ得

第八十條　裁判長ハ未成年者、裁判所ノ威儀ニ適セサル風體ヲ爲ス者其ノ他秩序維持ニ害アリト認ムル者ノ入廷ヲ禁シ又ハ之ヲ退廷セシムルコトヲ得

第八十一條　裁判長ハ法廷ノ秩序維持ノ爲必要ト認ムルトキハ開廷中審判ヲ妨ケ又ハ不當ノ行狀ヲ爲ス者ヲ閉廷迄留置スルコトヲ得

裁判所ハ決定ヲ以テ前項ノ違反者ヲ五百圓以下ノ過料又ハ五日以內ノ勾置ニ處スルコトヲ得

留置命令及其ノ理由ハ之ヲ訴訟記錄ニ記載スヘシ

第八十二條　過料又ハ勾置ヲ命スル裁判ニ對シテハ該事件ノ手續ニ從ヒ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

勾置ニ付テハ勾留ニ關スル規定ヲ準用ス

第八十三條　第八十一條ノ場合ニ於テ其ノ行爲刑ヲ科スヘキモノナルトキ及法廷ニ於テ僞證其ノ他ノ犯罪アリタルトキハ裁判長ハ事實ヲ明確ニシテ事件ヲ檢事ニ送致スヘシ此ノ場合ニ於テ必要アルトキハ裁判長ハ違反者ノ逮捕ヲ命スルコトヲ得

第八十四條　第七十四條及第七十六條乃至前條ノ規定ハ區裁判所判事、豫審判事及受命判事ノ審判ニ之ヲ準用ス但シ裁判長ノ權限ハ審判ヲ爲シタル判事之ヲ行フ

第八十五條　豫審判事又ハ受命判事ノ爲シタル過料又ハ勾置ノ裁判ニ對シテハ二日以內ニ判事所屬ノ裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

抗告ハ異議ニ付テノ裁判ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得

第八十六條　法廷ニ於テハ審判ニ關與スル判事、檢事、錄事及辯護士ハ一定ノ制服ヲ著ス

第九章　合議

第八十七條　裁判ノ合議ハ裁判長之ヲ開キ且之ヲ整理ス

合議ハ之ヲ公行セス

合議ノ顚末竝各判事ノ意見及多少ノ數ニ付テハ嚴ニ祕密ヲ守ルヘシ

第八十八條　合議ニ於テハ席次低キ判事ヨリ順次意見ヲ陳述シ裁判長ヲ終トス

判事ハ意見ノ陳述ヲ拒ムコトヲ得ス

第八十九條　裁判ハ過半數ノ意見ニ依ル

數額ニ付判事ノ意見三說以上ニ分レ何レモ過半數ニ達セサルトキハ過半數ニ達スル迄多額ノ意見ヨリ順次寡額ニ合算ス

刑事ニ付意見三說以上ニ分レ何レモ過半數ニ達セサルトキハ過半數ニ達スル迄被告人ニ不利ナル意見ヨリ順次利益ナル意見ニ合算ス

第十章　司法行政ノ監督

第九十條　司法大臣ハ裁判所ヲ監督ス

大審院長、控訴院長及地方裁判所長ハ各其ノ廳及管轄區域內ノ下級裁判所ヲ監督ス

區裁判所ノ監督判事又ハ一人ノ判事ハ其ノ廳ヲ監督ス

第九十一條　司法大臣及監督權アル判事ハ不適當ナル事務取扱ニ關シテ注意ヲ爲シ且職務ノ內外ヲ問ハス地位ニ不相應ナル行狀ニ對シテ諭告ヲ爲スコトヲ得但シ處分前當該官吏ヲシテ辯明ヲ爲サシムヘシ

第九十二條　前條ノ規定ハ法令ニ依ル懲戒ノ事由アル場合ニハ之ニ適用セス

第九十三條　本章ノ規定ニ依ル監督權ノ行使ハ事件ノ裁判ニ關スル判事ノ職務ノ實行ニ影響ヲ及ホスコトナシ

第九十四條　司法事務取扱ノ延滯又ハ不適當ナル事務取扱ニ對シテハ利害關係人ハ司法大臣又ハ監督權アル判事ニ之ヲ申告スルコトヲ得

附　則

第九十五條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九十六條　裁判所構成法施行條例ハ之ヲ廢ス

第九十七條　本法施行前裁判所ノ受理シタル訴訟ノ管轄ニ付テハ從前ノ規定ニ依ル但シ本法ニ依リ其ノ裁判所ノ管轄

ニ屬スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第九十八條　本法施行前ニ聯合審判ヲ命シタル事件ノ聯合審判ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

第九十九條　本法施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依ル判事ノ資格ヲ有スル者ハ本法施行後ト雖仍其ノ資格ヲ有ス大審院判事又ハ控訴院判事ニ補セラルル資格ニ付亦同シ

第百條　舊刑法ノ重罪ノ刑又ハ禁錮ニ處セラレタル者ハ第五十四條ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルモノト看做ス

第百一條　本法施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ裁判所書記タル資格ヲ有スル者ハ本法施行後ト雖仍裁判所錄事タル資格ヲ有ス

第百二條　本法施行前從前ノ規定ニ依リ罰金又ハ拘留ニ處スヘキ行爲ヲ爲シタル者ニシテ本法施行ノ際未タ其ノ裁判ヲ受ケサルモノハ本法ニ依リ處罰ス但シ過料ノ額ハ從前ノ規定ニ依ル額ヲ超ユルコトヲ得ス

第百三條　本法施行前從前ノ規定ニ依リ爲シタル罰金又ハ拘留ノ裁判及陳述禁止處分ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

第百四條　本法施行ノ際現ニ裁判所勤務ノ裁判所書記又ハ書記長ハ別ニ辭令ヲ用ヒス同官等俸給ヲ以テ裁判所錄事ニ任セラレ各其ノ現ニ勤務スル裁判所ノ錄事又ハ錄事長ニ補セラレタルモノトス

第百五條　違警罪卽決例、明治三十二年法律第七十號及刑事交涉法ハ本法ノ爲ニ變更ヲ受クルコトナシ

第百六條　他ノ法令中裁判所勤務ノ裁判所書記ニ關スル規定ハ之ヲ裁判所錄事ニ關スル規定トシ裁判所書記長ニ關スル規定ハ之ヲ裁判所錄事長ニ關スル規定トス

第百七條　裁判所勤務ノ裁判所書記ノ職務上ノ行爲ハ之ヲ裁判所錄事ノ職務上ノ行爲ト看做ス

檢察廳法案

右本院提出案及送付候也

昭和十四年三月二日

衆議院議長　小山松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

檢察廳法案

檢察廳法

第一條　檢察廳ハ區檢察廳、地方檢察廳、檢察院及總檢察院トス

司法大臣ハ地方檢察廳ノ事務ノ一部ヲ取扱ハシムル爲支廳ヲ設置スルコトヲ得

第二條　檢察廳ニ檢事ヲ置ク

第三條　檢事ハ公訴ヲ實行シ、裁判ノ執行ヲ指揮シ其ノ他公益上必要ナル事項ニ付法令ノ定ムル職權ヲ行フ

第四條　區檢察廳ノ檢事ハ區裁判所ノ管轄ニ屬スル事項、地方檢察廳ノ檢事ハ地方裁判所ノ管轄ニ屬スル事項、檢察院ノ檢事ハ控訴院ノ管轄ニ屬スル事項、總檢察院ノ檢事ハ大審院ノ管轄ニ屬スル事項ニ付其ノ職務ヲ行フ

第五條　總檢察院ニ檢事總長、檢察院ニ檢事長、地方檢察廳ニ檢事正ヲ置ク

檢事二人以上ヲ置キタル區檢察廳ニ於テハ其ノ一人ヲ首席檢事トス

第六條　檢事總長ハ總檢察院ノ長、檢事長ハ檢察院ノ長、檢事正ハ地方檢察廳ノ長ト爲リ各其ノ廳ノ行政事務ヲ掌ル

支廳ノ上席ノ檢事、首席檢事又ハ檢事一人ノ支廳若ハ區檢察廳ニ於テハ其ノ檢事ハ檢事正ノ命ヲ承ケ其ノ廳ノ行政事務ヲ掌ル

第七條　檢察廳ノ設置及管轄區域ハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第八條　檢事ハ左ニ揭グル者ヨリ之ヲ任ズ

一　三年以上辯護士トシテ實務ニ從事シタル者

二　判事及判事タル資格ヲ有スル朝鮮總督府判事及朝鮮總督府檢事

第九條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ檢事ニ任ゼラルルコトヲ得ズ

一　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

二　破産ノ宣告ヲ受ケ復權セザル者

三　懲戒ノ處分ニ因リ免官セラレタル者又ハ辯護士法ニ依リ除名セラレタル者

第十條　檢事ハ親任、勅任又ハ奏任トス

檢事總長ハ親任檢事ヲ以テ之ヲ親補ス

檢事長ハ司法大臣ノ上奏ニ因リ勅任檢事ヲ以テ之ヲ補シ其ノ他ノ檢事ノ職ハ勅任檢事及奏任檢事ヲ以テ司法大臣之ヲ補ス

第十一條　新ニ檢事ニ任ゼラレタル者ハ一時豫備檢事トシテ區檢察廳又ハ地方檢察廳ニ勤務セシムルコトヲ得

第十二條　檢事總長年齡六十五年、其ノ他ノ檢事ノ職ニ在ル者年齡六十三年ニ達シタルトキハ退職トス但シ司法大臣ハ三年以內ノ期限ヲ定メ仍在職セシムルコトヲ得

第十三條　檢事身體又ハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルコト能ハザルニ至リタルトキハ總檢察院ノ總會ノ決議ニ依リ之ニ退職ヲ命ズルコトヲ得

疾病其ノ他已ムコトヲ得ザル事由アル場合ニ於テハ本人ノ願ニ依リ前項ノ規定ニ拘ラズ之ニ退職ヲ命ズルコトヲ得

第一項ノ總會ニ關スル事項ハ司法大臣之ヲ定ム

第十四條　法律ヲ以テ檢察廳ノ組織ヲ變更シ又ハ之ヲ廢シタル場合ニ於テ其ノ檢事ヲ補スベキ闕位ナキトキハ司法大臣ハ之ニ俸給ノ半額ヲ給シテ闕位ヲ待タシム

第十五條　檢事禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ官ヲ失フ

第十六條　檢事ハ懲戒ノ處分ニ因ルニ非ザレバ其ノ意ニ反シテ轉官又ハ免官セラルルコトナシ

檢事ノ懲戒ニ關シテハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條　檢事ニ對シ懲戒訴追又ハ刑事訴追ヲ始メタル爲法律上職務ヲ執ラシムルコト能ハザル期間內ハ俸給ノ三分ノ一ヲ減ズ

第十八條　檢察廳ニ錄事ヲ置ク

錄事ハ奏任又ハ判任トス

錄事ハ書類ノ作成、記錄ノ整理保管其ノ他法令ノ定ムル事務ヲ取扱フ

錄事ハ前項ノ外上官ノ指揮ヲ承ケ檢察廳ニ於ケル諸般ノ事務ヲ取扱フ

第十九條　地方檢察廳及錄事二人以上ヲ置キタル區檢察廳ニ首席錄事、檢察院及總檢察院ニ錄事長ヲ置ク

錄事ノ職ハ司法大臣之ヲ補ス

首席錄事及錄事長ハ上官ノ命ヲ承ケ錄事ノ事務ヲ監督ス

第二十條　檢察廳ニ通譯官及通譯吏ヲ置クコトヲ得

通譯官ハ奏任、通譯吏ハ判任トス

通譯官及通譯吏ノ職ハ司法大臣之ヲ補ス

第二十一條　司法大臣ハ公訴ノ實行ニ付檢事ヲ指揮ス

檢事總長以外ノ檢事ニ對スル指揮ハ檢事總長ヲ經由シテ之ヲ爲ス但シ緊急ノ必要アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項但書ノ規定ニ依リ指揮ヲ爲シタルトキハ司法大臣ハ檢事總長ニ其ノ指揮ヲ爲シタル事項ヲ通告ス

第二十二條　檢事總長、檢事長及檢事正ハ公訴ノ實行ニ付各其ノ廳及管轄區域內ノ檢察廳ノ檢事ヲ指揮ス

檢事總長、檢事長及檢事正ハ公訴ノ實行ニ付各其ノ廳及管轄區域內ノ檢察廳ニ於テ或ル檢事ノ取扱フベキ事務ヲ自ラ取扱ヒ又ハ之ヲ他ノ檢事ニ移スコトヲ得

第二十三條　檢事ハ犯罪ノ捜査其ノ他職務ノ執行ニ付司法警察官吏ヲ指揮ス

第二十四條　司法大臣ハ檢察廳ヲ監督ス

第二十五條　檢事總長、檢事長及檢事正ハ各其ノ廳及管轄區域內ノ檢察廳ヲ監督ス

區檢察廳ノ首席檢事又ハ一人ノ檢事ハ其ノ廳ヲ監督ス

第二十六條　檢事總長、檢事長及檢事正ハ各其ノ廳ノ檢事ヲシテ監督事務ノ一部ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第二十七條　檢事總長、檢事長、檢事正、支廳ノ上席ノ檢事又ハ首席檢事差支アルトキハ各其ノ廳ノ檢事席次ノ順序ニ依リ之ヲ代理ス

檢事一人ノ支廳又ハ區檢察廳ノ檢事差支アルトキハ其ノ廳ヲ監督スル檢事正ハ其ノ職務ヲ代理スベキ者ヲ命ズ

檢事ノ席次ハ司法大臣之ヲ定ム

第二十八條　司法警察官及司法警察官ノ職務ヲ行フ者ニ對スル監督ハ前四條ノ例ニ依ル

第二十九條　檢察廳ノ事務取扱ノ延滯又ハ不適當ナル執務若ハ處分ニ對シテハ利害關係人ハ直近上級ノ監督官廳ニ抗告ヲ爲スコトヲ得但シ裁判所ニ於テ取消又ハ變更ヲ命ズルコトヲ得ル檢事ノ處分ハ此ノ限ニ在ラズ

抗告ハ原檢察廳ヲ經由シテ書面ヲ以テ之ヲ爲スベシ

第三十條　抗告ニ對スル處分ハ抗告申立人ニ通知スベシ

第三十一條　檢察廳ノ事務章程ハ司法大臣之ヲ定ム

附　則

第三十二條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十三條　區檢察廳ノ檢事ノ職務ハ當分ノ內司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ヲシテ之ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第三十四條　本法施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ檢事タル資格ヲ有スル者ハ本法施行後ト雖仍其ノ資格ヲ有ス

第三十五條　從前ノ檢事局ハ第八條ノ適用ニ付テハ之ヲ檢察廳ト看做ス

第三十六條　舊刑法ノ重罪ノ刑又ハ禁錮ニ處セラレタル者ハ第九條ノ適用ニ付テハ之ヲ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルモノト看做ス

第三十七條　本法施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ裁判所書記タル資格ヲ有スル者ハ本法施行後ト雖仍檢察廳錄事タル資格ヲ有ス

第三十八條　本法施行ノ際現ニ檢事ノ職ニ在ル者ハ別ニ辭令ヲ用ヒズ同官等俸給ヲ以テ檢事ニ任ゼラレタルモノトシ各區裁判所檢事局ノ檢事ハ當該區檢察廳ノ檢事ニ、各地方裁判所檢事局ノ檢事又ハ檢事正ハ當該地方檢察廳ノ檢事又ハ檢事正ニ、各控訴院檢事局ノ檢事又ハ檢事長ハ當該檢察院ノ檢事又ハ檢事長ニ、大審院檢事局ノ檢事又ハ檢事總長ハ總檢察院ノ檢事又ハ檢事總長ニ補セラレタルモノトス

本法施行ノ際現ニ休職中ノ檢事又ハ退職檢事タル者ハ別ニ辭令ヲ用ヒズ各休職又ハ退職ノ儘檢事ニ任ゼラレタルモノトス

第三十九條　本法施行ノ際現ニ檢事局勤務ノ裁判所書記ハ別ニ辭令ヲ用ヒズ同俸給ヲ以テ檢察廳錄事ニ任ゼラレタルモノトシ各區裁判所檢事局勤務ノ書記ハ當該區檢察廳ノ錄事ニ、各地方裁判所檢事局勤務ノ書記ハ當該地方檢察廳ノ錄事ニ、各控訴院檢事局勤務ノ書記ハ當該檢察院ノ錄事ニ、大審院檢事局勤務ノ書記ハ總檢察院ノ錄事ニ補セラレタルモノトス

第四十條　本法施行前區裁判所檢事局ニ於テ受理シタル事件ハ其ノ地ノ區檢察廳ニ於テ之ヲ處理ス

本法施行前地方裁判所檢事局ニ於テ受理シタル事件ハ其ノ地ノ地方檢察廳ニ於テ之ヲ處理シ地方裁判所支部檢事局ニ於テ受理シタル事件ハ其ノ地ノ地方檢察廳支廳ニ於テ之ヲ處理ス

本法施行前控訴院檢事局ニ於テ受理シタル事件ハ其ノ地ノ檢察院ニ於テ之ヲ處理ス

本法施行前大審院檢事局ニ於テ受理シタル事件ハ總檢察院ニ於テ之ヲ處理ス

第四十一條　他ノ法令中檢事局ニ關スル規定ハ之ヲ檢察廳ニ關スル規定トス

他ノ法令中區裁判所檢事局ニ關スル規定ハ之ヲ區檢察廳ニ關スル規定トシ地方裁判所檢事局又ハ地方裁判所支部檢事局ニ關スル規定ハ之ヲ地方檢察廳又ハ其ノ支廳ニ關スル規定トシ控訴院檢事局ニ關スル規定ハ之ヲ檢察院ニ關スル規定トシ大審院檢事局ニ關スル規定ハ之ヲ總檢察院ニ關スル規定トス

第四十二條　他ノ法令中區裁判所ノ檢事ニ關スル規定ハ之ヲ區檢察廳ノ檢事ニ關スル規定トシ地方裁判所ノ檢事又ハ檢事正ニ關スル規定ハ之ヲ地方檢察廳ノ檢事又ハ檢事正ニ關スル規定トシ控訴院ノ檢事又ハ檢事長ニ關スル規定ハ之ヲ檢察院ノ檢事又ハ檢事長ニ關スル規定トシ大審院ノ檢事又ハ檢事總長ニ關スル規定ハ之ヲ總檢察院ノ檢事又ハ檢事總長ニ關スル規定トス

第四十三條　他ノ法令中第一審裁判所、上訴裁判所、控訴裁判所、上告裁判所又ハ管轄裁判所ノ檢事ニ關スル規定ハ之ヲ各當該裁判所ノ管轄ニ屬スル事項

ニ付職務ヲ行フ檢察廳ノ檢事ニ關スル規定トス

他ノ法令中裁判ヲ爲シタル裁判所ノ檢事ニ關スル規定ハ之ヲ其ノ裁判所ノ管轄ニ屬スル事項ニ付職務ヲ行フ檢察廳ノ檢事ニ關スル規定トス

第四十四條　他ノ法令中檢事所屬ノ裁判所ニ關スル規定ハ之ヲ當該檢事ノ職務ヲ行フベキ事項ニ付管轄權ヲ有スル裁判所ニ關スル規定トス

第四十五條　他ノ法令中檢事局勤務ノ裁判所書記ニ關スル規定ハ之ヲ檢察廳ノ事ニ關スル規定トス

第四十六條　從前ノ檢事又ハ檢事局勤務ノ裁判所書記ノ職務上ノ行爲ハ各之ヲ檢事又ハ檢察廳錄事ノ職務上ノ行爲ト看做ス

○子爵戸澤正巳君　只今上程セラレマシタ裁判所構成法改正法律案外一件ハ、關聯スル所ガゴザイマルガ故ニ、人事調停法案ノ特別委員ニ併託セラレムコトノ動議ヲ提出致シマス

○子爵秋田重季君　賛成

○議長（伯爵松平頼壽君）　戸澤子爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平頼壽君）　御異議ナイト認メマス

○議長（伯爵松平頼壽君）　次會ノ議事日程ハ決定次第當報ヲ以テ御通知ニ及ビマス、本日ハ是ニテ散會致シマス

午後六時二十九分散會

内閣印刷局

明治二十五年三月三十一日　第三種郵便物認可

官報　號外　昭和十四年三月十日

○第七十四回帝國議會貴族院議事速記錄第二十號

昭和十四年三月九日（木曜日）午前十時十一分開議

議事日程　第二十號

昭和十四年三月九日

午前十時開議

第一　鑛業法中改正法律案（政府提出、衆議院送付）　第一讀會

第二　北海道拓殖銀行法中改正法律案（政府提出、衆議院送付）　第一讀會

第三　金資金特別會計法中改正法律案（政府提出、衆議院送付）　第一讀會

第四　國境取締法案（政府提出、衆議院送付）　第一讀會

第五　軍用資源秘密保護法案（政府提出、衆議院送付）　第一讀會

第六　地方鐵道法中改正法律案（政府提出、衆議院送付）　第一讀會

第七　軌道法中改正法律案（政府提出、衆議院送付）　第一讀會

第八　朝鮮事業公債法中改正法律案（政府提出、衆議院送付）　第一讀會

第九　朝鮮私設鐵道補助法中改正法律案（政府提出、衆議院送付）　第一讀會

第十　朝鮮鐵道株式會社所屬金泉慶北安東間鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案（政府提出、衆議院送付）　第一讀會

第十一　昭和十二年法律第五十七號中改正法律案（政府提出、衆議院送付）　第一讀會

第十二　大正十四年法律第五十一號中改正法律案（政府提出、衆議院送付）　第一讀會

第十三　裁判所構成法中改正法律案（政府提出）　第一讀會

第十四　街路照明統制ニ關スル請願　會議

第十五　北海道上磯郡木古內村ニ漁港築設ノ請願　會議

第十六　北海道上磯郡上磯町ニ船入澗築設ノ請願　會議

第十七　室蘭本線豐浦、定山溪鐵道定山溪ノ兩驛間鐵道敷設ノ請願　會議

第十八　北海道網走郡網走町北六條ニ無集配三等郵便局設置ノ請願　會議

第十九　北海道網走、羅臼港間ニ命令補助航路開設ノ請願　會議

第二十　北千島、網走港間ニ命令補助航路開設ノ請願　會議

第二十一　北海道網走區裁判所廳舍竝官舍改築ノ請願　會議

第二十二　豫定線松山附近、佐川間鐵道速成ノ請願　會議

第二十三　幌內線幾春別、根室本線新得ノ兩驛間鐵道敷設ノ請願　會議

第二十四　北海道市來知郵便局ニ集配事務開始ノ請願　會議

第二十五　釜石線鐵道速成ノ請願　會議

○議長（伯爵松平頼壽君）　報告ヲ致サセマス

（丸龜書記官朗讀）

一昨七日本院ニ於テ可決シタル左ノ政府提出案ハ卽日裁可ヲ奏請シ又可決ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ

昭和十四年度歲入歲出總豫算竝昭和十四年度各特別會計歲入歲出豫算

豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

朝鮮事業公債法中改正法律案可決報告書

朝鮮私設鐵道補助法中改正法律案可決報告書

朝鮮鐵道株式會社所屬金泉慶北安東間鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案可決報告書

鑛業法中改正法律案

北海道拓殖銀行法中改正法律案

金資金特別會計法中改正法律案

國境取締法案

軍用資源秘密保護法案

地方鐵道法中改正法律案

軌道法中改正法律案

昨八日軍馬資源保護法案特別委員會ニ於テ當選シタル正副委員長ノ氏名左ノ如シ

委員長　伯爵溝口直亮君

副委員長　男爵千田嘉平君

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

請願文書表（第七回報告）

同日內閣總理大臣ヨリ左ノ通第六十四回帝國議會政府委員仰付ラレタル旨ノ通牒ヲ受領セリ

大藏省所管事務政府委員

大藏書記官　迫水久常君

○議長（伯爵松平頼壽君）　昨八日、內親王殿下御命名ノ儀ヲ行ハレマシタニ付、議

ノ進行ヲ止メタルトキ又ハ裁判所ニ於テ訴ノ取下ヲ認メタルトキ又ハ裁判所ノ時效ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷ノ效力ヲ生ゼサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七十四條ノ二　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ三　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ四　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ五　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ六　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ七　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ八　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ九　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ十　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ十一　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ十二　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ十三　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ十四　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ十五　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ十六　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ十七　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ十八　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ十九　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ二十　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ二十一　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ二十二　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ二十三　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ二十四　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ二十五　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ二十六　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ二十七　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ二十八　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ二十九　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ三十　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ三十一　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ三十二　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ三十三　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ三十四　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ三十五　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ三十六　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ三十七　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ三十八　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ三十九　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ四十　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ四十一　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ四十二　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ四十三　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ四十四　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ四十五　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ四十六　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ四十七　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ四十八　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ四十九　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ五十　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ五十一　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ五十二　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ五十三　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ五十四　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ五十五　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ五十六　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ五十七　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ五十八　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ五十九　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ六十　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ六十一　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ六十二　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ六十三　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ六十四　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ六十五　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ六十六　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ六十七　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ六十八　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ六十九　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ七十　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ七十一　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ七十二　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ七十三　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ七十四　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ七十五　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ七十六　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ七十七　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ七十八　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ七十九　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ八十　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ八十一　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ八十二　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ八十三　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ八十四　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ八十五　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ八十六　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ八十七　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ八十八　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ八十九　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ九十　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ九十一　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ九十二　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ九十三　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ九十四　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ九十五　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ九十六　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ九十七　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ九十八　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ九十九　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

第七十四條ノ百　鑛業ニ關スル爭ニ付裁判所ノ確定判決アリタルトキハ其ノ爭ニ關スル權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ時效ノ中斷ニ關スル規定ニ從ヒ訴ノ提起ニ付時效ノ中斷アリタルモノト看做ス

（丸池書記官朗讀）

鑛業法中改正法律案特別委員

侯爵西鄕吉之助君　子爵秋田重季君
眞野文二君　男爵東鄕安君
男爵伊藤一郞君　古島一雄君
內藤久寬君　中村圓一郞君
武井覺太郞君

○議長（伯爵松平賴壽君）　日程第二、北海道拓殖銀行法中改正法律案、日程第三、金資金特別會計法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、是等ノ二案ヲ一括致シマシテ議題トスルコトニ御異議ハゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス、松村大藏政務次官

北海道拓殖銀行法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十四年三月七日

衆議院議長　小山松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

北海道拓殖銀行法中改正法律案

北海道拓殖銀行法中左ノ通改正ス

第八條ノ三　貸付金ノ年賦償還ニ付テハ五箇年以內ニ於テ据置年限ヲ定ムルコトヲ得

年賦償還期限前天災事變其ノ他避クヘカラサル事故アリタルトキハ五箇年以內ニ於テ更ニ据置年限ヲ定ムルコトヲ得

第二十七條中第一號ヲ削リ第二號ヲ第一號トシ以下順次一號宛繰上グ

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

金資金特別會計法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十四年三月七日

衆議院議長　小山松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

金資金特別會計法中改正法律案

金資金特別會計法中左ノ通改正ス

第三條第二項ヲ左ノ如ク改ム

前項ノ規定ニ依リ本資金ヲ使用セントスルトキハ其ノ金額ヲ一般會計又ハ他ノ特別會計ノ歲入ニ繰入レ當該會計ノ歲出トシテ拂出スペシ

第四條第一項ヲ左ノ如ク改ム

本資金ハ本會計ニ屬スル經費ヲ支辨スル爲必要ナル金額ヲ除クノ外大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ之ヲ金、國債、產金振興債券、日本產金振興株式會社株式（額面總額二千五百萬圓ヲ限ル）又ハ勅令ノ定ムルモノニ運用スルコトヲ得

第五條中「一般會計」ノ下ニ「又ハ特別會計」ヲ加フ

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（政府委員松村光三君演壇ニ登ル）

○政府委員（松村光三君）　只今議題トナリマシタ北海道拓殖銀行法中改正法律案及金資金特別會計法中改正法律案ニ付キマシテ、提案ノ理由ヲ御說明致シマス、先ヅ北海道拓殖銀行法中改正法律案ニ付テ御說明致シマス、現行法ニ依リマスレバ北海道拓殖銀行ノ營ム普通銀行業務ニ屬スル資金ノ融通總額ニハ制限ガアリマシテ、不動產銀行業務ニ屬スル貸出總額ヲ超過シ得ナイコトニナッテ居ルノデアリマス、然ルニ北海道及樺太ノ開發進展ニ伴ヒ、短期資金ノ需要ハ著シク增加ノ傾向ニアリマシテ、之ガ爲今ヤ同行ニ於キマシテモ、其ノ短期貸出ハ右制限ノ限度ニ達セムトシテ居リマス、今後同行ノ短期資金ノ供給ニ支障ヲ來ス狀態ト相成ッテ居リマスノデ、玆ニ此ノ制限ヲ撤廢シテ、地方金融ノ疏通ニ遺憾ナカラシムルヲ適當ト考ヘルノデアリマス、尙現在同銀行法ニハ年賦貸付ニ付テ据置年限竝ニ中間据置年限ヲ定メ得ルノ規定ヲ缺イテ居ルノデアリマスガ、日本勸業銀行法及農工銀行法ノ例ニ準ジマシテ、之ニ關スル規定ヲ設クルヲ適當ト考ヘマシテ、本案ヲ提出シタ次第デアリマス、次ニ金資金特別會計法中改正法律案ニ付テ御說明致シマス、現下ノ時局ニ顧ミマスルニ、產金ノ增加ヲ圖リ、國際收支ノ改善ニ努ムルハ、喫緊ノ要務ナリト存ジマスル處、之ガ爲ニハ金資金ノ運用範圍ヲ擴張致シマシテ、從來ノ金、國債、產金振興債券又ハ日本產金振興株式會社株式等ニ運用ノ外、勅令ノ定ムルモノニモ運用シ得ルコトトスルナドノ必要ガアリマスルノデ、本法律案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス、以上兩件ニ付キマシテ、何卒速カニ協贊ヲ與ヘラレムコトヲ希望致シマス

○子爵戶澤正己君　只今議題トナリマシタ北海道拓殖銀行法中改正法律案外一件ハ關聯スル所ガゴザイマスルガ故ニ、昭和十四年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案外四件ノ特別委員ニ併託セラレムコトノ動議ヲ提出致シマス

○子爵秋田重季君　贊成

○議長（伯爵松平賴壽君）　戶澤子爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス

○議長（伯爵松平賴壽君）　日程第四、國境取締法案、日程第五、軍用資源祕密保護法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、是等ノ二案ヲ一括シテ議題トナスコトニ御異議ハゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス、八田拓務大臣

國境取締法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十四年三月七日

衆議院議長　小山松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

國境取締法案

國境取締法

第一條　政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ陸接國境（之ニ接續スル領海ノ境界ヲ含ム）ヨリスル人ノ出入ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第二條　政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前條ニ規定スル國境ニ接スル土地又ハ水面ニ付區域ヲ定メ其ノ區域ニ付人ノ出入ヲ制限スルコトヲ得

第三條　第一條ノ規定ニ依ル禁止又ハ制限ニ違反シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

帝國ノ利益ヲ害スル目的ヲ以テ前項ノ罪ヲ犯シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス此ノ場合ニ於テ其ノ犯罪ノ用ニ供シタル物ハ何人ノ所有タルヲ問ハズ之ヲ沒收スルコトヲ得

第四條　第二條ノ規定ニ依ル制限ニ違反シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若ハ科料ニ處ス

外國ニ潛入スル目的ヲ以テ前項ノ罪ヲ犯シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

軍用資源祕密保護法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十四年三月七日

衆議院議長　小山松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

軍用資源祕密保護法案

軍用資源祕密保護法

第一條　本法ハ國防目的達成ノ爲軍用ニ供スル（軍用ニ供スベキ場合ヲ含ム以下之ニ同ジ）人的及物的資源ニ關シ外國ニ祕匿スルコトヲ要スル事項ノ漏泄ヲ防止スルヲ以テ目的トス

第二條　陸軍大臣又ハ海軍大臣（官廳ノ管理ニ屬スルモノニ係ルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣）ハ左ニ揭グルモノニ就キ命令ヲ以テ軍用資源祕密ヲ指定ス但シ公示ヲ不適當トスルモノニ係ル指定ハ當該事項又ハ圖書物件ノ管理者又ハ之ニ準ズベキ者ニ對スル通知ヲ以テ之ヲ爲ス

一　全國（關東州及南洋群島ヲ含ム以下之ニ同ジ）又ハ一地方ニ於ケル軍用ニ供スル重要ナル物資ノ生產額、生產能力、生產能力判定資料タル設備ノ種類別數（之ヲ判定シ得ベキ比率ヲ含ム以下之ニ同ジ）及政府ノ決定シタル生產計畫竝ニ此等ヲ表示スル圖書物件

二　兵器ヲ生產スル工場事業場又ハ之ニ轉用スルコトヲ得ル工場事業場ノ當該兵器ノ生產額、生產能力竝ニ生產能力判定資料タル重要ナル設備ノ種類別數及其ノ設備ニ屬スル從業者ノ總數（之ヲ判定シ得ベキ比率ヲ含ム以下之ニ同ジ）又ハ種類別數竝ニ此等ヲ表示スル圖書物件

三　兵器以外ノ軍用ニ供スル重要ナル物資ヲ生產スル工場事業場又ハ之ニ轉用スルコトヲ得ル工場事業場ノ當該物資ノ生產額、生產能力、生產能力判定資料タル重要ナル設備ノ種類別數及其ノ設備ニ屬スル從業者ノ總數又ハ種類別數竝ニ政府ノ決定シタル生產計畫竝ニ此等ヲ表示スル圖書物件

四　全國又ハ一地方ニ於ケル軍用ニ供スル重要ナル物資ノ貯藏額及貯藏設備ノ貯藏能力、此等ノ判定資料タル重要ナル貯藏設備ノ當該物資ノ貯藏額及貯藏能力、政府ノ決定シタル當該物資ノ貯藏計畫竝ニ此等ヲ表示スル圖書物件

五　政府ガ貯藏セシメタル軍用ニ供スル重要ナル物資ノ貯藏額、政府ガ當該物資ヲ貯藏セシメタル貯藏設備ノ貯藏能力、政府ノ決定シタル當該物資ノ貯藏命令等ニ係ル貯藏計畫竝ニ此等ヲ表示スル圖書物件

六　全國若ハ一地方又ハ重要ナル港灣ニ於ケル軍用ニ供スル重要ナル物資ノ輸入額及政府ノ決定シタル輸入計畫竝ニ此等ヲ表示スル圖書物件

七　全國又ハ一地方ニ於ケル軍用ニ供スル特殊技能者其ノ他ノ重要ナル人的資源ノ總數又ハ種類別數及此等ヲ表示スル圖書物件

八　全國又ハ一地方ニ於ケル軍用ニ供スル航空機、自動車又ハ馬ノ總數又ハ種類別數及此等ヲ表示スル圖書物件

九　軍用ニ供スル重要ナル鐵道ノ輸送能力及輸送能力判定資料タル輸送統計、此等ヲ表示スル圖書物件竝ニ軍用ニ供スル重要ナル鐵道ノ施設又ハ

車輛ニ關スル重要ナル記錄圖表及其ノ内容

十　軍用ニ供スル重要ナル飛行場又ハ其ノ附屬設備ニ關スル重要ナル記錄圖表及其ノ内容

十一　軍用ニ供スル船舶ニ於ケル特殊設備ニ關スル重要ナル記錄圖表及其ノ内容

十二　軍用ニ供スル重要ナル通信連絡系統及其ノ通信能力、此等ヲ表示スル圖書物件竝ニ軍用ニ供スル重要ナル通信設備又ハ其ノ設備ノ通信能力若ハ連絡系統ニ關スル重要ナル記錄圖表及其ノ内容

十三　陸軍大臣若ハ海軍大臣ノ命令若ハ委囑ニ依ル重要ナル試驗研究又ハ軍事上祕匿ヲ要スル發明考案ニ關スル事項及圖書物件

十四　軍事上祕匿ヲ要スル氣象ニ關スル重要ナル事項及圖書物件

十五　特ニ祕匿ノ措置ヲ要スル第二號乃至第五號及第九號乃至第十二號ニ規定スル設備、第十三號ノ試驗研究ニ關スル設備竝ニ此等ノ機構及性能竝ニ此等ヲ表示スル圖書物件

第三條　軍用資源祕密トシテ祕匿スルノ要ナキニ至リタルモノニ付テハ其ノ指定ヲ解除ス

前條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル解除ノ場合ニ之ヲ準用ス

軍用資源祕密ニ關シ政府ノ公表シタルモノアルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ内容ト爲リタル部分ニ限リ其ノ指定ノ解除アリタルモノト看做ス

第四條　陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ軍用資源祕密ニ屬スル圖書物件ニ一定ノ標記ヲ附セシムルコトヲ得

第五條　陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ第二條第十五號ニ該當スル軍用資源祕密ニ屬スル設備ヲ祕匿スル爲必要アルトキハ其ノ管理者又ハ之ニ準ズベキ者ニ對シ當該設備ノ遮蔽其ノ他之ヲ祕匿スルニ必要ナル措置ヲ命ズルコトヲ得

第六條　陸軍大臣又ハ海軍大臣（官廳ノ管理ニ屬スルモノニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣）ハ第二條第十五號ニ該當スル軍用資源祕密ニ屬スル設備ヲ祕匿スル爲必要アルトキハ命令ヲ以テ之ニ付立入又ハ測量、撮影、模寫、模造若ハ錄取又ハ其ノ複寫若ハ複製ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第七條　政府ハ軍用資源祕密ヲ祕匿スル爲特ニ必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ軍用資源祕密ヲ記載スル登記簿ノ閲覽又ハ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ制限スルコトヲ得

第八條　政府ハ第二條第二號又ハ第十五號ニ該當スル軍用資源祕密ヲ祕匿スル爲特ニ必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ法令ニ基ク出願、申請、報告、屆出等ヲ爲シ又ハ立入、檢査、質問等ヲ受クル場合ニ付軍用資源祕密ノ開示又ハ交付ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第九條　陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ第五條ノ規定ニ依ル命令ニ係ル事項ニ關シ當該設備ノ管理者又ハ之ニ準ズベキ者ニ對シ報告ヲ命ジ又ハ當該官吏ヲシテ必要ナル場所ニ立入リ、檢査ヲ爲シ若ハ關係者ニ對シ質問ヲ爲サシムルコトヲ得

第十條　政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ第五條ノ規定ニ依ル命令ニ因リ生ジタル損失ヲ補償ス

前項ノ規定ニ依ル補償金額ニ付不服アル者ハ其ノ補償金額ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三月以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十一條　外國若ハ外國ノ爲ニ行動スル者ニ漏泄シ又ハ公ニスル目的ヲ以テ軍用資源祕密ヲ探知シ又ハ收集シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

第十二條　業務ニ因リ軍用資源祕密ヲ知得シ又ハ領有シタル者之ヲ外國若ハ外國ノ爲ニ行動スル者ニ漏泄シ又ハ公ニシタルトキハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス

外國若ハ外國ノ爲ニ行動スル者ニ漏泄シ又ハ公ニスル目的ヲ以テ軍用資源祕密ヲ探知シ又ハ收集シタル者之ヲ外國若ハ外國ノ爲ニ行動スル者ニ漏泄シ又ハ公ニシタルトキ亦前項ニ同ジ

前二項ニ規定スル原由以外ノ原由ニ因リ軍用資源祕密ヲ知得シ又ハ領有シタル者之ヲ外國若ハ外國ノ爲ニ行動スル者ニ漏泄シ又ハ公ニシタルトキハ十年以下ノ懲役ニ處ス

第十三條　業務ニ因リ軍用資源祕密ヲ知得シ又ハ領有シタル者之ヲ外國人ニ漏泄シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ニ規定スル原由以外ノ原由ニ因リ軍用資源祕密ヲ知得シ又ハ領有シタル者之ヲ外國人ニ漏泄シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條　第二條第二號又ハ第十五號ニ該當スル軍用資源祕密ヲ知得シ又ハ領有シタル者之ヲ他人ニ漏泄シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條　軍用資源祕密ヲ外國又ハ外國ノ爲ニ行動スル者ニ漏泄スル爲之ヲ探知シ、收集シ又ハ漏泄スルコトヲ目的トシテ團體ヲ組織シタル者又ハ其ノ團

體ノ指導者タル任務ニ從事シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

情ヲ知リテ前項ノ團體ニ加入シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス

第十六條　第六條ノ規定ニ依ル禁止又ハ制限ニ違反シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條　第五條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條　第七條ノ規定ニ依ル制限ニ違反シタル者及第九條ノ規定ニ依ル立入若ハ檢査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ又ハ虛僞ノ報告ヲ爲シタル者亦前項ニ同ジ

第十九條　第十一條及第十二條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二十條　第十一條、第十五條又ハ前條ノ罪ヲ犯シタル者未ダ官ニ發覺セザル前自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕シ又ハ免除ス

第二十一條　第五條ノ規定ニ依リ祕匿ノ措置ヲ命ゼラレタル者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ第十七條又ハ第十八條第二項ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第二十二條　第十七條及第十八條第二項ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第二十三條　本法ノ罰則ハ何人ヲ問ハズ本法施行地外ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ亦之ヲ適用ス

第二十四條　軍用資源祕密ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受ケタルトキハ之ヲ他人ニ開示シ若ハ交付シ又ハ公ニスルコトヲ妨ゲズ

第二十五條　軍用資源祕密ニシテ官廳ノ管理ニ屬スルモノニ係ル標記及祕匿ノ措置ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第二十六條　朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ於テハ本法ニ規定スル主務大臣ノ職權ハ勅令ノ定ムル官廳之ヲ行フ

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（國務大臣八田嘉明君演壇ニ登ル）

○國務大臣（八田嘉明君）　只今上程セラレマシタ國境取締法案ニ付キマシテ、提案ノ理由ヲ御說明申上ゲマス、近來朝鮮竝ニ樺太ニ於キマスル陸接國境ノ一部ヲ經マシテ、竊ニ帝國領域ニ出入スル者ガ尠カラズ存スルノデアリマスルガ、斯クノ如キハ防諜上竝ニ公安上憂慮スベキコトニ考ヘラレルノデアリマス、右ノ實情ニ鑑ミマシテ、此ノ際該國境ノ取締ヲ嚴ニ致シ、防諜上竝ニ公安上遺憾ナキヲ期スルノ要アルモノト考ヘルノデアリマス、右申述ベマシタル理由ニ基キマシテ、玆ニ本法律案ヲ提出致シタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上速カニ御協贊アラムコトヲ希望致シマス

○議長（伯爵松平賴壽君）　板垣陸軍大臣

（國務大臣板垣征四郎君演壇ニ登ル）

○國務大臣（板垣征四郎君）　只今上程セラレマシタ軍用資源祕密保護法案ノ提出理由ヲ簡單ニ說明申上ゲマス、今日ノ戰爭ガ所謂國家總力戰デアリマスコトハ今更申上ゲル迄モナイコトデアリマシテ、各國ハ軍備ノ充實ト相俟ッテ、國防重要資源ノ生產力ヲ擴充シ、國家總力ノ增强ヲ圖リマスルト共ニ、是等ニ關スル祕密ニ付キマシテハ、極力防諜ノ措置ヲ講ジテ、單ニ軍機ノ保護ノミニ止マラズ、廣ク戰爭能力ノ祕匿ニ努メテ居リマス一方、他國ノ國防力ニ付キマシテモ、有ラユル方法ヲ以テ之ガ諜知ニ力ヲ致シテ居ルト云フコトガ窺ハレルノデアリマシテ、最近國際情勢ノ緊迫ニ伴ヒ、一層此ノ種ノ行動ガ活潑ニナッタヤウニ察セラレマス、然ルニ我ガ國ニ於キマシテハ、軍機以外ノ國情ニ關スル祕密ヲ保護スベキ法令ノ整備ハ、未ダ十分トハ申シ得ナイノデアリマシテ、此ノ點列國ニ比シテ尙遜色ガアリマスコトハ、所謂總力戰時代ノ要求ニ卽應シテ居ナイト考ヘラレルノデアリマシテ、此ノ際之ガ整備ノ必要ヲ痛感スルモノデアリマス、固ヨリ廣汎多岐ニ亙リマス國防力判定ノ資料ヲ外國ニ祕匿シマス爲ニハ、行政上ノ措置竝ニ國民ノ理解アル協力ニ俟タネバナリマセヌコトハ勿論デアリマスガ、特ニ外國諜報ノ活動ニ對シマシテハ、到底是ノミデハ其ノ十全ヲ期待シ得ナイノデアリマスルカラ、更ニ法律ヲ以テ嚴ニ其ノ取締ヲ致シマスコトガ、此ノ際特ニ必要ナノデアリマス、斯樣ナ次第デアリマスノデ、成ルベク速カニ國家總動員上必要ナル諸般ノ祕密ヲ保護シマス法律ヲ制定シテ、其ノ取締ノ完璧ヲ期シマスルコトヲ理想ト考ヘルノデアリマスガ、斯クテハ其ノ關係シマス所誠ニ廣範圍ナリマスノデ、之ガ法制ノ爲ニ尙愼重ナル研究審議ヲ遂グル必要ガアリマスルカラ、其ノ制定迄ニハ尙相當ノ時日ヲ要スルノデアリマス、從ヒマシテ陸海軍ト致シマシテハ、取敢ズ軍事上最モ密接ナル關係ヲ有シテ居リマスル軍用ニ供スル重要資源ノ祕密保護ニ付キマシテ、防諜上必要ナル法令ヲ整備シマスコトハ、適切ナル處置ト信ズル

モノデアリマス、次ニ本法案ニ於テ保護ノ對象トナリマス秘密ハ、軍用ニ供スル資源中極メテ重要ナ關係ノアルモノノミニ限定シテ居リマスノデ、其ノ全部ガ殆ド從來行政上ノ措置又ハ國民ノ協力ニ依ッテ、應急的ノ防諜對策ヲ講ジテ參ッタ範圍ノモノデアリマス、而シテ本法ハ「スパイ」行爲ノ取締ヲ主ナル目標ト致シマスカラ、外國若シクハ外國ノ爲ニ行動スル者ニ秘密ヲ漏泄シ、又ハ其ノ目的ヲ以テ之ヲ探知收集シ、或ハ之ヲ公ニスル者ヲ主トシテ處罰致シマス外、尙各種ノ規定ヲ設ケマシテ、秘密保護上必要ナル措置ヲ講ジ得ルヤウ致シテ居リマスガ、他面經濟上其ノ他特ニ必要ト認メマス場合ニハ、努メテ支障ノナイヤウニ色々ノ例外規定ヲ設ケテアリマスルカラ、經濟活動其ノ他ニ惡影響ヲ來スヤウナコトハ殆ドアルマイト考ヘテ居リマス、以上申上ゲマシタヤウナ必要性ト趣旨トニ依リマシテ、本法案ヲ立案シ、本議會ニ提出致シマシタ次第デアリマス、何卒速カニ御審議ノ上、御協贊アラムコトヲ希望致シマス

○子爵戶澤正己君　只今上程セラレマシタ國境取締法案外一件ハ、重要ナル法案デアリマスルガ故ニ、此ノ特別委員ノ數ヲ十八名トシ、其ノ指名ヲ議長ニ一任スルノ動議ヲ提出致シマス

○子爵秋田重季君　贊成

○議長（伯爵松平賴壽君）　戶澤子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス

（佐藤書記官朗讀）

國境取締法案外一件特別委員

公爵島津　忠重君　侯爵中御門經恭君
伯爵山田　英夫君　子爵立見　豐丸君
子爵秋月　種英君　子爵谷　儀一君
有吉　忠一君　山川　端夫君
柴田善三郎君　男爵井田　磐楠君
男爵柴山　昌生君　男爵高崎　弓彥君
藤沼　庄平君　石川　三郎君
光永　星郎君　山隈　康君
野村茂久馬君　青木才次郎君

○議長（伯爵松平賴壽君）　日程第六、地方鐵道法中改正法律案、日程第七、軌道法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、是等ノ兩案ハ之ヲ一括シテ議題トナスコトニ御異議ゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス、鐵道大臣

地方鐵道法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十四年三月七日

衆議院議長　小山　松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

地方鐵道法中改正法律案

地方鐵道法中左ノ通改正ス

第六條　削除

第六條ノ二乃至第六條ノ五ヲ削ル

第二十五條　主務大臣ハ公益上必要アリト認ムルトキハ地方鐵道業者ニ他ノ陸上運送事業者ト連絡運輸、直通運輸、運賃協定其ノ他運輸ニ關スル協定ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ設備ノ共用又ハ變更、運輸ノ手續、運賃ノ割合、費用ノ負擔其ノ他ノ事項ニ付協議調ハサルトキハ申請ニ因リ主務大臣之ヲ裁定ス

第三十一條第一項中「ヲ時價ニ依リテ國債券面金額ニ換算シタル金額」ヲ削ル

同條第二項中「建設費ヲ時價ニ依リテ國債券面金額ニ換算シタル金額ニ達セサルトキハ其ノ換算シタル金額」ヲ「建設費ニ達セサルトキハ其ノ建設費」ニ改ム

第三十三條第一項中「時價ニ依リテ國債券面金額ニ換算シ」ヲ削ル

第三十五條　買收代價ハ國債證券ヲ以テ之ヲ交付スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ二十五圓未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ之ヲ額面金額二十五圓トス

前項ニ依リ交付スル國債證券ノ交付價格ハ時價ヲ參酌シテ大藏大臣之ヲ定ム

第三十六條ノ二中「ヲ時價ニ依リテ國債券面金額ニ換算シタル金額」ヲ削ル

第三十六條ノ三第一項中「百分ノ七」ヲ「百分ノ五」ニ改ム

第三十六條ノ五ヲ削ル

第三十九條第一項第五號及第二項ヲ削ル

附　則

本法施行ノ期日ハ各規定ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム

昭和九年法律第二十二號ハ之ヲ廢止ス

軌道法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十四年三月七日

衆議院議長　小山　松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

軌道法中改正法律案

軌道法中左ノ通改正ス

第十九條中「第三十三條ノ二」ヲ「第三十三條」ニ改ム

第二十一條　軌道會社ノ株金ノ第一回拂込金額ハ株金ノ十分ノ一迄下ルコトヲ得但シ地方鐵道會社ニ非サル會社カ兼業トシテ軌道ヲ敷設スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條中「地方長官」ノ下ニ「又ハ鐵道局長」ヲ加フ

第二十六條中「第六條ノ二乃至第八條」ヲ「第七條、第八條」ニ、「、第三十六條ノ四及第三十六條ノ五」ヲ「及第三十六條ノ四」ニ改ム

第二十九條第一項第五號及第二項ヲ削ル

附　則

本法施行ノ期日ハ各規定ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（國務大臣前田米藏君演壇ニ登ル）

○國務大臣（前田米藏君）　地方鐵道法中改正法律案竝ニ軌道法中改正法律案ノ提出理由ヲ御說明申上ゲマス、現在地方鐵道會社及軌道會社ニ對シマシテハ、株金全額拂込前ニ於テ、其ノ資本ヲ增加シ、又一定ノ期間利益配當ニ關シ、普通株式ニ劣ル株式、卽チ所謂後配株ヲ發行シ得ル規定ヲ設ケラレテ居ルノデアリマス、然ルニ今回商法ノ改正ニ依リマシテ一般ノ株式會社ニ付キマシテモ廣ク同樣ノコトガ認メラルルコトトナリマシタノデ、是等ニ關スル特別規定ヲ整理致ス必要ガアルノデゴザイマス、又地方鐵道、軌道ノ買收又ハ補償ノ際交付スベキ買收代價又ハ補償金ハ、一應五分利付國債證券ヲ以テ交付スルコトヲ本位ト致シ、更ニ之ヲ時價ニ依リマシテ、五分未滿ノ利附國債證券ニ換算シテ交付致シテ居ルノデアリマスガ、換算ノ基準トナルベキ五分利附國債證券ガ最近殆ド發行サレテ居リマセヌ爲ニ、現在ニ於テハ、其ノ適正ナル時價ヲ定メ難キ狀態ニナッテ參リマシタ、買收又ハ補償ノ實施上支障ヲ生ズルニ至リマシタノデ、此ノ際現行ノ如キ換算方法ヲ改メタイト存ズルノデゴザイマス、尙其ノ他ノ規定ニ關シマシテモ、二三修正ヲ適當トスルモノモゴザイマスノデ、是等ニ付キマシテモ此ノ機會ニ於テ併セテ改正ヲ行ヒタイト存ジマス、以上申シマシタ理由ニ依リ、茲ニ本案ヲ提出致シマシタ次第デゴザイマスガ、何卒十分御審議ノ上御協贊アラムコトヲ希望致シマス

○子爵戶澤正己君　只今議題トナリマシタ地方鐵道法中改正法律案外一件ハ關聯スル所ガゴザイマスガ故ニ、朝鮮事業公債法中改正法律案外三件ノ特別委員ニ併託スルノ動議ヲ提出致シマス

○子爵秋田重季君　贊成

○議長（伯爵松平賴壽君）　戶澤子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナシト認メマス

○議長（伯爵松平賴壽君）　日程第八、朝鮮事業公債法中改正法律案、日程第九、朝鮮私設鐵道補助法中改正法律案、日程第十、朝鮮鐵道株式會社所屬金泉慶北安東鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長報告、是等ノ三案ヲ一括シテ議題トナスコトニ御異議ゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナシト認メマス、委員長堀田伯爵

（左ノ報告書ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載錄ス以下之ニ倣フ）

朝鮮事業公債法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十四年三月七日

委員長　伯爵堀田　正恒

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

朝鮮私設鐵道補助法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十四年三月七日

委員長　伯爵堀田　正恒

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

朝鮮鐵道株式會社所屬金泉慶北安東間鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十四年三月七日

委員長　伯爵堀田　正恒

貴族院議長松平賴壽殿

（伯爵堀田正恒君演壇ニ登ル）

○伯爵堀田正恒君　朝鮮事業公債法中改正法律案外二件ノ特別委員會ノ經過竝ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、朝鮮事業公債法中改正法律案、是ハ朝鮮總督府特別會計ニ於キマシテ、昭和十四年度以降ノ繼續費ト致シマシテ計上シタル鐵道建設及改良費ノ追加額ハ一億八千七百六十萬餘圓デアリマシテ、共ノ中昭和十二年度、同十三年度及同十四年度ニ於キマシテ公債發行ヲ見合セテ、普通財源支辨ニ振替ヘタル額竝ニ振替ヘムトスル額ヲ合セマシテ千五百十萬圓、之ヲ差引キマシテ一億七千二百六十萬圓ダケヲ、現行朝鮮事業公債法ニ依ル公債發行限度ヲ增加セムトスルモノデアリマス、卽チ公債發行法定現在額八億九千三百五十六萬圓、之ニ昭和十四年度發行豫定額一億七千二百六十萬圓ヲ合セマシテ、計十億六千六百十萬圓ヲ限リ公債ヲ發行シ、又ハ之ガ振替支辨ノ爲借入ヲナサムトスルモノデゴザイマス、朝鮮鐵道株式會社所屬金泉慶北安東間鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案、是ハ朝鮮鐵道株式會社所屬金泉慶北安東間鐵

道ハ、第六十九回帝國議會ニ於キマシテ、協贊ヲ經タル朝鮮國有鐵道中央線ノ建設工事ノ進捗ニ伴ヒマシテ、之ニ連絡セムトスルモノデアリマス、右鐵道ハ國有鐵道ノ運輸系統ノ整備ノ必要上、又ハ中央線ノ建設工事用材料輸送ノ便宜上等ヨリ致シマシテ、昭和十四年度ニ於テ買收スルヲ適當ト認メ、之ガ買收代價トシテ交付スベキ公債ヲ發行セムトスルモノデアリマス、此ノ額ハ五分利公債ニ還元シマシテ八百二十三萬餘圓、三分五厘公債ニ致シマシテ八百五十萬圓デアリマス、朝鮮私設鐵道補助法中改正法律案、朝鮮私設鐵道補助法ニ依リマスル現ニ補助金ヲ交付シツヽアル私設鐵道ハ、朝鮮鐵道、朝鮮京南鐵道、金剛山電氣鐵道、朝鮮京東鐵道及新興鐵道ノ五社デアリマス、右五社ノ中デ朝鮮京東鐵道ヲ除ク四社ハ、何レモ昭和十四年度中ニ補助期限ガ完了スルノデアリマス、然ルニ右地方鐵道ハ何レモ未ダ業績進展豫期ノ如ク擧リマセヌノデ、尚當分ノ內相當ノ補助ヲシナケレバ經營困難ノ狀態デアルノデアリマス、故ニ此ノ際補助期限ヲ五年尚延長シテ補助セムトスルモノデアリマス、而シテ金利ノ著シク低下セル經濟趨勢ニ照ラシ、又內地トノ權衡上補助率ヲ六分ヲ五分ニシ、益金留保率ヲ一分トシ、補助金最高額五百萬圓ノ制度ヲ改メマシテ、補助額ハ之ヲ毎年豫算ニ於テ定メムトスルモノデアリマス、又附則ニ於キマシテ既得權ヲ尊重シテ、現在ノ補助期間滿了ノ日ノ屬スル營業年度ノ末日迄ハ尚從前ノ例ニ依リ補助スルコトニシタノデアリマス、委員會ハ二月二十日、二十三日、二十七日、三月一日、七日ノ五回開會致シマシタ、質問ノ主タルモノヲ一二御紹介申上ゲマス、政府ハ曩ニ何等カノ機會ニ朝鮮ニ於テ補助シツヽアル私設鐵道ハ全部買收スルト度々言明シテ居ルガ、其ノ買收額ハ聞ク所ニ依レバ、約七八千萬圓、向フ五箇年間ニ買收スルトスレバ年額一千何百萬圓デ足リルノデアル、一方此ノ際補助期間ヲ延長シテ年々而モ六七百萬圓宛ヲ補助セムトスル位ナラバ、經濟上、產業上又ハ國防上、此ノ際全部買收スルガ宜クハナイカト云フ御質問デゴザイマシタ、政府トシテモ鐵道及交通政策、將又產業上、國防上、一日モ早ク買收シタイ考デアルケレドモ、何分現下公債發行ヲ成ルベク少クシテ行カウト云フ公債政策、財政政策ヨリ致シマシテ、殘念ナガラ左樣イカナイノデアリマス、併シナガラ財政當局ト十分打合セヲシテ、出來ルダケ早ク買收シテ國防ノ充實ト產業ノ發展ヲ期シタイトノ答辯デゴザイマシタ、朝鮮事業公債法中ニ鐵道買收ニ關スル規定ガアルニモ拘ラズ、ソレニ依ラナイデ別ニ單行法ヲ出シテ、之ガ公債ノ發行ヲセムトスル理由ハ如何、是ハ不都合デハナイカ、若シ將來モ斯クノ如キコトヲスルト云フナラバ、朝鮮事業公債法ヲ改正シテ鐵道買收ニ關スル事項ヲ削除スル意思ハナイカ、サウシテ何レカ一本ノ法律トスルヲ適當トシナイカ、政府ハ、朝鮮事業公債法ハ公債發行ノ關係上、一般豫算デ決定スルガ故ニ、議會ノ休會明ケ前ニ、議會ニ提出スルコトガ出來ル、然ルニ私設鐵道買收ニ付テハ、ナカ〳〵色々ナ事情ガアッテ、事實上ソレ迄ニ決定ガシ兼ネルノデ、故ニ已ムヲ得ズ遲レテ別ニ單行法トシテ提出シタノデアル、實ハ昭和十一年度カノ議會ノ際ニ問題ガ起キテ、既ニ協議サレテ居ル事業公債法ヲ、一旦取下ゲテ改メテ公債法ヲ提出スルカ、或ハ別ニ單行法ヲ出スカト云フ議論ガアッタガ、公債法ハ既ニ審議モ進行シテ居ッタ爲ニ、事業公債法ヲ其ノ儘殘シテ、別ニ單行法トシテ出シタ例ガアルノデ、ソレニ倣ッタノデアル、併シナガラ形式上ドウモオカシイノデ、政府トシテハ十分研究考慮シタイト斯ウ云フ答辯デアリマシタ、其ノ他植民地全體ノ交通輸送力ノ統制、朝鮮ニ於ケル鐵道、港灣及電力ニ付テ、又公債支辨事業等ニ付キマシテ種種御質問ガアリマシテ、之ニ對シテ詳細ナル御說明ガアリマシタガ、總テ速記錄ニ讓リタイト思ヒマス、質問終了ノ後討論ニ入リマシテ、一委員ヨリ植民地ニ於テハ輸送力ノ不足ヲ告ゲテ居ル、朝鮮ハ殊ニサウデアルガ、朝鮮ハ種々ナル意味カラシテ一日モ早ク輸送力ノ統制ヲ爲ス必要ガアルカラシテ、政府ニ於テハ宜シク考慮シテ一日モ早ク統制ヲシテ貰ヒタイ、又今回補助期間ヲ五年延期シタガ、尚五年延期ト云フヤウナコトガナイヤウニ、卽チ朝鮮ノ鐵道ハ國鐵代行デアルカラシテ、是非早ク買收シテ貰ヒタイ、殊ニ聞ク所デハ買收額ハ七八千萬圓ト云フ位ノ額デアルカラシテ、是非一日モ早ク買收スルヤウニ努力シテ貰ヒタイ、斯ウ云フ御意見デゴザイマス、其ノ他ニハ御意見ノ發表ハゴザイマセヌデ、採決ニ入リマシテ全會一致可決スベキモノト決定ヲ致シマシタ

○議長（伯爵松平賴壽君）　別ニ御發言モナケレバ三案ノ採決ヲ致シマス、三案ノ第二讀會ヲ開クコトニ御異議ハゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君　直チニ各案ノ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君　贊成

○議長（伯爵松平賴壽君）　西大路子爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス

○議長（伯爵松平賴壽君）　三案ノ第二讀會ヲ開キマス、御異議ガナケレバ全部ヲ問題ニ供シマス、三案全部、委員長ノ報告通リデ御異議ガゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君　直チニ各案ノ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君　贊成

○議長（伯爵松平賴壽君）　西大路子爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス

○議長（伯爵松平賴壽君）　三案ノ第三讀會ヲ開キマス、三案全部、第二讀會ノ決議通リデ御異議ハゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス

○議長（伯爵松平賴壽君）　日程第十一、昭和十二年法律第五十七號中改正法律案、日程第十二、大正十四年法律第五十一號中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長報告、是等ノ兩案ヲ一括シテ議題トスルコトニ御異議ハゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス、委員長三室戸子爵

昭和十二年法律第五十七號中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十四年三月四日

委員長　子爵三室戸敬光

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

大正十四年法律第五十一號中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十四年三月四日

委員長　子爵三室戸敬光

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

（子爵三室戸敬光君演壇ニ登ル）

○子爵三室戸敬光君　只今議題トナリマシタル兩案ノ委員會ノ狀況ヲ申上ゲマス、委員會ハ二回開キマシテ、先ヅ最初ニ政府ノ說明ヲ受ケマシタ、質問討論、例ノ通リデアリマシテ、最後ニ可決決定スベキモノト致シタノデアリマシタ、其ノ概要ヲ申上ゲマス、稍々細カク申上ゲマスルト、昭和十二年法律第五十七號ハ御承知デモゴザイマス通リ鐵ノ輸入ニ對シマシテ稅ヲ免ズル法律デゴザイマス、其ノ法律ノ有效期間ハ本年ノ六月三十日ヲ以テ滿了致シマス、併シナガラ昨今ノ狀況カラ鐵ノ生產、輸入、需給ト云フヤウナ關係カラ致シマシテ、今暫ク免稅ノ期間ヲ長ク致スト云フ必要ガアル、ソレガ爲ニ現在ノ法律デハ本年ノ六月三十日デゴザイマスモノヲ、昭和十六年ノ六月三十日、卽チ滿二箇年延長致シタイト思フノガ改正案ノ骨子デアリマス、又大正十四年ノ法律第五十一號ト申シマスモノハ、關東州ヨリ我ガ國ニ移入サレテ居リマス所ノ幾多ノ品々ノ中デ、或物ハ全部免稅ニナッテ居リマス、又或物ハ稅額ガ低減サレテ居ルノデアリマスガ、昨今關東州ニ於キマシテ「ニトロナフタリン」ノ生產ガ相當能ク出來ルヤウニナリマシタ、此ノ品ハ我ガ國ニ於キマシテ非常ナ必要ヲ感ジテ居ルノデゴザイマス、故ニ此ノ際「ニトロナフタリン」ナル品目ヲ免稅致シマスル所ノ品々ノ中ニ加ヘタイト云フコトガ本案ノ骨子デゴザイマス、今申上ゲマシタ如ク鐵ノ必要ハ申ス迄モナイコトデゴザイマス、色々ナ質問ニ對シマシテ、政府ヨリハ祕密會ヲ要求サレマシテ、祕密會ノ席上ニ於テ、細カク說明ヲ受ケ質問ヲ致シマシタ、又「ニトロナフタリン」ニ付キマシテモ、相當時局柄必要ナモノデゴザイマス爲ニ、是ハ速記ヲ中止致シマシテ說明ヲ伺ッタヤウナ譯デゴザイマス、而シテ兩案トモ討論ニ入リマシテ、一委員ヨリハ此ノ法案ノ通リ決行スルコトガ最モ必要ナルコトデアル、斯ウ云フ意見ノ發表ガゴザイマシテ、各委員ヨリモ贊成ノ聲ヲ連發サレマシテ、採決ニ入リ、全會一致ヲ以チマシテ、兩案ハ政府提案ノ通リ可決スベキモノナリト決定ヲ見タヤウナ次第デゴザイマス、右御報告申上ゲマス

○議長（伯爵松平賴壽君）　別ニ御發言モナケレバ兩案ノ採決ヲ致シマス、兩案ノ第二讀會ヲ開クコトニ御異議ハゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君　直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君　贊成

○議長（伯爵松平賴壽君）　西大路子爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス

○議長（伯爵松平賴壽君）　兩案ノ第二讀會ヲ開キマス、御異議ガナケレバ全部ヲ問題ニ供シマス、兩案全部、委員長ノ報告通リ

デ御異議ハゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君　直チニ兩案ノ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君　贊成

○議長（伯爵松平賴壽君）　西大路子爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス

○議長（伯爵松平賴壽君）　兩案ノ第三讀會ヲ開キマス、兩案全部、第二讀會ノ決議通リデ御異議ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス

○議長（伯爵松平賴壽君）　日程第十三、裁判所構成法中改正法律案、政府提出、第一讀會ノ續、委員長報告、委員長二荒伯爵

裁判所構成法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十四年三月七日

委員長　伯爵二荒　芳德

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

〔伯爵二荒芳德君演壇ニ登ル〕

○伯爵二荒芳德君　裁判所構成法中改正法律案特別委員會ノ經過竝ニ結果ヲ御報告ヲ致シマス、委員會ハ六日七日ノ兩日ニ亙ッテ開催致シマシタ、先ヅ政府委員カラ本法律案ノ提出ノ理由竝ニ改正ノ各關係方面ノ事項ニ亙リマシテ聽取致シマシテ、其ノ結果質問、討論ニ入リマシテ可決ヲ見タノデアリマスガ、其經過ヲ申上ゲタイト存ジマス、現行裁判所構成法ニ依リマスレバ、其ノ第十四條二項ニ破産事件ニ付キマシテハ、區裁判所ガ裁判權ヲ有シテ居ルノデアリマス、然ルニ昨年商法ノ改正ニ伴ヒマシテ、株式會社ノ整理又ハ特別清算ハ、必要ニ應ジマシテハ裁判所ガ職權ヲ以チマシテ整理手續又ハ特別清算カラ破産手續ニ移ルコトガ出來ルヤウニナッタノデアリマス、併シ此ノ事柄ハ非常ナ重大ナ事項デゴザイマスカラ、管轄ヲ區裁判所ヨリ地方裁判所ニ移シタイト云フノデアリマシテ、其ノ結果當然昨年ノ商法改正ノ趣旨ト相合致スルヤウニ、法文ノ整理ヲ行ハナケレバナラヌコトニナッタノデアリマス、卽チソレガ此ノ改正法律案ノ主眼デゴザイマシテ、「他ノ法律ニ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外」ト云フ字句ヲ挿入致スダケノ改正案デゴザイマス、質疑ニ入リマシタガ、別ニ質問ハゴザイマセヌデゴザイマシタ、更ニ討論ニ入リマシテモ別ニ發言スル者ガゴザイマセヌデ、採決ノ結果全會一致ヲ以チマシテ可決ト相成リマシタノデゴザイマス、右御報告ヲ申上ゲマス

○議長（伯爵松平賴壽君）　別ニ御發言モナケレバ本案ノ第二讀會ヲ開クコトニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君　直チニ本案ノ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君　贊成

○議長（伯爵松平賴壽君）　西大路子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス

○議長（伯爵松平賴壽君）　本案ノ第二讀會ヲ開キマス、御異議ガナケレバ全部ヲ問題ニ供シマス、全部委員長ノ報告通リデ御異議ハゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君　直チニ本案ノ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君　贊成

○議長（伯爵松平賴壽君）　西大路子爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス

○議長（伯爵松平賴壽君）　本案ノ第三讀會ヲ開キマス、本案全部、第二讀會ノ決議通リデ御異議ハゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス

○議長（伯爵松平賴壽君）　日程第十四ヨリ第二十五迄ノ請願、會議

〔左ノ意見書案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ玆ニ載錄ス以下之ニ倣フ〕

意見書案

街路照明統制ニ關スル件

東京市小石川區原町百二十六番地男爵阪谷芳郞呈出

右ノ請願ハ街路照明ハ都市ノ保安竝交通上重要ナル設備ニシテ且都市美構成ノ一要素ナルニ拘ラス之カ施設ハ町會、商業團體其ノ他私人ノ任意ニ委ネラルル爲照度、形狀、樣式等區區ニシテ都市ノ美觀ヲ害スルノミナラス往往危險ナル構造ヲ有スルモノノ生スルハ甚遺憾ナルニ依リ道路法ヲ改正シ之ヲ道路ノ附屬物ト爲シ一定ノ基準ヲ設ケ以テ其ノ統制整備ヲ圖ラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別册及送付候也

昭和十四年　月　日

貴族院議長　伯爵松平　賴壽

內閣總理大臣男爵平沼騏一郎殿

意見書案

北海道上磯郡木古內村ニ漁港築設ノ件

北海道上磯郡木古內村長田中謙治呈出

右ノ請願ハ北海道渡島半島ノ中央ニ位スル上磯郡木古內村附近ハ魚族豐富ナル津輕海峽ニ面シ出漁船ノ集合多キニ拘ラス未之等多數ノ漁船ヲ碇繫スヘキ適當ノ漁港ナキ爲一朝荒天ニ遭遇セムカ漁船ハ避難ニ困難ヲ極メ漁獲物、漁具等ノ損傷多ク殊ニ鱈、柔魚ノ盛漁期ニ於テハ風浪最烈シク遭難船頻出ノ慘事ヲ見ルハ甚遺憾ナルニ依リ速ニ恰當ノ地ナル木古內村ニ國費ヲ以テ漁港ヲ築設セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別册及送付候也

昭和十四年　月　日

貴族院議長　伯爵松平　賴壽

內閣總理大臣男爵平沼騏一郎殿

意見書案

北海道上磯郡上磯町ニ船入澗築設ノ件

北海道上磯郡上磯町長茶谷幸一呈出

右ノ請願ハ北海道函館市ニ隣接セル上磯町ハ往時有數ノ漁業地ナリシニ逐年漁撈ノ不振ヲ招キ今ヤ悲境ニ沈淪セルハ魚道ノ沖合移動ニ基クト雖畢竟地勢上適當ノ繫留所ナク今尙磯舟的漁船ニヨリ出漁ノ已ムナキニ因ルヲ以テ速ニ同町ノ中央ヲ貫流セル大野河口ニ船入澗ヲ築設セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別册及送付候也

昭和十四年　月　日

貴族院議長　伯爵松平　賴壽

內閣總理大臣男爵平沼騏一郎殿

意見書案

室蘭本線豐浦、定山溪鐵道定山溪ノ兩驛間鐵道敷設ノ件

北海道虻田郡豐浦村長齊藤益之外四名呈出

右ノ請願ハ室蘭本線豐浦驛ヨリ眞狩別村、留壽都村、喜茂別村ヲ經テ定山溪鐵道定山溪驛ニ至ル鐵道ヲ敷設スルハ道南地方ト札幌市ヲ連絡シ且沿線地方ニ景勝地ヲ控ヘ運輸交通竝國防上等ニ貢獻スル所少カラサルニ依リ速ニ之ヲ實現セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別册及送付候也

昭和十四年　月　日

貴族院議長　伯爵松平　賴壽

內閣總理大臣男爵平沼騏一郎殿

意見書案

北海道網走郡網走町北六條ニ無集配三等郵便局設置ノ件

北海道網走郡網走町長大橋千次郎呈出

右ノ請願ハ北海道網走郡網走町ノ北部方面ハ近時著シク戶口增加セルノミナラス官衙、學校、諸工場存シ通信機關ノ所要切ナルニ依リ速ニ同町北六條ニ無集配三等郵便局ヲ設置セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別册及送付候也

昭和十四年　月　日

貴族院議長　伯爵松平　賴壽

內閣總理大臣男爵平沼騏一郎殿

意見書案

北海道網走、羅臼港間ニ命令補助航路開設ノ件

北海道網走郡網走町長大橋千次郎呈出

右ノ請願ハ北海道網走港ヨリ斜里村チプトマリ、ウトロ、岩尾別、硫黃山、ルシヤヲ經テ羅臼港ニ至ル命令補助航路ヲ開設スルハ知床半島沿岸ニ於ケル豐富ナル海產及林、鑛產資源ノ開發上貢獻スル所大ナルノミナラス運輸交通竝通信上利便少カラサルニ依リ之カ實現ヲ圖ラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別册及送付候也

昭和十四年　月　日

貴族院議長　伯爵松平　賴壽

內閣總理大臣男爵平沼騏一郎殿

意見書案

北千島、網走港間ニ命令補助航路開設ノ件

北海道網走郡網走町長大橋千次郎呈出

右ノ請願ハ北千島、網走港間ノ航路ハ根室港ヨリノ航路ニ比シ距離、航海時間ヲ著シク短縮スルノミナラス濃霧ニヨル航海上ノ障害ヲ除去スル等幾多有利ノ條件ヲ具フルヲ以テ速ニ北千島、網走港間ノ命令補助航路ヲ開設セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十四年　月　日

貴族院議長　伯爵松平　賴壽

內閣總理大臣男爵平沼騏一郎殿

意見書案

北海道網走區裁判所廳舍竝官舍改築ノ件

北海道網走郡網走町長大橋千次郎呈出

右ノ請願ハ北海道網走郡網走町ニ在ル網走區裁判所ノ廳舍竝官舍ハ既ニ四十年ヲ經過セル木造建築物ナル爲著シク朽腐シテ危險ナルノミナラス廳舍ハ通風、採光不完全ナル上狹隘ニシテ職員ノ保健竝執務上遺憾ナルニ依リ速ニ之カ改築ヲ圖ラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十四年　月　日

貴族院議長　伯爵松平　賴壽

內閣總理大臣男爵平沼騏一郎殿

意見書案

豫定線松山附近、佐川間鐵道速成ノ件

高知市長川淵治馬外一名呈出

右ノ請願ハ豫定線松山附近、佐川間鐵道ハ松山、高知ノ兩市ヲ連絡シ四國地方ニ於ケル運輸交通ノ重要幹線トシテ資スル所大ナルニ依リ速ニ之ヲ敷設セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十四年　月　日

貴族院議長　伯爵松平　賴壽

內閣總理大臣男爵平沼騏一郎殿

意見書案

幌內線幾春別、根室本線新得ノ兩驛間鐵道敷設ノ件

北海道空知郡三笠山村長村田要助呈出

右ノ請願ハ幌內線幾春別、根室本線新得ノ兩驛間ニ鐵道ヲ敷設スルハ沿線地方ニ於ケル豐富ナル林、鑛資源ノ開發及未開地ノ開拓上資スル所大ナルノミナラス小樽港ト十勝方面ヲ結フ捷路トシテ運輸交通竝國防上亦須要ナルニ依リ之カ區間ヲ鐵道敷設法豫定線ニ編入シ速ニ起工セラレタシトノ趣旨ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十四年　月　日

貴族院議長　伯爵松平　賴壽

內閣總理大臣男爵平沼騏一郎殿

意見書案

北海道市來知郵便局ニ集配事務開始ノ件

北海道空知郡三笠山村長村田要助呈出

右ノ請願ハ北海道空知郡三笠山村字市來知村ハ近時產業ノ發展、戶口ノ增加ニ伴ヒ遞信事務激增セルニ拘ラス市來知郵便局ハ無集配局ナル爲住民ノ不利不便大ナルノミナラス三笠山村役場ノ職務遂行上受クル支障勘カラサルニ依リ速ニ同郵便局ニ集配事務ヲ開始シ且三笠山村役場ヲ之カ管內ニ包含セシメタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十四年　月　日

貴族院議長　伯爵松平　賴壽

內閣總理大臣男爵平沼騏一郎殿

意見書案

釜石線鐵道速成ノ件

岩手縣釜石市大字釜石第三地割八十番地平民公吏小野寺有一外六百七十三名呈出

右ノ請願ハ未成線釜石線鐵道ノ完成ハ沿線地方ニ於ケル豐富ナル林、鑛產等ノ資源開發上貢獻スル所大ナルノミナラス之カ開通ノ遲速ハ三陸沿岸ノ要衝タル釜石港ノ發展ニ至大ノ影響ヲ與フルニ依リ速ニ之カ實現ヲ圖ラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十四年　月　日

貴族院議長　伯爵松平　賴壽

內閣總理大臣男爵平沼騏一郎殿

○議長（伯爵松平賴壽君）　是等ノ請願ハ請願委員長ノ報告通リ、採擇スルコトニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス

○議長（伯爵松平賴壽君）　次會ノ議事日程ハ決定次第豫メ印刷ヲ以テ御通知ニ及ビマス、本日ハ是ニテ散會致シマス

午前十時五十八分散會

貴族院議事速記錄第十九號正誤

頁	段	行	誤	正
一九七	二	三	驛間、鐵道	驛間鐵道
〃	〃	一〇	昭和十二年、法律第五十七	昭和十二年、法律第五十七
〃	〃	一二	大正十四年、法律第五十一	大正十四年、法律第五十七
二〇七	一	二四	唯一片	唯法律一片
二一〇	四	一四	長日	長目
二一一	三	一八	使命	斯業
二一九	三	三八	大	主義
〃	〃	三九	統制	稅制

貴族院議事速記錄第十九號一〇三頁四段二四及二五行ハ誤ニ付削除ス

貴族院議事速記錄第十九號二三〇頁三段七及八行目ヲ左ノ如ク訂正ス

○子爵秋田重季君　贊成

○議長（伯爵松平頼壽君）　戶澤子爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセヌカ

官報 號外

昭和十四年三月十一日

○第七十四回帝國議會貴族院議事速記錄第二十一號

昭和十四年三月十日（金曜日）午前十時十三分開議

議事日程　第二十一號

昭和十四年三月十日

午前十時開議

第一　保險業法中改正法律案（政府提出、衆議院送付）

第二　青年學校教育費國庫補助法案（政府提出、衆議院送付）　第一讀會

第三　臺灣事業公債法中改正法律案（政府提出、衆議院送付）　第一讀會

第四　臺灣米穀移出管理特別會計法案（政府提出、衆議院送付）　第一讀會

○議長（伯爵松平賴壽君）報告ヲ致サセマス

（丸龜書記官朗讀）

昨九日本院ニ於テ可決シタル左ノ政府提出案ハ卽日裁可ヲ奏請シ又可決ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ

朝鮮事業公債法中改正法律案

朝鮮私設鐵道補助法中改正法律案

朝鮮鐵道株式會社所屬金泉慶北安東間鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案

昭和十二年法律第五十七號中改正法律案

大正十四年法律第五十一號中改正法律案

同日本院ニ於テ可決シタル左ノ政府提出案ハ卽日之ヲ衆議院ニ送付セリ

裁判所構成法中改正法律案

同日本院ニ於テ採擇スルコトヲ議決シタル街路照明統制ニ關スル請願外十一件ノ請願ハ各、意見書ヲ附シ卽日之ヲ政府ニ送付セリ

同日名古屋帝國大學創設ニ伴フ帝國大學特別會計及官立大學特別會計ノ關渉ニ關スル法律案特別委員會ニ於テ副委員長ノ後任選擧ヲ行ヒシニ男爵沖貞男君當選セリ

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

名古屋帝國大學創設ニ伴フ帝國大學特別會計及官立大學特別會計ノ關渉ニ關スル法律案可決報告書

短期現役小學校教員俸給費國庫負擔法中改正法律案可決報告書

同日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ

臨時軍事費豫算追加案（臨時第一號）

保險業法改正法律案

青年學校教育費國庫補助法案

臺灣事業公債法中改正法律案

臺灣米穀移出管理特別會計法案

○議長（伯爵松平賴壽君）是ヨリ本日ノ會議ヲ開キマス、昨九日古島一雄君病氣ニ付、辭業法中改正法律案特別委員ヲ辭任シタキ旨申出ガゴザイマシク、之ヲ許可スルコトニ御異議ハゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平賴壽君）御異議ナイト認メマス、就キマシテハ補闕トシテ大西虎之助君ヲ指名致シマス

○議長（伯爵松平賴壽君）日程第一、保險業法改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、八田商工大臣

（左ノ送付文及法律案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ玆ニ載錄ス以下之ニ倣フ）

保險業法改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十四年三月九日

衆議院議長　小山　松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

保險業法改正法律案

保險業法

第一章　總則

第一條　保險事業ハ主務大臣ノ免許ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ營ムコトヲ得ズ

前項ノ免許ヲ受ケントスル者ハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

一　定款

二　事業方法書

三　普通保險約款

四　保險料及責任準備金算出方法書

五　財產利用方法書

第二條　主務大臣必要アリト認ムルトキハ前條ノ免許ヲ申請シタル者ヲシテ相當ノ金額ヲ供託セシムルコトヲ得

前項ノ供託金ハ主務大臣ノ認許シタル有價證券ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第三條　保險事業ハ資本又ハ基金ノ總額十萬圓以上ノ株式會社又ハ相互會社ニ非ザレバ之ヲ營ムコトヲ得ズ

第四條　保險會社ハ其ノ商號又ハ名稱中ニ其ノ營ム主タル保險事業ノ種類ヲ示スコトヲ要ス

保險會社ニ非ザルモノハ其ノ商號又ハ名稱中ニ保險事業者タルコトヲ示スベキ文字ヲ用フルコトヲ得ズ

第五條　保險會社ハ他ノ事業ヲ營ムコトヲ得ズ

第六條　保險會社ノ常務ニ從事スル取締役若ハ監査役又ハ支配人ガ他ノ會社ノ常務ニ從事セントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第七條　保險會社ハ生命保險事業ト損害保險事業トヲ併セ營ムコトヲ得ズ但シ生命保險事業ヲ營ム會社ハ生命保險ノ再保險事業ヲ營ムコトヲ得

第八條　主務大臣ハ何時ニテモ保險會社ヲシテ其ノ事業ニ關スル報告ヲ爲サシメ又ハ當該官吏ヲシテ保險會社ノ營業所、事務所其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務若ハ財產ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムルコトヲ要ス

第九條　主務大臣保險會社ノ業務又ハ財產ノ狀況ニ依リ必要アリト認ムルトキハ業務執行ノ方法ノ變更又ハ財產ノ供託ヲ命ジ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十條　保險會社ガ第一條第二項ニ掲グル書類ニ定メタル事項ノ變更ヲ爲スニハ主務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

內閣印刷局

主務大臣保險會社ノ業務若ハ財産ノ狀況ニ依リ又ハ事情ノ變更ニ依リ必要アリト認ムルトキハ前項ノ事項ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

主務大臣保險契約者、被保險者又ハ保險金額ヲ受取ルベキ者ノ利益ヲ保護スル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ第一項ノ變更認可ノ際現ニ存スル保險契約ニ付テモ亦將來ニ向テ其ノ變更ノ效力ノ及ブモノト爲スコトヲ得

前項ノ處分アリタルトキハ保險會社ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨及變更ノ要旨ヲ公告スルコトヲ要ス

第十一條　保險會社命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ事業ニ關シ統制協定ヲ爲シタルトキハ之ヲ主務大臣ニ屆出ヅルコトヲ要ス之ヲ變更又ハ廢止シタルトキ亦同ジ

主務大臣前項ノ統制協定ガ公益ニ反シ又ハ保險事業ノ健全ナル發達ヲ害スト認ムルトキハ其ノ變更又ハ取消ヲ命ズルコトヲ得

主務大臣保險事業ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ保險會社ニ對シ第一項ノ統制協定ヲ爲スベキコトヲ命ジ又ハ同項ノ統制協定ノ加盟會社若ハ非加盟會社ニ對シ其ノ統制協定ノ全部若ハ一部ニ依ルベキコトヲ命ズルコトヲ得

第十二條　保險會社ガ法令、主務大臣ノ命令若ハ第一條第二項ニ掲グル書類ニ定メタル特ニ重要ナル事項ニ違反シ又ハ公益ヲ害スベキ行爲ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ取締役若ハ監査役ノ解任若ハ事業ノ停止ヲ命ジ又ハ事業ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第二章　株式會社

第十三條　保險事業ヲ營ム株式會社ノ定款ニハ商法第百六十六條第一項ニ掲グル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　保險ノ種類及營業ノ範圍

二　設立費用ノ償却ノ方法

第十四條　株式申込證ニハ前條及商法第百七十五條第二項ニ掲グル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第十五條　會社ハ第十三條及商法第百八十八條第二項ニ掲グル事項ヲ登記スルコトヲ要ス

第十六條　會社ハ設立費用及營業費ノ全額ヲ償却シタル後ニ非ザレバ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ得ズ

商法第二百九十條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十七條　會社ガ資本減少ノ決議ヲ爲シタルトキハ其ノ決議ノ日ヨリ二週間內ニ決議ノ要旨及貸借對照表ヲ公告スルコトヲ要ス

第二十八條、第百十二條第二項第三項、第百二十條及第百二十八條第三項ノ規定ハ資本減少ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十八條　會社ガ資本減少又ハ合併ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テ商法第百條第一項但書ノ期間ハ一月迄之ヲ下スコトヲ得資本減少又ハ合併ニ依ル株式併合ノ場合ニ於テ商法第三百七十七條第一項但書ノ期間ニ付亦同ジ

第十九條　保險事業ヲ營ム株式會社ハ其ノ組織ヲ變更シテ之ヲ相互會社ト爲スコトヲ得

前項ノ相互會社ノ基金ハ第三條ノ規定ニ拘ラズ其ノ總額十萬圓ヲ下リ又ハ之ヲ設ケザルコトヲ得

第一項ノ場合ニ於テハ損失ノ塡補ニ備フル爲主務大臣ノ必要ト認ムル額ノ準備金ヲ設クルコトヲ要ス

第二十條　組織變更ハ株主總會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

前項ノ決議ハ商法第三百四十三條ノ規定ニ依ルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第二十一條　會社ガ組織變更ノ決議ヲ爲シタルトキハ其ノ決議ノ日ヨリ二週間內ニ決議ノ要旨及貸借對照表ヲ公告シ且株主名簿ニ記載アル質權者ニハ各別ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス

第百十二條第二項及第三項竝ニ商法第九十九條及第百條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ商法第百條第一項但書中二月トアルハ之ヲ一月トス

第二十二條　會社ガ前條第一項ノ公告ヲ爲シタル日以後保險契約ヲ爲サントスルトキハ保險契約者タラントスル者ニ組織變更ノ手續中ノ旨ヲ通知シ其ノ承諾ヲ受クルコトヲ要ス

前項ノ承諾ヲ爲シタル保險契約者ハ組織變更ノ手續ノ關係ニ於テハ之ヲ保險契約者ニ非ザル者ト看做ス

第二十三條　第二十一條第一項ノ公告ニ對シ第百十二條第二項ノ期間內ニ異議ヲ述ベタル保險契約者ノ數及其ノ保險金額ガ同條第三項ニ定ムル割合ヲ超エザルトキハ取締役ハ商法第百條ノ手續ノ終了後遲滯ナク保險契約者總會ヲ招集スルコトヲ要ス

商法第二百二十四條第一項及第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ於テ會社ノ保險契約者ニ對スル通知ニ之ヲ準用ス

第二十四條　會社ハ組織變更ノ決議ニ於テ保險契約者總會ニ代ルベキ機關ニ關スル定ヲ爲スコトヲ得

前項ノ機關ニハ保險契約者總會ニ關スル規定ヲ準用ス

第一項ノ定ヲ爲シタルトキハ其ノ機關ノ構成ノ要領ヲ第二十一條第一項ノ公告ニ記載スルコトヲ要ス

第二十五條　保險契約者總會ニ於テハ保險契約者ノ半數以上出席シ其ノ議決權ノ四分ノ三以上ヲ以テ一切ノ決議ヲ爲ス

第三十九條第三項及商法第二百三十八條ノ規定ハ保險契約者總會ニ之ヲ準用ス

第二十六條　取締役ハ組織變更ニ關スル事項ヲ保險契約者總會ニ報告スルコトヲ要ス

第二十七條　保險契約者總會ニ於テハ定款ノ變更其ノ他相互會社ノ組織ニ必要ナル事項ヲ決議スルコトヲ要ス

第二十條第一項ノ決議ハ前項ノ決議ヲ以テ之ヲ變更スルコトヲ得但シ會社ノ債權者ノ利益ヲ害スルコトヲ得ズ

前項ノ變更ガ株主ニ損害ヲ及ボスベキトキハ株主總會ノ同意アルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ第二十條第二項ノ規定ヲ準用ス

商法第百八十七條第二項ノ規定ハ第一項ノ決議ニ之ヲ準用ス

第二十八條　組織變更ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第二十九條　株式會社ガ其ノ組織ヲ變更シタルトキハ本店及主タル事務所ノ所在地ニ於テハ二週間、支店及從タル事務所ノ所在地ニ於テハ三週間內ニ株式會社ニ付テハ解散ノ登記、相互會社ニ付テハ第四十條第二項ニ定ムル登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ登記ノ申請書ニハ第二十條第一項ノ決議、第二十一條第一項ノ公告、第二十七條ノ決議及同意、前條ノ認可、第百十二條第三項ノ異議竝ニ商法第百條ノ手續ノ終了ヲ證スル書類ヲ添附スルコトヲ要ス

第三十條　株式會社ノ保險契約者ハ組織變更ニ因リ其ノ相互會社ニ入社ス

第三十一條　第百十六條竝ニ商法第二百八條第一項、第二百九條第一項第二項、第三百七十六條第一項及第三百八十條ノ規定ハ組織變更ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ商法第三百八十條第三項中第百三十七條トアルハ之ヲ第百八條トス

第三十二條　生命保險ニ在リテハ保險契約者又ハ保險金額ヲ受取ルベキ者ハ被保險者ノ爲ニ積立テタル金額ニ付會社ノ總財産ノ上ニ先取特權ヲ有ス

前項ノ先取特權ノ順位ハ民法第三百六條第一號ニ掲グル先取特權ニ次グ

第三十三條　前條第一項ニ掲グル者ハ被保險者ノ爲ニ積立テタル金額ニ付會社ガ本法ニ依ル主務大臣ノ命令ニ依リ供託シタル財産ノ上ニ他ノ債權者ニ先チテ辨濟ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第三章　相互會社

第一節　設立

第三十四條　相互會社ノ發起人ハ定款ヲ作リ之ニ左ノ事項ヲ記載シテ署名スルコトヲ要ス

一　保險ノ種類及事業ノ範圍

二　名稱

三　事務所ノ所在地

四　基金ノ總額

五　基金ノ醵出者ガ有スベキ權利

六　基金及設立費用ノ償却ノ方法

七　剩餘金分配ノ方法

八　會社ガ公告ヲ爲ス方法

九　會社ノ成立後ニ讓受クルコトヲ約シタル財産アルトキハ其ノ財産、價格及讓渡人ノ氏名

十　存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由

第三十五條　相互會社ハ其ノ名稱中ニ相互會社ナル文字ヲ用フルコトヲ要ス

第三十六條　基金ノ拂込ハ金錢以外ノ財産ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得ズ

商法第百七十一條第二項、第百七十七條第一項及第百八十九條ノ規定ハ基金ノ拂込ニ之ヲ準用ス

第三十七條　相互會社ノ設立ニハ百人以上ノ社員アルコトヲ要ス

第三十八條　發起人ニ非ザル者ガ社員タラントスルトキハ入社申込證二通ニ保險ノ目的及保險金額ヲ記載シ之ニ署名スルコトヲ要ス但シ會社ノ成立後社員タラントスル者ハ此ノ限ニ在ラズ

入社申込證ハ發起人之ヲ作リ之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　定款ノ認證ノ年月日及其ノ認證ヲ爲シタル公證人ノ氏名

二　第三十四條ニ掲グル事項

三　基金ノ醵出者ノ氏名及住所竝ニ其ノ各自ガ醵出スル金額

四　發起人ノ氏名及住所

五　發起人ガ報酬ヲ受クベキトキハ其ノ報酬ノ額

六　設立ノ際募集セントスル社員ノ數

七　一定ノ時期迄ニ創立總會ガ終結セザルトキハ入社ノ申込ヲ取消スコトヲ得ベキコト

民法第九十三條但書ノ規定ハ會社ノ成立前ニ於ケル入社ノ申込ニハ之ヲ適用セズ

第三十九條　基金ノ第一回ノ拂込ガ終了シ且社員ガ豫定ノ數ニ滿チタルトキハ發起人ハ遲滯ナク創立總會ヲ招集スルコトヲ要ス

創立總會ニ於テハ社員ノ半數以上出席シ其ノ議決權ノ四分ノ三以上ヲ以テ一切ノ決議ヲ爲ス

第五十二條竝ニ商法第二百三十二條第一項第二項、第二百三十三條、第二百三十九條第三項第四項、第二百四十條、第二百四十三條、第二百四十四條及第二百四十七條乃至第二百五十三條ノ規定ハ相互會社ノ創立總會ニ之ヲ準用ス但シ商法第二百四十七條第一項中第三百四十三條トアルハ之ヲ保險業法第三十九條第二項トス

第四十條　相互會社ノ設立ノ登記ハ創立總會終結ノ日ヨリ二週間內ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ登記ニ在リテハ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

一　第三十四條第一號、第二號及第四號乃至第十號ニ掲グル事項

二　事務所

三　取締役及監査役ノ氏名及住所

四　取締役ニシテ會社ヲ代表セザル者アルトキハ會社ヲ代表スベキ者ノ氏名

五　數人ノ取締役ガ共同シ又ハ取締役ガ支配人ト共同シテ會社ヲ代表スベキコトヲ定メタルトキハ其ノ規定

第四十一條　社員總會ニ於テ發起人ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ決議シタルトキ又ハ之ヲ否決シタル場合ニ於テ十分ノ一以上ノ社員ガ訴ノ提起ヲ取締役ニ請求シタルトキハ會社ハ決議又ハ請求ノ日ヨリ一月內ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

第五十七條第二項、第五十八條第二項乃至第五項、第五十九條及商法第二百七十七條第一項但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十二條　商法第九條、第十一條乃至第十五條、第十九條乃至第二十一條、第三十條乃至第四十三條、第四十五條乃至第四十八條、第五十條、第五十一條、第五十四條、第五十五條、第五十七條乃至第六十一條、第六十四條第二項、第六十五條乃至第六十七條、第百六十五條、第百六十六條第二項、第百六十七條、第百八十一條乃至第百八十七條、第百九十三條乃至第百九十六條及第百九十八條ノ規定ハ相互會社ニ之ヲ準用ス但シ商法第百九十六條中第三百四十三條トアルハ之ヲ保險業法第三十九條第二項トス

第二節　社員ノ權利義務

第四十三條　社員ハ會社ノ債權者ニ對シ直接ニ義務ヲ負フコトナシ

第四十四條　會社ノ債務ニ關スル社員ノ責任ハ保險料ヲ限度トス

第四十五條　社員ハ保險料ノ拂込ニ付相殺ヲ以テ會社ニ對抗スルコトヲ得ズ

第四十六條　會社ハ定款ヲ以テ保險金額ノ削減ニ關スル事項ヲ定ムルコトヲ要ス

第四十七條　損害保險ヲ目的トスル相互會社ノ社員ガ保險ノ目的ヲ讓渡シタルトキハ讓受人ハ會社ノ承諾ヲ得テ讓渡人ノ權利義務ヲ承繼スルコトヲ得

第四十八條　生命保險ヲ目的トスル相互會社ノ社員ハ會社ノ承諾ヲ得テ他人ヲシテ其ノ權利義務ヲ承繼セシムルコトヲ得

第四十九條　社員名簿ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　社員ノ氏名及住所

二　各社員ノ保險契約ノ種類、保險金額及保險料

第五十條　商法第二百二十四條第一項及第二項ノ規定ハ會社ノ入社申込人又ハ社員ニ對スル通知又ハ催告ニ之ヲ準用ス但シ保險關係ニ屬スル事項ノ通知又ハ催告ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第三節　會社ノ機關

第五十一條　會社ハ定款ヲ以テ社員總會ニ代ルベキ機關ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ機關ニハ社員總會ニ關スル規定ヲ準用ス

第五十二條　社員ハ總會ニ於テ各一個ノ議決權ヲ有ス但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第五十三條　十分ノ一以上ノ社員ハ會議ノ目的タル事項及其ノ招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ取締役ニ提出シテ總會ノ招集ヲ請求スルコトヲ得但シ此ノ權利ノ行使ニ付定款ヲ以テ他ノ標準ヲ定ムルコトヲ得

商法第二百三十七條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十四條　商法第二百三十一條、第二百三十二條第一項第二項、第二百三十三條、第二百三十四條第一項、第二百三十五條、第二百三十六條、第二百三十八條、第二百三十九條第一項第三項第四項、第二百四十條、第二百四十三條、第二百四十四條、第二百四十五條第一項第四號第二項及第二百四十六條乃至第二百五十三條ノ規定ハ相互會社ノ社員總會ニ之ヲ準用ス但シ商法第二百四十五條第一項及第二百四十七條第一項中第三百四十三條トアルハ之ヲ保險業法第三十九條第二項トシ商法第二百四十五條第二項中第二百六十八條又ハ第二百七十九條トアルハ之ヲ保險業法第五十八條又ハ第六十一條トス

第五十五條　取締役ハ社員總會ノ認許アルニ非ザレバ同種ノ保險ヲ目的トスル他ノ會社ノ取締役又ハ監査役ト爲ルコトヲ得ズ

第五十六條　取締役ハ定款及總會ノ議事錄ヲ各事務所ニ、社員名簿ヲ主タル事務所ニ備置クコトヲ要ス

社員及會社ノ債權者ハ事業時間內何時ニテモ前項ニ揭グル書類ノ閲覽ヲ求ムルコトヲ得

第五十七條　社員總會ニ於テ取締役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ決議シタルトキハ會社ハ決議ノ日ヨリ一月內ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

前項ノ訴ニ付テハ社員總會ノ決議ニ依ルニ非ザレバ取下、和解又ハ請求ノ拋棄ヲ爲スコトヲ得ズ

第五十八條　社員總會ニ於テ取締役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ否決シタル場合ニ於テ十分ノ一以上ノ社員ガ訴ノ提起ヲ監査役ニ請求シタルトキハ會社ハ請求ノ日ヨリ一月內ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス但シ訴提起ノ請求ヲ爲ス者ニ付定款ヲ以テ他ノ標準ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ請求ハ總會終結ノ日ヨリ三月內ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第一項ノ訴ニ付テハ訴提起ノ請求ヲ爲シタル社員ノ議決權ノ過半數ノ同意アルニ非ザレバ取下、和解又ハ請求ノ拋棄ヲ爲スコトヲ得ズ

第一項ノ請求ヲ爲シタル社員ハ監査役ノ請求ニ依リ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス

會社ガ敗訴シタルトキハ請求ヲ爲シタル社員ハ會社ニ對シテノミ損害賠償ノ責ニ任ズ

第五十九條　前條ノ請求ヲ爲シタル社員ハ特ニ會社ノ代表者ヲ指定スルコトヲ得

第六十條　商法第二百五十四條乃至第二百五十八條、第二百六十條乃至第二百六十二條、第二百六十五條、第二百六十六條及第二百六十九條乃至第二百七十二條ノ規定ハ相互會社ノ取締役ニ之ヲ準用ス但シ商法第二百七十二條第一項中第二百三十七條トアルハ之ヲ保險業法第五十三條トス

第六十一條　社員總會ニ於テ監査役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ決議シタルトキ又ハ之ヲ否決シタル場合ニ於テ十分ノ一以上ノ社員ガ訴ノ提起ヲ取締役ニ請求シタルトキハ會社ハ決議又ハ請求ノ日ヨリ一月內ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ第五十七條第二項、第五十八條第一項但書第二項第三項第五項、第五十九條及商法第二百七十七條第一項但書ノ規定ヲ準用ス

前項ノ請求ヲ爲シタル社員ハ取締役ノ請求ニ依リ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス

第六十二條　商法第二百五十四條、第二百五十六條但書、第二百五十七條、第二百五十八條、第二百六十六條、第二百六十九條、第二百七十條、第二百七十二條乃至第二百七十六條、第二百七十七條第一項及第二百七十八條ノ規定ハ相互會社ノ監査役ニ之ヲ準用ス但シ商法第二百七十二條第一項中第二百三十七條トアルハ之ヲ保險業法第五十三條トス

第四節　會社ノ計算

第六十三條　會社ハ損失ノ塡補ニ備フル爲每事業年度ノ剩餘金中ヨリ準備金ヲ積立ツルコトヲ要ス

前項ノ準備金ノ總額及每年積立ツベキ其ノ最低額ハ定款ヲ以テ之ヲ定ム

第六十四條　會社ハ損失ヲ塡補シタル後ニ非ザレバ基金利息ノ支拂ヲ爲スコトヲ得ズ

基金ノ償却又ハ剩餘金ノ分配ハ設立費用及事業費ノ全額ヲ償却シ且前條ノ準備金ヲ控除シタル後ニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

前二項ノ規定ニ違反シテ基金利息ノ支拂、基金ノ償却又ハ剩餘金ノ分配ヲ爲シタルトキハ會社ノ債權者ハ之ヲ返還セシムルコトヲ得

第六十五條　基金ヲ償却スルトキハ其ノ償却スル金額ト同一ノ金額ヲ積立ツルコトヲ要ス

第六十六條　剩餘金ハ定款ニ別段ノ定ナキトキハ各事業年度ノ終ニ於ケル社員ニ之ヲ分配ス

第六十七條　商法第二百八十一條乃至第二百八十五條及第二百九十五條ノ規定ハ相互會社ノ計算ニ之ヲ準用ス

第五節　定款ノ變更

第六十八條　定款ノ變更ヲ爲スニハ社員總會ノ決議アルコトヲ要ス

第三十九條第二項及商法第三百四十二條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六節　社員ノ退社

第六十九條　社員ハ左ノ事由ニ因リテ退社ス

一　定款ニ定メタル事由ノ發生

二　保險關係ノ消滅

商法第百六十一條ノ規定ハ相互會社ノ社員ガ死亡シタル場合ニ之ヲ準用ス

第七十條　退社員ハ定款又ハ保險約款ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ權利ニ屬スル金額ノ拂戾ヲ請求スルコトヲ得

退社員ガ會社ニ對シテ負擔シタル債務アルトキハ會社ハ前項ノ金額ノ中ヨリ之ヲ控除スルコトヲ得

第七十一條　退社員ノ權利ニ屬スル金額ノ拂戾ハ退社アリタル日ノ屬スル事業年度ノ終ヨリ三月內ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

退社員ノ拂戾請求權ハ前項ノ期間經過ノ後二年間之ヲ行ハザルトキハ時效ニ因リテ消滅ス

第七節　解散

第七十二條　會社ガ解散ノ決議ヲ爲シタルトキハ其ノ決議ノ認可ノ日ヨリ二週間內ニ決議ノ要旨及貸借對照表ヲ公告スルコトヲ要ス

第百十二條第二項乃至第四項、第百十六條及第百二十條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十三條　商法第五十六條第三項、第九十六條、第九十八條第二項、第九十九條、第百條、第百二條、第百三條、第百四條第一項第三項、第百五條乃至第百十一條、第四百八條第一項第二項、第四百十二條第一項、第四百十三條第一項第二項、第四百十四條第一項及第四百十五條ノ規定ハ相互會社ニ之ヲ準用ス但シ商法第百條第一項但書中二月トアルハ之ヲ一月トシ第四百十四條第一項中第百八十八條トアルハ之ヲ保險業法第四十條トス

第三十九條第二項ノ規定ハ商法第五十六條第三項ノ規定ニ依ル選任ニ之ヲ準用ス

第八節　清算

第七十四條　會社ガ解散シタルトキハ合併及破產ノ場合ヲ除クノ外本節ノ規定ニ從ヒテ清算ヲ爲スコトヲ要ス

第七十五條　清算人ハ左ノ順序ニ從ヒテ會社財產ヲ處分スルコトヲ要ス

一　一般ノ債務ノ辨濟

二　社員ノ保險金額及第百三十四條第二項ノ規定ニ依リテ社員ニ拂戾スベキ金額ノ支拂

三　基金ノ償却

第七十六條　殘餘財產ハ定款ニ別段ノ定ナキトキハ剩餘金ノ分配ト同一ノ割合ヲ以テ之ヲ社員ニ分配スルコトヲ要ス

第七十七條　第五十三條、第五十六條乃至第五十九條及第六十一條竝ニ商法第百十六條、第百二十三條乃至第百二十五條、第百二十八條、第百二十九條第二項、第百三十一條但書、第百三十四條、第二百三十一條、第二百三十六條、第二百三十八條、第二百四十四條第二項、第二百四十五條第一項第四號第二項、第二百四十七條、第二百四十九條、第二百五十四條第二項、第二百五十八條、第二百六十一條、第二百六十五條、第二百六十六條、第二百六十九條乃至第二百七十二條、第二百七十四條乃至第二百七十六條、第二百七十七條第一項、第二百七十八條、第二百八十二條乃至第二百八十四條、第四百十七條乃至第四百二十四條、第四百二十六條第一項及第四百二十七條乃至第四百二十九條ノ規定ハ相互會社ノ清算ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ商法第二百四十五條第一項及第二百四十七條第一項中第三百四十三條トアルハ之ヲ保險業法第三十九條第二項トシ商法第二百四十五條第二項中第二百六十八條又ハ第二百七十九條トアルハ之ヲ保險業法第五十八條又ハ第六十一條トシ商法第二百七十二條第一項中第二百三十七條トアルハ之ヲ保險業法第五十三條トス

第九節　補則

第七十八條　商法第二編第四章第七節及第九節第二款ノ規定ハ其ノ性質ノ許サザルモノヲ除クノ外相互會社ニ之ヲ準用ス但シ同法第三百八十一條第一項及第四百五十二條第一項中三月前ヨリ引續キ資本ノ十分ノ一以上ニ當ル株式ヲ有スル株主トアルハ之ヲ十分ノ一以上ノ社員トス

第七十九條　非訟事件手續法中株式會社ニ關スル規定ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ相互會社ニ之ヲ準用ス

第八十條　相互會社ガ登記ヲ爲ス場合ニ於テハ營利ヲ目的トセザル社團法人ト同一ノ登錄稅ヲ納ムルコトヲ要ス

第八十一條　相互會社ニハ營業收益稅ヲ課セズ

第四章　計算

第八十二條　保險會社ハ每年一回一定ノ時期ニ於テ其ノ帳簿ヲ閉鎖シ總會終結ノ後遲滯ナク財產目錄、貸借對照表、事業報告書及損益計算書竝ニ基金ノ償却、基金利息ノ支拂、準備金及利益又ハ剩餘金ノ配當ニ關スル決議書ヲ主務大臣ニ提出スルコトヲ要ス

前項ノ書類ノ樣式ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第八十三條　保險契約者、被保險者又ハ保險金額ヲ受取ルベキ者ハ會社ノ定時總會終結ノ後其ノ事業時間內何時ニテモ前條ニ揭グル書類ノ閲覽ヲ求メ又ハ定款若ハ保險約款ニ定メタル費用ヲ支拂ヒテ其ノ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ求ムルコトヲ得

第八十四條　保險會社ノ財產目錄ニ記載スル有價證券中命令ヲ以テ定ムル國債又ハ利拂及償還確實ナリト認メラルル

債券ニ付テハ商法第三十四條第一項及第二百八十五條ノ規定ニ拘ラズ命令ノ定ムル所ニ依リ均等利廻評價ノ方法ニ依ル價額ヲ附スルコトヲ得

第八十五條　保險會社ノ設立費用及初ノ五年度ノ事業費ハ會社成立ノ後十年ヲ超エザル期間內ニ定款ノ定ムル所ニ從ヒ毎年其ノ一部ヲ償却スルコトヲ得

商法第二百八十六條ノ規定ハ保險事業ヲ營ム株式會社ニハ之ヲ適用セズ

第八十六條　保險會社ハ財產ノ評價換又ハ賣却ニ因リ計上シタル利益ガ之ニ因リ計上シタル損失ヲ超ユルトキハ其ノ差額ヲ準備金トシテ積立ツルコトヲ要ス但シ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ全部又ハ一部ヲ積立テザルコトヲ得

第八十七條　前條ノ準備金ハ缺損ノ塡補又ハ財產ノ評價換若ハ賣却ニ因リ計上シタル損失ガ之ニ因リ計上シタル利益ヲ超ユルトキ其ノ差額ノ塡補ニ充ツル場合ヲ除クノ外主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ使用スルコトヲ得ズ

第八十八條　保險會社ハ每決算期ニ保險契約ノ種類ニ從ヒ責任準備金ヲ計算シ且之ヲ特ニ設ケタル帳簿ニ記載スルコトヲ要ス

商法第三十三條第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八十九條　生命保險會社ハ命令ノ定ムル所ニ依リ保險計理人ヲ選任シ保險數理ニ關スル事項ヲ擔當セシムルコトヲ要ス

主務大臣保險計理人ガ其ノ職務ヲ怠リ又ハ其ノ職務ヲ行フニ不適當ナル行爲ヲ爲シタリト認ムルトキハ其ノ解任ヲ命ズルコトヲ得

第九十條　保險計理人ハ會社ガ本法ニ依リ主務大臣ニ提出スル書類ヲ揭グル事項中責任準備金其ノ他ノ保險契約ニ關スル準備金、未收保險料及保險約款ノ規定ニ依ル貸付金ノ計算ノ正當ナルコトヲ確認スルコトヲ要ス

保險計理人前條第一項ノ事項ニ付主務大臣ノ諮問ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク答申ヲ爲スコトヲ要ス

第九十一條　保險會社ノ監査役ハ會社ノ業務及財產ノ狀況ニ關スル調査ノ結果ヲ記載シタル監査書ヲ每事業年度二回作成シ之ヲ本店又ハ主タル事務所ニ備置クコトヲ要ス

第五章　會社ノ管理

第九十二條　保險會社ハ契約ヲ以テ他ノ保險會社ニ其ノ業務及財產ノ管理ヲ委託スルコトヲ得

前項ノ契約ハ各會社ニ於テ株主總會又ハ社員總會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

前項ノ決議ハ商法第三百四十三條又ハ本法第三十九條第二項ノ規定ニ依ルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第九十三條　前條第一項ノ契約ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第九十四條　前條ノ認可アリタルトキハ各會社ハ遲滯ナク其ノ旨及契約ノ要旨ヲ公告シ且管理ヲ委託シタル會社ニ在リテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨竝ニ受託會社ノ商號又ハ名稱及其ノ本店又ハ主タル事務所ヲ登記スルコトヲ要ス

前項ノ登記ハ委託會社ノ本店及支店又ハ各事務所ノ所在地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第九十五條　本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外委託會社ト受託會社トノ間ノ關係ハ委任ニ關スル規定ニ從フ

第九十六條　受託會社ガ委託會社ノ爲ニ保險契約其ノ他ノ取引ヲ爲スニハ委託會社ノ爲ニスルコトヲ表示スルコトヲ要ス

前項ノ表示ヲ爲サズシテ爲シタル保險契約其ノ他ノ取引ハ之ヲ自己ノ爲ニ爲シタルモノト看做ス

商法第三十八條第一項及第三項ノ規定ハ受託會社ニ之ヲ準用ス

民法第四十四條第一項ノ規定ハ管理ノ委託アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第九十七條　管理契約ノ解除ハ株主總會又ハ社員總會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

前項ノ決議ハ商法第三百四十三條又ハ本法第三十九條第二項ノ規定ニ依ルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第九十三條ノ規定ハ第一項ノ解除ニ之ヲ準用ス

第九十八條　管理契約ノ解除又ハ終了アリタルトキハ各會社ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ公告スルコトヲ要ス

第九十九條　主務大臣保險會社ノ業務又ハ財產ノ狀況ニ依リ會社ヲシテ合併、業務及財產ノ管理ノ委託又ハ契約ノ移轉ヲ爲サシムルコトヲ適當ト認ムルトキハ會社ニ對シ之ヲ勸告スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ主務大臣必要ト認ムルトキハ相手會社ヲ指定シ且其ノ會社ニ對シテモ前項ノ事項ヲ勸告スルコトヲ得

第百條　主務大臣保險會社ノ業務又ハ財產ノ狀況ニ依リ其ノ事業ノ繼續ヲ困難ト認ムルトキ又ハ業務ノ狀況著シク不良ニシテ公益上其ノ事業ノ繼續ヲ不適當ト認ムルトキハ事業ノ停止、業務及財產ノ管理又ハ契約ノ移轉ノ命令ヲ爲スコトヲ得

第百一條　前條又ハ第百三十七條第一項ノ管理ハ主務大臣ノ選任シタル保險管理人之ヲ爲ス

保險會社ハ正當ノ事由ナクシテ保險管理人タルコトヲ拒否スルコトヲ得ズ

保險管理人ハ管理ヲ受クル會社ニ代リ保險契約其ノ他ノ取引竝ニ財產ノ管理及處理ヲ爲ス權限ヲ有ス

主務大臣ハ保險管理人又ハ管理ヲ受クル會社ニ對シ管理ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

主務大臣必要アリト認ムルトキハ保險管理人ヲ解任スルコトヲ得

第九十六條第一項第二項及第四項竝ニ商法第三十八條第一項及破產法第百六十三條乃至第百六十六條ノ規定ハ保險管理人ニ之ヲ準用ス但シ破產法中裁判所トアルハ之ヲ主務大臣トス

第百二條　主務大臣管理ノ命令ヲ爲シタルトキハ直ニ會社ノ本店又ハ主タル事務所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ其ノ旨ヲ通知シ且會社ノ本店及支店又ハ各事務所ノ所在地ノ登記所ニ其ノ登記ヲ囑託スルコトヲ要ス

登記所ガ前項ノ囑託ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク其ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第百三條　管理ノ命令アリタルトキハ管理ヲ受クル會社ノ事業ハ之ヲ停止ス但シ主務大臣必要アリト認ムルトキハ其ノ全部又ハ一部ヲ停止セザルモノト爲スコトヲ得

第百四條　主務大臣必要アリト認ムルトキハ管理ヲ受クル會社ノ保險契約ニ付計算ノ基礎ノ變更、保險金額ノ削減及將來ノ保險料ノ減額又ハ契約條項ノ變更ヲ爲スコトヲ得

管理ヲ受クル會社ガ株式會社ナル場合ニ於テ主務大臣必要アリト認ムルトキハ株主ノ名義書換ノ禁止ヲ爲スコトヲ得

第一項ノ規定ニ依リ保險金額ノ削減及將來ノ保險料ノ減額又ハ契約條項ノ變更ノ處分アリタルトキハ會社ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨及變更ノ要旨ヲ公告スルコトヲ要ス前項ノ規定ニ依リ株主ノ名義書換ノ禁止ノ處分アリタルトキ亦同ジ

第百五條　保險會社保險管理人タルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ管理ヲ受クル會社ニ對シ合併又ハ保險契約ノ移轉ニ關シ協議ヲ爲スコトヲ得

第百六條　管理ノ必要ナキニ至リタルトキハ主務大臣管理ノ終了ヲ命ズ

第百二條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第百七條　商法第三百八十一條第一項第三項、第三百八十六條第一項第一號乃至第五號第十號第十一號、同條第二項中此等ニ關係アル部分、第三百八十七條第一項、第三百八十八條乃至第三百九十一條、第三百九十七條及第三百九十八條ノ規定ハ管理ヲ受クル保險會社ニハ之ヲ適用セズ

第六章　解散

第百八條　保險會社ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

一　存立時期ノ滿了其ノ他定款ニ定メタル事由ノ發生
二　株主總會又ハ社員總會ノ決議
三　會社ノ合併
四　保險契約全部ノ移轉
五　會社ノ破產
六　免許ノ取消
七　解散ヲ命ズル裁判

會社ガ前項第六號ノ事由ニ因リテ解散シタルトキハ主務大臣ハ直ニ會社ノ本店及支店又ハ各事務所ノ所在地ノ登記所ニ其ノ登記ヲ囑託スルコトヲ要ス

登記所ガ前項ノ囑託ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク其ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第百九條　解散、合併及保險契約ノ移轉ニ關スル決議ハ商法第三百四十三條又ハ本法第三十九條第二項ノ規定ニ依ルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第百十條　解散ノ決議、合併及保險契約ノ移轉ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第百十一條　保險會社ハ契約ヲ以テ責任準備金算出ノ基礎ヲ同ジクスル保險契約ノ全部ヲ包括シテ他ノ保險會社ニ移轉スルコトヲ得

會社ハ前項ノ契約ヲ以テ會社財產ヲ移轉スベキコトヲ定ムルコトヲ得但シ主務大臣ガ其ノ會社ノ債權者ノ利益ヲ保護スルニ必要ト認ムル財產ヲ留保スルコトヲ要ス

第百十二條　保險契約ヲ移轉セントスル會社ハ第百九條ノ決議ノ日ヨリ二週間內ニ移轉契約ノ要旨及各會社ノ貸借對照表ヲ公告スルコトヲ要ス

前項ノ公告ニハ移轉セラルベキ保險契約者ニシテ異議アラバ一定ノ期間內ニ之ヲ述ブベキ旨ヲ附記スルコトヲ要ス但シ其ノ期間ハ一月ヲ下ルコトヲ得ズ

前項ノ期間內ニ異議ヲ述ベタル保險契約者ガ移轉セラルベキ保險契約者總數ノ十分ノ一ヲ超エ又ハ其ノ保險金額ガ移轉セラルベキ保險金總額ノ十分ノ一ヲ超ユルトキハ保險契約ノ移轉ヲ爲スコトヲ得ズ第百十四條ノ規定ニ依リ契約條項ノ變更ヲ定ムル場合ニ於テ異議ヲ述ベタル保險契約者ニシテ其ノ變更ヲ受クベキ者ガ變更ヲ受クベキ保險契約者總數ノ十分ノ一ヲ超エ又ハ其ノ保險金額ガ變更ヲ受クベキ保險契約者ノ保險金總額ノ十分ノ一ヲ超ユルトキ亦同ジ

前二項ノ規定ハ相互會社ガ第五十一條第一項ノ機關ニ依ラズシテ保險契約移轉ノ決議ヲ爲シタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第百十三條　保險契約ヲ移轉セントスル會社ハ株主總會又ハ社員總會ノ決議アリタル時ヨリ保險契約ノ移轉ヲ爲シ又ハ爲サザルニ至ル時迄其ノ移轉セントスル保險契約ト同種ノ保險契約ヲ爲スコトヲ得ズ

第百十四條　保險契約全部ノ移轉ヲ爲ス場合ニ於テハ會社ハ移轉スベキ保險契約ニ付移轉契約ヲ以テ計算ノ基礎ノ變更、保險金額ノ削減及將來ノ保險料ノ減額又ハ契約條項ノ變更ヲ定ムルコトヲ得

第百十五條　前條ノ規定ニ依リ保險金額ノ削減ヲ定ムル場合ニ於テハ保險契約ヲ移轉セントスル會社ハ株主總會又ハ社員總會ノ決議アリタル時ヨリ保險契約ノ移轉ヲ爲シ又ハ爲サザルニ至ル時迄其ノ財產ノ處分ヲ爲シ又ハ債務ヲ負擔スベキ行爲ヲ爲スコトヲ得ズ但シ會社ノ維持ニ必要ナル費用ヲ支出スル場合又ハ財產ノ保全其ノ他特別ノ必要ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ受ケ財產ヲ處分スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

保險契約ノ移轉アリタルトキハ保險契約ニ因リテ生ジタル債權ニシテ前項ノ規定ニ依リ支拂ヲ停止セラレタルモノニ付テハ移轉契約ニ定メタル保險金額削減ノ割合ニ依リ其ノ金額ヲ削減シテ支拂ヲ爲スコトヲ要ス

前條ノ規定ニ依リ契約條項ノ變更ヲ定ムル場合ニ於テ其ノ變更ヲ爲サントスル會社亦第一項ニ同ジ但シ保險契約ニ因リテ生ジタル債務ヲ辨濟シ又ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ變更ニ關セザル行爲ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第百十六條　會社ガ保險契約ノ移轉ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ公告スルコトヲ要ス移轉ヲ爲サザルニ至リタルトキ亦同ジ

第百十七條　保險契約ノ移轉ヲ爲シタル會社ガ其ノ保險契約ニ付有スル權利義務ハ移轉ヲ受ケタル會社之ヲ承繼ス移轉契約ヲ以テ移轉スベキコトヲ定メタル財產ニ付亦同ジ

保險契約移轉ノ決議ノ後ニ於テ移轉スベキ保險契約ニ付爲シタル收支其ノ他移轉スベキ保險契約又ハ財產ニ付生ジ

タル變更ハ移轉ヲ受ケタル會社ニ歸ス

第百十八條　保險契約ノ移轉アリタル場合ニ於テ移轉ヲ受ケタル會社ガ相互會社ナルトキハ其ノ保險契約者ハ其ノ會社ニ入社ス

第百十九條　會社ハ解散ノ後ト雖モ三月内ニ限リ保險契約移轉ノ決議ヲ爲スコトヲ得

第百三十四條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用セズ但シ保險契約ノ移轉ヲ爲サザルニ至リタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第百二十條　保險契約ノ移轉ニ因ル解散ノ登記ノ申請書ニハ移轉契約書、各會社ノ株主總會又ハ社員總會ノ決議錄竝ニ第百十二條ノ公告及異議竝ニ保險契約移轉ノ認可ヲ證スル書類ヲ添附スルコトヲ要ス

第百二十一條　保險會社第百條又ハ第百三十七條第一項ノ規定ニ依ル契約ノ移轉ノ命令ヲ受ケタル場合ニ於テ相手會社ノ指定アルトキハ其ノ會社、指定ナキトキハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ他ノ保險會社ニ對シ契約ノ移轉ニ關シ協議ヲ爲スコトヲ要ス

主務大臣前項ノ指定又ハ認可ヲ爲シタルトキハ其ノ相手會社ニ對シ之ヲ通知ス

第一項ノ協議ハ各會社ニ於テ株主總會又ハ社員總會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

第一項ノ協議調ヒタルトキハ各會社ハ遲滯ナク主務大臣ニ其ノ認可ヲ申請スルコトヲ要ス

第百九條ノ規定ハ第三項ノ決議ニ之ヲ準用ス

第百二十二條　主務大臣ノ命令ニ依リ契約ノ移轉ヲ爲ス場合ニ於テハ會社ハ前條第一項ノ協議ヲ以テ移轉スベキ保險契約ニ關スル準備金ノ金額ニ相當スル財産ヲ移轉スベキコトヲ定ムルコトヲ要ス

第百十一條第二項但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第百十四條及第百十五條ノ規定ハ前條第一項ノ協議ニ之ヲ準用ス

第百二十三條　主務大臣契約ノ移轉ノ命令ヲ爲シタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ移轉スベキ保險契約ニ關スル計理ニ付特別ノ計算ヲ爲スベキコトヲ命ジ其ノ他移轉ヲ受クル會社ノ保險契約者、被保險者又ハ保險金額ヲ受取ルベキ者ノ利益ヲ保護スルニ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第百二十四條　契約ノ移轉ニ關スル協議ヲ爲サズ若ハ爲スコト能ハズ又ハ協議調ハザルトキハ主務大臣ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ契約ノ移轉ニ付必要ナル決定ヲ爲スコトヲ得

主務大臣前項ノ決定ヲ爲サントスルトキハ豫メ各會社ノ意見ヲ徴スルコトヲ要ス

第百二十五條　主務大臣ノ命令ニ依ル契約ノ移轉ハ主務大臣ノ認可又ハ決定ニ依リ其ノ效力ヲ生ズ

前項ノ認可又ハ決定アリタルドキハ會社ハ遲滯ナク其ノ旨及契約ノ移轉ニ關スル協議又ハ決定ノ要旨ヲ公告スルコトヲ要ス

第百二十六條　第百三條、第百四條、第百十七條、第百十八條及第百二十條ノ規定ハ主務大臣ノ命令ニ依ル契約ノ移轉ノ場合ニ之ヲ準用ス

第百二十七條　保險會社ハ其ノ營業ノ讓渡ヲ爲スコトヲ得ズ

第百二十八條　保險會社ガ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ其ノ決議ノ日ヨリ二週間内ニ合併契約ノ要旨及各會社ノ貸借對照表ヲ公告スルコトヲ要ス

第百十二條第二項乃至第四項、第百十六條及第百二十條ノ規定ハ合併ノ場合ニ之ヲ準用ス

前二項ノ規定ニ依リテ爲シタル合併ハ異議ヲ述ベタル保險契約者其ノ他保險契約ニ因リテ生ジタル權利ヲ有スル者ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第百二十九條　會社ガ合併ヲ爲ス場合ニ於テハ合併契約ヲ以テ其ノ保險契約ニ關スル計算ノ基礎又ハ契約條項ノ變更ヲ定ムルコトヲ得

第百十三條及第百十五條第三項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ契約條項ノ變更ヲ定ムル場合ニ於テ其ノ變更ヲ爲サントスル會社ニ之ヲ準用ス

第百三十條　相互會社ハ他ノ保險會社ト合併ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立スル會社ハ相互會社ナルコトヲ要ス但シ合併ヲ爲ス會社ノ一方ガ株式會社ナルトキハ合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立スル會社ハ株式會社ナルコトヲ得

相互會社ト株式會社トノ合併ノ場合ニ於テハ各本法又ハ商法ノ合併ニ關スル規定ニ從フコトヲ要ス

合併契約書ニ記載スベキ事項其ノ他合併ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第百三十一條　前條ノ合併アリタル場合ニ於テ合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立スル會社ガ相互會社ナルトキハ合併ニ因リテ解散スル會社ノ保險契約者ハ其ノ會社ニ入社シ株式會社ナルトキハ相互會社ノ社員ハ其ノ地位ヲ失フ但シ保險關係ニ屬スル權利義務ハ合併契約ノ定ムル所ニ從ヒ合併後存續スル株式會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル株式會社之ヲ承繼ス

前項ノ規定ニ依リ合併後存續スル會社ニ入社スベキ者ハ商法第四百十二條第一項ノ規定ニ依ル社員總會ニ於テ社員ト同一ノ權利ヲ有ス但シ合併契約ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十四條及第三十九條第二項第三項竝ニ商法第百八十二條、第百八十三條及第百八十七條第二項ノ規定ハ合併ニ因リテ設立スル相互會社ノ創立總會ニ之ヲ準用ス

第七章　清算

第百三十二條　保險會社ガ免許ノ取消ニ因リテ解散シタルトキハ主務大臣ハ清算人ヲ選任ス

商法第百二十二條、第百三十八條及第四百十七條第二項ニ定ムル清算人ノ選任ハ主務大臣之ヲ爲ス此ノ場合ニ於テハ利害關係人ノ請求ナクシテ之ヲ爲スコトヲ得

商法第百二十九條第三項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

主務大臣ハ監査役又ハ三月前ヨリ引續キ資本ノ十分ノ一以上ニ當ル株式ヲ有スル株主若ハ十分ノ一以上ノ社員ノ請求ニ依リ清算人ヲ解任スルコトヲ得但シ此ノ請求ヲ爲ス社員ニ付定款ヲ以テ他ノ標準ヲ定ムルコトヲ得

重要ナル事由アルトキハ主務大臣ハ前項ノ請求ナクシテ清算人ヲ解任スルコトヲ得

商法第四百二十六條第二項ノ規定ハ保險事業ヲ營ム株式會社ノ清算人ニハ之ヲ適用セズ

第百三十三條　前條ノ規定ニ依リ清算人ヲ選任シタル場合ニ於テハ會社ヲシテ之ニ報酬ヲ與ヘシムルコトヲ得其ノ額ハ主務大臣之ヲ定ム

第百三十四條　保險會社ガ第百八條第一項第二號、第六號又ハ第七號ニ掲グル事由ニ因リテ解散シタルトキハ保險金額ヲ支拂フベキ事由ガ解散ノ日ヨリ三月内ニ生ジタルトキニ限リ保險金額ヲ支拂フコトヲ要ス

前項ノ期間經過ノ後ハ生命保險ヲ目的トスル會社ニ在リテハ被保險者ノ爲ニ積立テタル金額、損害保險ヲ目的トスル會社ニ在リテハ未ダ經過セザル期間ニ對スル保險料ヲ拂戻スコトヲ要ス

第百三十五條　商法第四百二十三條第二項中裁判所トアルハ保險會社ニ付テハ之ヲ主務大臣トス

第百三十六條　主務大臣ハ保險會社ノ清算事務及財産ノ狀況ヲ檢査シ、財産ノ供託ヲ命ジ其ノ他清算ノ監督上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第百三十七條　主務大臣ハ解散シタル保險會社ノ業務又ハ財産ノ狀況ニ依リ必要アリト認ムルトキハ業務及財産ノ管理又ハ契約ノ移轉ノ命令ヲ爲スコトヲ得

第百十九條第二項ノ規定ハ前項ノ命令アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第八章　罰則

第百三十八條　第一條第一項ノ規定ニ違反シ免許ヲ受ケズシテ保險事業ヲ營ミタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第百三十九條　保險管理人、保險計理人又ハ相互會社ノ發起人、第七十三條第一項ニ於テ準用スル商法第五十六條第三項ノ設立委員、取締役、監査役、第六十條若ハ第六十二條ニ於テ準用スル商法第二百五十八條第二項、第二百七十條第一項若ハ第二百七十二條第一項ノ職務代行者若ハ支配人其ノ他事業ニ關スル或種類若ハ特定ノ事項ノ委任ヲ受ケタル使用人自己若ハ第三者ヲ利シ又ハ會社ヲ害センコトヲ圖リテ其ノ任務ニ背キ會社ニ財産上ノ損害ヲ加ヘタルトキハ七年以下ノ懲役又ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス

相互會社ノ清算人、第七十七條ニ於テ準用スル商法第二百五十八條第二項、第二百七十條第一項若ハ第二百七十二條第一項ノ職務代行者又ハ第七十八條ノ整理委員、監督員若ハ管理人前項ニ掲グル行爲ヲ爲シタルトキ亦前項ニ同ジ

第百四十條　第二十四條第一項又ハ第五十一條第一項ノ機關ヲ構成スル者自己若ハ第三者ヲ利シ又ハ保險契約者若ハ社員ヲ害センコトヲ圖リテ其ノ任務ニ背キ保險契約者若ハ社員ニ財産上ノ損害ヲ加ヘタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第百四十一條　前二條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第百四十二條　第百三十九條第一項ニ掲グル者又ハ相互會社ノ檢査役ハ左ノ場合ニ於テハ五年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　會社ノ設立ノ場合ニ於テ社員ノ數、基金總額ノ引受若ハ基金ノ拂込ニ付又ハ第三十四條第四號乃至第六號第九號若ハ第三十八條第二項第三號第五號ニ掲グル事項ニ付裁判所又ハ總會ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

二　何人ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ會社ノ計算ニ於テ不正ニ共ノ株式ヲ取得シ又ハ質權ノ目的トシテ之ヲ受ケタルトキ

三　法令又ハ定款ノ規定ニ違反シテ基金ノ償却、基金利息ノ支拂又ハ利益若ハ剩餘金ノ配當ヲ爲シタルトキ

四　會社ノ事業ノ範圍外ニ於テ投機取引ノ爲ニ會社財産ヲ處分シタルトキ

第百四十三條　前四條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ情狀ニ因リ懲役及罰金ヲ併科スルコトヲ得

第百四十四條　第百三十九條若ハ第百四十條ニ掲グル者又ハ相互會社ノ檢査役若ハ第七十八條ノ監査委員其ノ職務ニ關シ不正ノ請託ヲ受ケ財産上ノ利益ヲ收受シ、要求シ又ハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ利益ヲ供與シ又ハ其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタル者亦前項ニ同ジ

第百四十五條　左ニ掲グル事項ニ關シ不正ノ請託ヲ受ケ財産上ノ利益ヲ收受シ、要求シ又ハ約束シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　保險契約者總會、相互會社ノ創立總會又ハ社員總會ニ於ケル發言又ハ議決權ノ行使

二　第二章、第三章及第七章ニ定ムル訴ノ提起又ハ資本ノ十分ノ一以上ニ當ル株主若ハ十分ノ一以上ノ社員ノ權利ノ行使

前項ノ利益ヲ供與シ又ハ其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタル者亦前項ニ同ジ

第百四十六條　第百四十四條第一項又ハ前條第一項ノ場合ニ於テ犯人ノ收受シタル利益ハ之ヲ沒收ス其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第百四十七條　第百四十四條第二項又ハ第百四十五條第二項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第百四十八條　保險計理人第九十條第一項ノ規定ニ違反シ正當ノ事由ナクシテ確認ヲ爲サズ又ハ不正ノ確認ヲ爲シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第百四十九條　法人又ハ人ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ第百三十八條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ其ノ法人又ハ人ハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第百五十條　第百三十八條ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者

又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第百五十一條　第百三十九條、第百四十條、第百四十二條又ハ第百四十四條第一項ニ掲グル者ガ法人ナルトキハ本章ノ罰則ハ其ノ行爲ヲ爲シタル取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員又ハ支配人ニ之ヲ適用ス

第百五十二條　保險會社ノ發起人、設立委員、取締役、監査役、檢査役、清算人、第九十二條第一項ノ管理ノ受託會社、保險管理人、整理委員、監督員、商法第三百九十八條第一項（第七十八條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ノ管理人、監査委員、商法第二百五十八條第二項、第二百七十條第一項若ハ第二百七十二條第一項（第六十條、第六十二條又ハ第七十七條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ノ職務代行者又ハ支配人ハ左ノ場合ニ於テハ五千圓以下ノ過料ニ處ス但シ其ノ行爲ニ付刑ヲ科スベキトキハ此ノ限ニ在ラズ

一　第五條ノ規定ニ違反シテ他ノ事業ヲ營ミタルトキ

二　第六條ノ規定ニ違反シテ他ノ會社ノ常務ニ從事シタルトキ

三　本法ニ基キテ爲ス主務大臣ノ命令ニ違反シタルトキ

四　本法ニ定ムル檢査又ハ調査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタルトキ

五　官廳、總會又ハ第二十四條第一項若ハ第五十一條第一項ノ機關ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

六　第十條第一項ノ規定ニ違反シテ第一條第二項ニ掲グル書類ニ定メタル事項ノ變更ヲ爲シタルトキ

七　本法ニ定ムル登記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

八　本法ニ定ムル公告、通知若ハ屆出ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告、通知若ハ屆出ヲ爲シタルトキ

九　本法ノ規定ニ違反シ正當ノ事由ナクシテ書類ノ閲覽又ハ其ノ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ拒ミタルトキ

十　第十四條又ハ第三十八條第二項ノ規定ニ違反シテ入社申込證ヲ作ラズ又ハ株式申込證若ハ入社申込證ニ記載スベキ事項ヲ記載セズ若ハ不實ノ記載ヲ爲シタルトキ

十一　第十七條又ハ第十八條ノ規定ニ違反シテ資本減少ノ手續ヲ爲シタルトキ

十二　第二十條乃至第二十七條ノ規定ニ違反シテ組織變更ノ手續ヲ爲シタルトキ

十三　定款、社員名簿、議事錄、財産目錄、貸借對照表、事業報告書、監査書、事務報告書、決算報告書、第四十二條ニ於テ準用スル商法第三十二條第一項ノ帳簿、第七十八條ノ調査書、損益計算書又ハ基金ノ償却、基金利息ノ支拂若ハ準備金及剩餘金ノ配當ニ關スル議案ニ記載スベキ事項ヲ記載セズ又ハ不實ノ記載ヲ爲シタルトキ

十四　第五十六條第一項（第七十七條、第九十一條又ハ第六十七條及第七十七條ニ於テ準用スル商法第二百八十二條第一項ノ規定ニ違反シテ帳簿又ハ書類ヲ備置カザルトキ

十五　第五十四條ニ於テ準用スル商法第二百三十三條又ハ第二百三十四條第一項ノ規定ニ違反シテ社員總會若ハ第五十一條第一項ノ機關ヲ招集シ若ハ招集セズ又ハ定款ニ定メタル地以外ノ地ニ於テ之ヲ招集シタルトキ

十六　本法又ハ定款ニ定メタル取締役、監査役又ハ保險計理人ノ員數ヲ缺クニ至リタル場合ニ於テ其ノ選任手續ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

十七　第十九條第三項、第六十三條、第六十五條、第八十六條又ハ第八十七條ノ規定ニ違反シテ準備金ヲ積立テズ又ハ之ヲ使用シタルトキ

十八　第八十八條第一項ノ規定ニ違反シテ責任準備金ノ計算ヲ爲サズ又ハ之ヲ帳簿ニ記載セザルトキ

十九　第七十二條ノ規定ニ違反シテ解散ノ手續ヲ爲シタルトキ

二十　第七十五條又ハ第七十六條若ハ定款ノ規定ニ違反シテ會社財産ヲ處分シ又ハ殘餘財産ヲ分配シタルトキ

二十一　第七十七條ニ於テ準用スル商法第百二十四條第三項ノ規定ニ違反シテ破産宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ第七十八條ニ於テ準用スル商法第四百三十一條第二項ノ規定ニ違反シテ特別清算開始ノ申立ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

二十二　清算ノ結了ヲ遲延セシムル目的ヲ以テ第七十七條ニ於テ準用スル商法第四百二十一條第一項ノ期間ヲ不當ニ定メタルトキ

二十三　第七十七條又ハ第七十八條ニ於テ準用スル商法第四百二十三條又ハ第四百三十八條ノ規定ニ違反シテ債務ノ辨濟ヲ爲シタルトキ

二十四　第七十八條ニ於テ準用スル商法第四百四十五條第一項又ハ第二項ノ規定ニ違反シタルトキ

二十五　第七十八條ニ於テ準用スル商法第三百八十六條、第四百三十二條、第四百三十七條又ハ第四百五十四條第一項ノ規定ニ依ル裁判所ノ財産保全ノ處分ニ違反シタルトキ

二十六　第百一條第二項ノ規定ニ違反シ正當ノ事由ナクシテ保險管理人タルコトヲ拒否シタルトキ

二十七　主務大臣ノ選任シタル保險管理人若ハ清算人又ハ裁判所ノ選任シタル管理人若ハ清算人ニ事務ノ引渡ヲ爲サザルトキ

二十八　第百三條（第百二十六條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ノ規定ニ違反シテ事業ヲ營ミタルトキ

二十九　第百十二條ノ規定ニ違反シテ保險契約移轉ノ手續ヲ爲シタルトキ

三十　第百二十七條ノ規定ニ違反シテ營業ノ讓渡ヲ爲シタルトキ

三十一　第百二十八條第一項第二項、第百三十條第三項又ハ第七十三條ニ於テ準用スル商法第九十九條若ハ第百條ノ規定ニ違反シテ合併ノ手續ヲ爲シタルトキ

三十二　第百十三條又ハ第百十五條（第百二十九條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ノ規定ニ違反シテ保險契約、財産ノ處分又ハ債務ノ負擔スベキ行爲ヲ爲シタルトキ

第百五十三條　保險計理人第九十條第二項ノ規定ニ違反シテ答申ヲ爲サズ又ハ虚僞ノ答申ヲ爲シタルトキハ五千圓以下ノ過料ニ處ス但シ其ノ行爲ニ付刑ヲ科スベキトキハ此ノ限ニ在ラズ

第百五十四條　第四條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ過料ニ處ス

第百五十五條　不正ノ競爭ノ目的ヲ以テ相互會社ノ登記シタル名稱ト同一若ハ類似ノ商號若ハ名稱ヲ使用シ又ハ不正ノ目的ヲ以テ他ノ相互會社ノ事業ナリト誤認セシムベキ商號若ハ名稱ヲ使用シタル者ハ千圓以下ノ過料ニ處ス

第百五十六條　非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ第百五十二條乃至前條ノ過料ニ之ヲ準用ス

附　則

第百五十七條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第百五十八條　本法ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外本法施行前ニ生ジタル事項ニモ亦之ヲ適用ス但シ從前ノ規定ニ依リテ生ジタル效力ヲ妨ゲズ

第百五十九條　明治三十三年七月一日前設立シタル保險會社ニシテ本法施行ノ際現ニ存スルモノハ本法ニ依リテ事業ノ免許ヲ受ケタル保險會社ト看做ス

第百六十條　從前ノ規定ニ依リテ爲シタル認可、處分其ノ他ノ行爲ハ本法中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第百六十一條　商法中改正法律施行法（以下新商法施行法ト稱ス）第四條、第五條、第九條、第十一條、第十二條第一項、第十七條、第十八條、第十九條第一項第三項、第二十二條第一項第二項、第二十三條第一項、第二十四條、第二十五條第一項、第二十九條第一項、第三十條、第三十二條乃至第三十四條、第四十一條乃至第四十五條、第四十八條第一項第二項、第五十條、第五十一條及第五十四條ノ規定ハ相互會社ニ之ヲ準用ス但シ同法第三十三條第一項中新法第百九十七條トアルハ之ヲ保險業法第四十一條トシ第四十三條中新法第二百六十七條トアルハ之ヲ保險業法第五十七條トシ第四十四條中新法第二百六十八條トアルハ之ヲ保險業法第五十八條トス

前項ニ於テ準用スル新商法施行法第十二條第一項、第二十三條第一項又ハ第二十九條第一項ノ規定ニ違反シタルトキハ其ノ相互會社ノ取締役ヲ五百圓以下ノ過料ニ處ス

第一項ニ於テ準用スル新商法施行法第四十八條第一項ノ規定ニ違反シタルトキハ其ノ相互會社ノ取締役及其ノ職務ヲ行フ監査役ヲ五百圓以下ノ過料ニ處ス同條第二項ノ規定ニ違反シタルトキ其ノ相互會社ノ清算人及其ノ職務ヲ行フ監査役ニ付亦同ジ

第百六十二條　本法施行前ニ會社ガ資本減少ノ決議ヲ爲シ又ハ各會社ガ保險契約移轉若ハ合併ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ資本減少、保險契約移轉又ハ合併ニ付テハ從前ノ規定ヲ適用ス但シ資本減少又ハ合併ニ付新商法施行法第十八條、第十九條第一項第三項、第六十四條及第六十五條ノ規定ノ適用ヲ妨ゲズ

第百六十三條　本法施行ノ際現ニ保險會社ノ常務ニ從事スル取締役若ハ監査役又ハ支配人ニシテ他ノ會社ノ常務ニ從事スル者ハ本法施行後一年ヲ限リ第六條ノ規定ニ拘ラズ主務大臣ノ認可ヲ受ケズシテ引續キ其ノ會社ノ常務ニ從事スルコトヲ得

第百六十四條　本法施行ノ際現ニ生命保險會社ニ於テ保險數理ニ關スル事項ヲ擔當スル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法施行後三年ヲ限リ之ヲ本法ニ依ル保險計理人ト看做ス

第百六十五條　第百五十五條ノ規定ハ本法施行前ニ商號又ハ名稱ヲ使用シタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第百六十六條　本法施行前ニ從前ノ第五章ノ規定ヲ適用スベキ行爲アリタルトキハ本法施行後ト雖モ其ノ規定ヲ適用ス

本法施行後從前ノ規定ニ依ルベキ場合ニ於テ從前ノ第五章ノ規定ヲ適用スベキ行爲アリタルトキハ第八章ノ規定ヲ適用ス

第百六十七條　非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ第百六十一條第二項及第三項ノ過料ニ之ヲ準用ス

第百六十八條　本法ニ依リ署名スベキ場合ニ於テハ記名捺印ヲ以テ署名ニ代フルコトヲ得

第百六十九條　外國人又ハ外國法人ガ本法施行地內ニ支店、從タル事務所又ハ代理店ヲ設ケテ保險事業ヲ營ム場合ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第百七十條　本法施行ノ際必要ナル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（國務大臣八田嘉明君演壇ニ登ル）

〇**國務大臣（八田嘉明君）**　只今議題トナリマシタ保險業法改正法律案ニ付キマシテ提案理由ヲ御説明申上ゲマス、提案理由ノ第一點ハ、商法ガ改正セラレマシタルコトデアリマス、現行保險業法ハ相互會社ニ關スル規定其ノ他ニ於キマシテ商法ノ規定ヲ準用シ、或ハ之ニ對スル特則ヲ設ケテ居ル點ガ甚ダ多イノデアリマス、然ルニ御承知ノ通リ、此ノ商法ハ前議會ニ於キマシテ改正ニ相成リマシタ、此ノ關係ヨリ致シマシテ現行ノ保險業法ハ調和ヲ保ツ爲ニ、是非共之ヲ改正スル必要ヲ認メタノデアリマス、提案理由ノ第二點ハ、監督指導ノ方策ヲ整備スル必要ノ生ジタコトデアリマス、我ガ國ノ民營保險事業ハ、國力發展ト保險思想ノ普及トニ依リマシテ、逐年目覺シイ發達ヲ遂ゲ來ッテ居ルノデアリマス、國民生活ノ安定竝ニ其ノ資金ノ運用ヲ通ジマシテ、國家產業經濟ノ發展上極メテ重要ナル地位ヲ占ムルニ至ッテ居リマスルコトハ、誠ニ御同慶ニ存ズル所デアリマス、政府ニ於キマシテハ從前カラ保險事業ノ公益性ニ鑑ミマシテ、其ノ一層ノ普及發達ヲ圖リマスルト共ニ、其ノ經營ヲシテ益〻公益的ナラシムルヤウ、之ニ對スル指導監督ノ衝ニ當ッテ參ッタノデアリマス、然ルニ現行保險業法ハ明治三十三年ノ制定ニ係リ、其ノ後二三ノ補正ヲ加ヘタニ止マルノデアリマシテ、制定以來四十年ヲ玆ニ經マシタ現在ニ於キマシテハ、不十分ノ點ガ少クナイト認メラルヽニ至ッ

タノデアリマス、就キマシテハ政府ニ於キマシテハ此ノ改正ノ重要性ニ鑑ミマシテ、特ニ之ガ改正調査ニ關スル委員會ヲ設ケ、此ノ委員會ニ於キマシテ滿場一致ヲ以テ決議セラレマシタル答申ニ基キマシテ、事業發展ノ現狀ニ卽應スル趣旨ノ諸規定ヲ設ケタノデアリマス、今其ノ內容ノ主ナルモノヲ申述ベマスト、第一ニハ事業ノ經營ヲシテ一層適正ナラシムルガ爲、事業ノ監督ニ關スル規定ヲ整備シ、又不當ノ競爭ヲ防止スルガ爲ニ、事業ノ統制協定ニ關スル規定ヲ設ケマシタルコト、第二ニハ業績不良ニ陷リマシタ會社ニ對シ、有效適切ナル救濟又ハ改善ノ手段ヲ講ジ、保險契約者ノ利益ヲ確保スルガ爲、事業ノ管理及契約ノ移轉命令ニ關スル規定ヲ設ケマシタルコト、其ノ他業界內外ノ希望ニ卽シ、株式會社ノ相互化、株式會社ト相互會社トノ合倂、保險計理人等ノ制度ヲ設ケ、又財產ノ評價ニ關スル規定ヲ整備致シマシタルコト等デアリマス、今回ノ改正ニ依リマシテ我ガ國ノ保險事業ノ一層ノ向上ヲ促シ、其ノ健全ナル發展ニ資スル所ガ少クナイデアラウト信ズル次第デアリマス、何卒御審議ノ上御協贊アラムコトヲ希望致シマス

○子爵戶澤正己君　只今議題トナリマシタ保險業法改正法律案ハ、重要ナル法案デアリマスルガ故ニ、特別委員ノ數ヲ十五名トシ、其ノ指名ヲ議長ニ一任スルノ動議ヲ提出致シマス

○子爵稻村家治君　贊成

○議長(伯爵松平賴壽君)　戶澤子爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(伯爵松平賴壽君)　御異議ナイト認メマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス

〔石橋書記官朗讀〕

保險業法改正法律案特別委員

公爵山縣有道君　侯爵淺野長之君
伯爵樺山愛輔君　子爵梅小路定行君
子爵曾我祐邦君　子爵上原七之助君
仁井田益太郎君　男爵伊藤文吉君
男爵中村謙一君　男爵矢吹省三君
山岡萬之助君　下出民義君
藤原銀次郎君　大藪守治君
大和田健三郎君

○議長(伯爵松平賴壽君)　日程第二、青年學校教育費國庫補助法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、荒木文部大臣

青年學校教育費國庫補助法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十四年三月九日

衆議院議長　小山松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

青年學校教育費國庫補助法案

青年學校教育費國庫補助法

第一條　市町村立青年學校教育費ヲ補助スル爲國庫ハ每年豫算ヲ以テ定ムル金額ヲ支出ス

第二條　前條ノ補助金ハ青年學校教員ノ俸給及手當ニ充テシムル爲之ヲ市町村ニ交付ス

第三條　補助金ノ交付ニ關シ必要ナル規程ハ主務大臣之ヲ定ム

第四條　本法ノ適用ニ付テハ市町村組合ハ之ヲ市ト看做シ町村組合及町村制ヲ施行セザル地域ニ於ケル町村又ハ組合ニ準ズベキモノハ之ヲ町村ト看做ス

附　則

本法ハ昭和十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

實業教育費國庫補助法第四條但書中「及實業補習學校ニ對シ交付スル補助金」及同法第七條中「及前條」ヲ削リ同法第六條ノ二ヲ削ル

〔國務大臣男爵荒木貞夫君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(男爵荒木貞夫君)　只今議題トナリマシタ青年學校教育費國庫補助法案提出ノ理由ヲ御說明申上ゲマス、青年學校ハ男女勤勞青年ニ對シ普ク教育ノ機會ヲ與ヘ、以テ其ノ心身ヲ鍛錬シ、國防、產業等各般ニ亙ッテ國力ノ增强ニ資セムコトヲ期スル重要ナル教育機關デアリマシテ、政府ハ昭和十四年度ヨリ取リ敢ズ男子青年ニ對シ之ヲ義務教育ノ爲サムト致シテ居ルノデアリマス、仍テ政府ハ青年學校教育ノ發達ヲ助成スルト共ニ、一面地方財政ノ負擔ヲ緩和スル爲、茲ニ本法案ヲ提出致シタ次第デアリマス、尙實業教育費國庫補助法中實業補習學校ニ關係スル部分ハ、本法案ノ成立ニ依リ其ノ必要ナキニ至リマスノデ、本法案ノ附則ヲ以テ之ヲ削除セムトスル次第デアリマス、何卒愼重御審議ノ上、御協贊アラムコトヲ希望致シマス

○議長(伯爵松平賴壽君)　御質疑ガナケレバ本案ノ特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス

〔丸龜書記官朗讀〕

青年學校教育費國庫補助法案特別委員

侯爵德川義親君　子爵清岡長言君
男爵紀俊秀君　下村宏君
男爵大森佳一君　田所美治君
小坂順造君　細田安兵衞君
岩崎清行君

○議長(伯爵松平賴壽君)　日程第三、臺灣事業公債法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、松村政務次官

臺灣事業公債法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十四年三月九日

衆議院議長　小山松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

臺灣事業公債法中改正法律案

臺灣事業公債法中左ノ通改正ス

第一條中「一億五千四百六十萬圓」ヲ「一億七千二百九十萬圓」ニ改ム

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔政府委員松村光三君演壇ニ登ル〕

○政府委員(松村光三君)　只今議題トナリマシタ臺灣事業公債法中改正法律案提出ノ理由ヲ說明致シマス、臺灣總督府特別會計ニ於ケル既定繼續費港灣費ニ追加シ計上致シマシタル中部港築港工事ニ要スル經費千五百萬圓、茲ニ昭和十四年度豫算ニ計上シタル鐵道改良ニ要スル經費三百四十萬圓ハ、其ノ經費ノ性質及同特別會計歲計ノ現狀ニ顧ミマシテ、之ガ財源ヲ公債ニ依ルコトト致シマシタルニ依リ、現行臺灣事業公債法ノ公債發行限度ヲ增加スルノ必要ガアリマスノデ、本法律案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上速カニ協贊ヲ與ヘラレムコトヲ希望致シマス

○子爵戶澤正己君　只今日程ニ上リマシタ臺灣事業公債法中改正法律案ハ、關聯致シマスル所ガアリマス故ニ、朝鮮事業公債法中改正法律案外三件ノ特別委員ニ併託セラレムコトノ動議ヲ提出致シマス

○子爵稻村家治君　贊成

○議長(伯爵松平賴壽君)　戶澤子爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(伯爵松平賴壽君)　御異議ナイト認メマス

○議長(伯爵松平賴壽君)　日程第四、臺灣米穀移出管理特別會計法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、松村政務次官

臺灣米穀移出管理特別會計法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十四年三月九日

衆議院議長　小山松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

臺灣米穀移出管理特別會計法案

臺灣米穀移出管理特別會計法

第一條　臺灣總督府ニ於テ米穀ノ移出ヲ管理スル爲特別會計ヲ設置シ其ノ歲入ヲ以テ其ノ歲出ニ充ツ

第二條　本會計ニ据置運轉資本ヲ置キ其ノ金額ハ五百萬圓トシ漸次臺灣總督府特別會計ヨリ繰入ルルモノトス

第三條　本會計ニ屬スル經費ヲ支辨スル爲必要アルトキハ政府ハ本會計ノ負擔ニ於テ借入ヲ爲スコトヲ得但シ其ノ金額ハ二千五百萬圓ヲ超ユルコトヲ得ズ

第四條　本會計ニ於テハ米穀ノ賣渡代金、積立金ヨリ生ズル收入、借入金及附屬雜收入ヲ以テ其ノ歲入トシ米穀ノ買入代金、米穀ノ買入賣渡加工貯藏及運搬ニ關スル諸費、借入金ノ償還金及利子、一時借入金ノ利子其ノ他諸費ヲ以テ其ノ歲出トス

第五條　米穀ノ買入數量ノ增加其ノ他避クベカラザル事由ニ因リ生ジタル豫算ノ不足ヲ補フ爲歲出豫算ニ豫備費ヲ設クルコトヲ得

第六條　本會計ノ歲出額ハ其ノ實際ノ歲入及据置運轉資本ノ合計額ヲ超過スルコトヲ得ズ

第七條　本會計ニ於テ支拂上現金ニ餘裕アルトキハ之ヲ大藏省預金部ニ預入ルベシ

第八條　本會計ニ於テ支拂上現金ニ不足アルトキハ本會計ノ負擔ニ於テ一時借入ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル一時借入金ハ當該年度內ニ之ヲ返還スベシ

第九條　本會計ニ於テ決算上過剩ヲ生ジタルトキハ之ヲ積立ツベシ

本會計ニ於テ決算上不足ヲ生ジタルトキハ前項ノ規定ニ依ル積立金ヨリ之ヲ補足スベシ

第十條　本會計ノ積立金ハ之ヲ臺灣ニ於ケル農業ノ調整、開發及助長ノ爲必要ナル費途ニ使用スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ本會計ノ積立金ヲ使用セントスルトキハ其ノ金額ヲ臺灣總督府特別會計ノ歲入ニ繰入レ臺灣總督府特別會計ノ歲出トシテ拂出スベシ

第十一條　本會計ノ積立金ハ國債ヲ以テ保有シ又ハ大藏省預金部ニ預入レ之ヲ運用スルコトヲ得

第十二條　本會計ノ每年度歲出豫算ニ於ケル支出殘額ハ之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

第十三條　政府ハ每年本會計ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト共ニ帝國議會ニ之ヲ提出スベシ

第十四條　本會計ノ收入支出ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

本法ハ昭和十四年度ヨリ之ヲ施行ス

〔政府委員松村光三君演壇ニ登ル〕

○政府委員(松村光三君)　只今議題トナリマシタ臺灣米穀移出管理特別會計法案提出ノ理由ヲ說明致シマス、臺灣總督府ニ於テ、米穀ノ移出管理ノ爲ニ行フ米穀買入、賣渡、加工又ハ貯藏ニ關スル一切ノ歲入歲出ハ、之ヲ他ノ會計ト區分シテ經理スルヲ適當ト認メマスル所、之ガ爲特別會計ヲ設置スルノ必要ガアリマスノデ、本法律案ヲ提出シタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上、速カニ協贊ヲ與ヘラレムコトヲ希望致シマス

○議長(伯爵松平賴壽君)　丸山君ニ伺ヒマスガ、御要求ノ大臣ハ、總理大臣、農林大臣未ダ御出席ガアリマセヌデアリマスガ、出席ゴザイマセヌデモ御質疑ヲナサレマスカ、如何デスカ

○丸山鶴吉君　拓務大臣ガ御列席ノヤウデアリマスカラ、私ノ質問ハ相當長時間ニ亙ルト思ヒマスカラ、成ルベク速カニ總理大臣及農林大臣ノ御出席ヲ御願ヒ致シマシテ、質疑ヲ始メタイト思ヒマス

○議長(伯爵松平賴壽君)　宜シウゴザイマス、成ルベク早ク大臣ノ出席ヲ要求致シマス、質疑ノ通告ガゴザイマスカラ、丸山鶴吉君ニ御許ヲ致シマス、丸山鶴吉君

〔丸山鶴吉君演壇ニ登ル〕

○丸山鶴吉君　只今議題トナリマシタ臺灣移出米管理特別會計法案ハ、臺灣ノ移出米ノ管理ヲ致シマスコトニ伴ッテ、提出サレマシタ法律案デアリマスカラ、自然其ノ根本デアリマス臺灣ノ移出米管理ニ關スルコトヲ檢討致サナケレバナラヌト思フノデアリマス、此ノ臺灣ノ移出米管理ト云フ問題ハ、可ナリ重大ナル影響ヲ持ッテ居ル重要ナル事案デアリマシテ、今日當局ヨリ此ノ席ニ於テ此ノ案ノ內容ノ御說明ヲ承ルコトハ出來ナイノデアリマスガ、大體臺灣ノ移出米ノ管理ノ制度ハドウ云フモノデアルカト云フコトヲ檢討シテ見マスルト、段々內地デ米穀ノ統制ガ行ハレ、米價高ニナリマス影響ヲ受ケテ、臺灣ノ米モ値段ガ段々高クナッテ來ル、總督府デハ此ノ事ヲ不自然ナル高價ヲ維持シ、不當ナル高價ヲ維持シテ居ルト說明ヲサレテ居リマスガ、私共必ズシモ臺灣ノ米ガ一般ニ想像サレテ居ル程不自然ナル高價デアリ、非常ナ不當ナ高値ヲ維持シテ居ルトハ思ッテ居ラナイノデアリマス、勿論熱ト光ニ惠マレタル臺灣デアリマスカラ、多少內地ノ米作ヨリ有利ナ狀況ハアリマシテモ、運賃諸掛等ノ關係ヲ考慮致シマスト、サシテ不自然デアリ、不當デアリ、高價デアルトハ考ヘテ居リマセヌケレドモ、幾ラカ臺灣ノ米ガ有利ナ條件ニアルコトハ疑ハアリマセヌ、其ノ結果臺灣ニ於キマシテハ米作偏重ノ弊ヲ生ジテ來ル、農民ガ米作ノ利益ガ多イト云フノデ、外ノ作物ニハ向ハナイデ、米作偏重ノ傾向ヲ生ズルカラ、之ヲ抑ヘル爲ニ米價ノ移出ヲ總

段々島民諸君ガ皇民化シテ參ッテ居リマスコトハ、御互ニ同慶ノ至リデアリマス、併シ何ト申シマシテモ、統治僅カニ四十幾年デアリマス、全ク新附ノ同胞デアリマス、ソレデアリマスカラ兎モスレバ僻ミ根性ヲ持チ易イ、邪推ヲシ易イ、之ヲ統治スル人ノ心持ハ其ノ心理ヲ握リ、其ノ心ヲ獲ルコトニ最善ノ努力ヲ盡シマセヌト、兎モスレバ反感ヲ懷キ色々ノ問題ヲ惹キ起ス所ノ因ニナルノデアリマス、苟モ斯クノ如キ刺戟ヲ與ヘル問題ヲ考ヘナイデ、若シ總督府ノ言ハレルヤウニ、農民ニ負擔ノ餘力ガアルノダ、臺灣ノ農民ハ富ンデ居ルノダト云フコトデアルナラバ、又土地ガ非常ニ生産力ヲ持ッテ居ルト云フコトデアルナラバ、或ハ地租トシテ之ニ課稅シ、或ハ農民ノ所得ガ大キイト云フコトデアルナラバ、農民ノ所得ニ所得稅トシテ之ヲ課シテ、サウシテ臺灣總督府ノ費用ヲ以テ、或ハ農業ヲ振作ヲシ、奬勵ヲスルト云フ制度ヲ御採リニナッテモ差支ナイ、ソレヲ特ニ斯クノ如キ目立ツガ如キ制度ヲ御採リニナルコトガ、私ハ臺灣ノ島民諸君ヲ本當ニ我ガ帝國ニ信賴ヲサセ、靡カシメル所以デハナイト思フノデアリマス、誠ニ拙劣ナル策デアルト私ハ思フ、然ルニ是ガ非常ナル名案ノ如ク、非常ナル社會的ニ即應シタ新規ノ計畫デアルガ如ク宣傳サレルコトハ、誠ニ私ハ眼ノ無イ行キ方デアルト思フノデアリマス、モウ一ツ私ガ非常ニ遺憾ニ堪ヘナイト思ヒマスコトハ、臺灣ニ於キマシテ農産ノ一番大キナ問題ガ米デアリマスガ、其ノ次ニハ砂糖黍デアリマス、先覺ノ士、總督ノ奬勵ニ與ッテ、臺灣ニ於テ糖業ガ非常ナ發展ヲ致シマシタ、今デハ御承知ノ通リ自給自足ガ出來、其ノ餘リヲ以テ支那方面ニ輸出モ出來ル位ノ程度ニ迄發達ヲ致シマシタ、勿論其ノ發達ヲ見ル迄ニハ糖業者ノ苦心經營ノコトモアッタト思ヒマス、ソレガ爲ニ多數臺灣ノ農民諸君ガ利益ヲ受ケテ居ルコトモ嘗テ於キマシテハ、此ノ牧納區域制度ト云フヤウナコトモ、原料ヲ確保スル爲ニハ必要ナ制度デアルト思フノデアリマスケレドモ、兎ニ角農民カラ致シマスレバ、一年モ八箇月モ前ニ、砂糖會社カラ砂糖黍ハ一斤幾ラデ買フ、千斤幾ラデ買フゾト云フ買値ヲ發表シテ、作ッタラ其ノ間ノ狀況ハ如何ナルコトガアッテモ、其ノ會社ノ發表シタ値段デ其ノ會社ニ持ッテ行ッテ納メナケレバ、砂糖黍ヲ納メルコトガ出來ナイ、デアリマスカラ今迄デモ少シ目覺メタ農民ハ、牧納區域制度ト云フモノヲ撤廢シテ呉レト云フ運動、其ノ叫ビ聲ト云フモノハ今迄デモ屢々アッテ居ル、デ今度ハ米ガ斯ウナル、臺灣ノ農民ノ唯一ノ逃ゲ途ハドウデアルカト言ヘバ、若シ製糖會社ガ非常ナ不當ナ低イ砂糖黍ノ値段、買上ゲ値段ト云フモノヲ定メマスレバ、砂糖ヲ作ラズニ米ヲ作ッテ逃ゲテ行ク、斯ウ云フコトガ出來ルノデアリマスカラ、ソレデ砂糖會社モ無暗ニ砂糖黍ノ値段ヲ値下シテ、買上ゲ値段ヲ發表スルコトガ出來ナイ、常ニ米ノ値段ヲ見合セナケレバ此ノ値段ヲ發表スルコトガ出來ナイ、僅カニ農民ハ是デ助カッタ思ヲ致シテ居ッタノデアリマス、ソレデ今度ハ强制的ニ米ノ段値ガ石當リ二圓引キ下ゲラレテシマウ、全ク考ヘ方ニ依レバ臺灣ノ農民ハ其ノ重要農産物ニ對シテ、全ク自己ノ自由ト云フモノヲ本當ニ束縛サレタヤウナ感ジガアル、ソレデアリマスカラ何ト致シマシテモ、米ノ値段ヲ下ゲル結果、砂糖黍ノ値段ニ影響シテ來テ、下ゲテ來ルコトハ決シテ居ル、サウ致シマスト砂糖會社ハドウ云フコトニナルカト言ヘバ、總督府ノ今度御採リニナル所ノ政策ニ依ッテ、何等勞スル所ナク其ノ儘砂糖黍ノ値段ガ安クナッテ、非常ナ多大ナル利益ヲ得ルト云フコトニナル、是ハ三尺ノ童兒ト雖モ、是ハ臺灣ニ一度デモ足ヲ踏ンダ人ナラバ必ズ分リ得ルコトナンダ、砂糖會社ノ現況ハドウデアルカト言ヘバ、今迄ノ粒々苦心ノ結果デハアリマスケレドモ、年々歲々利益ヲ擧ゲテ、兎ニ角最近總督府デ發表サレタ最近五箇年ノ利益ノ高ヲ見マシテモ、昭和十三年度ノ如キハ七千何百萬圓ト云フ純益デアリマス、投資資本ニ對當テ見マスト、少イ會社デモ三割、大キイ會社ハ四割幾分ト云フ利益率ニナッテ居ルノデアリマス、砂糖會社ノ總テノ利益率ハ三割三分ノ平均ニ出テ居ル、ソレヲ今度ノ政策ニ依ッテ米ノ値段ヲ石當リ二圓下ゲルト云フコトニナレバ、從ッテ砂糖黍ノ値段ト云フモノモ下ゲ來ル、ソレダケハモウ勞セズシテ砂糖製造業者ト云フ者ハ利益ヲ得ルト云フコトハ極メテ明瞭ナコトデアル、然ルニ制益ヲ得ルコトガ惡イトハ申シマセヌケレドモ、此ノ粒々辛苦シテ居ル二百五十萬人ニ近イ農民諸君カラハ、一戶當リ少クトモ米ダケデモ五十圓ノ收入減ニナルコトヲ此ノ府令ニ依ッテ御ヤリニナラウトシテ居ル、砂糖會社ニ何ニモセズニ置イテ今迄ノ如キ多クモ既ニ三割三分ト云フ平均ノ利益ヲ得テ居ル會社ガ、此ノ制度ノ結果ニ依ッテ非常ニ利益ヲ得ルト云フノニ、製糖會社ニ對シテハ……此ノ儲ケル所ノ砂糖會社ニ對シテハ何等御考ニナッテ居ラヌ、是ハ今デモ總督府ハ糖業令ト云フモノヲ出シテ、糖業モ統制スルノ

デアルト說明ヲサレテ居リマスケレドモ、抑〻重要物產調整委員會ト云フモノガ特ニ設ケラレテ、朝野ノ名士ヲ集メテ、此ノ米穀移出米管理ノ要綱ト云フモノヲ御懸ケニナッテ協議ニナッタ、其ノ時ニ此ノ重要物產ノ調整委員會ト云フモノニ對シテハ、米穀統制ノ移出米ノ管理ノ問題ハ御提出ニナッタケレドモ、勿論糖業ニ對シテハ、何等ノコトモ御提出ニナッテ居ラヌノデアリマス、遂ニ此ノ委員會ノ諸君ガ態々臺灣迄出掛ケテ行カレテ、諸方ヲ實地ニ檢分サレタ結果、如何ニモ是ハ片手落チダ、ダカラ此ノ米穀移出米ノ管理ヲ致スナラバ、ドウシテモ糖業ノ統制ヲ致サナケレバイカヌ、ダカラ附帶決議トシテ、委員會ノ決議錄ヲ見マスルト、總督府ハ進ンデ糖業ノ統制ヲ一段ト强化スル方策ヲ講ジロト、斯ウ云フコトヲ書イテ居ル、ソレデアリマスカラ此ノ決議ニ基イテ初メテ總督府ガオット氣ガ付イタ如ク、糖業ニ對シテ糖業令ト云フモノヲ出スノダト言ッテ居ラレマス

（副議長侯爵佐佐木行忠君議長席ニ著ク）

衆議院デ此ノ法案ノ審査ニ至ル經過ヲ見マシテモ、今ニマダ其ノ糖業令ノ原案スラ御提出ニナラヌノデアリマス、委員ハ頻ニ要求致シテ居リマスガ、マダ協議中デ案ガ出來ナイトカ言ッテ、今ニ至ル迄糖業令ニ對スル何等要綱スラ御示シニナッテ居ラヌ、是ハ如何ニモ片手落デハナカラウカト私ハ考ヘテ、私ハ如何ニモ劃戰的ナコトヲ申スノデハアリマセヌケレドモ、兎ニ角此ノ法案ヲ實施スルコトニ依ッテ、農民ニハ今申上ゲルヤウナ直グ直接ニ、斯クノ如キ經濟上ノ打擊ヲ加ヘ、一方ソレダケノ利益ヲ得ル糖業者、一方ハ多數ノ農民デアル、一方ハ少數ノ資本家デアリ、而モ多クハ內地ノ有力資本家ガ投資ヲシテ居ル糖業デアル、是ニハ一指モ觸レナイデ置イテ、何ニモ考ヘズニ置イテ農民ノ頭ダケ刎ネルト云フ、此ノ案ヲ總督府ガ作ッタ其ノ心理ニ對シテ、其ノ總督府ヲ臺灣農民ガ本當ニ眞劒ニ考ヘタラドウ考ヘル、如何ニモ片手落デヒドイデヤナイカ、僅カニ重要物產調整委員會ガ氣ガ付カレテ、サウシテ糖業ニモ統制ヲ强化シナケレバイカヌト云フ附帶決議ニ基イテ、初メテ總督府ガ之ニ氣ガ付イテ、糖業令ヲ出スト今デハ言ッテ居ラレル、ケレドモ如何ナル內容ノ糖業令ヲ御作リニナルノカ、今迄一ツモ御示ニナッテ居ラス、斯ウ云フ行キ方ガ一體外地ノ新附ノ同胞ヲ統治ヲシテ行カウト云フ根本ニ私ハ反シテ居ルノダ、斯ウ云フ考ヘ方、斯ウ云フモノノ取扱方ガ、是ガ本當ニ外地ノ統治ノ上ニ於キマシテハ一番要訣デアッテ、斯クノ如キ事ヲスルコトニ依ッテ、其ノ外地民ノ心ヲ獲ヨウト云フ政治ニハ、私ハドウシテモヤリ切ラスト思フノデアリマス、ソレハ私ハ遲クテモ、氣ガ付カレタコトハ宜イノデアリマスガ、併シ糖業令ト云フモノハ臺灣總督府ノ律令デ御出シニナル、法律ニ代ル律令デ御出シニナル、我々ハ親シク其ノ糖業令ヲ議會デ審議スル權能ハナイノデアリマス、何ヲ御作リニナッテモ後デ小言ハ言ヘマスケレドモ、我々ハソレニ參畫スルコトハ出來ナイ、サウ云フモノヲ隱シテ御イデニナッテ、サウシテ農民ノ頭ニ直グ掛カル問題ダケハ、直グ何カ御決定ニナラウト斯ウ云フコトニナルノデアリマスカラ、私ハ此ノ案ガ外地ノ統治ニ及ス影響ト云フモノハ、非常ニ重大デアルト思フ、斯ウ云フ行キ方デハイケナイト云フコトヲ私ハ本當ニ信ジテ居ルノデアリマス、（拍手）餘リ長クナリマスカラ、先ヅ此ノ點ニ付キマシテ總理大臣ノ御意見ヲ承リマシタ上デ、案ノ內容ニ付キマシテ更ニ主管大臣ニ御質問ヲ申上ゲタイト思フノデアリマス、先ヅ總理大臣ハ此ノ案ニ付テ、今私ガ述ベマシタ點ニ付テ、如何ナル御高見ヲ御持ッテナッテ居ルカト云フコトノ御答辯ヲ得タイト思ヒマス（拍手）

○國務大臣（男爵平沼騏一郎君）　丸山君ノ御質問ニ御答ヲ致シマス、今回提出ニナッテ居リマスル臺灣米穀移出管理事業、是ハ臺灣ノ重要產業ノ調和的發達ヲ圖ルト云フコトガ目的デアリマス、又一面ニ於テハ之ニ依ッテ農家經濟ノ安定、向上ヲ圖リマスルト云フコトガ目的デゴザイマス、デ、丸山君ノ御質問ノ趣旨ハ、本案ガ臺灣統治上支障ナキヤ否ヤ、支障ガアルヤウニ考ヘルガドウカト云フコトガ御質問ノ骨子ノヤウニ考ヘマス、固ヨリ本案實施ニ依リマシテ一時的ニハ農家經濟ニ多少ノ影響ノアルト云フコトハ覺悟シナケレバナリマセヌガ、併シ大體ニ於キマシテ本案ノ目的ガ將來ニ於ケル農家經濟ノ安定向上ヲ期スルト云フコトニアルノデアリマシテ、是ハ現在ノ實情ヨリ考ヘマシテ、確實ニ此ノ遂行ハ出來ルト自分ハ考ヘテ居ルノデアリマス、ソレデアリマスルカラ能ク此ノ本案ノ趣旨ヲ徹底的ニ諒解セシメマス以上、臺灣島民ノ心理上ニ於テ、惡イ影響ハナイモノト考ヘルノデアリマス、從ッテ之ニ依ッテ臺灣統治上ニ惡シキ影響ヲ及スト云フコトニ付キマシテハ、全ク懸念ハナイモノト信ズルノデアリマス、又之ニ依リマシテ內地ト臺灣トノ關聯性ヲ一段ト緊密ニ致シマスル利益モアルノデアリマスルカラシテ、內地外地一視同仁ノ御趣旨ヲ徹底セシムル上ニ於テハ何等ノ支障ヲ見ザルモノト確信致シテ居リマス、尙細カイ點ニ付キマシテハ主管大臣若シクハ政府委員ヨリ御答ヲ致シマス

（丸山鶴吉君演壇ニ登ル）

○丸山鶴吉君　只今外地統治ノ根本問題ニ付キマシテ總理ノ御意見ヲ承リマシタノデアリマス、不幸ニシテ私ハ意見ヲ異ニ致シマスノデアリマス、是レ以上論議ヲ致シマスコトハ意見ニ互ルコトデアリマスカラ差控ヘルコトニ致シマス、此ノ法案ニ付テ私ノ懷イテ居ル第二ノ點ニ付テ、拓務大臣並ニ農林大臣ニ御伺ヲシテ見タイト思フノデアリマス、縱シバ今度ノ臺灣米自治管理ト云フコトガ、常時ノ對策トシテ是認スルコトガ出來ルト致シマシテモ、差當リ食糧問題ノ非常ナ緊切ナル非常時下ニ於ケル日本ニ取リマシテハ、餘程考慮ヲ要スル案デアルト考ヘラレルノデアリマス、戰時事變ノ際ニ米ノ消費ガ著シク增加致シマスコトハ、日清戰爭ノ當時ニ於テモ、日露戰爭ノ當時ニ於テモ、歐羅巴大戰ノ當時ニ於キマシテモ、計數ノ示シテ居ル所デアリマシテ、著シキ增加ヲ致スコトデアリマス、ソレデアリマスカラ農林當局ニ於キマシテハ、此ノ食糧ノ問題ニ付テ戰時態勢ノ食糧政策ト云フコトニ付キマシテハ、非常ナ御苦心ヲ爲サッテ居ルコトヲ能ク存ジテ居ルノデアリマス、苟モ主食デアル米ガ不足ヲスルト云フ慮ガアリマス位、非常時下ニ於テ重大ナル問題ハナイノデアリマス、食糧問題ヲ眞劒ニ考ヘテ萬遺算ナキヲ期セラレルコトガ當然デアルト思フノデアリマス、ダカラ幷

通ノ平常時ニ於ケル計畫トシテ、此ノ臺灣米ノ移出米ノ管理ト云フモノガ是認サレルト致シマシテモ、今此ノ事ヲ實施ヲ致スト云フコトハ、誠ニ私ハ此ノ戰時食糧對策ノ上カラ、時宜ヲ得タモノデナイト斯ウ云フコトヲ考ヘラレルノデアリマス、現ニ此ノ十四年米穀年度ニ於キマシテハ、益々米ノ消費ガ増加スルダラウト云フコトヲ農林省當局デモ御心配ニナリマシテ、現ニ十四年度ノ豫算デ豫算ヲ要求サレマシテ、內地デハ三百萬石増産ノ計畫ヲ御立テニナッテ居ル、朝鮮ニ於キマシテハ三箇年ニ二百萬石増産ノ計畫ヲ立テテ、ソレ〳〵豫算ガ成立ヲ致シテ居ル譯デアル、ウント米ヲ作ラナケレバナラヌ、萬一此ノ事變ノ際ニ米ノ不足ヲ來スヤウナ虞ガアッテハイカヌト云フ御用意デアッタト思ヒマス、然ルニ觀念トシテモ、臺灣ハ米作偏重ニナル虞ガアルカラ、米ノ頭ヲ叩イテ米ヲ少クスルノデアル、臺灣總督府デハ言葉ヲ盡シテ減産ニハナラヌ、決シテ減リハシナイ、矢張リ計畫的ニ増産ヲスルノダト說明ヲサレテ居ルノデアリマスケレドモ、此ノ制度自體ノ根本ガ何ニアルカト言ヘバ、臺灣ノ農産物ノ中ニ米作偏重ニナルカラ、ソレヲ抑ヘル爲ニ米ノ値段ヲ下ゲルノダト云フコトガ根本ノ主義ニナッテ居ル、若シ米ノ値段ヲ下ゲラレテ、米ガ引合ハナイト云フコトニナレバ、誰ガ喜ンデ作ル人ガアリマセウ、滔々トシテ外ノ作物、主トシテ砂糖黍ヲ作ルコトニドン〳〵轉換シテ行クニ違ヒナイト思フ、ソレデアリマスカラ總督府デハ減産ニナラヌト云フ、其ノ言葉ヲ信ジテ減産ニナラヌト致シマシテモ、減産ニナラヌト云フ程度デ今滿足スル時デハナイノデアリマス、朝鮮デモ內地デモ、是ダケノ増産計畫ヲ立テテ居ル時ナンデアリマス、殊ニ熱ト光ニ惠マレテ居ル臺灣デアルカラ、作レバウント出來ルノデアリマスカラ、此ノ際ウント作ッテ、サウシテ之ヲ貯藏シテ行クト云フ覺悟ガアルベキコトガ、戰時食糧對策ノ手段デアルト私ハ思フ、ソレヲ今無理矢理ニ之ヲ施行スル減産ノ虞アルモノヲ……、總督府ハ減産スルコトハナイト說明サレテ居リマスケレドモ、ソレハ納得ガ出來ナイ、米ノ値段ヲ引下ゲテ置イテ、サウシテ米ヲ奬勵スルト言ッテ見タリ、ドウシテモ減産ニナラヌト云フ說明ハ衆議院ノ委員會デ縷々繰返シ繰返シ言ッテ居ラレマス、水利灌漑ヲヤルノダ、今迄水利灌漑ヲ止メテ居ッタガ、ソイツヲヤラスヤウニスル、或ハ防風林ト云フモノヲ造ッテ、サウシテ風害ヲ豫防シテ、サウシテ兎ニ角増産ヲスルノダ、段當リノ收量ヲ増スノダト言ッテ御イデニナリマスケレドモ、水利灌漑ト云フモノヲ全體ニ通ジテ之ヲヤラウト云フコトハ、二年三年デ出來ルモノヂヤアリマセヌ、防風林ヲ造ッテ風ヲ防グノダト仰セラレマスケレドモ、臺灣ノヤウニ樹木ノ成育ノ早イ所デモ、三年ヤ四年デ直グソレガ防風林ノ用ヲ爲ストモ思ハレヌノデアリマス、色々肥料ヲ澤山入レタリシテヤレバ、段當リノ、一町歩當リノ收穫量ガ殖エテ行クト云フヤウナコトハアリ得ルト思ヒマスケレドモ、兎ニ角私共ハサウ總督府ガ簡單ニ證明セラレルヤウナコトデ、増産ニナルノダト云フコトハ、私ドウシテモ承服スルコトガ出來ナイノデアリマス、縱ンバ減産ニナラヌ、幾ラカ殖エル、十年計畫ヲ見マスト來年度ハ二十萬石位殖エルヤウナ計畫ニナッテ居リマス、十年後ノ増産計畫デハ臺灣總督府ノ發表サレテ居リマスル所ニ依リマスレバ、二百萬石バカリ殖エル計畫ニナッテ、其ノ方針デ臺灣ノ米ヲ殖ヤシテ行クト云フ計畫ガ出テ居ル、二百萬石ト云フト大キイヤウデアリマスガ、其ノ中デ蓬萊米ヲ日本ニ持ッテ來ル所ノ増産ハ僅カニ六十六萬石、十年經ッタ後ニ六十六萬石ヲ増産スル計畫ナンデアリマス、デアルカラ一年平均ニ致シマスレバ、日本ニ持ッテ來ル米ノ高ト云フモノハ六萬六千石ヅツ殖ヤシテ行クト云フマア大體計算ニナッテ行クノデアリマス、平均ヲ致シテ見マスレバサウナルノデアリマス、處ガソンナコトデハ今ノ食糧問題ニハ間ニモ何ニモ合ハヌノデアリマス、現ニ內地ガ三百萬石増産ヲシ、朝鮮ガ三箇年ニ二百萬石ノ増産ノ經費ヲ御取リニナッテ鋭意努力シテ、是カラ御殖ヤシニナラウトシテ居ル、ナカ〳〵內地デ三百萬石ト云フモノハ、天候ト餘程好イ條件デナケレバナカ〳〵殖エテ參リマセヌ、俄ニ開墾ヲシテ水田ヲ殖ヤスト云フ譯ニハ行カナイ、段當リノ此ノ收量ヲ増シテ行クコトニ努力シナケレバナラヌ、ソレニハ今ハ多數ノ壯丁ガ出テ居リマスシ、軍馬其ノ他ガ徵集サレマシテ、其ノ勞力ハ不足ヲ致シテ居リマス、軍需工業ニ段々人ガ引張ラレテ、農園デ働ク人ハ少クナッテ來テ居ル、トモスレバ日本デモ之ヲ減産スル虞ガアル、農林當局ノ苦心ト云フモノハ私ハ竝ミ大抵デハナイト思フ、ソレヲ三百萬石殖サウト云フコトニナッテ居ル、處ガ其ノ後ノ事變ノ情勢カラ考ヘテ、農林省ノ今ノ推算デハ、是デハ足リナイ、ドウシテモ五百五十萬石位十四年度米穀年度デ増産ヲシナケレバ、ヒョットシタナラバ食糧問題ニ不足ヲ來ス虞ガアルト云フノデ、俄ニ方針ヲ變ヘラレテ、內地デ四百萬石、朝鮮、臺灣デ百五十六十萬石、今迄ノ計畫以外ニ百五六十萬石ノ澤山ノ増産ヲ圖ラウト云フコトヲ專ラ協議ヲサレテ居ルト云フコトハ、先日新聞ノ傳フル所デアリマス、衆議院ニ於テ此ノ事ガ問題ニナリマシテ、委員會デノ種々問答ヲ、只今速記錄ヲ讀ンデ見マスルト、ドウシテモ明カニ朝鮮デ幾ラ、臺灣デ幾ラト仰シヤイマセヌ政府委員ハ……、農林大臣モ出テ、或ハ五十萬石ト云フヤウナコトヲ言ハレタリ、或ハ七十萬石ト云フヤウナコトヲ言ハレタリシテ居ル、ダカラ臺灣ガ受持タナケレバナラナイ臨時ノ増産デモ、或ハ五十萬石乃至七十萬石ト云フ大キナ米ヲ受持タナケレバナラヌコトニナル、斯ウ云フ情勢デアリマス、ソレデアリマスルカラ、今迄十四年度デ豫算ヲ御組ミニナル迄見當ヲ付ケラレテ居ッタ內地デ三百萬石、朝鮮デ三年間二百萬石ノ増産計畫デハ、是ハ足リヌト云フコトデ、斯ウ云フコトデ內地デ更ニ百萬石ヲ引受ケ、更ニ其ノアトノ百五六十萬石ヲ朝鮮ト臺灣トデ分擔シテ作ラウト云フコトデ、今鋭意協議サレテ居ルト云フコトデアリマス、ドウ落付クカ知リマセヌケレドモ、結局兎ニ角臺灣ガ此ノ増産ノ五十萬石カ、七十萬石ヲ十四年度米穀年度ニ引受ケテ、増産ヲ御圖リニナラナケレバナラヌ、斯ウ云フコトニナッテ居ル時ニ、米ノ値段ハ石當リ二圓減ラスノダ、サウシテ五十萬石モ七十萬石モ餘計作レト云フコトヲ奬勵シヨウト云フコトハ、是ハドウシタッテ矛盾ノコトデアルト申サナケレバナラヌ、サウ云フ時ニハ、米ノ値段デモ上ゲテ、有利ニシテヤルト云フ方法デモ御執リニナルコトガ寧ロ其ノ政策デアル、ダカラ平時ノ計畫經濟トシテ、此ノ移出米管理ト云フコトヲ認メルコトガ出來ルトシテモ、兎ニ角差當リ日本ノ此ノ實ニ緊密ナ非常時下ニ於ケル食糧政策ノ上カラ判斷シテ見マスルト、コンナ矛盾撞著ノ一體政策ハナイ、頭ヲ刎ネテ置イテ、通常デモ増産ノムツカシイ所ヲ、一躍臺灣ガ今迄計畫シテ居ル二十萬石ノ増産ヨリモ更ニ五十萬石、或ハ七十萬石ノ増産ヲ圖ラウト云フ其ノ間際ニ、臺灣ノ農民ノ所得ニ當然ナルベキモノノ頭ヲ石二圓ナリヲ刎ネテ、而モ之ヲ奬勵ヲヤラウト斯ウ云フノデアルノデアリマス、實ニ私ハ此ノ戰時食糧政策ノ上カラ言ッタラ、矛盾撞著ノ一ツノ法案デアルト斷定セナケレバナラヌノデアリマス、ソレデモ出來ルノダ、ソレ

デモヤルノダト言ハレルナラバ、ソレコソ又統治ノ上ニ無理ガ行ク」コトニナッテ來マス、ドウシテモ利益ガ少クナッテ、此ノ米ヲ作ラヌト云フヤツヲ、作レト云フ規則モ、法律モ、強制力モ今迄ナイノデアリマスカラ、矢張リ警察ノ力ナリ官廳ノ力デ捩ヂ伏セテモ、農民ニ米ヲ作ラスヤウナ方法ヲ執ラナケレバ、是ダケノ増産ハ出來ナイト思フ、サウスルト又統治ノ上ニ、此ノ法案ヲ布イタ爲ニ、ヨリ一層酷イ無理ガ行ハレテ來ルンダ、ソレハ恐ラク泣ク〳〵臺灣ノ農民モ應ズルカモ知レマセヌ、ケレドモ其ノ心理ニ及ス影響ノ重大ナルコトハ、是ハ實ニ偉大ナモノダト思フ、之ヲ考ヘマスト、私共ハ此ノ法案ガ縱ンバ平時ノ計畫經濟ノ組織トシテ是認スルコトガ出來ルトシテモ、少クトモ戰時事變ノ際、斯ウ云フ食糧問題ノ緊急ノ際ハ、兎ニ角之ヲ控ヘテ置クベキモノダ、又來年ハドウ云フ風ニ増額ノ要求ヲシ、內外地一體ノ米穀政策、食糧政策カヲ考ヘテ見レバ、來年度ニ又ドノ位殖エルカモ知レナイ、サウ云フ矢先ニ、石二圓ヅツ頭ヲ刎ネテ行クンダト、斯ウ云フ政策ヲ今御實行ニナラウト云フコトハ、如何ニモ時代ノ認識ガナイモノト私ハ申上ゲナケレバナラヌノデアリマス、マサカ臺灣總督府デ御宣傳ニナル譯ヂヤアルマイト思ヒマスケレドモ、此ノ移出米ノ管理法ト云フモノハ、誠ニ劃期的ノ時代ニ卽應シタ一ツノ名策デアル、又時局ヲ匡救スル爲ニ是レ位必要ナモノハナインダ、之ニ反對ヲシ之ニ異議ヲ唱ヘル者ハ、時局ノ認識ガナイ非國民ダ、ト斯ウ云フヤウナコトヲ頻ニ宣傳シテ歩イテ居ル、宣傳ヲスル人ガアルノデアリマス、決シテ私ハ總督府ニ關係ガアルトハ申シマセヌケレドモ、併シ私共カラ言ヘバ、是ダケ明瞭ナル事實ナンデス、日本ガ今時局ノ際ニ最モ大切ナル戰時食糧政策ト云フ根本カラ言ヘバ、斯クノ如キ無理ナ無茶ナ法案ト云フモノヲ今ヤルベキモノヂヤナイ、是コソ本當ニ、之ヲ無理押シヲショウト云フコトハ、本當ニ戰時時局ノ認識ガ足リナイ結果デアルト、却テ逆ニ申上ゲナケレバナラヌト私ハ思フノデアリマス、デアリマスカラ私共カラ考ヘマスレバ、ドウシテモ此ノ案ニ依ッテ、若シソレデモ増産ヲヤルノダト仰シャルナラバ、必ズ統治ノ上ニ又非常ナ無理ガ出來テ來ルト云フコトヲ考ヘナケレバナラヌノデアリマス、恐ルベキ事態デアルト思フノデアリマス、ソレデアリマスカラ拓務大臣ハ、一體其ノ點ニ付テドウ御考ニナッテ居ルカ、必ズソレ等ノ協定ニモ増シテ増産ガ、此ノ法案ヲ布イテモ出來ルト御考ニナッテ居ルカ、又ソレヲ無理ヲシテヤレバ、統治上非常ナ障碍ヲ起シテ來ルコトヲ私ハ豫想致シテ居リマスガ、其ノ點ニ對シテ如何ナル御意見ヲ御持チニナッテ居ルカ、拓務大臣及農林大臣カラ一ツ御答辯ヲ得タイト思フノデアリマス、第三點ハ會計法上ノ問題デアリマスガ、是ハ特別經濟ノ法案ガ今上程ニナッテ居ル譯デアリマスガ、會計法ノ第三十九條ニ依リマスト、「特別ノ須要ニ因リ本法ニ準據シ難キモノアルトキハ特別會計ヲ設置スルコトヲ得、特別會計ヲ設置スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ」、斯ウ云フ規定ニ基キマシテ今此ノ法律案ガ上程ヲサレテ居ル譯ト思フノデアリマス、ダカラ普通經理ノ原則カラ申シマスルト、一般會計ニ依ルベキモノデアリマスガ、特別ノ須要ガアッテ此ノ本法ノ會計法ニ依リ難イ、準據シ難イモノガアッタナラバ、特別會計ヲ設置スルコトガ出來ルノデアル、斯ウ云フ規定デアリマスカラ、特別會計ノ設置ニ付キマシテハ、餘程愼重ニ考慮ヲ要スルコトト思フノデアリマス、マア今迄通例アリマス例ヲ申上ゲマスレバ、各外地ノ特別會計デアルトカ、或營造物ノ特別會計デアルトカ、或ハ或事業ヲ遂行致シマス爲ノ事業特別會計デアルトカ、或ハ何々資金ト稱スル資金ノ特別會計ト云フモノデアルノデアリマス、是モ勿論臺灣ノ移出米ヲ管理スル爲ニ特別會計ヲ作ルト云フノデアリマスカラ、特殊ノモノダトハ言ヒ得ルノデアリマスケレドモ、總督府ノ御說明ニ依リマスト、是カラ得タ純益ト云フモノ、純利益ト云フモノハ擧ゲテ農民ニ還元スルノダ、農民ニ還元スルト云フ意味ハドウデアルカト言ヘバ、農作物ノ改良トカ、或ハ治水、灌漑トカ、防風林ノ増置トカ、サウ云フ事ノ費用ニ充テルノダト御說明ニナッテ居リマス、ソレデアリマスカラ此ノ臺灣總督府デ移出米ヲ管理サレテ、サウシテ買上値段ト賣値トノ間ノ開キデ、其ノ中デ色々ナ費用ヲ御使ヒニナッテ、其ノ殘ッタ純益ト云フモノハサウ云フ事業ニ御使ヒニナルノダト、斯ウ云フコトノ說明デアリマス、此處ニ私共疑問ヲ持ツノデアリマス、水利、土木、或ハ灌漑ヲ致ス、或ハ防風林ヲ造ルト云フヤウナコトハ、是ハ農村奬勵ノ普通一般ノ行政事務ナノデアル、一般ノ行政事務ナノデアル、一般豫算ニ之ヲ掲ゲテ奬勵ヲサレテチョットモ差支ナイモノデアル、寧ロソレガ當然デアル、現ニ此ノ特別會計ヲ御出シニナリナガラ、臺灣總督府ニ於キマシテハ、本年度ノ豫算ニ於キマシテモ農事改良ニ關スル費用ヲ計上ナサッテ居ル、サウナリマスト此ノ特別經濟ト一般經濟トノ混淆ヲ來シテ、一體此ノ豫算審議ニ當リマシテモ、此ノ諸般ノ審理ニ當リマシテモ非常ナ不都合ヲ來ス、私ハツク〳〵考ヘマシタケレドモ、是ガ會計法違反デアルトハドウモ申上ゲルダケノ勇氣ハアリマセヌ、外ノ特別會計ヲ以チマシテモ、幾ラカソンナ傾向ノアル特別會計ノナイコトハナイノデアリマスケレドモ、此ノ特別會計ノ如ク、得タ收益ヲ農村振興ノ爲ニ農民ニ還元シテ、サウシテ防風林ノ増設ヲヤッタリ、治水、灌漑ヲヤッタリ、色々ノ農事改良ヲヤル仕事ニ使フノダト云ッタヤウナ廣汎ナ範圍デ、普通一般行政事務ヲヤル特別會計ト云フモノハ外ニハナイト私ハ思フノデアル、ソレナラ、コンナコトヲ言ヘバ、學事ヲ奬勵スルカラ、學事ノ問題ダケハ特別會計、何ヤラヲ奬勵スルカラ、ソレダケハ特別會計ト言ウテ、特別會計ヲ濫設シテ止ルコトヲ知ラナイコトニナルノデアリマス、斯ウ私ハ思ハザルヲ得ナイノデアリマシテ、此ノ點ニ對シテ私ハ疑義ヲ持ツ、少クトモ會計法違反デアルト迄私ハ斷言出來マセヌケレドモ、不穩當、不條理ナル特別會計ノ設置デアルト斯ウ考ヘザルヲ得ナイ、此ノ點ハ大藏省主管ダト思ヒマスガ、大藏省ノ方カラ私ノ納得ノ行クヤウニ、此ノ特別會計ニ付テ御說明ヲ願ヒタイト思フノデアリマス、序ニ私ハ此ノ特別會計デ申上ゲルノデアリマスケレドモ、臺灣總督府ガ此ノ管理案ヲ宣傳サレテ、農民カラ金ハ取ルケレドモ、皆其ノ農民ニ還元スルノダ、取ッタ金ハ農民ニ還元シテ、農民ノ福利施設ノ爲ニ段々使ッテ行クノダ、今總理モ御答ニナッタヤウニ、將來農民ハ段々好クナラウ、一時ハ困ルケレドモ好クナルダラウ、ソレヲ言ッテ居ラレル、ソレヲ頻ニ宣傳ヲシテ、兎ニ角農民ニ還スンダカラ宜イヂヤナイカト斯ウ言ッテ居ラレマスケレドモ、處ガ本年度ノ此ノ特別會計ノ經理ノ豫算ヲ御覽ニナリマシテモ、官吏ノ俸給ダトカ、事務費ダトカ、或ハ調査費ダトカ云ッテ、莫大ナル金ヲ此ノ特別會計カラ支出ニナッテ居ル、ダカラ賣上價格ノ差額ガ、今度ノ豫算デ一千百何十萬圓ニナル、勿論五百萬圓バカリノ運賃其ノ他ノ諸經費ヲ差引キマスケレドモ、純益ト云フモノハ僅カニ百九十何萬圓シカ殘ッテ居ラヌ、若シ農民ニ還元スルノダカラ宜イヂヤナイカト言ッテ居ラレル間ニ、此ノ特別會計カラ米穀局ト云フモノヲ新シク置イテ、サウシテ上ハ勅任

カラ澤山ノ役人ヲ置キ、此ノ所カラドンドン俸給ヲ御出シニナッテ、事務費ヲ出シ、調査費ト云フモノヲ出シテ、サウシテ數百萬圓ト云フモノヲ此ノ會計ノ中カラ取外シテ、其ノアトノ純益ヲ還シテヤルノダト、斯ウ云フヤウナ建前ニ此ノ會計ハ出來テ居ルノデアル、若シ總督府ガ言ハレルヤウニ、此ノ出來タ差額ハ決シテ私スルノヂヤナイ、農民ニ還元シテヤルノダ、斯ウ云フナラバ、俸給トカ事務費トカ云フモノハ一般會計カラ出シテ、此ノ特別會計カラ支出シナイコトニスベキコトガ當然ヂヤナカラウカト思フノデアリマス、併シ提出サレテ居ル豫算ヲ見マスルト、此ノ中カラ官吏ノ俸給ガ、半箇年分デアリマスケレドモ、三十何萬圓、或ハ調査費ガ四十何萬圓ト云フコトデ、莫大ナル金ガ此ノ中カラ支出サレテ居ルノデアリマス、之ヲ半面カラ考ヘテ見マスト、農民ノ側カラ考ヘテ、惡イトハ申シマセヌケレドモ、本當ニ之ヲチヨット見タ時ニ、何ダ、自分等ノ收入ノ頭ヲ剜ネテ、ソレデ總督府ハ澤山ノ官吏ヲ置イテ、澤山ノ俸給ヲヤッテ居ルデハナイカト、斯ウ農民ガ此ノ特別會計ヲ見テ言フテモ、是ハドウモ返ス言葉ガナイ、辯明ノ言葉ガナイ、ダカラ農民ニ還元スルノダト云フコトヲアレダケ公々然ト御言ヒニナルナラバ、兎ニ角此ノ特別會計カラ官吏ノ俸給トカ、事務費トカ、調査費ハ御取リニナラヌヤウニ出來ナイカ、若シ此ノ特別會計ヲ是認スルト致シテモ、モウ少シ組立ノ方法ガアルノデハナイカ、私ハ此處等ニモ本當ニ周到ナル注意ガ足リナイ、外地ノ新附ノ同胞ヲ治メテ其ノ心ヲ獲ヨウトスル政治ヲスルニハ、注意ガ足ラヌト私ハ思フ、誰デモ考ヘル、俺等ノ頭ヲハズッテ置イテ、ソレデ官吏ガ食ッテ居ルヂヤナイカト云フコトヲ示ス、是ハ特別會計ニナルノデアル、斯ウ云フ點モ本當ニ私ハ考ヘテ戴キタイ、此ノ點ニ對シテ拓務大臣ハドウ御考ニナッテ居ルノカ、此ノ點モ御答辯ヲ得タイト思フノデアリマス、段々長クナッテ恐縮デアリマスケレドモ、モウ一ツ私ガ承リタイト思フノハ、如何ニモ此ノ法案ガ臺灣ニ於ケル計畫經濟デアッテ、新機軸ヲ出シタ新政策デアルト云フヤウニ宣傳サレテ居リマスケレドモ、今ヤ我ガ國ハ我ガ國自體ニ躊躇シテ居ル國デハナイノデアリマス、日滿支ヲ一體ニシタ兎ニ角大抱負、大經綸ヲ以テ進マナケレバナラヌ時ナンダ、臺灣ニ餘リ適セザル棉ヲ獎勵スル、ソレハ棉モ此ノ時局ノ輸入制限ノ關係デ獎勵サレ、相當出來ルヤウニナッテ居リマスケレドモ、餘リ適シナイ棉モ獎勵スル、マア砂糖ノ如キハ既ニ自給自足ノ程度ニ達シテ居ルケレドモ、臺灣總督府ノ其ノ御説明ニ依レバ、南支、北支等ニ段々是カラ連繫スルノダカラ、之ヲ送リ出ス爲ニ尙多クノ增產ヲ圖ランケレバナラヌト説明サレテ居リマス、併シナガラ考ヘテ御覽ニナリマスレバ、北支ノ方ニハ既ニ興亞院ノ御管轄デハアリマスケレドモ、各種ノ此ノ開發會社ガ出來テ、北支ニハ最モ適スル所ノ棉花ヲ栽培ヲシ、之ヲ改良スル、サウ云フ風ナ計畫モ御進ミニナッテ居ルコトト思フノデアリマス、滿洲ノ問題ニ致シマシテモ、ドウシテモ多數ノ……大量ノ日本ノ移民ヲ滿洲ニ移植スルコトガ必要デアルト云フノデ、拓務省デハ銳意努力サレテ、國策トシテ此ノ事ヲ進メラレテ居ルノデアリマス、滿洲ニ移住シテ行ク此ノ內地ノ者達ハ、水利ノ便ガアレバ必ズ水田ヲ作リ、米作ヲ致スニ違ヒナイ、斯ウ云フ問題デモ滿洲ヲ除外シテ將來ヲ考ヘルコトハ出來ナイト思フ、又砂糖ノ問題デモ

（議長伯爵松平賴壽君議長席ニ復ス）

今度占領ヲ致シテ居リマス所ノ海南島ノ如キ、決シテ我ガ國ノ領土ニナルトハ申シマセヌケレドモ、矢張リ日滿支一體ノ經濟圈內ニ入ル、今迄私共ノ承知致ス所ニ依レバ非常ニ砂糖黍ニ適シテ居ル、臺灣ヨリズット好イ、棉作ニ適シテ居ル、非常ニ好イ所デアルト云フヤウナコトデアルノデアリマス、ソレデアリマスカラ若シ日滿支一體ノ經濟「ブロック」ヲ考ヘテ、サウシテ新東亞ノ此ノ建設ヲヤラウト云フコトニナリマスレバ、必ズ是ハ企畫院ニ於テモ一ツノ大キナ經濟計畫ト云フモノガ樹立サレナケレバナラヌモノデアルト私ハ思フ、既ニ其ノ御準備ガアリ、其ノ御調査ヲ進メラレテ居ルモノト思フ、然ルニ臺灣ノ小サイ所ニ閉ヂ籠ッテ、此處デ有用作物トシテ、或ハ棉ヲ獎勵シ、黃麻、大麻、苧麻ヲ獎勵スルノダト云フコトノ理由デ、斯クノ如キ矛盾撞著ノ多イ管理案ヲ今出サレルト云フコトハ、誠ニ遺憾ニ堪ヘナイ、モウ少シ緩ックリ此ノ時局ノ見透シヲ付ケテ、大キナ日滿支大經濟政策ノ下ニ、其ノ計畫經濟ノ下ニ是ハ立案ヲサレテ決シテ遲イ問題デヤナイト思フ、況ヤ前申シマスヤウナ工合ニ、此ノ戰時食糧問題トシテハ、最モ不適當ナ、最モ矛盾撞著シテ居ル案デアリマスカラ、此ノ案ハモウ少シ後ニシテ、日滿支、之ヲ一體ニセル一ツノ產業大計畫ノ中ニ入レテ、臺灣ノ持ツベキ分ハ是デアル、內地デ最モ力ヲ入レベキモノハ是デアル、滿洲ガ持ツベキ分ハ是デアル、北支、南支デ持ツベキ分擔ハ是デアルト云フ大宗ヲ定メタ大計畫ノ下ニアッテ、初メテ計畫ヲ御立テニナッテ些ト差支ナイモノデアリマス、サウ急ニ急イデ此ノ案ヲ御出シニナル必要ハ全クナイコトデアルト思ヒマス、ソレデアリマスカラ寧ロ時局ガ相當終局スル迄、コンナ小細工、實ニ小手調べ見タヤウナ此ノ小細工ノ政策ト云フモノハ、ソレガ非常ニ民心ニ及ス影響デモ好イトカ、或ハ外地統治ノ爲ニ非常ニ好イ影響ヲ與ヘルトカ云フヤウナ直接ノ問題ガアレバ別デアリマスケレドモ、私ハ不幸ニシテ總理大臣ト意見ヲ異ニシマスガ、非常ナ障碍ヲ與ヘル此ノ案ヲ、何モ此ノ急イデ御出シニナル必要ハナイ、其ノ點ニ付テ一體企畫院ニ於キマシテモ、是等ノ大計畫ハ進行シテ居ルコトダラウ、寧ロ私ハ此ノ計畫經濟ノ中ニ、初メテ愼重ニ考慮シテ、斯クノ如キ案ハ立案スベキモノデアルト思フノデアリマスガ、企畫院ニ於テドウ考ヘラレマスカ、又興亞院等ニ於キマシテモ、直接支那ノ政治、經濟ニ對スル御責任ヲ負フカラ、開發ノ爲ニ御努力ヲ爲サルノデアリマスカラ、相當ノ御計畫ガアルト思フ、殊ニ私ハ興亞院ノ御當局ノ爲ニ承リタイト思ヒマスケレドモ、斯クノ如キ狀態デ民心ニ及ス影響ト云フモノハ深甚デアリマス、殊ニ一衣帶水デアリマス、サウシテ臺灣ト支那トノ間ニハ民俗的ノ關係モ深イノデアリマス、之ニコンナ亂暴ナ案ヲ特ニ押付ケテヤルンダト云フヤウナコトデ、臺灣ノ島民ノ鬱結セル不平ト云フモノガ、色々發散スルコトガ出テ來ルト私ハ心配ヲ致シテ居ル、是ハ本當ニ東亞ノ新建設ヲヤリ、サウシテ此ノ日本ト新支那トノ一體ヲ爲サウト云フニ付キマシテハ、矢張リ人心ヲ得ルノ政治ヨリ外ニ途ハナイノデアリマス、色々ノ小細工ヲヤッタリ小手ヲヤッタリ、恫喝威喝バカリデ行キ得ルトハ思ハナイ、興亞院ガ是カラ政治、經濟ヲ指導サレル上ニ付キマシテモ、必ズ人心把握ノ方面ニ對シテモ、私ハ深甚ナル考慮ヲ御拂ヒニナッテ、サウシテ色々ノ御計畫ヲ御進メニナッテ居ルコトダト思フ、ソレナノニ兎ニ角領臺四十年、日本ノ統治ニアル人達ニ、此ノ時局ノ大事ナ時ニ、殊更ニコンナ法案ヲ出シテ氣持ヲ惡クシ、不平不滿ヲ懷カシタリサレル現實ト云フモノガ、臺灣ノ、此ノ北支南支ニ響カナイ譯ガナイ、相當ナ影響ヲ是ハ私ハ與ヘ得ルコトヲ私ハ非常ニ心配ヲ致ス、斯ウ云フ點ニ付テ興亞院當局ニ於カセラレマシテハ、ドウ云フ風ニ御考ニナッテ居ルカ、此ノ點ヲ承ッテ見タイト思フノデアリマス、御答辯ヲ得マシタ上デ、更ニ御質問ヲ申上ゲタイト思ヒマス（拍手）

〔國務大臣八田嘉明君演壇ニ登ル〕

○國務大臣（八田嘉明君）　丸山サンノ只今ノ御質問ニ對シマシテ、拓務省ト致シマシテノ見解ヲ申述ベタイト存ジマス、第一點ノ臺灣ニ於ケル所ノ米穀移出管理案ガ臺灣ノ律令ニ依ッテ發布サレル場合ニ於テ、之ガ統治ニ影響スル所ノモノガ相當アルデアラウ、之ニ付テハドウ云フ風ニ考ヘルカト云フ點デ種々御質問ガアッタノデアリマス、仰セノ如ク外地ニ於ケル所ノ統治ノ重要性ハ、極メテ重要デアリマスルコトハ申ス迄モナイコトデアリマス、歷代ノ總督ガ臺灣ニ於カレマシテ十分ナル御盡力ヲ致サレタコトハ、我々ガ感謝ヲシナケレバナラヌコトデアルト存ズルノデアリマス、今回臺灣總督府ニ於キマシテ、本管理案ヲ立案セラレルニ當リマシテモ、勿論統治ノ上ニ於ケル所ノ其ノ影響ニ付キマシテハ、深甚ナル考慮ヲ拂ハレタモノデアルト固ク信ズルノデアリマス、併シナガラ內地デアリマシテモ、外地デアリマシテモ、苟モ新シキ法案ヲ玆ニ設定致シマシテ、過去ノ事情ト其ノ後ノ法案ニ依リ變リマスル所ノ其ノ點ニ付キマシテハ、勿論內地ト雖モ、外地ト雖モ、之ガ及ス所ノ影響、而シテソコニ惡影響ガアルナラバソレニ對シマシテ十分ナル考慮ヲ事前ニ於テ行ヒ、更ニ又實際ノ運用ニ於テモ最善ノ力ヲ致シマシテ、苟モ人心ヲ安定スルニ害ノアルヤウナコトハ避ケナケレバナラヌト存ズルノデアリマス、此ノ點ニ於キマシテ只今御述ニナリマシタコトニ付テハ、全ク御同感デアルノデアリマス、本案ハ十分只今申上ゲマシタル見地カラ見マシテ、內地外地一體ニ、精神的融和ト云フコトニ付キマシテ、何等反シタルコトガナイト存ズルノデアリマス、御指摘ニナリマシタ其ノ統治上ニ及ス影響ノ理由トシテ、第一點ハ農家ノ收入減ト云フコトデアルヤウニ思フノデアリマス、第二點ハ是ハ特ニ御述ニハナリマセヌガ、其ノ御心持ノ中ニハ、是ガ農民ニ、此ノ法案ガ如何ナル效果ヲ齎シ、如何ナル影響ガアルカト云フコトヲ、此ノ法案ノ決定セラレル以前ニ於キマシテハ、往往ニシテ其ノ眞相ヲ摑ムコトガ出來ナイ場合ガ多々アルト思フノデアリマス、サウ云フ場合ニ於ケル所ノ注意ヲ無論シナケレバナラヌト考ヘルノデアリマス、何レニ致シマシテモ此ノ統治上ニ影響ガアリハセヌカト云フ其ノ主ナル點ハ、農家ノ收入減ト云フコトヲ中心トシテ御指摘ニナッタト存ズルノデアリマス、デ此ノ點ニ付キマシテハ御話ノ如ク、最初此ノ管理案ニ依リマシテ、例ヘバ一石二圓以內ノ收入ノ減ト云フヤウナコトガ計算上アリ得ルノデアリマス、併シ是モタコトガアッタノデアリマスガ、ソレハ最初ノ極ク短イ時間デアリマシテ、此ノ管理案ニ依リマシテ、農作物ノ收益ガ上ッテ參リマスノデ、農家ノ收入ハ絕對ニ下ガルノデハナイノデアリマス、只今一戶五十圓位ノ減收ト云フヤウナ御話ガアリマシタガ、只今管理セムトスル所ノ米ハ、內地移出ニ適スル所ノ蓬萊米デアリマスルノデ、其ノ他ノモノニ及ブノデハナイノデアリマス、假ニ二圓減ノコトガアリマシテモ、此ノ特別會計法ニ依リマシテ得マシタ所ノ其ノ收入ハ、純益ハ之ヲ擧ゲテ農作ノ改善ニ充テルノデアリマス、而シテ其ノ經費ハ只今御述ニナリマシタルノハ、此ノ十四年度ノ豫算デアリマス、十四年度ハ此ノ本案ガ執行サレマスニ當リマシテモ、第二期米作カラ始マリマスノデ、極メテ最初ノ年ハ操業費ガ割合ニ掛カリマスルノニ、收入ガ少イノデアリマスルカラ、只今御述ニナッタヤウナ點ガアルカト思フノデアリマスルケレドモ、平年ニ於キマシテハ、恐ラク七百萬或ハソレ以上ニナリマスカ、兎ニ角其ノ年ニ依ッテ違ヒマセウガ、其ノ位ナ利益ハアルノデアリマス、從ヒマシテ其ノ外ニ臺灣ノ特別會計デアリマスガ、其ノ臺灣總督府ノ全特別會計、其ノ中カラ一般的農業ノ振興費、產業ノ助長費ト云フモノガ相當計上サレテ居リマスルガ、ソレニ加フルノニ此ノ管理案ニ依ッテ得タル所ノ特別ノ益金ハ、之ヲ擧ゲテ全部ソレニ加ヘマシテ、臺灣總督府ノ全特別會計ニ一旦計上致シマシテ、サウシテソレガ支出サレルコトニナッテ居ルノデアリマス、此ノ特別會計カラ直グ出ルノデハナイノデアリマス、斯樣ナ次第デアリマシテ、其ノ利益金ガ若シ農家カラ、假令ソレガ僅カデアリマシテモ、其ノ收入ヲ臺灣ノ他ノ項目ノ經費ニ持ッテ行クトカ、或ハ內地ニ持ッテ行クトカ云フコトデアリマスレバ、是ガ御話ノ如ク農家ノ收入ヲ頭ヲ叩イタト云フコトニモナルト思ヒマス、併シナガラ是ハ全然違フノデアリマシテ、何處ニモ其ノ收入ガ行クノデハナイノデアリマス、從ヒマシテソコニ特別會計ヲ設定セラレタ理由ガ、唯法規的ノ特別會計ト云フコトニシタト云フ以外ニ、大事ナ點ガアルト私ハ考ヘルノデアリマス、斯樣ナ次第デアリマシテ、其ノ收益ハ擧ゲテ農家ノ現在及將來ニ亙リマシテ投下セラレルノデアリマスルカラ、サウシテ米作ニ付キマシテモ御承知ノ如ク決シテ其ノ農地ガ減ル譯デモアリマセヌ、又今日迄ハ內地ト外地トノ米ノ問題ニ付テ御話ガアリマシタガ、過去ニ於キマシテハ兎角外地ノ米ト云フモノヲ、米作ト云フモノヲ抑ヘ氣味デアッタノデアリマス、臺灣ニ於キマシテモ今日迄ハ水利ノ改善、改良、或ハ土地ノ新シキ開拓ト云フモノハ是ガ禁止サレテ居ルノデアリマス、內地トノ關係ニ於テ禁止サレテ居ッタノデアリマスルガ、此ノ法案ノ施行ト共ニソレヲ解除致シマシテ、サウシテ其ノ利益金ヲ擧ゲテ農地ノ改善、是ノ新シキ開拓、竝ニ只今御話ノアリマシタ臺灣デハ、屢ゝ襲ッテ參リマスル所ノ此ノ風害ノ爲ニ、可ナリ大キナ損害ガ米作ノ上ニアルノデアリマス、ソレ等ノ如キニ付キマシテモ、十分恆久的對策ヲ講ジテ行カウト云フノデアリマスルカラ、之ヲ終局的ニ見マシテ、決シテ農民ニ對シマシテ收入減トナルト云フコトデハナイコトヲ御承知願ヒタイト思フノデアリマス、此ノ買上値段ガ生產費ニ或經費ヲ加ヘマシテ、買上ゲルト云フコトニナッテ居リマスルカラ、如何ナル場合ニ於テモ農民ノ生產費ニ加フルニ或率ガ加ッテ居ルノデアリマス、御承知ノ如ク內地ニ於ケル所ノ米ノ値段ト云フモノハ、數年以前カラ或ハ米穀法或ハ米穀統制法等ニ依リマシテ、相當ノ間ニ統制セラレテ居ルノデアリマス、此ノ內地ニ於ケル所ノ米ノ統制ト云フモノガ、臺灣ニ影響致シマシテ、其ノ移出米ニ關スル限リハ內地ノ米價ト同ジモノデ賣ラレテ居ルノデアリマス、從ヒマシテ年ニ二回ノ作ガアリ、天然ノ熱ト光トヲ非常ニ持ッテ居リマスル所ノ臺灣ノ米作ニ於ケル所ノ生產費ト、內地ニ於ケル生產費ト、ソレガ同ジ米價デ賣ラレルト云フコトニナリマスレバ、ドウ考ヘマシテモ其ノ間ニ相當ノ利潤ノ差ガアルト云フコトハ是ハ疑ナイ事實デアルノデアリマス、多少ソコニ買上値段ヲ下ゲマシテモ決シテソレハ生產費ヲ割ルモノデハ絕對ニナイノデアリマシテ、又內地ノ農業者ニ比較致シマシテ、決シテ臺灣ノ農民ガ收入減ヲ生ジ、特別ナル不便ヲ來スト云フヤウナコトハ絕對ニナイト云フコトハ數字的ニ明カデアルノデアリマス、要スルニ此ノ法案ニ依ッテ決シテ農家ノ收入ヲ減少スルモノデハナイ、而モ國家ニ必要デアリマス所ノ他ノ重要農產物ヲ是ト併用致シマシテ農家ガ作ッテ參リマスノ

ニ於テ、眞劍ニ考ヘテ戴キタイト思フノデス、色々申上ゲタイト思ッテ材料ハ持ッテ居リマスケレドモ、時間モゴザイマセヌシ、皆サンニモ御迷惑ト思ヒマスカラ申上ゲマセヌ、唯最後ニ一ツダケ申上ゲタイト思ヒマスノハ、此處ヘ持ッテ出マシタ著書ハ「長期建設ト農業政策」ト云フノデ、田沼某ノ著書デアリマス、一月二十八日ニ發行ニナッタモノデアリマス、恐ラク是ハ皆サンノ手許ニ行ッテ居ルト思ヒマスケレドモ、御氣付キニナラズニ御イデニナル方ガ多イト思フ、現ニ私モ其ノ一人デアリマス、斯ウ云フ本ガ參ッテ封ヲ切ッテ見マシタラ、長期建設ト農業政策ト云フコトデアリマス、議會デモ終ッタラ悠ックリ讀マウト思ッテ取ッテ置イタノデアリマス、人ノ注意ヲ受ケテサウシテ拜見シマスト、此ノ本ノ中ニ、百九頁カラ二百二十二頁迄百三頁ニ亙ッテ、臺灣ノ移出米管理ニ關スル評論ガシテアルノデアリマス、實ニ極メテ冷靜ニ、正確ナル材料ニ基イテ、研究的態度デ、有ラユル角度カラ、此ノ臺灣米移出管理ニ關スルコトガ評論シテアルノデアリマス、是ガ何故ソンナ突然ナル形デ皆サンノ手ニ屆イテ居ルカ、私自身モ氣ガ付カナカッタノデアリマスガ、此ノ本ハ一月ニ出來タ本デアリマス、而モ內地デアリマス、是ニハ初メ農林次官小平君ノ序文ガ戴ッテ居ッタノデアリマス、其ノ序文ハ官憲ノ力ニ依ッテ遂ニ削除サレタノデアリマス、ソレデアリマスカラ、其ノ序文ノ中ニ、序文ヲ戴イタト書イテアル所ニ、私共ノ手ニ來タ時ニハ斯ウ云フ風ニ黑イ筋デ消シテアリマス、其ノ序文ハ如何ナル譯デ除カレタノデアルカ、其ノ序文ノ原案ヲ見マスト、此ノ本ハ戰時食糧政策ニ取ッテハ極メテ參考トナル本デアル、立派ナ本デアルト書イテアルダケデアリマス、其ノ農林次官ノ小平君ノ序文ハ削除ヲ命ゼラレテ削除シタモノデアリマス、折角此ノ臺灣ノ管理米ノ問題ニ付テ、貴族院或ハ衆議院ノ諸公ニ考ヘテ戴カウト思ッテ之ヲ喩ッタ、此ノ中ニハ其ノコトガ書イテアルカラ、ドウカ參考ノ爲ニ讀ンデ吳レト云フ手紙ヲ附ケテ送ル筈ダッタノデアリマス、其ノ手紙ハ官憲ノ手デ押ヘラレテシマッタノデアリマス、デアリマスカラ封筒ニ入ッテ是ガ唯皆サンノ處ニ行ッテ居ルノデス、今日迄皆サン御氣付ニナラヌ方ガ御アリニナルト思フ、此ノ點ニ付キマシテハ同僚ノ次田君ガ、豫算委員會デ內務大臣ニ、如何ナル理由デ序文ノ削除ヲ命ジタカ、如何ナル理由デ其ノ手紙ヲ押收シタカ、其ノコトノ質問ガアリマシタノデアリマスガ、御答ヲ得テ御イデニナルカドウカ、私ハマダ存ジマセヌ、抑〻ソンナ難局ヲ經テ此ノ本ハ私共ノ手ニ入ッテ居ル、之ヲ御讀ミ下サイマスト、臺灣米穀管理案ノ全貌ガ能ク分ルノデアリマス、其ノ最後ニ斯ウ言ッテ居リマス、今迄百二二頁ニ亙ッテ有ラユル角度カラ之ヲ論評シマシテ、最後ニ「併シ如何ニ根據ガ薄弱デアッテモ、臺灣現地ニ於テ反對論ガ表ニ現ハレズ、又反對的運動ガ許サレナイ以上、臺灣總督府ノ押シノ一手デ議會ヲ通過スルカモ知レナイ、併シナガラ凡ソ無理ノアル政治ト云フモノハ、一時ヲ彌縫スルコトガ出來テモ、何時カハ其ノ無理ガ表面ニ現ハレ、破綻ヲ來スモノデアルコトヲ銘記スベキデアル、今ヤ我國ハ前古未曾有ノ非常時局ニ遭遇シ、國內ニ於テハ國民ノ一致結束、對外的ニハ戰ノ目的闡明ニ努力シツツアリ、大陸支那ニ向ッテ長期建設、支那民族ノ解放ニ聖ナル巨歩ヲ踏ミ出シツツアル、而シテ東洋盟主トシテ「アジヤ」數億ノ民衆ノ上ニ指導誘掖ノ地位ニ立タサレテ居ルノデアル、其ノ氣宇大ニシテ、慈愛ノ心ナクンバ、到底ソレ等ノ民衆ヲ悅服セシムルコトガ出來ナイ、新附ノ民臺灣ノ同胞カ、其ノ生命線ト賴ム米穀ヲ管理ショウトシタナラバ、彼等ノ意見ヲ十分ニ訊クガ宜シイ、米ハ彼等ガ生活ノ本據デアル、其ノ本據ヲ根本的ニ改革ショウト云フノニ、農家ノ意見ヲ封ズルガ如キコトガアレバ、決シテ明朗ナ政治ヲ行フ所以デハナイ、若シ本法案ガ眞ニ臺灣大衆ノ幸福ノ爲忠實ニ立案サレタモノデアレバ、堂々ト其ノ意見ヲ戰ハシメ、其ノ意見ニシテ誤解ニ屬スルモノガアレバ、當局ハ進ンデ之ガ解明ニ努力スベキデハナカラウカ」、是ガ百三頁ノ論文ノ結論デアリマス、實ニ偲々トシテ愬フルガ如キモノガアルノデアリマス、先程モ拓務大臣ノ御話ノヤウニ、昭和十二年カラ此ノ問題ヲ考慮シテ御イデニナリナガラ、臺灣ニ於テハ此ノ移出米、或ハ米專賣等ニ關スル一切ノ新聞記事ヲ禁止サレテシマッテ居ルノデアリマス、委員會ガ濟ンデカラ新聞ニ書クコトノ解除ハサレタト云フコトデアリマスケレドモ、臺灣ノ新聞ノ取締ノコトハ、今更私ハ此處デ申上ゲマセヌケレドモ、事實何等ノ聲ヲ發スルコトガ出來ナイヤウニシテアルノデス、此ノ鬱積シタ心持ガ一體何處ヘドウ云フ形デ現レテ來ルコトガアルカモ知レヌト云フコトハ、本當ニ我々ハ憂慮シナケレバナラヌノデアリマス、私ハ最近外地統治ノ傾向ニ付テモ、憂慮スベキ幾多ノモノヲ持ッテ居リマス、一々斯ウ云フ風ナ公開ノ席デ私ハ申上ゲルコトヲ控ヘルノデアリマスケレドモ、本當ニ我々ガ新東亞ノ建設ト云フ大業ニ向ッテ居ルノダ、ケチナ小細工ヲヤッタリ、小手調ベヲヤルヤウナコトデハ、我々大和民族ガ本當ニ此ノ使命ヲ達成スルコトハ出來ナイノダ、四十何年モ兎ニ角我ガ國ノ領有トナリ、陛下ノ赤子トナッタ人間達ニ、コンナ心持デ何時迄モ扱ッテ居ッテ、一體本當ニ心ト心トノ融合ガ出來ルカドウカト云フコトニ付キマシテハ、モウ少シ私ハ考ヘ直サナケレバナラヌノデアルト思フノデアリマス、ダカラサウ云フ心持デ、簡單ニ此ノ外地ノ問題ヲ、唯將來農家ノ收入ガ殖エルノダカラ、今減ッタッテオ前等構ハヌヂヤナイカト云ッタヤウナ考ヘ方デ、假ニ外地ノ問題ヲ考ヘルコトヲ、日本ノ政治家ハ本當ニ反省シナケレバナヌト云フコトヲ私ハ痛感ヲ致スノデアリマス、是ダケヲ申上ゲテ、巨細ノ質問ニ付キマシテハ他日ノ機會ニ讓リマシテ、一應私ノ質問ヲ打切ルコトニ致シタイト思ヒマス(拍手)

○子爵戸澤正己君　只今議題トナリマシタ臺灣米穀移出管理特別會計法案ハ、極メテ重要ナル法案デアリマスルガ故ニ、此ノ特別委員ノ數ヲ十八名トシ、其ノ指名ヲ議長ニ一任スルノ動議ヲ提出致シマス

○子爵秋田重季君　賛成

○議長(伯爵松平賴壽君)　戸澤子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(伯爵松平賴壽君)　御異議ナイト認メマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス

(丸龜書記官朗讀)

臺灣米穀移出管理特別會計法案特別委員

侯爵大隈　信常君　　侯爵細川　護立君
伯爵黑木　三次君　　子爵八條　隆正君
子爵松平　康春君　　子爵綾小路　護君
松村眞一郎君　　永田秀次郎君
男爵稻田　昌植君　　男爵松田　正之君
宮田　光雄君　　松村　義一君
丸山　鶴吉君　　長岡隆一郎君
松本　眞平君　　林　平四郎君
小林嘉平治君　　風間八左衛門君

○議長(伯爵松平賴壽君)　次會ノ議事日程ハ決定次第公報ヲ以テ御通知ニ及ビマス、本日ハ是ニテ散會致シマス

午後零時三十四分散會

貴族院議事速記錄第十九號正誤

頁	段	行	誤	正
二一〇	一	七	內相	內務省

內閣印刷局

明治二十五年三月三十一日第三種郵便物認可

官報　號外

昭和十四年三月十四日

○第七十四回帝國議會貴族院議事速記錄第二十二號

昭和十四年三月十三日(月曜日)午前十時六分開議

議事日程　第二十二號
昭和十四年三月十三日
午前十時開議

第一　臨時軍事費豫算追加案(臨第一號)　會議(委員長報告)
第二　商法ヲ引用スル條文ノ整理ニ關スル法律案(政府提出)　第一讀會
第三　臨時資金調整法中改正法律案(政府提出、衆議院送付)　第一讀會
第四　產金法中改正法律案(政府提出、衆議院送付)　第一讀會
第五　昭和十四年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案(政府提出、衆議院送付)　第一讀會ノ續(委員長報告)
第六　作業會計法中改正法律案(政府提出、衆議院送付)　第一讀會ノ續(委員長報告)
第七　兌換銀行券整理法中改正法律案(政府提出、衆議院送付)　第一讀會ノ續(委員長報告)
第八　農業再保險特別會計法案(政府提出、衆議院送付)　第一讀會ノ續(委員長報告)
第九　海軍工廠資金會計法中改正法律案(政府提出、衆議院送付)　第一讀會ノ續(委員長報告)
第十　名古屋帝國大學創設ニ伴フ帝國大學特別會計及官立大學特別會計ノ關涉ニ關スル法律案(政府提出、衆議院送付)　第一讀會ノ續(委員長報告)
第十一　森林法中改正法律案(政府提出、衆議院送付)　第一讀會ノ續(委員長報告)
第十二　林業種苗法案(政府提出、衆議院送付)　第一讀會ノ續(委員長報告)
第十三　短期現役小學校教員俸給費國庫負擔法中改正法律案(政府提出、衆議院送付)　第一讀會ノ續(委員長報告)
第十四　昭和十二年度歳入歳出總決算、昭和十二年度各特別會計歳入歳出決算報告　會議(委員長報告)
第十五　昭和十二年度國有財產增減總計算書報告　會議(委員長報告)

○議長(伯爵松平賴壽君)　報告致サセマス

(丸龜書記官朗讀)

去ル十日委員會ニ於テ當選シタル正副委員長ノ氏名左ノ如シ

鑛業法中改正法律案特別委員會
委員長　子爵秋田　重季君
副委員長　男爵伊藤　一郎君

國境取締法案特別委員會
委員長　山川　端夫君
副委員長　男爵井田　磐楠君

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

昭和十四年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案可決報告書
作業會計法中改正法律案可決報告書
兌換銀行券整理法中改正法律案可決報告書
農業再保險特別會計法案可決報告書
海軍工廠資金會計法中改正法律案可決報告書
請願委員會特別報告第六號

同日政府ヨリ左ノ議案ヲ提出セリ

商法ヲ引用スル條文ノ整理ニ關スル法律案

同日內閣總理大臣ヨリ左ノ通第七十四回帝國議會政府委員仰付ラレタル旨ノ通牒ヲ受領セリ

厚生省所管事務政府委員
保險院書記官　川村　秀文君

一昨十一日委員會ニ於テ當選シタル正副委員長ノ氏名左ノ如シ

保險業法改正法律案特別委員會
委員長　伯爵樺山　愛輔君
副委員長　男爵矢吹　省三君

青年學校教育費國庫補助法案特別委員會
委員長　侯爵德川　義親君
副委員長　子爵清岡　長言君

臺灣米穀移出管理特別會計法案特別委員會
委員長　侯爵大隈　信常君
副委員長　伯爵黑木　三次君

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

臨時軍事費豫算追加案(臨第一號)可決報告書
森林法中改正法律案可決報告書
林業種苗法案可決報告書

同日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ

臨時資金調整法中改正法律案
產金法中改正法律案

同日衆議院ヨリ本院ノ送付ニ係ル左ノ政府提出案ハ同院ニ於テ之ヲ可決シ奏上セル旨ノ通牒ヲ受領セリ

滿洲國ニ於ケル領事官ノ裁判ノ廢止ニ關スル法律案
借地借家臨時處理法中改正法律案
公證人法中改正法律案

同日內閣總理大臣ヨリ左ノ通第七十四回帝國議會政府委員仰付ラレタル旨ノ通牒ヲ受領セリ

內務省所管事務政府委員
內務書記官　生悅住求馬君

○議長(伯爵松平賴壽君)　是ヨリ本日ノ會議ヲ開キマス、日程第一、臨時軍事費豫算追加案、臨第一號、會議、委員長報告、委員長渡邊子爵

(左ノ報告書ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ玆ニ載錄ス以下之ニ倣フ)

一臨時軍事費豫算追加案(臨第一號)

右衆議院ヨリ受領シタル案ヲ審査シ衆議院議決案ノ通可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十四年三月十一日

委員長　子爵渡邊　千冬

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

○子爵渡邊千冬君　(子爵渡邊千冬君演壇ニ登ル)　只今議題トナリマシタ臨時軍事費豫算追加案ニ付キマシテ、委員

ニ入ラサナイデ外デ獲リマスト云フコトハ、繁殖保護ノ上ニ於テハ甚ダ遺憾ナコトナノデアリマス、極端ニ之ヲヤリマスレバ日本ノ魚ト、「ロシヤ」ノ魚ト區別シテアル譯デアリマセヌカラ、極端ニ斯ウ云フコトヲ繼續致シマスレバ、所謂北洋ノ魚ト云フモノハ、十年ヲ出デズシテ無クナルダラウト思ヒマス、斯クノ如キコトハ鮭鱒ニ取ッテハ誠ニ無慈悲ナ政策デアリマシテ、是ガ外交上ノ交渉ニ依リマシテ、圓滿ニ解決シマスナラバ所謂北洋ノ魚ノ問題ハ、百年ヲ繼續シテ日露兩國トモ永久的ニ産業トシテ成立シ得ルモノト思ヒマス、今ヤ此ノ臨時軍事費ノ中ニハ、恐ラクハ北洋ノ警備費ト云フモノガ相當含マレテ居ルト思ヒマス、私ハ三月十五日ノ競賣ヲ目ノ前ニ見マシテ、外交當局ノ御努力ニ依リマシテ、「ロシア」ト圓滿ナル解決ニ達シマシテ、若シモ北洋警備費ノ一部ガ要ラナクナルヤウナコトガアレバ、非常ニ私ハ結構ダト思ヒマス、其ノ意味ニ於テ私ハ今日ハ重大ナル追加豫算計上ノ日ト思ヒマシテ、此ノ點ハ外務大臣ノ御奮闘ヲ冀ヒマシテ、本豫算ヲ協賛スル次第デゴザイマス

○議長(伯爵松平賴壽君)　是ニテ討論ヲ終リマシタ、是ヨリ採決ヲ致シマス、御異議ガナケレバ本案全部ヲ問題ニ供シマス、本豫算案ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ願ヒマス

(總員起立)

○議長(伯爵松平賴壽君)　總員起立、全會一致ト認メマス

○議長(伯爵松平賴壽君)　議事ノ都合ニ依リマシテ一時休憩ヲ致シマス、午後ハ一時半ヨリ開會致シマス

午前十一時三十三分休憩

午後一時四十三分開議

○副議長(侯爵佐佐木行忠君)　休憩前ニ引續キ、午後ノ會議ヲ開キマス

○子爵井上匡四郎君　動議ヲ提出致シマス、日露漁業問題ニ付テ外務大臣ニ對シ、此ノ際緊急質問ヲ致シタイト思ヒマス、特ニ御贊成ヲ願ヒタイノデアリマス

○伯爵兒玉秀雄君　贊成

○副議長(侯爵佐佐木行忠君)　井上子爵ヨリ、此ノ際緊急質疑ヲ致シタイトノ動議ガ提出セラレマシタ、井上子爵ニ緊急質疑ヲ許スコトニ御異議ゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○副議長(侯爵佐佐木行忠君)　御異議ナイト認メマス、井上子爵

(子爵井上匡四郎君演壇ニ登ル)

○子爵井上匡四郎君　私ハ茲ニ政府ニ對シ、緊急質疑ヲ致サムト欲スル者デアリマス、卽チ日露漁業問題ニ付テ政府ノ所信ヲ伺ヒタイト考ヘルノデアリマス、御承知ノ如ク漁區ノ競賣ハ「ソ」聯政府ノ告示ニ依リマスト云フト、明後十五日ニ擧行セラルヽ、コトニナッテ居ルノデアリマス、日本側ニ於キマシテハ、此ノ競賣ニ應ゼザルコトニ決定致シテ居リマス、蓋シ此ノ事タルヤ單ナル北洋ニ於ケル漁業ト云フ簡單ナル經濟問題ニ止マリマセヌデ、之ニ伴フ重大ナル政治的ノ意義ガ包含サレテ居リマスルノデ、私ハ此ノ演壇ニ起ッテ敢テ政府ニ其ノ所信ヲ質問セムトスル所以デアリマス、先ヅ質問ニ入リマス前ニ、北洋ニ於ケル我ガ漁業權ヲ繞ル歷史ニ付テ、出來ルダケ簡單ニ御説明申シテ見タイト考ヘマス、古イ歷史ハ慶長四年松前藩ガ蝦夷地支配ノ覇權ヲ握ルニ始マリマシテ、二百餘年間我ガ祖先ノ北洋ノ風雪怒濤ヲ蹴ッテ、北方開拓、北洋ノ我ガ權益ノ基礎ヲ築イタ事實ヲ顧ミマスレバ、今日ノ北洋漁業權ハ過去二世紀ニ亘ル我ガ既得權益デアルコトハ、史上ニ燦トシテ明カナル事實デアリマス、而シテ是ガ「ロシア」トノ間ニ條約トシテ確認セラレマシタノハ、實ニ日露戰爭ノ結果トシテ、明治三十八年締結セラレマシタ「ポーツマス」條約第十一條ニ據ルノデアリマス、此ノ第十一條ハ下ノ如クデアリマス、「露西亞國ハ日本海、「オコーツク」海、及「ベーリング」海ニ面スル露西亞領地ノ沿岸ニ於ケル漁業權ヲ日本國民ニ供センガ爲メ日本國ト協定ヲ爲スヘキコトヲ約ス」、而シテ明治三十八年ヨリ四十年ニ亘リマシテ、許可制ニ依リマシテ此ノ北洋漁業ハ行ハレテ居ッタノデアリマス、明治四十年此ノ「ポーツマス」條約ニ基キマシテ、日露漁業協約ガ締結セラレテ、其ノ有效期限ハ十二箇年トシテ、大正六年滿了トナッタノデアリマス、然ルニ其ノ當時「ロシア」側ニ相手トスベキ政府ガ未ダ存在シテ居リマセヌデシタ爲ニ、大正七年、八年、九年、十年、十一年、此ノ期間ニ於キマシテハ、日本政府ハ所謂事務管理ノ形式ヲ以テ漁業ヲ繼續シテ居ッタノデアリマス、大正十二年ニ至リマシテ「ウラジオ」ニ赤衞軍ガ現レマシテ、是ト一箇年ノ暫定協約ヲ取極メマシテ、大正十三年モ同樣ノ形式デ出漁ヲ致シテ居ッタノデアリマス、大正十四年ニ至リマシテ、日「ソ」基本條約ガ締結セラレマシタ、是レ所謂芳澤「カラハン」條約又ハ北京條約ト稱スルモノデアリマス、此ノ第二條ニ「ポーツマス」條約ノ效力ヲ確認セシメタノデアリマス、而シテ漁業ハ依然同樣ノ形式卽チ許可制度ニ依ッテ遂行セラレテ居リマシタ、而シテ昭和三年日「ソ」漁業條約ガ締結セラルヽニ至ッタノデアリマス、此ノ昭和三年迄ノ北洋ニ於ケル日「ソ」間ノ漁區ノ數ノ比率ハ、一貫致シマシテ、日本側ガ優ニ八割以上、「ロシア」側、後ニ「ソ」聯邦側ガ二割以下ヲ繼續シテ居ッタノデアリマス、茲ニ特ニ注意ヲ要シマス事項ハ、明治四十年締結ノ日露漁業協約、昭和三年締結ノ日「ソ」漁業條約、此ノ何レモガ其ノ主義ニ於キマシテ、其ノ待遇ハ日「ソ」人ノ間ニ同樣ニスルト云フ主義ガ一貫シテ居ルノデアリマス、又我々ノ注意ヲ要スル點ハ、昭和三年締結ノ日ソ漁業條約デアリマス、此ノ時ヨリ「ソ」聯ノ國營企業ガ進出スルニ至リマシタ、而シテ同條約ニ依リマシテ二百萬「プード」ハ競賣ニ付セズ、國營企業ノ漁區トシテ優先的ニ取得スルト云フコトデアリマス、此ノ二百萬「プード」ノ漁區ト云フノハ、二百萬「プード」ヲ漁獲シ得ル漁區ト云フ意味デアリマス、又此ノ當時ヨリ「ソ」聯ニ於キマシテハ總テノ企業ガ國營デアルニ拘ラズ、此ノ北洋漁業ニ於テノミ數箇ノ個人ノ企業ヲ容認致シマシテ、此ノ少數ノ「ソヴィエト」個人ト日本人トノ間ニ漁區ノ競賣ヲスルト云フ規定ヲ致シタノデアリマス、然ルニ此ノ個人ト申シマスモノハ、總テガ「ソヴィエト」政府ノ傀儡デアリマスル爲ニ、如何ナル高キ競賣ニ對シ入札ヲ致シマシテモ、其ノ金ハ「ソヴィエト」國家ニ又還ッテ來ルノデアリマスルカラ、サウ云フ個人ト日本ノ企業家トガ競走スルト云フコトハ到底不可能ノコトデアルノデアリマス、果セル哉昭和三年以降ハ彼我ノ比率ガ急ニ變更致シマシテ、新條約實施後第一年、卽チ昭和四年ニハ日本側ガ五五・二「パルセント」、「ソ」聯側ガ四四・八「パルセント」ト云フヤウナ變化ヲ呈シテ來タノデアリマス、而シテ此ノ關係ハ逐年日本側ノ漁區遞減ノ一途ヲ辿ッテ參ッタノデアリマス、斯ウ云フ情勢デアリマシタカラ、昭和六年時ノ廣田駐「ソ」大使ト「ソ」聯政府トノ折衝ニ依リマシテ、昭和七年八月所謂廣田「カラハン」協定ガ成立致シマシタ、之ヲ安定漁區ト稱スルノデアリマス、此ノ協定ニ依リマシテ日本人ノ租借漁區ノ大部分ガ……二百八十二漁區デアリマス……日「ソ」漁業條約ノ滿了迄競賣ニ付セズ經營シ得ルト云フコトニナッタノデアリマス、卽チ昭和七年ニ於キマシテハ日本ノ現有漁區三百九十二ノ中、既ニ安定セル漁區、卽チ特別契約漁區、是ハ罐詰ヲ製造スル工場ヲ持ッタ漁區デアリマシテ、之ヲ特別契約漁區ト稱スルノデアリマス、是ガ四十四、及ビ五箇年間期限借受漁區八、合計五十二ヲ除キ、三百四十漁區ニ對シマシテ二百八十二漁區ガ條約期限內卽チ向後五箇年間競賣ニ付スルコトナク事業ヲ繼續シ得ルト云フコトニナリマシテ、卽チ現有漁區ノ約八割强ガ安定スルコトニナリマシタ爲ニ、年々紛爭ヲ續ケテ來タ競賣問題モ稍々一時平靜ニ歸シタ感ガアッタノデアリマス、併シ此ノ廣田「カラハン」協定ニ注意スベキ點ハ、此ノ協定ニ於テ日本側ハ安定漁區ヲ得マシタニ對シマシテ、「ソ」聯側ハ三百萬「プード」ノ國營漁區ヲ優先的ニ取得スルト云フコトヲ規定致シタノデアリマス、卽チ日本側ノ安定漁區ト三百萬「プード」ト云フモノガ、交換條件トシテ此ノ協定ノ中ニ記載セラレテ居ルノデアリマス、而シテ前ニ述ベマシタ日「ソ」漁業條約ハ、昭和三年五月二十八日ニ效力ヲ發生致シマシテ、有效期間ガ八箇年デ、昭和十一年五月二十八日ヲ以テ滿了トナリマス、而シテ期限滿了ノ際、修正改訂ノ必要ナイ場合ニ於キマシテハ、同條約ハ其ノ儘引續キ十二箇年效力ヲ延長スルコトガ規定シテアルノデアリマス、然ルニ同條約ノ實施後日「ソ」雙方共ニ不都合ヲ感ジマシタ爲ニ、兩者會議ノ上改訂交渉ヲ行フコトニナリマシタ、此ノ交渉ハ種々ノ難關ガアリマシテ、期限內ニ決定ヲ見ルコトガ出來マセヌデ、從ッテ同條約ハ昭和十一年末日迄延期シ、交渉ヲ解決セムト致シタノデアリマス、此ノ交渉ノ中樞ヲ流レテ居リマス所ノ主張ヲ檢討致シマスルト、日本側ハ漁業條約改訂ノ必要ガ、漁區ノ理由ナキ侵蝕迫害ヲ防止セムトスルニ對シマシテ、「ソ」聯側ハ日本人ノ所有漁區ヲ奪還セムトスル意圖ヲ示シマシテ、主張ハ根本的ニ對立シタノデアリマス、併シ其ノ後第一回暫定協定ガ成立シ、引續キ交渉ヲ續ケマシテ、其ノ結果ハ昭和十一年十月二日遂ニ妥協點ニ達シマシテ妥協案文ヲ得マシタ、卽チ是ガ酒匂「ガスロプスキー」協定ト稱スルモノデアルノデアリマス、此ノ協定ハ日本側トシテハ必ズシモ滿足シ得ルモノデハナカッタノデアリマスガ、互讓妥協ノ精神ニ依ッテ決定ヲ見タノデアリマス、而シテ昭和十一年十一月二十日ヲ期シ正式調印スルコトニナッテ居ッタノデアリマスガ、其ノ前日、卽チ昭和十一年十一月十九日、突如「ソ」聯側ガ國內手續未了ト云フ口實ヲ以テ調印ヲ拒否致シマシテ、今日迄是ガ調印ニ至ラズ、今日紛糾ノ因ヲ成シタノデアリマス、是ハ當時「ソ」聯側ガ日本ト「ドイツ」トノ間ニ、防共協定ガ締結セラレマシタコトヲ知リマシテ、之ヲ口實ト致シマシタコトハ明瞭ナル事實デアルノデアリマス、而シテ日本ノ漁業權ヲ「ソ」聯側カラ侵蝕致シマスルニハ、安定漁區ト云フモノガ彼等ニ對シ如何ニ障碍デアルカト云フコトハ、彼等モ能ク之ヲ承知シテ居リマス故ニ、改訂交渉ノ不成立ニ終リマシタ場合、安定漁區ヲ含メタ現行條約暫定延長ヲ三回モ繰返シテ居ルノデアリマス、昨年ノ暫定取極交渉ニ於キマシテ、今回ハ「ソ」聯側ハ從來ノ日本人ノ經營シテ居リマシタ漁區四十箇所ヲ、軍事上ノ理由ニ依リ閉鎖スルト申シ來ッタノデアリマス、勿論此ノ閉鎖ヲ命ズル四十漁區ハ、日本人ノ漁區ノ中ノ最モ優秀ナルモノデアルト云フコトハ申ス迄モナイノデアリマス、之ニ對シ我ガ國ヨリハ四十漁區ノ一部ニ付「ソ」聯側ノ要望ヲ考慮シマシテ、代漁區ヲ以テ我慢スルト云フ妥協案ヲ提出致シタノデアリマスルガ、是ハ「ソ」聯側ノ應ズル所トナラナカッタノデアリマス、而シテ昨年末「ソ」聯側ハ僅カ三漁區ノ閉鎖ヲ撤廢致シマシテ、六漁區ニ對シ代漁區ノ意味デ「ソ」聯側ノ漁區六箇所ヲ競賣ニ出シマシテ讓歩案ヲ提出シタト稱シテ居ルノデアリマス、併シ一度開設シマシタ漁區ヲ、斯クノ如キ理由ナキ理由ニ依リマシテ閉鎖スルト云フコトハ、明カニ漁業條約ノ規定ニ反スルノミナラズ、現實ニ漁業活動範圍ヲ狹メル結果デアリマシテ、明カニ不法デアルノデアリマス、次ニ又昨年ノ暫定取極締結ノ條件ノ一ットシマシテ、日本人ガ昭和七年廣田「カラハン」協定締結以來、引續キ經營シテ來テ居リマシタ所ノ所謂安定漁區ヲ、今年ハ總テ競賣ニ付スルト云フコトヲ主張シテ參ッタノデアリマス、此ノ安定漁區ハ二百七十九箇所ヲ算シマシテ、邦人漁區ノ大部分ヲ占ムルモノデアリマス、「ソ」聯側ハ廣田「カラハン」協定ガ既ニ失效シタコト等ヲ其ノ主張ノ主ナル理由トシテ居ルノデアリマスルガ、元來廣田「カラハン」協定ハ漁業問題ニ於ケル日「ソ」間紛爭ヲ解決スル爲、實情ニ卽シタ方法トシテ締結セラレ、兩國國交關係ニモ寄與シタコトガ少クナイノデアリマス、而シテ右協定期間滿了後モ昭和十一年度、十二年度、兩度ノ暫定取極ニ際シマシテハ、右協定ニ依ル漁區ノ借區契約ガ其ノ儘延長サレテ居ッタノデアリマス、尙又右協定ノ中ニハ邦人漁區ノ安定ヲ認メル規定ト對立致シマシテ、前ニ申シマシタヤウニ「ソ」聯側ノ國營企業ノ爲、三百「プード」ニ相當スル漁區ノ增加保留ヲ規定シテ居ッタノデアリマス、デ此ノ兩者ガ相關聯致シテ居ッタ、サウデアリマスカラ邦人ガ此ノ安定漁區ヲ手放ス場合ニ於キマシテハ、「ソ」聯側ハ此ノ國營企業ノ三百萬「プード」ヲ吐キ出サナケレバナラナイコトハ當然デアルノデアリマス、然ルニ「ソ」聯側ハ既ニ日本人ノ安定漁區ヲ競賣ニ付スル旨公告致シマシタ、一方ニ於キマシテ國營企業ノ漁區其ノモノハ「ソヴィエト」側ノ勝手デアルト云フ主張ヲ固執シテ居ルノデアリマス、暫定取極ニ於テ現狀維持ハ認メラレルコトノ當然ナコトハ申ス迄モアリマセヌ、又「ソ」聯ノ主張スル競賣ナルモノハ、前ニ申シマシタ如ク「ソ」聯內ノ制度事情ニ於テ其ノ儘行ハル、モノデアリマスルカラ、漁區ノ全部ガ競賣ニ於テ「ソ」聯側ノ手ニ競落スルト云フコトハ又覺悟シナケレバナラヌコトデアルノデアリマス、斯カル競賣ノ提議ト云フモノハ甚ダシク不當、不法ナ提議デアリマス、

又國營企業三百萬「プード」ヲ經營スルコトガ勝手ダトノ議論ノ不當ナルコトハ申ス迄モナイコトデアリマス、尙又暫定取極トハ別ニ、本漁業條約交渉ハ依然繼續セラレル建前デアルノデアリマスルガ、前ニ申シマシタ如ク暫定取極締結ヲ困難ナラシメル提議ヲ致シマシテ、漁業條約期間滿了前ニ、同條約ノ有效期間ヲ延長セシムベキ暫定取極ノ成立ヲ不可能ナラシムルコトハ、實ニ規定ニモ反スル次第デアルコトハ申ス迄モナイノデアリマス、昨年末日本側カラ「ソ」聯ニ對シマシテ、今後ノ處置ハ如何ニスル心構デアルカト云フコトヲ問ヒマシタ時ニ、「ソ」聯ハ來年、卽チ今年デアリマスガ、來年ニ入ッテ交渉ヲ繼續スル用意ガアルト云フコトヲ答ヘテ居ルノデアリマス、日本側ハ此ノ言ヲ了承致シマシテ、本年ニ入ッテカラ最短期間內ニ協定ガ成立スルコトヲ要望スルト共ニ、此ノ交渉中ハ「ソ」聯側ハ現狀ヲ變更スル如キ處置ヲ執ラヌモノト了解スル旨ヲ昨年中入レテアルノデアリマス、例年十二月末ニ公示サレル競賣漁區ノ公示ハ行ヒマセズ、「ソ」聯側モ交渉繼續中現狀維持ヲ守ッタモノト日本側ハ信ジテ居ッタノデアリマス、然ルニ本年一月三日西參事官「ミローノフ」極東部長ノ會談ニ於キマシテ、突如「ミローノフ」ハ近ク本年度入札漁區ノ公示ヲ行フ豫定デアルト云フコトヲ申出タノデアリマス、デ日本側ハ「ソ」聯ノ一方的不法行爲ヲ糺彈致シマシタガ、「ソ」聯側ハ更ニ二月ニ競賣ヲ行フト言ヒナガラ、一月十五日ニ至リマシテ「ソ」聯側ニ來ル三月十五日、卽チ明後日、極東漁業廳ニ於テ二百九十三漁區ノ競賣ヲ行フ旨ヲ公示致シタノデアリマス、斯クノ如クシテ事態ハ急轉直下、現狀ヲ呈スルニ至ッタノデアリマス、デ前ニ述ベマシタ如ク本年「ソ」聯側ノ執ラムトスル處置ハ、實ニ「ポーツマス」條約ヲ無視シ、日「ソ」基本條約ヲ無視シ、日「ソ」漁業條約ヲ無視シタ、實ニ暴戾極マル所爲デアルノデアリマス、此ノ漁業問題ト云フコトヲ他ノ方面カラ見マスト云フト、今日ハ此ノ北洋漁業問題ハ、北海道及東北ノ同胞ニ對シマシテハ、一年間ノ豫定サレタ年中行事ノ中ノ重要ナルモノノ一ツデアルノデアリマス、北洋漁業ニ從事スル者ハ一年二萬人ヲ下ラナイノデアリマス、而シテ三四箇月ノ間北洋ノ怒濤ト鬪ヒマシテ、少クトモ二三百圓ノ金ヲ持ッテ歸ルノデアリマス、或者ハ親子、孫迄モ、一家擧ッテ此ノ事業ニ從事スル者モアリマス、又多クハ一家ノ壯丁ガ夏季ノ間激烈ナ勞働ニ服シマシテ、一家族ノ一年ノ資ヲ作ルノデアリマス、北洋漁業ハ實ニ彼等ノ生活ノ中ニ深ク喰入ッタ年中行事ノ一ツデアルノデアリマス、若シ是ガ多少トモ蹉跌ヲ來スヤウナコトガアリマスナラバ、東北、北海道ニ多大ナル社會問題ヲ惹起スベキ重大ナ性質ヲ帶ビ、單ナル營利事業デハナイノデアリマス、由來「スラヴ」民族ハ朴訥粗野ノ性格ヲ有シ、又同時ニ眞理ノ探究ニ邁進スル性格ヲ有シ、又藝術的天才ニハ豐カニ惠マレタ國民デアルノデアリマス、古キ「ロシア」ハ世界文化ノ爲ニ貢獻シタ跡モ少クナイノデアリマス、先ヅ科學ノ方面ヲ見マスト云フト、「メンデレェフ」ノ元素配列論ノ如キ、其ノ當時ニ於テ既ニ今日ノ理論科學ノ眞髓ニ觸レテ居ルノデアリマス、近世ニ至リマシテハ「ハブロフ」ノ條件反射論モ、生理學ノ上ニ新シイ光ヲ投ジテ居ルノデアリマス、其ノ他音樂、繪畫ニ對シテハ此處ニ申スニ及ビマセヌ、併シ文化方面ニ於ケル「スラヴ」民族ノ最モ卓越シタル方面ハ文學デアルト考ヘラレマス、「プシューキン」、「ツルゲネーフ」、「ドストエフスキー」、近クハ「トルストイ」、「ゴルキー」ノ如キ、彼等ノ思想ハ彼等ノ著書ヲ通シマシテ、日本初メ各國ノ思想ノ上ニ影響シタ所ガ少クナイト考ヘルノデアリマス、併シ此ノ朴訥粗野ナ性格ト一方非常ニ感傷的ナ性格ト、之ニ加フルニ帝國「ロシア」ノ長イ間ノ惡政ノ爲ニ、腐敗糜爛シテ居ッタ此ノ土壤ガ、恰モ「レーニン」、「トロツキー」及多クノ「ユダヤ」系ノ指導者ニ依リマシテ、同ジク「ユダヤ」系ノ「マルクス」ノ唱道致シマシタ共產主義ヲ植付クルノニ都合ノ好イ溫床トナッタノデアリマス、西「ヨーロッパ」ノ所謂自由主義、「デモクラシー」國家ニ於キマシテハ、其ノ自由ナル思想ハ政治ノ範圍ニ止ッテ居ルノデアリマス、彼等ハ各〻各自ノ國家ノ歷史、宗敎ニ依リマシテ傳統的、遺傳的或ハ無意識的ニ、思想上ノ強イ掣肘ヲ受ケテ居リマスガ故ニ、彼等ノ思想ハ決シテ完全ニ自由ニハ成リ得ナイノデアリマス、此ノ好例ト致シマシテ佛國ノ文豪「アンドレ・チード」ノ「ソ」聯ノ紀行及「ソ」聯紀行ノ再修正ト云フ二冊ニ於テ明カナル如ク、是ハ「チード」自身ガ、「チード」自身ノ自由主義ガ、無意識ノ裡ニ矢張リ強キ掣肘ヲ受ケテ居ッタト云フコトヲ、自覺セザリシ所ノ不明ヲ物語ルモノデアルトモ言ヒ得ルダラウト考ヘルノデアリマス、然ルニ「ソヴィエト」國家ハ、共產主義ヲ以テ政治ノ主義トナシタルト同時ニ、之ヲ以テ亦道德、宗敎ノ主義ト致シタノデアリマス、仍テ彼等ニハ其ノ主義遂行ノ爲ニハ何等之ヲ遮ルモノモナイ、故ニ彼等ノ國家ニハ我々ガ考ヘルヤウナ信義ノ觀念ト云フヤウナモノハ存在致シマセヌ、又存在スル必要ヲ認メナイノデアリマス、恰モ日本ガ今日支那ト事ヲ構ヘ、國內ノ物心兩力ガ稍〻衰退セルヤノ見當ヲ見誤リマシテ、又今回ノ不法行爲ヲ以テ國內人心離反ヲ塗糊スル內政手段ニ之ヲ利用シ、他方ニ於テハ支那及其ノ他諸國ニ對スル好意ノ「ゼスチュア」ニ利用セムトシツヽアルコトハ、「ユダヤ」系ノ政治家ノ工作トシテハ能ク窺ヒ得ルノデアリマス、又此ノ思想ノ流ハ、今日「ソヴィエト」ノ內政ニ於キマシテハ、主義遂行ノ爲、肅正ノ名ノ下ニ、權威者ハ私利私慾ニ驅ラレマシテ、其ノ朋友同輩ノ間ニ、所謂血ヲ以テ血ヲ洗フヤウナ殘忍ナル政治ガ行ハレツヽアルノデアリマス、又此ノ思想ノ流ガ他ニ對シマシテハ、今回ノ漁業問題及北樺太ニ於ケル石油、石炭ノ權益ニ對スル不法行爲トシテ現出シツヽアルノデアリマス、故ニ是ハ單ナル表面上ノ行爲トシテノミ之ヲ見ルコトハ出來ナイノデアリマシテ、深キ思想上ノ根柢ヲ有スル問題トシテ之ヲ取扱ハナケレバナラヌト考ヘルノデアリマス、「ソ」聯ノ中心ヲ成ス「ユダヤ」系ノ者ノ共產思想ニ依ル世界制覇、同ジク「ユダヤ」系ノ金融業者ノ金融資本ニ依ル世界制覇トハ、其ノ働ク場面コソ違ヒマスガ、又一抹ノ關聯ヲ見出シ得ルヤノ感ガ致スノデアリマス、此ノ兩者ハ今世界ノ癌デアルノデアリマス、斯ク觀ジ來リマスト云フト、斯クノ如キ思想ハ假令隣邦デアッテモ、此ノ存在ヲ許スコトガ出來ナイノデアリマス、「ソヴィエト」政府ハ或ハ此ノ北洋漁業問題ト云ヒ、又北樺太ニ於ケル石油石

炭ノ問題ト云ヒ、是ハ日本ノ邊境ニ於ケル問題デアリマシテ、日本ハ之ニ對シテ最後迄爭フヤウナ決心ハ持ッテ居ラナイノデハナイカトノ觀念ヲ持ッテ居ルカモ知レマセヌガ、是ハ日本國民ノ性格ヲ理解セザル甚ダシキ誤謬デアルト考ヘルノデアリマス、日本國民ノ血ノ中ヲ流レテ居リマス最モ崇高ナル觀念デアル崇祖敬神ノ念ハ、又同時ニ其ノ祖先ニ對スル深キ責任感ヲ喚ビ起スモノデアリマス、北洋漁業權ト云ヒ、北樺太ノ石油、石炭ノ利權ト云ヒ、唯偶然ニ日本ノ領有ニ歸シタモノデハナイノデアリマス、是ハ我ガ祖先ノ數萬ノ尊キ、淸キ血ヲ以テ、不十分ナガラ償ヒ得タル遺產デアルノデアリマス、吾人ハ之ヲ守リ、之ヲ子孫ニ傳ヘル義務ト責任ヲ深ク感ズルノデアリマス、從ッテ之ガ爲ニハ我々ハ如何ナル犧牲ヲモ辭スルコトヲ許サレナイノデアリマス、此ノ結果ハ或ハ重大ナル事態ヲ招來スルコトガアルヤモ知レマセヌガ、敢テ是ハ辭スル所デハナイノデアリマス、私ハ此ノ場合深ク「ソ」聯當局ノ深甚ナル猛省ヲ促シタイト考ヘルノデアリマス、北洋問題ハ單ナル經濟問題デハナイノデアリマス、是ハ重大ナル政治上、外交上、思想上ノ問題デアリマスト同時ニ、東北、北海道ニ對シマシテハ重大ナル社會問題デアルノデアリマス、我々ハ之ニ對シテ最モ強キ決心ヲ持タムト考ヘル者デアリマス、之ニ對シテ政府ノ御所見ヲ承リタイト思ヒマス(拍手)

〔國務大臣有田八郎君演壇ニ登ル〕

○**國務大臣(有田八郎君)** 只今ノ井上子爵カラノ御質問ニ答辯致シマス、北洋ニ於ケル漁業權ノ本質、漁業條約交渉ノ經緯等ニ付キマシテ、又「ソ」聯邦ノ理不盡ナ態度等ニ付キマシテハ、只今子爵ガ御述ニナッタ通リデアリマス、今回ノ交渉ハ昨年ノ秋カラ開始セラレマシテ、政府ハ今日迄冷靜ナル態度ト非常ナル忍耐ヲ以テ交渉ニ當ッテ來タノデアリマシテ、競賣ヲ明後日ニ控ヘテ居ル今日ニ於キマシテモ、政府ハ同樣ノ態度ヲ以チマシテ問題ノ處理ニ當リ、交渉ヲ妥結ニ導クヤウニ最善ノ努力ヲ試ミツヽアル次第デアリマス、若シ「ソヴィエト」側ニ於キマシテ日本ノ此ノ道理アル要求ヲ無視致シマシテ、交渉ヲ妥結ニ至ラシメズ、殊ニ一方的ニ競賣ヲ斷行スル等、理不盡ナ態度ヲ執ルヤウナコトガアリマスレバ、是ヨリ生ズル結果ニ付キマシテハ「ソ」聯邦ニ於テ重大ナル責任ヲ執ルベキモノデアルト云フコトハ言フヲ俟タナイノデアリマス、萬一ノ場合ニ付キマシテハ政府トシテモ斷乎タル決意ヲ以テ、此ノ權益擁護ノ爲ニ、最モ有效ニシテ且適切ナル措置ヲ講ズル覺悟デアリマス(拍手)

○**副議長(侯爵佐佐木行忠君)** 日程第二、商法ヲ引用スル條文ノ整理ニ關スル法律案、政府提出、第一讀會、司法省政府委員

〔議長伯爵松平賴壽君議長席ニ著ク〕

〔左ノ提出文及法律案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ玆ニ載錄ス以下之ニ倣フ〕

商法ヲ引用スル條文ノ整理ニ關スル法律案

右勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス

昭和十四年三月十日

内閣總理大臣　男爵平沼騏一郎
司法大臣兼遞信大臣　鹽野季彦
商工大臣兼拓務大臣　八田嘉明
外務大臣　有田八郎
厚生大臣　廣瀨久忠
大藏大臣　石渡莊太郎
農林大臣　櫻內幸雄

商法ヲ引用スル條文ノ整理ニ關スル法律案

第一條　本法ハ商法ノ改正及有限會社法ノ制定ニ伴ヒ他ノ法律中從前ノ商法ノ規定ヲ準用スル條文等ノ整理ヲ行フヲ目的トシ各法律ノ配列ハ題名ヲ附セラルルモノニ付テハ「アイウエオ」順ニ依リ、題名ヲ附セラレザルモノニ付テハ制定ノ年次ニ依ル

第二條　家畜保險法中左ノ通改正ス

第三十三條　商法第六百三十六條、第六百三十七條、第六百三十八條第二項、第六百三十九條、第六百四十條、第六百四十三條乃至第六百四十六條、第六百四十九條第一項、第六百五十八條、第六百六十二條及第六百六十三條ノ規定ハ本法ニ依ル家畜保險ニ之ヲ準用ス

第四十七條第二項ヲ削リ同條ニ左ノ二項ヲ加フ

組合員ハ總會ニ於テ決議ニ對シ異議ヲ述ベタルトキ又ハ正當ノ理由ナクシテ總會ニ出席スルコトヲ拒マレタルトキニ限リ又組合員ガ總會ニ出席セザル場合ニ於テハ自己ニ對スル總會ノ招集ノ手續ガ法令又ハ定款ノ規定ニ違反スルコトヲ理由トスルトキニ限リ前項ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

商法第八十八條、第百五條第三項、第百九條及第二百五十條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九十五條　商法第六百三十六條、第六百四十三條、第六百五十八條、第六百六十二條及第六百六十三條ノ規定ハ本法ニ依ル家畜再保險ニ之ヲ準用ス

第三條　簡易生命保險法中左ノ通改正ス

第二十二條中「商法第三百九十九條及第四百二十九條」ヲ「商法第六百四十三條及第六百七十八條」ニ改ム

第三十四條第一項中「商法第三百九十九條、第四百一條、第四百六條、第四百十七條、第四百二十八條、第四百二十九條及第四百三十二條ノ二」ヲ「商法第六百四十三條、第六百四十七條、第六百五十二條、第六百六十三條、第六百七十四條、第六百七十八條及第六百八十二條」ニ、同條第二項中「商法第四百二十八條」ヲ「商法第六百七十四條」ニ、同條第三項中「商法第四百二十九條」ヲ「商法第六百七十八條」ニ改ム

第四條　北支那開發株式會社法中左ノ通改正ス

第十五條第三項中「商法第二百九條」ヲ「商法第三百四十三條」ニ改ム

第五條　漁船保險法中左ノ通改正ス

第二十八條第二項中「商法第三百八十六條乃至第三百九十五條、第三百九十七條、第三百九十九條乃至第四百條、第四百三條第一項、第四百十二條、第四百十三條、第四百十五條乃至第四百

十七條、第六百七十一條第一號乃至第三號、第六百七十二條第一項、第六百七十四條第一項第二項及第六百七十五條乃至第六百七十九條」ヲ「商法第六百七十一條」ニ改ム

第十四條　船舶法中左ノ通改正ス

第一條第一項第三號中「株式會社」ノ下ニ「及ヒ有限會社」ヲ加フ

第三十五條中「商法第五編」ヲ「商法第四編」ニ改ム

第十五條　臺灣拓殖株式會社法中左ノ通改正ス

第七條第二項中「商法第二百九條一」ヲ「商法第三百四十三條」ニ改ム

第十六條　擔保附社債信託法中左ノ通改正ス

第十五條第一項中「商法第八十八條、第八十九條、第九十六條第二項、第百條、第二百二十六條第二項又ハ第二百三十二條」ヲ「商法第二百二十八條、第二百三十二條、第百三十二條第二項、第四百二十六條第二項、其ノ準用規定、有限會社法第七十二條第二項又ハ第七十四條第二項」ニ、同條第二項中「商法第二百二十八條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）及有限會社法第七十四條第二項」ニ改ム

第三十四條第四項中「商法第四百十五條及第四百十六條」ヲ「商法第六百六十一條及第六百六十二條」ニ改ム

第三十六條中「商法第三百九十一條、第三百九十二條、第四百十二條及第四百十七條」ヲ「商法第六百七十三條、第六百七十四條」ニ改ム

第三十七條　銀行法中左ノ通改正ス

第十五條中「商法第七十八條第二項」ヲ「商法第百條第一項」ニ改ム

第十六條中「商法第七十八條第二項但書」ヲ「商法第百條第一項但書」ニ、「商法第二百二十條ノ二但書」ヲ「商法第三百七十七條第一項但書」ニ改ム

第六條　銀行法中左ノ通改正ス、

第十五條中「商法第七十八條第二項」ヲ「商法第百條第一項」ニ改ム

第十六條中「商法第七十八條第二項但書」ニ、「商法第二百二十條ノ二但書」ヲ「商法第三百七十七條第一項但書」ニ改ム

第十九條　電氣事業法中左ノ通改正ス

第十九條第一項中「商法第二百條ノ規定ニ依ル制限」ヲ「商法ニ規定スル制限」ニ改ム

第二十條　東北興業株式會社法中左ノ通改正ス

第十一條第二項中「商法第二百九條」ヲ「商法第三百四十三條」ニ改ム

第二十一條　東洋拓殖株式會社法中左ノ通改正ス

第二十三條第二項中「商法第百九十九條及第二百條ノ二」ヲ「商法第二百九十八條及第二百九條」ニ改ム

第二十二條　取引所法中左ノ通改正ス

第十一條第三項中「商法第二百六十一條」ヲ「商法第四百八十六條乃至第四百九十七條、商法中改正法律施行法第一條ニ於テ調フ旧法第二百六十一條」ニ改メ同項中「同年法律第百一號」ノ下ニ「有限會社法第七十七條乃至第八十四條、」ヲ、同條第四項中「株式會社」ノ下ニ「又ハ有限會社」ヲ加フ

第二十三條　中支那振興株式會社法中左ノ通改正ス

第十三條第三項中「商法第二百九條」ヲ「商法第三百四十三條」ニ改ム

第二十四條　日本勸業銀行法中左ノ通改正ス

除ク）第四百八十三條、第四百八十八條ノ四、第四百九十五條」ヲ「商法第五百十六條、第六百十七條、第六百十八條、第六百二十條、第六百二十一條、第六百二十三條、第六百二十四條、第六百二十六條、第六百二十七條、第六百二十八條、第六百三十條、第六百三十一條、第六百三十二條、第六百三十四條、第六百三十五條、第六百三十六條、第六百三十七條、第六百三十八條、第六百三十九條、第六百四十條、第六百四十一條、第六百四十二條、第六百四十三條、第六百四十四條、第六百四十五條、第六百四十六條、第六百四十七條、第六百四十八條、第六百四十九條、第六百五十條、第六百五十一條、第六百五十二條、第六百五十三條、第六百五十四條、第六百五十五條、第六百五十六條、第六百五十七條、第六百五十八條、第六百五十九條、第六百六十條、第六百六十一條、第六百六十二條、第六百六十三條、第六百六十四條、第六百六十五條、第六百六十六條、第六百六十七條、第六百六十八條、第六百六十九條、第六百七十條、第六百七十一條、第六百七十二條、第六百七十三條、第六百七十四條、第六百七十五條、第六百七十六條、第六百七十七條、第六百七十八條、第六百七十九條、第六百八十條、第六百八十一條、第六百八十二條、第六百八十三條、第六百八十四條、第六百八十五條、第六百八十六條、第六百八十七條、第六百八十八條、第六百八十九條、第六百九十條、第六百九十一條、第六百九十二條、第六百九十三條、第六百九十四條、第六百九十五條、第六百九十六條、第六百九十七條、第六百九十八條、第六百九十九條、第七百條、第七百一條、第七百二條、第七百三條、第七百四條、第七百五條、第七百六條、第七百七條、第七百八條、第七百九條、第七百十條、第七百十一條、第七百十二條、第七百十三條、第七百十四條、第七百十五條、第七百十六條、第七百十七條、第七百十八條、第七百十九條、第七百二十條、第七百二十一條、第七百二十二條、第七百二十三條、第七百二十四條、第七百二十五條、第七百二十六條、第七百二十七條、第七百二十八條、第七百二十九條、第七百三十條、第七百三十一條、第七百三十二條、第七百三十三條、第七百三十四條、第七百三十五條、第七百三十六條、第七百三十七條、第七百三十八條、第七百三十九條、第七百四十條、第七百四十一條、第七百四十二條、第七百四十三條、第七百四十四條、第七百四十五條、第七百四十六條、第七百四十七條、第七百四十八條、第七百四十九條、第七百五十條、第七百五十一條、第七百五十二條、第七百五十三條、第七百五十四條、第七百五十五條、第七百五十六條、第七百五十七條、第七百五十八條、第七百五十九條、第七百六十條、第七百六十一條、第七百六十二條、第七百六十三條、第七百六十四條、第七百六十五條、第七百六十六條、第七百六十七條、第七百六十八條、第七百六十九條、第七百七十條、第七百七十一條、第七百七十二條、第七百七十三條、第七百七十四條、第七百七十五條、第七百七十六條、第七百七十七條、第七百七十八條、第七百七十九條、第七百八十條、第七百八十一條、第七百八十二條、第七百八十三條、第七百八十四條、第七百八十五條、第七百八十六條、第七百八十七條、第七百八十八條、第七百八十九條、第七百九十條、第七百九十一條、第七百九十二條、第七百九十三條、第七百九十四條、第七百九十五條、第七百九十六條、第七百九十七條、第七百九十八條、第七百九十九條、第八百條、第八百一條、第八百二條、第八百三條、第八百四條、第八百五條、第八百六條、第八百七條、第八百八條、第八百九條、第八百十條、第八百十一條、第八百十二條、第八百十三條、第八百十四條、第八百十五條、第八百十六條、第八百十七條、第八百十八條、第八百十九條、第八百二十條、第八百二十一條、第八百二十二條、第八百二十三條、第八百二十四條、第八百二十五條、第八百二十六條、第八百二十七條、第八百二十八條、第八百二十九條、第八百三十條、第八百三十一條、第八百三十二條、第八百三十三條、第八百三十四條、第八百三十五條、第八百三十六條、第八百三十七條、第八百三十八條、第八百三十九條、第八百四十條、第八百四十一條、第八百四十二條、第八百四十三條、第八百四十四條、第八百四十五條、第八百四十六條、第八百四十七條、第八百四十八條、第八百四十九條、第八百五十條、第八百五十一條、第八百五十二條、第八百五十三條、第八百五十四條、第八百五十五條、第八百五十六條、第八百五十七條、第八百五十八條、第八百五十九條、第八百六十條、第八百六十一條、第八百六十二條、第八百六十三條、第八百六十四條、第八百六十五條、第八百六十六條、第八百六十七條、第八百六十八條、第八百六十九條、第八百七十條、第八百七十一條、第八百七十二條、第八百七十三條、第八百七十四條、第八百七十五條、第八百七十六條、第八百七十七條、第八百七十八條、第八百七十九條、第八百八十條、第八百八十一條、第八百八十二條、第八百八十三條、第八百八十四條、第八百八十五條、第八百八十六條、第八百八十七條、第八百八十八條、第八百八十九條、第八百九十條、第八百九十一條、第八百九十二條、第八百九十三條、第八百九十四條、第八百九十五條、第八百九十六條、第八百九十七條、第八百九十八條、第八百九十九條、第九百條、第九百一條、第九百二條、第九百三條、第九百四條、第九百五條、第九百六條、第九百七條、第九百八條、第九百九條、第九百十條、第九百十一條、第九百十二條、第九百十三條、第九百十四條、第九百十五條、第九百十六條、第九百十七條、第九百十八條、第九百十九條、第九百二十條、第九百二十一條、第九百二十二條、第九百二十三條、第九百二十四條、第九百二十五條、第九百二十六條、第九百二十七條、第九百二十八條、第九百二十九條、第九百三十條、第九百三十一條、第九百三十二條、第九百三十三條、第九百三十四條、第九百三十五條、第九百三十六條、第九百三十七條、第九百三十八條、第九百三十九條、第九百四十條、第九百四十一條、第九百四十二條、第九百四十三條、第九百四十四條、第九百四十五條、第九百四十六條、第九百四十七條、第九百四十八條、第九百四十九條、第九百五十條、第九百五十一條、第九百五十二條、第九百五十三條、第九百五十四條、第九百五十五條、第九百五十六條、第九百五十七條、第九百五十八條、第九百五十九條、第九百六十條、第九百六十一條、第九百六十二條、第九百六十三條、第九百六十四條、第九百六十五條、第九百六十六條、第九百六十七條、第九百六十八條、第九百六十九條、第九百七十條、第九百七十一條、第九百七十二條、第九百七十三條、第九百七十四條、第九百七十五條、第九百七十六條、第九百七十七條、第九百七十八條、第九百七十九條、第九百八十條、第九百八十一條、第九百八十二條、第九百八十三條、第九百八十四條、第九百八十五條、第九百八十六條、第九百八十七條、第九百八十八條、第九百八十九條、第九百九十條、第九百九十一條、第九百九十二條、第九百九十三條、第九百九十四條、第九百九十五條、第九百九十六條、第九百九十七條、第九百九十八條、第九百九十九條、第千條、第千一條、第千二條、第千三條、第千四條、第千五條、第千六條、第千七條、第千八條、第千九條、第千十條、第千十一條、第千十二條、第千十三條、第千十四條、第千十五條、第千十六條、第千十七條、第千十八條、第千十九條、第千二十條、第千二十一條、第千二十二條、第千二十三條、第千二十四條、第千二十五條、第千二十六條、第千二十七條、第千二十八條、第千二十九條、第千三十條、第千三十一條、第千三十二條、第千三十三條、第千三十四條、第千三十五條、第千三十六條、第千三十七條、第千三十八條、第千三十九條、第千四十條、第千四十一條、第千四十二條、第千四十三條、第千四十四條、第千四十五條、第千四十六條、第千四十七條、第千四十八條、第千四十九條、第千五十條、第千五十一條、第千五十二條、第千五十三條、第千五十四條、第千五十五條、第千五十六條、第千五十七條、第千五十八條、第千五十九條、第千六十條、第千六十一條、第千六十二條、第千六十三條、第千六十四條、第千六十五條、第千六十六條、第千六十七條、第千六十八條、第千六十九條、第千七十條、第千七十一條、第千七十二條、第千七十三條、第千七十四條、第千七十五條、第千七十六條、第千七十七條、第千七十八條、第千七十九條、第千八十條、第千八十一條、第千八十二條、第千八十三條、第千八十四條、第千八十五條、第千八十六條、第千八十七條、第千八十八條、第千八十九條、第千九十條、第千九十一條、第千九十二條、第千九十三條、第千九十四條、第千九十五條、第千九十六條、第千九十七條、第千九十八條、第千九十九條、第二千條、第二千一條、第二千二條、第二千三條、第二千四條、第二千五條、第二千六條、第二千七條、第二千八條、第二千九條、第二千十條、第二千十一條、第二千十二條、第二千十三條、第二千十四條、第二千十五條、第二千十六條、第二千十七條、第二千十八條、第二千十九條、第二千二十條、第二千二十一條、第二千二十二條、第二千二十三條、第二千二十四條、第二千二十五條、第二千二十六條、第二千二十七條、第二千二十八條、第二千二十九條、第二千三十條、第二千三十一條、第二千三十二條、第二千三十三條、第二千三十四條、第二千三十五條、第二千三十六條、第二千三十七條、第二千三十八條、第二千三十九條、第二千四十條、第二千四十一條、第二千四十二條、第二千四十三條、第二千四十四條、第二千四十五條、第二千四十六條、第二千四十七條、第二千四十八條、第二千四十九條、第二千五十條、第二千五十一條、第二千五十二條、第二千五十三條、第二千五十四條、第二千五十五條、第二千五十六條、第二千五十七條、第二千五十八條、第二千五十九條、第二千六十條、第二千六十一條、第二千六十二條、第二千六十三條、第二千六十四條、第二千六十五條、第二千六十六條、第二千六十七條、第二千六十八條、第二千六十九條、第二千七十條、第二千七十一條、第二千七十二條、第二千七十三條、第二千七十四條、第二千七十五條、第二千七十六條、第二千七十七條、第二千七十八條、第二千七十九條、第二千八十條、第二千八十一條、第二千八十二條、第二千八十三條、第二千八十四條、第二千八十五條、第二千八十六條、第二千八十七條、第二千八十八條、第二千八十九條、第二千九十條、第二千九十一條、第二千九十二條、第二千九十三條、第二千九十四條、第二千九十五條、第二千九十六條、第二千九十七條、第二千九十八條、第二千九十九條、第三千條、第三千一條、第三千二條、第三千三條、第三千四條、第三千五條、第三千六條、第三千七條、第三千八條、第三千九條、第三千十條、第三千十一條、第三千十二條、第三千十三條、第三千十四條、第三千十五條、第三千十六條、第三千十七條、第三千十八條、第三千十九條、第三千二十條、第三千二十一條、第三千二十二條、第三千二十三條、第三千二十四條、第三千二十五條、第三千二十六條、第三千二十七條、第三千二十八條、第三千二十九條、第三千三十條、第三千三十一條、第三千三十二條、第三千三十三條、第三千三十四條、第三千三十五條、第三千三十六條、第三千三十七條、第三千三十八條、第三千三十九條、第三千四十條、第三千四十一條、第三千四十二條、第三千四十三條、第三千四十四條、第三千四十五條、第三千四十六條、第三千四十七條、第三千四十八條、第三千四十九條、第三千五十條、第三千五十一條、第三千五十二條、第三千五十三條、第三千五十四條、第三千五十五條、第三千五十六條、第三千五十七條、第三千五十八條、第三千五十九條、第三千六十條、第三千六十一條、第三千六十二條、第三千六十三條、第三千六十四條、第三千六十五條、第三千六十六條、第三千六十七條、第三千六十八條、第三千六十九條、第三千七十條、第三千七十一條、第三千七十二條、第三千七十三條、第三千七十四條、第三千七十五條、第三千七十六條、第三千七十七條、第三千七十八條、第三千七十九條、第三千八十條、第三千八十一條、第三千八十二條、第三千八十三條、第三千八十四條、第三千八十五條、第三千八十六條、第三千八十七條、第三千八十八條、第三千八十九條、第三千九十條、第三千九十一條、第三千九十二條、第三千九十三條、第三千九十四條、第三千九十五條、第三千九十六條、第三千九十七條、第三千九十八條、第三千九十九條、第四千條、第四千一條、第四千二條、第四千三條、第四千四條、第四千五條、第四千六條、第四千七條、第四千八條、第四千九條、第四千十條、第四千十一條、第四千十二條、第四千十三條、第四千十四條、第四千十五條、第四千十六條、第四千十七條、第四千十八條、第四千十九條、第四千二十條、第四千二十一條、第四千二十二條、第四千二十三條、第四千二十四條、第四千二十五條、第四千二十六條、第四千二十七條、第四千二十八條、第四千二十九條、第四千三十條、第四千三十一條、第四千三十二條、第四千三十三條、第四千三十四條、第四千三十五條、第四千三十六條、第四千三十七條、第四千三十八條、第四千三十九條、第四千四十條、第四千四十一條、第四千四十二條、第四千四十三條、第四千四十四條、第四千四十五條、第四千四十六條、第四千四十七條、第四千四十八條、第四千四十九條、第四千五十條、第四千五十一條、第四千五十二條、第四千五十三條、第四千五十四條、第四千五十五條、第四千五十六條、第四千五十七條、第四千五十八條、第四千五十九條、第四千六十條、第四千六十一條、第四千六十二條、第四千六十三條、第四千六十四條、第四千六十五條、第四千六十六條、第四千六十七條、第四千六十八條、第四千六十九條、第四千七十條、第四千七十一條、第四千七十二條、第四千七十三條、第四千七十四條、第四千七十五條、第四千七十六條、第四千七十七條、第四千七十八條、第四千七十九條、第四千八十條、第四千八十一條、第四千八十二條、第四千八十三條、第四千八十四條、第四千八十五條、第四千八十六條、第四千八十七條、第四千八十八條、第四千八十九條、第四千九十條、第四千九十一條、第四千九十二條、第四千九十三條、第四千九十四條、第四千九十五條、第四千九十六條、第四千九十七條、第四千九十八條、第四千九十九條、第五千條、第五千一條、第五千二條、第五千三條、第五千四條、第五千五條、第五千六條、第五千七條、第五千八條、第五千九條、第五千十條、第五千十一條、第五千十二條、第五千十三條、第五千十四條、第五千十五條、第五千十六條、第五千十七條、第五千十八條、第五千十九條、第五千二十條、第五千二十一條、第五千二十二條、第五千二十三條、第五千二十四條、第五千二十五條、第五千二十六條、第五千二十七條、第五千二十八條、第五千二十九條、第五千三十條、第五千三十一條、第五千三十二條、第五千三十三條、第五千三十四條、第五千三十五條、第五千三十六條、第五千三十七條、第五千三十八條、第五千三十九條、第五千四十條、第五千四十一條、第五千四十二條、第五千四十三條、第五千四十四條、第五千四十五條、第五千四十六條、第五千四十七條、第五千四十八條、第五千四十九條、第五千五十條、第五千五十一條、第五千五十二條、第五千五十三條、第五千五十四條、第五千五十五條、第五千五十六條、第五千五十七條、第五千五十八條、第五千五十九條、第五千六十條、第五千六十一條、第五千六十二條、第五千六十三條、第五千六十四條、第五千六十五條、第五千六十六條、第五千六十七條、第五千六十八條、第五千六十九條、第五千七十條、第五千七十一條、第五千七十二條、第五千七十三條、第五千七十四條、第五千七十五條、第五千七十六條、第五千七十七條、第五千七十八條、第五千七十九條、第五千八十條、第五千八十一條、第五千八十二條、第五千八十三條、第五千八十四條、第五千八十五條、第五千八十六條、第五千八十七條、第五千八十八條、第五千八十九條、第五千九十條、第五千九十一條、第五千九十二條、第五千九十三條、第五千九十四條、第五千九十五條、第五千九十六條、第五千九十七條、第五千九十八條、第五千九十九條、第六千條、第六千一條、第六千二條、第六千三條、第六千四條、第六千五條、第六千六條、第六千七條、第六千八條、第六千九條、第六千十條、第六千十一條、第六千十二條、第六千十三條、第六千十四條、第六千十五條、第六千十六條、第六千十七條、第六千十八條、第六千十九條、第六千二十條、第六千二十一條、第六千二十二條、第六千二十三條、第六千二十四條、第六千二十五條、第六千二十六條、第六千二十七條、第六千二十八條、第六千二十九條、第六千三十條、第六千三十一條、第六千三十二條、第六千三十三條、第六千三十四條、第六千三十五條、第六千三十六條、第六千三十七條、第六千三十八條、第六千三十九條、第六千四十條、第六千四十一條、第六千四十二條、第六千四十三條、第六千四十四條、第六千四十五條、第六千四十六條、第六千四十七條、第六千四十八條、第六千四十九條、第六千五十條、第六千五十一條、第六千五十二條、第六千五十三條、第六千五十四條、第六千五十五條、第六千五十六條、第六千五十七條、第六千五十八條、第六千五十九條、第六千六十條、第六千六十一條、第六千六十二條、第六千六十三條、第六千六十四條、第六千六十五條、第六千六十六條、第六千六十七條、第六千六十八條、第六千六十九條、第六千七十條、第六千七十一條、第六千七十二條、第六千七十三條、第六千七十四條、第六千七十五條、第六千七十六條、第六千七十七條、第六千七十八條、第六千七十九條、第六千八十條、第六千八十一條、第六千八十二條、第六千八十三條、第六千八十四條、第六千八十五條、第六千八十六條、第六千八十七條、第六千八十八條、第六千八十九條、第六千九十條、第六千九十一條、第六千九十二條、第六千九十三條、第六千九十四條、第六千九十五條、第六千九十六條、第六千九十七條、第六千九十八條、第六千九十九條、第七千條、第七千一條、第七千二條、第七千三條、第七千四條、第七千五條、第七千六條、第七千七條、第七千八條、第七千九條、第七千十條、第七千十一條、第七千十二條、第七千十三條、第七千十四條、第七千十五條、第七千十六條、第七千十七條、第七千十八條、第七千十九條、第七千二十條、第七千二十一條、第七千二十二條、第七千二十三條、第七千二十四條、第七千二十五條、第七千二十六條、第七千二十七條、第七千二十八條、第七千二十九條、第七千三十條、第七千三十一條、第七千三十二條、第七千三十三條、第七千三十四條、第七千三十五條、第七千三十六條、第七千三十七條、第七千三十八條、第七千三十九條、第七千四十條、第七千四十一條、第七千四十二條、第七千四十三條、第七千四十四條、第七千四十五條、第七千四十六條、第七千四十七條、第七千四十八條、第七千四十九條、第七千五十條、第七千五十一條、第七千五十二條、第七千五十三條、第七千五十四條、第七千五十五條、第七千五十六條、第七千五十七條、第七千五十八條、第七千五十九條、第七千六十條、第七千六十一條、第七千六十二條、第七千六十三條、第七千六十四條、第七千六十五條、第七千六十六條、第七千六十七條、第七千六十八條、第七千六十九條、第七千七十條、第七千七十一條、第七千七十二條、第七千七十三條、第七千七十四條、第七千七十五條、第七千七十六條、第七千七十七條、第七千七十八條、第七千七十九條、第七千八十條、第七千八十一條、第七千八十二條、第七千八十三條、第七千八十四條、第七千八十五條、第七千八十六條、第七千八十七條、第七千八十八條、第七千八十九條、第七千九十條、第七千九十一條、第七千九十二條、第七千九十三條、第七千九十四條、第七千九十五條、第七千九十六條、第七千九十七條、第七千九十八條、第七千九十九條、第八千條、第八千一條、第八千二條、第八千三條、第八千四條、第八千五條、第八千六條、第八千七條、第八千八條、第八千九條、第八千十條、第八千十一條、第八千十二條、第八千十三條、第八千十四條、第八千十五條、第八千十六條、第八千十七條、第八千十八條、第八千十九條、第八千二十條、第八千二十一條、第八千二十二條、第八千二十三條、第八千二十四條、第八千二十五條、第八千二十六條、第八千二十七條、第八千二十八條、第八千二十九條、第八千三十條、第八千三十一條、第八千三十二條、第八千三十三條、第八千三十四條、第八千三十五條、第八千三十六條、第八千三十七條、第八千三十八條、第八千三十九條、第八千四十條、第八千四十一條、第八千四十二條、第八千四十三條、第八千四十四條、第八千四十五條、第八千四十六條、第八千四十七條、第八千四十八條、第八千四十九條、第八千五十條、第八千五十一條、第八千五十二條、第八千五十三條、第八千五十四條、第八千五十五條、第八千五十六條、第八千五十七條、第八千五十八條、第八千五十九條、第八千六十條、第八千六十一條、第八千六十二條、第八千六十三條、第八千六十四條、第八千六十五條、第八千六十六條、第八千六十七條、第八千六十八條、第八千六十九條、第八千七十條、第八千七十一條、第八千七十二條、第八千七十三條、第八千七十四條、第八千七十五條、第八千七十六條、第八千七十七條、第八千七十八條、第八千七十九條、第八千八十條、第八千八十一條、第八千八十二條、第八千八十三條、第八千八十四條、第八千八十五條、第八千八十六條、第八千八十七條、第八千八十八條、第八千八十九條、第八千九十條、第八千九十一條、第八千九十二條、第八千九十三條、第八千九十四條、第八千九十五條、第八千九十六條、第八千九十七條、第八千九十八條、第八千九十九條、第九千條、第九千一條、第九千二條、第九千三條、第九千四條、第九千五條、第九千六條、第九千七條、第九千八條、第九千九條、第九千十條、第九千十一條、第九千十二條、第九千十三條、第九千十四條、第九千十五條、第九千十六條、第九千十七條、第九千十八條、第九千十九條、第九千二十條、第九千二十一條、第九千二十二條、第九千二十三條、第九千二十四條、第九千二十五條、第九千二十六條、第九千二十七條、第九千二十八條、第九千二十九條、第九千三十條、第九千三十一條、第九千三十二條、第九千三十三條、第九千三十四條、第九千三十五條、第九千三十六條、第九千三十七條、第九千三十八條、第九千三十九條、第九千四十條、第九千四十一條、第九千四十二條、第九千四十三條、第九千四十四條、第九千四十五條、第九千四十六條、第九千四十七條、第九千四十八條、第九千四十九條、第九千五十條、第九千五十一條、第九千五十二條、第九千五十三條、第九千五十四條、第九千五十五條、第九千五十六條、第九千五十七條、第九千五十八條、第九千五十九條、第九千六十條、第九千六十一條、第九千六十二條、第九千六十三條、第九千六十四條、第九千六十五條、第九千六十六條、第九千六十七條、第九千六十八條、第九千六十九條、第九千七十條、第九千七十一條、第九千七十二條、第九千七十三條、第九千七十四條、第九千七十五條、第九千七十六條、第九千七十七條、第九千七十八條、第九千七十九條、第九千八十條、第九千八十一條、第九千八十二條、第九千八十三條、第九千八十四條、第九千八十五條、第九千八十六條、第九千八十七條、第九千八十八條、第九千八十九條、第九千九十條、第九千九十一條、第九千九十二條、第九千九十三條、第九千九十四條、第九千九十五條、第九千九十六條、第九千九十七條、第九千九十八條、第九千九十九條、第一萬條、第一萬一條、第一萬二條、第一萬三條、第一萬四條、第一萬五條、第一萬六條、第一萬七條、第一萬八條、第一萬九條、第一萬十條、第一萬十一條、第一萬十二條、第一萬十三條、第一萬十四條、第一萬十五條、第一萬十六條、第一萬十七條、第一萬十八條、第一萬十九條、第一萬二十條、第一萬二十一條、第一萬二十二條、第一萬二十三條、第一萬二十四條、第一萬二十五條、第一萬二十六條、第一萬二十七條、第一萬二十八條、第一萬二十九條、第一萬三十條、第一萬三十一條、第一萬三十二條、第一萬三十三條、第一萬三十四條、第一萬三十五條、第一萬三十六條、第一萬三十七條、第一萬三十八條、第一萬三十九條、第一萬四十條、第一萬四十一條、第一萬四十二條、第一萬四十三條、第一萬四十四條、第一萬四十五條、第一萬四十六條、第一萬四十七條、第一萬四十八條、第一萬四十九條、第一萬五十條、第一萬五十一條、第一萬五十二條、第一萬五十三條、第一萬五十四條、第一萬五十五條、第一萬五十六條、第一萬五十七條、第一萬五十八條、第一萬五十九條、第一萬六十條、第一萬六十一條、第一萬六十二條、第一萬六十三條、第一萬六十四條、第一萬六十五條、第一萬六十六條、第一萬六十七條、第一萬六十八條、第一萬六十九條、第一萬七十條、第一萬七十一條、第一萬七十二條、第一萬七十三條、第一萬七十四條、第一萬七十五條、第一萬七十六條、第一萬七十七條、第一萬七十八條、第一萬七十九條、第一萬八十條、第一萬八十一條、第一萬八十二條、第一萬八十三條、第一萬八十四條、第一萬八十五條、第一萬八十六條、第一萬八十七條、第一萬八十八條、第一萬八十九條、第一萬九十條、第一萬九十一條、第一萬九十二條、第一萬九十三條、第一萬九十四條、第一萬九十五條、第一萬九十六條、第一萬九十七條、第一萬九十八條、第一萬九十九條、第二萬條、第二萬一條、第二萬二條、第二萬三條、第二萬四條、第二萬五條、第二萬六條、第二萬七條、第二萬八條、第二萬九條、第二萬十條、第二萬十一條、第二萬十二條、第二萬十三條、第二萬十四條、第二萬十五條、第二萬十六條、第二萬十七條、第二萬十八條、第二萬十九條、第二萬二十條、第二萬二十一條、第二萬二十二條、第二萬二十三條、第二萬二十四條、第二萬二十五條、第二萬二十六條、第二萬二十七條、第二萬二十八條、第二萬二十九條、第二萬三十條、第二萬三十一條、第二萬三十二條、第二萬三十三條、第二萬三十四條、第二萬三十五條、第二萬三十六條、第二萬三十七條、第二萬三十八條、第二萬三十九條、第二萬四十條、第二萬四十一條、第二萬四十二條、第二萬四十三條、第二萬四十四條、第二萬四十五條、第二萬四十六條、第二萬四十七條、第二萬四十八條、第二萬四十九條、第二萬五十條、第二萬五十一條、第二萬五十二條、第二萬五十三條、第二萬五十四條、第二萬五十五條、第二萬五十六條、第二萬五十七條、第二萬五十八條、第二萬五十九條、第二萬六十條、第二萬六十一條、第二萬六十二條、第二萬六十三條、第二萬六十四條、第二萬六十五條、第二萬六十六條、第二萬六十七條、第二萬六十八條、第二萬六十九條、第二萬七十條、第二萬七十一條、第二萬七十二條、第二萬七十三條、第二萬七十四條、第二萬七十五條、第二萬七十六條、第二萬七十七條、第二萬七十八條、第二萬七十九條、第二萬八十條、第二萬八十一條、第二萬八十二條、第二萬八十三條、第二萬八十四條、第二萬八十五條、第二萬八十六條、第二萬八十七條、第二萬八十八條、第二萬八十九條、第二萬九十條、第二萬九十一條、第二萬九十二條、第二萬九十三條、第二萬九十四條、第二萬九十五條、第二萬九十六條、第二萬九十七條、第二萬九十八條、第二萬九十九條、第三萬條、第三萬一條、第三萬二條、第三萬三條、第三萬四條、第三萬五條、第三萬六條、第三萬七條、第三萬八條、第三萬九條、第三萬十條、第三萬十一條、第三萬十二條、第三萬十三條、第三萬十四條、第三萬十五條、第三萬十六條、第三萬十七條、第三萬十八條、第三萬十九條、第三萬二十條、第三萬二十一條、第三萬二十二條、第三萬二十三條、第三萬二十四條、第三萬二十五條、第三萬二十六條、第三萬二十七條、第三萬二十八條、第三萬二十九條、第三萬三十條、第三萬三十一條、第三萬三十二條、第三萬三十三條、第三萬三十四條、第三萬三十五條、第三萬三十六條、第三萬三十七條、第三萬三十八條、第三萬三十九條、第三萬四十條、第三萬四十一條、第三萬四十二條、第三萬四十三條、第三萬四十四條、第三萬四十五條、第三萬四十六條、第三萬四十七條、第三萬四十八條、第三萬四十九條、第三萬五十條、第三萬五十一條、第三萬五十二條、第三萬五十三條、第三萬五十四條、第三萬五十五條、第三萬五十六條、第三萬五十七條、第三萬五十八條、第三萬五十九條、第三萬六十條、第三萬六十一條、第三萬六十二條、第三萬六十三條、第三萬六十四條、第三萬六十五條、第三萬六十六條、第三萬六十七條、第三萬六十八條、第三萬六十九條、第三萬七十條、第三萬七十一條、第三萬七十二條、第三萬七十三條、第三萬七十四條、第三萬七十五條、第三萬七十六條、第三萬七十七條、第三萬七十八條、第三萬七十九條、第三萬八十條、第三萬八十一條、第三萬八十二條、第三萬八十三條、第三萬八十四條、第三萬八十五條、第三萬八十六條、第三萬八十七條、第三萬八十八條、第三萬八十九條、第三萬九十條、第三萬九十一條、第三萬九十二條、第三萬九十三條、第三萬九十四條、第三萬九十五條、第三萬九十六條、第三萬九十七條、第三萬九十八條、第三萬九十九條、第四萬條、第四萬一條、第四萬二條、第四萬三條、第四萬四條、第四萬五條、第四萬六條、第四萬七條、第四萬八條、第四萬九條、第四萬十條、第四萬十一條、第四萬十二條、第四萬十三條、第四萬十四條、第四萬十五條、第四萬十六條、第四萬十七條、第四萬十八條、第四萬十九條、第四萬二十條、第四萬二十一條、第四萬二十二條、第四萬二十三條、第四萬二十四條、第四萬二十五條、第四萬二十六條、第四萬二十七條、第四萬二十八條、第四萬二十九條、第四萬三十條、第四萬三十一條、第四萬三十二條、第四萬三十三條、第四萬三十四條、第四萬三十五條、第四萬三十六條、第四萬三十七條、第四萬三十八條、第四萬三十九條、第四萬四十條、第四萬四十一條、第四萬四十二條、第四萬四十三條、第四萬四十四條、第四萬四十五條、第四萬四十六條、第四萬四十七條、第四萬四十八條、第四萬四十九條、第四萬五十條、第四萬五十一條、第四萬五十二條、第四萬五十三條、第四萬五十四條、第四萬五十五條、第四萬五十六條、第四萬五十七條、第四萬五十八條、第四萬五十九條、第四萬六十條、第四萬六十一條、第四萬六十二條、第四萬六十三條、第四萬六十四條、第四萬六十五條、第四萬六十六條、第四萬六十七條、第四萬六十八條、第四萬六十九條、第四萬七十條、第四萬七十一條、第四萬七十二條、第四萬七十三條、第四萬七十四條、第四萬七十五條、第四萬七十六條、第四萬七十七條、第四萬七十八條、第四萬七十九條、第四萬八十條、第四萬八十一條、第四萬八十二條、第四萬八十三條、第四萬八十四條、第四萬八十五條、第四萬八十六條、第四萬八十七條、第四萬八十八條、第四萬八十九條、第四萬九十條、第四萬九十一條、第四萬九十二條、第四萬九十三條、第四萬九十四條、第四萬九十五條、第四萬九十六條、第四萬九十七條、第四萬九十八條、第四萬九十九條、第五萬條、第五萬一條、第五萬二條、第五萬三條、第五萬四條、第五萬五條、第五萬六條、第五萬七條、第五萬八條、第五萬九條、第五萬十條、第五萬十一條、第五萬十二條、第五萬十三條、第五萬十四條、第五萬十五條、第五萬十六條、第五萬十七條、第五萬十八條、第五萬十九條、第五萬二十條、第五萬二十一條、第五萬二十二條、第五萬二十三條、第五萬二十四條、第五萬二十五條、第五萬二十六條、第五萬二十七條、第五萬二十八條、第五萬二十九條、第五萬三十條、第五萬三十一條、第五萬三十二條、第五萬三十三條、第五萬三十四條、第五萬三十五條、第五萬三十六條、第五萬三十七條、第五萬三十八條、第五萬三十九條、第五萬四十條、第五萬四十一條、第五萬四十二條、第五萬四十三條、第五萬四十四條、第五萬四十五條、第五萬四十六條、第五萬四十七條、第五萬四十八條、第五萬四十九條、第五萬五十條、第五萬五十一條、第五萬五十二條、第五萬五十三條、第五萬五十四條、第五萬五十五條、第五萬五十六條、第五萬五十七條、第五萬五十八條、第五萬五十九條、第五萬六十條、第五萬六十一條、第五萬六十二條、第五萬六十三條、第五萬六十四條、第五萬六十五條、第五萬六十六條、第五萬六十七條、第五萬六十八條、第五萬六十九條、第五萬七十條、第五萬七十一條、第五萬七十二條、第五萬七十三條、第五萬七十四條、第五萬七十五條、第五萬七十六條、第五萬七十七條、第五萬七十八條、第五萬七十九條、第五萬八十條、第五萬八十一條、第五萬八十二條、第五萬八十三條、第五萬八十四條、第五萬八十五條、第五萬八十六條、第五萬八十七條、第五萬八十八條、第五萬八十九條、第五萬九十條、第五萬九十一條、第五萬九十二條、第五萬九十三條、第五萬九十四條、第五萬九十五條、第五萬九十六條、第五萬九十七條、第五萬九十八條、第五萬九十九條、第六萬條、第六萬一條、第六萬二條、第六萬三條、第六萬四條、第六萬五條、第六萬六條、第六萬七條、第六萬八條、第六萬九條、第六萬十條、第六萬十一條、第六萬十二條、第六萬十三條、第六萬十四條、第六萬十五條、第六萬十六條、第六萬十七條、第六萬十八條、第六萬十九條、第六萬二十條、第六萬二十一條、第六萬二十二條、第六萬二十三條、第六萬二十四條、第六萬二十五條、第六萬二十六條、第六萬二十七條、第六萬二十八條、第六萬二十九條、第六萬三十條、第六萬三十一條、第六萬三十二條、第六萬三十三條、第六萬三十四條、第六萬三十五條、第六萬三十六條、第六萬三十七條、第六萬三十八條、第六萬三十九條、第六萬四十條、第六萬四十一條、第六萬四十二條、第六萬四十三條、第六萬四十四條、第六萬四十五條、第六萬四十六條、第六萬四十七條、第六萬四十八條、第六萬四十九條、第六萬五十條、第六萬五十一條、第六萬五十二條、第六萬五十三條、第六萬五十四條、第六萬五十五條、第六萬五十六條、第六萬五十七條、第六萬五十八條、第六萬五十九條、第六萬六十條、第六萬六十一條、第六萬六十二條、第六萬六十三條、第六萬六十四條、第六萬六十五條、第六

改ム

第二十六條ノ三中「商法第二百三條第二項第一號乃至第三號」ヲ「商法第三百一條第二項第一號乃至第五號、第七號及第八號」ニ改ム

第三十一條　破産法中左ノ通改正ス

第二百七條中「商法第九十二條」ヲ「商法第百二十六條」ニ改ム

第三十二條　北海道拓殖銀行法中左ノ通改正ス

第十二條第三項中「商法第百九十九條及第二百條ノ二」ヲ「商法第二百九十六條及第二百九十八條」ニ改ム

第十二條ノ二第三項中「商號及商法第百七十三條第二號、第四號乃至第六號ニ掲ケタル事項」ヲ「商法第三百一條第二項第一號及第三號乃至第五號ニ掲ケタル事項竝ニ債券ノ番號」ニ、同條第四項中「商法第二百四條ノ三第一項」ヲ「商法第三百五條第一項」ニ、「商法第百七十三條第四號乃至第六號」ヲ「商法第三百一條第二項第三號乃至第五號」ニ改ム

第十二條ノ三中「商法第二百三條第二項第一號乃至第三號」ヲ「商法第三百一條第二項第一號乃至第五號、第七號及第八號」ニ改ム

第三十三條　牧野法中左ノ通改正ス

第二十條第二項ヲ削リ同條ニ左ノ二項ヲ加フ

組合員ハ總會ニ於テ決議ニ對シ異議ヲ述ベタルトキ又ハ正當ノ理由ナクシテ總會ニ出席スルコトヲ拒マレタルトキニ限リ又組合員ガ總會ニ出席セザル場合ニ於テハ自己ニ對スル總會ノ招集ノ手續ガ法令又ハ定款ノ規定ニ違反スルコトヲ理由トスルトキニ限リ前項ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

商法第八十八條、第百五條第三項、第百九條及第二百五十條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十四條　無盡業法中左ノ通改正ス

第二十一條ノ二中「商法第七十八條第二項」ヲ「商法第百條第一項」ニ改ム

第二十一條ノ三中「商法第七十八條第二項但書」ヲ「商法第百條第一項但書」ニ、「商法第二百二十條ノ二但書」ヲ「商法第三百七十七條第一項但書」ニ改ム

第三十五條　硫酸アンモニア增産及配給統制法中左ノ通改正ス

第十九條第二項中「商法第二百九條」ヲ「商法第三百四十三條」ニ改ム

第三十六條　臨時資金調整法中左ノ通改正ス

第九條第一項中「商法第二百條ノ規定ニ依ル制限」ヲ「商法ニ規定スル制限」ニ改ム

第十五條中「第五條」ヲ削リ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

商法第二百九十六條乃至第二百九十八條ノ規定ハ貯蓄債券ニハ之ヲ適用セズ

第三十七條　大正十年法律第八十號中左ノ通改正ス

第三條中「商法第七十八條第二項」ヲ「商法第百條第一項」ニ改ム

第四條中「商法第七十八條第二項但書」ヲ「商法第百條第一項但書」ニ、「商法第二百二十條ノ二但書」ヲ「商法第三百七十七條第一項但書」ニ改ム

第三十八條　大正十四年法律第五十二號中左ノ通改正ス

第一項中「株式會社」ノ下ニ「及有限會社」ヲ加フ

第三十九條　昭和七年法律第十六號中左ノ通改正ス

第一項中「商法第二十六條第二項ノ規定」ヲ「商法第三十四條第一項及第二百八十五條ノ規定竝ニ其ノ準用規定」ニ改ム

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

商法中改正法律施行法ニ依リ同法第一條ニ於テ謂フ舊法ヲ適用スベキ場合ニ付テハ從前ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有ス

（政府委員倉元要一君演壇ニ登ル）

○**政府委員（倉元要一君）**　只今議題トナリマシタ商法ヲ引用スル條文ノ整理ニ關スル法律案ニ付キマシテ、其ノ提案ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、去ル第七十三回帝國議會ニ於テ御協贊ヲ得マシタ商法中改正法律及有限會社法ニ付キマシテハ、目下鋭意其ノ施行ノ準備ヲ進メテ居ル次第デアリマスガ、他ノ法律中現行商法ノ規定ヲ引用シテ居リマス條文等ニ付キマシテ、ソレ〴〵之ヲ改正法ノ規定ニ置換ヘル等、條文ノ整理ヲスル必要ガアルノデアリマス、本案ハ專ラ右ノ趣旨ヲ以テ第二條以下ニ掲ゲテアリマス各法律ニ付必要已ムヲ得ザル限度ノ整理ヲ致サウトスルモノデアリマス、尙詳細ノ點ニ付キマシテハ他ノ機會ニ御説明ヲ申上ゲル積リデアリマスガ、何卒御審議ノ上、本案ニ對シ速カニ御協贊ヲ與ヘラレムコトヲ切望致ス次第デゴザイマス

○**子爵戸澤正己君**　只今議題トナリマシタ商法ヲ引用スル條文ノ整理ニ關スル法律案ハ、關聯スル所ガアリマスルガ故ニ、人事調停法案外二件ノ特別委員ニ併託セラレムコトノ動議ヲ提出致シマス

○**子爵秋田重季君**　贊成

○**議長（伯爵松平賴壽君）**　戸澤子爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○**議長（伯爵松平賴壽君）**　御異議ナイト認メマス

○**議長（伯爵松平賴壽君）**　此ノ際日程ノ順序ヲ變更致シマシテ日程第五ヨリ第九ニ移リタイト存ジマス、御異議ハゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○**議長（伯爵松平賴壽君）**　御異議ナイト認メマス

○**議長（伯爵松平賴壽君）**　日程第五、昭和十四年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案、日程第六、作業會計法中改正法律案、日程第七、兌換銀行券整理法中改正法律案、日程第八、農業再保險特別會計法案、日程第九、海軍工廠資金會計法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長報告、是等ノ五案ヲ一括シテ議題ト爲スコトニ御異議ハゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○**議長（伯爵松平賴壽君）**　御異議ナイト認メマス、委員長高橋子爵

（左ノ報告書ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載錄ス以下之ニ倣フ）

昭和十四年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十四年三月十日

委員長　子爵高橋是賢

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

作業會計法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十四年三月十日

委員長　子爵高橋是賢

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

兌換銀行券整理法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十四年三月十日

委員長　子爵高橋是賢

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

農業再保險特別會計法案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十四年三月十日

委員長　子爵高橋是賢

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

海軍工廠資金會計法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十四年三月十日

委員長　子爵高橋是賢

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

（子爵高橋是賢君演壇ニ登ル）

○**子爵高橋是賢君**　只今議題トナリマシタル昭和十四年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案外四件ノ法律案ニ付キマシテ、特別委員會ノ審議ノ模樣及其ノ結果ヲ御報告申上ゲタイト存ジマス、本特別委員會ハ去ル二月二十一日正副委員長ノ互選ヲ行ヒ、引續キ會議ヲ開キ、政府當局ヨリ各法案ニ付其ノ提出理由ノ説明ヲ聽取致シ、質疑ニ入リマシテ三月十日迄連日會議ヲ重ネ、大藏大臣ニ二回、農林大臣ニ一回ノ御出席ヲ煩ハシ、其ノ間或ハ速記ヲ止メ、或ハ祕密會ヲ要求致シテ、各法案ニ付キマシテ愼重審議ヲ遂ゲタノデゴザイマス、先ヅ昭和十四年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案ニ付テ申述ベマス、一般會計ニ於ケル昭和十四年度ノ歲入ハ前年度剩餘金ヲ充當シテ、尙八億九百十餘萬圓ノ不足ヲ生ズルノデ、之ヲ補塡スル爲ニ現行ノ公債法ニ依ル震災善後公債及道路公債ノ分ヲ差引キタル七億九千五百八十萬圓ノ公債發行ノ權能ヲ政府ニ與フルノデアリマス、此ノ法案ソレ自體ハ誠ニ簡單デアリマスガ、我ガ財政經濟ノ上ニ甚ダ重要ナル役割ヲ致シマスル問題デアリマスルノデ、之ガ審議ニ際シマシテハ、委員諸君ヨリ種々ナル方面ノ參考資料ヲ御要求ガアリ、ソレニ依ッテ色々ノ觀點カラ、有ラユル角度カラ考察シテノ頗ル多岐ニ亙ル質疑應答ガ行ハレタノデアリマス、是ハ要スルニ近年國債ガ激增シ、又將來ニ於テモ累增ノ傾向アル所ノ此ノ公債ノ消化ハドウデアラウカト云フコトヲ心配サル、爲ニ、頗ル眞摯且熱心ナル質問ガ爲サレタノデアリマス、是ハ昭和十四年度總豫算ニ竝行シテ議サルベキモノト思ッテ居リマスガ、總豫算ハ既ニ貴衆兩院ニ於テ論議ヲ盡サレ、既ニ可決ト相成ッタ次第デアリマスルノデ、極ク簡單ニ本委員會ニ於ケル質問應答ノ模樣ヲ申上ゲテ、詳細ハ速記錄ニ依ッテ御承知ヲ願フコトト致シマス、質疑ノ大體ヲ申上ゲマスレバ、先ヅ金利問題、高利債借替問題、國債ノ民衆化問題、公債發行ノ方法及物價問題等デゴザイマシタ、政府ハ低金利ノ徹底ヲ意圖セラレルガ、其ノ目標ハ何處ニ置カレルカ、又中央ト地方トノ金利ノ平準、及ビ不均衡ヲ是正スル御考ハナイカト云フ御質問ニ對シマシテ、政府ハ金利ノ目標ハ先ヅ三分五厘ヲ基準トシテ居ル、又中央ニ於ケル金利ト地方ニ於ケルモノトハ必ズシモ一樣ニハ考ヘテ居ラヌガ、成ルベク金利ノ水準ノ幅ヲ狹バメテ、餘リ多クノ開キノナイヤウニ、各地金融業者及銀行業者等ノ間ニ懇談會ヲ設ケテ、適當ニ協議セシムルヤウ指導ヲシテ居ル次第デアルト云フ御答辯デアリマシタ、次ニ高利公債問題、一委員ヨリ現存スル高利公債ヲ低利ニ借替ヘル時ハ、其ノ利拂ニ於テ幾分ナリトモ一般會計ノ不足ヲ補フコトニナルト思フガ、政府ハ其ノ考アリヤト云フ問ニ對シマシテ、政府ハ高利公債ノ整理ハ成ルベク早イ機會ニ於テスルコトハ勿論望ム所デアルガ、何分ニモ一方ニ於テ巨額ノ公債ヲ次々ニ發行シツヽアル今日ノ情勢ニ於キマシテハ、其ノ時期ニ非ズト考ヘテ居ルト云フ御答デアリマシタ、第三ニハ國債ノ民衆化問題デアリマス、委員諸氏ヨリ、政府ノ公債ヲ一般國民ニ廣ク持タシムルヤウニシテハドウデアラウカ、サウ云フ御考ハナイカト云フコトヲ、「アメリカ」或ハ佛國ノ例ヲ擧ゲテ御尋ガアッタノデアリマスガ、之ニ對シテ政府ハ公債ノ消化ニ付テハ、鋭意努力ヲ爲シ、成ルベク廣ク個人ニモ持タセルヤウニ各方面ニ向ッテ勸誘モシ、又郵便局窓口ヨリ公債ノ賣出ヲ行ッテ居ルノデアル、第四ニハ公債發行ノ方法ニ付テノ御質問デアリマシタ、委員諸君ヨリ熱心ナル質問ガアリマシテ、卽チ從來政府ガヤッテ居ラル、國債發行ノ方法ト云フモノハ、何トナク手緩イヤウニ思ハレル、政府ハモット積極的ニ公債募集ヲ大衆化スル爲ニ、各方面ニ亙リ專門家卽チ銀行業者或ハ證券業者ト云フヤウナモノヲ動員シテ、廣ク公債ノ頒布ヲ圖ル考ハナイカト云フ御質問デアリマシタ、之ニ對シテ政府ハ國債ノ消化ニ關シテハ極力意ヲ注イデ出來ルダケ個人々々ニ直接所有セシムルヤウ努力致シ、郵便局窓口ノ賣出等モヤッテ居ル、又一面ニハ貯蓄ノ奬勵ヲ爲シテ居ルガ、何分ニモ我ガ國民ノ現狀ニ於テハ、「フランス」ヤ「アメリカ」ノヤウニ、進ンデ自ラ公債ニ應募スルト云フ習慣ガ養ハレテ居ラヌカラ、直接大衆ニ持タセルコトハナカ〳〵容易ナ業デハナイ、併シナガラ一面ニ於テ郵便貯金其ノ他貯蓄銀行等ノ夥シキ預金ノ增加ヲ示シテ居ルガ、其ノ大部分ハ預金部ヲ通ジテ公債ノ消化ニ向ケラレテ居ルノデアルカラ、國民個々ノ公債所有高ハ少額デアリ、又其ノ人員モ少數デアルガ、結局預金部ヲ通ジテ民衆ガ國債ヲ所有シテ居ル形トナッテ居ルノデアル、併シナガラ公債頒布ノ理想卽チ大衆ニ直接所有セシムルヤウニスルト云フ爲ニハ、其ノ方法手段等ニ付テ色々考ヘラルベキコトガマダ殘ッテ居ルト思フカラ、尙十分研究ヲシテ、出來得ルモノハ實行ニ移シタイト考ヘテ居ルトノ答辯デアリマシタ、尙之ニ關聯致シ

○議長（伯爵松平頼壽君）　日程第十一、森林法中改正法律案、日程第十二、林業種苗法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長報告、是等ノ兩案ヲ一括シテ議題トスルコトニ御異議ハゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平頼壽君）　御異議ナイト認メマス、委員長川村伯爵

森林法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十四年三月十一日

委員長　伯爵川村鐵太郎

貴族院議長伯爵松平頼壽殿

林業種苗法案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十四年三月十一日

委員長　伯爵川村鐵太郎

貴族院議長伯爵松平頼壽殿

（伯爵川村鐵太郎君演壇ニ登ル）

○伯爵川村鐵太郎君　只今日程ニ上リマシタル森林法中改正法律案及林業種苗法案ノ二案ヲ東ネテ特別委員會ノ經過及結果ヲ御報告申上ゲマス、先ヅ最初ニ、簡單ニ此ノ兩案ノ內容ヲ申上ゲテ見マスルト、森林法ハ制定以來殆ド三十年モ經チマシテ、中ニハ時勢ノ進運ニ副ハナイモノガアルニ至リマシタノミナラズ、今次事變勃發ニ伴ヒマシテ木材ノ需要急激ニ增加シ、爲ニ內地民有林ハ到ル處濫伐ノ傾向著シク、其ノ結果動モスレバ木材供給ノ確保ヲ害シ、又ハ治山ノ基礎ヲ危クスルニ至リマシタル爲ニ、森林法ニ改正ヲ加ヘ過伐、早伐ニ對スル抑制ヲ圖リ、木材資源ノ強化、培養ニ資スルト共ニ、森林施業ノ合理化ニ依リマシテ、戰時經濟ノ態勢ニ順應セムコトヲ期シテ本案ヲ提出セラレタモノデアリマス、尙林業種苗法案ハ森林造成ノ基本タルベキ極メテ重要ナ法案デアリマシテ、林業用種苗ノ生產配付ヲ適正ナラシムルト同時ニ、母樹ノ指定、採取方法ノ改善、種苗ノ配付區域ノ設定、其ノ他種苗業者ノ取締等ニ關スル制度ヲ設ケテ、林業經營ノ安定ヲ圖ル爲ニ制定セラレタ法律デアリマス、委員會ハ去ヌル三月二日正副委員長ノ選擧ヲ終リマシテ、各委員カラ幾多ノ參考資料ヲ政府ニ要求セラレマシテ、引續キ六日、八日、十日ト三日ヲ質疑ニ費シマシテ、三月十日ニ質疑ガ全部終了致シマシタノデ、十一日ハ討論ニ入リマシテ、色々本案贊成ノ意見ノ開陳モアリマシテ、採決ニ入リマシタ處、何等異論モナク、兩案共異議ナク原案通リ可決決定致シマシタ次第デアリマス、是ヨリ質疑內容ヲ一通リ、其ノ主ナルモノノ要點ヲ擧ゲテ申上ゲテ見タイト思ヒマス、森林行政ノ統一スルノ要ハナキカト云フ質問ニ對シマシテ、農林大臣ヨリ內地、北海道、樺太等ノ森林ノ監督官廳ハソレ〳〵異ッテ居ルガ、其ノ間緊密ナル連絡ヲ執リ、一定ノ方針ヲ以テ行政上遺憾ナキヲ期シツヽアリトノ答辯ガアリマシタ、次ニ木材殊ニ「パルプ」需給ノ關係如何ト云フ質問ニ對シマシテ、「パルプ」資材ニ關シテハ昭和十七年ニ於テ滿洲國ヨリ一部輸入スルコトニ依リ、內地ニ於ケル製紙竝ニ人絹用「パルプ」ヲ大體自給自足スルコトガ出來ル、其ノ計畫ヲ樹立シ、目下著々之ガ資材ノ增產ヲ實行中デアルト云フコトデアリマシタ、ソレカラ其ノ他ノ木材ノ關係トシマシテハ、大體其ノ需要ハ增加スルモノト認メラレルガ、間伐ノ勵行及林道ノ普及ニ伴ヒマシテ、未利用林ノ開發ニ依ル生產增加ヲ以テ、之ヲ充足シ得ルト云フ答辯ガアリマシタ、木材需給ノ情勢ニ鑑ミ、大造林國策ヲ樹立實行スルノ要ナキヤト云フ質問ニ對シマシテ、造林ノ振興ハ法制、經濟、精神ノ方面ヨリ行ハナケレバナラヌ、卽チ一ハ今回ノ森林法ノ改正ニ依リ、二ハ造林助成ノ擴充ニ依リ、第三ハ造林思想ノ徹底的普及ニ依リ、大イニ造林ノ振興ヲ圖リタイト思フ、斯ウ云フ御答辯デアリマシタ、森林組合ノ人的配置ノ完成ニ關スル質問ニ對シマシテ、一年三百組合ヲ結成セシメ、十箇年計畫ヲ以テ三千組合ヲ成立セシムル豫定デアル、其ノ間ニ甲種農林學校程度以上ノ卒業生、其ノ他林業地ノ森林管理者中ヨリ適任者ニシテ相當實務ニ經驗アル者ヲ選ビ、每年相當ノ員數ヲ森林組合ニ配置スル豫定デアルト云フ御答辯デアリマシタ、森林火災保險ノ普及ト森林金融關係ノ相對性ニ關スル質問ニ對シマシテ、森林組合ノ強化ヲ圖リ、施業、管理ノ不安ヲ一掃スルト共ニ、火災保險ノ危險率ガ十分ニ確定シ次第、森林國營火災保險ヲ考ヘテ居ル次第デアル、殊ニ二十年生以上ノ森林ニ對シテハ其ノ意嚮デアルト云フ御話デアリマシタ、森林ニ對スル相續稅及地方稅輕減又ハ撤廢問題ニ付キマシテハ、ソレ〳〵考究ヲ重ネ、又後者ノ如キハ改正ノ餘地ガアルト云フ御答辯ガアリマシタ、林道網ノ擴充要望ニ付キマシテハ、次年度以降ニ於テ一層擴充ニ付十分ナル努力ヲスルト云フ御答辯デアリマシタ、尙此ノ外ニ森林特別會計設置ノ問題、森林金融機關ノ設置、森林擔保問題、林業者ニ對スル經濟的苦痛ノ輕減、施業案ノ簡易化ト其ノ彈力性、輸出林產工業品ニ對スル原料供給對策ニ付キマシテハ、各委員カラ政府委員ニ質ス等ソレ〳〵質疑ガアリマシタ、次ニ林業種苗法案ノ質疑應答ヲ申上ゲマス、內地及北海道ヲ一貫シタル種苗ノ取締ヲ圖ル要ナキカト云フ御質問ニ對シテ、種苗法ハ北海道ニモ同時ニ施行セラレルモノニシテ、種苗ノ取締ニ付キマシテハ十分ノ連繫ヲ圖リ遺憾ナキコトヲ期スルト云フ御答辯ガアリマシタ、其ノ他種苗業者ノ連絡協調ニ依リ、種苗ノ適切ナル配給ヲ圖ル方法ニ付テハ十分考慮スルト云フコトデアリマシタ、其ノ他兩案ヲ通ジテ詳細ナルコトハ速記錄ニ依リ御了承アラムコトヲ望ミマス、而シテ三月十一日討論ニ入リ各委員ヨリ熱心ナル贊成意見ノ陳述ガアリマシタ後、兩案ヲ東ネテ採決ヲ行ヒマシタ處、兩案トモ全會一致ヲ以テ原案通リ可決決定致シマシタ、私ノ委員會ノ報告ハ之ヲ以テ終リマス

○議長（伯爵松平頼壽君）　別ニ御發言モナケレバ、兩案ノ採決ヲ致シマス、兩案ノ第二讀會ヲ開クコトニ御異議ハゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平頼壽君）　御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君　直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君　贊成

○議長（伯爵松平頼壽君）　西大路子爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平頼壽君）　御異議ナイト認メマス

○議長（伯爵松平頼壽君）　兩案ノ第二讀會ヲ開キマス、御異議ガナケレバ全部ヲ問題ニ供シマス、兩案全部、委員長ノ報告通リデ御異議ハゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平頼壽君）　御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君　直チニ兩案ノ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君　贊成

○議長（伯爵松平頼壽君）　西大路子爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平頼壽君）　御異議ナイト認メマス

○議長（伯爵松平頼壽君）　兩案ノ第三讀會ヲ開キマス、兩案全部、第二讀會ノ決議通リデ御異議ハゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平頼壽君）　御異議ナイト認メマス

○議長（伯爵松平頼壽君）　日程第十三、短期現役小學校教員俸給費國庫負擔法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長報告、委員長後藤伯爵

短期現役小學校教員俸給費國庫負擔法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十四年三月九日

委員長　伯爵後藤一藏

貴族院議長伯爵松平頼壽殿

（伯爵後藤一藏君演壇ニ登ル）

○伯爵後藤一藏君　只今議題ト相成リマシタ短期現役小學校教員俸給費國庫負擔法中改正法律案ノ委員會ニ於ケル經過竝ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、本改正法律案ノ提出理由ハ、過日本會議ニ於キマシテ、又改正內容ニ付キマシテハ委員會ニ於キマシテ、何レモ文部大臣ヨリ御說明ガアッタノデゴザイマス、其ノ內容ハ速記錄ニ依ッテ御承知ヲ願ヒタイト存ジマスルノデ、之ヲ省略致シタイト存ジマス、今質疑應答ノ二三ヲ申上ゲマスルト、小學教員ノ俸給ヲ全額國庫ニ於テ負擔スルト云フコトハ、餘程前カラノ問題デ現在ニ於テモ、教育審議會アタリデ御審議ニナッテ居ルト思フガ、當局ノ御考ハ如何トノ問ニ對シ、小學校教員ノ身分ヲ相當ニ保障スル爲ニハ、全額ヲ國庫負擔トスルガ最モ宜イト云フコトハ定說デアル、併シ國家財政其ノ他ノ均衡上、直チニ此ノヤウナ方面ニ向ッテ實施ハ困難デアルトノ答デゴザイマシタ、又小學教員ガ二箇年ノ長期ニ互リ兵役ニ服スルコトトナルガ、之ニ對シ教員ノ補充ハ如何ニスルカトノ質問ニ對シ、政府ハ、十四、十五ノ兩年度ニ於テ、各府縣ニ於テ師範學校第二部ノ生徒ヲ增募セシムルノ計畫ヲ立テシメテ居ルノデ、教員ノ不足ヲ補充スル方針ヲ執ッテ居ル、併シ此ノ增募ノ爲ニ學級ヲ增加シタ府縣ニ對シテハ、其ノ經費トシテ國庫ヨリ補助スルコトト致シ、十四年度通常豫算ニ此ノ爲ノ臨時補助費ヲ計上致シテ居ルトノ答辯ガゴザイマシタ、次ハ本案ニ依レバ、俸給ノ國庫負擔ヲ師範學校卒業者ノミニ限定サレテ居ルガ、廣ク帝國大學其ノ他ノ學校卒業者ニシテ、小學教育ニ從事スル者ニモ此ノ制度ヲ及シテハ如何トノ質問ニ對シテ、政府ハ其ノ沿革及師範學校教育重要性特殊性及師範學校ニ人材ヲ招致スル必要カラ、斯カル取扱ヲ爲スノデアルトノ答ガゴザイマシタ、其ノ他質疑應答ガゴザイマシタケレドモ、是ハ速記錄ニ依ッテ御承知ヲ願ヒタイト思ヒマス、斯クシテ審議ノ上討論ニ入リマシタガ、委員ヨリ別段意見ノ開陳モナク、本案ハ全會一致、原案通リ可決致シタ次第デゴザイマス、右御報告申上ゲマス

○議長（伯爵松平頼壽君）　別ニ御發言モナケレバ本案ノ採決ヲ致シマス、本案ノ第二讀會ヲ開クコトニ御異議ハゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平頼壽君）　御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君　直チニ本案ノ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君　贊成

○議長（伯爵松平頼壽君）　西大路子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平頼壽君）　御異議ナイト認メマス

○議長（伯爵松平頼壽君）　本案ノ第二讀會ヲ開キマス、御異議ナケレバ全部ヲ問題ニ供シマス、本案全部、委員長ノ報告通リデ御異議ゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平頼壽君）　御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君　直チニ本案ノ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君　贊成

○議長（伯爵松平頼壽君）　西大路子爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平頼壽君）　御異議ナイト認メマス

○議長（伯爵松平頼壽君）　本案ノ第三讀會ヲ開キマス、本案全部、第二讀會ノ決議通リデ御異議ハゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平頼壽君）　御異議ナイト認メマス

○議長（伯爵松平頼壽君）　日程第十四、昭和十二年度歲入歲出總決算、昭和十二年度各特別會計歲入歲出決算報告、日程第十五、昭和十二年度國有財產增減總計算書報告、會議、委員長報告、是等ノ二案ヲ一括シテ議題ト爲スコトニ御異議ハゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平頼壽君）　御異議ナイト認メマス、委員長周布男爵

昭和十二年度歲入歲出總決算竝昭和十二年度各特別會計歲入歲出決算及既往年度檢査未確定金額ノ檢査確定シタルモノヲ審査シ

第一

昭和十二年度歲入歲出總決算歲入經常部第六款雜收入第十二項雜入中農林省ニ於テ歲入ニ編入スヘキ件

昭和十二年度各特別會計歲入歲出決算鐵道省所管帝國鐵道資本勘定歲出第一款鐵道建設改良及自動車線設備費第一項鐵道建設費中鐵道省ノ支出ニ係ル件、第二項鐵道改良費中鐵道省ノ支出ニ係ル件

同上用品勘定歲出第一款用品及工作費第一項用品及工作費中鐵道省ノ支出ニ係ル件

同上收益勘定歲出第一款作業費第一項事業費中鐵道省ノ支出ニ係ル件

昭和十一年度歲入歲出總決算歲出臨時部大藏省所管第一款營繕費第六項專賣局淀橋工場移轉新營費中營繕管財局ノ支出ニ係ル件、第七項專賣局所屬工場新營費中營繕管財局ノ支出ニ係ル件

右ハ政府ノ措置適切ナラザルモノト認ム

第二

昭和十二年度歲入歲出總決算歲入經常部第一款租稅第一項所得稅中輪島稅務署ノ收入ニ至ラサリシ件、西稅務署、幸橋外三稅務署、神田橋稅務署、横濱稅務署、日本橋稅務署、一宮稅務署、堺稅務署、神田橋稅務署、浦和外一稅務署ノ徵收不足ニ係ルモノ九件、堺稅務署ノ徵收過ニ係ル件、第二項地租中輪島稅務署ノ收入ニ至ラサリシ件、第三項營業收益稅中輪島稅務署ノ收入ニ至ラサリシ件、第四項資本利子稅中輪島稅務署ノ收入ニ至ラサリシ件、第五項法人資本稅中輪島稅務署ノ收入ニ至ラサリシ件、第六項相續稅中輪島稅務署ノ收入ニ至ラサリシ件、下京稅務署ノ徵收不足ニ係ル件、第六款雜收入第一項免許及手數料中輪島稅務署ノ收入ニ至ラサリシ件、第十二項雜入中高知縣ニ於テ歲入ニ編入スヘキ件

昭和十二年度歲入歲出總決算歲入臨時部第十款臨時利得稅第一項臨時利得稅中輪島稅務署ノ收入ニ至ラサリシ件

昭和十二年度歲入歲出總決算歲出經常部司法省所管第三款刑務費第三項收容費中大阪刑務所ノ支出ニ係ル件

昭和十二年度各特別會計歲入歲出決算海軍省所管海軍工廠資金歲出第一款材料物品費第一項材料物品費中佐世保海軍工廠ノ支出ニ係ル件

昭和十二年度各特別會計歲入歲出決算文部省所管帝國大學歲出臨時部第六款大阪帝國大學第二項工學部機械工學實驗室其他震災復舊及新營費中大阪帝國大學ノ支出ニ係ル件

昭和十二年度各特別會計歲入歲出決算農林省所管米穀需給調節歲出第一款米穀需給調節費第三項事業費中農林省米穀局ノ支出ニ係ル件

昭和十二年度各特別會計歲入歲出決算遞信省所管通信事業用品勘定歲出第一款通信事業用品及工作費第二項用品及工作費中遞信省經理局ノ支出ニ係ル件

同上業務勘定歲出第一款通信業務費第二項業務費中東京都市遞信局ノ支出ニ係ル件、遞信省經理局ノ支出ニ係ル件、第三項諸拂戾及補塡金中貯金局ノ支出ニ係ル件

昭和十二年度各特別會計歲入歲出決算鐵道省所管帝國鐵道資本勘定歲出第一款鐵道建設改良及自動車線設備費第一項鐵道建設費中鐵道省ノ支出ニ係ル件、第二項鐵道改良費中鐵道省ノ支出ニ係ル件

同上用品勘定歲出第一款用品及工作費第一項用品及工作費中鐵道省ノ支出ニ係ル件

同上收益勘定歲入第一款作業收入第一項運輸收入中鐵道省ニ於テ徵收ニ至ラサリシ件、第二項雜收入中鐵道省ノ徵收ニ係ル件、歲出第一款作業費第一項事業費中鐵道省ノ支出ニ係ルモノ二件

昭和十二年度各特別會計歲入歲出決算拓務省所管朝鮮總督府歲入經常部第一款租稅第一項所得稅中惠山鎭稅務署ノ徵收不足ニ係ル件、歲入臨時部第九款北支事件特別稅第一項所得特別稅中惠山鎭稅務署ノ徵收不足ニ係ル件、歲出經常部第二十款營林署第二項事業費中城津營林署ノ支出ニ係ル件、第二十八款諸支出金第一項諸支出金中朝鮮總督府ノ支出ニ係ル件、歲出臨時部第八款鐵道建設及改良費第一項建設費中朝鮮總督府鐵道局ノ支出ニ係ル件、第十三款土地改良事業費第二項助成費中朝鮮總督府ノ支出ニ係ル件

昭和十二年度各特別會計歲入歲出決算拓務省所管臺灣總督府歲入經常部第一款租稅第一項所得稅中高雄州、臺北州ノ徵收不足ニ係ルモノ二件、第三項營業稅中臺北州ノ徵收不足ニ係ル件、歲入臨時部第七款臨時利得稅第一項臨時利得稅中高雄州ノ徵收不足ニ係ル件、第十款北支事件特別稅第一項所得特別稅中臺北州ノ徵收不足ニ係ル件

昭和十二年度各特別會計歲入歲出決算厚生省所管健康保險歲入第一款健康保險收入第一項保險料收入中兵庫縣ニ於テ歲入ニ編入スヘキ件、第三項雜收入中兵庫縣ニ於テ歲入ニ編入スヘキ件

昭和十二年度各特別會計歲入歲出決算厚生省所管郵便年金歲出第一款郵便年金費第四項諸支出金中簡易保險局ノ支出ニ係ル件

昭和八年度歲入歲出總決算歲入經常部第一款租稅第一項所得稅中四谷稅務署、西宮稅務署、上京稅務署ノ徵收不足ニ係ルモノ三件

昭和九年度歲入歲出總決算歲入經常部第一款租稅第一項所得稅中藤澤稅務署、四谷外三稅務署、西宮稅務署ノ徵收不足ニ係ルモノ三件、板橋稅務署、幸橋稅務署ノ徵收過ニ係ルモノ二件

昭和十年度歲入歲出總決算歲入經常部第一款租稅第一項所得稅中幸橋外一稅務署、西稅務署、名古屋北稅務署、淀川稅務署、上京稅務署、南稅務署、松戶稅務署、名古屋南稅務署、四谷稅務署、淀川稅務署ノ徵收不足ニ係ルモノ十件、龜戶稅務署、小松稅務署、米子稅務署、淀川稅務署、伊那稅務署ノ徵收過ニ係ルモノ五件、第三項營業收益稅中淀川稅務署、松戶稅務署ノ徵收不足ニ係ルモノ二件、龜戶稅務署、小松稅務署、米子稅務署、

淀川稅務署、伊那稅務署ノ徵收過ニ係ルモノ五件

昭和十年度歲入歲出總決算歲入臨時部第十款臨時利得稅第一項臨時利得稅中淀川稅務署ノ徵收不足ニ係ル件

昭和十年度各特別會計歲入歲出決算拓務省所管樺太廳歲入經常部第一款租稅第三項營業收益稅中樺太廳豐榮支廳ノ徵收過ニ係ル件

昭和十一年度歲入歲出總決算歲入經常部第一款租稅第一項所得稅中京橋稅務署ノ收入ニ至ラサリシ件、西稅務署、品川外三稅務署、淀橋稅務署、一宮稅務署、板橋稅務署、南稅務署、藤澤稅務署、西稅務署、小樽外一稅務署、淀橋稅務署、伏見稅務署ノ徵收不足ニ係ルモノ十一件、日本橋稅務署ノ徵收過ニ係ル件、第三項營業收益稅中伏見稅務署ノ徵收不足ニ係ル件、日本橋稅務署ノ徵收過ニ係ル件

昭和十一年度歲入歲出總決算歲入臨時部第十款臨時利得稅第一項臨時利得稅中伏見稅務署ノ徵收不足ニ係ル件、日本橋稅務署ノ徵收過ニ係ル件

昭和十一年度歲入歲出總決算歲出臨時部內務省所管第五十一款災害費第六項秋田縣災害土木費補助中秋田縣ノ支出ニ係ル件

昭和十一年度各特別會計歲入歲出決算內務省所管健康保險歲出第一款健康保險事業費第三項保險給付費中警視廳江東健康保險出張所ノ支出ニ係ル件

昭和十一年度各特別會計歲入歲出決算遞信省所管通信事業用品勘定歲出第一款通信事業用品及工作費第二項用品及工作費中遞信省經理局ノ支出ニ係ル件

昭和十一年度各特別會計歲入歲出決算鐵道省所管帝國鐵道收益勘定歲出第一款作業費第一項事業費中鐵道省ノ支出ニ係ル件

昭和十一年度各特別會計歲入歲出決算拓務省所管朝鮮總督府歲入經常部第一款租稅第二項所得稅中元山稅務署ニ於テ歲入ニ編入スヘキ件、元山稅務署、京城稅務署ノ徵收不足ニ係ルモノ二件、歲入臨時部第三款臨時利得稅第一項臨時利得稅中元山稅務署ノ徵收不足ニ係ル件

昭和十一年度各特別會計歲入歲出決算拓務省所管樺太廳歲入經常部第一款租稅第三項營業收益稅中樺太廳豐榮支廳ノ徵收不足ニ係ル件

昭和十一年度各特別會計歲入歲出決算拓務省所管南洋廳歲入經常部第二款官業及官有財產收入第四項燐鑛拂下代中南洋廳ノ徵收ニ係ル件

右ハ政府ニ對シ將來ノ注意ヲ促スベキモノト認ム

第三

其ノ他異議ナシ

右ノ通議決セリ依テ及報告候也

昭和十四年二月二十八日

委員長 男爵周布兼道

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

昭和十二年度國有財產增減總計算書ヲ審査シ

第一

旭川營林區署ニ於テ收入未濟ニ係ル國有林木ノ管理其ノ宜シキヲ得サル件

臺灣總督府營林所ノ徵收ニ係ル隨意契約ヲ以テ木材ノ賣拂ヒヲ爲シタル件

臺灣總督府ノ徵收ニ係ル臺中州豐原郡內埔庄所在官有地ノ貸付ニ係ル件

樺太廳大泊林務署ニ於テ歲入ニ編入スヘキ皆岸國有林內立木ノ不法伐採ニ係ル件

官有物中名古屋鐵道局ニ於テ清水港驛構內岸壁寄省用炭置場ノ隣接地ヲ營業炭置場トシテ無料使用セシメタル件

（既往年度）

朝鮮軍經理部ノ徵收ニ係ル京城府本町二丁目所在國有土地ノ賣拂ヒニ當リ措置其ノ宜シキヲ得サル件

北海道廳ノ徵收ニ係ル北海道水產試驗場所屬汽船ノ賣拂ヒニ當リ措置其ノ宜シキヲ得サル件

右ハ政府ニ對シ將來ノ注意ヲ促スベキモノト認ム

第二

其ノ他異議ナシ

右ノ通議決セリ依テ及報告候也

昭和十四年二月二十八日

委員長 男爵周布兼道

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

（男爵周布兼道君演壇ニ登ル）

○男爵周布兼道君 只今上程サレマシタ昭和十二年度歲入歲出總決算、昭和十二年度各特別會計歲入歲出決算竝ニ昭和十二年度國有財產增減總計算書ニ付キマシテ、委員會ニ於ケル議事ノ經過竝ニ結果ニ付テ御報告申上ゲマス、本會議ニ於キマシテ政府ヨリ別段ノ御說明モゴザイマセヌデシタノデ、此ノ際數字ニ付キマシテ簡單ニ申上ゲタイト存ジマス、昭和十二年度歲入歲出總決算ハ、歲入ノ收入濟額經常部ニ於キマシテ十九億四千五百九十九萬八千三百五十一圓七十三錢八厘、臨時部ニ於キマシテ九億六千八百四十七萬二千百四十圓十四錢五厘、合計二十九億千四百四十七萬四百九十一圓八十八錢三厘、之ニ對シマシテ歲出ノ支出濟額ハ經常部ニ於キマシテ十四億九百二十五萬五百九十二圓四十二錢五厘、臨時部ニ於キマシテ十二億九千九百九十萬六千八百九十圓九十一錢一厘、合計二十七億九百十五萬七千四百八十三圓三十三錢六厘トナリマシテ、歲入ノ收入濟額ト歲出ノ支出濟額トノ差引額二億五百三十一萬三千八圓五十四錢七厘ノ剩餘ヲ生ジタノデアリマスルガ、是ハ會計法第二十六條ニ依リマシテ、昭和十三年度ノ歲入ニ繰入レタノデアリマス、其ノ外特別會計ハ本決算ニ於キマシテ、其ノ數三十八會計アリマスガ、其ノ金額ハ頗ル煩雜ニ亙リマスルノデ、玆ニ省略致シマス、次ニ國有財產增減總計算書ニ付テ申上ゲマス、昭和十二年度ニ於テ增加致シマシタ國有財產ハ、一般會計ニ於キマシテ四億一千四百七十七萬四千四百三十圓九十七錢七厘、特別會計ニ於キマシテ五億二千三十六萬三千三百六十六圓四十九錢九厘、合計九億三千五百十三萬七千七百九十七圓四十七錢六厘デアリマス、減少致シマシタ國有財產ハ、一般會計ニ於キマシテ一億六千八百

七十二萬一千百七十一圓八十五錢四厘、特別會計ニ於キマシテ二億五千九百四十二萬三千三十三圓八十錢八厘、合計四億二千八百十四萬四千二百五圓六十六錢二厘トナリマシテ、結局差引增加額五億六百九十九萬三千五百九十一圓八十一錢四厘トナルノデアリマス、本委員會ハ第一回ヲ去ル一月二十一日ニ開會致シマシテ、分科審査ノ權衡ヲ計リマス爲、分科擔當所管省ノ變更ヲ致シマシタ、二月七日ニ第二回ノ委員會ヲ開キマシテ、決算、國有財産ニ對シ大藏大臣ヨリ大體ニ亙ル說明ガアリ、之ニ對シ委員ハ質疑ヲ盡サレタル後、先例ニ依リマシテ、決算ノ審査方針、分科ノ審査期限、竝ニ審査豫定日等ヲ決議致シ、之ガ審査ヲ各分科ニ、又國有財産ニ關シテハ小委員會ニ、各々付託致シタノデアリマス、分科會、小委員會ニ於テハ、各所管ノ部ニ付、數回ノ會議ヲ開カレマシテ、愼重ナル審査ヲ盡サレ、而シテ二月二十三日、各分科會及小委員會ハ決議ヲ致サレマシタ、二月二十八日ニ第三回ノ委員會ヲ開キマシテ、各分科主査竝小委員會委員長ノ報告アリマシタル後ニ、尙政府ニ對シ質疑ヲ重ネマシテ十分ナル審査ヲ盡シ、採決致シマシタル結果、全會一致分科竝小委員會議決報告通リ可決致シタノデゴザイマス、次ニ委員會竝分科會、小委員會ヲ通ジ問題圓ノ給與金增額ノ豫算ヲ作リマシタ、其ノ豫算ハ兩院ノ審査ヲ經マシテ決定致シマシタガ、其ノ給與金增額ノ爲ノ勅令ガ發布ニ至リマセヌノデ、已ムヲ得ズ增額ヲ思ヒ切リ、臨出金ノ名目ヲ以テ六十一萬圓餘ヲ臨出致シマシテ、共濟組合ノ責任準備金ノ填補ニ用ヒタノデアリマス、是ハ檢査報告ニ於テ批難サレタル問題デアリマシテ、事件ハ一時限リノモノデナク、政府ノ低金利政策ガ續ク限リ、每年斯カルコトヲ繰リ返スコトハ甚ダ妥當ヲ缺クヲ以テ、是ガ取扱ヲ將來如何スルカト云フニ對シ、鐵道大臣ヨリ本件ノ政府補給金ニ關シテハ、其ノ性質ニ鑑ミ大藏省トモ協議シ、直チニ組合ノ經理運營ニ關シ、改善方研究ヲ加フル共ニ、補給金支出ニ關スル勅令ニ改正ヲ加ヘル等、速カニ善處致シタイト思フトノ答辯ガアリマシタ、次ニ國有財産ニ關シマシテ、北海道國有未開地處分法ノ問題、鐵道省所管國有財産ノ減價償却ノ問題、作業會計等ニ於ケル國有財産價格遞減ノ基準トナルベキ耐用年限統一ノ問題、國有財産整理資金ノ問題、國有財産處分ノ評價問題、其ノ他ニ付種々質疑ガアリ、政府當局ヨリソレ〳〵詳細ナル答辯ガアリマシタガ、以上ノ外種々ナル質疑應答ガアリマシタガ、詳細ハ速記錄ニ讓ルコトニ致シマシテ、玆ニ省略致シタイト存ジマス、右ヲ以テ御報告ヲ終リト致シマス

○議長（伯爵松平賴壽君）　日程第十四、日程第十五、二件トモ決算委員長ノ報告通リデ御異議ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス

○議長（伯爵松平賴壽君）　次會ノ議事日程ハ決定次第報知ヲ以テ御通知ニ及ビマス、本日ハ是ニテ散會致シマス

午後三時四十一分散會

貴族院議事速記錄第二十一號正誤

頁	段	行	誤	正
二五三	三	四—五	君	大西虎之助　大西虎之介　君

貴族院議事速記錄第二十一號中二六四頁一段二六行目ノ左ノ一行ヲ削除ス

○議長（伯爵松平賴壽君）　戸澤子爵

內閣印刷局

昭和十四年三月十四日　第三種郵便物認可

官報　號外

昭和十四年三月十五日

○第七十四回帝國議會貴族院議事速記錄第二十三號

昭和十四年三月十五日（水曜日）午前十時十三分開議

議事日程　第二十三號

昭和十四年三月十五日

午前十時開議

第一　日本產金振興株式會社法中改正法律案（政府提出、衆議院送付）

第二　恩給法中改正法律案（政府提出、衆議院送付）

第三　國債整理基金特別會計法中改正法律案（政府提出、衆議院送付）

第四　明治三十九年法律第三十四號中改正法律案（政府提出、衆議院送付）

第五　明治四十二年法律第九號中改正法律案（政府提出、衆議院送付）

第一讀會

第六　職員健康保險法案（政府提出、衆議院送付）

第七　酪農業調整法案（政府提出、衆議院送付）

第八　明治四十五年法律第二十三號中改正法律案（政府提出、衆議院送付）

第一讀會ノ續（委員長報告）

日本產金振興株式會社法中改正法律案　第一讀會

第九　地方鐵道法中改正法律案（政府提出、衆議院送付）

第十　軌道法中改正法律案（政府提出、衆議院送付）

第一讀會ノ續（委員長報告）

第十一　寺院等ニ無償ニテ貸付ジアル國有財産ノ處分ニ關スル法律案成立ニ關スル請願

第十二　水產會ノ活動促進ニ關スル請願

第十三　水產試驗機關ノ整備充實ニ關スル請願

第十四　漁業用資材ノ配給ノ圓滑竝價格ノ合理化ニ關スル請願

第十五　北海道船舶業者所有船舶ノ燃料配給ニ關スル請願

第十六　遷宮內線鐵道速成ノ請願

第十七　遠軽線鐵道速成ノ請願

第十八　南勝線鐵道關金、山守間ノ泰久寺ニ停車場設置ノ請願

第十九　高崎線電化促進ノ請願

第二十　鳥取縣東伯郡古布庄村役場ニ電話架設ノ請願

第二十一　牟岐線鐵道日和佐、土讃線土佐山田驛間鐵道敷設ノ請願

會議

○議長（伯爵松平賴壽君）　報告ヲ致サセマス

〔丸龜書記官朗讀〕

一昨十三日本院ニ於テ可決シタル左ノ政府提出案ハ卽日裁可ヲ奏請シ又可決ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ

臨時軍事費豫算追加案（臨第一號）

昭和十四年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案

作業會計法中改正法律案

兌換銀行券整理法中改正法律案

農業再保險特別會計法案

海軍工廠資金會計法中改正法律案

名古屋帝國大學創設ニ伴フ帝國大學特別會計及官立大學特別會計ノ關涉ニ關スル法律案

森林法中改正法律案

林業種苗法案

短期現役小學校教員俸給費國庫負擔法中改正法律案

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

明治四十五年法律第二十三號中改正法律案可決報告書

地方鐵道法中改正法律案可決報告書

軌道法中改正法律案可決報告書

昨十四日產金法中改正法律案特別委員會ニ於テ當選ジタル正副委員長ノ氏名左ノ如シ

委員長　子爵井上匡四郎君

副委員長　土方　久徵君

同日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ

昭和十四年度歲入歲出總豫算追加案（第一號）

昭和十四年度各特別會計歲入歲出總豫算追加案（特第一號）

豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件（追第一號）

日本產金振興株式會社法中改正法律案

恩給法中改正法律案

國債整理基金特別會計法中改正法律案

明治三十九年法律第三十四號中改正法律案

明治四十二年法律第九號中改正法律案

職員健康保險法案

酪農業調整法案

同日內閣總理大臣ヨリ左ノ通第七十四回帝國議會ニ政府委員仰付ラレタル旨ノ通牒ヲ受領セリ

文部省所管事務政府委員

文部書記官　柴沼　直君

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

鑛業法中改正法律案可決報告書

○議長（伯爵松平賴壽君）　是ヨリ本日ノ會議ヲ開キマス、日程第一、日本產金振興株式會社法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、八田商工大臣

（左ノ送付文及法律案ハ朗讀ヲ省略ス）

日本產金振興株式會社法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十四年三月十四日

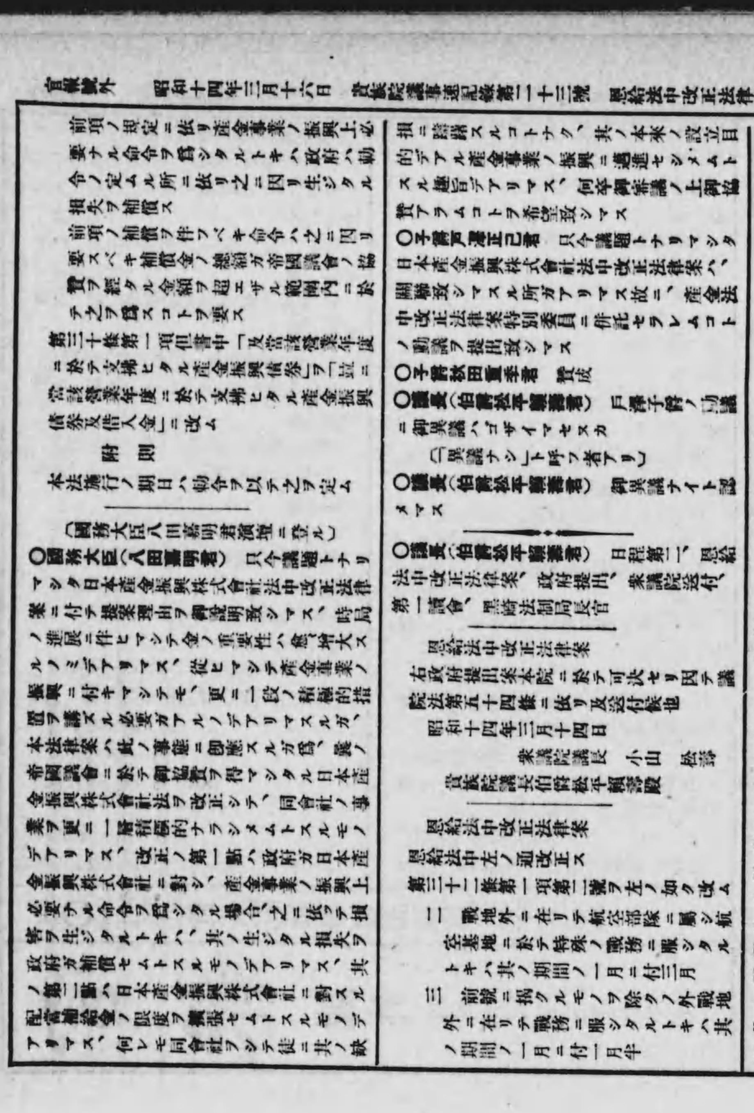
衆議院議長伯爵松平賴壽殿

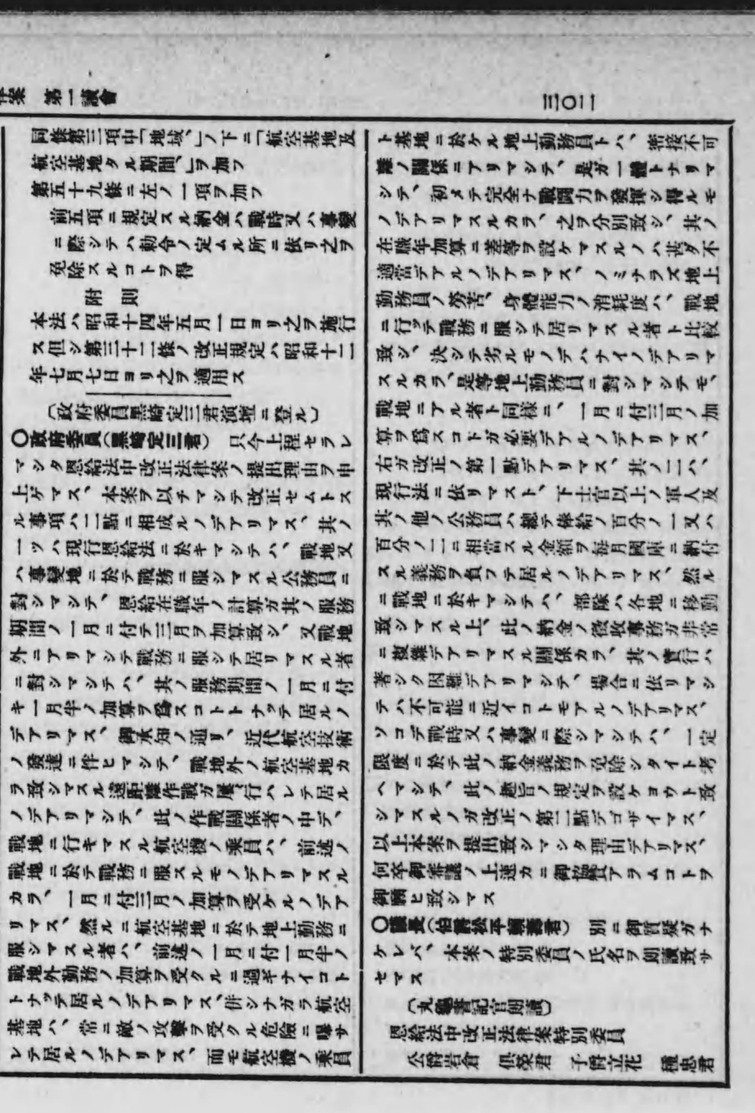
貴族院議長　小山　松壽

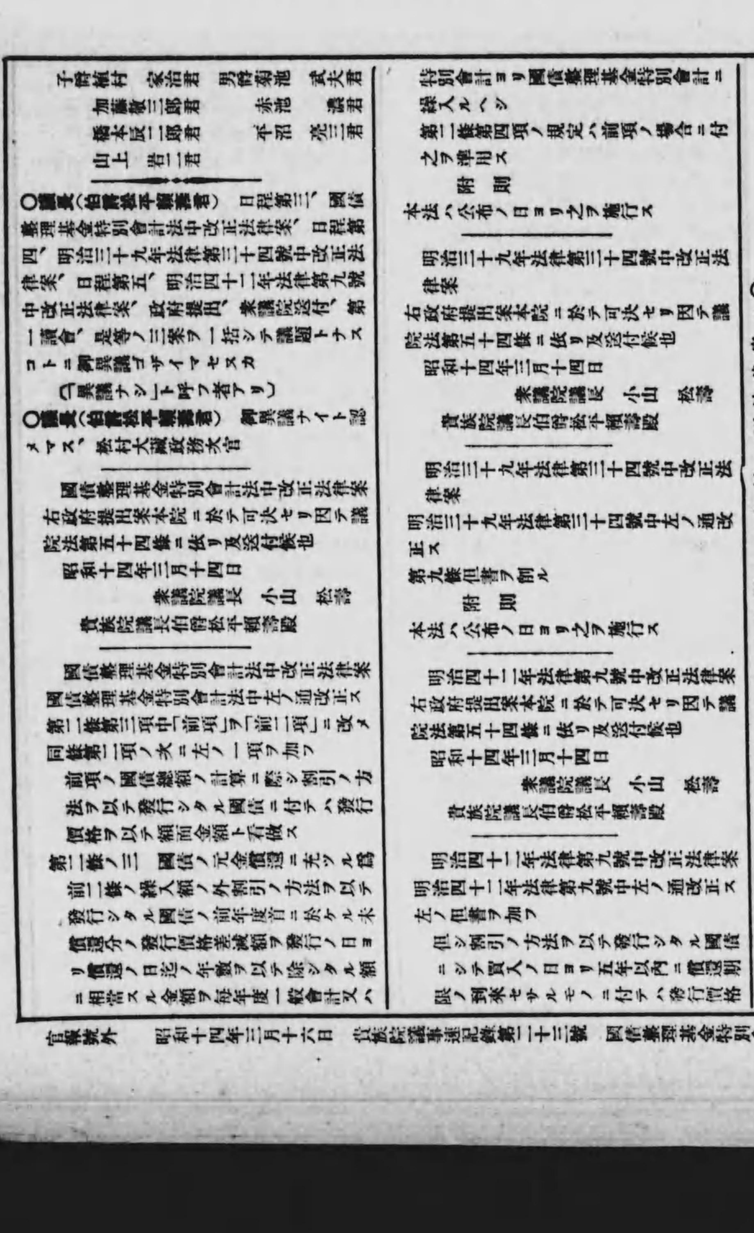
日本產金振興株式會社法中改正法律案

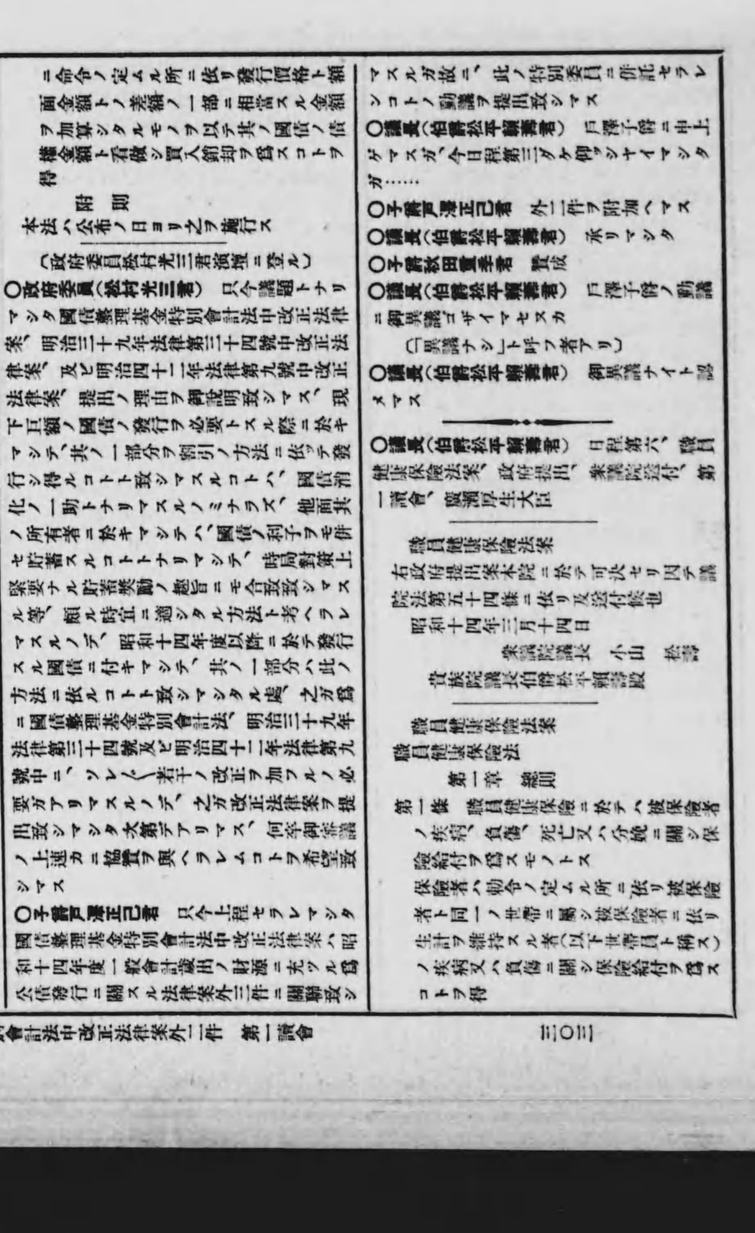
日本產金振興株式會社法中左ノ通改正ス

第二十五條ニ左ノ二項ヲ加フ









第二條　本法ニ於テ報酬ト稱スルハ事業ニ使用セラルル者ガ勞務ノ對價トシテ受クル俸給、給料又ハ賃金及之ニ準ズベキモノヲ謂フ

俸給、給料又ハ賃金ニ準ズベキモノノ範圍及評價ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條　報酬ノ額ニ基キ保險料又ハ保險給付ノ額ヲ定ムル場合ニ於テハ標準報酬ニ依リ之ヲ算定ス

標準報酬ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條　保險料其ノ他本法ニ依ル徵收金ヲ徵收シ又ハ其ノ還付ヲ受クル權利及保險給付ヲ受クル權利ハ一年ヲ經過シタルトキハ時效ニ因リテ消滅ス

前項ノ時效ノ中斷、停止其ノ他ノ事項ニ關シテハ民法ノ時效ニ關スル規定ヲ準用ス

命令ノ定ムル所ニ依リ保險者ノ爲ス保險料其ノ他本法ニ依ル徵收金ノ徵收ノ告知ハ民法第百五十三條ノ規定ニ拘ラズ時效中斷ノ效力ヲ有ス

第五條　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定スル期間ノ計算ニ付テハ民法ノ期間ノ計算ニ關スル規定ヲ準用ス

第六條　職員健康保險ニ關スル書類ニハ印紙稅ヲ課セズ

保險給付トシテ支給ヲ受ケタル金品ヲ標準トシテ租稅其ノ他ノ公課ヲ課セズ

第七條　保險給付ヲ受クル權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ差押フルコトヲ得ズ

第八條　保險者又ハ保險給付ヲ受クベキ者ハ被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ戶籍ニ關シ戶籍事務ヲ管掌スル者又ハ其ノ代理者ニ對シ無償ニテ證明ヲ求ムルコトヲ得

前項ノ規定ハ第一條第二項ノ保險給付ヲ爲ス場合ニ於テハ世帶員又ハ世帶員タリシ者ノ戶籍ニ關シ之ヲ準用ス

第九條　保險者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ被保險者ヲ使用スル事業主ヲシテ其ノ使用スル者ノ異動及報酬ニ關シ報告ヲ爲サシメ、文書ヲ提示セシメ其ノ他職員健康保險ノ施行ニ必要ナル事務ヲ行ハシムルコトヲ得

第十條　行政官廳ハ必要アリト認ムルトキハ被保險者ノ異動及報酬竝ニ保險給付ノ決定ニ關シ當該官吏ヲシテ被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ勤務場所ニ就キ關係者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ帳簿書類其ノ他ノ檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第十一條　主務大臣ハ本法ニ規定スル其ノ職權ノ一部ヲ命令ヲ以テ行政官廳ニ委任スルコトヲ得

第十二條　保險料其ノ他本法ニ依ル徵收金ヲ滯納スル者アルトキハ保險者ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スベシ

前項ノ規定ニ依リ督促ヲ爲シタル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ督促手數料及延滯金ヲ徵收ス

第十三條　前條ノ規定ニ依ル督促ヲ受ケタル者其ノ指定ノ期限迄ニ保險料其ノ他本法ニ依ル徵收金ヲ納付セザルトキハ保險者ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分シ又ハ滯納者若ハ其ノ者ノ財產ノ在ル市町村ニ對シ之ガ處分ヲ請求スルコトヲ得但シ職員健康保險組合ガ保險者ナル場合ニ於テ國稅滯納處分ノ例ニ依リ處分スルコトヲ得ル市町村ニ對シ處分ヲ請求スルモ市町村ガ其ノ請求ヲ受ケタル日ヨリ三十日以內ニ其ノ處分ニ著手セズ又ハ九十日以內ニ之ヲ結了セザル場合ニ限ル

前項但書ノ規定ニ依リ職員健康保險組合ガ國稅滯納處分ノ例ニ依リ處分ヲ爲ス場合ニ於テハ主務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

保險者ガ第一項ノ規定ニ依リ市町村ニ對シ處分ヲ請求シタルトキハ市町村ハ市町村稅ノ例ニ依リ之ヲ處分ス此ノ場合ニ於テハ保險者ハ徵收金額ノ百分ノ四ニ相當スル金額ヲ當該市町村ニ交付スベシ

第十四條　保險料其ノ他本法ニ依ル徵收金ノ先取特權ノ順位ハ市町村其ノ他之ニ準ズベキモノノ徵收金ニ次ギ他ノ公課ニ先ツモノトス

第十五條　保險料其ノ他本法ニ依ル徵收金ニ關スル書類ノ送達ニ付テハ國稅徵收法第四條ノ七及第四條ノ八ノ規定ヲ準用ス

第十六條　本法ハ國、北海道、府縣、市町村其ノ他之ニ準ズベキモノノ事業ニ使用セラルル者ニ之ヲ適用セズ

第十七條　本法中町村トアルハ町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ之ニ準ズベキモノトス

第二章　被保險者

第十八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル事業ノ事業所ニシテ市又ハ主務大臣ノ指定スル町村（以下指定町村ト稱ス）ニ在ルモノニ使用セラルル者ハ職員健康保險ノ被保險者トス

一　物ノ販賣ニ關スル事業

二　金融又ハ保險ニ關スル事業

三　物ノ保管又ハ賃貸ニ關スル事業

四　媒介周旋ニ關スル事業

五　集金、案內又ハ廣告ニ關スル事業

六　前各號ニ揭グルモノノ外勅令ヲ以テ指定スル事業

前項第一號乃至第五號ニ揭グル事業ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第一項ノ規定ニ拘ラズ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ職員健康保險ノ被保險者トセズ

一　第一項ニ規定スル者ヲ常時十人未滿使用スル事業所ニ使用セラルル者

二　健康保險ノ被保險者及健康保險法第十四條第一項ノ規定ニ依リ健康保險ノ被保險者ト爲ルコトヲ得ル者

三　一年ノ報酬千二百圓ヲ超ユル者

四　前各號ニ揭グル者ノ外勅令ヲ以テ指定スル者

第十九條　健康保險ノ被保險者タル職員ヲ使用スル事業主ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ職員ヲ事業所每ニ包括シテ職員健康保險ノ被保險者ト爲スコトヲ得

前項ノ認可ヲ申請スルハ被保險者ト爲ルベキ者ノ二分ノ一以上ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第二十條　前條ノ認可アリタルトキハ其ノ事業所ニ使用セラルル職員ハ職員健康保險ノ被保險者トス

第十八條第三項第三號及第四號ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル事業所ノ事業主ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ使用セラルル者ヲ包括シテ職員健康保險ノ被保險者トスルコトヲ得ル

一　第十八條第一項第一號乃至第六號ニ揭グル事業ノ事業所ニシテ市又ハ

指定町村以外ノ地ニ在ルモノ

二　第十八條第一項ニ規定スル者ヲ常時十人未滿使用スル事業所ニシテ市又ハ指定町村ニ在ルモノ

三　前二號ニ揭グルモノノ外勅令ヲ以テ指定スル事業ノ事業所

第十九條第三項第二號乃至第四號ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十二條　前條ノ認可アリタルトキハ其ノ事業所ニ使用セラルル者ハ職員健康保險ノ被保險者トス

第二十三條　第十八條ニ規定スル事業所ガ左ノ各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ事業所ニ付第二十一條ノ認可アリタルモノト看做ス

一　第十八條第一項ニ規定スル者ハ常時十人未滿使用スル事業所ト爲ルニ至リタルトキ

二　市又ハ指定町村以外ノ地ニ在ルニ至リタルトキ

三　第二十一條第一項第三號ノ規定ニ依リ指定スル事業ノ事業所ト爲ルニ至リタルトキ

第二十四條　第十八條、第二十條及第二十二條ノ規定ニ依ル被保險者ハ其ノ業務ニ使用セラルルニ至リタル日又ハ第十八條第三項第二號乃至第四號、第二十條第二項若ハ第二十二條第二項ノ規定ニ該當セザルニ至リタル日ヨリ其ノ資格ヲ取得ス

第二十五條　第十八條、第二十條及第二十二條ノ規定ニ依ル被保險者ハ死亡シタル日、其ノ業務ニ使用セラレザルニ至リタル日又ハ第十八條第三項第二號乃至第四號ノ規定ニ該當セザルニ至リタル日ヨリ三十日以內ニ其ノ資格ヲ喪失ス

第二十六條　第二十條又ハ第二十二條ノ規定ニ依ル被保險者ヲ使用スル事業主ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ被保險者ノ全部ヲシテ其ノ資格ヲ喪失セシムルコトヲ得

前項ノ認可ヲ申請スルニハ被保險者ノ四分ノ三以上ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第一項ノ認可アリタルトキハ被保險者ハ認可アリタル日ノ翌日ヨリ其ノ資格ヲ喪失ス

第二十七條　第二十五條ノ規定ニ依リ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル者ニシテ喪失ノ日前二月以上引續キ被保險者タリシモノハ勅令ノ定ムル所ニ依リ繼續シテ被保險者ト爲ルコトヲ得

第二十八條　前條ノ規定ニ依ル被保險者ハ前條ノ規定ニ依リ被保險者ト爲リタル日ヨリ六月ヲ經過シタルトキ其ノ他勅令ヲ以テ定ムル事由ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ資格ヲ喪失ス

第二十五條ノ規定ハ前條ノ規定ニ依ル被保險者ガ死亡シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三章　保險者

第二十九條　職員健康保險ノ保險者ハ政府及職員健康保險組合トス

第三十條　政府ハ職員健康保險組合ノ組合員ニ非ザル被保險者ノ保險ヲ管掌ス

第三十一條　職員健康保險組合ハ其ノ組合員タル被保險者ノ保險ヲ管掌ス

第三十二條　職員健康保險組合ハ事業主及其ノ事業所ニ使用セラルル被保險者ヲ以テ之ヲ組織ス

職員健康保險組合ハ法人トス

第三十三條　一又ハ二以上ノ事業所ニ付被保險者常時三百人以上ヲ使用スル事業主ハ職員健康保險組合ヲ設立スルコトヲ得

被保險者ヲ使用スル二以上ノ事業主ハ共同シテ職員健康保險組合ヲ設立スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ被保險者ノ員數ハ合算シテ常時三百人以上タルコトヲ要ス

第三十四條　職員健康保險組合ヲ設立セントスルトキハ組合員タル資格ヲ有スル被保險者ノ二分ノ一以上ノ同意ヲ得規約ヲ作リ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

二以上ノ事業所ニ付職員健康保險組合ヲ設立セントスル場合ニ於テハ前項ノ同意ハ各事業所ニ付之ヲ得ルコトヲ要ス

第三十五條　前二條ノ規定ニ於テ被保險者トアルハ第十九條第一項又ハ第二十一條第一項ノ規定ニ依ル認可ノ申請ト同時ニ職員健康保險組合ノ設立認可ノ申請ヲ爲ス場合ニ在リテハ被保險者ト爲ルベキ者トス

第三十六條　主務大臣ハ一又ハ二以上ノ事業所ニ付第十八條ノ規定ニ依ル被保險者常時五百人以上ヲ使用スル事業主ニ對シ職員健康保險組合ノ設立ヲ命ズルコトヲ得

第三十七條　前條ノ規定ニ依リ職員健康保險組合ノ設立ヲ命ゼラレタル事業主ハ規約ヲ作リ設立ニ付主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第三十八條　職員健康保險組合ハ設立ノ認可ヲ受ケタル時ニ成立ス

第三十九條　職員健康保險組合成立シタルトキハ事業主及其ノ事業所ニ使用セラルル被保險者ハ總テ之ヲ組合員トス

第四十條　職員健康保險組合ノ規約ノ變更ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第四十一條　主務大臣ハ職員健康保險組合ニ對シ其ノ事業及財產ニ關シ報告ヲ爲サシメ、其ノ狀況ヲ檢査シ、規約ノ變更ヲ命ジ其ノ他監督上必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第四十二條　職員健康保險組合ノ役員ニ欠缺若ハ故障アルトキ又ハ組合ノ役員ガ保險給付其ノ他其ノ執行スベキ職務ヲ執行セザルトキハ主務大臣ハ官吏其ノ他ノ者ヲ指定シテ其ノ職務ヲ執行セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ其ノ職務ノ執行ニ要スル費用ハ職員健康保險組合ノ負擔トス

第四十三條　主務大臣ハ職員健康保險組合ノ決議又ハ役員ノ行爲ガ法令、規約若ハ主務大臣ノ命令若ハ處分ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキ又ハ組合ノ事業若ハ財產ノ狀況ニ依リ其ノ事業ノ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキハ決議ヲ取消シ、役員ヲ解職シ又ハ組合ノ解散ヲ命ズルコトヲ得

第四十四條　解散ニ因リテ消滅シタル職

員健康保險組合ノ權利義務ハ政府之ヲ承繼ス

第四十五條　本法ニ規定スルモノノ外職員健康保險組合ノ管理、財産ノ保管及利用方法、分合、解散其ノ他職員健康保險組合ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十六條　同時ニ二以上ノ事業所ニ使用セラルル被保險者ノ保險者ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第四章　保險給付及保健施設

第四十七條　被保險者ガ其ノ疾病又ハ負傷ニ關シ療養ヲ受ケタルトキハ療養費ヲ支給ス

前項ノ療養費ヲ支給スベキ療養ノ範圍竝ニ療養費ノ額及支給方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

保險者ハ第一項ノ規定ニ拘ラズ勅令ノ定ムル所ニ依リ被保險者ノ疾病又ハ負傷ニ關シ療養費ノ支給ニ代ヘテ療養ノ給付ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ者ヨリ費用ノ一部ヲ徴收スルコトヲ得

第四十八條　療養費ハ同一ノ疾病又ハ負傷及之ニ因リ發シタル疾病ニ關シ其ノ療養ヲ始メタル日ヨリ起算シ六月ヲ經過シタル後ノ療養ニ付テハ之ヲ支給セズ

主務大臣ノ指定スル疾病ニ關シテハ保險者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ前項ノ期間ヲ超エ尚六月以内ノ療養ニ付繼續シテ療養費ヲ支給スルコトヲ得但シ其ノ療養ヲ始メタル日前勅令ノ定ムル期間引續キ被保險者タリシ者ニ限ル

第四十九條　被保險者ガ療養ノ爲引續キ勞務ニ服スルコト能ハザルトキハ勞務ニ服スルコト能ハザルニ至リタル日ヨリ起算シ三月ヲ經過シタル日ヨリ其ノ後ニ於ケル勞務ニ服スルコト能ハザル期間傷病手當金トシテ一日ニ付報酬日額ノ百分ノ五十ニ相當スル金額ヲ支給ス但シ日給ヲ受クル被保險者ニ付テハ勞務ニ服スルコト能ハザルニ至リタル日ヨリ起算シ十日ヲ經過シタル日ヨリ之ヲ支給ス

前項ノ傷病手當金ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ減額スルコトヲ得

保險者ハ第一項ノ規定ニ拘ラズ勅令ノ定ムル所ニ依リ傷病手當金ノ支給ノ待期ヲ短縮シ又ハ廢スルコトヲ得

第五十條　傷病手當金ノ支給期間ハ同一ノ疾病又ハ負傷及之ニ因リ發シタル疾病ニ關シテハ三月ヲ以テ限度トス但シ日給ヲ受クル被保險者ニ付テハ六月ヲ以テ限度トス

第四十八條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

傷病手當金ハ其ノ支給期間ヲ經過セザルトキト雖モ療養費ノ支給ヲ爲シ得ル期間ヲ經過スルニ至リタルトキハ之ヲ支給セズ

第五十一條　被保險者ガ死亡シタルトキハ被保險者ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニシテ埋葬ヲ行フモノニ對シ埋葬料トシテ報酬月額ノ一月分ニ相當スル金額ヲ支給ス但シ其ノ金額ガ三十圓ニ滿タザルトキハ之ヲ三十圓トス

被保險者ガ死亡シタル場合ニ於テ前項ノ規定ニ依リ埋葬料ノ支給ヲ受クベキ者ナキトキハ埋葬ヲ行ヒタル者ニ對シ前項ノ金額ノ範圍内ニ於テ其ノ埋葬ニ要シタル費用ニ相當スル金額ヲ支給ス

第五十二條　被保險者ガ分娩シタルトキハ分娩費トシテ二十圓ヲ、出産手當金トシテ分娩ノ前後勅令ヲ以テ定ムル期間一日ニ付報酬日額ノ百分ノ五十ニ相當スル金額ヲ支給ス

第五十三條　保險者ハ被保險者ヲ産院ニ收容シ又ハ助産ノ手當ヲ爲スコトヲ得

産院ニ收容シ又ハ助産ノ手當ヲ爲シタル被保險者ニ對シテ支給スベキ分娩費及出産手當金ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ減額スルコトヲ得

第五十四條　分娩ニ關スル保險給付ニ付テハ勅令ヲ以テ分娩前一定ノ期間被保險者タリシ者ニ非ザレバ之ヲ爲サザルコトヲ定ムルコトヲ得

第五十五條　出産手當金ノ支給ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ期間傷病手當金ハ之ヲ支給セズ

第五十六條　被保險者ノ資格ヲ喪失シタル際疾病、負傷又ハ分娩ニ關シ保險給付ヲ受クル被保險者ハ被保險者トシテ保險給付ヲ受クルコトヲ得ベカリシ期間繼續シテ同一保險者ヨリ其ノ給付ヲ受クルコトヲ得但シ被保險者ノ資格喪失ノ日前勅令ノ定ムル期間引續キ被保險者タリシ場合ニ非ザレバ之ヲ受クルコトヲ得ザルモノト爲スコトヲ得

第五十七條　前條ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受クル者ガ死亡シタルトキ、前條ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケタル者ガ其ノ給付ヲ受ケザルニ至リタル日後三月以内ニ死亡シタルトキ又ハ其ノ他ノ被保險者タリシ者ガ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル日後三月以内ニ死亡シタルトキハ被保險者タリシ者ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニシテ埋葬ヲ行フモノハ最後ノ保險者ヨリ埋葬料ノ支給ヲ受クルコトヲ得

第五十一條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ埋葬料ノ支給ヲ受クル者ナキ場合及前項ノ埋葬料ノ金額ニ之ヲ準用ス

第五十八條　被保險者タリシ者ガ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル日後勅令ヲ以テ定ムル期間内ニ分娩シタルトキハ分娩ニ關シ被保險者トシテ受クルコトヲ得ベカリシ保險給付ヲ最後ノ保險者ヨリ受クルコトヲ得

第五十九條　前三條ノ規定ニ拘ラズ被保險者タリシ者ガ健康保險又ハ船員保險ノ被保險者ト爲リタルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ保險給付ヲ爲サズ

第六十條　保險者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ本章ニ規定スル保險給付ニ併セテ其ノ他ノ保險給付ヲ爲スコトヲ得

第六十一條　疾病ニ罹リ、負傷シ又ハ分娩シタル場合ニ於テ繼續シテ報酬ノ全部又ハ一部ヲ受クルコトヲ得ベキ者ニ對シテハ之ヲ受クルコトヲ得ベキ期間勅令ノ定ムル所ニ依リ傷病手當金又ハ出産手當金ノ全部又ハ一部ヲ支給セズ

第六十二條　前條ニ掲グル者ガ其ノ受クルコトヲ得ベカリシ報酬ノ全部又ハ一部ヲ受クルコト能ハザリシトキハ保險者ハ之ニ對シ勅令ノ定ムル所ニ依リ傷病手當金又ハ出産手當金ノ全部又ハ一部ヲ支給ス

前項ノ規定ニ依リ保險者ノ支給シタル金額ハ事業主ヨリ之ヲ徴收ス

第六十三條　被保險者又ハ被保險者タリシ者ガ自己ノ故意ノ犯罪行爲ニ因リ又ハ故意ニ事故ヲ生ゼシメタルトキハ保險給付ヲ爲サズ

第六十四條　被保險者ガ闘爭、泥醉若ハ著シキ不行跡ニ因リ又ハ故意ニ危害豫防ニ關スル業務上ノ監督者ノ指揮ニ從ハザルニ因リ事故ヲ生ゼシメタルトキハ傷病手當金ノ全部又ハ一部ヲ支給セザルコトヲ得

第六十五條　被保險者又ハ被保險者タリシ者ガ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ疾病、負傷又ハ分娩ニ關シ其ノ期間ニ係ル保險給付ハ之ヲ爲サズ

一　陸海軍ニ徴集又ハ召集セラレタルトキ

二　本法施行區域外ニ在ルトキ

三　矯正院其ノ他之ニ準ズベキモノニ入院セシメラレタルトキ

四　監獄、留置場又ハ勞役場ニ拘禁又ハ留置セラレタルトキ

他ノ法令ニ依リ國又ハ公共團體ノ負擔ニ於テ診療所ニ收容セラレタル者ニ對シテハ療養費ヲ支給セズ

第四十九條第二項及第五十三條第二項ノ規定ハ前項ニ掲グル者ニ之ヲ準用ス

保險者ハ被保險者又ハ被保險者タリシ者ガ第一項各號ノ一ニ該當スル場合ト雖モ第一條第二項ノ保險給付ヲ爲スコトヲ妨ゲズ

第六十六條　保險者ハ正當ノ理由ナクシテ療養ニ關スル指揮ニ從ハザル者ニ對シ之ニ支給スベキ傷病手當金ノ一部ヲ支給セザルコトヲ得

第六十七條　保險者ハ詐欺其ノ他不正ノ行爲ニ依リ保險給付ヲ受ケ又ハ受ケントシタル者ニ對シ勅令ノ定ムル所ニ依リ期間ヲ定メ保險給付ノ全部又ハ一部ヲ爲サザルコトヲ得

第六十八條　保險者ハ必要アリト認ムルトキハ保險給付ヲ受クル者ノ診斷ヲ行フコトヲ得

保險者ハ正當ノ理由ナクシテ前項ノ診斷ヲ受ケザル者ニ對シ保險給付ノ全部又ハ一部ヲ爲サザルコトヲ得

第六十九條　保險者ハ事故ガ第三者ノ行爲ニ因リテ生ジタル場合ニ於テ保險給付ヲ爲シタルトキハ其ノ給付ノ價額ノ限度ニ於テ被保險者又ハ被保險者タリシ者ガ第三者ニ對シテ有スル損害賠償請求ノ權利ヲ取得ス

第七十條　保險者ハ被保險者ノ健康ヲ保持增進スル爲左ノ施設ヲ爲スコトヲ得

一　疾病又ハ負傷ノ豫防ニ關スル施設

二　健康診斷ニ關スル施設

三　保養ニ關スル施設

四　其ノ他健康ノ保持增進ニ關スル施設

第七十一條　保險者ハ事業ニ支障ナキ場合ニ限リ被保險者ニ非ザル者ヲシテ保險者ノ施設ヲ利用セシムルコトヲ得

保險者ハ其ノ施設ヲ利用スル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ利用料ヲ請求スルコトヲ得

第七十二條　第六十三條、第六十五條第一項及第二項、第六十八條竝ニ第六十九條ノ規定ハ世帶員ニ之ヲ準用ス

第五十六條ノ規定ハ第一條第二項ノ保險給付ニ之ヲ準用ス

第五章　費用ノ負擔

第七十三條　國庫ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ職員健康保險事業ニ要スル費用ノ一部ヲ負擔ス

第七十四條　保險者ハ職員健康保險事業ニ要スル費用ニ充ツル爲保險料ヲ徴收ス

保險料ノ算定ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十五條　被保險者及被保險者ヲ使用スル事業主ハ各保險料額ノ二分ノ一ヲ負擔ス但シ第二十七條ノ規定ニ依ル被保險者ハ其ノ全額ヲ負擔ス

第七十六條　少額ノ報酬ヲ受クル被保險者ニ關スル保險料ニ付テハ勅令ヲ以テ事業主ノ負擔スベキ割合ヲ增加スルコトヲ得

第七十七條　職員健康保險組合ハ第七十五條ノ規定又ハ前條ニ基キテ發スル勅令ノ規定ニ拘ラズ其ノ規約ヲ以テ事業主ノ負擔スベキ保險料額ノ負擔ノ割合ヲ增加スルコトヲ得

第七十八條　被保險者ガ第六十五條第一項各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ期間保險料ヲ徴收セズ

第七十九條　事業主ハ其ノ使用スル被保險者ノ負擔スベキ保險料ヲ納付スル義務ヲ負フ但シ第二十七條ノ規定ニ依ル被保險者ノ負擔スル保險料ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第八十條　事業主ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ規定ニ依リ納付スベキ保險料ヲ被保險者ニ支拂フベキ報酬ヨリ控除スルコトヲ得

第六章　審査ノ請求、訴願及訴訟

第八十一條　保險給付ニ關スル決定ニ不服アル者ハ第一次職員健康保險審査會ニ審査ヲ請求シ其ノ決定ニ不服アルトキハ第二次職員健康保險審査會ニ審査ヲ請求シ其ノ決定ニ不服アルトキハ通常裁判所ニ訴ヲ提起スルコトヲ得

前項ノ審査ノ請求ハ時效ノ中斷ニ關シテハ之ヲ裁判上ノ請求ト看做ス

第八十二條　保險料其ノ他本法ニ依ル徴收金ノ賦課若ハ徴收ノ處分又ハ第十三條ノ規定ニ依ル處分ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル訴願ニ關シテハ職員健康保險組合ヲ訴願法ノ規定ニ依ル行政廳ト看做ス

第八十三條　保險料其ノ他本法ニ依ル徴收金ノ賦課又ハ徴收ノ處分ニ關シ訴願ノ提起アリタルトキハ主務大臣ハ第二次職員健康保險審査會ノ審査ヲ經テ裁決ヲ爲スベシ

第八十四條　本法ニ規定スルモノノ外職員健康保險審査會ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八十五條　審査ノ請求、訴ノ提起又ハ訴願若ハ行政訴訟ノ提起ハ處分ノ通知又ハ決定書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ爲スベシ此ノ場合ニ於テ審査ノ請求ニ付テハ訴願法第八條第三項ノ規定ヲ、訴ノ提起ニ付テハ民事訴訟法第百五十八條第二項及第百五十九條ノ規定ヲ準用ス

第七章　罰則

第八十六條　正當ノ理由ナクシテ第十條

ノ規定ニ依ル當該官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛僞ノ答辯ヲ爲シ又ハ其ノ檢査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十七條　第九條ノ規定ニ依ル保險者ノ請求アリタル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ報告ヲ爲サズ、虛僞ノ報告ヲ爲シ又ハ文書ノ提示ヲ爲サザル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十八條　事業主ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ前條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第八十九條　第八十七條ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第九十條　職員健康保險組合ノ設立ヲ命ゼラレタル事業主ガ正當ノ理由ナクシテ主務大臣ノ指定スル期日迄ニ設立ノ認可ヲ申請セザルトキハ其ノ手續ヲ遲延シタル期間其ノ負擔スベキ保險料額ノ二倍ニ相當スル金額以下ノ過料ニ處ス

第九十一條　職員健康保險組合ガ第四十一條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ又ハ處分ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シタルトキハ其ノ役員ヲ百圓以下ノ過料ニ處ス

附　則

本法施行ノ期日ハ保險給付、保健施設及費用ノ負擔ニ關スル規定竝ニ其ノ他ノ規定ニ付各別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（國務大臣廣瀨久忠君演壇ニ登ル）

○國務大臣（廣瀨久忠君）　只今議題トナリマシタ職員健康保險法案提出ノ理由ヲ說明致シマス、我ガ國現下ノ情勢ニ鑑ミマシテ、國民ノ健康ノ保持增進ヲ圖ルコトノ緊要デアルコトハ申ス迄モナイ所デアリマス、現在我ガ國ニ於ケル健康保險制度ト致シマシテハ、御承知ノ如ク工場、鑛山等ノ勞働者ニ對シテ健康保險ノ制度ガアリマス、又此ノ外ニ農山漁村居住者、中小商工業者等ニ對シマシテ、國民健康保險ノ制度ガ實施セラレテ居ルノデアリマスガ、都市ノ給料生活者、商店使用人等ニ付キマシテハ、マダ保護ノ施設ガ講ゼラレテ居ラナイノデゴザイマス、然ルニ是等ノ被傭者ハ、經濟的ニモ其ノ保護ヲ必要トスル程度ニ於キマシテ、工場、鑛山等ノ勞働者ト異ル所ガナイノミナラズ、其ノ健康狀態ニ照シマシテモ、之ガ健康ノ保持增進ヲ圖ルコトノ必要ハ、國民保健ノ上カラ誠ニ緊切ナルモノガアルノデゴザイマス、仍テ是等ノ者ニ對シマシテ、適切ナル健康保險ノ制度ヲ創設致シマシテ、其ノ健康ノ保持增進ヲ圖ルト共ニ、生活ノ安定ニ資スルコトト致シマシテ、茲ニ本法案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上速カニ御協贊アラムコトヲ希望致シマス

○子爵戶澤正己君　只今議題トナリマシタ職員健康保險法案ハ、重要ナル法案デアリマスルガ故ニ、此ノ特別委員ノ數ヲ十八名トシ、其ノ委員ノ指名ヲ議長ニ一任スルノ動議ヲ提出致シマス

○子爵秋田重季君　贊成

○議長（伯爵松平賴壽君）　戶澤子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス

（丸龜書記官朗讀）

職員健康保險法案特別委員

公爵鷹司信輔君　侯爵蜂須賀正氏君
伯爵堀田正恒君　子爵松平保男君
子爵富小路隆直君　子爵實吉純郎君
織田萬君　小原直君
河井彌八君　男爵小池正晃君
河原田稼吉君　下村宏君
男爵大森佳一君　男爵園田武彥君
若尾璋八君　磯野庸幸君
濱口儀兵衞君　松岡潤吉君

○議長（伯爵松平賴壽君）　日程第七酪農業調整法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、櫻內農林大臣

酪農業調整法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十四年三月十四日

衆議院議長　小山松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

酪農業調整法案

酪農業調整法

第一條　本法ハ牛乳ノ需給ノ圓滑及取引ノ公正ヲ圖リ竝ニ牛乳ノ生產業及乳製品ノ製造業ヲ調整シ以テ畜產ノ健全ナル發達ヲ期スルコトヲ目的トス

第二條　行政官廳ノ指定スル地域內ニ於テ牛乳ノ生產ヲ業トスル者ノ組織スル法人ニシテ勅令ヲ以テ定ムルモノ牛乳ノ販賣ニ關スル施設ヲ行フ場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ニ屆出ヲ爲スベシ

第三條　行政官廳牛乳ノ取引上ノ弊害ヲ豫防シ又ハ矯正スル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ法人ニ對シ牛乳ノ販賣ノ統制ニ關スル決定ヲ爲スベキコトヲ命ジ又ハ同條ノ地域內ニ於テ牛乳ノ生產ヲ業トスル者ニ對シ同條ノ法人ノ統制ニ關スル決定ニ從フベキコトヲ命ズルコトヲ得

第四條　牛乳ノ販賣ヲ業トシ又ハ乳製品ノ製造事業ヲ爲ス者行政官廳ノ指定スル地域內ニ於テ牛乳ノ生產ヲ業トスル者又ハ其ノ組織スル法人ト繼續シテ牛乳ノ取引ヲ爲サントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ價格、數量其ノ他牛乳ノ取引ニ關スル事項ニ付行政官廳ノ許可ヲ受クベシ

行政官廳牛乳ノ取引上ノ弊害ヲ豫防シ又ハ矯正スル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ前項ノ取引ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第五條　勅令ヲ以テ定ムル乳製品ノ製造事業（製酪業）ヲ爲サントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ工場ノ位置、製品ノ種類及數量其ノ他其ノ事業ニ關スル事項ニ付行政官廳ノ許可ヲ受クベシ

第六條　前條ノ許可ヲ受ケタル者（製酪業者）ハ製酪業ノ改良發達及統制ヲ圖ル爲製酪業者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ

定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ行政官廳ノ認可ヲ受ケ製酪業組合ヲ設立スルコトヲ得

第七條　製酪業者製酪業組合ヲ設立セザル場合ニ於テ行政官廳特ニ必要アリト認ムルトキハ製酪業者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ製酪業組合ノ設立ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ設立ヲ命ゼラレタル者ハ前條ノ規定ニ從ヒ其ノ設立ニ付行政官廳ノ認可ヲ受クベシ

第八條　製酪業組合ハ法人トシ全國ヲ通ジ一個トス

製酪業組合ハ營利ヲ目的トシテ其ノ事業ヲ營ムコトヲ得ズ

第九條　製酪業組合ニハ所得稅及營業收益稅ヲ課セズ

第十條　製酪業組合ハ左ノ事業ヲ行フコトヲ得

一　乳製品ノ製造、販賣及出荷ニ關スル統制

二　乳製品ノ販賣及出荷ニ關スル共同施設

三　乳製品ノ檢査

四　製酪業ノ經營ニ必要ナル物ノ供給

五　其ノ他組合ノ目的達成上必要ナル事業

製酪業組合前項第一號ノ事業ヲ行フ場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ認可ヲ受クベシ

第十一條　製酪業組合ハ設立ノ認可アリタル時成立ス

製酪業組合ノ設立アリタルトキハ主タル事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スベシ登記シタル事項中ニ變更ヲ生ジタルトキ亦同ジ

製酪業組合ノ設立又ハ登記シタル事項ノ變更ハ其ノ登記ヲ爲スニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第十二條　製酪業組合ノ設立アリタルトキハ製酪業者ハ其ノ組合ノ組合員トス

第十三條　製酪業組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ組合員ニ對シ經費ヲ分賦シ及過怠金ヲ課スルコトヲ得

第十四條　行政官廳必要アリト認ムルトキハ製酪業組合ノ組合員ニ對シ第十條第一項第一號ノ統制ニ關スル組合ノ決定ニ從フベキコトヲ命ズルコトヲ得

第十五條　行政官廳ハ製酪業組合又ハ其ノ組合員ニ對シ其ノ業務ニ關シ報告ヲ爲サシメ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

行政官廳監督上必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ製酪業組合又ハ其ノ組合員ノ事務所、工場其ノ他ノ場所ニ臨檢シ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ

第十六條　製酪業組合ノ決議又ハ組合ノ役員ノ行爲ガ法令、定款若ハ行政官廳ノ處分ニ違反シタルトキ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ行政官廳ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一　決議ノ取消

二　役員ノ解任

三　組合ノ事業ノ停止

四　組合ノ解散

第十七條　本法ニ規定スルモノヲ除クノ外製酪業組合ノ設立、登記、管理、解散、清算其ノ他組合ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條　行政官廳ハ第四條第一項又ハ第五條ノ許可ヲ受ケタル者ニ對シ許可ヲ受ケタル事項ニ關シ必要ナル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

行政官廳監督上必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ前項ニ規定スル者ノ事務所、工場其ノ他ノ場所ニ臨檢シ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ

第十九條　第五條ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズ又ハ許可ヲ受ケタル事項ニ依ラズシテ製酪業ヲ爲シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第三條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

二　第四條第一項ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズ又ハ許可ヲ受ケタル事項ニ依ラズシテ取引ヲ爲シタル者

三　第四條第二項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

四　第十四條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

第二十一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第十五條第一項又ハ第十八條第一項ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ又ハ虛僞ノ報告ヲ爲シタル者

二　第十五條第一項ノ規定ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタル者

三　第十五條第二項又ハ第十八條第二項ノ規定ニ依ル檢査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者

第二十二條　法人又ハ人ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ第十九條、第二十條又ハ第二十一條第一號若ハ第二號ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ其ノ法人又ハ人ハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第二十三條　第十九條、第二十條竝ニ第二十一條第一號及第二號ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第二十四條　左ノ場合ニ於テハ法人ノ理事其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ヲ三百圓以下ノ過料ニ處ス

一　第二條ノ規定ニ依ル屆出ヲ爲サズ又ハ虛僞ノ屆出ヲ爲シタルトキ

二　第十六條第三號ノ規定ニ依ル處分ニ違反シ事業ヲ停止セザルトキ

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ之ヲ準用ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際現ニ第四條第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ受クベキ取引ヲ爲ス牛乳ノ販賣ヲ業トシ若ハ乳製品ノ製造事業ヲ爲ス者若ハ之ヲ承繼シタル者又ハ本法施行ノ際現ニ第五條ノ規定ニ依リ許可ヲ受クベキ製酪業ヲ爲ス者若ハ之ヲ承繼シタル者ハ本法施行ノ日ヨリ一年ヲ限リ第四條第一項又ハ第五條ノ規定ニ拘ラズ命令ノ定ムル所ニ依リ引續キ其ノ取引ヲ爲シ又ハ其ノ事業ヲ爲スコトヲ得

前項ニ揭グル者前項ノ期間內ニ第四條第一項又ハ第五條ノ許可ヲ申請シタル場合ニ於テ其ノ申請ニ對スル許可又ハ不許可ノ處分ノ日迄亦前項ニ同ジ

（國務大臣櫻內幸雄君演壇ニ登ル）

○國務大臣（櫻內幸雄君）　只今議題トナリマシタ酪農業調整法案ノ提案理由ヲ御說明致シマス、近時我ガ國ノ酪農業ハ、長足ノ進步發達ヲ遂ゲテ參ッタノデアリマシテ、酪農生產物ハ逐年增加致シマスル國內需要ヲ優ニ充タスノミナラズ、更ニ進ンデ其ノ一部ヲ練乳「バター」等トシテ南洋、「ヨーロッパ」等ノ海外市場ニ輸出スルニ至ッタノデアリマス、併シナガラ一面從來ノ酪農業ニ關スル制度ニ付キマシテハ、十分ナラザルモノガアリマシテ、牛乳生產業者ト乳製品製造業者トノ間、或ハ當業者相互ノ間ニ於テ、徒ラナル摩擦ヲ惹起シ、爲ニ動モスレバ牛乳ノ需給ノ圓滑及ビ取引ノ公正ヲ期シ難キ憾ガアリ、又乳製品ノ製造販賣ニモ種々支障ヲ生ジツヽアリマシテ、之ガ爲一層伸ビルベキ我ガ國酪農業ノ發達ヲ阻害シテ居ル現狀ニアルノデアリマス、從ヒマシテ是等ノ關係ヲ調整致シマシテ合理化シ、一層斯業ノ進展ヲ圖リ、豐富且低廉ナル酪農生產物、殊ニ輸出向乳製品ノ生產ヲ促進致シマスコトハ、農家經濟ノ安定ヲ期スル所以デアリマシテ、延イテハ國民體位ノ向上ノ爲ニモ、亦國際貸借改善ノ爲ニモ、誠ニ緊要ト認メラルヽノデアリマス、右ノ趣旨ニ基キマシテ此ノ度酪農業調整法ヲ制定セムトスルノデアリマスガ、本案ノ內容ハ牛乳生產業者ト乳製品製造業者トノ雙方ニ亙リ團體ヲ整備シ、其ノ活動ヲ促進致シマスルト共ニ、之ニ對シ行政官廳ガ適當ナル監督ヲ加ヘマシテ、牛乳ノ需給ノ圓滑及取引ノ公正ヲ圖リ、以テ畜產ノ健全ナル發達ヲ期セムトスルモノデアリマス、幸ニシテ本案成立ヲ見マスルナラバ、政府ガ從來ヨリ實施シテ參リ、又今後新タニ設ケマスル酪農關係ノ諸施設ト相俟チマシテ、我ガ國酪農業ノ進展ノ上ニ裨益スル所頗ル大ナルモノガアルト信ズルノデアリマス、何卒御審議ノ上御協贊アラムコトヲ希望致シマス

○議長（伯爵松平賴壽君）　別ニ御質疑ガナケレバ本案ノ特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス

（丸龜書記官朗讀）

酪農業調整法案特別委員

侯爵西鄉吉之助君　　子爵米津　政賢君
男爵周布　兼道君　　男爵岩村　一木君
有賀　光豐君　　岡田　文次君
瀧川　儀作君　　沖井　德藏君
水野甚次郎君

○議長（伯爵松平賴壽君）　日程第八、明治四十五年法律第二十三號中改正法律案、日程第九、地方鐵道法中改正法律案、日程第十、軌道法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長報告、是等ノ三案ヲ一括シテ議題ト爲スコトニ御異議ハゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス、委員長堀田伯爵

（左ノ報告書ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載錄ス以下之ニ倣フ）

明治四十五年法律第二十三號中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十四年三月十三日

委員長　伯爵堀田　正恒

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

地方鐵道法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十四年三月十三日

委員長　伯爵堀田　正恒

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

軌道法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十四年三月十三日

委員長　伯爵堀田　正恒

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

（伯爵堀田正恒君演壇ニ登ル）

○伯爵堀田正恒君　只今上程セラレマシタ明治四十五年法律第二十三號中改正法律案ニ對シマスル特別委員會ノ經過竝ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、本案ハ朝鮮事業公債法中改正法律案ノ委員會ニ併託ニ相成ッタノデアリマス、委員會ハ前後五回ニ亙リマシテ開會致シマシタ、本案ノ骨子ハ樺太ノ封鎖炭田ヲ人造石油製造事業會社ニ開封スル場合ハ、競爭入札ノ原則ニ依ラズ行政官廳ニ於テ適當ニ之ヲ行ハムトスルモノデアリマシテ、最初ニ政府ノ原案ノ說明ガアリマシタガ、是ハ過日本會議デ說明ガゴザイマシタカラシテ省略ヲ致シマス、本案ハ極メテ簡單ナ改正法案デアリマスケレドモ、改正ノ結果ハ人造石油事業ノ促進上尠カラヌ關係ヲ有シマスルノデ、封鎖炭田ニ關スル點バカリデナク、燃料政策全般ニ亙ッテ質疑ガアッタノデアリマスガ、今其ノ主ナルモノヲ御紹介申上ゲマスレバ、第一ニ、人造石油製造事業ノ許可ヲ受ケタル會社ガ二ツ以上アル場合ニ、其ノ會社間ニ競願トナッタナラバ之ヲドウスルカ、政府ハ、運用ニ依ッテ競願ヲ避ケシムル方法ヲ講ズルコトト致シタイト云フ答辯デゴザイマシタ、第二ニ、改正ノ規定ニ依リ、樺太石炭ヲ利用シ今後進出ヲ豫想シ得ル人造石油會社如何、之ニ對シマシテ政府ハ、帝國燃料興業會社ヲ樺太ニ誘致シテ、相當大規模ニヤラセタイ、而シテ民間會社モ亦資本的ニ結合シテヤラシタイ、併シナガラ何處迄モ帝國燃料株式會社ヲ母體トシテヤラセタイ、斯ウ云フ答辯デゴザイマシタ、第三ニ、帝國燃料ノ樺太ニ於ケル事業計畫ニ付テ質問ガゴザイマシタ、之ニ對シマシテ政府ハ、第一期計畫トシテ年產百二十萬「トン」ノ採炭ニ依リ、二十三萬「キロリットル」ノ石油ヲ製造スル豫定デ、之ニ要スル資金ハ一億二千萬圓位デアルガ、差當リ四千萬圓程度ノ子會社ヲ作リ、炭坑ノ開發竝ニ工場其ノ他ノ施設ヲ爲シ、昭和十八年頃ニハ豫定ノ通リ低溫乾溜法、「タール」水素添加法、及ビ直接液化法ノ三方法ニ依リ、全工場ノ運轉ヲ爲ス豫定デアルト云フ答辯デゴザイマシタ、第四ニ、採掘料ノ決定方法如何ト云フ質問ガアリマシテ、政府ハ炭坑ノ位置、鑛區面積、炭質、炭量、炭價、生產費、採炭高、起業費等ヲ十分調査シ、商工省トモ協議シ、拓務大臣ノ認可ヲ受ケテ決定シタイト云フコトデアリマシタ、採掘料ニ付キマシテハ種々細カイ御質問ガアリマシタガ省略致シマス、尙液體燃料關係ニ付キマシテハ、物動計畫ニ關シマシテ、祕密會ノ下ニ企畫院總裁ヨリ詳細ナル御說明ノアッタコトヲ御報告申上ゲマス、其ノ他樺太ニ於ケル石炭、石油事情、鐵道、港灣施設ノ計畫、採掘料ノ收入ノ使途、油田調査ノ狀況、石油試掘ニ對スル政府ノ方針、我ガ國ニ於ケル液體燃料政策、液化事業ノ現況及ビ將來ノ計畫等ニ付キマシテ御質問ガゴザイマシタガ、全部速記錄ニ讓リマス、質問ガ終リマシテ討論ニ入リ、二名ノ委員ヨリ同一ノ意味ノ御意見ガゴザイマシタ、卽チ採掘料ノ價格決定ニ當ッテハ、商工省ト愼重ニ協議シ、以テ公正妥當ナル價格ヲ決定スルヤウ、特ニ注意シテ貰ヒタイト云フ御意見ノ下ニ、贊成ノ意思ヲ表示サレマシタ、外ニハ御意見ガゴザイマセヌデ、採決ニ入リ、全會一致可決スベキモノト決シマシタ、次ニ只今上程サレマシタ地方鐵道法中改正法律案及軌道法中改正法律案ノ特別委員會ノ經過竝ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、是等ノ法案モ同ジク朝鮮事業公債法中改正法律案ノ委員ニ併託ニナリマシテ、委員會ハ前後三回開會致シマシタ、是等ノ法案ノ內容ヲ申上ゲマス、現行地方鐵道法ハ商法ノ特別規定トシテ、地方鐵道會社及軌道會社ニ對シ株金全額拂込前ト雖モ主務大臣ノ認可ヲ受ケ、線路ノ延長又ハ改良ノ費用ニ充ツル爲其ノ資本ヲ增加シ得ルコトヲ認メ、又利益配當ニ關シマシテ、所謂後配株ヲ發行シ得ルコトトシテ居ルノデアリマスガ、改正商法ハ一般的ニ同樣ノコトヲ認メマシタノデ、右特別規定ヲ廢シマシテ、地方鐵道會社及軌道會社モ商法ノ一般的規定ニ從ヒ、主務大臣ノ認可ヲ要セズ自由ニ爲シ得ルヤウニシタノデアリマス、又主務大臣ハ現在ノ交通機關ノ發達ノ實情ニ鑑ミ、必要ニ應ジ自動車トノ連絡運輸ヲモ命ジ得ルコトトシ、又交通事業ノ機能ノ增進ヲ圖ル爲、運賃其ノ他ニ關スル運輸協定ヲモ命ジ得ルコトトシタノデアリマス、又地方鐵道又ハ軌道ノ買收又ハ補償ニ際シ交付スベキ買收代價又ハ補償金ハ、五分利附國債證券ヲ以テ交付スルコトニナッテ居ッタノデアリマスルガ、今日ハ此ノ種國債證券ガ著シク減少シマシタノデ、隨時金利ノ狀態ニ應ジテ發行セラルヽモノヲ以テ交付シ得ルコトトシタノデアリマス、又陸運ニ關スル鐵道大臣ノ權限ガ增大スルニ伴ヒ、中央ノ事務モ著シク繁雜トナルニ至ッタノデ、事務簡捷ノ趣旨ヲ以テ主務大臣ノ權限中主トシテ營業方面ニ屬スルモノヲ、地方鐵道局長ニ委任スルコトヲ得ルコトトシタノデアリマス、又地方鐵道ニ對スル營業繼續補償ノ際ノ補給金ノ限度百分ノ七ヲ百分ノ五ニ改メタノデアリマス、質問ノ要點ヲ申上ゲマス、軌道法ハ馬車鐵道或ハ其ノ他小サイ鐵道ヲ監督スル爲ニ起ッタ法規デアル、之ニ反シテ地方鐵道法ハ日本鐵道、山陽鐵道、關西鐵道等、比較的大キナ鐵道ヲ監督スル爲ニ起ッタ法規デアル、然ルニ今日ノ狀態ハ何レガ軌道カ、地方鐵道カ誠ニ不明ニナッテ居ル、例ヘバ東京ノ地下鐵道ハ地方鐵道、大阪ノ地下鐵道ハ軌道デアル、又大阪鐵道、阪和鐵道ハ地方鐵道デアル、阪急、阪神ハ軌道デアル、サウシテ軌道ハ軌道法ニ依ッテ監督ハ鐵道大臣、內務大臣デアリ、地方鐵道ハ地方鐵道法ニ依リ監督ハ鐵道大臣トナッテ居ル、誠ニ複雜多樣デアル、今日ニ於テハ最早地方鐵道、軌道ノ區別ヲ設ケル必要ガナイト考ヘルガ、政府ハドウ考ヘルカ、政府ハ交通行政ニ付テハ隨分努力シテ居ルガ、監督行政ニ付テハ十分デナイヤウデアルガ、之ヲ統一スル考ハナイカト云フ質問ガアリマシタ、之ニ對シテ內務大臣、鐵道大臣カラ同意味ノ御答辯ガゴザイマシタ、監督行政ニ付テモ是非統一シテ行キタイ、併シナガラナカ／＼ムツカシイ問題デアルカラシテ、十分研究シテ努力シタイ、斯ウ云フ御答辯デゴザイマシタ、又大陸交通政策ト云フカ、日滿支ノ交通政策中、最モ重要ナモノハ鐵道政策デアルト思フガ、政府ハドウ云フ風ニヤッテ居ルカ、日滿支運輸連絡上、又輸送力增進ノ意味カラシテ、政府ハ東京・下關間ニ廣軌線ヲ設ケムトスルヤウニ聞イテ居ルガ、果シテサウデアルカ、斯ウ云フ御質問ガアリマシタ、日滿支ノ鐵道政策ニ付テハ、政府トシテハ萬遺憾ナキヤウ努力シテ居ル、鐵道ノ軌幅ニ付テモ非常ニ苦心シテ、ソレ／＼間ニ合セテヤッテ居ル、東京・下關間ニ於ケル人的、物的兩方面ノ輸送力增進ニ付テハ、特ニ頭ヲ惱マシテ居ル、殊ニ大陸經營ニ乘リ出スカラニハ、單ニ部分的ノ改良、車輛ノ增加等デハ間ニ合ハナイ、十分餘裕アル計畫ヲ立テテ行カナケレバナラヌト思フ、政府ハ東京・下關間ニ廣軌線ヲ設ケルト云フコトヲ定メテハ居ラナイ、白紙デアルガ、併シ省內デモ熱心ニ考究シツヽアリ、又審議會ニ於テモ御研究ヲ願ッテ、善處シテ行キタイト思ッテ居ル、斯ウ云フ御答辯デアリマシタ、次ニ現今ノ輸送力不足ニ對スル對策如何ト云フ御質問ガアリマシタ、政府ハ、事變下軍事輸送ニ對應スル爲、貨物運送ヲ先ニシテ旅客運送ヲ後ニシタ爲ニ、一般旅客ニ不便ヲ生ゼシメタコトハ誠ニ遺憾デアル、併シナガラ漸次軍事輸送モ整備シテ來、又一方今迄機材ガ不足シテ居タ爲ニ、車輛ヲ思フヤウニ造ルコトガ出來ナカッタケレドモ、段々出來ルヤウニナリ、此ノ二月頃ニハ相當出來ルヤウニナッタ、昭和十四年度ニ於テハ機關車五百二十二、電氣機關車十七、客車四百四十八、電車六十、貨車一萬二百五十七、計一萬千三百四臺出來ル豫定デアッテ、來年ニハ相當量增加ガ出來ル見込デアル、又終夜運轉シテ不足ヲ補ッテ見タラドウカト云フ御意見モアルガ、果シテ終夜運轉シテ需要ガアルカナイカ疑問デアル、是ハ民間ノ交通事業者トモ能ク相談シテ善處シテ行キタイ、團體旅行ハ成ルベク遠慮シテ貰ヒ、又遊覽ノ爲ニ便宜ヲ計ッテ

居ッタノヲ是モ止メテ、一般旅客ニ先ツルヤウニシテ居ル、斯ウ云フ御答辯デアリマシタ、其ノ他陸上交通事業調整法ノ實績竝ニ今後ノ方針、又省營自動車ノ經營方針等ニ詳細ナル御質問ガアリマシタガ、速記錄ニ讓リマス、討論ニ入リマシテ一委員ヨリ、事變下輸送力不足ハ已ムヲ得ナイトスルケレドモ、長期戰ニ入ッタ今日、銃後ノ護タル國民ガ其ノ爲ニ受ケル不便餘リニ大デアッテ、活動セムトシテ其ノ活動ヲ殺ガレルコトハ事變ニ影響スル所甚大デアルカラシテ、政府ハ輸送力不足ニ對スル對策ニ付テハ、愼重考慮ヲ拂ッテ貰ヒタイト云フ希望ヲ付ケマシテ贊成セラレマシタ、又一委員ヨリ今回ノ改正ハ已ムヲ得ナイト思フガ、不十分デアル、未ダ根本的改正ノ方法ハアリハシナイカ、例ヘバ最早ヤ今日ハ地方鐵道、軌道ノ區別ハ不要デアルカラシテ、地方鐵道法、軌道法ヲ一本ニスルト云フガ如キ方法ハアリハシナイカ、故ニ政府ハ將來ニ於テ根本的改正ヲ爲スコトヲ考ヘテ貰ヒタイト云フ希望ヲ述ベラレマシテ兩案ニ贊成セラレマシタ、採決ニ入リマシテ全會一致可決スベキモノト決シマシタ、右御報告申上ゲマス

○議長（伯爵松平賴壽君）　別ニ御發言モナケレバ三案ノ採決ヲ致シマス、三案ノ第二讀會ヲ開クコトニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君　直チニ各案ノ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君　贊成

○議長（伯爵松平賴壽君）　西大路子爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス

○議長（伯爵松平賴壽君）　三案ノ第二讀會ヲ開キマス、御異議ガナケレバ全部ヲ問題ニ供シマス、三案全部、委員長ノ報告通リデ御異議ハゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君　直チニ各案ノ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君　贊成

○議長（伯爵松平賴壽君）　西大路子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス

○議長（伯爵松平賴壽君）　三案ノ第三讀會ヲ開キマス、三案全部、第二讀會ノ決議通リデ御異議ハゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス

○議長（伯爵松平賴壽君）　此ノ際、先日ノ土方寧君ノ質疑ニ對シマシテ總理大臣及文部大臣ノ御答辯ガアリマス、此ノ際之ヲ許可致シマス、文部大臣

〔國務大臣男爵荒木貞夫君演壇ニ登ル〕

○國務大臣（男爵荒木貞夫君）　此ノ場合去ル七日ノ本會議ニ於キマシテ、土方博士ヨリ内閣總理大臣及文部大臣ニ對シテノ御質疑ニ對シマシテ、便宜私ヨリ御答ヘ致シテ置キタイト存ジマス、御示ニナリマシタ軍人ニ賜リタル勅諭、教育勅語、戊申詔書、國民精神作興ニ關スル詔書ハ、何レモ常ニ臣民ノ拳々服膺致シマシテ、實踐ニ努メルベキモノデゴザイマス、教育ニ於テモ特ニ此ノ點ニ力ヲ致シマスルコトヲ切要ト考ヘマシテ、常ニ此ノ點ニ留意致シテ居ル次第デアリマス、而シテ常ニ國民精神ノ剛健ニ留意致シマシテ、浮華放縱ヲ付ケテ恭儉勤敏、各々業ニ服シ、産ヲ治メ、醇厚中正ノ風俗ヲ涵養致シマシテ、假ニモ荒怠スルコトヲ相誡メマシテ、殊ニ現下ノ時局ニ於テハ是等ノ點ハ最モ肝要ト存ジマシテ、從ッテ是等ニ關シテ假ニモ、御聖旨ニ背クヤウナコトハ嚴ニ誡メネバナラヌト存ジマス、御指摘ノ競馬法中ノ勝馬投票券ノ發賣ニ付キマシテハ、其ノ實施ニ當ッテ愼重ナル注意ヲ致シマスルナラバ、馬政上ヨリノ見地モアルコトデアリマスル、此ノ程度ニ於テハ其ノ運用宜シキヲ得マスルナラバ、聖旨ニ背クモノト存ジ得ラレナイノデゴザイマス、併シナガラ兎角其ノ弊ニ陷リ易キ點等ニ付キマシテハ、教育上ニ於テモ將又行政上ニ於テモ、十分ナル注意ヲ加ヘマシテ、假ニモ誤リナキ樣努力致シタイト考ヘテ居ル次第デアリマス、以上ヲ以テ御答ト致シマス

○議長（伯爵松平賴壽君）　平沼總理大臣

〔國務大臣男爵平沼騏一郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣（男爵平沼騏一郎君）　土方君ノ御質問ニ對スル御答辯ハ、只今文部大臣ヨリ詳細申シマシタ通リデゴザイマス、私ニ於キマシテモ只今文部大臣ノ御答ヲ致シマシタ通リト信ジテ居リマス、左樣御承知ヲ願ヒマス

〔土方寧君演壇ニ登ル〕

○土方寧君　私ガ一週間程前ニ、馬券附ノ競馬ヲ公許スルノハ善クナイト云フ意味ノ質問ヲ致シマシタ、今文部大臣ハ勝馬投票券ト仰シヤイマシタガ、現行ノ競馬法ニハサウナッテ居リマスガ、馬券ト云フモノガ如何ニモ不評判ニナッテ、戊申詔書ヲ拜セラレタ、其ノ時ト同ジ名前ヂヤ宜クナイカラト云フノデ勝馬投票券トナッタノデアリマスガ、世間ヂヤ皆馬券ト言ッテ居リマス、私ノ質問ハ文部大臣モ御述ニナッテ居ルヤウニ、軍人ニ賜ッタ勅諭、教育勅語、戊申詔書、大正ノ震災後ノ國民精神作興ニ關スル勅諭、此ノ四ツノモノヲ引用シマシテ、之ヲ一貫セル聖旨ニ反スルモノヂヤナイカト云フ意味ノコトヲ質問シタノデアリマス、サウ云フモノヲ引用シテ質問シタノデアリマスカラ、無論ドナタデモ皆暗記シテオイデニナル譯デモアリマスマイ大體趣意ダケハ……、ダカラ卽答ハ促サナカッタ、一週間後ノ今日初メテ御答辯ヲ得マシタ、無論總理大臣モ、文部大臣モ、政務多端デ御忙シイデアリマセウケレドモ、私ハ是ハ實ニ重大ナ問題ダト思ヒマス、是ハ聖旨ニ反シテ居ハシナイカ否ヤト云フ問題デアリマス、十分ニ一週間御熟慮ニナッテノ御答辯ト考ヘマス、文部大臣ハ前半ノ仰シヤッタコトハ其ノ通リデアル、尤モナコトデアリマス、其ノ實際ノコトガ問題ニナッテ居ル、適用ノ點ニ付キマシテハ頗ル曖昧デアリマス、此ノ程度ニ於テハ左程害ガナイト思ッテ居リマス、總理大臣ハ何ニモ仰シヤラナイ、文部大臣ノ通リデ宜シイ、斯クノ如キ御答辯ヲ得マスト云フコトハ誠ニ失望致シマシタ、遺憾至極ニ存ジマス、私ガ望ム通リノコトヲ申シマスナラバ、前回引用シマシタ勅語、勅諭等ノ字句ヲ引用シテ、其ノ解釋適用ニ付テ詳論シタイノデアリマスガ、左樣ニスルコトハ幾多ノ重要ナ議案ヲ目前ニ控ヘ、會期切迫ノ折デアリマスカラ差控ヘマス、文部大臣ノ御答辯ハ如何ニモ抽象的ノコトデアル、是デハドウモ一般ノ民衆ニ本心ノ在ル所、御趣意ノアル所ハ分ラナイト思ヒマスカラ、具體的ノ場合ヲ想定シマシテ、斯ウ云フ場合ニハドウナルカト云フコトヲ重ネテ御尋シタイ、例ヘバ世間ニハ隨分競馬好キノ人ガ多イヤウデアリマシテ、競馬ガアルト其處ヘ行ク鐵道ナドト云フモノハ混雜シテ、普通ノ乘客ナドハ乘レヌト云フ有樣ニナッテ居リマス、如何ニ競馬ニ行ク人ガ多イカヾ分ル、其ノ中ニハ唯觀ル人モ多數デアリマセウ、ケレドモ隨分多クノ人ガ所謂馬券ヲ買フト云フ趣旨デ行ク、サウ云フ者モ世間デハ競馬狂トデモ言ヒマセウ、ソレデ茲ニ或家庭ノ主人ニ所謂競馬狂ノ一人ガアル、競馬ガアル毎ニ行ク、業ヲ休ンデ行ク、偶ニハ儲カルラシイ、サウ云フ時ニハ醉ッ拂ッテ遅ク歸ッテ來ル、何レマア同行ノ者ト一緒ニ酒デモ飲ミニ行ッタンデセウ、惡錢身ニ著カズト云フ譯デアリマス、儲カッタ時ニハ一般ニハ家ニハ金ヲ持ッテ歸ラヌ、處ガ多クノ場合ハ失敗シテ、持ッテ行ッタ金ヲ無クシテシマフ、場合ニ依ルト借金シテシマッテ來ル、サウ云フ時ニハ酒飲ミニモ行ケマセヌカラ、悄氣返ッテ家ニ歸ッテ來ル、妻君ガドウデスカト云フ、失敗シタ、大變ニ悄氣テ居ル、持ッテ居タオ金ハ使ツテ足ラヌカラ又他人カラ金ヲ借リテ來タ仕末ダト云フ、實ニ困リマス、ソレダカラ豫テカラ申シマス、業ヲ休ンデ競馬ニ金ヲ持ッテ行ッテ、無クシテ來ルト云フヤウナコトデハ家ガ立行キマセヌ、先ヅ差當リ月末ノ拂ヒヲドウシマスト言フテ、泣イテ、ドウカ斯ウ云フコトハ良クナイカラ止メテ下サイト言ッテ訴ヘル、處ガ競馬狂ノ主人ハ失敗シテ歸ッテ、宜イ加減氣ヲ惡クシテ居ル所ヘ女房カラ誡メラレルモノデスカラ、癇癪ヲ起シテ、默レト云フ譯デ、妻君ハ泣イテ誡メルケレドモ聞キマセヌ、處デ小學校ヘ行ッテ居ル子供ハ、夫婦ガサウ云フ問答ヲシテ居ルノヲ聞キマシテ、心配デナラナイ、其ノ心配ノ餘リ學校ヘ行キマスト、先生ニ家ノオ父サンハ斯ウ云フ譯デシタノデ、オ母サンガオ止メナサイト言ッタガ背キマセヌ、ドウモ兩親ガサウ云フコトデ誡ニ宜クナイカラ私ハ大變困リマス、ドウシタモノデセウ、オ母サンガ、良クナイカラオ止メナサイト仰ッシヤルノガ正シイノカ、ソレトモ許シテアルノダカラ構フモンカト云ッテ、オ止メニナラナイオ父サンノ方ガ宜イノデセウカ、ドチラガ正シイノデセウカト聞クト、折角ノコトダカラ私ハ御話シナケレバナリマセヌガ、豫々話シテ居ルノニ、斯ウ云フ馬券附ノ競馬ト云フヤウナモノハ賭博ニ似寄ッタモノ、賭ケ事ニ似寄ッタモノデ、宜クナイト云フコトハ幾多ノ勅語、勅諭ニアルコトデ、教育勅語ニモ「恭儉己レヲ持シ」トアル、タッタ四字デスガ非常ニ深イ意味ガアル、此ノ字句ニ付テモ豫々學校デ教ヘテアル通リデアリマス、ドウモオ母サンガ、良クナイコトハオ止メナサイト言フノガ正シイ、オ父サンガ惡クナイト云ッテ背カナイノハ宜クナイ、折角ノ御尋ダカラサウ答ヘル外アリマセヌガ、親ニ向ッテ强ク意見ヲスルノハ穩カデナイカラ、御歸リニナッタラ、心配ノ餘リ先生ニ伺ッタラ、斯ウ仰ッシヤッタト云フコトヲオ母サンニ申上ゲテ、オ母サント相談ノ上デ、成ルベク穩カニオ父サンニサウ云フコトハ止メテ下サイト、御話ニナッタラ宜イデセウト斯ウ云フコトデ、ソレカラオ母サンニソレヲ話シタ、オ母サンハ、子供モ一緒ニ心配シテ學校ノ先生ニ伺ッタラ斯ウ云フコトデアリマシタガ、私ガ言ヲダケデハアリマセヌ、アナタノヤウナコトヲシテ御イデニナッテハ家ガ立チマセヌ、ドウカ止メテ下サイト云フト、癇癪ヲ起シテ生意氣ナ、默レ〳〵、子供ノ癖ニ生意氣ダト云フヤウナコトデ一向應ジマセヌ、斯ウ云フコトハ私ガ想像シタコトデアリマスガ、聞ク所ニ依ルト之ニ類似ノコトハ全國諸處ニ澤山アルヤウデアリマス、警視廳ヤ或ハ地方ノ警察ノ方デ御調ベニナッタラ、競馬狂ガ家産ヲ傾ケ、且色々ノ犯罪ノ原因ニナッテ居ルト云フコトハ、存外多クアルト云フコトデアリマス、處ガ只今文部大臣ノ御答辯、總理大臣モ其ノ通リデ宜シイト仰セラレタ、現行競馬法ノ制度ニ於テハ前半ニ仰シヤッタ趣意ニ反シナイト云フ御答辯デアリマス、サウシマスト今ノ競馬狂ノ主人ガ公許ノモノダカラ惡イモノデナイト云フ主張ヲ是認サレルモノデアリマスカ否ヤ、競馬狂ヲ放ッテ置イテ、公許シテ何故宜イカ、惡ケレバソンナモノヲ許ス筈ハナイ、ソレヲ是認サレルコトニナルノデアリマスカ、明確ニ御答ヲ願ヒタイ、是ハ新聞記者ニ御願ヒシテ置キマスガ、抽象的ノ問答デハ世人一般ニ……

○議長（伯爵松平賴壽君）　新聞記者ニ此處デ言フコトハ……

○土方寧君　ソレヂヤ宜シウゴザイマス、アナタ方全部、此ノ議場ヲ通シテ世ノ中ニ機會ガアレバ御傳ヲ願ヒタイ、ドウモ抽象的ノ問答デハ實際ドウナルカ分リマセヌ、只今ノヤウナ例ヲ設ケマスト、是ハ決シテ空想ヂヤナイ、其ノコトハ警視廳ヤ警察署ヲ方々調ベタラ分ルト思ヒマス、ソレデ今ノ私ノ具體的ノ例ニ付テ、私ノ伺ッタ所デハ、文部大臣ノ御答ト總理大臣ノ御答ハ競馬狂ノ主人ノ言フコトヲ是認サレルト云フコトコトニナルト思ヒマスガ、ソレデ宜シイカト云フコトヲ伺ッテ、其ノ上ニ於キマシテハ又何カ申シマス

〔國務大臣男爵荒木貞夫君演壇ニ登ル〕

○國務大臣（男爵荒木貞夫君）　只今御引キニナリマシタ例ハ、其ノ法ヲ惡用シタモノデアリマシテ、其ノ點ニ付テハ決シテ之ヲ是認スルコトハ出來ナイト存ジマス、左樣ナ弊ニ對シマシテハソレ〳〵執ルベキ途ヲ取ッテ、之ヲ改メルコトガ聖旨ニ報イル所以ト存ジマス

〔土方寧君演壇ニ登ル〕

○土方寧君　ドウモ不得要領ノ御答デ驚キマシタ、惡用シタ結果ダ、競馬ノ馬券ヲ買ッテモ宜イコトニナッテ居ルノヲ買フノガ惡用デスカ、許シテアルノダ、答辯ニナラナイ、試驗問題ナラ落第ダ、斯樣ナ問答ヲシマシテモ何ニモ目的ヲ達シマセヌ、此ノ内閣デモ思想問題ヲ非常ニ强調セラレテ居ル、幾多ノ聲明モ發セラレテ居リマス、ケレドモ口ニ言ハレル所ノモノガ實際行ハレテ居ラナイ、却テソレヲ裏切ルコトヲ默許シテ居ラレル、公許セラレテ居ル、孔子ノ言ニ巧言令色仁ニ鮮シト云フコトガアリマスガ、仁ニ鮮イ位ノコトデハナイ、私ノ關スル所デハ文部大臣ノ先般仰シヤッタ趣意デ、馬券

附議馬ヲ行フト云フコトハ、聖旨ニ背キ、大義ヲ滅スルト斷言シテ宜イト思ヒマス、大義ヲ滅スルト言ッテ不服ナラバ、辯駁シテ下サイ、聖旨ニ背ケバ大義ヲ滅スル、大義ノ名分ガ立チマセヌ、ドウモコンナコトヲ言ッテモ、詰リ暖簾ニ腕押シシタヤウナコトデアリマシテ、謂ハバ馬ノ耳ニ念佛ノ類デアリマスカラ、是レ以上何モ言ヒマセヌ

○議長（伯爵松平頼壽君）　日程第十一ヨリ日程第二十一迄ノ請願、會議

〔左ノ意見書案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ玆ニ載錄ス以下之ニ倣フ〕

意見書案

寺院等ニ無償ニテ貸付シアル國有財産ノ處分ニ關スル法律案成立ニ關スル件

東京市本鄕區本鄕三丁目十六番地平民僧侶今井鐵城外二名呈出

東京市淺草區松清町四十番地平民僧侶爲鄕世淳外五名呈出

奈良市登大路町番外一士族僧侶大西良慶外二百二十二名呈出

右ノ請願ハ寺院ノ境內地護持保存ハ寺院存立ノ基礎ヲ鞏固ニシ其ノ敎化活動上寄與スル所大ナルニ依リ政府提出ニ係ル寺院等ニ無償ニテ貸付シアル國有財産ノ處分ニ關スル法律案ハ速ニ之ヲ成立セシメラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十四年　月　日

貴族院議長　伯爵松平　頼壽

內閣總理大臣男爵平沼騏一郎殿

意見書案

水產會ノ活動促進ニ關スル件

東京市赤坂區溜池町一番地帝國水產會長子爵野村益三呈出

右ノ請願ハ我國漁村ノ現狀ニ鑑ミ之カ指導機關タル系統水產會ノ活動ヲ促進スルハ緊要ナルニ依リ速ニ國庫補助ノ增額其ノ他適切ナル方策ヲ講セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十四年　月　日

貴族院議長　伯爵松平　頼壽

內閣總理大臣男爵平沼騏一郎殿

意見書案

水產試驗機關ノ整備充實ニ關スル件

東京市赤坂區溜池町一番地帝國水產會長子爵野村益三呈出

右ノ請願ハ我國水產業ハ近時長足ノ進歩ヲ爲セルモ尙時局ニ鑑ミ漁業用物資ノ節約、代用品ノ研究等科學的ノ探究ニ俟ツヘキモノ多キニ依リ速ニ水產試驗機關ノ整備充實ヲ圖リ以テ漁業經營ノ改善ニ資セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十四年　月　日

貴族院議長　伯爵松平　頼壽

內閣總理大臣男爵平沼騏一郎殿

意見書案

漁業用資材ノ配給ノ圓滑竝價格ノ合理化ニ關スル件

東京市赤坂區溜池町一番地帝國水產會長子爵野村益三呈出

右ノ請願ハ漁業用物資ノ規正ハ益强化セラレムトスルノ實情ニ在ルノミナラス統制ニ依リ價格ノ暴騰、配給ノ不圓滑ヲ來タシ爲ニ生產ノ確保期シ難キモノアルハ其遺憾ナルヲ以テ速ニ適當ノ對策ヲ講セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十四年　月　日

貴族院議長　伯爵松平　頼壽

內閣總理大臣男爵平沼騏一郎殿

意見書案

北海道船舶業者所有船舶ノ燃料配給ニ關スル件

北海道天鹽郡天鹽町長梨澤環呈出

右ノ請願ハ北海道天鹽町ノ船舶所有者ハ其ノ業地概ネ樺太及本土方面ナル爲同町ニ於テ交付シタル燃料購買券ハ其ノ用ヲ爲ササルコト多ク所要燃料ノ購買上不便少カラサルニ依リ昭和十四年度ハ北海道船舶業者ニ對シ同道ニ於テ交付シタル船舶燃料購買券ハ樺太ニ於テモ通用シ得ルノ方法ヲ講セラレタシトノ趣旨ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十四年　月　日

貴族院議長　伯爵松平　頼壽

內閣總理大臣男爵平沼騏一郎殿

意見書案

遠羽線鐵道速成ノ件

北海道留萌郡留萌町長赤石忠助外九名呈出

右ノ請願ハ未成線遠羽線鐵道ノ速成ハ北海道天鹽沿岸鐵道ノ完通トナリ沿線地方ニ於ケル林、鑛產資源及海田ノ開發上資スル所大ナルノミナラス運輸交通竝軍事上亦須要ナルニ拘ラス之カ工事ハ昭和十二年度ヨリ五箇年計畫ヲ以テ著手ニ決定シタルモ其ノ後豫期ノ漁撈ヲ見ス殆ント中止ノ狀態ナルハ遺憾ナルニ依リ速ニ同鐵道ノ實現ヲ圖ラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十四年　月　日

貴族院議長　伯爵松平　頼壽

內閣總理大臣男爵平沼騏一郎殿

意見書案

南勝線鐵道關金、山守間ノ泰久寺ニ停車場設置ノ件

鳥取縣東伯郡南谷村長西田延次外四名呈出

右ノ請願ハ鳥取縣東伯郡南谷村字泰久寺ハ交通ノ要衝ニシテ附近ニ農、林、鑛產等ノ資源ヲ擁シ停車場設置ノ好適地ナルニ拘ラス未成線南勝線鐵道中近ク著工セラレムトスル路線ニ於ケル停車場豫定地ハ關金及山守ノミナルハ甚遺憾ナルニ依リ泰久寺ニ停車場ヲ設置シ以テ運輸交通ノ利便ト產業ノ進展ニ資セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十四年　月　日

貴族院議長　伯爵松平　頼壽

內閣總理大臣男爵平沼騏一郎殿

意見書案

鳥取縣東伯郡古布庄村役場ニ電話架設ノ件

鳥取縣東伯郡古布庄村長杉山民次郎呈出

右ノ請願ハ鳥取縣東伯郡古布庄村ハ近時通信事務ノ增加等ニ伴ヒ電話ノ所要切ナルニ拘ラス今尙其ノ設備ナク之カ架設ニハ多額ノ費用ヲ要シ到底村財政ニテハ負擔ニ堪エサルヲ以テ同村役場ニ電話ヲ架設スルヤウ圖ラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十四年　月　日

貴族院議長　伯爵松平　頼壽

內閣總理大臣男爵平沼騏一郎殿

意見書案

高崎線電化促進ノ件

群馬縣高崎市長久保田宗太郎外十七名呈出

右ノ請願ハ群馬縣高崎市ト埼玉縣大宮町ヲ結フ帝都近郊ノ重要幹線タル高崎線ニ電車ヲ開通セシメ以テ時間ノ短縮ヲ圖リ且運轉回數ヲ增加スルハ產業交通、觀光竝國防上貢獻スル所多大ナルニ依リ速ニ之ヲ實現セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十四年　月　日

貴族院議長　伯爵松平　頼壽

內閣總理大臣男爵平沼騏一郎殿

昭和十四年　月　日

貴族院議長　伯爵松平　頼壽

內閣總理大臣男爵平沼騏一郎殿

○議長（伯爵松平頼壽君）　是等ノ請願ハ請願委員長ノ報告通リ、採擇スルコトニ御異議ハゴザイマセスカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長（伯爵松平頼壽君）　御異議ナイト認メマス

○議長（伯爵松平頼壽君）　次會ノ議事日程ハ決定次第、豊報ヲ以テ御通知ニ及ビマス、本日ハ是ニテ散會致シマス

午前十一時十三分散會

內閣印刷局

明治二十五年三月三十一日　第三種郵便物認可

官報

號外

昭和十四年三月十八日

○第七十四回帝國議會貴族院議事速記錄第二十四號

昭和十四年三月十七日（金曜日）午前十時十分開議

議事日程　第二十四號

昭和十四年三月十七日

午前十時開議

第一　昭和十四年度歲入歲出總豫算追加案（第一號）　會　議（委員長報告）

第二　昭和十四年度各特別會計歲入歲出豫算追加案（特第一號）　會　議（委員長報告）

第三　豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件（追第二號）　會　議（委員長報告）

第四　輕金屬製造事業法案（政府提出、衆議院送付）　第一讀會

第五　昭和十三年法律第六十四號中改正法律案（政府提出、衆議院送付）　第一讀會

第六　朝鮮銀行券及臺灣銀行券ノ保證發行限度ノ臨時擴張ニ關スル法律案（政府提出、衆議院送付）　第一讀會

第七　昭和十三年法律第二十三號中改正法律案（政府提出、衆議院送付）　第一讀會

第八　昭和十二年法律第八十四號中改正法律案（政府提出、衆議院送付）　第一讀會

第九　昭和十四年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲公債追加發行ニ關スル法律案（政府提出、衆議院送付）　第一讀會

第十　昭和七年法律第一號中改正法律案（政府提出、衆議院送付）　第一讀會

第十一　支那事變ニ關スル特別賜金ト シテ交付スル爲公債發行ニ關スル法律案（政府提出、衆議院送付）　第一讀會

第十二　昭和十三年法律第八十七號中改正法律案（政府提出、衆議院送付）　第一讀會

第十三　地方學事通則中改正法律案（政府提出、衆議院送付）　第一讀會

第十四　青年學校令ニ依リ就學セシメラルベキ者ノ就業時間ニ關スル法律案（政府提出、衆議院送付）　第一讀會

第十五　司法保護事業法案（政府提出、衆議院送付）　第一讀會

第十六　國際電氣通信株式會社法中改正法律案（政府提出、衆議院送付）　第一讀會

第十七　船員保險法案（政府提出、衆議院送付）　第一讀會

第十八　帝國鑛業開發株式會社法案（政府提出、衆議院送付）　第一讀會

第十九　大正九年法律第五十三號中改正法律案（政府提出、衆議院送付）　第一讀會

第二十　鑛業法中改正法律案（政府提出、衆議院送付）　第一讀會（委員長報告）

第二十一　青年學校教育費國庫補助法案（政府提出、衆議院送付）　第一讀會ノ續（委員長報告）

第一讀會ノ續（委員長報告）

○議長（伯爵松平賴壽君）（丸龜書記官朗讀）

一昨十五日本院ニ於テ可決シタル左ノ政府提出案ハ卽日裁可ヲ奏請シ又可決ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ

明治四十五年法律第二十三號中改正法律案

地方鐵道法中改正法律案

軌道法中改正法律案

同日本院ニ於テ採擇スルコトヲ議決シタル寺院等ニ無償ニテ貸付シアル國有財産ノ處分ニ關スル法律案成立ニ關スル請願外十件ノ請願ハ各〻意見書ヲ附シ卽日之ヲ政府ニ送付セリ

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

昭和十四年度歲入歲出總豫算追加案（第一號）、昭和十四年度各特別會計歲入歲出豫算追加案（特第一號）、豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件可決報告書

青年學校教育費國庫補助法案可決報告書

請願文書表（第八回報告）

昨十六日委員會ニ於テ當選シタル正副委員長ノ氏名左ノ如シ

恩給法中改正法律案特別委員會

委員長　公爵岩倉　具榮君

副委員長　子爵立花　種忠君

職員健康保險法案特別委員會

委員長　男爵大森　佳一君

副委員長　子爵實吉　純郎君

醫業調整法案特別委員會

委員長　子爵米津　政賢君

副委員長　男爵周布　兼道君

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

北海道拓殖銀行法中改正法律案可決報告書

金資金特別會計法中改正法律案可決報告書

同日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ

輕金屬製造事業法案

昭和十三年法律第六十四號中改正法律案

朝鮮銀行券及臺灣銀行券ノ保證發行限度ノ臨時擴張ニ關スル法律案

昭和十三年法律第二十三號中改正法律案

昭和十二年法律第八十四號中改正法律案

昭和十四年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲公債追加發行ニ關スル法律案

昭和七年法律第一號中改正法律案

支那事變ニ關スル特別賜金トシテ交付スル爲公債發行ニ關スル法律案

昭和十三年法律第八十七號中改正法律案

地方學事通則中改正法律案

青年學校令ニ依リ就學セシメラルベキ者ノ就業時間ニ關スル法律案

司法保護事業法案

國際電氣通信株式會社法中改正法律案

船員保險法案

帝國鑛業開發株式會社法案

大正九年法律第五十三號中改正法律案

同日衆議院ヨリ左ノ議案ヲ提出セリ

民族優生保護法案

○議長(伯爵松平賴壽君) 是ヨリ本日ノ會議ヲ開キマス、日程第一、昭和十四年度歳入歳出總豫算追加案、第一號、日程第二、昭和十四年度各特別會計歳入歳出豫算追加案、特第一號、日程第三、豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件、追第二號、會議、委員長報告、是等ノ三案ヲ一括シテ議題ト爲スコトニ御異議ガゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス、委員長渡邊子爵

(左ノ報告書ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ玆ニ載錄ス以下之ニ倣フ)

一昭和十四年度歳入歳出總豫算追加案(第一號)

一昭和十四年度各特別會計歳入歳出豫算追加案(特第一號)

一豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件(追第二號)

右衆議院ヨリ受領シタル各案ヲ審査シ總テ衆議院議決案ノ通可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十四年三月十五日

委員長　子爵渡邊千冬

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

(子爵渡邊千冬君演壇ニ登ル)

○子爵渡邊千冬君 只今議題トナリマシタ豫算案二件、豫算外契約一件ニ關スル委員會ニ於ケル審査ノ經過竝結果ヲ御報告申上ゲマス、詳細ハ既ニ配付ニナリマシタ速記錄ニ讓リマシテ、要點ノミヲ申上ゲタイト存ジマス、本件ハ大體ニ於キマシテ曩ニ成立致シマシタ臨時軍事費豫算追加臨第一號ニ直接關聯ヲ有スルモノ、及ビ陸海軍ノ國防費ニ關スルモノデアリマス、昭和十四年度歳入歳出總豫算追加第一號ハ歳入歳出共ニ九億千五十餘萬圓デアリマシテ、之ガ歳入豫算ノ內譯ハ、普通歳入ニ於テ支那事變特別税法及臨時利得税法ノ改正ニ依ル增加等一億八千二百四十餘萬圓、公債金ニ於テ滿洲事件公債及歳入補塡公債合計七億二千八百餘萬圓トナッテ居リマス、次ニ歳出豫算中ノ主ナルモノハ、大藏省關係ニ於キマシテ支那事變特別税法ノ改正ニ依リ增加スベキ租税收入等ノ臨時軍事費特別會計ヘノ繰入一億八千三百二十餘萬圓、支那事變特別税法等ノ改正ニ伴フ徵税費、支那事變公債其ノ他公債發行額增加ニ伴フ利子等、五千五百七十餘萬圓、陸軍省關係ノ兵備改善ニ要スル經費ノ增加四千七百五十萬餘圓、內地航空防空兵力充備ニ要スル經費ノ增加七千五百四十餘萬圓、在滿地上兵力ノ充實ニ要スル經費二億八千九百二十餘萬圓、在滿航空防空兵力充備ニ要スル經費七千九百八十餘萬圓等、合計四億九千八百七十餘萬圓竝ニ海軍省關係ノ艦艇製造費追加六千十餘萬圓、水陸警備費ノ追加四千八百九十萬餘圓、航空隊設備費ノ追加五千六百六十餘萬圓等、合計一億七千二百八十萬餘圓デアリマス、次ニ昭和十四年度各特別會計歳入歳出豫算追加特第一號ハ、各外地ニ於テ內地ニ順應シテ行ハムトスル臨時的增税等ニ依ル歳入ノ增加及ビ之ニ伴フ徵税費、臨時軍事費特別會計ヘノ繰入增加竝ニ陸海軍ノ作業會計等ニ於ケル作業費增加ニ基クモノ等デアリマス、又豫算外ノ國庫ノ負擔トナルベキ契約ニ關スル件追第二號ハ、陸海軍ノ軍備充足上ノ便宜ヲ得ムトスルモノ等ノ趣旨ニ基クモノデアリマス、以上ガ只今上程セラレテ居リマス三案ノ大要デアリマス、右三案審議ノ爲、三月十五日豫算委員會ヲ開催致シマシテ檢討ヲ致シタノデアリマス、本豫算案ノ委員會ニ於テ當然問題トナリマシタノハ、陸海軍ノ新軍備計畫ノ內容デアリマス、此ノ點ニ付テハ秘密會ニ於テ陸海軍當局ヨリ種々說明ヲ承ッタノデアリマス、其ノ說明ニ依リマシテ我々ハ我ガ國ノ前途益々多難ナルコトヲ一層痛切ニ感ジタノデアリマシテ、此ノ間ニ處シテ政府ガ苟モ誤リナカラムコトヲ希望シテ已マナイ次第デアリマス、尙右ノ外委員會ニ於テ質疑應答ノアリマシタ點ヲ二三申述ベマス、其ノ一ハ、皇軍占據地域及租界ニ於ケル治安狀況デアリマス、政府ハ占據地域ニ於テハ治安第一主義ヲ持シ、主要地域ニハ軍隊ヲ駐屯セシムルト共ニ、新政權ノ軍警機關其ノ他民衆ノ自衛組織ヲモ利用セムトスル方針デアリ、又各機關ノ連絡協調ニ付テハ十分意ヲ用ヒテ居ルトノコトデアリマシタ、尙又上海租界ニ於ケル治安ニ關シテハ、工部局トモ折衝ヲ重ネ、改善ニ努力シテ居ル旨ノ答辯ガアッタノデアリマス、其ノ二ハ生產力擴充計畫ニ關スルモノデアリマス、生產力擴充計畫ニ於テ軍需品以外ノモノニ對シテ考慮ガ足リナイノデハナイカト云フ質問ガアリマシタガ、之ニ對シテハ國防ニ重點ヲ置カザルヲ得ナイ現狀トシテ已ムヲ得ザル所デハアルガ、其ノ他ノ方面ニモ出來得ル限リノ考慮ヲ拂フ考デアルトノ答辯ガアリマシタ、其ノ三ハ、國民精神總動員ニ關スルモノデアリマス、國民精神總動員ガ具體的ナル目標ヲ缺イテ居ル、國民ヲシテ犧牲ヲ忍バシムル爲ニハ、何時迄如何ナル犧牲ヲ負擔スレバ宜イカ、將來ハ如何ニナルカニ付テ、十分ニ國民ニ知ラシメル必要ガアルデハナイカト云フ意味ノ質問デアリマス、政府ハ、現狀ニ於テ何時如何ナル負擔ノ輕減ヲ爲シ得ルヤヲ言明シ得ナイケレドモ、生產力擴充ノ進捗ニ連レテ、漸ヲ逐フテ餘裕ヲ生ズルニ至ルデアラウ、又國民ヲシテ將來ニ對スル希望ヲ持タシムルコトガ必要デアルトノ點ハ同感デアルトノ答辯ガアリマシタ、尙又豫算審議上ノ手續ノ問題ニ付テ本豫算、追加豫算等ニ亙リ、互ニ關聯アル事項ノ豫算ガバラバラニ提出セラレルコトハ豫算案ヲ統一的ニ審議スル上ニ於テ支障ガアルカラ、出來得ル限リ斯カルコトヲ避ケラレタキコト、及ビ追加豫算ノ提出時期ガ遲延スルコトモ審議上支障ヲ來スノデ、此ノ點ニ付テモ政府ニ於テ一層ノ努力アリタキ旨ノ希望ガアリマシタ、政府ニ於テモ諸般ノ事柄ト牽聯ノ事項ニ關シテハ、調査審議ヲ愼重ニ致ス必要アルモノガアリ、又急速ヲ要スルモノモアリマス、從ッテ御指摘ノヤウナコトガアッタコトヲ認メルケレドモ、今後ハ御希望ニ副フヤウ十分努力スル旨ノ言明ガアッタノデアリマス、委員會ニ於ケル質疑應答ノ大體ハ以上ノ如クデアリマシタ、斯クシテ討論ニ入リマスガ、本案贊成ノ旨ノ發言ガアリ、採決ノ結果滿場一致可決ト相成ッタノデアリマス、右御報告申上ゲマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 別ニ御質疑モナイヤウデゴザイマスルカラ、是ヨリ討論ニ移リマス、次田大三郎君

(次田大三郎君演壇ニ登ル)

○次田大三郎君 私ハ只今議題ト相成ッテ居リマスル昭和十四年度總豫算追加案外二件ニ對シテ贊成ノ意見ヲ申述ベヨウト存ズルノデアリマス、此ノ昭和十四年度ノ總豫算追加案ヲ檢討致シマスルト、歳出追加總額九億一千餘萬圓ノ中デ、滿洲事件費ノ追加ガ約三億七千萬圓アリマス、次ニ海軍ノ國防充實ニ要スル經費ノ追加ガ一億六千五百餘萬圓アルノデアリマスルガ、是ハ實ハ昭和十四年度ヨリ昭和十九年度ニ亙リマシテ、國防充實ニ關スル繼續費ノ追加ガ出テ居リマス、其ノ追加額總計十六億九千四百餘萬圓ノ一部ガ玆ニ頭ヲ出シテ居ルノデアリマシテ、本案ノ重點ハ正ニ此ノ約十七億圓ノ繼續費ノ追加ヲ認ムルカ認メザルカト云フコトニアルト考ヘルノデアリマス、回顧致シマスレバ最近數年ノ間ニ於テ、我ガ日本國民ハ誠ニ貴重ナル經驗ヲ二度迄モ致シテ居ルノデアリマス、其ノ一ツハ昭和七八年ノ交、滿洲事件ガ起リマスルト歐米諸國ハ擧ッテ我ガ國ニ反對ヲ致シ、中ニモ某國ノ如キハ將ニ實力ヲ以テ我ガ國ノ前ニ立塞ガラムト致シタノデアリマス、併シナガラ當時我ガ海軍ノ威力ハ克ク右某國ヲ威壓シテ、其ノ企テヲ未發ノ中ニ打挫クコトガ出來マシタコトハ、私共ノ記憶ニ尙新タナル所デアリマス、今一ツハ今次ノ日支事件ニ於キマシテ、事件勃發ノ當初ヨリ今日ニ至ル迄ノ間、某々ノ諸國ハ蔣政權ヲ援助致シマシテ、百方我ガ國ノ爲ス所ニ妨害ヲ加ヘテ居リマス、私共ヲシ切齒扼腕、憤慨又憤慨セシメテ居ルノデアリマス、併シナガラ其ノ爲ス所ハ今日迄ノ所、或ハ蔣政權ニ武器ヲ供給スルトカ、或ハ金ヲ貸ストカ、或ハ自國權益ノ擁護ニ藉口シテ、種々嫌ガラセナ申出ヲ我ガ國ニ對シテ致シマスルト云フ程度ニ止ッテ居リマスルノハ、是ニハ色々譯ガアルコトデアリマセウガ、我ガ海軍ガ確ッカリト西太平洋ノ制海權ヲ把握シテ微動ダモシナイ、其ノ實力ガ某々國ノ是レ以上ノ妄動ヲ抑付ケテ居ルト云フコトハ、何トシテモ大イナル理由ノ一ツデアルト云フコトハ爭フベカラザル、我々ガ今眼ノ前ニ見テ居ル所ノ事實ナノデアリマス、是ハ即チ孫子ニ所謂百戰百勝ハ善ノ善ナルモノニ非ズ、戰ハズニ人ノ兵ヲ決スルハ、即チ善ノ善ナルモノナリト云フ、之ニ該當スルモノデアリマシテ、此ノ點私共國民ハ大イニ意ヲ强ウスルト同時ニ、願クハ將來如何ナル場合ニアッテモ斯クノ如クデアリタイト云フコトヲ、深ク念願スル者デアリマス、反對ニ之ヲ某々國ノ側ヨリ申シマスレバ、彼等ハ最近數年ノ間ニ於テ、二度迄モ戰ハズシテ屈シタノデアリマス、戰ハズシテ敗レタノデアリマス、玆ニ於テ彼等ハ匆忙トシテ厖大ナル海軍擴張、空軍擴張ヲ計畫致シマシテ、莫大ナ費用ヲ投ジテ既ニ之ニ著手シテ居ルノデアリマス、新聞通信ノ傳フル所ニ依リマスルト、或ハ一箇月ニ何隻カノ新艦艇ヲ進水セシムルトカ、或ハ一年ニ何千臺カノ航空機ヲ新タニ建造スルトカ申シテ居ルノデアリマス、之ニ對スル我ガ海軍ノ對策ハドウデアルカト云フコトハ、私共國民ノ至大ノ關心事デナケレバナラナイノデアリマス、ガ只今問題トナッテ居リマスル此ノ海軍關係ノ繼續費ノ追加約十七億圓ハ、即チ此ノ對策ヲ具體化セムトスルモノデアリマス、私共ハ此ノ事變下ニ於テ軍機保持ノ必要カラシテ、遺憾ナガラ建造艦船ノ隻數、噸數、或ハ航空機ノ臺數等ニ付テ詳細ナル說明ヲ聽取スルコトガ出來ナカッタノデアリマス、從ッテ大體ノ數字カラ判斷ヲ致ス外ハナイノデアリマシテ、果シテ此ノ御要求ノ金額ヲ以テ某々國ノ建造セムトスル世界海軍史上空前ノ大海軍ニ對シマシテ、依然トシテ西太平洋上戰ハズシテ勝ツノ地歩ヲ占メ得ルヤ否ヤト云フコトニ付テハ、多少ノ懸念ナキ能ハザル次第デアリマス、併シナガラ海軍大臣ハ此ノ繼續費ノ追加案ガ成立致シマスルナラバ、我ガ海上ノ防備ハ安全デアル、何レノ國ヨリモ脅威ヲ受クルコトガナイト言明セラレタノデアリマスルカラ、私共ハ此ノ言明ニ信賴シテ、玆ニ本案ヲ贊成セムトスルモノデアリマス、唯此ノ際一言申シ添ヘテ置キタイコトハ、此ノ新建造ノ艦艇、航空機ヲ運用スル人ノ養成訓練ニ關スル問題デアリマス、此ノ點ニ付キマシテモ我ガ海軍ハ實ニ立派ナ傳統ヲ持ッテ居ルコトハ世間周知ノ事實デアリマス、私大正十三四年ノ頃、茨城縣廳ニ奉職致シテ居リマシテ、親シク霞ケ浦航空隊ノ訓練ノ狀況ヲ見ルノ機會ヲ持ッタノデアリマスガ、其ノ訓練タルヤ實ニ眞劍ト申シマスカ、悲壯ト申シマスカ、非常ナ猛訓練デアリマシテ、從ッテ又犧牲者ガ續々ト出ルト云フ狀況デアッタノデアリマス、今次事變ニ當リマシテ、殊ニ事變ノ初頭ニ於キマシテ、我ガ海軍航空隊ガ赫々タル偉功ヲ立テラレマシタコトハ、決シテ偶然ナ事デナイ、又一朝一夕ニシテ出來上ッタモノデモアリマセヌ、實ニ其ノ頃カラノ火ノ出ル如キ猛訓練ノ結果ニ外ナラヌノデアリマス、私共ハ今ニ於テ當年ヲ回顧致シマシテ、海軍當局ノ見識ト努力ニ對シテ絕大ナル敬意ヲ表セザルヲ得ナイノデアリマス、此ノ訓練ヲ重ンズル海軍ノ傳統ハ、之ヲ何處迄モ持チ續ケテ、更ニ其ノ上ニ一段ノ努力ヲ加ヘテ戴キタイト云フノガ、私共衷心カラノ希望デアルノデアリマス、是ガアッテ初メテ新建造ノ艦艇、航空機ガ物ヲ言フノデアリマス、繰返シテ申シマスレバ、私共ハ海軍大臣ノ言明ニ信賴シテ、御要求通リノ國防充實豫算案ニ協贊セムトスル者デアリマス、物的要素ハ先ヅ是デ出來上ッタ譯デアリマス、併シナガラ之ヲ運用シ活用スベキ所謂銃後ノ人ヲ造ルト云フコトハ、更ニヨリ大イナル問題デアルノデアリマス、願クハ此ノ上共我ガ海軍ノ傳統ノ上ニ立ッテ、益々此ノ點ニ努力ヲ致サレムコトヲ切ニ希望スル次第デアリマス、右海軍ノ豫算ニ付テ申述ベマシタ所ハ、其ノ儘移シテ滿洲事件費ノ追加案ニ付テモ述ベ得ルト考ヘマス、重複ヲ避ケマシテ要領ノミヲ簡單ニ申シマスレバ、某國ノ虎視耽耽タル意圖ハ蔽フベカラザルモノガアルニモ拘ラズ、敢テ大イニ動カザル所以ノモノハ、我ガ在滿陸軍ノ威力ノ然ラシムル所デアリマス、今日ノ國際情勢ノ推移ニ稽ヘマシテ、我ガ滿洲軍ヲ更ニ强化シテ、萬一ニ備フルノ必要ノアルコトハ何人モ異存ノナイ所デアルト信ズル次第デアリマス、以上ノ理由ニ依リマシテ、私ハ問題三案ニ對シテ贊成ノ意ヲ表スル者デアリマス(拍手)

○議長(伯爵松平賴壽君) 是ニテ討論ハ終リマシタ、是ヨリ採決ヲ致シマス、御異議ガナケレバ三案全部ヲ問題ニ供シマス、各豫算案ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ願ヒマス

(總員起立)

○議長(伯爵松平賴壽君) 全會一致ト認メマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 日程第四、輕金屬製造事業法案、政府提出、衆議院送付、

第一讀會、八田商工大臣

（左ノ送付文及法案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ玆ニ載錄ス以下之ニ倣フ）

輕金屬製造事業法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十四年三月十六日

衆議院議長　小山松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

輕金屬製造事業法案

輕金屬製造事業法

第一條　本法ハ國防ノ整備及產業ノ發達ヲ期スル爲本邦ニ於ケル輕金屬製造事業ノ確立ヲ圖ルコトヲ目的トス

第二條　本法ニ於テ輕金屬製造事業ト稱スルハアルミニウム、アルミナ又ハマグネシウムノ製造ヲ爲ス事業ヲ謂フ

第三條　輕金屬製造事業ヲ營マントスル者ハ政府ノ許可ヲ受クベシ但シ命令ヲ以テ定ムル輕金屬製造事業ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

本法ニ定ムルモノノ外前項ノ許可ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條　前條ノ許可ヲ受クルコトヲ得ベキ者ハ帝國法令ニ依リ設立シタル株式會社ニシテ其ノ株主ノ半數以上、取締役ノ半數以上、資本ノ半額以上及議決權ノ過半數ガ帝國臣民又ハ帝國法令ニ依リ設立シタル法人ニ屬スルモノニ限ル

前項ノ法人ハ其ノ社員、株主若ハ業務ヲ執行スル役員ノ半數以上又ハ資本ノ半額以上若ハ議決權ノ過半數ガ外國人又ハ外國法人ニ屬セザルモノナルコトヲ要ス

前條ノ許可ヲ受ケタル者前二項ノ規定ニ該當セザルニ至リタルトキハ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

第五條　第三條ノ許可ヲ受ケタル會社（輕金屬製造會社）ハ政府ノ指定スル期間內ニ其ノ事業ヲ開始スベシ

政府ハ正當ノ事由アリト認ムル場合ニ限リ前項ノ期間ノ延長ヲ許可スルコトヲ得

輕金屬製造會社前二項ノ期間內ニ其ノ事業ヲ開始セザルトキハ第三條ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

第六條　輕金屬製造會社其ノ設備ヲ增設シ又ハ變更セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受クベシ

第七條　輕金屬製造會社政府ノ認可ヲ受ケ本法施行後五年以內ニ於テ政府ノ指定スル期間內ニ命令ノ定ムル規模以上ノ設備ヲ新設シ又ハ增設シタルトキハ設備完成ノ年及其ノ翌年ヨリ五年間其ノ新設シ又ハ增設シタル設備ヲ以テ營ム輕金屬製造事業ニ付所得稅及營業收益稅ヲ免除ス

前項ノ輕金屬製造會社其ノ設備完成前其ノ一部ヲ以テ輕金屬製造事業ヲ營ム場合ニ於テモ其ノ事業ニ付所得稅及營業收益稅ヲ免除ス但シ前項ノ規定ニ依ル期間內ニ設備ヲ完成セザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第八條　北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ前條ノ規定ニ依リ所得稅及營業收益稅ヲ免除セラレタル輕金屬製造會社ニハ其ノ免除セラレタル事業ニ對シ課稅スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ基キ政府ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第九條　第七條ノ規定ニ依リ所得稅及營業收益稅ノ免除ヲ受クベキ事業ヲ繼續スル者又ハ其ノ事業ヲ繼續スルモノト認ムベキ事實アル者ハ前事業者ガ第七條ノ規定ニ依ル所得稅及營業收益稅免除期間內ニ在ルトキハ其ノ期間ヲ承繼ス

第十條　輕金屬製造會社其ノ事業ノ爲必要ナル器具又ハ機械ヲ政府ノ認可ヲ受ケ輸入スルトキハ本法施行ノ日ヨリ五年間命令ノ定ムル所ニ依リ輸入稅ヲ免除ス

第十一條　輕金屬製造會社ノ營ム輕金屬製造事業ハ土地收用法第二條ノ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業トシ同法ヲ適用ス

第十二條　輕金屬製造會社ハ事業擴張ノ場合ニ於テ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ事業ニ屬スル設備ノ費用ニ充ツル爲株金全額拂込前ト雖モ其ノ資本ヲ增加スルコトヲ得

第十三條　輕金屬製造會社ハ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ事業ニ屬スル設備ノ費用ニ充ツル爲商法ニ規定スル制限ヲ超エテ社債ヲ募集スルコトヲ得但シ社債ノ總額ハ拂込ミタル株金額ノ二倍ヲ超ユルコトヲ得ズ

最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル財產ガ拂込ミタル株金額ニ滿タザルトキハ前項ノ規定ヲ適用セズ

第一項ノ規定ニ依リ募集スル社債ニ付テハ工場抵當法ニ依リ會社ノ事業ニ屬スルモノヲ抵當ト爲スコトヲ要ス但シ特別ノ事情アル場合ニ於テ政府其ノ必要ナシト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十四條　輕金屬製造會社其ノ事業ノ全部又ハ一部ヲ讓渡シ、廢止シ又ハ休止セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受クベシ

輕金屬製造會社ノ合併又ハ解散ノ決議ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第十五條　輕金屬製造會社ハ命令ノ定ムル所ニ依リ事業計畫ヲ定メ政府ニ之ヲ屆出ヅベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

政府必要アリト認ムルトキハ事業計畫ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第十六條　政府ハ輕金屬製造會社ニ對シ業務及財產ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

政府ハ輕金屬製造會社ニ對シ業務及會計ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

政府監督上必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ輕金屬製造會社ノ事務所、營業所、工場、倉庫其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務若ハ財產ノ狀況又ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ

第十七條　政府公益上必要アリト認ムルトキハ輕金屬製造會社ニ對シアルミニウム、アルミナ又ハマグネシウムノ製造又ハ販賣ニ關シアルミニウム、アルミナ又ハマグネシウムノ需給ノ圓滑又ハ價格ノ公正ヲ圖ル爲必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十八條　政府軍事上其ノ他公益上必要アリト認ムルトキハ輕金屬製造會社ニ對シ其ノ設備ノ擴張若ハ改良又ハ製造方法ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第十九條　政府軍事上必要アリト認ムルトキハ輕金屬製造會社ニ對シ命令ヲ以テ定ムルアルミニウム、アルミナ若ハマグネシウムノ原料若ハ其ノ製造ニ必要ナル材料ノ貯藏又ハアルミニウム、アルミナ若ハマグネシウムノ製造ニ關スル特殊事項ノ研究ヲ命ズルコトヲ得

第二十條　第十八條又ハ前條ノ規定ニ依リ爲シタル命令ニ因リ生ジタル損失ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府之ヲ補償ス

前項ノ補償ヲ伴フベキ命令ハ之ニ因リ要スベキ補償金ノ總額ガ帝國議會ノ協贊ヲ經タル金額ヲ超エザル範圍內ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十一條　政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ指定スル原料又ハ製造方法ニ依ルアルミニウム、アルミナ又ハマグネシウムノ製造ニ關スル研究又ハ試驗ヲ爲ス者ニ對シ豫算ノ範圍內ニ於テ奬勵金ヲ交付スルコトヲ得

第二十二條　政府アルミニウム、アルミナ又ハマグネシウムノ需給ノ圓滑及價格ノ公正ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ適當ト認ムル會社ニ對シ左ノ各號ニ揭グル事業ノ全部又ハ一部ヲ行フベキコトヲ命ズルコトヲ得

一　アルミニウム又ハマグネシウムノ買入、販賣、輸出、輸入、移出及移入

二　アルミニウム、アルミナ又ハマグネシウムノ原料及其ノ製造ニ必要ナル材料ノ買入、販賣、輸出、輸入、移出及移入

三　其ノ他アルミニウム、アルミナ又ハマグネシウムノ需給ノ圓滑及價格ノ公正ヲ圖ル爲必要ナル事業

第二十三條　前條ノ規定ニ依ル命令ヲ受クルコトヲ得ベキ會社ハ帝國法令ニ依リ設立シタル株式會社ニシテ其ノ株式ハ記名式トシ株主ノ全部ガ政府、公共團體、帝國臣民又ハ帝國法令ニ依リ設立シタル法人ニ屬シ且其ノ資本ノ三分ノ二以上及議決權ノ三分ノ二以上ガ二以上ノ輕金屬製造會社ニ屬スルモノニ限ル

前項ノ法人ハ其ノ社員、株主若ハ業務ヲ執行スル役員ノ半數以上又ハ資本ノ半額以上若ハ議決權ノ過半數ガ外國人又ハ外國法人ニ屬セザルモノナルコトヲ要ス

前條ノ規定ニ依ル命令ヲ受ケタル者前二項ノ規定ニ該當セザルニ至リタルトキハ政府ハ其ノ命令ヲ取消スコトヲ得

第二十四條　第二十二條ノ規定ニ依ル命令ヲ受ケタル會社（受命會社）其ノ命ゼラレタル事業以外ノ事業ヲ行ハントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受クベシ

第二十五條　政府ハアルミニウム又ハマグネシウムノ製造、輸入又ハ移入ヲ業トスル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ製造、輸入又ハ移入ニ係ルアルミニウム又ハマグネシウムヲ受命會社ニ賣渡スベキコトヲ命ズルコトヲ得

第二十六條　受命會社ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ認可ヲ受ケタル價格ニ依ルニ非ザレバアルミニウム又ハマグネシウムノ買入、販賣、輸出、輸入、移出又ハ移入ヲ爲スコトヲ得ズ

第二十七條　受命會社ノ取締役及監査役ノ選任及解任、定款ノ變更、利益金ノ處分、社債ノ募集、合併竝ニ解散ノ決議ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第二十八條　受命會社借入金ヲ爲サントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受クベシ

第二十九條　受命會社ハ其ノ命ゼラレタル事業ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ業務規程ヲ定メ政府ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

政府必要アリト認ムルトキハ業務規程ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第三十條　受命會社ハ其ノ命ゼラレタル事業ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ事業計畫ヲ定メ政府ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

政府必要アリト認ムルトキハ事業計畫ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第三十一條　政府ハ受命會社ニ對シ其ノ命ゼラレタル事業ノ業務及財產ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

政府ハ受命會社ニ對シ其ノ命ゼラレタル事業ノ業務及會計ニ關シ監督上必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

政府監督上必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ受命會社ノ事務所、營業所、倉庫其ノ他ノ場所ニ臨檢シ其ノ命ゼラレタル事業ニ關シ業務若ハ財產ノ狀況又ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ

第三十二條　政府軍事上其ノ他公益上必要アリト認ムルトキハ受命會社ニ對シ販賣先及販賣數量ノ指定其ノ他アルミニウム又ハマグネシウムノ配給ニ關シ必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第三十三條　政府ハ輕金屬製造會社及受命會社ヲ除クノ外アルミニウム、アルミナ又ハマグネシウムノ製造、輸入又ハ移入ヲ爲ス者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ業務又ハ設備ノ狀況ニ關シ必要ナル事項ヲ屆出デシムルコトヲ得

第三十四條　政府第三條ノ許可、第六條ノ許可、第十七條ノ命令、第十八條ノ規定ニ依ル命令、第二十條ノ規定ニ依ル補償金額ノ決定又ハ第二十二條ノ規定ニ依ル命令ヲ爲サントスルトキハ勅令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外輕金屬製造事業委員會ノ議ヲ經ベシ

輕金屬製造事業委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條　輕金屬製造會社本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シ又ハ公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ政府ハ其ノ業務ヲ停止シ若ハ制限シ、第三條ノ許可ヲ取消シ又ハ取締役若ハ其ノ職務ヲ行フ監査役ノ解任ヲ爲スコトヲ得

受命會社本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シ又ハ公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ政府ハ第二十二條ノ規定ニ依ル命令ヲ取消シ又ハ取締役若ハ其ノ職務ヲ行フ監査役ノ解任ヲ爲スコトヲ得

第三十六條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第三條ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ輕金屬製造事業ヲ營ミタル者

二　第二十二條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

第三十七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第六條ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ設備ヲ增設シ又ハ變更シタル者

二　第十四條第一項ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ事業ノ全部又ハ一部ヲ讓渡シ、廢止シ又ハ休止シタル者

三　第十五條第一項ノ規定ニ違反シテ事業計畫ノ屆出ヲ爲サズ又ハ屆出デタル事業計畫ヲ實施セザル者

四　第十五條第二項ノ規定ニ依ル變更命令ニ違反シ事業計畫ヲ變更セズシテ之ヲ實施シタル者

五　第十七條乃至第十九條、第二十五條又ハ第三十二條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

六　第二十四條ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ其ノ命ゼラレタル事業以外ノ事業ヲ行ヒタル者

七　第二十六條ノ規定ニ違反シ認可ヲ受ケタル價格ニ依ラズシテアルミニウム又ハマグネシウムノ買入、販賣、輸出、輸入、移出又ハ移入ヲ爲シタル者

八　第二十八條ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ借入金ヲ爲シタル者

九　第二十九條第一項ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル業務規程ニ依ラズシテ業務ヲ行ヒタル者

十　第二十九條第二項ノ規定ニ依ル變更命令ニ違反シ業務規程ヲ變更セズシテ之ヲ實施シタル者

十一　第三十條第一項ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル事業計畫ニ依ラズシテ事業ヲ行ヒタル者

十二　第三十條第二項ノ規定ニ依ル變更命令ニ違反シ事業計畫ヲ變更セズシテ之ヲ實施シタル者

第三十八條　第十六條第二項又ハ第三十一條第二項ノ規定ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十九條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第十六條第一項又ハ第三十一條第一項ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ又ハ虛僞ノ報告ヲ爲シタル者

二　第十六條第三項又ハ第三十一條第三項ノ規定ニ依ル當該官吏ノ臨檢檢查ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ其ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シタル者

第四十條　當該官吏又ハ其ノ職ニ在リタル者本法ニ依ル職務執行ニ關シ知得シタル個人又ハ法人ノ業務上ノ秘密ヲ漏洩シ又ハ竊用シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條　營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ第三十六條乃至第三十八條又ハ第三十九條第一號ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第四十二條　第三十六條乃至第三十八條及第三十九條第一號ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第四十三條　第三十三條ノ規定ニ依ル屆出ヲ怠リ又ハ不正ノ屆出ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ過料ニ處ス

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ之ヲ準用ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際現ニ第三條ノ規定ニ依リ許可ヲ受クベキ輕金屬製造事業ヲ營ム者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法施行ノ日ヨリ之ヲ同條ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

前項ノ者ニシテ本法施行ノ際現ニ第六條ノ規定ニ依リ許可ヲ受クベキ設備ノ增設又ハ變更ノ工事中ニ在ルモノハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法施行ノ日ヨリ之ヲ同條ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

第三條ノ規定ニ依リ許可ヲ受クベキ輕金屬製造事業ヲ營ム爲本法施行ノ際現ニ其ノ設備ノ建設工事中ニ在ル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法施行ノ日ヨリ之ヲ同條ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

前二項ノ規定ニ該當スル者ノ當該設備ニ關シテハ第七條及第八條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

（國務大臣八田嘉明君演壇ニ登ル）

○國務大臣（八田嘉明君）　只今上程ニナリマシタ輕金屬製造事業法案ニ付キマシテ提案ノ理由ヲ御說明申上ゲマス、輕金屬卽チ「アルミニウム」及「マグネシウム」ハ共ニ「ジユラルミン」等輕合金ノ材料トシ致シマシテ、航空機ノ製造ニ缺クベカラザル資材デアリマシテ、國防ノ整理上極メテ緊要ナルコトハ申ス迄モアリマセス、且「アルミニウム」及「マグネシウム」ハ各種ノ機械、器具、裝置ノ材料トシテ、或ハ又銅其ノ他ノ金屬ノ代用トシテ、單ニ國防上ノミナラズ諸般ノ產業ノ振興上ニモ重要ナル物資デアリマシテ、今後ノ國防整備上相俟チマシテ、「アルミニウム」及「マグネシウム」ニ對スル需要ハ將來益々增加スベキ趨勢ニアルノデアリマス、然ルニ我ガ國ノ輕金屬製造事業ハ、極メテ最近ニ至ツテ漸ク發達致シタモノデアリマスルノデ、現在ノ生產能力ニ於キマシテハ、到底需要ヲ充足シ得ルニ至リマセス、年々海外ヨリ相當多量ノ輸入ヲ餘儀ナクサレテ居ル次第デアリマス、又單ニ生產數量ガ不足デアリマスルノミデナク、生產技術乃至ハ生產品ノ品質ノ點ニ付キマシテモ、歐米諸國ノ同種事業ニ比シマシテ遜色ガアリ、國防工業トシテ遺憾ノアル點モ少クナイノデアリマス、爰ニ現內閣ニ於テ決定致シマシタ生產力擴充計畫ニ於キマシテモ、「アルミニウム」及「マグネシウム」ハ共ニ重要ナル生產力擴充目標ノ物資ト致シマシテ採上ゲラレ、之ガ飛躍的擴充ヲ期スルコトト相成ッテ居リマスルノデアリマスルガ、此ノ際我ガ國ノ輕金屬製造事業ヲ急速ニ發展セシメ、之ヲ確立シテ、單ニ國內ノ需要ヲ充スニ止ラズ、戰時ニ於ケル軍需資材ヘノ轉換ヲ考慮致シマシテ、平時ニ於テモ相當ノ輸出餘力ヲ有スル程度ニ迄到達致シマシタ、且其ノ生產技術ヲ極力向上進歩セシメ、歐米ニ於ケル輕金屬製造事業ニ遜色ナカラシムルニ至ラシムルコトハ、刻下喫緊ノ要務デアルト存ズルノデアリマス、之ガ爲ニハ輕金屬製造事業ニ對シマシテ、各種ノ保護助成ヲ與ヘマスルト共ニ、適切ナル奬勵策ヲ講ジテ、生產力ノ擴充ヲ極力促進シ、且必要ナル指導監督ヲ加ヘテ、其ノ生產技術及經營ヲ改善向上セシメ、併セテ「アルミニウム」又ハ「マグネシウム」ノ需給ノ圓滑竝ニ價格ノ適正ヲ圖リマスルガ爲ニ、必要ニ應ジテ其ノ全製造事業者ヲ中心トスル特殊會社ヲシマシテ、「アルミニウム」又ハ「マグネシウム」ノ共同販賣乃至配給統制ヲ行ハシメ、之ニ依ッテ同時ニ海外ノ同種事業ニ對シ、我ガ國ノ事業ノ存立ヲ確保セシムルノ要ガアル次第デアリマス、以上ガ本法案提案ノ大體ノ理由デアリマス、何卒御審議ノ上御協贊アラムコトヲ御願ヒ致シマス

○子爵戶澤正己君　只今ノ議題トナリマシタ輕金屬製造事業法案ハ、重要ナル法案デアリマスルガ故ニ、此ノ特別委員ノ數ヲ十八名トシ、其ノ委員ノ指名ヲ議長ニ一任スルノ動議ヲ提出致シマス

○子爵西大路吉光君　贊成

○議長（伯爵松平賴壽君）　戶澤子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

（異議ナシト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス、特別委員ノ指名ヲ書記官ヲシテ朗讀致サセマス

（丸龜書記官朗讀）

輕金屬製造事業法案特別委員

公爵桂　廣太郎君　侯爵山內　豐景君

伯爵橋本　實斐君　子爵井上匡四郎君

子爵大河內正敏君　子爵保科　正昭君

眞野　文二君　男爵伊藤　一郎君

男爵松田　正之君　男爵肝付　兼英君

加藤敬三郎君　長岡隆一郎君

根津嘉一郎君　磯貝　浩君

松本勝太郎君　小野　耕一君

大西虎之介君　氏家　清吉君

○議長（伯爵松平賴壽君）　日程第五、昭和十三年法律第六十四號中改正法律案、日程第六、朝鮮銀行券及臺灣銀行券ノ保證發行限度ノ臨時擴張ニ關スル法律案、日程第七、昭和十三年法律第二十三號中改正法律案、日程第八、昭和十二年法律第八十四號中改正法律案、日程第九、昭和十四年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲公債追加發行ニ關スル法律案、日程第十、昭和七年法律第一號中改正法律案、日程第十一、支那事變ニ關スル特別賜金トシテ交付スル爲公債發行ニ關スル法律案、日程第十二、昭和十三年法律第八十七號中改正法律案、以上政府提出、衆議院送付、第一讀會、是等ノ法律案ヲ一括シテ議題トナスコトニ御異議ガゴザイマセヌカ

（異議ナシト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス、石渡大藏大臣

昭和十三年法律第六十四號中改正法律案

昭和十三年三月十六日

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

昭和十三年法律第六十四號中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十四年三月十六日

衆議院議長　小山　松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

昭和十三年法律第六十四號中改正法律案

昭和十三年法律第六十四號ハ左ノ通改正ス

「十七億圓」ヲ「二十二億圓」ニ改ム

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

參　照

昭和十三年法律第六十四號ハ兌換銀行券ノ保證發行限度ノ臨時擴張ニ關スル法律ナリ

朝鮮銀行券及臺灣銀行券ノ保證發行限度ノ臨時擴張ニ關スル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十四年三月十六日

衆議院議長伯爵松平賴壽殿

朝鮮銀行券及臺灣銀行券ノ保證發行限度ノ臨時擴張ニ關スル法律案

朝鮮銀行法第二十二條第二項中一億圓トアルハ當分ノ內之ヲ一億六千萬圓トス

臺灣銀行法第九條第二項中五千萬圓トアルハ當分ノ內之ヲ八千萬圓トス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法ハ支那事變終了後一年內ニ之ヲ廢止スルモノトス

昭和十三年法律第二十三號中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十四年三月十六日

衆議院議長　小山　松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

昭和十三年法律第二十三號中改正法律案

昭和十三年法律第二十三號ハ左ノ通改正ス

第一條　關東局、朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ノ各特別會計ニ於ケル所得稅、法人資本稅、清涼飲料稅、砂糖消費稅、取引所稅、出港稅、印紙稅又ハ臨時利得稅ノ昭和十三年度以降ノ增徵ニ因ル增收額及利益配當稅、公債及社債利子稅、通行稅、入場稅、特別入場稅、物品稅、建築稅、遊興飮食稅又ハ遊興稅ノ創設ニ因ル收入額中勅令ノ定ムル金額ハ每年度豫算ノ定ムル所ニ依リ之ヲ當該特別會計ヨリ臨時軍事費特別會計ニ繰入ルベシ

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

參　照

昭和十三年法律第二十三號ハ關東局、朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ノ各特別會計ニ於ケル租稅收入ノ一部ニ相當スル金額等ヲ臨時軍事費特別會計ニ繰入ルルコトニ關スル法律ナリ

昭和十二年法律第八十四號中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十四年三月十六日

衆議院議長　小山　松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

昭和十二年法律第八十四號中改正法律案

昭和十二年法律第八十四號中左ノ通改正ス

「六十四億七千六百二十萬圓」ヲ「百四億三十萬圓」ニ改ム

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

參　照

昭和十二年法律第八十四號ハ支那事變ニ關スル臨時軍事費支辨ノ爲公債發行ニ關スル法律ナリ

昭和十四年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲公債追加發行ニ關スル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十四年三月十六日

衆議院議長　小山松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

昭和十四年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲公債追加發行ニ關スル法律案

政府ハ昭和十四年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲他ノ法律ニ依リ起債シ得ル金額ノ外三億六千三百三十萬圓ヲ限リ公債ヲ發行シ又ハ借入金ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル公債ノ發行價格差減額ヲ補塡スル爲必要アル場合ニ於テハ前項ノ制限以外ニ公債ヲ發行シ又ハ借入金ヲ爲スコトヲ得

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和七年法律第一號中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十四年三月十六日

衆議院議長　小山松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

昭和七年法律第一號中改正法律案

昭和七年法律第一號中左ノ通改正ス

「十三億八千五百萬圓」ヲ「十七億三千二百六十萬圓」ニ改ム

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

參　照

昭和七年法律第一號ハ滿洲事件ニ關スル經費支辨ノ爲公債發行ニ關スル法律ナリ

支那事變ニ關スル特別賜金トシテ交付スル爲公債發行ニ關スル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十四年三月十六日

衆議院議長　小山松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

支那事變ニ關スル特別賜金トシテ交付スル爲公債發行ニ關スル法律案

政府ハ支那事變ニ關スル特別賜金トシテ交付スル爲之ニ必要ナル額ヲ限度トシ公債ヲ發行スルコトヲ得

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十三年法律第八十七號中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十四年三月十六日

衆議院議長　小山松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

昭和十三年法律第八十七號中改正法律案

昭和十三年法律第八十七號中左ノ通改正ス

「納稅ノ擔保」ヲ「政府ニ對スル保證金其ノ他ノ擔保」ニ改ム

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十三年五月三十一日以前募集シタル外國債ニハ改正規定ヲ適用セズ

參　照

昭和十三年法律第八十七號ハ本邦內ニ於テ募集シタル外國債ノ待遇ニ關スル法律ナリ

〔國務大臣石渡莊太郞君演壇ニ登ル〕

○國務大臣（石渡莊太郞君）　只今議題トナリマシタ昭和十三年法律第六十四號中改正法律案外七件提出ノ理由ヲ說明致シマス、先ヅ兌換銀行券ノ保證限度ノ臨時擴張ニ關スル法律中改正法律案ニ付テ說明ヲ致シマス、本法律案ハ支那事變ノ進展ニ伴ヒマシテ、兌換銀行券ノ發行高ノ尙增加ヲ來サムトスル趨勢ニ對處スル爲、先ニ臨時ニ擴張シマシタ兌換銀行券ノ保證發行限度ヲ更ニ五億圓擴張シテ、之ヲ二十二億圓ト致サムトスルモノデゴザイマス、昨年四月兌換銀行券ノ保證發行限度ノ臨時擴張ニ關スル法律ガ施行セラレタノデアリマスガ、其ノ後ニ於ケル經過ヲ見マスルノニ、事變ノ進展ト共ニ一般經濟取引ノ膨脹ニ依リマシテ、兌換銀行券ノ發行高モ增加ヲ來シテ居ルノデゴザイマスルガ、昨年七月日本銀行ノ正貨準備ヨリ三億圓ヲ割キ、新タニ外國爲替基金ヲ設定致シタ結果トシテ、右臨時擴張ノ效果ハ、同金額ダケ減殺サレタ關係モアリマシテ、昨年十一月以降ニハ屢〻制限外發行ヲ見ルニ至ッタノデアリマス、而シテ今後ニ於キマシテモ、事變ニ關聯シテ諸般ノ經濟活動ハ依然トシテ伸張ヲ續ケ、之ニ伴ヒマシテ兌換銀行券ノ發行高モ更ニ增加スルモノト考ヘラレマスノデ、此ノ際保證發行限度ヲ臨時ニ相當擴張スルヲ適當ト認メマシテ、本案ヲ提出致シタ次第デアリマス、次ニ朝鮮銀行券及臺灣銀行券ノ保證銀行限度ノ臨時擴張ニ關スル法律案ニ付テ說明致シマス、朝鮮銀行券及臺灣銀行券ノ保證發行限度ハ、曩ニ昭和十二年九月之ヲソレゾレ一億圓及五千萬圓ニ擴張致シタノデアリマスガ、其ノ後支那事變ノ進展ニ依リ朝鮮及臺灣ニ於ケル一般經濟取引ハ、急激ナル增大ヲ來シ、之ニ伴ッテ朝鮮銀行券及臺灣銀行券ノ發行高ハ、顯著ナル增加ヲ示スニ至ッタノデアリマス、而シテ今後ニ於テモ支那事變ニ關聯シテ、朝鮮及臺灣ニ於ケル通貨ノ需要量ハ更ニ增大シ、延イテハ朝鮮銀行券及臺灣銀行券ノ發行高モ、一層增加ヲ來スモノト認メラレルノデアリマシテ、兩銀行券ノ保證發行限度ヲ現在ノ儘ニ致シテ置キマス時ハ、朝鮮及臺灣ニ於テ經濟取引上必要トセラレル通貨ヲ圓滑ニ供給致シマスル上ニ、支障ヲ生ズルコトナキヲ保シ難イノデアリマス、斯樣ナ次第デアリマスノデ、今回支那事變ニ關聯スル臨時的措置トシテ、朝鮮銀行券及臺灣銀行券ノ保證發行限度ヲ、ソレ〳〵六千萬圓及三千萬圓擴張スルヲ適當ト認メマシテ、本法律案ヲ提出致シタノデアリマス、次ニ昭和十三年法律第二十三號中改正法律案ニ付テ說明致シマス、今回一般會計ニ於キマシテ、臨時軍事費ノ一部ニ充ツル爲、清涼飲料稅、砂糖消費稅、印紙稅、臨時利得稅、利益配當稅、公債及社債利子稅及物品稅ヲ增徵スルト共ニ、物品稅ノ課稅範圍ヲ擴張シ、建築稅及遊興飲食稅ヲ創設スルコトト致シマシテ、目下衆議院ニ於テ審議中デアリマスガ、關東、朝鮮、臺灣及樺太ニ於キマシテモ、內地ニ於ケルト同趣旨ノ下ニ、概ネ右ニ準ジ同種ノ租稅ノ增徵又ハ課稅範圍ノ擴張ヲ爲スト共ニ、新稅ヲ創設スルコトニ致シマシテ、其ノ收入額ノ一部ニ相當スル金額ヲ、每年度豫算ノ定ムル所ニ依リ、外地特別會計カラ臨時軍事費特別會計ニ繰入ル、コトト致シマシタノデゴザイマスルガ、之ガ會計上ノ處理ニ關シマシテ、昭和十三年法律第二十三號中改正ヲ必要ト致シマスルノデ、本法律案ヲ提出致シマシタ次第デゴザイマス、次ニ昭和十二年法律第八十四號中改正法律案ニ付テ說明致シマス、支那事變ニ關スル經費ニ付キマシテハ、第七十一回、第七十二回及第七十三回ノ各帝國議會ノ協贊ヲ經マシテ、其ノ財源ニ充ツル爲ノ公債發行ヲ爲シ得ル權能ヲ得テ居ルノデアリマスガ、事態ノ推移ニ伴ヒマシテ、更ニ臨時軍事費ノ追加ヲ必要ト致シマスル處、其ノ所要財源中六億八千九十餘萬圓ニ付キマシテハ、一般會計及各特別會計ヨリノ繰入金等ヲ以テ充當シ、三十九億二千四百餘萬圓ニ付キマシテハ、之ヲ公債財源ニ依ルコトト致シマスル爲、昭和十二年法律第八十四號中ノ公債發行限度ヲ增額シ、百四億三千萬圓トスル必要ガアリマスルノデ、本法律案ヲ提出致シマシタ次第デゴザイマス、次ニ昭和十四年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲公債追加發行ニ關スル法律案ニ付テ說明致シマス、昭和十四年度歲入歲出總豫算ニ伴フ一般會計歲入不足ノ補塡ニ付キマシテハ、之ニ關スル法律案ヲ今期議會ニ提出シテアルノデアリマスガ、今回別途提出致シマシタ同年度歲入歲出總豫算追加第一號ニ計上セル經費ノ所要財源總額九億千五十餘萬圓ヨリ、增稅其ノ他ノ普通歲入ヲ以テ充當スベキ分一億八千二百四十餘萬圓ト、滿洲事件ニ關スル經費支辨ノ爲ノ公債法ニ依ル公債金ヲ以テ充當スベキ分三億六千四百七十餘萬圓トヲ差引キマシタ殘額、三億六千三百二十餘萬圓ニ付キマシテハ、公債ニ依ルコトト致シテ居リマスノデ、本法律案ヲ提出致シタ次第デゴザイマス、次ニ昭和七年法律第一號中改正法律案ニ付テ說明致シマス、昭和十四年度ニ於キマシテ滿洲事件ニ關スル經費トシテ必要ナル金額三億六千九百十餘萬圓ヨリ、普通歲入ヲ以テ支辨スベキ豫定ノ金額四百三十餘萬圓ヲ差引キマシタル殘餘ノ三億六千四百七十餘萬圓ニ付キマシテハ、從來ノ如ク之ヲ公債財源ニ依ルコトト致シマスルガ、昭和十二年度ニ於ケル滿洲事件費ニシテ、公債財源ニ依ルコトト豫定致シテ居リマシタ分ノ中、決算上不用ト相成ッタ金額等ガ千七百十餘萬圓アリマスル爲、之ヲ差引キマシテ、三億四千七百六十餘萬圓ヲ、現行ノ昭和七年法律第一號ニ依リ、公債發行限度ヲ增加スル必要ガアリマスノデ、本法律案ヲ提出致シマシタ次第デゴザイマス、次ニ支那事變ニ關スル特別賜金トシテ交付スル爲公債發行ニ關スル法律案ニ付テ說明致シマス、支那事變ニ關スル勤務ニ從事シ、之ガ爲死歿致シマシタル陸海軍軍人軍屬等ノ遺族ニ對シマシテ、賜與致サレマスル特別賜金ニ付キマシテハ、昭和十三年八月以降當該豫算ヲ以テ大藏省預金部又ハ日本銀行ヨリ公債ヲ買上ゲマシテ、之ヲ交付スルコトト致シテ參リマシタガ、右ハ寧ロ交付公債發行ノ方法ニ依ルノヲ適當ト認メマシタル處、之ガ爲ニハ公債發行ニ關スル法律ノ制定ヲ必要ト致シマスルノデ、本法律案ヲ提出致シマシタ次第デゴザイマス、最後ニ昭和十三年法律第八十七號中改正法律案ニ付テ說明致シマス、本邦內ニ於テ募集シタル外國債ニ關シマシテハ、昭和十三年法律第八十七號ニ依リ、命令ヲ以テ定メタル一定ノ外國債ニ付キマシテ、租稅ノ賦課又ハ納稅ノ擔保ニ關シテノミ、國債ト同樣ノ待遇ヲ與ヘテ居リマスルガ、更ニ其ノ範圍ヲ擴張致シマシテ、政府ニ對スル保證金其ノ他ノ擔保ノ總テノ場合ニ關シマシテモ亦、爾今國債ト同樣ノ待遇ヲ與フルコトトスル爲、該法律中改正ヲ爲スノ必要ガアリマスルノデ、本法律案ヲ提出致シマシタ次第デゴザイマス、以上八件ニ付キマシテハ、何卒御審議ノ上速カニ協贊ヲ與ヘラレムコトヲ希望致シマス

○子爵戶澤正己君　只今議題トナリマシタ昭和十三年法律第六十四號中改正法律案外七件ハ、關聯スル所ガアリマスルガ故ニ、昭和十四年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案外六件ノ特別委員ニ併託セラレムコトノ動議ヲ提出致シマス

○子爵秋田重季君　贊成

○議長（伯爵松平賴壽君）　戶澤子爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス

○議長（伯爵松平賴壽君）　日程第十三、地方學事通則中改正法律案、日程第十四、青年學校令ニ依リ就學セシメラルベキ者ノ就業時間ニ關スル法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、是等ノ二案ヲ一括シテ議題トスルニ御異議ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス、荒木文部大臣

地方學事通則中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十四年三月十六日

衆議院議長　小山松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

地方學事通則中改正法律案

地方學事通則中左ノ通改正ス

第五條中「兒童教育事務」ヲ「兒童生徒教育事務」ニ改ム

第九條中「郡」ヲ削ル

第十條中「郡制」ヲ削ル

附　則

本法ハ昭和十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

青年學校令ニ依リ就學セシメラルベキ者ノ就業時間ニ關スル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十四年三月十六日

衆議院議長　小山松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

昭和十四年三月十六日
衆議院議長　小山　松壽
貴族院議長伯爵松平賴壽殿

司法保護事業法案

第一條　本法ニ於テ司法保護事業トハ左ニ揭グル者ノ保護ヲ爲ス事業及右事業ニ關シ指導、聯絡又ハ助成ヲ爲ス事業ヲ謂フ

一　訴追ヲ必要トセザル爲公訴ヲ提起セズトセラレタル者

二　刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル者

三　刑ノ執行停止中ノ者

四　刑ノ執行ノ免除ヲ得タル者

五　假出獄中ノ者

六　刑ノ執行ヲ終リタル者

七　少年法ニ依リ保護處分ヲ受ケタル者

第二條　前條ノ保護ニ於テハ本人ガ更ニ罪ヲ犯スノ危險ヲ防止シ之ヲシテ進ンデ臣民ノ本分ヲ恪守セシムル爲性格ノ陶冶、生業ノ助成其ノ他適當ノ處置ヲ以テ本人ヲ輔導スルモノトス

保護ノ種類及方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條　司法保護事業ヲ經營セントスル者ハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ之ヲ廢止セントスルトキ亦同ジ

第四條　主務大臣ハ司法保護事業ヲ經營スル者ニ對シ監督上必要アル場合ニ於テハ其ノ事業ニ關スル報告ヲ徵シ、實況ヲ調査シ又ハ事業ノ經營ニ關シ指示ヲ爲スコトヲ得

第五條　主務大臣ハ司法保護事業ヲ經營スル者ニ對シ本法施行前寄附金ノ募集ニ付行政官廳ノ許可ヲ受ケタルモノニ對シテハ其ノ許可ニ基キ本法施行ノ際現ニ募集中ノ寄附金ニ付之ヲ適用セズ

〔國務大臣鹽野季彥君演壇ニ登ル〕

○國務大臣（鹽野季彥君）　只今議題トナリマシタ司法保護事業法案ニ付キマシテ御說明申上ゲマス、近年ノ犯罪現象ヲ見マスルニ、再犯者ノ數ハ年ヲ逐フテ增加ノ傾向ヲ示シテ居ルノデアリマシテ、之ヲ長期戰下ニ於ケル犯罪ノ推移ト併セ考ヘマスル時ハ、誠ニ憂慮ニ堪ヘザルモノガアリマス、平時ニ於キマシテモ、安寧秩序ハ國運ノ發展、國民ノ福祉ノ基礎デアリマスガ、今日國ヲ擧ゲテ新東亞建設ノ大業ニ邁進シテ居リマス時、銃後ニ於ケル治安ヲ確保スルコトハ最モ緊要ナル時務ニ屬スルノデアリマシテ、之ガ爲ニハ罪ヲ犯シタル者ヲ保護善導シテ、其ノ再犯ニ陷ルノ危險ヲ防止スルト共ニ、進ンデ忠良ナル臣民ノ道ニ復歸セシメ、國民トシテ應分ノ御奉公ヲ爲サシムルヤウ、之ヲ輔導援護スルコトガ肝要デアリマス、御承知ノ如ク國家ノ經營スル司法保護施設ト致シマシテハ、思想犯ニ付テハ思想犯保護觀察法ニ基キ保護觀察所ガ設置セラレ、少年ニ付テハ少年法ニ基キ少年審判所及矯正院ガ設置セラレテ、何レモ相當ノ實績ヲ擧ゲテ居ルノデアリマスガ、是等ノ國家機關ガ保護活動ヲ爲スニ當リマシテハ、民間ニ於テ經營セラルヽ司法保護事業ノ協力ニ俟ツ所ガ多イノデアリマス、而シテ思想犯及少年ヲ除ク一般ノ犯罪者ノ保護ニ付テハ、保護觀察所、少年審判所及矯正院ニ比スベキ國家施設ガナイノデアリマスカラ、殆ド全ク民間ノ事業經營者ノ保護活動ニ依存シテ居ルノ實情デアリマス、現在民間ノ保護事業經營者ノ數ハ一千二百ヲ超ユルノデアリマスガ、其ノ機構ハ少數ノ者ヲ除イテハ概ネ脆弱デアリマスノミナラズ、其ノ保護活動ノ內容ニ付キマシテモ、從來殆ド各經營者ノ任意ニ委セラレテ居リマシタ關係カラ、其ノ熱意ニ於キマシテハ誠ニ推重スベキモノガアルニ拘ラズ、其ノ方法ニ於テハ今尙改善ノ餘地ヲ存スルト認ムベキモノモ少クナイノデアリマス、尙又司法保護ノ對象トナルベキモノハ每年數十萬ニモ達スルノデアリマシテ、民間ニ於ケル保護事業經營者ノミノ努力ヲ以テシテハ、能ク當面ノ必要ニ對應シ得ナイ事情ニアリマスルバカリデナク、是等多數ノ保護對象者ノ中ニハ、保護事業經營者以外ノ民間有識者ノ輔導援護ニ依ツテ、更生復活セシメ得ルモノガ少クナイノデアリマス、右ニ申述ベマシタ理由ニ依リマシテ、政府ハ一面司法保護事業ヲ經營スル者ニ對スル助成ノ方途ヲ講ジ、適當ナル指導監督ヲ加ヘテ、其ノ機能ヲ一層有效適正ニ發揮セシムルト共ニ、他面ニ於テハ新タニ司法保護委員ノ制度ヲ設ケ、民間ノ有識者ニ司法保護委員ヲ委囑シテ保護活動ヲ爲サシムル爲、玆ニ司法保護事業法ヲ制定スルノ必要ヲ認メ次第デアリマス、本法案ニ關スル詳細ハ委員會ニ於テ御說明申上ゲル機會ガアラウト思フノデアリマスルガ、何卒愼重御審議ノ上、御協賛ヲ與ヘラレムコトヲ切望致シマス

○子爵戸澤正己君　只今議題トナリマシタ司法保護事業法案ハ、關聯スル所ガゴザイマス故ニ、人事調停法外三件ノ特別委員ニ併託セラレムコトノ動議ヲ提出致シマス

○議長（伯爵松平賴壽君）　戸澤子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼ブ者アリ〕

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス

日程第十五、司法保護事業法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、鹽野司法大臣

司法保護事業法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十四年三月十六日
衆議院議長　小山　松壽
貴族院議長伯爵松平賴壽殿

國際電氣通信株式會社法中改正法律案

（小字ハ衆議院ノ修正ナリ）

國際電氣通信株式會社法中改正法律案

國際電氣通信株式會社法中左ノ通改正ス

第一條中「其ノ附屬設備」ノ下ニ「（國內電氣通信ニ共用セラルル通信ケーブル設備及其ノ附屬設備ヲ含ム）」ヲ加フ

第二條　國際電氣通信株式會社ハ前條ニ定ムルモノノ外政府ノ命令ニ依リ又ハ其ノ認可ヲ受ケ左ノ事業ヲ營ムコトヲ得

一　外國ニ於ケル電氣通信事業ノ經營

二　外國ニ於ケル電氣通信ノ設備及其ノ附屬設備ノ貸付

三　電氣通信ノ設備及其ノ附屬設備ノ建設及保守ノ請負

四　電氣通信ノ用品ノ製造及販賣

五　前四號ニ揭グル事業ニ對スル投資

第三條及第四條中「主務大臣」ヲ「政府」ニ改ム

○子爵秋田重季君　贊成

○議長（伯爵松平賴壽君）　日程第十六、國際電氣通信株式會社法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、鹽野遞信大臣

國際電氣通信株式會社法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十四年三月十六日
衆議院議長　小山　松壽
貴族院議長伯爵松平賴壽殿

（小字ハ衆議院ノ修正ナリ）

國際電氣通信株式會社法中改正法律案

國際電氣通信株式會社法中左ノ通改正ス

第一條中「其ノ附屬設備」ノ下ニ「（國內電氣通信ニ共用セラルル通信ケーブル設備及其ノ附屬設備ヲ含ム）」ヲ加フ

第二條　國際電氣通信株式會社ハ前條ニ定ムルモノノ外政府ノ命令ニ依リ又ハ其ノ認可ヲ受ケ左ノ事業ヲ營ムコトヲ得

一　外國ニ於ケル電氣通信事業ノ經營

二　外國ニ於ケル電氣通信ノ設備及其ノ附屬設備ノ貸付

三　電氣通信ノ設備及其ノ附屬設備ノ建設及保守ノ請負

四　電氣通信ノ用品ノ製造及販賣

五　前四號ニ揭グル事業ニ對スル投資

第三條及第四條中「主務大臣」ヲ「政府」ニ改ム

第五條　國際電氣通信株式會社ノ株式ハ記名式トス

國際電氣通信株式會社ノ株主ハ政府、公共團體、帝國臣民又ハ帝國法人ニシテ社員、株主若ハ業務ヲ執行スル役員ノ半數以上、資本ノ半額以上若ハ議決權ノ過半數カ外國人若ハ外國法人ニ屬セサルモノタルコトヲ要ス

勅令ノ定ムル法人ニシテ特ニ政府ノ許可ヲ受ケタルモノハ前項ノ規定ニ拘ラス國際電氣通信株式會社ノ株主タルコトヲ得

第六條　政府ハ國際電氣通信株式會社ニ對シ其ノ資本ノ半額ヲ限リ出資スルコトヲ得

政府所有ノ株式ノ株金拂込ハ其ノ他ノ株式ノ株金拂込ト之ヲ異ニスルコトヲ得

政府ハ國ノ所有ニ屬スル第一條ニ揭クル設備及其ノ設備ヲ爲ス爲購入シタル土地ヲ以テ出資ノ目的ト爲スコトヲ得

第六條ノ二　前條ノ規定ニ依リ政府ニ於テ引受ケタル株式ノ拂込金ハ通信事業特別會計ノ資本勘定ノ歲出トス

通信事業特別會計ニ屬スル財產ノ出資ニ因リ政府ノ取得シタル株式ハ同特別會計ノ資本所屬物件トス

第八條　政府ハ國際電氣通信株式會社ノ設備ヲ使用シタルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ該設備使用ニ對シ國際電氣通信株式會社ニ交付金ヲ交付ス

第八條ノ二　國際電氣通信株式會社ハ商法ニ規定スル制限ヲ超エテ社債ヲ募集スルコトヲ得但シ社債ノ總額ハ拂込ミタル株金額ノ三倍ヲ超ユルコトヲ得ス

社債ヲ募集スル場合ニ於ケル株主總會ノ決議ハ資本ノ半額以上ニ當ル株主出席シ其ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第八條ノ三　政府ハ社債ノ元本ノ償還及利息ノ支拂ニ付保證スルコトヲ得

前項ノ保證ニ因ル政府ノ支出金ハ通信事業特別會計ノ業務勘定ノ歲出トス

第十二條中「主務大臣」ヲ「政府」ニ、「電氣通信ノ設備若ハ其ノ附屬設備」ヲ「第一條ニ揭クル設備」ニ改ム

第十二條ノ二　政府ハ公益上必要アリト認ムルトキハ國際電氣通信株式會社ニ對シ電氣通信ノ技術ノ研究ニ關シ必要ナル事項ヲ命スルコトヲ得

第十二條ノ三　國際電氣通信株式會社ハ命令ノ定ムル技術者ヲ選任シ技術ニ關スル事項ヲ擔任セシムヘシ

政府ハ前項ノ技術者カ其ノ職務ヲ怠リ又ハ其ノ職務ヲ行フニ當リ不當ナル行爲ヲ爲シタルトキハ其ノ解任ヲ命スルコトヲ得

第十二條ノ四　國際電氣通信株式會社社債ヲ募集セムトスルトキ又ハ借入金ヲ爲サムトスルトキハ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第十二條ノ五　國際電氣通信株式會社事業計畫ヲ設定シ又ハ變更セムトスルトキハ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第十三條　取締役及監査役ノ選任及解任、定款ノ變更、利益金ノ處分、合併竝解散ノ決議ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

政府ハ國際電氣通信株式會社ノ決議又ハ取締役若ハ監査役ノ行爲カ法令、法令ニ基キテ爲ス處分又ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ其ノ決議ヲ取消シ又ハ取締役若ハ監査役ヲ解任スルコトヲ得

第十三條ノ二　國際電氣通信株式會社ヲ監督スル官廳ノ官吏タリシ者ハ退職後五年間ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非サレハ國際電氣通信株式會社ノ取締役及監査役ト爲ルコトヲ得ス

第十四條中「主務大臣」ヲ「政府」ニ改ム

第十四條ノ二　政府ハ國際電氣通信株式會社監理官ヲ置キ國際電氣通信株式會社ノ業務ヲ監視セシム

第十四條ノ三　國際電氣通信株式會社監理官ハ何時ニテモ國際電氣通信株式會社ノ金庫、帳簿及諸般ノ文書物件ヲ檢査スルコトヲ得

國際電氣通信株式會社監理官必要ト認ムルトキハ何時ニテモ國際電氣通信株式會社ニ命シ業務ニ關スル諸般ノ計算及狀況ヲ報告セシムルコトヲ得

國際電氣通信株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第十四條ノ四　國際電氣通信株式會社ハ每營業期ニ於ケル配當シ得ヘキ利益金額カ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ニ達スル迄政府ノ所有スル株式ニ對シ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ要セス

第十四條ノ五　國際電氣通信株式會社勅令ノ定ムル營業期及爾後ノ每營業期ニ於ケル配當シ得ヘキ利益金額カ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超過スル場合ニ於テ政府以外ノ者ノ所有スル株式ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超エ利益配當ヲ爲サムトスルトキハ其ノ超過スル利益金額ハ利益配當カ總株式ニ付拂込ミタル株金額ニ對シ均一ノ割合ニ達スル迄政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金額及政府ノ所有スル株式ノ拂込金額ニ對シ一ト五トノ割合ヲ以テ之ヲ配當スヘシ

國際電氣通信株式會社前項ノ規定ニ依リ利益ノ配當ヲ爲ス場合ニ於テ昭和十四年三月三十一日以前ニ於テ發行シタル政府以外ノ者ノ所有スル株式ニ對スル利益配當金カ其ノ拂込株金額ニ對シ年百分ノ七ノ割合ニ達セサルトキハ勅令ノ定ムル營業期及爾後十年間ヲ限リ政府ノ所有スル株式ニ對スル配當ニ充ツヘキ利益金ヲ以テ之ニ達スル迄該株式ニ對シ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ得但シ昭和十四年四月一日以後ニ於テ拂込ミタル株金額ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

第十四條ノ六　國際電氣通信株式會社ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ昭和十五年一月一日ヨリ十年間其ノ通信ケーブル設備ヲ以テ營ム事業ニ付所得稅及營業收益稅ヲ免除ス

第十四條ノ七　北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準スヘキモノハ前條ノ規定ニ依リ所得稅及營業收益稅ヲ免除セラレタル國際電氣通信株式會社ノ事業ニ對シ地方稅ヲ課スルコトヲ得但シ特別ノ事情ニ基キ政府ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條ノ八　國際電氣通信株式會社左ノ事項ニ付登記ヲ受クル場合ニ於テハ其ノ登錄稅ノ額ハ左ノ額トス

一　第六條第三項ニ規定スル出資ニ因ル資本ノ增加

增資拂込株金額ノ千分ノ一

二　第六條第三項ニ規定スル出資ニ基ク不動產ニ關スル權利ノ取得

不動產ノ價格ノ千分ノ三

第十四條ノ九　電信線電話線建設條例ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ國際電氣通信株式會社カ第一條ニ揭クル設備ノ建設及保守ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第十六條第一項ヲ左ノ如ク改ム

國際電氣通信株式會社カ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ取締役又ハ其ノ職務ヲ行フ監査役ヲ百圓以上五千圓以下ノ過料ニ處ス

第十六條ノ二　本法ヲ朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ施行スル場合ニ於テ必要アルトキハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ爲スコトヲ得

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

政府國際電氣通信株式會社法第六條第三項ノ規定ニ依リ出資ヲ爲サントスルトキハ出資ノ目的タル財產ノ價格及之ニ對シテ與フル株式ノ數ニ付政府出資財產評價委員會ノ議ヲ經ベシ

政府出資財產評價委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

政府ハ一般會計ニ屬スル國際電氣通信株式會社ノ株式ヲ有償ニテ通信事業特別會計ニ保管換ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ保管換ヲ爲ス株式ノ對價タル支出金ハ通信事業特別會計ノ資本勘定ノ歲出トシ其ノ株式ハ同特別會計ノ資本所屬物件トス

〔國務大臣（鹽野季彥君）演壇ニ登ル〕

○國務大臣（鹽野季彥君）　只今議題トナリマシタ國際電氣通信株式會社法中改正法律案ノ提案理由ニ付テ御說明申上ゲマス、現下內外ノ諸情勢竝ニ東亞ニ於ケル電氣通信ノ現狀ニ鑑ミマスルニ、日滿支三國ノ國防、政治、經濟及文化ノ緊密ナル互助連繫ヲ確保スルニ必要ナル東亞電氣通信網ヲ整備致シマスコトハ、東亞ノ新秩序確立上、不可缺且喫緊ノ一要目デアリマス、從ヒマシテ日滿支三國ノ主要都市ヲ連絡スル安固ニシテ堅牢ナル「通信ケーブル」ノ急速ナル整備ヲ企圖スルコトガ肝要デアリマシテ、之ガ爲ニハ我ガ國ノ適當ナル民間機關ヲシテ、滿洲及支那ノ各通信事業經營機關ト緊密ナル連繫ヲ保チツヽ、其ノ整備ニ當ラシムル方策ヲ採ルコトガ必要デアリマス、卽チ政府ハ我ガ國通信政策其ノ他諸般ノ事情ヨリ見マシテ、現在對外電氣通信設備ノ建設保守、外國ニ於ケル無線設備ノ貸付及工事ノ請負等ヲ目的トシテ居リマスル國際電氣通信株式會社ヲシテ、本整備ニ協力セシムルコトガ最モ適當デアルト考ヘマシテ、今回同會社ノ事業目的ヲ擴張致シマスルト同時ニ、事業ノ圓滿適正ナル遂行ヲ期スル爲、一面會社ニ對スル政府ノ保護ヲ厚ウシ、他面政府ノ監督權ヲ强化スル等ノ必要ヲ認メマシテ、本改正法律案ヲ提出シタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上速カニ協贊ヲ與ヘラレムコトヲ希望致シマス

○子爵戸澤正己君　只今議題トナリマシタ國際電氣通信株式會社法中改正法律案ハ、重要ナル法案デアリマスル故ニ、其ノ指名ヲ議長ニ一任スルノ動議ヲ提出致シマス

○子爵秋田重季君　贊成

○議長（伯爵松平賴壽君）　戸澤子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス

〔丸龜書記官朗讀〕

國際電氣通信株式會社法中改正法律案特別委員

公爵一條　實孝君　侯爵池田　宣政君
侯爵久我　通顯君　伯爵兒玉　秀雄君
男爵坂本　俊篤君　子爵松平　忠壽君
子爵舟橋　清賢君　子爵入江　爲常君
男爵淺田　良逸君　今井田清德君
男爵飯田精太郎君　倉知　鐵吉君
遠藤　柳作君　小坂　順造君
稻垣勝太郎君　鈴木　幸作君
水野貴次郎君　上野喜左衞門君

○議長（伯爵松平賴壽君）　日程第十七、船員保險法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、廣瀨厚生大臣

船員保險法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十四年三月十六日

衆議院議長　小山　松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

船員保險法案

船員保險法

第一章　總則

第一條　船員保險ニ於テハ被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ疾病、負傷、老齡、癈疾、脫退又ハ死亡ニ關シ保險給付ヲ爲スモノトス

第二條　船員保險ハ政府之ヲ管掌ス

第三條　本法ニ於テ報酬ト稱スルハ船員ガ職務執行ノ對價トシテ船舶所有者ヨリ受クル給料及之ニ準ズベキモノヲ謂フ

給料ニ準ズベキモノノ範圍及評價ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條　報酬ノ額ニ基キ保險料又ハ保險給付ノ額ヲ定ムル場合ニ於テハ標準報酬ニ依リ之ヲ算定ス

標準報酬ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條　保險料其ノ他本法ニ依ル徵收金ヲ徵收シ又ハ其ノ還付ヲ受クル權利及療養費、傷病手當金、癈疾手當金又ハ死亡手當金ヲ受クル權利ハ一年ヲ經過シタルトキ、養老年金、癈疾年金、脫退手當金又ハ第三十六條、第三十七條、第四十二條若ハ第四十九條ノ規定ニ依ル一時金ヲ受クル權利ハ五年ヲ經過シタルトキハ時效ニ因リテ消滅ス

第六條　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定スル期間ノ計算ニ付テハ本法ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外民法ノ期間ノ計算ニ關スル規定ヲ準用ス

第七條　船員保險ニ關スル書類ニハ印紙稅ヲ課セズ

第八條　行政官廳又ハ保險給付ヲ受クベキ者ハ被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ戸籍ニ關シ戸籍事務ヲ管掌スル者又

ハ共ノ代理者ニ對シ無償ニテ證明ヲ求ムルコトヲ得

第九條　行政官廳ハ命令ノ定ムル所ニ依リ被保險者ヲ雇傭スル船舶所有者ヲシテ其ノ雇傭スル者ノ異動及報酬ニ關シ報告ヲ爲サシメ、文書ヲ提示セシメ其ノ他船員保險ノ施行ニ必要ナル事務ヲ行ハシムルコトヲ得

第十條　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令中船舶所有者トアルハ船舶共有ノ場合ニ在リテハ船舶管理人、船舶貸借ノ場合ニ在リテハ船舶借入人トス

第十一條　船舶ガ滅失又ハ沈沒シタル際現ニ其ノ船舶ニ乘組ム被保險者又ハ其ノ船舶ニ乘組中被保險者ノ資格ヲ喪失シ引續キ船舶內ニ在ル者ガ滅失又ハ沈沒ノ日ヨリ三月間其ノ生死分明ナラザルトキハ本法ノ適用ニ付テハ其ノ期間滿了ノ日ニ死亡シタルモノト推定ス

船舶ノ存否ガ一月間分明ナラザルトキハ船舶ハ滅失シタルモノト推定ス

第一項ノ規定ハ被保險者又ハ船舶ニ乘組中被保險者ノ資格ヲ喪失シ引續キ船舶內ニ在ル者ガ船舶航行中行方不明ト爲リタル場合ニ於テ三月間生死分明ナラザルトキニ之ヲ準用ス

第十二條　保險料ヲ滯納スル者アルトキハ行政官廳ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スベシ

前項ノ規定ニ依リ督促ヲ爲シタル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ督促手數料及延滯金ヲ徵收ス

第一項ノ規定ニ依ル督促ヲ受ケタル者其ノ指定ノ期限迄ニ保險料其ノ他本法ニ依ル徵收金ヲ納付セザルトキハ行政官廳ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分シ又ハ滯納者若ハ其ノ者ノ財產ノ在ル市町村ニ對シ之ガ處分ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ市町村ニ對シ處分ノ請求ヲ爲シタルトキハ市町村ハ市町村稅ノ例ニ依リ之ヲ處分ス此ノ場合ニ於テハ行政官廳ハ徵收金額ノ百分ノ四ニ相當スル金額ヲ當該市町村ニ交付スベシ

第十三條　保險料其ノ他本法ニ依ル徵收金ノ先取特權ノ順位ハ市町村其ノ他之ニ準ズベキモノノ徵收金ニ次ギ他ノ公課ニ先ツモノトス

第十四條　保險料其ノ他本法ニ依ル徵收金ニ關スル書類ノ送達ニ付テハ國稅徵收法第四條ノ七及第四條ノ八ノ規定ヲ準用ス

第十五條　國、北海道、府縣、市町村其ノ他之ニ準ズベキモノノ所有ニ屬スル船舶ニ乘組ム船員ニ關シテハ本法ノ適用ニ付勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第十六條　本法中町村トアルハ町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ之ニ準ズベキモノトス

第二章　被保險者

第十七條　船員法第一條ニ規定スル帝國臣民タル船員ニシテ本法施行地ニ船籍港ヲ定ムル船舶ニ乘組ムモノハ船員保險ノ被保險者トス但シ左ニ揭グル者ハ此ノ限ニ在ラズ

一　船舶所有者ニ雇傭セラレザル者

二　官吏又ハ待遇官吏（俸給給料ヲ受ケザル者ヲ除ク）

三　前二號ニ揭グル者ノ外勅令ヲ以テ指定スル者

第十八條　被保險者ハ船舶ニ乘組ミタル日、前條各號ノ規定ニ該當セザルニ至リタル日又ハ日本ノ國籍ヲ取得シタル日ヨリ其ノ資格ヲ取得ス

第十九條　被保險者ハ死亡シタル日、船舶ニ乘組マザルニ至リタル日、第十七條各號ノ規定ノ一ニ該當スルニ至リタル日又ハ日本ノ國籍ヲ失ヒタル日ノ翌日ヨリ其ノ資格ヲ喪失ス但シ其ノ事實アリタル日ニ更ニ前條ノ規定ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ日ヨリ其ノ資格ヲ喪失ス

第二十條　十年以上十五年未滿被保險者タリシ者ガ被保險者タラザルニ至リタル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ繼續シテ被保險者ト爲ルコトヲ得但シ其ノ者ガ日本ノ國籍ヲ失ヒタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ニ依ル被保險者ニ對シテハ老齡又ハ脫退ニ關スル保險給付ニ限リ之ヲ爲スモノトス

第二十一條　前條ノ規定ニ依ル被保險者ハ第十七條ノ規定ニ依ル被保險者タリシ期間ト前條ノ規定ニ依ル被保險者タリシ期間トヲ合算シテ十五年ニ達シタルトキ其ノ他勅令ヲ以テ定ムル事由ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ資格ヲ喪失ス

第十九條ノ規定ハ前條ノ規定ニ依ル被保險者死亡シタル場合及日本ノ國籍ヲ失ヒタル場合ニ之ヲ準用ス

第三章　保險給付

第一節　總則

第二十二條　被保險者タリシ期間ハ被保險者ノ資格ヲ取得シタル月ヨリ之ヲ起算シ其ノ資格ヲ喪失シタル月ノ前月ヲ以テ終ル但シ十六日以後ニ於テ被保險者ノ資格ヲ取得シタルトキハ其ノ月ハ半月トシテ之ヲ計算ス

十六日以後ニ於テ被保險者ノ資格ヲ喪失シタルトキハ前項ノ規定ニ拘ラズ其ノ月ハ半月トシテ之ヲ被保險者タリシ期間ニ加算ス

被保險者ノ資格ヲ喪失シタル後更ニ其ノ資格ヲ取得シタル者ニ對シテ保險給付ヲ爲ス場合ニ於テハ前後ノ被保險者タリシ期間ハ之ヲ合算ス但シ脫退手當金ノ支給ヲ受ケタル場合ニ於テハ其ノ計算ノ基礎ト爲リタル期間ハ之ヲ合算セズ

前項但書ノ規定ハ第四十九條ノ規定ニ依リ差額ノ支給ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十三條　第三十六條、第三十七條若ハ第四十二條ノ規定ニ依ル一時金又ハ死亡手當金ヲ受クベキ遺族ノ範圍及順

位ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十四條　養老年金及廢疾年金ノ支給ハ之ヲ支給スベキ事由ノ生ジタル月ノ翌月ヨリ之ヲ始メ權利消滅ノ月ヲ以テ終ル

第二十五條　政府ハ事故ガ第三者ノ行爲ニ因リテ生ジタル場合ニ於テ保險給付ヲ爲シタルトキハ其ノ給付ノ價額ノ限度ニ於テ保險給付ヲ受クベキ者ガ第三者ニ對シテ有スル損害賠償請求ノ權利ヲ取得ス

第二十六條　保險給付トシテ支給ヲ受ケタル金品ヲ標準トシテ租稅其ノ他ノ公課ヲ課セズ但シ養老年金ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第二十七條　保險給付ヲ受クル權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ差押フルコトヲ得ズ

第二節　療養ノ給付又傷病手當金

第二十八條　被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ疾病又ハ負傷ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ療養ノ給付ヲ爲ス但シ被保險者ノ資格喪失前ノ疾病又ハ負傷ニ因リ發シタル疾病ヲ除クノ外被保險者ノ資格喪失後ニ發シタル疾病又ハ負傷ニ關シテハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ハ報酬年額千八百圓ヲ超ユル船舶職員、被保險者ノ資格喪失當時報酬年額千八百圓ヲ超ユル船舶職員タリシ者及勅令ヲ以テ指定スル者ノ疾病又ハ負傷ニハ之ヲ適用セズ

第一項ノ場合ニ於テ療養上必要アリト認ムルトキハ被保險者又ハ被保險者タリシ者ヲ診療所ニ收容スルコトヲ得

第二十九條　療養ノ給付ヲ爲スコト困難ナル場合又ハ被保險者若ハ被保險者タリシ者ノ申請アリタル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ療養ノ給付ニ代ヘテ療養費ヲ支給スルコトヲ得

第三十條　被保險者タリシ者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハザルトキハ其ノ期間傷病手當金トシテ一日ニ付被保險者ノ資格喪失當時ノ報酬日額ノ百分ノ六十ニ相當スル金額ヲ支給ス

一　療養ノ給付ヲ受クルトキ

二　船員法第十七條又ハ第二十九條ノ規定ニ依リ船舶所有者ヨリ疾病又ハ負傷ニ關シ扶助ヲ受クルトキ

第二十八條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十一條　診療所ニ收容シタル被保險者タリシ者ニ對シテ支給スベキ傷病手當金ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ減額スルコトヲ得

第三十二條　療養ノ給付及傷病手當金ノ支給ハ同一ノ疾病又ハ負傷及之ニ因リ發シタル疾病ニ付其ノ保險給付ヲ始メタル日ヨリ起算シ六月ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲サズ

主務大臣ノ指定スル疾病ニ關シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ前項ノ期間ヲ超エ尙六月以內繼續シテ療養ノ給付及傷病手當金ノ支給ヲ爲スコトヲ得但シ其ノ保險給付ヲ始メタル日前勅令ノ定ムル期間引續キ被保險者タリシ者ニ限ル

傷病手當金ハ其ノ支給期間ヲ經過セザルトキト雖モ療養ノ給付ヲ爲シ得ル期間ヲ經過スルニ至リタルトキハ之ヲ支給セズ

第三十三條　船員法第十七條又ハ第二十九條ノ規定ニ依リ船舶所有者ヨリ扶助又ハ手當ノ支給ヲ受クル被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ疾病又ハ負傷ニ關シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ受クルコトヲ得ベキ期間經過後療養ノ給付又ハ傷病手當金ノ支給ヲ開始ス

第三節　養老年金

第三十四條　十五年以上被保險者タリシ者ガ其ノ資格ヲ喪失シタル後五十歲ヲ超エタルトキ又ハ五十歲ヲ超エ其ノ資格ヲ喪失シタルトキハ其ノ者ノ死亡ニ至ル迄養老年金ヲ支給ス

第三十五條　養老年金ノ額ハ被保險者タリシ期間十五年以上十六年未滿ニ對シ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬年額ノ百分ノ二十五ニ相當スル金額トシ被保險者タリシ期間十五年以上一年ヲ增ス每ニ其ノ一年ニ對シ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬年額ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

被保險者タリシ期間四十年ヲ超ユル者ニ支給スベキ養老年金ノ額ハ之ヲ被保險者タリシ期間四十年トシテ計算ス

第三十六條　養老年金ノ支給ヲ受クル者ガ死亡シタル場合ニ於テ既ニ支給ヲ受ケタル養老年金ノ總額ガ養老年金ノ五年分ニ相當スル金額ニ滿タザルトキハ其ノ差額ヲ一時金トシテ其ノ遺族ニ支給ス

第三十七條　十五年以上被保險者タリシ者ガ養老年金ノ支給ヲ受クルコトナクシテ死亡シタル場合ニ於テハ其ノ者ガ支給ヲ受クルコトヲ得ベカリシ養老年金ノ五年分ニ相當スル金額ヲ一時金トシテ其ノ遺族ニ支給ス

第三十八條　傷病手當金又ハ船員法第十七條若ハ第二十九條ノ規定ニ依リ船舶所有者ヨリ手當ノ支給ヲ受クル者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ受クルコトヲ得ベキ期間養老年金ノ支給ヲ停止ス

第三十九條　養老年金ノ支給ヲ受クル者被保險者ト爲リタルトキハ其ノ月ヨリ養老年金ノ支給ヲ停止ス

前項ノ規定ニ依リ養老年金ノ支給ヲ停止セラレタル被保險者ガ其ノ資格ヲ喪失シタル場合ニ於テハ前後ノ被保險者タリシ期間ヲ合算シテ養老年金ノ額ヲ改定ス

前項ノ規定ニ依リ養老年金ノ額ヲ改定スル場合ニ於テ其ノ額ガ從前ノ養老年金ノ額ヨリ少キトキハ從前ノ養老年金ノ額ヲ以テ改定養老年金ノ額トス

第四節　廢疾年金及廢疾手當金

第四十條　被保險者ノ資格喪失前六年間ニ三年以上被保險者タリシ者ノ資格喪失前ニ發シタル疾病又ハ負傷及之ニ因リ發シタル疾病ガ勅令ノ定ムル期間內ニ治癒シタル場合又ハ治癒セザルモ共

ノ期間ヲ經過シタル場合ニ於テ前ヲ定メタル程度ノ療養ノ状態ニ在ルトキ其ノ程度ニ應ジ其ノ者ノ死亡ニ至ルマデ療養年金ヲ支給シ又ハ一時金ヲ以テ療養年金ノ全部又ハ一部ニ代ヘ又ハ其ノ支給ヲ停止スルコトヲ得

第四十一條　療養年金ノ額ハ被保險者タリシ期間ノ平均報酬月額ノ百分ノ一ニ相當スル金額トス

第四十二條　療養年金ノ支給ヲ受クル者ガ死亡シタル場合ニ於テハ左ノ區別ニ依ル金額ヲ一時金トシテ其ノ遺族ニ支給ス

一　被保險者タリシ期間ガ十五年未滿ナル場合ニ於テハ既ニ支給ヲ受ケタル療養年金ノ總額ガ被保險者ノ資格喪失ノ當時ニ於ケル平均報酬月額ノ十三月分ヲ超ユルトキハ其ノ超ユル部分ニ相當スル金額ヲ減ジタル金額

二　被保險者タリシ期間ガ十五年以上二十年未滿ナル場合ニ於テハ既ニ支給ヲ受ケタル療養年金ノ總額ガ被保險者ノ資格喪失ノ當時ニ於ケル平均報酬月額ノ十三月分ヲ超ユルトキハ其ノ超ユル部分ニ相當スル金額ヲ減ジタル金額

三　被保險者タリシ期間ガ二十年以上二十五年未滿ナル場合ニ於テハ既ニ支給ヲ受ケタル療養年金ノ總額ガ被保險者ノ資格喪失ノ當時ニ於ケル平均報酬月額ノ十三月分ヲ超ユルトキハ其ノ超ユル部分ニ相當スル金額ヲ減ジタル金額

四　被保險者タリシ期間ガ二十五年以上ナル場合ニ於テハ既ニ支給ヲ受ケタル療養年金ノ總額ガ被保險者ノ資格喪失ノ當時ニ於ケル平均報酬月額ノ十三月分ヲ超ユルトキハ其ノ超ユル部分ニ相當スル金額ヲ減ジタル金額

第四十三條　養老年金ハ被保險者タリシ期間ノ平均報酬月額ノ七月分ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

第四十四條　養老年金ノ額ハ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬月額ノ百分ノ一ニ相當スル金額ニ被保險者タリシ期間ニ應ジ左ノ區別ニ依ル金額ヲ一時金トシテ其ノ遺族ニ支給ス

一　被保險者タリシ期間ガ十五年未滿ナル場合ニ於テハ既ニ支給ヲ受ケタル療養年金ノ總額ガ被保險者ノ資格喪失ノ當時ニ於ケル平均報酬月額ノ十三月分ヲ超ユルトキハ其ノ超ユル部分ニ相當スル金額ヲ減ジタル金額

二　被保險者タリシ期間ガ十五年以上二十年未滿ナル場合ニ於テハ既ニ支給ヲ受ケタル療養年金ノ總額ガ被保險者ノ資格喪失ノ當時ニ於ケル平均報酬月額ノ十三月分ヲ超ユルトキハ其ノ超ユル部分ニ相當スル金額ヲ減ジタル金額

三　被保險者タリシ期間ガ二十年以上二十五年未滿ナル場合ニ於テハ既ニ支給ヲ受ケタル療養年金ノ總額ガ被保險者ノ資格喪失ノ當時ニ於ケル平均報酬月額ノ十三月分ヲ超ユルトキハ其ノ超ユル部分ニ相當スル金額ヲ減ジタル金額

四　被保險者タリシ期間ガ二十五年以上ナル場合ニ於テハ既ニ支給ヲ受ケタル療養年金ノ總額ガ被保險者ノ資格喪失ノ當時ニ於ケル平均報酬月額ノ十三月分ヲ超ユルトキハ其ノ超ユル部分ニ相當スル金額ヲ減ジタル金額

第四十五條　削除

第四十六條　三年以上十五年未滿被保險者ガ死亡シタルトキ又ハ其ノ者ガ療養ノ給付ヲ受ケタル後更ニ被保險者ト爲リ其ノ資格喪失ノ日ヨリ起算シテ一年以内ニ死亡シタルトキハ其ノ死亡ハ被保險者タリシ期間ニ於ケル業務上ノ事由ニ因リ生ジタルモノト看做ス

第四十七條　養老年金ハ被保險者タリシ者ガ死亡シタルトキ又ハ其ノ者ガ療養ノ給付ヲ受ケタル後一年六月ヲ經過シ尚其ノ傷病ニ因リ第一項ノ障害ノ程度ニ該當スルトキニ之ヲ給ス

第四十八條　療養ノ給付ヲ受ケタル者ガ第四十四條ノ規定ニ依リ療養年金ノ支給ヲ受クル權利ヲ有スル者ニ對シテハ其ノ者ノ請求ニ依リ其ノ權利ヲ有スル間其ノ者ニ對シ療養ノ給付ヲ爲スコトヲ得

第四十九條　療養年金ヲ受クル權利ヲ有スル者ニ對シテハ其ノ權利ヲ有スル間左ノ各號ニ掲グル者ニ對シ其ノ者ノ請求ニ依リ其ノ權利ヲ有スル間其ノ者ニ對シ療養ノ給付ヲ爲スコトヲ得

一　配偶者

二　子

三　父母

四　孫

五　祖父母

第五十條　削除

第五十一條　被保險者又ハ被保險者タリシ者ガ自己ノ故意ノ犯罪行爲ニ因リ又ハ故意ニ事故ヲ生ゼシメタルトキハ療養ノ給付又ハ傷病手當金、療養年金又ハ其ノ支給ヲ爲サズ

第五十二條　被保險者又ハ被保險者タリシ者ガ罔爭、混醉若ハ著シキ不行跡ニ因リ、故意ニ危害豫防ニ關スル業務上ノ指揮ニ從ハザルニ因リ又ハ正當ノ理由ナクシテ療養ニ關シ命ジタル事項ヲ守ラザルトキハ其ノ者ニ支給スル療養ノ給付ノ全部又ハ一部ヲ行ハザルコトヲ得

第五十三條　被保險者又ハ被保險者タリシ者ガ其ノ責ニ歸スベキ事由ニ因リ療養ニ關スル指揮ニ從ハザル者ニ對シテハ傷病手當金ノ一部ヲ支給セザルコトヲ得

第五十四條　正當ノ理由ナクシテ療養ニ關スル指揮ニ從ハザル者ニ對シテハ傷病手當金ノ一部ヲ支給セザルコトヲ得

第五十五條　詐欺其ノ他不正ノ行爲ニ依リ保險給付ヲ受ケ又ハ受ケシメタル者ニ對シテハ傷病手當金ノ全部又ハ一部ヲ爲サズ又ハ既ニ爲シタル給付ノ全部又ハ一部ヲ返還セシムルコトヲ得

第五十六條　療養ノ給付ヲ爲スベキ場合ニ於テ被保險者ノ請求ニ依リ他ノ法令ニ依リ國又ハ公共團體ノ負擔ニ於テ療養ノ給付ヲ爲スベキ者ニ對シテハ療養ノ給付ヲ爲サズ

第五十七條　療養年金ハ被保險者タリシ者ガ死亡シタル場合ニ於テハ左ノ區別ニ依リ遺族ニ對シ被保險者タリシ期間ニ應ジ左ノ金額ヲ一時金トシテ其ノ遺族ニ支給ス

一　被保險者タリシ期間ガ十五年未滿ナル者ニ對シテハ被保險者タリシ期間ノ平均報酬月額ノ十三月分ヲ超ユルトキハ其ノ超ユル部分ニ相當スル金額ヲ減ジタル金額

二　被保險者タリシ期間ガ十五年以上二十年未滿ナル者ニ對シテハ被保險者タリシ期間ノ平均報酬月額ノ一月半分ニ相當スル金額

三　被保險者タリシ期間ガ二十年以上二十五年未滿ナル者ニ對シテハ被保險者タリシ期間ノ平均報酬月額ノ二月分ニ相當スル金額

四　被保險者タリシ期間ガ二十五年以上ナル者ニ對シテハ被保險者タリシ期間ノ平均報酬月額ノ三月分ニ相當スル金額

第五十八條　三年以上十五年未滿被保險者ガ死亡シタルトキ又ハ其ノ者ガ療養ノ給付ヲ受ケタル後更ニ被保險者ト爲リ其ノ資格喪失ノ當時ニ於ケル平均報酬月額ノ十三月分ヲ超ユルトキハ其ノ超ユル部分ニ相當スル金額ヲ減ジタル金額

第五十九條　削除

第六十條　被保險者又ハ被保險者タリシ者ガ死亡シタルトキ又ハ其ノ者ガ療養ノ給付ヲ受ケタル後更ニ被保險者ト爲リ其ノ資格喪失ノ當時ニ於ケル平均報酬月額ノ十三月分ヲ超ユルトキハ其ノ超ユル部分ニ相當スル金額ヲ減ジタル金額

第六十一條　削除

第六十二條　被保險者又ハ被保險者タリシ者ガ死亡シタルトキ又ハ其ノ者ガ療養ノ給付ヲ受ケタル後更ニ被保險者ト爲リ其ノ資格喪失ノ當時ニ於ケル平均報酬月額ノ十三月分ヲ超ユルトキハ其ノ超ユル部分ニ相當スル金額ヲ減ジタル金額

第六十三條　削除

第六十四條　削除

第六十五條　削除

第六十六條　削除

第六十七條　削除

第六十八條　削除

第六十九條　削除

第七十條　削除

第七十一條　削除

第七十二條　削除

第七十三條　削除

第七十四條　削除

第七十五條　削除

第七十六條　削除

第七十七條　削除

第七十八條　削除

第七十九條　削除

第八十條　削除

第八十一條　削除

第八十二條　削除

第八十三條　削除

第八十四條　削除

第八十五條　削除

第八十六條　削除

第八十七條　削除

第八十八條　削除

第八十九條　削除

第九十條　削除

第九十一條　削除

第九十二條　削除

第九十三條　削除

第九十四條　削除

第九十五條　削除

第九十六條　削除

第九十七條　削除

第九十八條　削除

第九十九條　削除

第百條　削除

第百一條　削除

第百二條　削除

第百三條　削除

第百四條　削除

第百五條　削除

第百六條　削除

第百七條　削除

第百八條　削除

第百九條　削除

第百十條　削除

第百十一條　削除

第百十二條　削除

第百十三條　削除

第百十四條　削除

第百十五條　削除

第百十六條　削除

第百十七條　削除

第百十八條　削除

第百十九條　削除

第百二十條　削除

第百二十一條　削除

第百二十二條　削除

第百二十三條　削除

第百二十四條　削除

第百二十五條　削除

第百二十六條　削除

第百二十七條　削除

第百二十八條　削除

第百二十九條　削除

第百三十條　削除

第百三十一條　削除

第百三十二條　削除

第百三十三條　削除

第百三十四條　削除

第百三十五條　削除

第百三十六條　削除

第百三十七條　削除

第百三十八條　削除

第百三十九條　削除

第百四十條　削除

第百四十一條　削除

第百四十二條　削除

第百四十三條　削除

第百四十四條　削除

第百四十五條　削除

第百四十六條　削除

第百四十七條　削除

第百四十八條　削除

第百四十九條　削除

第百五十條　削除

第百五十一條　削除

第百五十二條　削除

第百五十三條　削除

第百五十四條　削除

第百五十五條　削除

第百五十六條　削除

第百五十七條　削除

第百五十八條　削除

第百五十九條　削除

第百六十條　削除

第百六十一條　削除

第百六十二條　削除

第百六十三條　削除

第百六十四條　削除

第百六十五條　削除

第百六十六條　削除

第百六十七條　削除

第百六十八條　削除

第百六十九條　削除

第百七十條　削除

第百七十一條　削除

第百七十二條　削除

第百七十三條　削除

第百七十四條　削除

第百七十五條　削除

第百七十六條　削除

第百七十七條　削除

第百七十八條　削除

第百七十九條　削除

第百八十條　削除

第百八十一條　削除

第百八十二條　削除

第百八十三條　削除

第百八十四條　削除

第百八十五條　削除

第百八十六條　削除

第百八十七條　削除

第百八十八條　削除

第百八十九條　削除

第百九十條　削除

第百九十一條　削除

第百九十二條　削除

第百九十三條　削除

第百九十四條　削除

第百九十五條　削除

第百九十六條　削除

第百九十七條　削除

第百九十八條　削除

第百九十九條　削除

第二百條　削除

第二百一條　削除

第二百二條　削除

第二百三條　削除

第二百四條　削除

第二百五條　削除

第二百六條　削除

第二百七條　削除

第二百八條　削除

第二百九條　削除

第二百十條　削除

第二百十一條　削除

第二百十二條　削除

第二百十三條　削除

第二百十四條　削除

第二百十五條　削除

第二百十六條　削除

第二百十七條　削除

第二百十八條　削除

第二百十九條　削除

第二百二十條　削除

第二百二十一條　削除

第二百二十二條　削除

第二百二十三條　削除

第二百二十四條　削除

第二百二十五條　削除

第二百二十六條　削除

第二百二十七條　削除

第二百二十八條　削除

第二百二十九條　削除

第二百三十條　削除

第二百三十一條　削除

第二百三十二條　削除

第二百三十三條　削除

第二百三十四條　削除

第二百三十五條　削除

第二百三十六條　削除

第二百三十七條　削除

第二百三十八條　削除

第二百三十九條　削除

第二百四十條　削除

第二百四十一條　削除

第二百四十二條　削除

第二百四十三條　削除

第二百四十四條　削除

第二百四十五條　削除

第二百四十六條　削除

第二百四十七條　削除

第二百四十八條　削除

第二百四十九條　削除

第二百五十條　削除

第二百五十一條　削除

第二百五十二條　削除

第二百五十三條　削除

第二百五十四條　削除

第二百五十五條　削除

第二百五十六條　削除

第二百五十七條　削除

第二百五十八條　削除

第二百五十九條　削除

第二百六十條　削除

第二百六十一條　削除

第二百六十二條　削除

第二百六十三條　削除

第二百六十四條　削除

第二百六十五條　削除

第二百六十六條　削除

第二百六十七條　削除

第二百六十八條　削除

第二百六十九條　削除

第二百七十條　削除

第二百七十一條　削除

第二百七十二條　削除

第二百七十三條　削除

第二百七十四條　削除

第二百七十五條　削除

第二百七十六條　削除

第二百七十七條　削除

第二百七十八條　削除

第二百七十九條　削除

第二百八十條　削除

第二百八十一條　削除

第二百八十二條　削除

第二百八十三條　削除

第二百八十四條　削除

第二百八十五條　削除

第二百八十六條　削除

第二百八十七條　削除

第二百八十八條　削除

第二百八十九條　削除

第二百九十條　削除

第二百九十一條　削除

第二百九十二條　削除

第二百九十三條　削除

第二百九十四條　削除

第二百九十五條　削除

第二百九十六條　削除

第二百九十七條　削除

第二百九十八條　削除

第二百九十九條　削除

第三百條　削除

第三百一條　削除

第三百二條　削除

第三百三條　削除

第三百四條　削除

第三百五條　削除

第三百六條　削除

第三百七條　削除

第三百八條　削除

第三百九條　削除

第三百十條　削除

第三百十一條　削除

第三百十二條　削除

第三百十三條　削除

第三百十四條　削除

第三百十五條　削除

第三百十六條　削除

第三百十七條　削除

第三百十八條　削除

第三百十九條　削除

第三百二十條　削除

第三百二十一條　削除

第三百二十二條　削除

第三百二十三條　削除

第三百二十四條　削除

第三百二十五條　削除

第三百二十六條　削除

第三百二十七條　削除

第三百二十八條　削除

第三百二十九條　削除

第三百三十條　削除

第三百三十一條　削除

第三百三十二條　削除

第三百三十三條　削除

第三百三十四條　削除

第三百三十五條　削除

第三百三十六條　削除

第三百三十七條　削除

第三百三十八條　削除

第三百三十九條　削除

第三百四十條　削除

第三百四十一條　削除

第三百四十二條　削除

第三百四十三條　削除

第三百四十四條　削除

第三百四十五條　削除

第三百四十六條　削除

第三百四十七條　削除

第三百四十八條　削除

第三百四十九條　削除

第三百五十條　削除

第三百五十一條　削除

第三百五十二條　削除

第三百五十三條　削除

第三百五十四條　削除

第三百五十五條　削除

第三百五十六條　削除

第三百五十七條　削除

第三百五十八條　削除

第三百五十九條　削除

第三百六十條　削除

第三百六十一條　削除

第三百六十二條　削除

第三百六十三條　削除

第三百六十四條　削除

第三百六十五條　削除

第三百六十六條　削除

第三百六十七條　削除

第三百六十八條　削除

第三百六十九條　削除

第三百七十條　削除

第三百七十一條　削除

第三百七十二條　削除

第三百七十三條　削除

第三百七十四條　削除

第三百七十五條　削除

第三百七十六條　削除

第三百七十七條　削除

第三百七十八條　削除

第三百七十九條　削除

第三百八十條　削除

第三百八十一條　削除

第三百八十二條　削除

第三百八十三條　削除

第三百八十四條　削除

第三百八十五條　削除

第三百八十六條　削除

第三百八十七條　削除

第三百八十八條　削除

第三百八十九條　削除

第三百九十條　削除

第三百九十一條　削除

第三百九十二條　削除

第三百九十三條　削除

第三百九十四條　削除

第三百九十五條　削除

第三百九十六條　削除

第三百九十七條　削除

第三百九十八條　削除

第三百九十九條　削除

第四百條　削除

第四百一條　削除

第四百二條　削除

第四百三條　削除

第四百四條　削除

第四百五條　削除

第四百六條　削除

第四百七條　削除

第四百八條　削除

第四百九條　削除

第四百十條　削除

第四百十一條　削除

第四百十二條　削除

第四百十三條　削除

第四百十四條　削除

第四百十五條　削除

第四百十六條　削除

第四百十七條　削除

第四百十八條　削除

第四百十九條　削除

第四百二十條　削除

第四百二十一條　削除

第四百二十二條　削除

第四百二十三條　削除

第四百二十四條　削除

第四百二十五條　削除

第四百二十六條　削除

第四百二十七條　削除

第四百二十八條　削除

第四百二十九條　削除

第四百三十條　削除

第四百三十一條　削除

第四百三十二條　削除

第四百三十三條　削除

第四百三十四條　削除

第四百三十五條　削除

第四百三十六條　削除

第四百三十七條　削除

第四百三十八條　削除

第四百三十九條　削除

第四百四十條　削除

第四百四十一條　削除

第四百四十二條　削除

第四百四十三條　削除

第四百四十四條　削除

第四百四十五條　削除

第四百四十六條　削除

第四百四十七條　削除

第四百四十八條　削除

第四百四十九條　削除

第四百五十條　削除

第四百五十一條　削除

第四百五十二條　削除

第四百五十三條　削除

第四百五十四條　削除

第四百五十五條　削除

第四百五十六條　削除

第四百五十七條　削除

第四百五十八條　削除

第四百五十九條　削除

第四百六十條　削除

第四百六十一條　削除

第四百六十二條　削除

第四百六十三條　削除

第四百六十四條　削除

第四百六十五條　削除

第四百六十六條　削除

第四百六十七條　削除

第四百六十八條　削除

第四百六十九條　削除

第四百七十條　削除

第四百七十一條　削除

第四百七十二條　削除

第四百七十三條　削除

第四百七十四條　削除

第四百七十五條　削除

第四百七十六條　削除

第四百七十七條　削除

第四百七十八條　削除

第四百七十九條　削除

第四百八十條　削除

第四百八十一條　削除

第四百八十二條　削除

第四百八十三條　削除

第四百八十四條　削除

第四百八十五條　削除

第四百八十六條　削除

第四百八十七條　削除

第四百八十八條　削除

第四百八十九條　削除

第四百九十條　削除

第四百九十一條　削除

第四百九十二條　削除

第四百九十三條　削除

第四百九十四條　削除

第四百九十五條　削除

第四百九十六條　削除

第四百九十七條　削除

第四百九十八條　削除

第四百九十九條　削除

第五百條　削除

第五百一條　削除

第五百二條　削除

第五百三條　削除

第五百四條　削除

第五百五條　削除

第五百六條　削除

第五百七條　削除

第五百八條　削除

第五百九條　削除

第五百十條　削除

第五百十一條　削除

第五百十二條　削除

第五百十三條　削除

第五百十四條　削除

第五百十五條　削除

第五百十六條　削除

第五百十七條　削除

第五百十八條　削除

第五百十九條　削除

第五百二十條　削除

第五百二十一條　削除

第五百二十二條　削除

第五百二十三條　削除

第五百二十四條　削除

第五百二十五條　削除

第五百二十六條　削除

第五百二十七條　削除

第五百二十八條　削除

第五百二十九條　削除

第五百三十條　削除

第五百三十一條　削除

第五百三十二條　削除

第五百三十三條　削除

第五百三十四條　削除

第五百三十五條　削除

第五百三十六條　削除

第五百三十七條　削除

第五百三十八條　削除

第五百三十九條　削除

第五百四十條　削除

第五百四十一條　削除

第五百四十二條　削除

第五百四十三條　削除

第五百四十四條　削除

第五百四十五條　削除

第五百四十六條　削除

第五百四十七條　削除

第五百四十八條　削除

第五百四十九條　削除

第五百五十條　削除

第五百五十一條　削除

第五百五十二條　削除

第五百五十三條　削除

第五百五十四條　削除

第五百五十五條　削除

第五百五十六條　削除

第五百五十七條　削除

第五百五十八條　削除

第五百五十九條　削除

第五百六十條　削除

第五百六十一條　削除

第五百六十二條　削除

第五百六十三條　削除

第五百六十四條　削除

第五百六十五條　削除

第五百六十六條　削除

第五百六十七條　削除

第五百六十八條　削除

第五百六十九條　削除

第五百七十條　削除

第五百七十一條　削除

第五百七十二條　削除

第五百七十三條　削除

第五百七十四條　削除

第五百七十五條　削除

第五百七十六條　削除

第五百七十七條　削除

第五百七十八條　削除

第五百七十九條　削除

第五百八十條　削除

第五百八十一條　削除

第五百八十二條　削除

第五百八十三條　削除

第五百八十四條　削除

第五百八十五條　削除

第五百八十六條　削除

第五百八十七條　削除

第五百八十八條　削除

第五百八十九條　削除

第五百九十條　削除

第五百九十一條　削除

第五百九十二條　削除

第五百九十三條　削除

第五百九十四條　削除

第五百九十五條　削除

第五百九十六條　削除

第五百九十七條　削除

第五百九十八條　削除

第五百九十九條　削除

第六百條　削除

第六百一條　削除

第六百二條　削除

第六百三條　削除

第六百四條　削除

第六百五條　削除

第六百六條　削除

第六百七條　削除

第六百八條　削除

第六百九條　削除

第六百十條　削除

第六百十一條　削除

第六百十二條　削除

第六百十三條　削除

第六百十四條　削除

第六百十五條　削除

第六百十六條　削除

第六百十七條　削除

第六百十八條　削除

第六百十九條　削除

第六百二十條　削除

第六百二十一條　削除

第六百二十二條　削除

第六百二十三條　削除

第六百二十四條　削除

第六百二十五條　削除

第六百二十六條　削除

第六百二十七條　削除

第六百二十八條　削除

第六百二十九條　削除

第六百三十條　削除

第六百三十一條　削除

第六百三十二條　削除

第六百三十三條　削除

第六百三十四條　削除

第六百三十五條　削除

第六百三十六條　削除

第六百三十七條　削除

第六百三十八條　削除

第六百三十九條　削除

第六百四十條　削除

第六百四十一條　削除

第六百四十二條　削除

第六百四十三條　削除

第六百四十四條　削除

第六百四十五條　削除

第六百四十六條　削除

第六百四十七條　削除

第六百四十八條　削除

第六百四十九條　削除

第六百五十條　削除

第六百五十一條　削除

第六百五十二條　削除

第六百五十三條　削除

第六百五十四條　削除

第六百五十五條　削除

第六百五十六條　削除

第六百五十七條　削除

第六百五十八條　削除

第六百五十九條　削除

第六百六十條　削除

第六百六十一條　削除

第六百六十二條　削除

第六百六十三條　削除

第六百六十四條　削除

第六百六十五條　削除

第六百六十六條　削除

第六百六十七條　削除

第六百六十八條　削除

第六百六十九條　削除

第六百七十條　削除

第六百七十一條　削除

第六百七十二條　削除

第六百七十三條　削除

第六百七十四條　削除

第六百七十五條　削除

第六百七十六條　削除

第六百七十七條　削除

第六百七十八條　削除

第六百七十九條　削除

第六百八十條　削除

第六百八十一條　削除

第六百八十二條　削除

第六百八十三條　削除

第六百八十四條　削除

第六百八十五條　削除

第六百八十六條　削除

第六百八十七條　削除

第六百八十八條　削除

第六百八十九條　削除

第六百九十條　削除

第六百九十一條　削除

第六百九十二條　削除

第六百九十三條　削除

第六百九十四條　削除

第六百九十五條　削除

第六百九十六條　削除

第六百九十七條　削除

第六百九十八條　削除

第六百九十九條　削除

第七百條　削除

第七百一條　削除

第七百二條　削除

第七百三條　削除

第七百四條　削除

第七百五條　削除

第七百六條　削除

第七百七條　削除

第七百八條　削除

第七百九條　削除

第七百十條　削除

第七百十一條　削除

第七百十二條　削除

第七百十三條　削除

第七百十四條　削除

第七百十五條　削除

第七百十六條　削除

第七百十七條　削除

第七百十八條　削除

第七百十九條　削除

第七百二十條　削除

第七百二十一條　削除

第七百二十二條　削除

第七百二十三條　削除

第七百二十四條　削除

第七百二十五條　削除

第七百二十六條　削除

第七百二十七條　削除

第七百二十八條　削除

第七百二十九條　削除

第七百三十條　削除

第七百三十一條　削除

第七百三十二條　削除

第七百三十三條　削除

第七百三十四條　削除

第七百三十五條　削除

第七百三十六條　削除

第七百三十七條　削除

第七百三十八條　削除

第七百三十九條　削除

第七百四十條　削除

第七百四十一條　削除

第七百四十二條　削除

第七百四十三條　削除

第七百四十四條　削除

第七百四十五條　削除

第七百四十六條　削除

第七百四十七條　削除

第七百四十八條　削除

第七百四十九條　削除

第七百五十條　削除

第七百五十一條　削除

第七百五十二條　削除

第七百五十三條　削除

第七百五十四條　削除

第七百五十五條　削除

第七百五十六條　削除

第七百五十七條　削除

第七百五十八條　削除

第七百五十九條　削除

第七百六十條　削除

第七百六十一條　削除

第七百六十二條　削除

第七百六十三條　削除

第七百六十四條　削除

第七百六十五條　削除

第七百六十六條　削除

第七百六十七條　削除

第七百六十八條　削除

第七百六十九條　削除

第七百七十條　削除

第七百七十一條　削除

第七百七十二條　削除

第七百七十三條　削除

第七百七十四條　削除

第七百七十五條　削除

第七百七十六條　削除

第七百七十七條　削除

第七百七十八條　削除

第七百七十九條　削除

第七百八十條　削除

第七百八十一條　削除

第七百八十二條　削除

第七百八十三條　削除

第七百八十四條　削除

第七百八十五條　削除

第七百八十六條　削除

第七百八十七條　削除

第七百八十八條　削除

第七百八十九條　削除

第七百九十條　削除

第七百九十一條　削除

第七百九十二條　削除

第七百九十三條　削除

第七百九十四條　削除

第七百九十五條　削除

第七百九十六條　削除

第七百九十七條　削除

第七百九十八條　削除

第七百九十九條　削除

第八百條　削除

第八百一條　削除

第八百二條　削除

第八百三條　削除

第八百四條　削除

第八百五條　削除

第八百六條　削除

第八百七條　削除

第八百八條　削除

第八百九條　削除

第八百十條　削除

第八百十一條　削除

第八百十二條　削除

第八百十三條　削除

第八百十四條　削除

第八百十五條　削除

第八百十六條　削除

第八百十七條　削除

第八百十八條　削除

第八百十九條　削除

第八百二十條　削除

第八百二十一條　削除

第八百二十二條　削除

第八百二十三條　削除

第八百二十四條　削除

第八百二十五條　削除

第八百二十六條　削除

第八百二十七條　削除

第八百二十八條　削除

第八百二十九條　削除

第八百三十條　削除

第八百三十一條　削除

第八百三十二條　削除

第八百三十三條　削除

第八百三十四條　削除

第八百三十五條　削除

第八百三十六條　削除

第八百三十七條　削除

第八百三十八條　削除

第八百三十九條　削除

第八百四十條　削除

第八百四十一條　削除

第八百四十二條　削除

第八百四十三條　削除

第八百四十四條　削除

第八百四十五條　削除

第八百四十六條　削除

第八百四十七條　削除

第八百四十八條　削除

第八百四十九條　削除

第八百五十條　削除

第八百五十一條　削除

第八百五十二條　削除

第八百五十三條　削除

第八百五十四條　削除

第八百五十五條　削除

第八百五十六條　削除

第八百五十七條　削除

第八百五十八條　削除

第八百五十九條　削除

第八百六十條　削除

第八百六十一條　削除

第八百六十二條　削除

第八百六十三條　削除

第八百六十四條　削除

第八百六十五條　削除

第八百六十六條　削除

第八百六十七條　削除

第八百六十八條　削除

第八百六十九條　削除

第八百七十條　削除

第八百七十一條　削除

第八百七十二條　削除

第八百七十三條　削除

第八百七十四條　削除

第八百七十五條　削除

第八百七十六條　削除

第八百七十七條　削除

第八百七十八條　削除

第八百七十九條　削除

第八百八十條　削除

第八百八十一條　削除

第八百八十二條　削除

第八百八十三條　削除

第八百八十四條　削除

第八百八十五條　削除

第八百八十六條　削除

第八百八十七條　削除

第八百八十八條　削除

第八百八十九條　削除

第八百九十條　削除

第八百九十一條　削除

第八百九十二條　削除

第八百九十三條　削除

第八百九十四條　削除

第八百九十五條　削除

第八百九十六條　削除

第八百九十七條　削除

第八百九十八條　削除

第八百九十九條　削除

第九百條　削除

第九百一條　削除

第九百二條　削除

第九百三條　削除

第九百四條　削除

第九百五條　削除

第九百六條　削除

第九百七條　削除

第九百八條　削除

第九百九條　削除

第九百十條　削除

第九百十一條　削除

第九百十二條　削除

第九百十三條　削除

第九百十四條　削除

第九百十五條　削除

第九百十六條　削除

第九百十七條　削除

第九百十八條　削除

第九百十九條　削除

第九百二十條　削除

第九百二十一條　削除

第九百二十二條　削除

第九百二十三條　削除

第九百二十四條　削除

第九百二十五條　削除

第九百二十六條　削除

第九百二十七條　削除

第九百二十八條　削除

第九百二十九條　削除

第九百三十條　削除

第九百三十一條　削除

第九百三十二條　削除

第九百三十三條　削除

第九百三十四條　削除

第九百三十五條　削除

第九百三十六條　削除

第九百三十七條　削除

第九百三十八條　削除

第九百三十九條　削除

第九百四十條　削除

第九百四十一條　削除

第九百四十二條　削除

第九百四十三條　削除

第九百四十四條　削除

第九百四十五條　削除

第九百四十六條　削除

第九百四十七條　削除

第九百四十八條　削除

第九百四十九條　削除

第九百五十條　削除

第九百五十一條　削除

第九百五十二條　削除

第九百五十三條　削除

第九百五十四條　削除

第九百五十五條　削除

第九百五十六條　削除

第九百五十七條　削除

第九百五十八條　削除

第九百五十九條　削除

第九百六十條　削除

第九百六十一條　削除

第九百六十二條　削除

第九百六十三條　削除

第九百六十四條　削除

第九百六十五條　削除

第九百六十六條　削除

第九百六十七條　削除

第九百六十八條　削除

第九百六十九條　削除

第九百七十條　削除

第九百七十一條　削除

第九百七十二條　削除

第九百七十三條　削除

第九百七十四條　削除

第九百七十五條　削除

第九百七十六條　削除

第九百七十七條　削除

第九百七十八條　削除

第九百七十九條　削除

第九百八十條　削除

第九百八十一條　削除

第九百八十二條　削除

第九百八十三條　削除

第九百八十四條　削除

第九百八十五條　削除

第九百八十六條　削除

第九百八十七條　削除

第九百八十八條　削除

第九百八十九條　削除

第九百九十條　削除

第九百九十一條　削除

第九百九十二條　削除

第九百九十三條　削除

第九百九十四條　削除

第九百九十五條　削除

第九百九十六條　削除

第九百九十七條　削除

第九百九十八條　削除

第九百九十九條　削除

第千條　削除

キ資格ヲ有スル船員トシテ五年以上船舶ニ乘組ミタル者ガ四十五歲ヲ超エ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル場合ニ於テ同日前十五年間ニ於テ船舶ニ乘組ミタル期間ト被保險者タリシ期間トヲ合算シ十五年以上ニ達スルモ十五年以上被保險者タリシ者ニ非ザルトキハ其ノ者ニ對スル脫退手當金ノ支給條件及其ノ額ニ付テハ第四十六條及第四十七條ノ規定ニ拘ラズ勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

（國務大臣（廣瀨久忠君）演壇ニ登ル）

○國務大臣（廣瀨久忠君）　只今議題トナリマシタ船員保險法案ノ提出ノ理由ヲ說明致シマス、抑〻海運業ハ產業ノ發展、資源ノ開發、貿易ノ隆昌、國際收支ノ改善等ノ諸點ヨリ觀察シマシテ、我ガ國力ノ伸張上重要ナル地位ヲ占ムルバカリデナク、一朝有事ニ際シマシテハ四面環海ノ我ガ國ニ於テハ、重大ナル軍事的任務ニ服スルモノデアリマシテ、之ヲ國防上ノ見地ヨリ致シマシテモ、其ノ重要性ガ一層認識セラレルノデアリマス、海運業ノ發展ヲ期スル爲ニハ重要航路ノ開拓、優秀船舶ノ保持ヲ必要トスルコト勿論デアリマスガ、更ニ之ガ運行ノ衝ニ當ルベキ船員ニ優秀ナル者ヲ得テ、永ク安ンジテ其ノ職務ニ精勵セシムルコトガ最モ緊要デアルト確信スル次第デアリマス、然ルニ船員生活ノ實際ニ就テ見マスルニ、其ノ不自由ナル海上生活ニ因ル精神上又ハ經濟上ノ苦痛及退職後ニ於ケル生活不安等、陸上勤務者ニ見ルコトノ出來ナイ幾多ノ不利不便ヲ伴フコトヲ免レナイノデアリマス、從ッテ動モスレバ陸上勤務ノ職業ニ轉向セムトスル傾向ヲ示シテ居ルノデアリマス、斯クノ如キ現象ハ我ガ國海運業ノ隆昌ヲ期スル上ニ於テ誠ニ遺憾ニ堪ヘナイ所デアリマシテ、斯カル見地ヨリ致シマシテ、以上述ベマシタ如キ船員生活ニ於ケル不安ヲ除去スルニ必要ナル國家的保護施設ノ整備ヲ圖リ、以テ船員ヲシテ其ノ職務ニ專念セシムルヤウニ致シマスルコトハ、海運政策上ヨリ見マシテモ、將又現下ノ時局ニ鑑ミマシテモ、誠ニ急務デアルト言ハナケレバナラナイノデアリマス、以上ノ理由ニ依リマシテ、今回政府ハ船員ノ老後ニ於ケル生活ノ安定ヲ圖リ、優秀ナル船員ヲシテ安ンジテ永ク其ノ職務ニ從事セシメ、併セテ其ノ疾病傷痍竝ニ癈疾ニ對スル保護ヲナス爲、船員保險法案ヲ立案シタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上、速カニ御協贊アラムコトヲ希望致シマス

○子爵戸澤正己君　只今議題トナリマシタ船員保險法案ハ、關聯スル所ガゴザイマスルガ故ニ、職員健康保險法案ノ特別委員ニ併託セラレムコトノ動議ヲ提出致シマス

○子爵秋田重季君　賛成

○議長（伯爵松平賴壽君）　戸澤子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス

○議長（伯爵松平賴壽君）　日程第十八、帝國鑛業開發株式會社法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、八田商工大臣

帝國鑛業開發株式會社法案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十四年三月十六日

衆議院議長　小山　松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

（小字ハ衆議院ノ修正ナリ）

帝國鑛業開發株式會社法案

帝國鑛業開發株式會社法

第一章　總則

第一條　帝國鑛業開發株式會社ハ重要鑛物（金鑛及砂金ヲ除ク以下之ニ同ジ）ノ資源ノ開發ヲ促進シ其ノ增產ヲ圖ル爲必要ナル事業ヲ營ムコトヲ目的トスル株式會社トス

第二條　帝國鑛業開發株式會社ハ其ノ本店ヲ東京市ニ置ク

帝國鑛業開發株式會社ハ政府ノ認可ヲ受ケ支店又ハ出張所ヲ設クルコトヲ得

第三條　帝國鑛業開發株式會社ノ資本ハ三千萬圓トシ內千五百萬圓ハ政府ノ出資トス

帝國鑛業開發株式會社ハ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ資本ヲ增加スルコトヲ得

第四條　帝國鑛業開發株式會社ハ株式ハ記名式トシ政府、公共團體、帝國臣民又ハ帝國法人ニ限リ之ヲ所有スルコトヲ得

第五條　帝國鑛業開發株式會社ノ存立期間ハ設立登記ノ日ヨリ三十年トス但シ政府ノ認可ヲ受ケ之ヲ延長スルコトヲ得

第六條　帝國鑛業開發株式會社ニ非ザルモノハ帝國鑛業開發株式會社又ハ之ニ類似ノ名稱ヲ以テ其ノ商號ト爲スコトヲ得ズ

第二章　役員

第七條　帝國鑛業開發株式會社ニ社長副社長各一人、理事三人以上及監事二人以上ヲ置ク

第八條　社長ハ帝國鑛業開發株式會社ヲ代表シ其ノ業務ヲ總理ス

副社長ハ社長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ社長缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ

副社長及理事ハ社長ヲ補助シ帝國鑛業開發株式會社ノ業務ヲ分掌ス

監事ハ帝國鑛業開發株式會社ノ業務ヲ監査ス

第九條　社長及副社長ハ政府之ヲ命ジ其ノ任期ヲ四年トス

理事ハ株主中ヨリ株主總會ニ於テ二倍ノ候補者ヲ選擧シ政府其ノ中ヨリ之ヲ命ジ其ノ任期ヲ三年トス

監事ハ株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ其ノ任期ヲ二年トス

鑛業ヲ監督スル官廳ノ官吏タリシ者ハ其ノ職ヲ退キタル後五年間帝國鑛業開發株式會社ノ役員ト爲ルコトヲ得ズ但シ主務大臣ニ於テ特ニ必要アリト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十條　社長、副社長及理事ハ他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得ズ但シ政府ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三章　營業

第十一條　帝國鑛業開發株式會社ハ左ノ事業ヲ營ムモノトス

一　重要鑛物ヲ目的トスル鑛業（砂鑛業ヲ含ム以下之ニ同ジ）

二　重要鑛物ニ關スル鑛床ノ調查

三　重要鑛物ヲ目的トスル鑛業ニ對スル技術ニ關スル指導

四　重要鑛物ノ賣買又ハ其ノ斡旋

五　重要鑛物ヲ目的トスル鑛業又ハ製鍊業ノ爲必要ナル器具、機械、材料又ハ設備ノ賣買

六　重要鑛物ヲ目的トスル鑛業又ハ製鍊業ニ對スル資金ノ融通又ハ投資

帝國鑛業開發株式會社ハ政府ノ認可ヲ受ケ前項ノ事業ノ外本會社ノ目的達成上必要ナル諸事業ヲ營ムコトヲ得

第十二條　日本興業銀行ハ前條第一項第六號ノ事業ニ關シ帝國鑛業開發株式會社ノ業務ノ一部ヲ代理スルコトヲ得

帝國鑛業開發株式會社日本興業銀行ヲシテ業務ノ一部ヲ代理セシメントスルトキハ政府ノ認可ヲ受クベシ

第四章　鑛業開發債券

第十三條　帝國鑛業開發株式會社ハ拂込ミタル株金額ノ五倍ヲ限リ鑛業開發債券ヲ發行スルコトヲ得

鑛業開發債券ヲ發行スル場合ニ於ケル株主總會ノ決議ハ資本ノ半額以上ニ當ル株主出席シ其ノ議決權ノ過半數ヲ以テスルヲ爲スコトヲ得

第十四條　鑛業開發債券ヲ發行セントスル場合ニ於テハ政府ノ認可ヲ受クベシ

第十五條　政府ハ鑛業開發債券ノ元本ノ償還及利息ノ支拂ニ付保證スルコトヲ得

第十六條　鑛業開發債券ハ無記名式トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ因リ記名式トスルコトヲ得

第十七條　鑛業開發債券ノ所有者ハ帝國鑛業開發株式會社ノ財產ニ付他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス

第十八條　帝國鑛業開發株式會社ハ社債借換ノ爲一時第十三條ノ制限ニ依ラズ鑛業開發債券ヲ發行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ發行後一月以內ニ其ノ社債總額ニ相當スル舊鑛業開發債券ヲ償還スベシ

第五章　準備金

第十九條　帝國鑛業開發株式會社ハ每營業年度ニ準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補フ爲利益金額ノ百分ノ八以上ヲ積立テ且利益配當ノ平均ヲ得シムル爲利益金額ノ百分ノ二以上ヲ積立ツベシ

第六章　監督及助成

第二十條　政府ハ帝國鑛業開發株式會社ノ業務ヲ監督ス

第二十一條　帝國鑛業開發株式會社借入金ヲ爲サントスルトキハ政府ノ認可ヲ受クベシ

第二十二條　定款ノ變更、利益金ノ處分、合併及解散ノ決議ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第二十三條　帝國鑛業開發株式會社ハ每營業年度ノ事業計畫ヲ定メ政府ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第二十四條　政府ハ帝國鑛業開發株式會社ノ業務ニ關シ監督上又ハ重要鑛物ノ增產上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ重要鑛物ノ增產上必要ナル命令ヲ爲シタルトキハ政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ニ因リ生ジタル損失ヲ補償ス

前項ノ補償ヲ伴フベキ命令ハ之ニ因リ要スベキ補償金ノ總額ガ帝國議會ノ協贊ヲ經タル金額ヲ超エザル範圍內ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十五條　政府ハ帝國鑛業開發株式會社監理官ヲ置キ帝國鑛業開發株式會社ノ業務ヲ監視セシム

第二十六條　帝國鑛業開發株式會社監理官ハ何時ニテモ帝國鑛業開發株式會社ノ金庫、帳簿及諸般ノ文書物件ヲ檢查スルコトヲ得

帝國鑛業開發株式會社監理官必要ト認ムルトキハ何時ニテモ帝國鑛業開發株式會社ニ命ジ業務ニ關スル諸般ノ計算及狀況ヲ報告セシムルコトヲ得

帝國鑛業開發株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第二十七條　政府帝國鑛業開發株式會社ノ決議又ハ役員ノ行爲ガ法令、法令ニ基キテ爲ス處分若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ其ノ決議ヲ取消シ又ハ役員ヲ解任スルコトヲ得

第二十八條　帝國鑛業開發株式會社ハ每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ニ達セザルトキハ政府ハ初營業年度及爾後五年間ヲ限リ之ニ達セシムベキ金額ヲ補給スベシ但シ其ノ額ハ初營業年度ヲ除キ每營業年度ニ於テハ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ四ノ割合ニ相當スル舊鑛業開發債券及借入金ノ利息額ノ合計額ヲ超ユルコトヲ得ズ

每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ハ先ヅ之ヲ前項ノ規定ニ依ル補給金ノ償還ニ充ツベシ

初營業年度及爾後五年間ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超過スルトキハ其ノ二分ノ一ヲ配當準備ノ爲別ニ積立ツベシ

第二項ノ規定ニ依リ補給金ヲ償還シ尙殘餘アリタルトキハ之ヲ前項ノ拂込ミ

テ、以上ノ條項ガ鑛業法ニ挿入サレルノデアリマス、委員會ノ質疑應答ハ多岐ニ亙ッテ爲サレタノデアリマスルガ、玆ニハ其ノ主ナルモノヲ御紹介申上ゲマシテ、他ハ速記錄ヲ御覽願ヒタイト存ジマス、御了承ヲ願ヒマス、先ヅ第一ニ根本的ノ問題ノ質問ガアリマシテ、本法案ノ制定ノ趣旨、卽チ言換ヘレバ本法案ヲ制定シナケレバ、鑛害賠償ノ請求ハスルコトガ出來ナイノデアルカト云フ問ニ對シマシテ、今日迄、實際上ニハ賠償ノ支拂ヲシテ來タガ、法律上鑛業權者ニ賠償ノ義務アリヤ否ヤト云フ問題ハ、鑛害ノ大部分ハ民法ノ所謂不法行爲ニ該當シナイ、卽チ違法性或ハ故意過失トハ異ッテ居ルカラデアリマス、仍テ此ノ際特別法ヲ制定シテ、賠償ノ義務ヲ立法的ニ明確ニセムトスルノデアリマスト云フ答デアリマス、第二ニハ、產業經營ニ伴フ損害ノ發生ハ、獨リ鑛業ニ限ラズシテ、現ニ化學工業等ニ於テモ著シキモノガアルガ、鑛業ノミニ賠償規定ヲ認ムルノハ如何ト云フ問ニ對シマシテ、鑛業ハ元來地下作業ヲ主體トスルモノナルヲ以テ、鑛害ハ鑛業ニ必然的ニ伴フ宿命ヲ有スルモノト言ヒ得ルノデアル、如何ニ豫防方法ヲ講ズルモ、其ノ發生ヲ免レザル部分ガ少クナイノデアル、而シテ一般工業ヨリ其ノ程度竝ニ範圍ニ於テ比較ニハナラナイノデアル、一般工業ニ關シテハ、鑛業法ノ一部トシテ考慮セラレルノデアル、故ニ同樣ノ責任ヲ認ムベキヤ否ヤハ、其ノ實情ニ卽シテ別箇ニ考究スベキ問題デアルト思フト云フ答辯デアリマシタ、次ニ條文ノ附則ニ關スル質問デアリマス、過去ノ損害ニ付テモ、改メテ賠償ヲ爲サシムルハ行過ギテハ居ナイカト云フ質問ニ對シマシテ、從來長年ニ亙ル賠償ノ慣行ニ對シテ、法的秩序ヲ與フルコトトシタノデアルガ、今日迄何等ノ法制ナキ爲ニ、此ノ慣行ニ反シテ全然賠償ヲ爲サズ、又爲シタリトスルモ僅カ名バカリノ賠償デアッタモノニ對シテ、其ノ義務ヲ認メルノハ決シテ不當デハナイト思フ、尙此ノ賠償ハ損害發生當時ノ鑛業權者ニ限ラレテ居ルカラ、大多數ノモノハ既ニ相當賠償ヲシテ居ルカラ、此ノ問題ハ極ク小範圍デアルト考ヘルト云フ答デアリマシタ、次ハ供託金ハ鑛山每ニ決定スルモノノヤウデアリマスガ、如何ナル方法デ決定スルヤ、之ニ對シマシテ、鑛山ノ地形、地目、採掘方法及可採數量ヲ調査シ、其ノ可採炭量ヲ掘採シ終ル迄ニ生ズベキ損害總額ヲ算定シ、之ヲ可採炭量ニテ除シ、噸當供託金額ヲ決定スル方針デアルト云フ答デアリマシタ、次ニハ本法案ノ運用ハ、結局調停委員會ノ人選如何ニアリト思料スルガ、當局ノ用意如何ト云フ質問ニ對シマシテハ、本法案ニ於テハ他ノ立法例ト異リ、特ニ第七十四條ノ十三ニ於テ「調停委員ハ特別ノ知識經驗ヲ有シ公正ナル調停ヲ爲スニ適スル者」斯ウ云フ中ヨリ之ヲ選任スル旨ヲ明カニシテアルノデアル、實際ノ運用ニ當ッテハ本件ノ複雜性ニ鑑ミ、特ニ其ノ人選如何ニ關シテハ愼重ナル考慮ヲ拂フコトト致シタイト云フ答辯デアリマス、ソレカラモウ一ツハ一般ニ關スル問題デアリマスルガ、重要ト存ジマシテ玆ニ御紹介ヲ申上ゲマス、商工省ニ於テハ種々ノ商品ニ對シ積極的ニ其ノ値上リヲ取締ツヽアルニ拘ラズ、石炭ノ如キ重要物資ニ對シテハ何故ニ取締ヲナサザルカト云フ質問ニ對シマシテ、戰時體制下ニ於ケル國民經濟ノ圓滑ナル運行ヲ圖リ、一般產業ノ生產力擴充ヲ確保セムガ爲ニハ、其ノ原動力タル石炭ノ價格ヲ引下ゲルコトハ喫緊ノ要務デアルト認メマシテ、昭和十三年九月一日、昭和石炭株式會社ニ對シ命令ヲ發シテ、一、炭種別標準價格ノ噸當一圓五十錢乃至九十錢ノ引下、二、消費地ニ於ケル標準販賣價格ノ決定、三、前二者ノ種類別公表ヲ實行セシメ、同時ニ昭和石炭株式會社以外ノ者ニ對シテハ、之ニ準ゼシムルコトトシタノデアル、小賣價格ニ對シテハ中央物價委員會ノ答申ニ基イテ、最高販賣價格ヲ設置シテ炭價ノ騰勢ヲ抑止シタノデアル、斯ウ云フ答辯デアリマシタ、其ノ他ハ溫泉場ノ湧出ニ減少ヲ來シタル場合ノ損害、或ハ國家ガ鑛業權者タル場合ニ供託ノ義務ナキコトニ關スル等ノ質疑ガアリマシタガ、省略致シマス、以上ヲ以チマシテ質疑ヲ終リマシテ討論ニ入リマシタ、一委員ヨリ調停ニ關シ、此ノ問題ハ特ニ技術的ノ權威ヲ要スルノデアルカラ、特ニ人選ノ甚ダ困難ナルコトヲ指摘セラレ、愼重ナル考慮ヲ拂ハレタイトノ希望ヲ申サレテ、贊成ノ意見ヲ開陳サレタノデアリマス、又他ノ二三ノ委員ヨリモ同樣ノ希望ガアリ贊意ヲ表サレマシタ、討論ヲ終リマシテ採決ニ入リマシタ、採決ノ結果全會一致可決ニ確定致シマシタ、以上御報告申上ゲマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 別ニ御發言モナケレバ本案ノ採決ヲ致シマス、本案ノ第二讀會ヲ開クコトニ御異議ゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君 贊成

○議長(伯爵松平賴壽君) 西大路子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 本案ノ第二讀會ヲ開キマス、御異議ガナケレバ全部ヲ問題ニ供シマス、本案全部、委員長ノ報告通リデ御異議ゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ本案ノ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君 贊成

○議長(伯爵松平賴壽君) 西大路子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 本案ノ第三讀會ヲ開キマス、本案全部、第二讀會ノ決議通リデ御異議ゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 日程第二十一、青年學校敎育費國庫補助法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長報告、委員長侯爵德川義親君

青年學校敎育費國庫補助法案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十四年三月十五日

委員長　侯爵德川　義親

貴族院議長伯爵松平賴壽君

(侯爵德川義親君演壇ニ登ル)

○侯爵德川義親君 青年學校敎育費國庫補助法案ノ特別委員會ノ經過及結果ヲ御報告致シマス、本法案ハ青年學校ノ敎育ヲ義務ト致シマスルニ付キマシテ、其ノ發達ヲ助成スルト共ニ、一方ニハ地方財政ノ負擔ヲ輕減スル爲ニ、國庫ヨリ青年學校ノ敎員俸給ニ對シテ、市町村ニ補助ヲナサムトスルモノデアリマス、青年學校ノ義務制ハ、十二歲ヨリ十九歲迄ノ青年男子ニ致シマシテ、現ニ小學校、中學校、實業學校ニ在學シテ居ラナイ者ハ、青年學校ニ就學セシムル義務アリト致スモノデアリマス、之ガ實施ハ昭和十四年度小學校ヲ出ヅル者カラ始メマシテ、昭和二十年迄ニ完成セムトスルモノデアリマス、本年度新タニ增加セムトスル青年學校ノ生徒ハ約十萬六千人デゴザイマシテ、之ニ伴ヒマシテ敎員ガ增加致スノデゴザイマスカラ、從來ノ敎員ト合セマシテ其ノ俸給ノ約三割、總金額ニ致シマシテ四百三十萬圓ヲ國庫ヨリ補助セムトスルモノデゴザイマス、本法案ニハ關係ハゴザイマセヌケレドモ、此ノ外ニハ就學奬勵費十萬圓、敎員養成施設ニ對シテ三十萬圓ノ補助ヲ計上致シテ居リマス、而シテ此ノ補助額ト云フモノハ、來年度カラ就學青年ノ增加ト共ニ、補助額モ次第ニ增加セシムト云フノデゴザイマス、此ノ法案ノ直接ノ審議ハ極メテ簡單デゴザイマシタケレドモ、此ノ法案ノ提出ヲ必要ナラシメマシタ青年學校ノ義務制ニ對シテ、多ク疑義ガアッタノデ質問ガ多カッタノデゴザイマス、其ノ主ナルモノヲ二三申上ゲマスルト、第一ニ、青年敎育ノ義務制ハ劃期的ノ敎育刷新デアッテ、國民ニ重大ナル關係ガアル、國民ニ就學ノ義務ヲ負ハシムル上ニ、更ニ經濟上ノ負擔ヲナサシムルモノデアルカラ、是ハ勅令ノ規定ニ依ラズシテ法律ヲ以テ規定スルノガ至當デナイデアラウカ、立法協贊ノ手續ヲ以テスルノガ國民ニ眞ニ徹底セシムルモノデハナイカト云フ質問ガゴザイマシタ、第二ハ、義務制ガ定メラレマシテモ、出席率ガ惡ケレバ何ノ效果モナイ、之ニ對シテ政府ハ適當ナル對策アリヤ否ヤ、第三ハ、唯サヘ敎員不足ノ場合ニ、專任敎員ヲ得ルト云フコトハ非常ニ困難デアル、從ッテ小學校ノ敎員ヲ以テ兼任セシムルノデアルガ、此ノ爲ニ敎員ノ過勞ニナッテ滿足ナ敎育ガ出來ナイ虞ガナイダラウカ、第四ハ、市町村ハ多ク財政困難ヲ極メテ居リマス今日、此ノ補助金ヲ他ノ土木費ノ如キモノニ流用スル虞ハナイノデアラウカ、之ヲ防グ爲ニ特別會計トスル方ガ宜シイノデハナイカト云フノデゴザイマス、第五ニハ、政府當局ノ說明ニ依リマスト、就學青年ノ增加ト共ニ補助金額ノ增加モスルト云フノデアルケレドモ、國庫ノ都合デハ減額サレルコトモ亦考ヘラレルノデアル、故ニ此ノ補助法ヲ速カニ負擔法ト致シマシテ、俸給ノ三割ナリ五割ナリヲ、國庫ノ負擔ト爲シテ既定歲出ト爲ス方ガ宜シイノデハナイカト云フ質問デゴザイマス、此ノ質問ハ同時ニ又各委員ノ希望デモアッタノデゴザイマスガ、以上ノ質問ニ對シマシテ政府當局ノ答辯ハ、必ズシモ滿足スベキモノデハナカッタノデアリマスケレドモ、併シ此ノ法案ト致シマシテハ、差當リ必要ナモノデゴザイマスカラ、此ノ審議ノ結果、本案ハ異議ナク可決致シタノデゴザイマス、以上ヲ御報告致シマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 別ニ御發言モナケレバ本案ノ採決ヲ致シマス、本案ノ第二讀會ヲ開クコトニ御異議ハゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君 贊成

○議長(伯爵松平賴壽君) 西大路子爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 本案ノ第二讀會ヲ開キマス、御異議ガナケレバ全部ヲ問題ニ供シマス、本案全部、委員長ノ報告通リデ御異議ハゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ本案ノ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君 贊成

○議長(伯爵松平賴壽君) 西大路子爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 本案ノ第三讀會ヲ開キマス、本案全部、第二讀會ノ決議通リデ御異議ハゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 次會ノ議事日程ハ、決定次第官報ヲ以テ御通知ニ及ビマス、本日ハ是ニテ散會致シマス

午前十一時四十三分散會

貴族院議事速記錄第十五號正誤

頁	段	行	誤	正
一五四	一	一七	改定ス	改正ス

貴族院議事速記錄第二十二號正誤

頁	段	行	誤	正
二八二	一	八	行	教
二七九	三	一八	「サンガー」熱	三箇月
〃	〃	二七	後世且	公生活
〃	〃	二八	定メタ	貫イタ
二八〇	一	三〇	敬スル	經スル
〃	〃	三四	上ノ	神ノ
〃	四	三四—三五	是ハ頗ル困難ナルコトデアル	道義觀念ノ襃貶
二八一	四	二一	誠ニ	試ニ
二八二	二	三—四	大學總長事務取扱松井直吉	文部大臣久保田讓
二八三	一	二八	去ラセ、	去ラズ、

內閣印刷局

官報

號外

昭和十四年三月二十日

○第七十四回帝國議會貴族院議事速記錄第二十五號

昭和十四年三月十九日（日曜日）午前十時二十二分開議

議事日程　第二十五號

昭和十四年三月十九日

午前十時開議

第一　映畫法案（政府提出、衆議院送付）　第一讀會

第二　著作權ニ關スル仲介業務ニ關スル法律案（政府提出、衆議院送付）　第一讀會

第三　船舶建造融資補給及損失補償法案（政府提出、衆議院送付）　第一讀會

第四　海運組合法案（政府提出、衆議院送付）　第一讀會

第五　造船事業法案（政府提出、衆議院送付）　第一讀會

第六　米穀配給統制法案（政府提出、衆議院送付）　第一讀會

第七　工業組合法中改正法律案（政府提出、衆議院送付）　第一讀會

第八　北海道拓殖銀行法中改正法律案（政府提出、衆議院送付）　第一讀會ノ續（委員長報告）

第九　金資金特別會計法中改正法律案（政府提出、衆議院送付）　第一讀會ノ續（委員長報告）

第十　國境取締法案（政府提出、衆議院送付）　第一讀會ノ續（委員長報告）

第十一　軍用資源秘密保護法案（政府提出、衆議院送付）　第一讀會ノ續（委員長報告）

第十二　保險業法改正法律案（政府提出、衆議院送付）　第一讀會ノ續（委員長報告）

第十三　臺灣事業公債法中改正法律案（政府提出、衆議院送付）　第一讀會ノ續（委員長報告）

第十四　商法ヲ引用スル條文ノ整理ニ關スル法律案（政府提出）　第一讀會ノ續（委員長報告）

第十五　酪農業調査法案（政府提出、衆議院送付）　第一讀會ノ續（委員長報告）

第十六　民族優生保護法案（衆議院提出）　第一讀會

○議長（伯爵松平賴壽君）　報告ヲ致サセマス

〔佐藤書記官朗讀〕

一昨十七日本院ニ於テ可決シタル左ノ政府提出案ハ卽日裁可ヲ奏請シ又可決ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ

昭和十四年度歲入歲出總豫算追加案（第一號）

昭和十四年度各特別會計歲入歲出豫算追加案（特第一號）

豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件（追第二號）

鑛業法中改正法律案

青年學校教育費國庫補助法案

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

國境取締法案可決報告書

軍用資源秘密保護法案可決報告書

保險業法改正法律案可決報告書

臺灣事業公債法中改正法律案可決報告書

恩給法中改正法律案可決報告書

酪農業調査法案可決報告書

請願委員會特別報告第七號

昨十八日委員會ニ於テ當選シタル正副委員長ノ氏名左ノ如シ

輕金屬製造事業法案特別委員會

委員長　伯爵橋本實斐君

副委員長　眞野文二君

國際電氣通信株式會社法中改正法律案特別委員會

委員長　伯爵兒玉秀雄君

副委員長　男爵淺田良逸君

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

商法ヲ引用スル條文ノ整理ニ關スル法律案可決報告書

同日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ

映畫法案

著作權ニ關スル仲介業務ニ關スル法律案

船舶建造融資補給及損失補償法案

海運組合法案

造船事業法案

米穀配給統制法案

工業組合法中改正法律案

同日議員ヨリ左ノ質問主意書ヲ提出セリ依テ卽日之ヲ政府ニ轉送セリ

度量衡制度改正ニ關スル質問主意書（公爵島津忠重君外三十一名提出）

○議長（伯爵松平賴壽君）　是ヨリ本日ノ會議ヲ開キマス、日程第一、映畫法案、日程第二、著作權ニ關スル仲介業務ニ關スル法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、是等ノ二案ヲ一括シテ議題ト爲スコトニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス、木戸內務大臣

〔左ノ送付文及法案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ玆ニ記錄ス以下之ニ倣フ〕

映畫法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十四年三月十八日

衆議院議長　小山松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

明治二十五年三月二十日　第三種郵便物認可

映畫法案

映畫法

第一條　本法ハ國民文化ノ進展ニ資スル爲映畫ノ質的向上ヲ促シ映畫事業ノ健全ナル發達ヲ圖ルコトヲ目的トス

第二條　映畫ノ製作又ハ映畫ノ配給ノ業ヲ爲サントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ

前項ニ規定スル映畫製作業及映畫配給業ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條　前條第一項ノ許可ヲ受ケタル者死亡シタル場合ニ於テ其ノ業ヲ相續ニ因リテ承繼シタル者ハ之ヲ同項ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

第四條　主務大臣ハ第二條第一項ノ許可ヲ受ケ映畫ノ製作ノ業ヲ爲ス者(映畫製作業者)又ハ同項ノ許可ヲ受ケ映畫ノ配給ノ業ヲ爲ス者(映畫配給業者)本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキ又ハ其ノ業務ニ關シ公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ其ノ業務ノ停止若ハ制限又ハ其ノ許可ノ取消ヲ爲スコトヲ得

第五條　映畫製作業者ノ映畫ノ製作ニ關シ業トシテ主務大臣ノ指定スル種類ノ業務ニ從事セントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ登錄ヲ受クベシ但シ十四歲未滿ノ者ハ此ノ限ニ在ラズ

第六條　主務大臣ハ前條ノ登錄ヲ受ケタル者其ノ品位ヲ失墜スベキ行爲ヲ爲シタルトキ其ノ他同條ノ規定ニ依ル當該種類ノ業務ニ從事スルヲ適當ナラズト認メタルトキハ其ノ業務ノ停止又ハ其ノ登錄ノ取消ヲ爲スコトヲ得

第七條　映畫製作業者ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外第五條ノ規定ニ依ル登錄ヲ受ケザル者ヲ同條ノ規定ニ依ル當該種類ノ業務ニ從事セシムルコトヲ得ズ前條ノ規定ニ依ル業務停止中ノ者ニ付亦同ジ

第八條　行政官廳ハ危害豫防、衞生其ノ他公益保護上必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ映畫製作業者ニ對シ映畫ノ製作ノ現業ニ從事スル者ノ就業其ノ他映畫ノ製作ニ關シ制限ヲ爲スコトヲ得

第九條　映畫製作業者主務大臣ノ指定スル種類ノ映畫ヲ製作セントスルトキハ撮影開始前命令ノ定ムル事項ヲ主務大臣ニ屆出ヅベシ屆出ヲ爲シタル事項ノ主タル部分ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

主務大臣ハ公安又ハ風俗上必要アリト認ムルトキハ前項ノ規定ニ依リ屆出ヲ爲シタル事項ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第十條　主務大臣ハ特ニ國民文化ノ向上ニ資スルモノアリト認ムル映畫ニ付選奬ヲ爲スコトヲ得

第十一條　主務大臣ハ公益上特ニ保存ノ必要アリト認ムルトキハ映畫ヲ指定シ其ノ所有者ニ對シ複寫ノ爲一時其ノ提出ヲ命ズルコトヲ得

第十二條　主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ映畫配給業者ニ對シ外國映畫ノ配給ニ關シ其ノ種類又ハ數量ノ制限ヲ爲スコトヲ得

第十三條　映畫ハ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ檢閱ヲ受ケ合格シタルモノニ非ザレバ之ヲ輸出スルコトヲ得ズ

主務大臣ハ特別ノ事情アル場合ニ於テハ前項ノ檢閱ニ合格シタル映畫ノ輸出ノ制限又ハ禁止ヲ爲スコトヲ得

第十四條　映畫ハ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ檢閱ヲ受ケ合格シタルモノニ非ザレバ公衆ノ觀覽ニ供スル爲之ヲ上映スルコトヲ得ズ

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十五條　主務大臣ハ命令ヲ以テ映畫興行者ニ對シ國民教育上有益ナル特定種類ノ映畫ノ上映ヲ爲サシムルコトヲ得

行政官廳ハ命令ノ定ムル所ニ依リ特定ノ映畫興行者ニ對シ啓發宣傳上必要ナル映畫ヲ交付シ期間ヲ指定シテ其ノ上映ヲ爲サシムルコトヲ得

第十六條　主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ映畫興行者ニ對シ外國映畫ノ上映ニ關シ其ノ種類又ハ數量ノ制限ヲ爲スコトヲ得

第十七條　行政官廳ハ危害豫防、衞生、教育其ノ他公益保護上必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ映畫興行者其ノ他映畫ノ上映ヲ爲ス者ニ對シ興行時間、映寫方法、入場者ノ範圍其ノ他映畫ノ上映ニ關シ制限ヲ爲スコトヲ得

第十八條　主務大臣ハ公益上特ニ必要アリト認ムルトキハ映畫製作業者、映畫配給業者又ハ映畫興行者ニ對シ製作スベキ映畫ノ種類若ハ數量ノ制限、映畫ノ配給ノ調整、設備ノ改良又ハ不正競爭ノ防止ニ關シ必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第十九條　本法施行ニ關スル重要事項ニ付主務大臣ノ諮問ニ應ズル爲映畫委員會ヲ置ク

映畫委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條　行政官廳ハ當該官吏ヲシテ映畫ヲ製作シ又ハ上映スル場所ニ臨檢セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ

行政官廳ハ映畫製作業者、映畫配給業者又ハ映畫興行者ニ對シ其ノ業務ニ關スル事項ニ付報告ヲ命ズルコトヲ得

第二十一條　第二條第一項ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケズシテ映畫ノ製作又ハ映畫ノ配給ノ業ヲ爲シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第四條ノ規定ニ依ル停止又ハ制限ニ違反シタル者

二　第八條、第十二條、第十六條又ハ第十七條ノ規定ニ依ル制限ニ違反シタル者

三　第十三條第一項ノ規定ニ違反シ又ハ同條第二項ノ規定ニ依ル制限若ハ禁止ニ違反シテ映畫ヲ輸出シ又ハ輸出セントシタル者

四　第十四條第一項ノ規定ニ違反シ又ハ同條第二項ノ規定ニ依ル制限若ハ禁止ニ違反シタル者

五　第十五條又ハ第十八條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

六　第二十條第一項ノ規定ニ依ル臨檢ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ同條第二項ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ若ハ虛僞ノ報告ヲ爲シタル者

第二十三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　第五條ノ規定ニ依ル登錄ヲ受ケズシテ業トシテ同條ノ規定ニ依ル當該種類ノ業務ニ從事シタル者

二　第六條ノ規定ニ依ル停止ニ違反シタル者

三　第七條ノ規定ニ違反シタル者

四　第九條第一項ノ規定ニ依ル屆出ヲ爲サズシテ映畫ノ撮影ヲ開始シタル者

五　第十一條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

第二十四條　映畫ノ製作若ハ映畫ノ配給ノ業ヲ爲ス者又ハ映畫興行者其ノ他映畫ノ上映ヲ爲ス者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從事者ガ其ノ業務ニ關シ第二十一條、第二十二條第一號乃至第五號若ハ第六號後段又ハ前條第三號乃至第五號ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第二十五條　第二十一條、第二十二條第一號乃至第五號及第六號後段並ニ第二十三條第三號乃至第五號ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第二十六條　前二條ノ場合ニ於テハ懲役ノ刑ニ處スルコトヲ得ズ

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際現ニ第二條ニ規定スル映畫ノ製作若ハ映畫ノ配給ノ業ヲ爲ス者又ハ其ノ業ヲ承繼シタル者ハ本法施行ノ日ヨリ一年ヲ限リ同條第一項ノ規定ニ拘ラズ引續キ其ノ業ヲ爲スコトヲ得

前項ノ者前項ノ期間內ニ第二條第一項ノ許可ヲ申請シタル場合ニ於テ其ノ申請ニ對スル許可又ハ不許可ノ處分ノ日迄亦前項ニ同ジ

前二項ノ規定ニ依リ其ノ業ヲ爲ス者ハ之ヲ第二條第一項ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

本法施行ノ際現ニ業トシテ第五條ノ規定ニ依ル當該種類ノ業務ニ從事スル者ハ本法施行ノ日ヨリ六月ヲ限リ同條ノ登錄ヲ受ケズシテ引續キ業トシテ其ノ業務ニ從事スルコトヲ得

第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

著作權ニ關スル仲介業務ニ關スル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十四年三月十八日

衆議院議長　小山松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

著作權ニ關スル仲介業務ニ關スル法律案

第一條　本法ニ於テ著作權ニ關スル仲介業務ト稱スルハ著作物ノ出版、翻譯、興行、放送、映畫化、寫調其ノ他ノ方法ニ依ル利用ニ關スル契約ニ付著作權者ノ爲ニ代理又ハ媒介ヲ業トシテ爲スヲ謂フ

著作權ノ移轉ヲ受ケ他人ノ爲ニ一定ノ目的ニ從ヒ著作物ヲ管理スルノ行爲ヲ業トシテ爲スハ之ヲ著作權ニ關スル仲介業務ト看做ス

前二項ノ著作物ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條　著作權ニ關スル仲介業務ヲ爲サントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ業務ノ範圍及業務執行ノ方法ヲ定メ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ

第三條　前條ノ許可ヲ受ケタル者(以下仲介人ト稱ス)ハ命令ノ定ムル所ニ依リ著作物使用料規程ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

前項ノ認可ノ申請アリタルトキハ主務大臣ハ其ノ要領ヲ公告ス

出版ヲ業トスル者ノ組織スル團體、興行ヲ業トスル者ノ組織スル團體其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ハ前項ノ要領ニ付公告ノ日ヨリ一月以內ニ主務大臣ニ意見ヲ具申スルコトヲ得

主務大臣第一項ノ認可ヲ爲サントスルトキハ公告ノ日ヨリ一月ヲ經過シタル後著作權審査會ニ諮問スベシ前項ノ規定ニ依リ意見ノ具申アリタルトキハ著作權審査會ニ之ヲ提出スルコトヲ要ス

第四條　仲介人ハ業務ノ範圍又ハ業務執行ノ方法ヲ變更セントスルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ

第五條　仲介人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ業務報告書及會計報告書ヲ主務大臣ニ提出スベシ

第六條　主務大臣ハ何時ニテモ仲介人ヲシテ其ノ業務ニ關スル報告ヲ爲サシメ又ハ其ノ帳簿書類ヲ提出セシムルコトヲ得

第七條　主務大臣ハ何時ニテモ當該官吏ヲシテ仲介人ノ事務所其ノ他ノ場所ニ臨檢シ其ノ業務及財產ノ狀況ヲ檢査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ

第八條　主務大臣ハ仲介人ノ業務又ハ財

産ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ業務執行ノ方法ノ變更ヲ命ジ其ノ他必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第九條　仲介人本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキ又ハ其ノ業務ニ關シ公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ第二條ノ許可ヲ取消シ又ハ其ノ業務ヲ停止シ若ハ制限スルコトヲ得

第十條　第二條ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケズシテ著作權ニ關スル仲介業務ヲ爲シタル者ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條　仲介人左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第二條又ハ第四條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル業務ノ範圍ヲ超エ業務ヲ爲シタルトキ

二　第九條ノ規定ニ依ル業務ノ停止又ハ制限ニ違反シタルトキ

第十二條　仲介人左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第二條又ハ第四條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル業務ノ執行方法ニ依ラズシテ業務ヲ爲シタルトキ

二　第三條第一項ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル著作物使用料規程ニ依ラズシテ業務ヲ爲シタルトキ

三　第五條ノ規定ニ依ル業務報告書若ハ會計報告書ヲ提出セズ又ハ之ニ虛僞ノ記載ヲ爲シタルトキ

四　第六條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ若ハ虛僞ノ報告ヲ爲シ又ハ帳簿書類ヲ提出セザルトキ

五　第八條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタルトキ

第十三條　第七條ノ規定ニ依ル臨檢檢査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條　法人又ハ人ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ第十條乃至第十二條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ其ノ法人又ハ人ハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第十五條　第十條乃至第十二條ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際現ニ著作權ニ關スル仲介業務ヲ爲ス者又ハ其ノ業務ヲ承繼シタル者ハ本法施行ノ日ヨリ三月ヲ限リ第二條ノ規定ニ拘ラズ其ノ業務ヲ爲スコトヲ得

前項ニ掲グル者前項ノ期間內ニ第二條ノ許可ヲ申請シタル場合ニ於テ其ノ申請ニ對スル許可又ハ不許可ノ處分ノ日迄亦前項ニ同ジ

（國務大臣侯爵木戶幸一君演壇ニ登ル）

○國務大臣（侯爵木戶幸一君）　只今議題トナリマシタ映畫法案ニ付キマシテ、提案ノ理由ヲ御說明申上ゲマス、我ガ國ニ映畫ガ初メテ輸入サレマシテカラ四十年ノ日時ヲ經過シテ居リマスガ、其ノ間映畫ノ普及發達ハ誠ニ著シキモノガアリマシテ、國民娛樂トシテ最モ重要ナル地位ヲ占ムルニ至リマシタノミナラズ、最近ニ於キマシテハ敎化、宣傳、報道等ノ方面ニ於テモ、次第ニ顯著ナル機能ヲ發揮シ、更ニ進ンデ國民藝術トシテ新タナル分野ヲ開拓セムトスル機運ニアルノデアリマシテ、映畫ノ有スル國家的任務ハ愈〻重大トナッテ來タノデアリマス、然ルニ從來我ガ國ノ映畫ニ對スル政策ハ、遺憾ナガラ概ネ消極的範圍ヲ出デナイ有樣デアリマシテ、之ヲ積極的ニ利用、助長スル方策ニ缺ケテ居リマシタ爲、我ガ國ノ映畫事業ニハ、其ノ製作、配給、上映ノ各部門ニ亙ッテ幾多改善ヲ要スベキモノガアリマスルシ、又映畫ノ內容ニ付キマシテモ、相當考慮ヲ要スベキモノガ少クナイ狀況デアリマシテ、映畫ヲ通ジ國民文化ノ進展ヲ期スルガ爲ニハ、速カニ是等ノ點ニ付テ適切ナル方策ヲ講ズルコトヲ必要トスル次第デアリマス、斯樣ナ實情ニ鑑ミ、旣ニ數年前ヨリ屢〻各方面カラ政府ニ對シ、急速ニ映畫國策ヲ樹立實行スベキコトヲ要望セラレ、又貴衆兩院ニ於キマシテモ、其ノ趣旨ノ建議、請願等ガアッタノデアリマシテ、內務省ニ於キマシテハ、豫テヨリ文部省、厚生省ト協議ヲ重ネマシタ結果、茲ニ本案ヲ提出スルニ至ッタ次第デアリマス、本案ノ內容中主ナル事項ヲ申上ゲマスレバ、先ヅ映畫製作業及映畫配給業ノ濫立ヲ防止シ、其ノ內容ノ充實ヲ圖ル爲、之ヲ許可事業トシ、映畫ノ質的向上ヲ期スル爲、映畫製作從事者ノ登錄制度ヲ實施シ、危害豫防、衞生敎育、其ノ他公益保護ノ必要ヨリ、映畫ノ製作又ハ上映ニ付制限ヲ爲シ、國民文化ノ向上ニ資スル映畫ノ出現ヲ促ス爲、選奬ノ制度ヲ設ケ、外國映畫ノ及ス影響ヲ是正スル爲、其ノ配給竝ニ上映ニ付制限ヲ爲シ、國民敎育又ハ啓發宣傳ノ目的ヲ達スル爲、映畫ノ上映ヲ命ジ、公益上ノ必要ニ依リ映畫製作數量ノ制限、映畫配給ノ調整等ニ關スル必要ナル命令ヲ發シ得ルコトトシ、又本法施行ニ關スル重要事項ニ關スル諮問機關トシテ、映畫委員會ヲ設置スルコトト致シマスル等、映畫ノ質的向上ヲ促シ、映畫事業ノ健全ナル發達ヲ圖リ、以テ國民文化ノ進展ニ資スル爲、必要ト認メラレマスル事項ヲ規定致シタノデアリマスガ、尙詳細ノ點ニ關シマシテハ、委員會ニ於テ御說明申上ゲタイト存ジマス、何卒十分御審議ノ上、本案ニ對シ速カニ御協贊アラムコトヲ切望スル次第デアリマス、次ニ著作權ニ關スル仲介業務ニ關スル法律案ノ提案理由ヲ御說明申上ゲマス、文化ノ發達竝ニ普及ヲ期スル爲ニハ、著作者ノ權利ヲ尊重スルト共ニ、又著作物ノ利用ヲ圓滑ナラシメナケレバナラヌノデアリマスガ、從來我ガ國ニ於キマシテハ、著作者ノ權利ヲ尊重スルノ觀念ハ未ダ尙十分ナラズ、又海外ノ著作物ヲ利用スル上ニモ、地理的關係等ニ因リマシテ、常ニ不便ヲ感ジテ居ルノ實情デアリマス、政府ハ此ノ實情ニ鑑ミマシテ、著作物利用ニ關スル堅實ナル仲介機關ノ發達ヲ促シ、以テ著作者ノ利益ヲ擁護スルト共ニ、著作物利用ノ簡易化ヲ圖ルノ必要アリト認メ、本案ヲ提出スルコトニ致シタ次第デアリマス、法案ノ趣旨ハ、著作權ニ關スル仲介業務ニ許可制度ヲ設ケ、其ノ業務ノ執行ニ對シ適正ナル監督ヲ加ヘムトスルニ在ルノデアリマス、何卒御審議ノ上御協贊アラムコトヲ切望致シマス

○子爵戶澤正己君　只今議題トナリマシタ映畫法案外一件ハ、重要ナル法案デアリマスルガ故ニ、此ノ特別委員ノ數ヲ十五名トシ、其ノ委員ノ指名ヲ議長ニ一任スルノ動議ヲ提出致シマス

○子爵秋田重季君　贊成

○議長（伯爵松平賴壽君）　戶澤子爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス

（丸山書記官朗讀）

映畫法案外一件特別委員

公爵岩倉具榮君　侯爵德川義親君
侯爵久我通顯君　伯爵二荒芳德君
關屋貞三郎君　子爵野村益三君
子爵今城定政君　子爵三島通陽君
男爵紀俊秀君　男爵關義壽君
男爵加藤成之君　赤池濃君
次田大三郎君　松本學君
大澤德太郎君

○議長（伯爵松平賴壽君）　日程第三、船舶建造融資補給及損失補償法案、日程第四、海運組合法案、日程第五、造船事業法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、是等ノ三案ハ之ヲ一括シテ議題ト爲スコトニ御異議ハゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス、鹽野遞信大臣

船舶建造融資補給及損失補償法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十四年三月十八日

衆議院議長　小山松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

船舶建造融資補給及損失補償法案

船舶建造融資補給及損失補償法

第一條　政府ハ海運業ノ振興ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ船舶建造資金ノ融通ヲ爲ス金融機關ニ對シ補給金ヲ支給シ且融通ニ因リテ受ケタル損失ヲ補償スルノ契約ヲ爲スコトヲ得

前項ノ契約ハ之ニ基キ支給スベキ補給金ノ總額ガ帝國議會ノ協贊ヲ經タル金額ヲ超エザル範圍內ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二條　前條ノ契約ヲ爲スコトヲ得ル期間ハ昭和十四年度以降十年度間トス

第三條　第一條ノ船舶建造資金及金融機關ノ範圍、補給金支給ノ限度竝ニ船舶建造資金ノ融通ヲ受クルコトヲ得ベキ者ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條　政府ハ第一條ノ契約ヲ爲サントスルトキハ金融機關ヲシテ船舶建造資金ノ融通ニ付左ノ各號ニ依ラシムルコトヲ要ス

一　融通資金ノ償還方法ハ十五年以內ノ年賦償還ニ依ルコト但シ其ノ期間內ニ於テ二年以內ノ据置期間ヲ定メ得ルコト

二　融通資金ニ依リテ建造セラルル船舶ニ第一順位ノ抵當權ヲ設定スルコト但シ船舶建造中ニ在リテハ之ニ代ヘテ一時他ノ船舶其ノ他ノ物件ヲ擔保ト爲シ得ルコト

三　資金融通ノ限度ハ建造セラルル船舶ノ擔保價格ヲ超エザルコト但シ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ擔保不足分ニ付他ノ船舶其ノ他ノ物件ヲ擔保ト爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラザルコト

四　船舶ノ擔保價格ハ當該船舶ノ價格ノ三分ノ二又ハ保險金額ノ五分ノ四ノ中其ノ低キモノニ依ルコト

五　貸付利率ハ勅令ノ定ムル率ニ依ルコト

第五條　第一條ノ契約ニ基ク政府ノ損失補償ハ金融機關ガ融通ニ因リテ受ケタル損失ノ百分ノ七十トス

前項ノ損失ヲ決定スル基準ハ政府之ヲ定ム

第一項ノ損失及其ノ額ハ船舶融資損失審査會之ヲ決定ス

船舶融資損失審査會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條　金融機關ハ損失補償ヲ受ケタル後ト雖モ其ノ債權ヲ保有シ且之ヲ取立ツルコトヲ要ス

金融機關ハ前項ノ取立ニ依リテ得タル金額ヨリ債權行使ノ爲要シタル費用ヲ控除シ其ノ殘額ノ百分ノ七十ニ相當スル金額ヲ政府ニ納付スベシ

第七條　第一條ノ契約ニ基キ政府ガ金融機關ニ對シテ支拂フベキ損失補償金ハ國債證券ヲ以テ之ヲ交付スルコトヲ得

第八條　政府ハ前條ノ規定ニ依リ交付スル爲必要ナル額ヲ限度トシ公債ヲ發行スルコトヲ得

第九條　本法ニ依リ交付スル國債證券ノ交付價格ハ時價ヲ參酌シテ大藏大臣之ヲ定ム

第十條　金融機關ガ本法又ハ第一條ノ契約ニ違反シタルトキハ政府ハ融通資金ノ全部若ハ一部ニ付補給ヲ爲サズ、損失ノ全部若ハ一部ニ付補償ヲ爲サズ又ハ補給金若ハ補償金ノ全部若ハ一部ノ返還ヲ命ズルコトヲ得

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

海運組合法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十四年三月十八日

衆議院議長　小山　松壽

貴族院議長伯爵松平頼壽殿

海運組合法案

海運組合法

第一條　本法ニ於テ海運業トハ左ニ揭グル事業ヲ謂フ

一　船舶ニ依リ人又ハ物ヲ運送スル事業

二　船舶ノ貸渡（期間傭船ヲ含ム）ヲ爲ス事業

三　船舶ニ依ル人若ハ物ノ運送ニ關スル仲立業又ハ船舶ノ貸渡（期間傭船ヲ含ム）若ハ賣買ニ關スル仲立業

前項ノ船舶ニハ官廳又ハ公署ノ所有ニ屬スル船舶、漁船其ノ他勅令ヲ以テ定ムル船舶ヲ包含セズ

第二條　海運業者ハ其ノ事業ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲海運組合ヲ設立スルコトヲ得

海運組合ハ法人トス

第三條　海運組合ノ組合員タルコトヲ得ル海運業者ハ內地ニ住所又ハ本店若ハ主タル事務所ヲ有スル者トス

海運組合ハ前項ノ規定ニ拘ラズ政府ノ認可ヲ受ケ外地ニ住所又ハ本店若ハ主タル事務所ヲ有スル海運業者ヲ組合員トスコトヲ得

第四條　海運組合ハ左ノ事業ヲ行フコトヲ得

一　組合員ノ事業ノ爲ニスル共同施設

二　組合員間ニ於ケル事業ノ統制

三　組合員間ニ於ケル事業ニ關スル紛爭ノ解決ノ斡旋

四　組合員ノ事業ニ關スル證明及鑑定

五　組合員ノ事業ニ關スル指導、研究及調査

六　前各號ニ揭グルモノノ外組合ノ目的ヲ達スルニ必要ナル事業

海運組合ハ營利ヲ目的トシテ其ノ事業ヲ行フコトヲ得ズ

第五條　海運組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ組合員ニ對シ經費ヲ分賦シ過怠金ヲ課スルコトヲ得

第六條　海運組合ヲ設立セントスルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ組合ノ組合員タルベキ資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ヲ以テ創立總會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ政府ノ認可ヲ受クベシ

組合ノ設立ニ付組合員タルベキ資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルコト能ハザル場合ト雖モ特別ノ事由アルトキハ政府ノ認可ヲ受ケ創立總會ヲ開クコトヲ得

第七條　創立總會ニ於ケル議決及役員ノ選任ハ設立同意者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス

第八條　設立同意者ハ創立總會ニ於テ代理人ヲ以テ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得

前項ノ代理人ハ設立同意者タルコトヲ要ス但シ法人タル設立同意者ハ其ノ業務ヲ執行スル役員又ハ支配人ヲ代理人トスコトヲ得

第九條　海運業ノ統制ヲ圖ル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ハ豫メ組合員タルベキ資格ヲ有スル者ニ對シ海運組合ノ設立ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ海運組合ノ設立ヲ命ゼラレタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ創立總會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ政府ノ指定スル期限迄ニ設立ノ認可ヲ申請スベシ

前項ノ創立總會ニ於ケル議決及役員ノ選任ハ出席者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス

第十條　前條第二項ノ規定ニ依ル認可申請アリタル場合ニ於テ定款其ノ他必要ナル事項ニシテ著シク不相當ト認ムルモノアルトキハ政府ハ之ニ變更ヲ加ヘテ認可ヲ爲スコトヲ得

前條第二項ノ規定ニ依ル認可申請ナキトキハ政府ハ定款ノ作成其ノ他設立ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十一條　海運組合ハ設立ノ認可アリタル時又ハ前條第二項ノ規定ニ依リ定款ノ作成アリタル時成立ス

第十二條　第九條第一項又ハ第十條第二項ノ規定ニ依ル海運組合成立シタルトキハ組合員タルベキ資格ヲ有スル者ハ其ノ組合ノ組合員トス

第十三條　政府第十條第二項ノ規定ニ依リ定款ヲ作成シタルトキハ海運組合ノ理事及監事ヲ命ズ

前項ノ理事ハ遲滯ナク組合員總會ヲ招集スベシ

前項ノ總會ニ於テハ組合設立當時ノ收支豫算及經費ノ分賦收入方法ヲ議決スベシ

第十四條　政府ハ海運業ノ統制ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ組合員ニ非ズシテ組合員タル資格ヲ有スル者ヲシテ海運組合ノ組合員クラシムルコトヲ得

第十五條　海運組合ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一　目的

二　名稱

三　事務所ノ所在地

四　組合員タル資格ニ關スル規定

五　組合員ノ加入及脫退ニ關スル規定

六　役員ニ關スル規定

七　事業ノ執行ニ關スル規定

八　會議ニ關スル規定

九　組合員ノ權利義務及經費ノ分擔ニ關スル規定

十　會計及財產ニ關スル規定

十一　存立ノ期間又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ期間又ハ事由

第十六條　海運組合ニハ理事及監事ヲ置クベシ

理事及監事ノ選任及解任ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

理事ハ組合ノ業務ニ付組合ヲ代表ス

監事ハ組合ノ業務ヲ監査ス

理事ト監事トハ相兼ヌルコトヲ得ズ

組合ト理事ト利益相反スル事項ニ付テハ監事組合ヲ代表ス

理事缺ケタルトキハ監事其ノ職務ヲ行フ但シ其ノ期間ハ三月ヲ超ユルコトヲ得ズ

理事ノ職務ヲ行フ者ナキトキハ政府ハ假理事ヲ選任シ理事ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第二項ノ規定ニ依ル役員ノ外定款ノ定ムル所ニ依リ他ノ役員ヲ置クコトヲ得

第十七條　左ニ揭グル事項ハ總會ノ議決ヲ經ベシ

一　定款ノ變更

二　收支豫算及經費ノ分賦收入方法

三　業務報告及收支決算ノ承認

四　第二十條第一項ノ規程ノ制定及變更

五　海運組合聯合會ノ設立、加入及脫退

六　解散

前項第一號、第四號及第六號ニ揭グル事項ノ決議ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第十八條　組合員ハ總會ニ於テ各一個ノ議決權ヲ有ス但シ定款ノ定ムル所ニ依リ一人ニ付二個以上ノ議決權ヲ有セシムルコトヲ得

第十九條　總會ノ議決ハ定款ノ定ムル所ニ依リ出席シタル組合員ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス但シ第十七條第一項第一號、第二號及第四號乃至第六號ニ揭グル事項ノ議決ハ總組合員ノ半數以上ニシテ議決權總數ノ半數以上ニ當ル組合員出席シ其ノ議決權ノ三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十條　海運組合ハ組合員間ニ於ケル事業ノ統制ヲ行フ場合ニ於テハ之ニ關スル規程ヲ定ムベシ

政府ハ必要アリト認ムルトキハ海運組合ニ對シ前項ノ規程ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第二十一條　海運業ノ經營ニ關スル弊害ヲ豫防シ若ハ矯正スル爲又ハ其ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ政府ハ海運組合ニ對シ必要ナル事業ヲ行フベキコトヲ命ズルコトヲ得

第二十二條　海運業ノ經營ニ關スル弊害ヲ豫防シ若ハ矯正スル爲又ハ其ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ政府ハ海運組合ニ對シ必要ナル事業ヲ行フベキコトヲ命ズルコトヲ得

第二十三條　政府ハ必要アリト認ムルトキハ海運組合ニ對シ業務ニ關スル報告ヲ爲サシメ、業務執行又ハ財產ノ狀況ヲ檢査シ、定款、收支豫算又ハ經費ノ分賦收入方法ノ變更ヲ命ジ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十四條　海運組合ノ事業ノ職績ヲ困難ナラシムルトキ又ハ組合ノ行爲ガ法令、定款若ハ政府ノ命令ニ違反シタルトキ若ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ政府ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一　總會ノ決議ノ取消

二　役員ノ解任

三　事業ノ停止

四　解散

第二十五條　海運組合ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

一　存立ノ期間ノ滿了其ノ他定款ニ定メタル事由ノ發生

二　總會ノ決議

三　破產

四　政府ノ解散命令

第二十六條　海運組合聯合會ヲ設立スルコトヲ得

海運組合聯合會ハ他ノ海運組合聯合會又ハ海運組合ト其ノ共同ノ目的ヲ達スル爲更ニ海運組合聯合會ヲ設立スルコトヲ得

海運組合聯合會ハ法人トス

第二十七條　海運組合聯合會ヲ設立セントスルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ會員タルベキ資格ヲ有スル組合又ハ聯合會ノ中會員タラントスル者ニ於テ選任シタル創立委員トスル者ニ於テ準用スル第九條第一項ノ規定ニ依リ海運組合聯合會ノ設立ヲ命ゼラレタルトキハ其ノ組合及聯合會ニ於テ選任シタル創立委員ヲ以テ命令ノ定ムル所ニ依リ創立委員會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ政府ノ認可ヲ受クベシ

第二十八條　創立委員會ニ於ケル議決及役員ノ選任ハ創立委員總數ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス

第八條ノ規定ハ創立委員ニ付之ヲ準用ス

第二十九條　第四條、第五條、第九條第一項及第十條乃至第二十五條ノ規定ハ海運組合聯合會ニ付之ヲ準用ス

第三十條　海運組合及海運組合聯合會ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ登記スベキ事項ハ登

記ノ後ニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第三十一條　海運組合及海運組合聯合會ノ清算ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十二條　海運組合及海運組合聯合會ニハ所得稅及營業收益稅ヲ課セズ

第三十三條　民法第五十一條第二項、第五十二條第二項、第五十四條、第五十五條、第五十九條第三號第四號、第六十條乃至第六十四條及第六十六條ノ規定ハ海運組合及海運組合聯合會ニ付之ヲ準用ス但シ民法第六十二條中五日トアルハ之ヲ十日トス

第三十四條　第二十二條ノ規定ニ依ル政府ノ命令ニ違反シタル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

海運業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ前項ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第三十五條　前條ノ罰則ハ海運業者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第三十六條　海運組合又ハ海運組合聯合會ノ理事、監事又ハ清算人其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ要求シ又ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サザルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

本條ノ罪ハ刑法第四條ノ例ニ從フ

第三十七條　前條第一項ニ揭グル者ニ賄賂ヲ交付シ、提供シ又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第三十八條　左ノ場合ニ於テハ海運組合又ハ海運組合聯合會ノ理事又ハ監事ヲ五百圓以下ノ過料ニ處ス

一　官廳又ハ總會ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

二　本法ニ依リ政府ノ徵スル報告ヲ爲サズ又ハ檢査ヲ拒ミ其ノ他政府ノ命令又ハ處分ニ從ハザルトキ

三　本法ニ依ル總會ノ招集ヲ怠リタルトキ

四　本法ニ依リ備置クベキ書類ヲ備置カザルトキ又ハ其ノ書類ニ記載スベキ事項ヲ記載セザルトキ

第三十九條　第三十條及第三十一條ノ規定ニ基キテ發スル勅令ニ於テハ之ニ違反シタル者ヲ五百圓以下ノ過料ニ處ス

ル規定ヲ設クルコトヲ得

第四十條　非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前二條ノ過料ニ付之ヲ準用ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

登錄稅法第十九條第七號中「又ハ肥料製造業組合」ノ上ニ「、海運組合、海運組合聯合會」ヲ、「又ハ重要肥料業統制法」ノ上ニ「、海運組合法」ヲ加フ

造船事業法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十四年三月十八日

衆議院議長　小山　松壽

貴族院議長伯爵松平頼壽殿

造船事業法案

造船事業法

第一條　本法ニ於テ造船事業トハ命令ノ定ムル設備ヲ備フル者ノ爲ス船舶ノ製造又ハ修繕ノ事業ヲ謂フ

前項ノ事業ヲ營ム者ノ爲ス船體、船舶用機關若ハ艤裝品又ハ其ノ部分品若ハ附屬品ノ製造又ハ修繕ハ之ヲ其ノ事業ノ一部ト看做ス

第二條　造船事業ヲ營マントスル者ハ政府ノ許可ヲ受クベシ

第三條　前條ノ許可ヲ受クルコトヲ得ベキ者ハ帝國法令ニ依リ設立シタル株式會社又ハ有限會社ニシテ其ノ株主又ハ社員ノ半數以上、取締役ノ半數以上、資本ノ半額以上及議決權ノ過半數ガ帝國臣民又ハ帝國法令ニ依リ設立シタル法人ニ屬スルモノニ限ル

前項ノ法人ハ其ノ社員、株主若ハ業務ヲ執行スル役員ノ半數以上又ハ資本ノ半額以上若ハ議決權ノ過半數ガ外國人又ハ外國法人ニ屬セザルモノナルコトヲ要ス

前條ノ許可ヲ受ケタル者前二項ノ規定ニ該當セザルニ至リタルトキハ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

第四條　第二條ノ許可ヲ受ケタル會社（以下造船會社ト稱ス）ハ政府ノ指定スル期間內ニ其ノ事業ヲ開始スベシ

政府ハ正當ノ事由アリト認ムル場合ニ限リ前項ノ期間ノ延長ヲ許可スルコトヲ得

造船會社前二項ノ期間內ニ其ノ事業ヲ開始セザルトキハ第二條ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

第五條　造船會社其ノ事業ノ全部又ハ一部ヲ讓渡シ、廢止シ又ハ休止セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受クベシ

造船會社ノ合併又ハ解散ノ決議ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第六條　造船事業ハ土地收用法第二條ノ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業トシ同法ヲ適用ス

第七條　造船會社ハ其ノ事業ニ屬スル設備ノ價却ニ充ツル爲勅令ノ定ムル所ニ依リ每決算期ノ利益ノ一部ヲ積立ツベシ

第八條　株式會社タル造船會社ハ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ事業ニ屬スル設備ノ費用ニ充ツル爲商法ニ規定スル制限ヲ超エテ社債ヲ募集スルコトヲ得但シ社債ノ總額ハ拂込ミタル株金額ノ二倍ヲ超ユルコトヲ得ズ

最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル純財產額ガ拂込ミタル株金額ニ滿タザルトキハ前項ノ規定ヲ適用セズ

舊社債償還ノ爲ニスル社債ノ募集ニ付テハ其ノ舊社債ノ額ハ社債ノ總額中ニ之ヲ算入セズ此ノ場合ニ於テハ拂込ノ期日、若シ數回ニ分チテ拂込ヲ爲サシムルトキハ第一回拂込ノ期日ヨリ六月以內ニ舊社債ヲ償還スルコトヲ要ス

第一項ノ規定ニ依リ募集スル社債ニ付テハ工場抵當法ニ依リ會社ノ事業ニ屬スルモノヲ抵當ト爲スコトヲ要ス但シ特別ノ事情アル場合ニ於テ政府其ノ必要ナシト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第九條　造船會社本邦ニ於テ未ダ製造セラレタルコトナキ船體、船舶用機關若ハ艤裝品又ハ其ノ部分品若ハ附屬品ノ製造ヲ爲ス場合ニ於テハ政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ豫算ノ範圍內ニ於テ之ニ奬勵金ヲ交付スルコトヲ得

第十條　政府ハ造船會社ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ船體、船舶用機關若ハ艤裝品又ハ其ノ部分品若ハ附屬品ニハ本邦ニ於テ製造セラレタル物ヲ使用スベキコトヲ命ズルコトヲ得

第十一條　政府ハ造船事業ノ維持ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ船舶ノ製造ヲ爲ス造船會社又ハ船舶ノ製造ノ注文ヲ爲ス者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ豫算ノ範圍內ニ於テ助成金ヲ交付スルコトヲ得

第十二條　政府ハ船體、船舶用機關若ハ艤裝品又ハ其ノ部分品若ハ附屬品ニ付其ノ規格ヲ定ムルコトヲ得船舶及船舶用材料ニ付亦同ジ

造船會社ハ前項ノ規定ニ依リ規格ヲ定メタルモノニ付テハ命令ノ定ムル場合ヲ除クノ外規格ニ適合スルモノニ非ザレバ之ヲ製造シ又ハ船舶ニ使用スルコトヲ得ズ

第十三條　政府ハ造船會社ニ對シ其ノ製造セントスル船舶ニ付命令ノ定ムル推進性能試驗ヲ受クベキコトヲ命ズルコトヲ得

第十四條　政府ハ公益上必要アリト認ムルトキハ造船會社ニ對シ船舶、船體、船舶用機關若ハ艤裝品又ハ其ノ部分品若ハ附屬品ニ付製造若ハ販賣ノ價格又ハ修繕料ノ變更ヲ命ジ又ハ此等ノ物ノ供給ニ關シ必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第十五條　政府ハ公益上必要アリト認ムルトキハ造船會社ニ對シ左ノ各號ニ揭グル事項ヲ命ズルコトヲ得

一　設備ノ新設、增設又ハ改良

二　政府ノ指定スル船舶、船體、船舶用機關若ハ艤裝品又ハ其ノ部分品若ハ附屬品ノ製造又ハ修繕

三　船舶ニ關スル特殊事項ノ研究又ハ特殊設備ノ施設

前項ノ命令ニ因リ生ジタル損失ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府之ヲ補償ス

前項ノ補償ヲ伴フベキ命令ハ之ニ因リ要スベキ補償金ノ總額ガ帝國議會ノ協贊ヲ經タル金額ヲ超エザル範圍內ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第十六條　政府ハ第十二條第一項ノ規格ノ決定、第十四條若ハ前條第一項第一號ノ命令又ハ前條第二項ノ補償金額ノ決定ヲ爲サントスルトキハ勅令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外造船事業委員會ノ議ヲ經ベシ

造船事業委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條　造船會社ハ其ノ事業ノ改良發達ヲ圖ル爲造船組合ヲ設立スルコトヲ得

造船組合ハ法人トス

第十八條　造船組合ハ左ノ事業ヲ行フコトヲ得

一　組合員ノ事業ニ必要ナル物ノ取得、保有及供給竝ニ組合員ノ事業ノ爲ニスル共同施設

二　組合員間ニ於ケル事業ノ統制

三　組合員ノ事業ニ關スル指導、研究及調査

四　前各號ニ揭グルモノノ外組合ノ目的ヲ達スルニ必要ナル事業

造船組合ハ營利ヲ目的トシテ其ノ事業ヲ行フコトヲ得ズ

第十九條　造船組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ組合員ニ對シ經費ヲ分賦シ過怠金ヲ課スルコトヲ得

第二十條　造船組合ヲ設立セントスルトキハ豫メ地區ヲ定メ其ノ地區內ニ於テ組合員タルベキ資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ヲ以テ創立總會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ政府ノ認可ヲ受クベシ

組合ノ設立ニ付組合員タルベキ資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルコト能ハザル場合ト雖モ特別ノ事由アルトキハ政府ノ認可ヲ受ケ創立總會ヲ開クコトヲ得

造船組合ハ第一項ノ認可アリタル時成立ス

第二十一條　造船組合ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一　目的

二　名稱

三　地區

四　事務所ノ所在地

五　組合員タル資格ニ關スル規定

六　組合員ノ加入及脫退ニ關スル規定

ヲ要ス
ト勅令ノ定ムル所ニ依リ登記ヲ爲スコト

第三十七條　造船組合及造船組合聯合會ハ法人トス

第三十八條　造船組合及造船組合聯合會ニハ非サレハ之ヲ以テ其ノ名稱ニ造船組合又ハ造船組合聯合會ノ文字ヲ用フルコトヲ得ス

第三十九條　民法第五十一條第二項、第五十四條第二項、第五十五條第二項、第五十六條第二項、第五十九條第二項、第六十一條第二項、第三十一條第二項、第三十二條第二項、第三十三條第二項、第三十四條第二項、第三十五條第二項、第三十六條第二項、第三十七條第二項、第三十八條第二項、第三十九條第二項、第四十條第二項、第四十一條第二項、第四十二條第二項、第四十三條第二項、第四十四條第二項、第四十五條第二項、第四十六條第二項、第四十七條第二項、第四十八條第二項、第四十九條第二項、第五十條第二項、第五十一條第二項、第五十二條第二項、第五十三條第二項、第五十四條第二項、第五十五條第二項、第五十六條第二項、第五十七條第二項、第五十八條第二項、第五十九條第二項、第六十條第二項、第六十一條第二項、第六十二條第二項、第六十三條第二項、第六十四條第二項、第六十五條第二項、第六十六條第二項、第六十七條第二項、第六十八條第二項、第六十九條第二項、第七十條第二項、第七十一條第二項、第七十二條第二項、第七十三條第二項、第七十四條第二項、第七十五條第二項、第七十六條第二項、第七十七條第二項、第七十八條第二項、第七十九條第二項、第八十條第二項、第八十一條第二項、第八十二條第二項、第八十三條第二項、第八十四條第二項、第八十五條第二項、第八十六條第二項、第八十七條第二項、第八十八條第二項、第八十九條第二項、第九十條第二項、第九十一條第二項、第九十二條第二項、第九十三條第二項、第九十四條第二項、第九十五條第二項、第九十六條第二項、第九十七條第二項、第九十八條第二項、第九十九條第二項、第百條第二項、第百一條第二項、第百二條第二項、第百三條第二項、第百四條第二項、第百五條第二項、第百六條第二項、第百七條第二項、第百八條第二項、第百九條第二項、第百十條第二項、第百十一條第二項、第百十二條第二項、第百十三條第二項、第百十四條第二項、第百十五條第二項、第百十六條第二項、第百十七條第二項、第百十八條第二項、第百十九條第二項、第百二十條第二項、第百二十一條第二項、第百二十二條第二項、第百二十三條第二項、第百二十四條第二項、第百二十五條第二項、第百二十六條第二項、第百二十七條第二項、第百二十八條第二項、第百二十九條第二項、第百三十條第二項、第百三十一條第二項、第百三十二條第二項、第百三十三條第二項、第百三十四條第二項、第百三十五條第二項、第百三十六條第二項、第百三十七條第二項、第百三十八條第二項、第百三十九條第二項、第百四十條第二項、第百四十一條第二項、第百四十二條第二項、第百四十三條第二項、第百四十四條第二項、第百四十五條第二項、第百四十六條第二項、第百四十七條第二項、第百四十八條第二項、第百四十九條第二項、第百五十條第二項、第百五十一條第二項、第百五十二條第二項、第百五十三條第二項、第百五十四條第二項、第百五十五條第二項、第百五十六條第二項、第百五十七條第二項、第百五十八條第二項、第百五十九條第二項、第百六十條第二項、第百六十一條第二項、第百六十二條第二項、第百六十三條第二項、第百六十四條第二項、第百六十五條第二項、第百六十六條第二項、第百六十七條第二項、第百六十八條第二項、第百六十九條第二項、第百七十條第二項、第百七十一條第二項、第百七十二條第二項、第百七十三條第二項、第百七十四條第二項、第百七十五條第二項、第百七十六條第二項、第百七十七條第二項、第百七十八條第二項、第百七十九條第二項、第百八十條第二項、第百八十一條第二項、第百八十二條第二項、第百八十三條第二項、第百八十四條第二項、第百八十五條第二項、第百八十六條第二項、第百八十七條第二項、第百八十八條第二項、第百八十九條第二項、第百九十條第二項、第百九十一條第二項、第百九十二條第二項、第百九十三條第二項、第百九十四條第二項、第百九十五條第二項、第百九十六條第二項、第百九十七條第二項、第百九十八條第二項、第百九十九條第二項、第二百條第二項、第二百一條第二項、第二百二條第二項、第二百三條第二項、第二百四條第二項、第二百五條第二項、第二百六條第二項、第二百七條第二項、第二百八條第二項、第二百九條第二項、第二百十條第二項、第二百十一條第二項、第二百十二條第二項、第二百十三條第二項、第二百十四條第二項、第二百十五條第二項、第二百十六條第二項、第二百十七條第二項、第二百十八條第二項、第二百十九條第二項、第二百二十條第二項、第二百二十一條第二項、第二百二十二條第二項、第二百二十三條第二項、第二百二十四條第二項、第二百二十五條第二項、第二百二十六條第二項、第二百二十七條第二項、第二百二十八條第二項、第二百二十九條第二項、第二百三十條第二項、第二百三十一條第二項、第二百三十二條第二項、第二百三十三條第二項、第二百三十四條第二項、第二百三十五條第二項、第二百三十六條第二項、第二百三十七條第二項、第二百三十八條第二項、第二百三十九條第二項、第二百四十條第二項、第二百四十一條第二項、第二百四十二條第二項、第二百四十三條第二項、第二百四十四條第二項、第二百四十五條第二項、第二百四十六條第二項、第二百四十七條第二項、第二百四十八條第二項、第二百四十九條第二項、第二百五十條第二項、第二百五十一條第二項、第二百五十二條第二項、第二百五十三條第二項、第二百五十四條第二項、第二百五十五條第二項、第二百五十六條第二項、第二百五十七條第二項、第二百五十八條第二項、第二百五十九條第二項、第二百六十條第二項、第二百六十一條第二項、第二百六十二條第二項、第二百六十三條第二項、第二百六十四條第二項、第二百六十五條第二項、第二百六十六條第二項、第二百六十七條第二項、第二百六十八條第二項、第二百六十九條第二項、第二百七十條第二項、第二百七十一條第二項、第二百七十二條第二項、第二百七十三條第二項、第二百七十四條第二項、第二百七十五條第二項、第二百七十六條第二項、第二百七十七條第二項、第二百七十八條第二項、第二百七十九條第二項、第二百八十條第二項、第二百八十一條第二項、第二百八十二條第二項、第二百八十三條第二項、第二百八十四條第二項、第二百八十五條第二項、第二百八十六條第二項、第二百八十七條第二項、第二百八十八條第二項、第二百八十九條第二項、第二百九十條第二項、第二百九十一條第二項、第二百九十二條第二項、第二百九十三條第二項、第二百九十四條第二項、第二百九十五條第二項、第二百九十六條第二項、第二百九十七條第二項、第二百九十八條第二項、第二百九十九條第二項、第三百條第二項、第三百一條第二項、第三百二條第二項、第三百三條第二項、第三百四條第二項、第三百五條第二項、第三百六條第二項、第三百七條第二項、第三百八條第二項、第三百九條第二項、第三百十條第二項、第三百十一條第二項、第三百十二條第二項、第三百十三條第二項、第三百十四條第二項、第三百十五條第二項、第三百十六條第二項、第三百十七條第二項、第三百十八條第二項、第三百十九條第二項、第三百二十條第二項、第三百二十一條第二項、第三百二十二條第二項、第三百二十三條第二項、第三百二十四條第二項、第三百二十五條第二項、第三百二十六條第二項、第三百二十七條第二項、第三百二十八條第二項、第三百二十九條第二項、第三百三十條第二項、第三百三十一條第二項、第三百三十二條第二項、第三百三十三條第二項、第三百三十四條第二項、第三百三十五條第二項、第三百三十六條第二項、第三百三十七條第二項、第三百三十八條第二項、第三百三十九條第二項、第三百四十條第二項、第三百四十一條第二項、第三百四十二條第二項、第三百四十三條第二項、第三百四十四條第二項、第三百四十五條第二項、第三百四十六條第二項、第三百四十七條第二項、第三百四十八條第二項、第三百四十九條第二項、第三百五十條第二項、第三百五十一條第二項、第三百五十二條第二項、第三百五十三條第二項、第三百五十四條第二項、第三百五十五條第二項、第三百五十六條第二項、第三百五十七條第二項、第三百五十八條第二項、第三百五十九條第二項、第三百六十條第二項、第三百六十一條第二項、第三百六十二條第二項、第三百六十三條第二項、第三百六十四條第二項、第三百六十五條第二項、第三百六十六條第二項、第三百六十七條第二項、第三百六十八條第二項、第三百六十九條第二項、第三百七十條第二項、第三百七十一條第二項、第三百七十二條第二項、第三百七十三條第二項、第三百七十四條第二項、第三百七十五條第二項、第三百七十六條第二項、第三百七十七條第二項、第三百七十八條第二項、第三百七十九條第二項、第三百八十條第二項、第三百八十一條第二項、第三百八十二條第二項、第三百八十三條第二項、第三百八十四條第二項、第三百八十五條第二項、第三百八十六條第二項、第三百八十七條第二項、第三百八十八條第二項、第三百八十九條第二項、第三百九十條第二項、第三百九十一條第二項、第三百九十二條第二項、第三百九十三條第二項、第三百九十四條第二項、第三百九十五條第二項、第三百九十六條第二項、第三百九十七條第二項、第三百九十八條第二項、第三百九十九條第二項、第四百條第二項、第四百一條第二項、第四百二條第二項、第四百三條第二項、第四百四條第二項、第四百五條第二項、第四百六條第二項、第四百七條第二項、第四百八條第二項、第四百九條第二項、第四百十條第二項、第四百十一條第二項、第四百十二條第二項、第四百十三條第二項、第四百十四條第二項、第四百十五條第二項、第四百十六條第二項、第四百十七條第二項、第四百十八條第二項、第四百十九條第二項、第四百二十條第二項、第四百二十一條第二項、第四百二十二條第二項、第四百二十三條第二項、第四百二十四條第二項、第四百二十五條第二項、第四百二十六條第二項、第四百二十七條第二項、第四百二十八條第二項、第四百二十九條第二項、第四百三十條第二項、第四百三十一條第二項、第四百三十二條第二項、第四百三十三條第二項、第四百三十四條第二項、第四百三十五條第二項、第四百三十六條第二項、第四百三十七條第二項、第四百三十八條第二項、第四百三十九條第二項、第四百四十條第二項、第四百四十一條第二項、第四百四十二條第二項、第四百四十三條第二項、第四百四十四條第二項、第四百四十五條第二項、第四百四十六條第二項、第四百四十七條第二項、第四百四十八條第二項、第四百四十九條第二項、第四百五十條第二項、第四百五十一條第二項、第四百五十二條第二項、第四百五十三條第二項、第四百五十四條第二項、第四百五十五條第二項、第四百五十六條第二項、第四百五十七條第二項、第四百五十八條第二項、第四百五十九條第二項、第四百六十條第二項、第四百六十一條第二項、第四百六十二條第二項、第四百六十三條第二項、第四百六十四條第二項、第四百六十五條第二項、第四百六十六條第二項、第四百六十七條第二項、第四百六十八條第二項、第四百六十九條第二項、第四百七十條第二項、第四百七十一條第二項、第四百七十二條第二項、第四百七十三條第二項、第四百七十四條第二項、第四百七十五條第二項、第四百七十六條第二項、第四百七十七條第二項、第四百七十八條第二項、第四百七十九條第二項、第四百八十條第二項、第四百八十一條第二項、第四百八十二條第二項、第四百八十三條第二項、第四百八十四條第二項、第四百八十五條第二項、第四百八十六條第二項、第四百八十七條第二項、第四百八十八條第二項、第四百八十九條第二項、第四百九十條第二項、第四百九十一條第二項、第四百九十二條第二項、第四百九十三條第二項、第四百九十四條第二項、第四百九十五條第二項、第四百九十六條第二項、第四百九十七條第二項、第四百九十八條第二項、第四百九十九條第二項、第五百條第二項、第五百一條第二項、第五百二條第二項、第五百三條第二項、第五百四條第二項、第五百五條第二項、第五百六條第二項、第五百七條第二項、第五百八條第二項、第五百九條第二項、第五百十條第二項、第五百十一條第二項、第五百十二條第二項、第五百十三條第二項、第五百十四條第二項、第五百十五條第二項、第五百十六條第二項、第五百十七條第二項、第五百十八條第二項、第五百十九條第二項、第五百二十條第二項、第五百二十一條第二項、第五百二十二條第二項、第五百二十三條第二項、第五百二十四條第二項、第五百二十五條第二項、第五百二十六條第二項、第五百二十七條第二項、第五百二十八條第二項、第五百二十九條第二項、第五百三十條第二項、第五百三十一條第二項、第五百三十二條第二項、第五百三十三條第二項、第五百三十四條第二項、第五百三十五條第二項、第五百三十六條第二項、第五百三十七條第二項、第五百三十八條第二項、第五百三十九條第二項、第五百四十條第二項、第五百四十一條第二項、第五百四十二條第二項、第五百四十三條第二項、第五百四十四條第二項、第五百四十五條第二項、第五百四十六條第二項、第五百四十七條第二項、第五百四十八條第二項、第五百四十九條第二項、第五百五十條第二項、第五百五十一條第二項、第五百五十二條第二項、第五百五十三條第二項、第五百五十四條第二項、第五百五十五條第二項、第五百五十六條第二項、第五百五十七條第二項、第五百五十八條第二項、第五百五十九條第二項、第五百六十條第二項、第五百六十一條第二項、第五百六十二條第二項、第五百六十三條第二項、第五百六十四條第二項、第五百六十五條第二項、第五百六十六條第二項、第五百六十七條第二項、第五百六十八條第二項、第五百六十九條第二項、第五百七十條第二項、第五百七十一條第二項、第五百七十二條第二項、第五百七十三條第二項、第五百七十四條第二項、第五百七十五條第二項、第五百七十六條第二項、第五百七十七條第二項、第五百七十八條第二項、第五百七十九條第二項、第五百八十條第二項、第五百八十一條第二項、第五百八十二條第二項、第五百八十三條第二項、第五百八十四條第二項、第五百八十五條第二項、第五百八十六條第二項、第五百八十七條第二項、第五百八十八條第二項、第五百八十九條第二項、第五百九十條第二項、第五百九十一條第二項、第五百九十二條第二項、第五百九十三條第二項、第五百九十四條第二項、第五百九十五條第二項、第五百九十六條第二項、第五百九十七條第二項、第五百九十八條第二項、第五百九十九條第二項、第六百條第二項、第六百一條第二項、第六百二條第二項、第六百三條第二項、第六百四條第二項、第六百五條第二項、第六百六條第二項、第六百七條第二項、第六百八條第二項、第六百九條第二項、第六百十條第二項、第六百十一條第二項、第六百十二條第二項、第六百十三條第二項、第六百十四條第二項、第六百十五條第二項、第六百十六條第二項、第六百十七條第二項、第六百十八條第二項、第六百十九條第二項、第六百二十條第二項、第六百二十一條第二項、第六百二十二條第二項、第六百二十三條第二項、第六百二十四條第二項、第六百二十五條第二項、第六百二十六條第二項、第六百二十七條第二項、第六百二十八條第二項、第六百二十九條第二項、第六百三十條第二項、第六百三十一條第二項、第六百三十二條第二項、第六百三十三條第二項、第六百三十四條第二項、第六百三十五條第二項、第六百三十六條第二項、第六百三十七條第二項、第六百三十八條第二項、第六百三十九條第二項、第六百四十條第二項、第六百四十一條第二項、第六百四十二條第二項、第六百四十三條第二項、第六百四十四條第二項、第六百四十五條第二項、第六百四十六條第二項、第六百四十七條第二項、第六百四十八條第二項、第六百四十九條第二項、第六百五十條第二項、第六百五十一條第二項、第六百五十二條第二項、第六百五十三條第二項、第六百五十四條第二項、第六百五十五條第二項、第六百五十六條第二項、第六百五十七條第二項、第六百五十八條第二項、第六百五十九條第二項、第六百六十條第二項、第六百六十一條第二項、第六百六十二條第二項、第六百六十三條第二項、第六百六十四條第二項、第六百六十五條第二項、第六百六十六條第二項、第六百六十七條第二項、第六百六十八條第二項、第六百六十九條第二項、第六百七十條第二項、第六百七十一條第二項、第六百七十二條第二項、第六百七十三條第二項、第六百七十四條第二項、第六百七十五條第二項、第六百七十六條第二項、第六百七十七條第二項、第六百七十八條第二項、第六百七十九條第二項、第六百八十條第二項、第六百八十一條第二項、第六百八十二條第二項、第六百八十三條第二項、第六百八十四條第二項、第六百八十五條第二項、第六百八十六條第二項、第六百八十七條第二項、第六百八十八條第二項、第六百八十九條第二項、第六百九十條第二項、第六百九十一條第二項、第六百九十二條第二項、第六百九十三條第二項、第六百九十四條第二項、第六百九十五條第二項、第六百九十六條第二項、第六百九十七條第二項、第六百九十八條第二項、第六百九十九條第二項、第七百條第二項、第七百一條第二項、第七百二條第二項、第七百三條第二項、第七百四條第二項、第七百五條第二項、第七百六條第二項、第七百七條第二項、第七百八條第二項、第七百九條第二項、第七百十條第二項、第七百十一條第二項、第七百十二條第二項、第七百十三條第二項、第七百十四條第二項、第七百十五條第二項、第七百十六條第二項、第七百十七條第二項、第七百十八條第二項、第七百十九條第二項、第七百二十條第二項、第七百二十一條第二項、第七百二十二條第二項、第七百二十三條第二項、第七百二十四條第二項、第七百二十五條第二項、第七百二十六條第二項、第七百二十七條第二項、第七百二十八條第二項、第七百二十九條第二項、第七百三十條第二項、第七百三十一條第二項、第七百三十二條第二項、第七百三十三條第二項、第七百三十四條第二項、第七百三十五條第二項、第七百三十六條第二項、第七百三十七條第二項、第七百三十八條第二項、第七百三十九條第二項、第七百四十條第二項、第七百四十一條第二項、第七百四十二條第二項、第七百四十三條第二項、第七百四十四條第二項、第七百四十五條第二項、第七百四十六條第二項、第七百四十七條第二項、第七百四十八條第二項、第七百四十九條第二項、第七百五十條第二項、第七百五十一條第二項、第七百五十二條第二項、第七百五十三條第二項、第七百五十四條第二項、第七百五十五條第二項、第七百五十六條第二項、第七百五十七條第二項、第七百五十八條第二項、第七百五十九條第二項、第七百六十條第二項、第七百六十一條第二項、第七百六十二條第二項、第七百六十三條第二項、第七百六十四條第二項、第七百六十五條第二項、第七百六十六條第二項、第七百六十七條第二項、第七百六十八條第二項、第七百六十九條第二項、第七百七十條第二項、第七百七十一條第二項、第七百七十二條第二項、第七百七十三條第二項、第七百七十四條第二項、第七百七十五條第二項、第七百七十六條第二項、第七百七十七條第二項、第七百七十八條第二項、第七百七十九條第二項、第七百八十條第二項、第七百八十一條第二項、第七百八十二條第二項、第七百八十三條第二項、第七百八十四條第二項、第七百八十五條第二項、第七百八十六條第二項、第七百八十七條第二項、第七百八十八條第二項、第七百八十九條第二項、第七百九十條第二項、第七百九十一條第二項、第七百九十二條第二項、第七百九十三條第二項、第七百九十四條第二項、第七百九十五條第二項、第七百九十六條第二項、第七百九十七條第二項、第七百九十八條第二項、第七百九十九條第二項、第八百條第二項、第八百一條第二項、第八百二條第二項、第八百三條第二項、第八百四條第二項、第八百五條第二項、第八百六條第二項、第八百七條第二項、第八百八條第二項、第八百九條第二項、第八百十條第二項、第八百十一條第二項、第八百十二條第二項、第八百十三條第二項、第八百十四條第二項、第八百十五條第二項、第八百十六條第二項、第八百十七條第二項、第八百十八條第二項、第八百十九條第二項、第八百二十條第二項、第八百二十一條第二項、第八百二十二條第二項、第八百二十三條第二項、第八百二十四條第二項、第八百二十五條第二項、第八百二十六條第二項、第八百二十七條第二項、第八百二十八條第二項、第八百二十九條第二項、第八百三十條第二項、第八百三十一條第二項、第八百三十二條第二項、第八百三十三條第二項、第八百三十四條第二項、第八百三十五條第二項、第八百三十六條第二項、第八百三十七條第二項、第八百三十八條第二項、第八百三十九條第二項、第八百四十條第二項、第八百四十一條第二項、第八百四十二條第二項、第八百四十三條第二項、第八百四十四條第二項、第八百四十五條第二項、第八百四十六條第二項、第八百四十七條第二項、第八百四十八條第二項、第八百四十九條第二項、第八百五十條第二項、第八百五十一條第二項、第八百五十二條第二項、第八百五十三條第二項、第八百五十四條第二項、第八百五十五條第二項、第八百五十六條第二項、第八百五十七條第二項、第八百五十八條第二項、第八百五十九條第二項、第八百六十條第二項、第八百六十一條第二項、第八百六十二條第二項、第八百六十三條第二項、第八百六十四條第二項、第八百六十五條第二項、第八百六十六條第二項、第八百六十七條第二項、第八百六十八條第二項、第八百六十九條第二項、第八百七十條第二項、第八百七十一條第二項、第八百七十二條第二項、第八百七十三條第二項、第八百七十四條第二項、第八百七十五條第二項、第八百七十六條第二項、第八百七十七條第二項、第八百七十八條第二項、第八百七十九條第二項、第八百八十條第二項、第八百八十一條第二項、第八百八十二條第二項、第八百八十三條第二項、第八百八十四條第二項、第八百八十五條第二項、第八百八十六條第二項、第八百八十七條第二項、第八百八十八條第二項、第八百八十九條第二項、第八百九十條第二項、第八百九十一條第二項、第八百九十二條第二項、第八百九十三條第二項、第八百九十四條第二項、第八百九十五條第二項、第八百九十六條第二項、第八百九十七條第二項、第八百九十八條第二項、第八百九十九條第二項、第九百條第二項、第九百一條第二項、第九百二條第二項、第九百三條第二項、第九百四條第二項、第九百五條第二項、第九百六條第二項、第九百七條第二項、第九百八條第二項、第九百九條第二項、第九百十條第二項、第九百十一條第二項、第九百十二條第二項、第九百十三條第二項、第九百十四條第二項、第九百十五條第二項、第九百十六條第二項、第九百十七條第二項、第九百十八條第二項、第九百十九條第二項、第九百二十條第二項、第九百二十一條第二項、第九百二十二條第二項、第九百二十三條第二項、第九百二十四條第二項、第九百二十五條第二項、第九百二十六條第二項、第九百二十七條第二項、第九百二十八條第二項、第九百二十九條第二項、第九百三十條第二項、第九百三十一條第二項、第九百三十二條第二項、第九百三十三條第二項、第九百三十四條第二項、第九百三十五條第二項、第九百三十六條第二項、第九百三十七條第二項、第九百三十八條第二項、第九百三十九條第二項、第九百四十條第二項、第九百四十一條第二項、第九百四十二條第二項、第九百四十三條第二項、第九百四十四條第二項、第九百四十五條第二項、第九百四十六條第二項、第九百四十七條第二項、第九百四十八條第二項、第九百四十九條第二項、第九百五十條第二項、第九百五十一條第二項、第九百五十二條第二項、第九百五十三條第二項、第九百五十四條第二項、第九百五十五條第二項、第九百五十六條第二項、第九百五十七條第二項、第九百五十八條第二項、第九百五十九條第二項、第九百六十條第二項、第九百六十一條第二項、第九百六十二條第二項、第九百六十三條第二項、第九百六十四條第二項、第九百六十五條第二項、第九百六十六條第二項、第九百六十七條第二項、第九百六十八條第二項、第九百六十九條第二項、第九百七十條第二項、第九百七十一條第二項、第九百七十二條第二項、第九百七十三條第二項、第九百七十四條第二項、第九百七十五條第二項、第九百七十六條第二項、第九百七十七條第二項、第九百七十八條第二項、第九百七十九條第二項、第九百八十條第二項、第九百八十一條第二項、第九百八十二條第二項、第九百八十三條第二項、第九百八十四條第二項、第九百八十五條第二項、第九百八十六條第二項、第九百八十七條第二項、第九百八十八條第二項、第九百八十九條第二項、第九百九十條第二項、第九百九十一條第二項、第九百九十二條第二項、第九百九十三條第二項、第九百九十四條第二項、第九百九十五條第二項、第九百九十六條第二項、第九百九十七條第二項、第九百九十八條第二項、第九百九十九條第二項、第千條第二項、第千一條第二項、第千二條第二項、第千三條第二項、第千四條第二項、第千五條第二項、第千六條第二項、第千七條第二項、第千八條第二項、第千九條第二項、第千十條第二項、第千十一條第二項、第千十二條第二項、第千十三條第二項、第千十四條第二項、第千十五條第二項、第千十六條第二項、第千十七條第二項、第千十八條第二項、第千十九條第二項、第千二十條第二項、第千二十一條第二項、第千二十二條第二項、第千二十三條第二項、第千二十四條第二項、第千二十五條第二項、第千二十六條第二項、第千二十七條第二項、第千二十八條第二項、第千二十九條第二項、第千三十條第二項、第千三十一條第二項、第千三十二條第二項、第千三十三條第二項、第千三十四條第二項、第千三十五條第二項、第千三十六條第二項、第千三十七條第二項、第千三十八條第二項、第千三十九條第二項、第千四十條第二項、第千四十一條第二項、第千四十二條第二項、第千四十三條第二項、第千四十四條第二項、第千四十五條第二項、第千四十六條第二項、第千四十七條第二項、第千四十八條第二項、第千四十九條第二項、第千五十條第二項、第千五十一條第二項、第千五十二條第二項、第千五十三條第二項、第千五十四條第二項、第千五十五條第二項、第千五十六條第二項、第千五十七條第二項、第千五十八條第二項、第千五十九條第二項、第千六十條第二項、第千六十一條第二項、第千六十二條第二項、第千六十三條第二項、第千六十四條第二項、第千六十五條第二項、第千六十六條第二項、第千六十七條第二項、第千六十八條第二項、第千六十九條第二項、第千七十條第二項、第千七十一條第二項、第千七十二條第二項、第千七十三條第二項、第千七十四條第二項、第千七十五條第二項、第千七十六條第二項、第千七十七條第二項、第千七十八條第二項、第千七十九條第二項、第千八十條第二項、第千八十一條第二項、第千八十二條第二項、第千八十三條第二項、第千八十四條第二項、第千八十五條第二項、第千八十六條第二項、第千八十七條第二項、第千八十八條第二項、第千八十九條第二項、第千九十條第二項、第千九十一條第二項、第千九十二條第二項、第千九十三條第二項、第千九十四條第二項、第千九十五條第二項、第千九十六條第二項、第千九十七條第二項、第千九十八條第二項、第千九十九條第二項、第千百條第二項、第千百一條第二項、第千百二條第二項、第千百三條第二項、第千百四條第二項、第千百五條第二項、第千百六條第二項、第千百七條第二項、第千百八條第二項、第千百九條第二項、第千百十條第二項、第千百十一條第二項、第千百十二條第二項、第千百十三條第二項、第千百十四條第二項、第千百十五條第二項、第千百十六條第二項、第千百十七條第二項、第千百十八條第二項、第千百十九條第二項、第千百二十條第二項、第千百二十一條第二項、第千百二十二條第二項、第千百二十三條第二項、第千百二十四條第二項、第千百二十五條第二項、第千百二十六條第二項、第千百二十七條第二項、第千百二十八條第二項、第千百二十九條第二項、第千百三十條第二項、第千百三十一條第二項、第千百三十二條第二項、第千百三十三條第二項、第千百三十四條第二項、第千百三十五條第二項、第千百三十六條第二項、第千百三十七條第二項、第千百三十八條第二項、第千百三十九條第二項、第千百四十條第二項、第千百四十一條第二項、第千百四十二條第二項、第千百四十三條第二項、第千百四十四條第二項、第千百四十五條第二項、第千百四十六條第二項、第千百四十七條第二項、第千百四十八條第二項、第千百四十九條第二項、第千百五十條第二項、第千百五十一條第二項、第千百五十二條第二項、第千百五十三條第二項、第千百五十四條第二項、第千百五十五條第二項、第千百五十六條第二項、第千百五十七條第二項、第千百五十八條第二項、第千百五十九條第二項、第千百六十條第二項、第千百六十一條第二項、第千百六十二條第二項、第千百六十三條第二項、第千百六十四條第二項、第千百六十五條第二項、第千百六十六條第二項、第千百六十七條第二項、第千百六十八條第二項、第千百六十九條第二項、第千百七十條第二項、第千百七十一條第二項、第千百七十二條第二項、第千百七十三條第二項、第千百七十四條第二項、第千百七十五條第二項、第千百七十六條第二項、第千百七十七條第二項、第千百七十八條第二項、第千百七十九條第二項、第千百八十條第二項、第千百八十一條第二項、第千百八十二條第二項、第千百八十三條第二項、第千百八十四條第二項、第千百八十五條第二項、第千百八十六條第二項、第千百八十七條第二項、第千百八十八條第二項、第千百八十九條第二項、第千百九十條第二項、第千百九十一條第二項、第千百九十二條第二項、第千百九十三條第二項、第千百九十四條第二項、第千百九十五條第二項、第千百九十六條第二項、第千百九十七條第二項、第千百九十八條第二項、第千百九十九條第二項、第千二百條第二項、第千二百一條第二項、第千二百二條第二項、第千二百三條第二項、第千二百四條第二項、第千二百五條第二項、第千二百六條第二項、第千二百七條第二項、第千二百八條第二項、第千二百九條第二項、第千二百十條第二項、第千二百十一條第二項、第千二百十二條第二項、第千二百十三條第二項、第千二百十四條第二項、第千二百十五條第二項、第千二百十六條第二項、第千二百十七條第二項、第千二百十八條第二項、第千二百十九條第二項、第千二百二十條第二項、第千二百二十一條第二項、第千二百二十二條第二項、第千二百二十三條第二項、第千二百二十四條第二項、第千二百二十五條第二項、第千二百二十六條第二項、第千二百二十七條第二項、第千二百二十八條第二項、第千二百二十九條第二項、第千二百三十條第二項、第千二百三十一條第二項、第千二百三十二條第二項、第千二百三十三條第二項、第千二百三十四條第二項、第千二百三十五條第二項、第千二百三十六條第二項、第千二百三十七條第二項、第千二百三十八條第二項、第千二百三十九條第二項、第千二百四十條第二項、第千二百四十一條第二項、第千二百四十二條第二項、第千二百四十三條第二項、第千二百四十四條第二項、第千二百四十五條第二項、第千二百四十六條第二項、第千二百四十七條第二項、第千二百四十八條第二項、第千二百四十九條第二項、第千二百五十條第二項、第千二百五十一條第二項、第千二百五十二條第二項、第千二百五十三條第二項、第千二百五十四條第二項、第千二百五十五條第二項、第千二百五十六條第二項、第千二百五十七條第二項、第千二百五十八條第二項、第千二百五十九條第二項、第千二百六十條第二項、第千二百六十一條第二項、第千二百六十二條第二項、第千二百六十三條第二項、第千二百六十四條第二項、第千二百六十五條第二項、第千二百六十六條第二項、第千二百六十七條第二項、第千二百六十八條第二項、第千二百六十九條第二項、第千二百七十條第二項、第千二百七十一條第二項、第千二百七十二條第二項、第千二百七十三條第二項、第千二百七十四條第二項、第千二百七十五條第二項、第千二百七十六條第二項、第千二百七十七條第二項、第千二百七十八條第二項、第千二百七十九條第二項、第千二百八十條第二項、第千二百八十一條第二項、第千二百八十二條第二項、第千二百八十三條第二項、第千二百八十四條第二項、第千二百八十五條第二項、第千二百八十六條第二項、第千二百八十七條第二項、第千二百八十八條第二項、第千二百八十九條第二項、第千二百九十條第二項、第千二百九十一條第二項、第千二百九十二條第二項、第千二百九十三條第二項、第千二百九十四條第二項、第千二百九十五條第二項、第千二百九十六條第二項、第千二百九十七條第二項、第千二百九十八條第二項、第千二百九十九條第二項、第千三百條第二項、第千三百一條第二項、第千三百二條第二項、第千三百三條第二項、第千三百四條第二項、第千三百五條第二項、第千三百六條第二項、第千三百七條第二項、第千三百八條第二項、第千三百九條第二項、第千三百十條第二項、第千三百十一條第二項、第千三百十二條第二項、第千三百十三條第二項、第千三百十四條第二項、第千三百十五條第二項、第千三百十六條第二項、第千三百十七條第二項、第千三百十八條第二項、第千三百十九條第二項、第千三百二十條第二項、第千三百二十一條第二項、第千三百二十二條第二項、第千三百二十三條第二項、第千三百二十四條第二項、第千三百二十五條第二項、第千三百二十六條第二項、第千三百二十七條第二項、第千三百二十八條第二項、第千三百二十九條第二項、第千三百三十條第二項、第千三百三十一條第二項、第千三百三十二條第二項、第千三百三十三條第二項、第千三百三十四條第二項、第千三百三十五條第二項、第千三百三十六條第二項、第千三百三十七條第二項、第千三百三十八條第二項、第千三百三十九條第二項、第千三百四十條第二項、第千三百四十一條第二項、第千三百四十二條第二項、第千三百四十三條第二項、第千三百四十四條第二項、第千三百四十五條第二項、第千三百四十六條第二項、第千三百四十七條第二項、第千三百四十八條第二項、第千三百四十九條第二項、第千三百五十條第二項、第千三百五十一條第二項、第千三百五十二條第二項、第千三百五十三條第二項、第千三百五十四條第二項、第千三百五十五條第二項、第千三百五十六條第二項、第千三百五十七條第二項、第千三百五十八條第二項、第千三百五十九條第二項、第千三百六十條第二項、第千三百六十一條第二項、第千三百六十二條第二項、第千三百六十三條第二項、第千三百六十四條第二項、第千三百六十五條第二項、第千三百六十六條第二項、第千三百六十七條第二項、第千三百六十八條第二項、第千三百六十九條第二項、第千三百七十條第二項、第千三百七十一條第二項、第千三百七十二條第二項、第千三百七十三條第二項、第千三百七十四條第二項、第千三百七十五條第二項、第千三百七十六條第二項、第千三百七十七條第二項、第千三百七十八條第二項、第千三百七十九條第二項、第千三百八十條第二項、第千三百八十一條第二項、第千三百八十二條第二項、第千三百八十三條第二項、第千三百八十四條第二項、第千三百八十五條第二項、第千三百八十六條第二項、第千三百八十七條第二項、第千三百八十八條第二項、第千三百八十九條第二項、第千三百九十條第二項、第千三百九十一條第二項、第千三百九十二條第二項、第千三百九十三條第二項、第千三百九十四條第二項、第千三百九十五條第二項、第千三百九十六條第二項、第千三百九十七條第二項、第千三百九十八條第二項、第千三百九十九條第二項、第千四百條第二項、第千四百一條第二項、第千四百二條第二項、第千四百三條第二項、第千四百四條第二項、第千四百五條第二項、第千四百六條第二項、第千四百七條第二項、第千四百八條第二項、第千四百九條第二項、第千四百十條第二項、第千四百十一條第二項、第千四百十二條第二項、第千四百十三條第二項、第千四百十四條第二項、第千四百十五條第二項、第千四百十六條第二項、第千四百十七條第二項、第千四百十八條第二項、第千四百十九條第二項、第千四百二十條第二項、第千四百二十一條第二項、第千四百二十二條第二項、第千四百二十三條第二項、第千四百二十四條第二項、第千四百二十五條第二項、第千四百二十六條第二項、第千四百二十七條第二項、第千四百二十八條第二項、第千四百二十九條第二項、第千四百三十條第二項、第千四百三十一條第二項、第千四百三十二條第二項、第千四百三十三條第二項、第千四百三十四條第二項、第千四百三十五條第二項、第千四百三十六條第二項、第千四百三十七條第二項、第千四百三十八條第二項、第千四百三十九條第二項、第千四百四十條第二項、第千四百四十一條第二項、第千四百四十二條第二項、第千四百四十三條第二項、第千四百四十四條第二項、第千四百四十五條第二項、第千四百四十六條第二項、第千四百四十七條第二項、第千四百四十八條第二項、第千四百四十九條第二項、第千四百五十條第二項、第千四百五十一條第二項、第千四百五十二條第二項、第千四百五十三條第二項、第千四百五十四條第二項、第千四百五十五條第二項、第千四百五十六條第二項、第千四百五十七條第二項、第千四百五十八條第二項、第千四百五十九條第二項、第千四百六十條第二項、第千四百六十一條第二項、第千四百六十二條第二項、第千四百六十三條第二項、第千四百六十四條第二項、第千四百六十五條第二項、第千四百六十六條第二項、第千四百六十七條第二項、第千四百六十八條第二項、第千四百六十九條第二項、第千四百七十條第二項、第千四百七十一條第二項、第千四百七十二條第二項、第千四百七十三條第二項、第千四百七十四條第二項、第千四百七十五條第二項、第千四百七十六條第二項、第千四百七十七條第二項、第千四百七十八條第二項、第千四百七十九條第二項、第千四百八十條第二項、第千四百八十一條第二項、第千四百八十二條第二項、第千四百八十三條第二項、第千四百八十四條第二項、第千四百八十五條第二項、第千四百八十六條第二項、第千四百八十七條第二項、第千四百八十八條第二項、第千四百八十九條第二項、第千四百九十條第二項、第千四百九十一條第二項、第千四百九十二條第二項、第千四百九十三條第二項、第千四百九十四條第二項、第千四百九十五條第二項、第千四百九十六條第二項、第千四百九十七條第二項、第千四百九十八條第二項、第千四百九十九條第二項、第千五百條第二項、第千五百一條第二項、第千五百二條第二項、第千五百三條第二項、第千五百四條第二項、第千五百五條第二項、第千五百六條第二項、第千五百七條第二項、第千五百八條第二項、第千五百九條第二項、第千五百十條第二項、第千五百十一條第二項、第千五百十二條第二項、第千五百十三條第二項、第千五百十四條第二項、第千五百十五條第

會ニ、又ハ加フ
法ニ
ノ下ニ
ニ、造船事業
ハ、他面ニ於テ、
ノ制限
ハ、非ス
ノ市場
ノ身元保證
ノ保護
ノ定ムル
ノ定ムル
ノ定ムル

之ヲ所有スルコトヲ得

第二十四條　政府ハ千五百萬圓ヲ限リ日本米穀株式會社ニ出資スベシ

前項ノ規定ニ依ル出資拂込金ハ米穀需給調節特別會計ノ歳出トシ該出資ニ因リ政府ノ取得シタル株式ハ同特別會計ノ所屬物件トス

政府所有ノ株式ノ株金拂込ハ其ノ他ノ株式ノ株金拂込ト之ヲ異ニスルコトヲ得

第二十五條　日本米穀株式會社ニ非ザルモノハ日本米穀株式會社又ハ之ニ類似ノ名稱ヲ以テ其ノ商號ト爲スコトヲ得ズ

第二十六條　日本米穀株式會社ニ役員トシテ理事長副理事長各一人、理事五人以上及監事三人以上ヲ置ク

理事長ハ日本米穀株式會社ヲ代表シ其ノ業務ヲ總理ス

副理事長ハ理事長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ理事長缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ

副理事長及理事ハ理事長ヲ輔佐シ定款ノ定ムル所ニ依リ日本米穀株式會社ノ業務ヲ分掌シ又ハ之ニ參與ス

監事ハ日本米穀株式會社ノ業務ヲ監査ス

第二十七條　理事長及副理事長ハ政府之ヲ命ジ其ノ任期ヲ五年トス

理事ハ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ政府ノ認可ヲ受クルモノトシ其ノ任期ヲ四年トス

監事ハ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ其ノ任期ヲ三年トス

日本米穀株式會社ヲ監督スル官廳ノ官吏タリシ者ハ其ノ職ヲ退キタル後五箇年間日本米穀株式會社ノ役員ト爲ルコトヲ得ズ但シ主務大臣ニ於テ特ニ必要アリト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十八條　理事長、副理事長及業務ヲ分掌スル理事ハ他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得ズ但シ政府ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十九條　日本米穀株式會社ハ左ノ事業ヲ營ムモノトス

一　米穀市場ノ開設

二　政府ノ委託ニ依ル米穀ノ買入又ハ賣渡

三　前二號ノ事業ニ附帶スル事業

四　其ノ他本會社ノ目的達成上必要ナル事業

日本米穀株式會社ハ前項ノ事業ノ外命令ノ定ムル所ニ依リ米穀市場ノ開設ニ附帶シ麥、大豆其ノ他ノ雜穀又ハ肥料ヲ賣買取引スル市場ヲ開設スルコトヲ得

前項ノ麥、大豆其ノ他ノ雜穀又ハ肥料ヲ賣買取引スル市場ニ於テハ其ノ賣買取引ニ付差金ノ授受ニ依リ決濟ヲ爲スコトヲ得ズ

日本米穀株式會社前第一項第三號又若ハ第四號又ハ第二項ノ事業ヲ營マントスルトキハ政府ノ認可ヲ受クベシ

日本米穀株式會社ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ事業ノ全部又ハ一部ヲ廢止シ又ハ休止スルコトヲ得ズ

第三十條　日本米穀株式會社ノ役員又ハ使用人ハ勅令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外何人ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ米穀市場ノ賣買取引ヲ爲シ又ハ其ノ委託ヲ爲スコトヲ得ズ

日本米穀株式會社ノ役員又ハ使用人ハ市場員トノ間ニ資金ノ供與、損益ノ分配其ノ他市場員ノ業務ニ付特別ノ利害關係ヲ有スルコトヲ得ズ

第三十一條　政府ハ日本米穀株式會社ノ業務ヲ監督ス

第三十二條　定款ノ變更、利益金ノ處分、社債ノ募集、合併及解散ノ決議ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第三十三條　政府ハ日本米穀株式會社監理官ヲ置キ日本米穀株式會社ノ業務ヲ監視セシム

日本米穀株式會社監理官ハ何時ニテモ日本米穀株式會社ノ金庫、帳簿及諸般ノ文書物件ヲ檢査スルコトヲ得

日本米穀株式會社監理官必要ト認ムルトキハ何時ニテモ日本米穀株式會社ニ命ジ業務ニ關スル諸般ノ計算及狀況ヲ報告セシムルコトヲ得

日本米穀株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第三十四條　日本米穀株式會社ハ每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ニ達スル迄政府ノ所有スル株式ニ對シ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ要セズ

日本米穀株式會社ノ每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超過スル場合ニ於テ政府以外ノ者ノ所有スル株式ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超エ利益配當ヲ爲サントスルトキハ其ノ超過スル利益金額ハ利益配當ガ總株式ニ付拂込ミタル株金額ニ對シ均一ノ割合ニ達スル迄政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額及政府ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ一ト四トノ割合ヲ以テ之ヲ配當スベシ

第三十五條　政府ハ日本米穀株式會社ニ對シ米穀ノ配給統制上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

政府ハ日本米穀株式會社ニ對シ其ノ業務及財産ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲サシメ、檢査ヲ爲シ其ノ他監督上必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第三十六條　政府ハ日本米穀株式會社ノ決議又ハ役員ノ行爲ガ法令、法令ニ基

キテ爲ス處分若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ決議ノ取消シ、役員ノ解任又ハ事業ノ停止若ハ禁止ヲ爲スコトヲ得

第三十七條　米穀市場ニ類似ノ施設ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十八條　米穀市場ニ類似ノ施設ニ依リ取引ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十九條　第三十條第一項ノ規定ニ違反シタル者又ハ同條第二項ノ規定ニ違反シ市場員トノ間ニ特別ノ利害關係ヲ生ズルコトヲ目的トスル行爲ヲ爲シタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條　第一條ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ米穀ノ買入若ハ賣渡又ハ其ノ代理若ハ媒介ノ業務ヲ行ヒタル者ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第三條ノ規定ニ依ル制限又ハ停止ノ處分ニ違反シタル者

二　第四條第一項又ハ第十九條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

第四十二條　第四條第二項又ハ第十九條第二項ノ規定ニ依ル檢査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條　日本米穀株式會社ノ役員又ハ使用人米穀市場ノ賣買取引又ハ政府ノ委託ニ依ル米穀ノ買入若ハ賣渡ニ關スル職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求シ若ハ約束シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サザルトキハ三年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價格ヲ追徵ス

第四十四條　前條第一項ニ揭グル者ニ賄賂ヲ交付シ又ハ之ヲ提供シ若ハ約束シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕シ又ハ免除スルコトヲ得

第四十五條　米穀市場ニ於ケル相場ノ變動ヲ圖ル目的ヲ以テ虛僞ノ風說ヲ流布シ、僞計ヲ用ヒ又ハ暴行若ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十六條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　米穀市場ニ於ケル相場ヲ僞リテ公示シタル者

二　公示若ハ頒布ノ目的ヲ以テ虛僞ノ相場ヲ記載シタル文書ヲ作成シ又ハ之ヲ頒布シタル者

第四十七條　米穀市場ニ依ラズシテ米穀市場ノ相場ニ依リ差金ノ授受ヲ目的トスル行爲ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス但シ刑法第百八十六條ノ規定ノ適用ヲ妨ゲズ

第四十八條　米穀ノ買入若ハ賣渡又ハ其ノ代理若ハ媒介ノ業務ヲ行フ者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ第四十條又ハ第四十一條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免カルルコトヲ得ズ

第四十九條　第四十條及第四十一條ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第五十條　日本米穀株式會社左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ理事長又ハ理事長ノ職務ヲ行ヒ若ハ代理スル副理事長ヲ五千圓以下ノ過料ニ處ス副理事長又ハ理事ノ分掌業務ニ係ルトキハ副理事長又ハ理事ヲ過料ニ處スルコト亦同ジ

一　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ認可ヲ受クベキ場合ニ於テ其ノ認可ヲ受ケザルトキ

二　第二十九條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依ラズシテ業務ヲ營ミタルトキ

三　第三十五條ノ規定ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタルトキ

日本米穀株式會社ノ理事長、副理事長又ハ理事第二十八條ノ規定ニ違反シタルトキハ千圓以下ノ過料ニ處ス

第五十一條　第二十五條ノ規定ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ過料ニ處ス

第五十二條　非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前二條ノ過料ニ之ヲ準用ス

附　則

第五十三條　本法施行ノ期日ハ各規定ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十四條　政府ハ設立委員ヲ命ジ日本米穀株式會社ノ設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

設立委員ハ定款ヲ作成シ政府ノ認可ヲ受ケタル後株式總數ヨリ政府ニ割當ツベキ株式ヲ控除シタル殘餘ノ株式ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ株主ヲ募集スベシ

株式申込證ニハ定款認可ノ年月日竝ニ商法第百二十六條第二項第二號、第四號及第五號ニ規定スル事項ヲ記載スベシ

設立委員ハ株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込證ヲ政府ニ提出シ其ノ檢査ヲ受クベシ

設立委員ハ前項ノ檢査ヲ受ケタル後遲滯ナク各株ニ付第一回ノ拂込ヲ爲サシムベシ

前項ノ拂込アリタルトキハ設立委員ハ

遅滯ナク創立總會ヲ招集スベシ
創立總會ニ於テハ第二十七條ノ規定ニ準ジ理事及監事ノ選任ヲ行フベシ
創立總會終結シタルトキハ設立委員ハ其ノ事務ヲ日本米穀株式會社理事長ニ引渡スベシ

第五十五條　取引所法ハ米穀ニ關シテハ之ヲ適用セズ
前項ノ規定施行前米穀ノ賣買取引ヲ爲ス取引所ニ於テ爲シタル米穀ノ賣買取引ニ付テハ仍從前ノ例ニ依リ其ノ取引ヲ結了スルコトヲ得
第一項ノ規定施行前米穀ニ關スル行爲ニシテ取引所法ノ罰則ヲ適用スベカリシモノニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第五十六條　日本米穀株式會社ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ認可ヲ受ケ米穀ヲ賣買取引スル取引所又ハ正米市場開設者ガ本法公布ノ際現ニ所有スル土地、建物其ノ他ノ設備ヲ其ノ申込ニ應ジ買取ルモノトス
日本米穀株式會社ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ認可ヲ受ケ本法公布ノ際現ニ存スル米穀ヲ賣買取引スル取引所ノ使用人及取引員ニシテ前條ノ規定施行ノ日迄引續キ其ノ業務ニ從事スルモノニ關シ必要ナル措置ヲ爲スモノトス
政府前二項ノ認可ヲ爲サントスルトキハ米穀取引事業審議委員會ノ議ヲ經ルコトヲ要ス
米穀取引事業審議委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十七條　日本米穀株式會社前條第一項ニ規定スル買取ニ基ク不動産ニ關スル權利ノ取得ニ付登記ヲ受クル場合ニ於テハ其ノ登錄税ノ額ハ不動産ノ價格ノ千分ノ三トス但シ登錄税法ニ依リ算出シタル登錄税ノ額ガ本法ニ依リ算出シタル税額ヨリ少キトキハ其ノ税額ニ依ル
北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ日本米穀株式會社ニ對シ前條第一項ニ規定スル買取ニ基ク不動産ニ關スル權利ノ取得ニ關シ地方税ヲ課スルコトヲ得ズ

第五十八條　第二十五條ノ規定施行ノ際現ニ日本米穀株式會社又ハ之ニ類似ノ名稱ヲ以テ商號ト爲ス會社ハ同條ノ規定施行後六月以内ニ其ノ商號ヲ變更スルコトヲ要ス
第五十一條ノ規定ハ前項ノ期間内之ヲ前項ニ掲グル者ニ適用セズ

第五十九條　昭和十四年四月一日現ニ第一條　第一條ノ規定施行ノ際現ニ同條ノ許可ヲ受クベキ米穀ノ買入若ハ賣渡又ハ其ノ代理若ハ媒介ノ業務ヲ行フ者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ同條ノ規定施行ノ日ヨリ之ヲ同條ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

第六十條　取引所税法中第二十一條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ
第二十一條ノ二　日本米穀株式會社ノ米穀市場ニ於ケル賣買取引ニシテ差金ノ授受ニ依リテ決濟ヲ爲シ得ルモノニ付テハ命令ヲ以テ定ムル賣買取引ヲ除クノ外日本米穀株式會社及其ノ米穀市場ヲ取引所、其ノ市場員ヲ取引員ト看做シ本法中取引税ニ關スル規定ヲ適用ス此ノ場合ニ於テハ第五條第一項ノ規定ニ拘ラズ賣買各約定金高ニ對シ萬分ノ一・二五ノ税率ニ依ル
米穀配給統制法第十六條ノ規定ニ違反シタル行爲アリタルトキハ第十七條ノ例ニ依ル
日本米穀株式會社ノ米穀市場ニ於ケル賣買取引ニシテ第一項ニ規定スル賣買取引ニ該當セザルモノニ付差金ノ授受ニ依リテ決濟ヲ爲シタルトキハ第十七條ノ二ノ例ニ依ル

（國務大臣櫻内幸雄君演壇ニ登ル）

○國務大臣（櫻内幸雄君）　只今議題トナリマシタ米穀配給統制法案ニ付テ、提出理由ヲ御説明致シマス、申上グル迄モナク米ハ我ガ國民ノ主要食糧デアリマシテ、此ノ米穀ノ生産及供給ヲ確保シ、且其ノ價格ノ適正ヲ期シマスコトハ最モ必要ナルコトデアリマスガ、特ニ現下ノ時局ニ鑑ミ、長期持久ノ事變下ニ於テ、國民ヲシテ主要食糧ニ毫モ不安ナカラシメマスコトハ、即チ各般ニ亙ル國家活動ノ基礎ヲ固ウスル所以デアリマスト共ニ、出征將士ヲシテ後顧ノ憂ナカラシメ、且銃後國民ノ生活安定上絶對ニ必要ナル事柄デアリマス、固ヨリ政府ト致シマシテハ米穀ノ生産、維持、需給ノ均衡ニ付キマシテハ最善ノ努力ヲ拂ヒ、又米價ノ適正ニ付キマシテモ、米穀統制法ノ運用等ニ依リ、萬遺憾ナキヲ期シテ居ル次第デアリマス、幸ヒ事變勃發以來一年有半ヲ經タル今日、國民ハ食糧ニ聊カノ不安モナク、一途長期建設ニ邁進スルコトヲ得マスルハ、一ニ國土ノ恩惠デアリマスト共ニ、我ガ農山漁村ノ大ナル努力ニ依ルモノデアリマシテ、誠ニ感謝ニ堪ヘヌ所デアリマス、併シナガラ若シ萬一天候其ノ他ノ關係ヨリ、現在ノ米穀事情ニ急激ナ變動ヲ來スガ如キ事情ノ起リマシタ場合ヲ想像致シマスナラバ、今日ニ於テ豫メ之ニ對應スル爲、適切ナル方策ヲ講ジテ置キマスコトハ、極メテ肝要ノ事ト確信スルノデアリマス、從ヒマシテ政府ニ於テハ此ノ問題ノ重要性ニ鑑ミマシテ、本年以降ニ於ケル米穀ノ生産ニ關シテ、一面ニ於テ必要ナル增産計畫ヲ考慮致シテ居ルノデアリマスガ、殊ニ配給ノ問題ニ關シマシテハ、米穀需給ノ圓滑、價格ノ適正ヲ圖ル上ニ於テ、米穀配給統制ノ必要アリト認ムルノデアリマス、即チ平戰時ヲ通ジ、特ニ戰時經濟下ニ於テ、米穀ノ需給ノ調整及價格政策ノ萬全ヲ期シ、一朝米穀事情ノ急激ナル變動ニ際會致シマシタ場合ニ於テモ、國民生活ニ脅威ヲ與フルガ如キコトノ絶對ニナキヤウ、豫メ十分ナル準備ヲ致シテ置クコトノ必要ヲ痛感スルノデアリマス、然ルニ現在ノ米穀取引事情ヲ見マスルニ、

配給機構ニ遺憾ノ點ガ少クナイノデアリマシテ、殊ニ現在ノ米穀取引所ニ於キマシテハ、極メテ自由ナル投機取引ヲ行ヒツヽアリマス關係上、米穀事情其ノ他經濟事情ノ變化ニ依リマシテハ、假需要ノ誘發、價格ノ激動等、米穀ノ圓滑ナル配給、適正ナル價格ノ維持ニ重大ナル支障ヲ來シ、米穀政策ノ徹底ヲ期シ難キ事態ノ生ズル虞ナシトシナイノデアリマス、依ッテ以上ノ事情ヲ綜合シテ考ヘマスル時、此ノ際速カニ取引機構ノ改革ヲ致シマシテ、投機取引ヲ抑制シ、實需ニ基ク正米取引ヲ原則トスル機構ニ改メルト共ニ、是ト竝行シテ米穀ノ取扱ヲ爲ス者ノ許可制度ヲ實施スル等、米穀配給機構ニ必要ナル體制ヲ整ヘルコトガ焦眉ノ急務ト存ズルノデアリマス、即チ右ノ趣旨ニ基キマシテ、此ノ度本法案ヲ制定致シマシタ次第デアリマスガ、今本案ノ主ナル内容ニ付テ申上ゲマスレバ、第一ハ米穀ノ需給ヲ統合シ、之ガ適正ナル價格ヲ構成スル爲ニ、從來ノ米穀取引所ヲ廢止シ、新タニ日本米穀株式會社ヲ設立シ、全國必要ナル場所ニ正米取引ヲ主トスル市場ヲ開設セシメ、一定ノ規準ノ下ニ取引ヲ爲サシムルコトデアリマス、第二ハ米穀ノ取扱業者ノ安定ヲ圖リ、且必要アル場合政府ノ配給統制ニ協力セシムル爲、新タニ是等ノ者ニ對シ許可制ヲ設クルコトデアリマス、第三ハ、政府ハ必要アル場合ニ於テ、米穀ノ取扱業者ニ對シ賣買讓渡使用等ニ關シ、米穀ノ配給統制上必要ナル命令ヲ爲シ得ルコトト致シタノデアリマス、以上ハ本法案提出理由ノ概略デアリマス、何卒愼重御審議ノ上御協賛アラムコトヲ希望致シマス

○議長（伯爵松平賴壽君）　質疑ノ通告ガゴザイマス、御許シ致シマス、子爵大河内輝耕君

○子爵大河内輝耕君　最初ノハ簡單デゴザイマスカラ、此ノ席カラ申上ゲマス

○議長（伯爵松平賴壽君）　宜シウゴザイマス

○子爵大河内輝耕君　此ノ年度ニ於キマシテ、農林省ニ於テハ米穀ノ增産ヲ圖ラル、ト云フコトニ承ッテ居リマスガ、ソレハドウ云フ御計畫デゴザイマセウカ、大體デ宜シウゴザイマスカラ、内地、朝鮮、臺灣ニ付テ簡單ニ御説明ヲ願ヒタイ

（國務大臣櫻内幸雄君演壇ニ登ル）

○國務大臣（櫻内幸雄君）　御答ヘ致シマス、本年度增産計畫ハ内地ニ於キマシテ四百萬石增産致シタイト思ヒマス、朝鮮ニ於テハ從來七十萬石ノ增産ヲ御願ヒシテ居ルノデアリマスガ、更ニ五十萬石ヲ追加致シテ增産ヲシテ戴キタイト思ッテ居リマス、臺灣ニハ既定計畫ノ以外、此ノ度更ニ五十萬石增産ヲシテ戴キタイト、斯樣ニ考ヘテ居ル次第デアリマス

（子爵大河内輝耕君演壇ニ登ル）

○子爵大河内輝耕君　只今農林大臣ヨリノ御答ニ依リマスルト云フト、增産計畫ヲサレルト云フコトデアリマス、是ハ今日ノ時局ニ取ッテ當然ノ政策ト存ジマス、唯私ガ不思議ニ堪ヘナイノハ、或地方ニ於キマシテ之ニ反對スル政策ガ執ラレツ、アルコト、農民ノ收入ガ減レバ、外ノ條件ガ同ジダトスレバ玆ニ必ズ減産ガ來ルコトハ當然、ソレデ增産ヲサセヨウトスレバ壓力ヲ加ヘルコトトナル、ドウモサウ云フ建前ニナラウト思フ、此ノ點ハ外ノ委員會ニ於キマシテ……私ハ特ニ此處デ申上タイノハ、ドウカ此ノ問題ハ此ノ議場デ質問ヲスルノモ時ヲ得マセヌ、外ニ委員會モ開會中ノコトデアリマスカラ、ドウカ此ノ增産トノ關係ニ付キマシテ十分我々ガ納得ガ行クヤウニ御審査ヲ願ヒタイト此處デ希望致シマス

次ニ伺ヒタイコトハ取引所ノ關係、取引所ガ之ガ爲ニ非常ナ損害ヲ受ケヤシナイカト云フコトヲ憂ヒラレテ、ソレデ段々實際ノ狀況ヲ見マスト云フト、是ガドウ云フコトニナリマスルカ、取引所ハ之ニ依ッテ米穀ヲ取扱フコトガ出來ナイ所モ出來ルシ、又解散モシナケレバナラヌコトモアル、ソレニ對スル賠償金ガ取レナイト云フコトニナリマス、サウ云フコトニナリマスト、餘程是ハヒドイ打撃ヲ受ケヨウト思ヒマスガ、其ノ點如何デアリマセウカ、或ハ取引所ノ資産ノ狀態ナドデ十分ニ、少クモ假令帳簿價格ノ上トハ云ヘ、株金ノ額面ヲ「カヴアー」スルコトガ出來ルト云フヤウナコトデアレバ、今度新シイ會社ニ對シテ優先ノ拂込ヲスルコトガ出來ル權利ヲ持ッテ居リマスノデスカラ、餘程損失ヲ輕減サレヨウ、或ハ場合ニ依ッテ損失ナシニ濟ムヤウナ場合モアラウカト存ジマスガ、其ノ邊ノ關係ハ如何デアリマセウカ、取引所ノ一ツ一ツニ付テ伺フノモ如何デアリマスガ、東京ト大阪ノ取引所ノ狀態ニ付キマシテ、ドウ云フ風ナ狀態ニナリマスカ、ソレヲ例トシテ大體ノ御説明ヲ願ヒタイ、次ニ伺ヒタイノハ産業組合ノ建前デアリマス、之ガ市場員ニナッテ居リマス爲ニ、一部ニ於テ非常ナ脅威ヲ感ジテ居ルコトハ事實デアリマス、此ノ點ハ私ハ素人デ一向分リマセヌ、ドウカ一般ニ安心ガ出來マスルヤウニ、決シテ是ガ斯ウ云フ建前ニナッテ居ッテモ、外ノ者ハ安心シテ可ナリト云フコトヲ一ツ御説明願ヒタイ、即チ市場員ニナッテ居ッテモ、商人ノ側ニ於テハ安心シテ其ノ業務ニ從事スルコトガ出來ル、サウ云フ建前デアルト云フコトヲ伺ヘバ宜イ、是ハ決シテ農林省ノ政策ダトカ希望ダトカ云フコトヲ伺フノデハナイ、法ノ建前ヲ伺フノデアリマスカラ、其ノ御積リデ御答ヲ願ヒタイ、尙伺ヒタイコトモアリマスガ、ソレヲ伺ッタ上ニ致シマス

（國務大臣櫻内幸雄君演壇ニ登ル）

○國務大臣（櫻内幸雄君）　大河内子爵ノ御質疑ニ對シテ御答ヘ致シマス、本案施行ノ結果ハ、取引所ガ廢止セラル、ノデアルガ、取引所ガ非常ノ損害ヲ被ルノデハナイカ、斯樣ナ御話デアリマス、固ヨリ取引所ノ内容等ニ付キマシテ一樣ニハ參ラナイノデアリマスケレドモ、只今御話ノ東京米穀取引所竝ニ大阪ノ例ニ付テ申述ベヨト云フ御話デアリ

マスカラ、之ヲ申上ゲタイト思ヒマス、東京ノ米穀取引所ノ拂込金ハ、十三年度ニ於テ五百三十七萬五千圓程デアリマス、此ノ以外ニ負債勘定ト致シマシテハ、積立金其ノ他ガ多少ゴザイマス、併シナガラ其ノ資産ノ合計ハ帳簿價格ニ依リマスルト云フト、九百萬圓ヲ越シテ居リマス、其ノ中デ有價證券ガ二百八十餘萬圓、銀行信託預金等ガ約百五十萬圓、不動産ガ二百二十何萬圓、其ノ他ノ財産ガ二百四十六萬圓程アルコトニナッテ居リマス、デ是等ノ中、有價證券、銀行信託預金等ハ當然金トナルノデアリマスルガ故ニ、若シ整理セラレル場合ニ於テハ、是ハ直チニ株主ニ配當セラレルコトト相成リマス、從ヒマシテ是等ノ金ハ直チニ今回ノ米穀會社ノ拂込金ニ代ハルコトモ出來ルノデアリマス、不動産ニ付キマシテハ、建物其ノ他ニ付キマシテハ、適正ナ價格ニ依リマシテ新會社ガ引受ケルコトニナルノデアリマシテ、其ノ價格ノ評定ハソレ〳〵各方面カラ出ラレタ委員會ノ決定ニ依ッテ公平ニ定メラレルノデアリマシテ、是亦相當ナ價格ニ相成ルト思ヒマス、從ヒマシテ此ノ取引所ガ非常ナ損害ヲ被ッテドウ斯ウト云フ風ナ事態ハ起サナイト思ヒマス、現在市場ニアリマス此ノ會社ノ株券ノ、株式ノ市價ト雖モ、恐ラク是ハ下ルコトナクシテ、相當ナル市價以上ノ金ガ株主ニ分配サレルカ、若シクハ本會社ノ株券ガ分配サルルコトト相成ルト考ヘテ居リマス、大阪ハ拂込資本金ガ四百七十五萬圓デアリマシテ、ソレニ對シテ其ノ外ニ固ヨリ積立金、其ノ他ノ負債勘定ガアリマスガ、資産ノ方ハ不動産ガ三百五十八萬九千圓程アリマシテ、有價證券ガ百三十三萬圓、銀行信託預金ガ百六十八萬圓、其ノ他ガ百五十九萬圓程デアリマス、是亦相當ナル會社ノ内容デアリマシテ、少シモ私ハ不安ガナイノデアリマシテ、東京米穀取引所ト同ジヤウナ結果ニ相成ラウト考ヘマス、其ノ他各所ノ取引所ニ付テ見マシテモ、平素カラ政府監督ノ下ニアリマス結果ト致シマシテ、營業成績ノ十分デナイモノニ付キマシテモ、尙相當ナル財産ヲ所有シテ居リマシテ、是ガ本法案決定施行ノ際ニ、株主ガ非常ナル損害ヲ被ルトカ云フヤウナコトハ毫末モナイト、斯樣ニ考ヘテ居リマス、恐ラク現在ノ株式市場ニ於ケル市價ヨリハ多少ナリトモ、多少ハ分リマセヌガ、多クナルノデハナカラウカト想像シテ居ルヤウナ譯デゴザイマス、ソレカラ產業組合ガ市場員トナル結果、米穀取引所ガ不安ヲ懷イテ居ルヤウデアルガ、此ノ點ニ付テドウデアルカト云フ御質疑デアッタト思ヒマス、御承知ノ通リ產業組合ノ販賣組合ハ、農村各個々ノ米ノ委託ヲ受ケテ市場ニ販賣スル任務ヲ持ッテ居ルノデアリマス、卽チ一人々々デ所有スル米ヲ賣ルコトヲ致サズシテ、各村ニ於テ有志ノ者ガ此ノ組合員ニナリマシテ、其ノ米ヲ纒メテ賣ルト、其ノ販賣組合ガ委託ヲ受ケテ賣ルト云フコトニナッテ居ルノデアリマシテ、今日現在日本ノ生產額ノ相當ノ數量ヲ此ノ組合ニ於テ取扱ッテ居リマス、而シテ此ノ販賣組合ハ市中ニ於テモ賣ッテ居リマスガ、同時ニ市場ノ方ニモ賣リ、又米穀取扱業者ニモ販賣致シテ居ルノデアリマス、デ今日ハ取引所ノ所員、取引仲買人若シクハ米穀市場員ニハナッテ居リマセヌケレドモ、此ノ方面ニモ或數量ヲ賣ッテ居ルノデアリマス、卽チ仲買人及取扱業者ノ手ヲ經テ市場ニ賣リ得ルノデアリマス、從ヒマシテ此ノ度此ノ機構ヲ改正シテ組織ヲ改メマシタ結果、是ガ市場員ニナリマシテモ、從來仲買人若シクハ米穀取扱商人ノ手ヲ經テ賣ッタノト何等違フ所ハナイノデアッテ、唯一人ノ仲介業者ガ減ッテ、直接ニ其ノ市場ニ於テ賣リ得ルト云フダケノ違ガアルノデアリマス、從ヒマシテ多少農民ト致シマシテハ之ニ依ッテ便利ヲ得ルコトハ當然デアリマス、デ此ノ打擊ガ米穀取扱業者ニ如何ナル程度ニ於テ與ヘルカ、斯ウ云フコトニ付キマシテ世間議論ヲ致ス人ガアリマスガ、私共之ニ付キマシテハ左樣ナル影響ハナイト考ヘマス、何故ナラバ從來ハ取引所ト云フモノト、正米市場ト二ツノ市場デ取扱ッテ居リマシタノヲ、此ノ度ハ一ツノ市場ニ併セマス、卽チ市場ガ單一化スル譯デアリマス、サウシテ從來取引所ニ於テ、清算市場ニ於テ取引シテ居ッタモノモ、此ノ市場ニ於テ實米ヲ賣買スルコトニナリマスガ故ニ、此ノ點ニ付キマシテハ大イニ此ノ市場性ト云フモノガ擴大サレルノデアリマス、殊ニ荷受或ハ其ノ他ニ付キマシテ、此ノ會社ガ市場員ニ對シテ非常ニ便益ヲ與ヘルヤウナ方法ヲ講ジテアリマスガ故ニ、勢ヒ此ノ市場ニ集中スル米ガ多數ニ上ッテ參リマス、況ヤ若シ臺灣米ヲ取扱ヒマストカ、朝鮮米ヲ取扱ヒマスコトニナリマスレバ、是等ノ米モ亦市場ニ集ッテ來マシテ、是等ノ米穀取扱業者ノ手ヲ煩ハスコトニナルノデアリマスカラ、數量ハ殖エテ參リマス、殊ニ現在ノ米穀取扱業者ノ諸君ハ、產業組合ノ販賣組合ガ全國ニ於テ取扱ッテ居ル數量ノ數倍ト云フモノノ多額ヲ、各地方カラ集メル機構ヲ御持チニナッテ居ルノデアリマシテ、其ノ機構ハ少シモ變ハラナイノデアリマスガ故ニ、矢張リ從來通リ集荷サレルノデアリマシテ、少シモ不便ガナイト思ヒマス、要シマスルノニ、此ノ市場ガ出來マシテ雙方兩々相俟ッテ參リマスルナラバ、恐ラク却テ成績ニハ好イヤウナ結果ヲ持チ來タラスノデハナカラウカ、斯樣ニ考ヘテ居ルヤウナ次第デアリマス、一應御答ヘ致シマス

（子爵大河內輝耕君演壇ニ登ル）

○子爵大河內輝耕君　產業組合ガ重大デアルト云フコトハ何人モ認メル所デアリマス、殊ニ又產業組合ガナケレバ農民ノ利益ヲ保護ハ出來ナイ、公正ナ價格デ販賣ガ出來ナイト云フコトハ是ハ何人モ認メル所デゴザイマス、併シナガラ此ノ特權ヲ產業組合ガ濫用致シマシテ、外ノヤラナクテモ宜イヤウナ所ヘ入リ込ンデ來ルト云フコトニナレバ、是ハドウシテモ防止致サナケレバナラナイ、ドウモ此ノ市場員ニナリマスト云フコトニ付テハ私ハ多大ノ疑ヲ持ッテ居ル、之ニ付キマシテハ何トカ善處サレル必要ガアリハシナイカ、勿論櫻內大臣ノ御方針ハ總親和ト云フコトヲ能ク承知シテ居ル、御在職中ハ變ナコトハナイダラウト云フコトハ考ヘテ居リマス、併シドンナ當局ガ又舞込ンデ來ナイトモ限ラヌ、サウ云フ場合ニ斯ウ云フ建前ニシテ置クコトニナレバ、結局米穀商ト云フ者ハジリ〳〵地位ヲ失ッテ來テ、無クナッテシマフ、私ハ何モ米穀商ノ保護ヲ言ッテ居ル譯デハアリマセヌケレドモ、米穀商ト云フモノハ配給ノ一ツノ貯水池デアル、是ガアリマセヌケレバ圓滿ナル配給ガ出來ナイ、直チニ生產者カラ直接ニ消費者ガ買ッタラ宜イヂヤナイカト云フ議論ガ能クアリマスケレドモ、是ハ矢張リ水道ニ貯水池ガ必要ナノト同ジコトデアル、ドウシテモ貯水池ヲ安全ニシテ置キマセヌト洪水ニナッタリ、斷水ニナッタリ致シマス、官業ノ配給ガウマク行カナイノハソレデアル、ドウシテモ立派ナ貯水池ガナケレバイケマセヌガ、只今ノ此ノ法ノ建前デハ、ソレハ運用宜シキヲ得レバ無論宜シウゴザイマセウ、宜シウゴザイマセウガ市場員ニ入ッテ居ルト云フコトニナリマスト云フト、ソコノ點ハ濫用スレバ、米穀商ナント云フ者ハ何モ立ッテ行カナイ、片方ハ特權ヲ持ッテ振廻シテ掛カル、稅モ何モナイ、一方ハ重イ稅ヲ背負ッテ居ル、稅ハ何處迄加重サレルカ分ラナイ、ソレヲ素手デ鬪ヘト言ッテモ出來ルモノデナイ、結局只今ノ配給機關ト云フモノハ滅茶々々ニ壞サレルト云フコトニ最後ハナル、ドウモサウ言ハザルヲ得ナイ、ソレト產業組合ノ問題ハ是バカリデハゴザイマスマイ、色々ナコトモゴザイマセウ、ソレデ私ハ此處デ農林大臣、商工大臣ニ御質問ヲ致シタイ、寧ロ斯ウ云フヤウナ場合ハ、斯ウ云フコトヲ言ッテ居ル人ガアル、產業組合ハ產業組合デ宜シイガ、米穀商ノ方ハ米穀商ノ方デ一ツノ組合ヲ作ッタラドウカ、サウシテ兩々手ヲ相携ヘテ公正ナリト信ズル所ノ價格ニ依ッテ、產業組合ガ商業組合ニ讓渡シ、サウシテ其ノ商業組合ガ市場員ニナルナリ、或ハ問屋ニ賣ルナリシタナラバ、ソレデ兩方行キハシナイカ、一方ハ農民ノ保護ニナリ、一方ハ商人ノ保護ニナル、サウシテ無論總親和デ行ク、又萬一對立シタヤウナ場合モ何方モ、兩方トモ團結デスカラ、片方ガ壓迫ヲ受ケルト云フコトハナイ、特權モ兩方同ジヤウニシテ置イタヲ宜イト云フヤウナコトヲ言ハレテ居ル御方モアル、兎ニ角此ノ問題ニ付キマシテハ、事極メテ愼重ナ調査ヲ要スルノデゴザイマスカラ、何等カ御解決ノ途ガナケレバナルマイト思フ、此ノ點ニ付キマシテ農林大臣ト商工大臣ニ、ドウ云フ風ナ善後策ヲ執ラルヽカ御意見ヲ伺ヒタイ

（國務大臣櫻內幸雄君演壇ニ登ル）

○國務大臣（櫻內幸雄君）　販賣組合ガ市場員ニナルコトニ付キマシテ、御心配デアルヤウニ伺フノデアリマスガ、見方ニ依リマシテ色々ナ議論モ立タウト考ヘマス、併シ今御話ノ如ク販賣組合ガ市場員ニナリマシテモ、ソレハ普通ノ市場員トハ異リマシテ、販賣組合ノ市場員ハ賣リ一方デアッテ、買フコトハ市場ニ於テ出來ナイノデアリマス、卽チ特別ナル取扱ヲ致シテ居ルノデアリマス、又米穀小賣商組合、商業組合、斯ウ云フ方々ガ市場員ニナラレマシタ場合ニハ是ハ買ヒ一方デアリマス、卽チ消費者ノ方ニ直接當ル方ハ買ヒ一方、生產者カラ持出ス方ハ賣リ一方デアリマス、而シテ米穀取扱業者ハ其ノ間ニ於テ賣ルコトモ買フコトモ自由ニ操作ガ出來ルノデアリマス、デ一見致シマスレバ茲ニ大キナ生產者ガアッテ市場ヘ持ッテ來ル、又買フ方ハ聯合シテ買フ、此ノ二ツダケデ宜イヂヤナイカト云フ議論モ相當起ルノデアリマス、併シナガラ實際問題トシテハ是ハ單純ニハ參リマセヌ、如何ナル場合ニ於テモ仲介ト云フモノガ成立ツノデアリマス、ドウ云フ商賣、ドウ云フ工業、ドウ云フ事業ニ於キマシテモ中間ノ商人ガアリマシテ、調節スル役目ヲ勤メテ居ルモノデアリマス、卽チ賣手ト買手トノ間ニ立ッテ、而モ從來全國ノ移動米ノ七割モ八割モ取扱ッテ居ッタ米穀取扱業者ガ、今迄ノ消化機構卽チ米ヲ集メル機構竝ニ連絡關係、之ヲ利用致シマシテ、サウシテ自分デモ米ヲ集メル力ヲ持ッテ居リ、又自分モ米ヲ賣捌ク力ヲ持ッテ居ル、而シテ販賣組合、商業組合、其ノ間ニ立チマシテ市場ノ調節ヲ圖ルト云フコトニ相成リマスルノデ、私ハ茲ニ此ノ三ツガ抱合ッテ、眞ニ立派ナ市場ガ成立ツモノト考ヘルノデアリマス、今最後ニ御話ノ、米穀取扱業者ガ商業組合ヲ拵ヘテ之ニ加入シタラ一番宜イデハナイカト云フ御話デアリマスガ、誠ニ御尤デアリマス、恐ラクサウ云フコトモ起ルデアリマセウ、今日卸賣商同業組合トカ、色々ナ組合ガ出來テ居リマス、斯ウ云フ組合ノ人ガ、卸賣業者ノ組合ヲ拵ヘテ加入スルト云フコトモ有リ得ルト思ヒマス、要スルニ賣ト買トバカリデハ、世ノ中ノコトハナカ〳〵成立タヌモノデアリマシテ、其ノ中ニ仲介ヲ爲スノガ卽チ商人ノ本務デアリマシテ、此ノ三ツノモノヲ纒メテ相互ニ協力シ調和ヲシテ、市場ノ發展ヲ致シ、以テ此ノ米穀政策ニ協力ヲ煩ハシタイト思フノガ本案ノ趣旨デゴザイマス、一應御答辯申上ゲマス

（國務大臣八田嘉明君演壇ニ登ル）

○國務大臣（八田嘉明君）　只今ノ大河內子爵ノ御尋ニ付キマシテ、商工省トシテノ意見ヲ申上ゲタイト存ジマス、卽チ米穀商ト產業組合ノ團體トノ市場員タル關係ニ於キマシテ、色々ノ不便ガ起ルノデハナイカト云フコトニ付テ御尋デアリマスガ、此ノ點ニ付キマシテハ只今農林大臣ヨリ縷々御答ガアリマシタ通リデアリマス、御話ノ如ク生產者團體ノ一部ガ市場員トナルヤウナコトニ付キマシテ、或場合ニハ全然米穀商ニ影響スル所ナシト云フコトハ、必ズシモ斷言出來ナイト云フコトガ有リ得ルカモ知レヌト云フ御說ニ付キマシテ、私ハ能ク其ノ點ヲ拜

總致ス次第デアリマスルガ、此ノ點ニ付キマシテハ只今モ農林大臣ヨリ御述ニナリマシタル通リ、此ノ法案ノ條項ニ依リマシテ、相當取扱ノ數量等ニ付キマシテモ、或制限等モ行ヒ得ルノデアリマシテ、此ノ兩者ノ間ニ出來ルダケ摩擦ノナイヤウニ、萬全ノ策ヲ講ジタイト考ヘテ居ル次第デアリマス、其ノ他ノ點ニ付キマシテハ全ク農林大臣ヨリ御答ノアリマシタル通リデアリマシテ、私モ總テ是等ノ團體ガソレ〲相協調致シマシテ、各〻其ノ本分ニ付テ、其ノ效果ヲ發揮致シマスルト共ニ、我ガ國ノ米穀統制ノ問題ニ付キマシテ、十分ナル協調ヲ惜マナイモノデアルト信ジテ居ルノデアリマス、御尋ノ中ニ、米穀業者ヲシテ組合ノ方法ニ依ッテ、今後米穀ノ統制ニ對シテ之ヲ活動サセルト云フコトニ付テハ、ドウ考ヘテ居ルカト云フヤウナ意味ノ御尋ガアッタノデアリマスルガ、申上ゲル迄モナク此ノ法案ハ米穀ノ配給統制ヲ目標ト致シテ居リ、其ノ取扱ヲ米穀市場ニ主トシテ集中致シテ居ルノデアリマスガ、一方ニ於キマシテハ米穀取扱業者ニ許可制ヲ實施致シマスルノデ、必要ニ應ジマシテハ之ニ又統制命令ヲナスコトガ出來ルヤウナ次第デアルコトハ御承知ノ通リデアリマス、併シナガラ此ノ法案竝ニ米穀會社ダケデ此ノ配給統制ノ目的ヲ完全ニ遂行スルト云フコトハ、ナカ〱ムツカシイト考ヘルノデアリマス、申上ゲル迄モナク既ニ發動サレテ居リマスル所ノ米穀統制法、或ハ又米穀自治管理法ト云フヤウナモノニ付キマシテ、十分之ガ運用ヲ期シマスルト共ニ、一方ニ於キマシテハ只今御指摘ニナリマシタル米穀取扱業者ノ團體、即チ組合ノ組織ニ依リマシテ之ガ運用ノ完璧ヲ期スルコトガ、誠ニ必要デアルト考ヘルノデアリマス、御承知ノ通リ既ニ商工省ニ於キマシテハ、米穀業者ヲシテ組合ヲ結成セシメラレマシテ、今日其ノ數ハ約五百ニ上ッテ居ルノデアリマス、今後此ノ點ニ付キマシテハ一層組合組織化ヲ强化、擴充致シマシテ、全國ニ亙リマシテ米穀商ノ團體組織化ヲ强化致シマスルト共ニ、其ノ運用ニ依リマシテ本法ノ完璧ヲ期シタイト考ヘテ居ル次第デアリマス、一應此ノ點ヲ御答ヘ申上ゲマス

（子爵大河内輝耕君演壇ニ登ル）

○子爵大河内輝耕君　兩大臣ノ御説明ニ依リマシテ、政府ノ御意見ノアル所ハ能ク分リマシタ、至ッテ穩健ナ御意見デアルト存ジマス、相剋摩擦ヲ避ケラレテ、穩健ナ方法ヲ以テ之ヲ運用シテ行カウ、斯ウ云フコトナンデス、私誤解ガアルトイケマセヌカラ申上ゲテ置キマスガ、私ガ申上ゲタノハ私ノ確信デハゴザイマセヌ、確信デハゴザイマセヌガ、生産組合ガ市場ヘ進出スルコトハ良クナイカラ、是ハ商業組合ノ方ヘ讓ッタラ宜カラウ、併シ兩組合ハ能ク協調シテ、サウシテ農民ノ利益モ十分ニ保護スルヤウナ方法ヲ執ッタラ宜カラウ、斯ウ云フコトヲ申シテ居ル、併シソレニ付テハ御答ハ要求致シマセヌ、唯伺ヒタイノハ、斯ウ云フコトヲ世間デ伺ッテ居ル、只今御答ガナカッタカラ御尋ネ致スノデスガ、議會デモ濟ミマスト、委員會デモ出來テ、其ノ問題ヲ十分根本的ニ審議サレルト云フ　コトヲ承ッテ居ル、サウ云フコトデアルカドウカト云フコトト、又サウ云フ場合ニ付キマシテハ、其ノ人選ノ如キハ最モ公平ナ方法ヲ要スル、此ノ點ニ付テハ十分ニ御配慮ヲ願ヒタイ、サウ云フ御腹案デモアッタラ御示シヲ願ヒタイ、今ノ問題ハ農林大臣カラ御答ヘ下スッテモ、商工大臣カラ御答ヘ下スッテモ、ドチラデモ宜シウゴザイマス、次ニ農林大臣ニ伺ヒタイノハ、誠ニ農林大臣ノ御考ハ穩當デアッテ、サウナケレバナラナイ、併シ是ガ産業組合ノ當事者ニ徹底シテ居ルカト云フト、徹底シテ居ラナイ、或産業組合ノ首腦者ノ如キハ、産業組合ハ社會ノ基礎ニナルノダト云フヤウナコトヲ、此ノ間「ラヂオ」デ放送シテ居ル、是レナドハ産業組合デ全國ヲ支配シヨウト云フ考ナノデアル、飛ンデモナイ間違デアル、産業組合ハ産業組合トシテ强化シナケレバナラヌ、基礎ハ固クナケレバナラヌ、勿論ノコトデアル、併シ社會ノ基礎ニナルナドハ餘計ナコトデアル、經濟團體トシテ其ノ本分ヲ全ウシテ居レバソレデ宜イ話デアル、斯ウ云フ風ナ考ガアルト云フコトハ、誠ニ農林大臣ノ今ノ御考ガ徹底シナイ結果ナノデアル、ソレデ一朝ニシテ之ヲ變ヘルト云フコトモムヅカシイデハアリマセウガ、是ガ病源ノ一ツデアル以上、多少産業組合ノ人事ノ上ニ對シテ、農林大臣ガ一考ヲ要セラレル必要ガアリハシナイカ、此ノ尊重スベキ産業組合ガ、何故ニ反産運動ナドヲ惹キ起シタカト云フコトハ、人其ノ人ヲ得ザル爲デアル、此ノ點ニ付テ農林大臣ハドウ云フ風ニ御考ニナルカ、産業組合ノ健全ナル發達ト、又社會ニ於ケル相剋摩擦ヲ避ケルノ目的ヲ以テ、私ハ質問致スノデアリマス

（國務大臣櫻内幸雄君演壇ニ登ル）

○國務大臣（櫻内幸雄君）　御質問ノ第一點ハ、産業組合竝ニ米穀取扱業者其ノ他ノ關係ニ付テ、根本的ニ此ノ問題ヲ解決スル爲ニ、委員會デモ組織シテヤル考ガアルカドウデアルカト云フ御話デアリマシタガ、此ノ問題ニ付キマシテハ、世間ニ於テ産業組合ノ發達助成ヲ叫バレル聲、或ハ反産運動ノ聲、種々ナル聲モ聞キマスノデ、此ノ點モ考究ヲ致サナケレバナリマセヌケレドモ、是ト同時ニ中小農業者、中小商工業者、是等ノ人々ヲ相一貫シテ、其ノ生活ノ安定或ハ其ノ隆昌ヲ圖リ、若シ摩擦相剋ノ如キコトガアレバ、之ヲ排除致サナケレバナラヌト云フコトハ、今日十分注意致サナケレバナラヌ問題デアリマスガ故ニ、此ノ見地ニ立チマシテ、調査會ヲ設ケマシテ其ノ問題ノ根本的解決ニ對シテ盡力ヲ致シタイト云フ考ハ持ッテ居リマス、併シマダ具體的ニ話合ガ濟ンデ居リマセヌノデ、此ノ席ニ於テ斯ウ云フ風ナ組織ニ依ッテ進ムト云フコトヲ申上ゲルコトノ出來ナイノヲ遺憾ト致シマス、次ニ産業組合ガ殆ド國家ヲ指導スルガ如キ立場ノヤウナコトヲ世間ニ放言ヲシテ居ルガ、其ノ産業組合ヲ管理スル人ノ人事ニ付テ相當ナ監督ヲ致スベキ筈デアルガ、農林大臣ハ其ノ點ニ付テ何ト考ヘルカ、斯樣ナ御話デアリマス、御承知ノ通リ日本ノ産業組合ハ最早四十年ノ長キニ亙ッテ農村ノ爲ニ非常ニ努力致シテ居リマシテ、相當貢獻ヲ致シテ居ルノデアリマス、私ハ衷心カラ其ノ圓滿穩健ナル發達ヲ希望致ス一人デアリマス、併シナガラ若シ此ノ産業組合ノ本旨ヲ離レテ、或ハ政治問題或ハ其ノ他ノ問題ニ足ヲ踏ミ入レテ、以テ本旨ヲ誤ルガ如キコトガアリマシテハ、是ハ容易ナラザルコトデアリマスルガ故ニ、此ノ點ニ付キマシテハ十分ニ注意ヲ致ス考デアリマス、又其ノ人事ノ問題ニ付キマシテモ、私ハ出來ル限リ公正ナル立場ニ於テ其ノ指導ヲ致シテ行キタイ、斯樣ニ信ジテ居ル次第デアリマスカラシテ、之ヲ御諒承ヲ御願ヒ致シマス

○子爵大河内輝耕君　簡單デゴザイマスカラ、此ノ席カラ……

○議長（伯爵松平賴壽君）　宜シウゴザイマス

○子爵大河内輝耕君　誠ニ穩健ナ御意見デ、此ノムヅカシイ問題ガ總親和ヲ標榜セラレル所ノ平沼内閣、穩健ナ思想ヲ有セラレル櫻内農林大臣竝ニ八田商工大臣ノ手ニ依ッテ解決サレタナラバ、國家ニ貢獻スル所多大ナルモノデアラウト存ジマス、只今ノ御答辯ニ依リマシテ大體ノ御希望ハ分リマシタ、尙制度其ノ他ニ付テ申上ゲタイコトモゴザイマスガ、私ノ質問ハ是デ止メテ置キマス

○子爵戸澤正己君　只今上程セラレマシタ米穀配給統制法案ハ、特ニ重要ナル法案デアリマスガ故ニ、此ノ特別委員ノ數ヲ二十五名トシ、其ノ委員ノ指名ヲ議長ニ一任スルノ動議ヲ提出致シマス

○子爵秋田重季君　贊成

○議長（伯爵松平賴壽君）　戸澤子爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス

（丸龜書記官朗讀）

米穀配給統制法案特別委員

公爵島津　忠承君	侯爵前田　利爲君
侯爵佐竹　義春君	伯爵酒井　忠正君
子爵梅小路定行君	子爵米津　政賢君
子爵伊東二郎丸君	子爵鍋島　直縄君
子爵織田　信恒君	松村眞一郎君
賀屋　興宣君	内田　重成君
伊澤多喜男君	塚本　清治君
男爵中島久萬吉君	男爵岩倉　道倶君
男爵東郷　安君	男爵矢吹　省三君
男爵稻田　昌植君	倉知　鐵吉君
有賀　光豐君	瀧川　儀作君
小林嘉平治君	絲原武太郎君
山上　岩二君	

○議長（伯爵松平賴壽君）　日程第七、工業組合法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、八田商工大臣

工業組合法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十四年三月十八日

衆議院議長　小山　松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

工業組合法中改正法律案

工業組合法中左ノ通改正ス

第八條ノ四　第八條ノ規定ニ依リ組合ノ定ムル制限ニ從フベキコトノ命令アリタル場合ニ於テ特ニ必要アリト認ムルトキハ其ノ命令ノ效力ヲ有スル期間ヲ限リ當該工業組合ノ地區内ニ於テ新ニ當該工業ヲ營マントスル者及當該工業ニ屬スル設備ノ擴張ヲ爲サントスル者ヲシテ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ許可ヲ受ケシムルコトヲ得

第二十條ノ三　行政官廳監督上特ニ必要アリト認ムルトキハ第三條第一項第一號ノ事業經營ニ對スル制限ヲ行フ工業組合ノ理事又ハ監事ノ選任又ハ解任ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ選任セラレタル理事又ハ監事ノ解任ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第二十八條ニ左ノ一項ヲ加フ

特別ノ事情アル場合ニ於テハ行政官廳ハ第三條第一項第一號ノ事業經營ニ對スル制限ヲ行フ工業組合ノ定款又ハ第六條ノ二ノ規程ノ變更ヲ爲スコトヲ得

第三十三條中「第三十八條ノ規定」ヲ「第八條ノ四ノ規定及第三十八條ノ規定」ニ改ム

第三十三條ノ二　工業小組合ハ小工業者ヲ以テ之ヲ組織シ組合員ノ共同ノ利益增進ヲ圖ルヲ以テ目的トシ組合員ノ工業ニ關スル共同設備ノ設置、組合員ノ工業ニ必要ナル物ノ供給、組合員ノ爲ノ註文ヲ引受及組合員ノ製品ノ販賣ヲ爲スモノトス

前項ノ小工業者ノ範圍ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

工業小組合ハ法人トス

工業小組合ハ第一項ノ事業ノ外組合員ノ營業ニ關スル指導、研究、調査其ノ他組合ノ目的ヲ達スルニ必要ナル施設ヲ爲スコトヲ得

工業小組合ハ其ノ名稱中ニ工業小組合ナル文字ヲ用フベシ

第三十三條ノ三　工業小組合ノ組合員ノ總數ハ十人ヲ超エザルヲ以テ例トス

第三十三條ノ四　工業小組合ヲ設立セントスルトキハ組合員タラントスル者全員設立者ト爲リ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ行政官廳ノ認可ヲ受クベシ

工業小組合ニハ理事及監事ヲ置クベシ

理事及監事ハ總會ニ於テ之ヲ選任ス但シ組合設立當時ノ理事及監事ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムベシ

第三十三條ノ五　組合員タル資格ヲ有スル者ハ組合員ノ四分ノ三以上ノ同意ヲ得テ工業小組合ニ加入スルコトヲ得

第三十三條ノ六　工業小組合ハ當該工業ニ關スル工業組合ノ組合員タルコトヲ得

小工業者工業小組合ノ組合員ト爲リタルトキハ當該工業ニ關スル工業組合ノ組合員タルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情アル場合ニ於テ行政官廳ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

行政官廳必要ト認ムルトキハ工業小組合ニ對シ當該工業ニ關スル工業組合ニ加入スベキコトヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル命令アリタルトキハ當該工業小組合ハ當該工業組合ノ組合員トス

第三十三條ノ七　工業小組合ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一　目的
二　名稱
三　事務所
四　組合員タル資格ニ關スル規定及組合員ノ總數
五　組合員ノ加入及脱退ニ關スル規定
六　出資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法
七　剩餘金ノ處分及損失分擔ニ關スル規定
八　準備金ノ額及其ノ積立ノ方法
九　組合員ノ權利義務ニ關スル規定
十　事業及其ノ執行ニ關スル規定
十一　役員ニ關スル規定
十二　會議ニ關スル規定
十三　會計ニ關スル規定
十四　存立ノ時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由

第三十三條ノ八　工業小組合ハ出資ノ第一回ノ拂込アリタル後二週間以內ニ各事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スベシ

登記スベキ事項左ノ如シ

一　前條第一號乃至第三號、第六號及第十四號ニ掲ゲタル事項
二　出資ノ總口數及拂込ミタル出資ノ總額
三　設立認可ノ年月日
四　理事及監事ノ氏名及住所

前項ニ掲ゲタル事項中ニ變更ヲ生ジタルトキハ其ノ登記ヲ爲スベシ但シ前項第二項ニ掲ゲタル事項ニ付テハ毎事業年度末日ノ現在ニ依リ事業年度終了後一月以內ニ登記ヲ爲スコトヲ得

第三十三條ノ九　工業小組合ニハ營業收益稅ヲ課セズ

第三十三條ノ十　第四條第二項、第九條、第十五條ノ二、第十七條第一項、第十八條、第十九條、第二十一條（但書ヲ除ク）、第二十四條、第二十八條第一項、第二十八條ノ二、第三十四條乃至第三十七條及第三十九條乃至第四十一條、民法第四十五條第二項第三項、第四十八條、第五十條及第六十六條、非訟事件手續法第百三十八條ノ三、第百四十一條乃至第百五十一條ノ六、第百五十四條乃至第百五十八條、第百六十五條、第百七十五條、第百七十六條及第百七十八條竝ニ產業組合法第五條、第十一條第一項、第十二條、第十八條乃至第二十一條、第二十四條、第二十六條乃至第三十四條、第三十六條、第三十九條乃至第四十一條、第四十三條乃至第四十六條、第四十八條ノ二、第五十條乃至第五十七條、第六十條、第六十條ノ二、第六十二條（第一項第三號及第四號ヲ除ク）、第六十三條第一項、第六十五條、第六十九條乃至第七十三條ノ三、第七十四條第一項、第七十四條ノ二第一項、第七十五條、第九十六條、第九十七條及第百四條ノ規定ハ工業小組合ニ付之ヲ準用ス但シ產業組合法中地方長官又ハ監督官廳トアルハ之ヲ行政官廳トス

第三十八條但書中「民法第四十五條第三項及第四十八條第一項中一週間トアルハ之ヲ二週間トシ」及「主務大臣、」ヲ削ル

第四十條中「第四條第二項（第三十三條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム）」ヲ「第四條第二項（第三十三條及第三十三條ノ十ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム）」ニ改ム

第四十二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第八條ノ規定（第三十三條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム）ニ依ル行政官廳ノ命令ニ違反シタル者
二　販賣ノ目的ヲ以テ前號ノ犯罪ニ係ル工產品ナルコトヲ知リテ其ノ交付ヲ受ケタル者
三　第八條ノ四ノ規定ニ依ル行政官廳ノ命令ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ當該工業ヲ營ミ又ハ設備ノ擴張ヲ爲シタル者

前項第一號又ハ第二號ノ場合ニ於テハ犯人ノ所有シ又ハ所持スル工產品ヲ沒收スルコトヲ得若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徵スルコトヲ得

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

登錄稅法第十九條第七號、印紙稅法第四條第一項第十一號竝ニ商工組合中央金庫法第一條第一項、第七條第一項、第二十八條第一項第六號及第二十九條第一項第三號中「工業組合聯合會、」ノ下ニ「工業小組合、」ヲ加フ

（國務大臣八田嘉明君演壇ニ登ル）

○國務大臣（八田嘉明君）　工業組合法中改正法律案提出ノ理由ヲ簡單ニ御說明申上ゲマス、工業組合ノ制度ハ大正十四年創設以來漸次發達ヲ遂ゲテ參ッタノデアリマスガ、支那事變勃發以來、物資ノ配給機關トシテ統制經濟上ノ重要ナル地歩ヲ占メマシタル

コト、竝ニ物資統制ニ伴フ中小工業ノ休業、失業對策ニ基ク集團的轉業ノ機關トシテ利用セラレテ居リマスルコト等ニ鑑ミマシテ、今回本法ノ一部改正ヲ致シタイト考ヘルノデアリマス、今其ノ改正ノ主要ナル點ヲ擧ゲマスレバ、第一ニハ工業組合制度ハ中小工業ノ維持振興ノ爲立案セラレテ居リマスル關係上、所謂統制組合トシテノ任務ヲ十分ニ發揮スルコトガ出來マスヤウニナッテ居リマセヌノデ、現非常時局下ニ於キマシテ、迅速且公正ニ物資ノ配給ヲ爲シ得ルヤウニ、組合ニ對スル指導竝ニ監督ノ規定ヲ整備致シマシタルコト、第二ニハ、共同經營デアリマスル事業ニ關シマシテハ、從來小規模ノ業者ノ爲ニ工業組合制度ノ利用ハ兎角不徹底デアリマシタノデ、是等小規模ノ事業者ノ爲ニ別ニ一個ノ共同經營的ナル組合制度ヲ創設致シマシタルコト、第三ニハ、生產統制ヲ徹底セシムルガ爲、統制命令ヲ發動致シマシタル場合、必要ガアレバ事業ノ新設又ハ增設ニ付許可制度ヲ採リ得ル途ヲ開キマシタルコト等デアリマス、尙詳細ハ委員會等ニ於テ申上ゲルコトニ致シタイト存ジマス、何卒御審議ノ上速カニ御協贊アラムコトヲ御願ヒ申上ゲマス

○子爵戶澤正己君　只今上程セラレマシタ工業組合法中改正法律案ハ、關聯致シマスル所ガアリマスル故ニ、輕金屬製造事業法案外一件ノ特別委員ニ併託セラレムコトノ動議ヲ提出致シマス

○子爵秋田重季君　贊成

○議長（伯爵松平賴壽君）　戶澤子爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス

○議長（伯爵松平賴壽君）　日程第八、北海道拓殖銀行法中改正法律案、日程第九、金資金特別會計法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長報告、是等ノ二案ヲ一括シテ議題ト爲スコトニ御異議ゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス、委員長高橋子爵

（左ノ報告書ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ玆ニ載錄ス以下之ニ倣フ）

北海道拓殖銀行法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十四年三月十六日

委員長　子爵高橋　是賢

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

金資金特別會計法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十四年三月十六日

委員長　子爵高橋　是賢

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

（子爵高橋是賢君演壇ニ登ル）

○子爵高橋是賢君　只今議題トナリマシタ北海道拓殖銀行法中改正法律案及金資金特別會計法中改正法律案ノ、特別委員會ニ於ケル審議ノ經過竝ニ結果ニ付テ御報告申上ゲマス、是等ノ二法案ハ去ル三月九日本委員會ニ併託サレマシテ、ソレ〳〵政府當局ヨリ說明ヲ聽取致シ、三月十六日迄愼重審議ヲ盡シタノデアリマス、先ヅ北海道拓殖銀行法中改正法律案ニ付テ申上ゲマス、北海道拓殖銀行ハ明治三十二年北海道開發ノ爲ニ創設セラレマシタ銀行デアリマシテ、資本ハ其ノ當時三百萬圓デアリマシタガ、後三回ニ亙ッテ增資ヲ行ハレ、現今デハ二千萬圓ノ資本デアリマシテ

（副議長侯爵佐佐木行忠君議長席ニ著ク）

其ノ中拂込ガ一千二百五十萬圓トナッテ居ルノデアリマス、今回此ノ改正法案ニ依ッテ八條ノ三ト云フモノヲ改正サレルノデアリマスガ、ソレハ北海道及樺太ニ於ケル農業、工業竝ニ鑛業ノ非常ナル近年ノ長足ノ發達ニ卽應スル爲ニ、從來短期貸付高ヲ、長期貸付金ノ總額ヲ超ユルコトヲ禁止シテアリマシタノヲ、此ノ改正法案ニ依ッテ撤廢サレル結果トナルノデアリマス、次ニ質問應答ノ概略ヲ掻イ摘ンデ申上ゲマス、委員ヨリ資本金ガ過少ノヤウニ思ハレルガ、政府ハ之ヲ增資スル意思ハナイカト云フ質問デアリマシタ、政府ハ、北海道拓殖銀行ハ資本ノ十五倍ノ債券ヲ發行シ得ルノデアルカラ、增資ノコトハ今考ヘテ居ラヌト云フ御答辯デアリマシタ、尙委員ヨリ此ノ改正ニ依ッテ興業銀行ナドト競合ヒガ起ルヤウナコトハナイデアラウカト云フ御質問デアリマシタ、政府ハ、興業銀行デハ大キナ事業ノ融資ヲ目標トシテ居ル、從ッテ北海道拓殖銀行デハソレ以下ノモノノ融資ヲスルノガ妥當デアル、依ッテサウ競合ヒヲ起スヤウナ憂ハナイト思フ、ソレカラ或委員ヨリ、手形貸付等ガ殖エル場合ニ拂込ヲ取ルノデアルカト云フ質問ガアリマシタ、政府ハ本法ハ第十二條ニ拓殖債券發行高ハ不動產銀行業務ニ對スル貸出ヲ超ユルコトヲ得ズト云フ制限ヲ附ケテ居ルノデスカラ、今回ノ制限撤廢ニ依リ、普通銀行業務ニ對スル貸出ニ向ケラレヌモノハ、從ッテ短期貸付ノ方ノ資金ト云フモノハ主トシテ同行ノ預金ニ俟ツヨリ外ハナイト思ヒマス、故ニ普通銀行業務ヲ大イニヤリタイト思ッテモ、玆ニ消極的ノ制限ガアル譯デアルト云フ御答辯デアリマシタ、ソレカラ或委員カラ、北海道ノ地方的景氣ハドンナ工合デアルカト云フ質問デアリマシタ、是ハ政府ハ、同地方ハココ二三年來豐作ガ續イテ、農家一般ニ非常ニ好調子デアル、又時局以來各方面ノ產業ガ勃興シテ、中小商工業モ殷賑ヲ持續シテ居ルヤウデアル、北海道及樺太ニ於ケル全銀行ノ預金高ヲ見ルト、昭和八年ニ三億餘萬圓デアッタモノガ、昭和十年ニハ三億六千餘萬圓トナリ、昨年ノ九月ニ至ッテ四億七千五百餘萬圓ヲ算スルヤウナ工合ニ相當累增シテ居ル、又道內ノ普通銀行ヲ壓道スル

ヤウナコトハナイカ、又地方諸銀行トノ利子ノ開キハドウ云フ工合ダト云フ質問ガアリマシタ、之ニ答ヘテ政府ハ、普通銀行ヲ壓迫シ、之ニ迷惑ヲ掛ケルコトハ萬ナイト思フ、北海道殖產銀行ナドノ預金ヲ見テモ、十三年十月ニ約八千八百餘萬圓デアッテ、拓殖銀行ノ預金ノ增加率ト殆ド相似寄ッテ居ルヤウナ譯デ、決シテ惡影響ヲ與ヘテ居ルヤウナコトハナイト云フ答辯デアリマシタ、ソレカラ金利等ニ付テハ、銀行ト信用組合等ヲ包含シタ金融懇談會ニ於テ、十分協定セシムルヤウニ指導シテ居ル、只今ノ貸出ノ性質、金高等ニ付テハ政府ニ於テ十分ナル監督ヲシテ、萬不都合ノナイヤウニ注意ヲ怠ラヌ積リデアルト云フ答辯ガアリマシタ、ソレカラ此ノ案ニ付キマシテハ、衆議院ノ附帶決議ガ附イテ居リマシタ、此ノ附帶決議ヲ讀ンデ見マス、「本法案ハ北海道拓殖銀行ノ特異性ヲ消失セシムルノ虞アリ、依テ政府ハ本行創設ノ趣旨ニ鑑ミ、不動產金融ニ一層ノ力ヲ傾注スベク、嚴重ニ監督指導シ萬遺憾ナキヲ期スベシ」ト云フノデアリマス、之ニ付テ政府ハ釋明ヲサレマシタガ、此ノ衆議院ノ決議デハ當該銀行ノ本來ノ使命ヲ閑却セザル樣深甚ノ注意ヲ以テ監督指導スル考デアルト云フ御說明デアリマシタ、此ノ事ヲ附加ヘテ私ノ報告ヲ終リマス、尙詳細ハ速記錄ニ依ッテ御了承ヲ御願ヒ致シマス、次ニ金資金特別會計法中改正法律案ニ付テ申上ゲマス、本特別會計法ニ依リ現在ハ金、國債、產金振興債券、又ハ總額二千五百萬圓ヲ限リ日本產金振興株式會社株式ニ運用シ得ルコトトナッテ居リマスルノヲ、時局ニ鑑ミマシテ、此ノ運用ノ範圍ヲ一層擴大シ、以テ國債收支ノ改善及產金ノ增加等ニ資スル等、此ノ資金ノ適切ナル運用ヲ期スルモノデアリマス、而シテ同會計法ニ依レバ必要ナル費途ニ資金ヲ使用セムトスル場合ニハ、其ノ金額ヲ一般會計ニ繰入レ、更ニ一般會計ノ歲出トシテ該金額ヲ支出スルト云フコトニナッテ居ルノヲ、今回ノ改正ニ依リ他ノ特別會計ノ歲入ニモ繰入レ得ルコトトナリ、又勅令ノ定ムルモノニモ運用シ得ルコトトナッタ次第デアリマス、是ヨリ委員會ニ於ケル本法律案ニ付テノ經過竝結果ヲ御報告致シマス、本委員會ハ數回ニ亙リ愼重審議ヲ爲シ、委員諸氏ヨリ多クノ質疑應答ガ行ハレマシタガ、詳細ハ速記錄ニ依ッテ御諒承ヲ願フコトト致シマシテ、茲ニ質問應答ノ一二三ニ付テ簡單ニ申上ゲテ見タイト思ヒマス、委員ヨリ本法ノ運用範圍ガ頗ル廣汎ニ亙ルガ、勅令ノ定ムルモノトハ如何ナルモノヲ意味スルノカト云フ質疑ガゴザイマシタ、デ政府ハ勅令ノ定ムルモノト云フノハ、一ニ銀、二ニ日本銀行ニ對スル在外指定預金、三ニ日本產金振興株式會社ニ對スル貸付、五ニ預金部ニ對スル預金等ヲ豫定シテ居ルノダト云フ御返事ガゴザイマシタ、尙委員ヨリ勅令ノ定ムルモノト云フ中ニ銀ト云フコトガアルガ、是カラ政府ハ銀ヲ買上ゲル方針デアルカト云フ御質問ガアリマシタ、政府ハ之ニ答ヘテ、今日直チニ銀ダケヲ買上ゲルト云フノデハナイ、銀ハ金ト一緒ニ產出セラレ、政府ノ買上地金ニモ金銀混合ノモノガ多イガ故ニ、銀ヲ買フト云フコトハ產金奬勵ノ一助トモナリ、又國際貸借ノ上ニ金ト一緒ニ使用サレテ居ルノデアルカラ、將來必要ヲ生ジタル場合ニハ、此ノ資金ヲ運用シ得ルヤウニ、豫メ之ヲ規定シテ置イタノデアルト云フ御答デゴザイマシタ、尙其ノ他多ク有益ナル質問應答ガゴザイマシタガ、是等ハ速記錄ニ讓リマス、斯クシテ質問ヲ終リ、別ニ討論モナク、採決ノ結果全會一致、原案通リ可決サレタノデアリマス、右簡單ナガラ御報告ヲ終リマス

○副議長（侯爵佐佐木行忠君） 別ニ御發言モナケレバ兩案ノ採決ヲ致シマス、兩案ノ第二讀會ヲ開クコトニ御異議ゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○副議長（侯爵佐佐木行忠君） 御異議ナイモノト認メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君 贊成

○副議長（侯爵佐佐木行忠君） 西大路子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○副議長（侯爵佐佐木行忠君） 御異議ナイト認メマス

○副議長（侯爵佐佐木行忠君） 兩案ノ第二讀會ヲ開キマス、御異議ガナケレバ全部ヲ問題ニ供シマス、兩案全部、委員長報告通リデ御異議ハゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○副議長（侯爵佐佐木行忠君） 御異議ナシト認メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ兩案ノ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君 贊成

○副議長（侯爵佐佐木行忠君） 西大路子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○副議長（侯爵佐佐木行忠君） 御異議ナイト認メマス

○副議長（侯爵佐佐木行忠君） 兩案ノ第三讀會ヲ開キマス、兩案全部、二讀會ノ決議通リデ御異議ゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○副議長（侯爵佐佐木行忠君） 御異議ナイト認メマス

○副議長（侯爵佐佐木行忠君） 日程第十、國境取締法案、日程第十一、軍用資源祕密保護法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長報告、是等ノ兩案ヲ一括シテ議題ト爲スコトニ御異議ゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○副議長（侯爵佐佐木行忠君） 御異議ナイト認メマス、委員長山川君

國境取締法案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十四年三月十七日

委員長 山川 端夫

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

軍用資源祕密保護法案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十四年三月十七日

委員長 山川 端夫

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

（山川端夫君演壇ニ登ル）

○山川端夫君 只今上程サレマシタ國境取締法案及軍用資源祕密保護法案ニ付キマシテ、特別委員會ニ於ケル審議ノ經過及結果ヲ御報告申上ゲマス、委員會ハ去ル十三日ニ第一回ノ會合ヲ開キマシテ、前後五回ニ亙リ愼重審議ヲ致シタノデアリマス、其ノ間政府ノ要求ニ依リマシテ、速記ヲ停止スルコト數回、祕密會ヲ開イタコトガ三回ニ及ンダノデアリマス、委員會ニ於ケル審議ノ順序ニ從ヒマシテ、先ヅ軍用資源祕密保護法案ニ付テ申上ゲタイト思ヒマス、此ノ法案ノ提出ノ理由ハ、本議場ニ於テ陸軍大臣カラ御說明ガアリマシタカラ、茲ニハ繰返シマセヌガ、此ノ法案ノ立法ノ趣意ヲ明カニスル爲ニ、委員會ニ於テ政府當局ノ說明セラレタ主ナ點ヲ申上ゲタイト思フノデアリマス、卽チ第一ニハ、本法案ノ保護スル對象ハ國防上祕密ヲ要スル數多キ資源ノ中デ、軍用ニ供シ又ハ軍用ニ供スベキモノノ中カラ、特ニ軍ニ取ッテ重要ナル資源ノ範圍ニ限定シテ居ルト云フコトデアリマス、第二ニハ、取締ルベキ範圍ハ本法中ニ具體的ニ列擧シテ、又取締モ努メテ其ノ範圍ヲ局限シマシテ、行キ過ギヲ防グト云フコトデアリマス、而シテ政府ハ委員會ニ於キマシテ本法實施ノ爲ニ必要ナル勅令及命令事項ノ要綱ヲ詳シク示シタノデアリマス、第三ニハ、祕密トナスベキ事柄ハ、大體昭和十三年度以降ノモノニ限ルト云フコトデアリマス、第四ニハ、取締ノ爲ニ商取引、行政上ノ措置、學術ノ研究等ニ出來ルダケ支障ヲ來サナイヤウニ、特ニ考慮シテ居ルト云フコトデアリマス、第五ハ、祕密ハ外國ニ漏泄スルノヲ除グノヲ本旨ト致シマシテ、祕密保護上差支ナイ限リハ日本人ニ話ヲシ、又ハ祕密ヲ交付スルコトハ取締ラナイ趣意ヲ以テ立案シテ居ルト云フコトデアリマス、本案ハ其ノ目的カラ申シマシテモ、其ノ內容カラ見テモ極メテ重要ナルモノガアルノデアリマスカラ、質問ハ多岐ニ亙ッテ熱心ニ行ハレタノデアリマス、茲ニハ其ノ主ナルモノヲ二三申上ゲマシテ、他ハ速記錄ニ讓リタイト考ヘテ居リマス、本法案自體ニ付キマシテハ、委員會ニ於テハ何レモ其ノ必要ヲ認メマシテ、寧ロ其ノ制定ノ遲キヲ感ズルト云フ意嚮デアリマシタガ、本法案ノ運用ニ付キマシテハ種々ノ質問ガアッタノデアリマス、第一ハ、本法案運用ニ付キマシテ關係各省間ニ如何ナル連絡ヲ取ルヤト云フ問題デアリマス、之ニ對シマシテハ軍用資源祕密ノ指定、重要設備ノ祕匿ノ爲ノ措置等ニ付キマシテハ、陸海軍省ガ中心トナリマシテ、豫メ各省ト協議シテ緊密ナ連絡ヲ取ル、又取締ニ付テハ內務省ガ主トナッテ陸海軍省ト連絡シテ之ニ當リ、憲兵モ之ニ携ルノデアリマスガ、警察官ト憲兵トノ間ニハ十分ニ連絡ヲ取ルコトニ注意スル、要スルニ取締ノ上ニ於テ、本法ノ目的ヲ能ク達成スルコトニ努ムルト共ニ、他面行過ギヲ防止シ、且取締上苛酷ニ流ル、コトナキヤウニ致シテ、人ヲ見テ「スパイ」ナリト云フヤウナ感ジヲ起サセナイヤウニ努ムルト云フ御答デアッタノデアリマス、第二ニハ、警察ノ取締ノ上カラ見マシテ、上ノ命ズル所ガ必ズシモ下ニ徹底シナイ、ソレデ兎角取締ガ杓子定規ニ流ル、弊ガアルト云フコトカラ、今日ノ經濟組織ガ今ノ現狀ニ卽シナイ、又本法施行ノ上ニモ十分デハナイト云フコトデ、政府ハ此ノ際警察機構ヲ再檢討スル用意アリヤ否カト云フ質疑デアリマス、政府ノ答辯ハ、本法施行ニ關シマシテハ、警察官ノ取締振ニ付テ、十分訓示シテ萬遺憾ナキヲ期スル、而シテ警察機構ノ改善ニ付キマシテハ篤ト研究ヲ加ヘテ、時勢ニ應ジテ其ノ機構ノ活用ヲ圖ルコトニ努メタイト云フコトデアリマス、第三ニハ、一二三ノ委員カラノ質疑デアリマスガ、其ノ要領ハ、本法ノ趣旨ハ徒ニ罪人ヲ作ルノデハナク、本法ノ目的トスル所ヲ達成スルノニアルノデ、本法ハ國防上軍ノ祕密ニ關スルト云フコトデ、之ガ取締ニ當ル者モ動モスレバ苛細ニ流レ、又國民モ徒ニ恐怖心ニ驅ラレテ、其ノ極或ハ國民相互ノ間ニ猜疑心ヲ起スノ虞ナシトハシナイ、仍テ本法施行ニ當リマシテハ、豫メ國民一般ニ本法ノ精神及內容ヲ十分能ク知ラシメ、又指導取締ノ任ニ當ル者ニ對シマシテモ、同樣出來ルダケ之ヲ周知セシメテ、適正ナル措置ヲ執ル必要ガアルノデ、政府ノ考ハ如何ト云フコトデアリマス、政府ハ之ニ全然同感ノ意ヲ表シマシテ、取締ニ當ル官吏ニ對シマシテハ勿論、廣ク一般國民ニ周知セシムルコトハ極メテ必要ナリト認ムルカラ、有ラユル手段ヲ講ジテ之ガ徹底ニ努ムル考デアルト云フ御答デアリマシタ、次ニ防諜關係、防諜訓練或ハ一般ノ防諜團ノ指導方法等ニ付キマシテモ色々質問ガアリマシテ、ソレ〴〵詳細ナル御答ガアッタノデアリマス、更ニ本法ノ各條文ニ付テ詳細ナ又有益ナ質疑ガアリマシタガ、此ノ質疑ニ依ッテ明カニナッタ點ハ、本法ハ知ラザル者ハ罰シナイ、過失ヲ罪シナイト云フコトデアリマス、此ノ外ニ條文ノ解釋、內容等ニ付テノ應答ハ速記錄ニ讓リタイト考ヘテ居リマス、次ニ國境取締法、此ノ法案ハ我ガ國境取締規定ノ不備ニ乘ジマシテ、帝國ノ利益ニ背反スル行動ヲ爲サムトスル者ガ少クナイノデアリマス、今日ノ國際情勢上、國境ノ出入取締ニ遺憾ナキヲ期スル爲ニ提案サレタモノデアリマス、本法案ニ對スル質疑ハ多クハ速記ヲ停止シ、又ハ祕

密會ニ於テ爲サレタノデアリマス、公開ノ席上ニ於テ行ハレタ質疑ノ主ナルモノハ、國境ニ沿フテ設ケラルベキ出入制限地帶内ニ於ケル住民ノ取扱ニ關スル件、又最近數年間ニ於ケル越境人員等ニ關スルコトデアリマシタガ、是等ハ總テ速記錄ニ付テ御承知ヲ願ヒタイノデアリマス、斯クテ質疑ヲ終リマシテ、討論ニ入リマシタガ、討論ニ於キマシテハ數名ノ委員カラ贊意ヲ表スルト共ニ希望ヲ開陳セラレタノデアリマス、其ノ希望ハ何レモ本法運用上ノ注意ニ關スルコトデアリマシテ、大體左ノ通リ要約スルコトガ出來ルト考ヘテ居リマス、一ツハ本法ニ依ル取締ノ責ニ當ル者、殊ニ内務當局ガ取締實施ノ上ニ宜シキヲ失ッテ、國民ノ間ニ萬一猜疑心ヲ起スヤウナコトガアレバ、却テ國力ヲ弱メルト云フコトニナルノデアルカラ、嚴ニ過チナキヤウ注意サレタイコト、二ハ本法實施ノ結果、國民經濟上ノ發展及生產力ノ擴充ニ支障ヲ及スコトナキヤウ特ニ留意セラレタイコト、三ハ本法ノ精神及内容ヲ取締ノ任ニ當ル者、及ビ一般國民ニ徹底セシメルノ措置ヲ執ラレテ、國民總親和ノ精神ヲ以テ官民一致、和ヤカニ本法ノ實行ヲ期スベキコトト云フノデアリマス、委員會ハ討論ヲ終リマシテ採決ニ入リ、滿場一致異議ナク兩案ヲ可決致シタノデアリマス、右御報告ヲ申上ゲマス

○副議長(侯爵佐佐木行忠君)　別ニ御發言モナケレバ兩案ノ採決ヲ致シマス、兩案ノ第二讀會ヲ開クコトニ御異議ゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○副議長(侯爵佐佐木行忠君)　御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君　直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君　贊成

○副議長(侯爵佐佐木行忠君)　西大路子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○副議長(侯爵佐佐木行忠君)　御異議ナイト認メマス

○副議長(侯爵佐佐木行忠君)　兩案ノ第二讀會ヲ開キマス、御異議ガナケレバ全部ヲ問題ニ供シマス、兩案全部、委員長ノ報告通リデ御異議ゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○副議長(侯爵佐佐木行忠君)　御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君　直チニ兩案ノ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君　贊成

○副議長(侯爵佐佐木行忠君)　西大路子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○副議長(侯爵佐佐木行忠君)　御異議ナイト認メマス

○副議長(侯爵佐佐木行忠君)　兩案ノ第三讀會ヲ開キマス、兩案全部、第二讀會ノ決議通リデ御異議ゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○副議長(侯爵佐佐木行忠君)　御異議ナイト認メマス

○副議長(侯爵佐佐木行忠君)　日程第十二、保險業法改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長報告、委員長樺山伯爵

保險業法改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十四年三月十七日

委員長　伯爵樺山　愛輔

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

(伯爵樺山愛輔君演壇ニ登ル)

○伯爵樺山愛輔君　只今議題ト相成リマシタ保險業法改正法律案ノ委員會ニ於ケル審議ノ經過竝ニ結果ニ付テ御報告ヲ申上ゲマス、委員會ハ去ル十一日ヨリ五回ニ亙ッテ開會ヲ致サレマシテ、愼重ニ審議ヲ遂ゲマシタル結果、三月十七日、全會一致本案ヲ可決致シマシタ、本案ノ提出ノ理由等ニ付キマシテハ、過日本議場ニ於キマシテ商工大臣カラ説明セラレタ所デアリマス、要スルニ今回ノ改正ノ目的ハ、第一ニ、商法ノ改正ニ伴ヒ、本法中大凡二百條ニモ及ブ商法ノ準用規定其ノ他ニ付キマシテ

(議長伯爵松平賴壽君議長席ニ復ス)

改正商法ト調和ヲ保ツ爲ノ改正ヲ加ヘヨウト致シマシタコト、第二ニ、現行保險業法ハ明治三十三年ノ制定ニ係リ、制定以來既ニ四十年ヲ經過致シマシタ爲、現下ノ諸事情ニ徴シ不備ノ點少カラザルニ鑑ミマシテ、監督指導ノ方策ヲ整備シヨウト致シマシタコトデアリマス、其ノ内容ノ主ナルモノト致シマシテハ、第一ニ監督命令ニ關スル規定ヲ整備シ、又事業ノ統制協定ニ關スル規定ヲ設ケマシタコト、第二ニ業績不良ノ會社ニ對シマシテ、事業ノ管理、合併、又ハ契約ノ移轉ヲ爲スベキコトヲ勸告シ、或ハ命令シ得ル旨ノ規定ヲ設ケマシタコト、其ノ他株式會社ノ相互化、株式會社ト相互會社トノ合併、保險計理人等ノ制度ヲ設ケ、又財產ノ評價ニ關スル規定ヲ整備致シマシタコト等デアリマス、是等諸規定ノ適正ナル運用ニ依リマシテ、我ガ國ノ民營保險事業ノ一層ノ向上ヲ促シ、國民生活ノ安定竝ニ國家產業經濟ノ發展ニ貢獻スルニ遺憾ナキヲ期セシメタイト云フノガ本改正案ノ趣旨トスル所デアリマス、次ニ委員會ニ於ケル質疑應答ノ主ナルモノヲ申上ゲマス、先ヅ第一ニハ、一委員ヨリ、近時保險國營ニ關スル論議ガ相當行ハレテ居ルヤウデアルガ、本案ヲ審議スル前提トシテ、此ノ點ニ對スル政府ノ考ハドウデアルカト云フ質問ニ對シ、政府ハ保險國營ニ付テハ種々ノ論點カラ之ヲ主張スル者ガアルガ、其ノ主ナルモノハ現在ノ民營保險事業ノ有スル諸種ノ不備缺點ノ改善策トシテ之ヲ論ズルモノデアッテ、是等ノ點ニ付テハ今回ノ改正ニ依ッテ監督指導ノ方策ガ整備セラレル結果、改善シ得ルモノト考ヘル、從ッテ此ノ問題ハ極メテ重大ナル問題デアルカラ、尚研究スル必要ハアルモノト考ヘルガ、目下ノ所國營ニ移スコトハ考ヘテ居ナイト云フ答辯ガアッタノデアリマス、第二、保險會社ノ新設ニ關スル問題デアリマス、二三ノ委員ヨリ政府ハ保險會社ノ新設許可ニ付テ如何ナル考ヲ持ッテ居ルカトノ質問ニ對シ、政府ハ現在保險會社ノ數ハ決シテ少クナイノミナラズ、會社間ニ於ケル競爭ハ相當激シク、是ガ諸種ノ弊害ノ原因ヲ成シテ居ルヤウナ關係モ考ヘラレル、又火災保險會社ニアッテハ大正十二年ノ關東大震災ノ際、政府ヨリ受ケタル助成金ニ對シ、納付金支拂ノ負擔ヲ負ッテ居ルモノモ少クナイノデアルガ、是等ノ點ヲ考慮シテ、保險會社ノ新設許可ニ付テハ近年特ニ愼重ノ方針ヲ執ッテ居ル、併シ特殊ノ意義ヲ有スル新種保險ニ付テハ、保險制度ヲ一層整備シ、國民ノ利益ヲ增進スル爲、進ンデ之ヲ許可スル考デアルトノ答辯デアッタノデアリマス、第三ハ、事業ノ統制協定ニ關スル問題デアリマス、二三ノ委員ヨリソレ〳〵本法案ノ第十一條ニ、事業ニ關スル統制協定ノ規定ガアルガ、從來當業者間ニ行ハレテ居ル協定ノ實情ハドウデアルカ、又本條ニ依ッテ果シテ從來ノ競爭ノ弊ヲ防止スルコトガ出來ルノデアルカ、更ニ本條ニハ「保險會社ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ事業ニ關シ統制協定ヲ爲シタルトキハ」云々トアッテ、如何ナルコトモ命令ヲ以テ定メ得ルヤウニモ見エルガ、此ノ命令ノ内容ハドノヤウナモノデアルカト云フ質問ニ對シ、政府ハ、現在營業者間ニハ種々ノ協定ガ行ハレテ居ルガ、其ノ中ニハ必ズシモ十分ノ實效ヲ擧ゲテ居ナイモノモアルヤウニ認メラレル、併シナガラ今回ノ改正ニ依ッテ是等ノ協定ニ一定ノ公法的ノ效果ガ賦與セラレ、又其ノ他ノ點ニ於テモ監督ノ規定ガ整備シタノデアルカラ、今後ハ大イニ此ノ規定ノ運用ニ期待シ得ルモノガアルト信ズル、又本條ノ統制協定ハ不當ノ競爭ヲ防止シ、事業ノ健全ナル發達ヲ圖ルコトヲ目的トスルモノデアッテ、ソレ以上ノ意味ヲ持ツモノデハナイト云フ答辯ガアッタノデアリマス、第四ニハ、不良會社整理ノ問題デアリマス、一委員ヨリ、保險會社、特ニ生命保險會社中ニハ相當業績不良ノ會社ガアルヤウデアルガ、是等ハ本法ノ運用ニ依ッテ急速ニ之ヲ整理シ、保險契約者ノ利益ヲ保護スルコトガ必要デハナイカ、又之ニ關聯シテ、生命保險會社ノ監督ニ遺憾ナキヲ期スル爲、特殊會社等ノ例ニ倣ッテ生命保險會社ニ監理官ノ制度ヲ設クル考ハナイカトノ質問ニ對シテ、政府ハ現在保險會社中ニハ、保險金ノ支拂ニ支障ヲ持ツヤウナモノハ一社モナイケレドモ、經濟界ノ變動其ノ他ノ事情ニ依ッテ、場合ニ依リ業績不良ノ會社ヲ生ズルヲ免レナカッタコトハ過去ノ經驗ノ示ス所デアル、仍テ今回ノ改正案ニ於テハ、斯カル場合ニ急速ニ有效適切ナル手段ヲ執リ得ルヤウ必要ナル規定ヲ設ケタノデアルガ、之ニ付テモ極力現在ノ保險契約者ニ不安、動搖ヲ與フルコトナク、其ノ契約ヲ維持シナガラ、整備ヲ行フコトガ必要デアルト考ヘル、從ッテ本法ノ規定ノ運用ニ依リ、急激ニ多數ノ會社ヲ整理シ保險契約者ニ不安、動搖ヲ來サシムルヤウナコトハ考ヘテ居ナイ、又監理官ノ制度ニ付テハ、目下ノ所之ヲ置ク考ハ持ッテ居ナイガ、尚將來研究スルコトトシタイト云フ答辯ガアッタノデアリマス、以上ノ外、保險會社ノ資本金又ハ基金ノ額、再保險ノ問題等ニ付キマシテ重要ナル質疑應答ガアッタノデゴザイマスガ、是等ハ速記錄ニ依ッテ御了承ヲ願ヒタイト存ジマス、最後ニ本案ノ内容ニ付キマシテ逐條ノ説明ヲ聽キ、協議ヲ重ネタノデアリマス、其ノ主ナルモノニ付テ申上ゲマスルト、第十九條以下ニ規定スル組織變更、卽チ株式會社ノ相互化ノ場合ニ於テ、組織變更ノ方法、其ノ他重要ナル事項ヲ株主總會ノ決議ニ依ッテ定メルモノトシテ居ルガ、之ニ依ッテ保險契約者ノ利益ガ害セラルヽ虞ハナイカトノ質問ニ對シマシテ、政府ハ、組織變更ニ付テハ、株主ノ外保險契約者ノ同意ヲ要スルモノトシテ居ルノミナラズ、其ノ效力發生要件タル主務大臣ノ認可ニ際シテハ、十分ニ保險契約者ノ利害ヲ考慮シテ、之ガ可否ヲ決スルモノデアルカラ、決シテ御懸念ニハ及バナイトノ答辯デアッタノデアリマス、次ニ第百八條ニ列擧スル保險會社ノ解散事由ノ中ニ、會社ノ破產、其ノ他保險契約ノ效力ヲ中斷シ、保險團體ヲ分散セシムルヤウナモノハ、保險ノ性質上不適當デハナイカ、トノ質問ニ對シマシテ、政府ハ、保險會社ノ解散ノ場合等ニ際シ、保險契約ノ效力ヲ極力維持シ、保險團體ヲ存續セシメテ行クコトヲ必要トセラル、御意見ニハ全ク同感デアル、今回ノ改正案ニ於テ、會社ノ管理、契約ノ移轉命令等ノ制度ヲ設ケタノモ、全ク此ノ趣旨ニ出ヅルニ外ナラナイノデアッテ、此ノ方針ノ下ニ運用ヲ行フ考デアルトノ答辯デアッタノデアリマス、其ノ他各條項ニ亙リ質疑應答ガアッテ、討論ニ入リ、二委員ヨリ此ノ改正ノ眼目デアル監督、指導、協定等ノ實行ニ付適切ナル希望ヲ述ベラレタ後、滿場一致、保險業法改正法律案ハ可決致サレタノデアリマス、茲ニ御報告申上ゲマス

○議長(伯爵松平賴壽君)　別ニ御發言モナケレバ本案ノ採決ヲ致シマス、本案ノ第二讀會ヲ開クコトニ御異議ハゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(伯爵松平賴壽君)　御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君　直チニ本案ノ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君　贊成

○議長(伯爵松平賴壽君)　西大路子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(伯爵松平賴壽君)　御異議ナイト認メマス

○議長（伯爵松平賴壽君）　本案ノ第二讀會ヲ開キマス、御異議ガナケレバ全部ヲ問題ニ供シマス、本案ノ全部、委員長ノ報告通リデ御異議ゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君　直チニ本案ノ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君　贊成

○議長（伯爵松平賴壽君）　西大路子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス

○議長（伯爵松平賴壽君）　本案ノ第三讀會ヲ開キマス、本案全部、第二讀會ノ決議通リデ御異議ゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス

○議長（伯爵松平賴壽君）　日程第十三、臺灣事業公債法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長堀田伯爵

臺灣事業公債法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十四年三月十七日

委員長　伯爵堀田　正恒

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

（伯爵堀田正恒君演壇ニ登ル）

○伯爵堀田正恒君　只今議題トナリマシタ臺灣事業公債法中改正法律案ハ、朝鮮事業公債法中改正法律案ノ委員ニ併託ニナリマシテ、本案ニ付キマシテノ委員會ハ前後三回開會致シマシタ、只今經過竝ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、本案ハ臺灣總督府特別會計ニ於キマシテハ、昭和十四年度以降ノ繼續費トシテ計上シマシタ中部港築港工事費千五百萬圓竝ニ昭和十四年度豫算ニ計上致シマシタ鐵道改良費三百四十萬圓、合計千八百四十萬圓ノ財源ヲ公債ニ依ル必要ガアル爲、現行臺灣事業公債法ニ依ル起債法定現在額一億五千四百六十萬圓ヲ一億七千二百九十萬圓ニ増加改定セムトスルモノデアリマス、政府ヨリ提案ノ理由竝ニ公債支辨事業ノ內容ニ付詳細ナル説明ヲ聽取致シマシテ、質疑ニ入リマシタ、質疑ノ主ナルモノヲ御紹介申上ゲマス、今回ノ中部港築港ノ計畫ハ極メテ時宜ニ適シタモノデアルガ、共ノ規模ニ付テハ臺灣ノ產業交通、將來ノ躍進ヲ考慮シ、今少シ計畫ヲ大キクスル必要ガアルデハナイカト云フ御質問ニ對シマシテ、中部港築港ノ總計畫ハ總工費約二千七百萬圓、完成ノ曉ハ一萬「トン」級汽船二十一隻ヲ收容シ、又岸壁荒役能力百五十萬「トン」、相當大規模ノ港灣計畫デアルカ、現下各般ノ情勢、財政關係等ヲ考慮シテ、便宜之ヲ第一期ト第二期ニ分チ、今回先ヅ第一期トシテ本港ノ使用開始ヲ目標ニ實施セムトスルモノデアル、斯ウ云フ答辯デゴザイマシタ、第一ニ築港ノ位置ヲ梧棲ニ選定シタ理由竝ニ中部港ニ關聯スル發電計畫、鐵道計畫等ハドウナッテ居ルノデアルカト云フ御質問デゴザイマシタ、此ノ位置選定ニ付テハ技術的ニモ經濟的ニモ十分愼重ニ調査研究ヲ遂ゲタ結果、梧棲ヲ最モ適當トスル結論ニ達シタモノデアッテ、本港ノ背後地帶ハ臺灣ノ工業化、生產力擴充ニ必須條件ヲ具備シテ居ルノデアル、電力ハ附近ノ未開發水力電源五十萬「キロ」ヲ有シ、極メテ容易且安價ニ發電シ得ルノデアル、尚鐵道計畫ニ付テモ築港計畫ニ卽應シテ別途提案ノ見込デアルト云フ御答辯デゴザイマシタ、尚臺灣ノ港灣、鐵道等ニ付テ詳細ナル質問應答ガゴザイマシタガ、速記錄ニ讓リマス、討論ニ入リマシテ一委員ヨリ、交通施設ノ設備ハ統治上極メテ重要デアッテ、今回ノ中部港築港計畫ハ極メテ時宜ニ適シタルモノト信ズル、寧ロ今少シ規模ヲ大キク此ノ際計畫ヲ實施サレテモ宜イデハナイカト云フ意見ヲ述ベラレテ、本案ニ贊成サレマシタ、他ニ御意見モナク採決ニ入リマシテ、全會一致可決スベキモノト決シマシタ

○議長（伯爵松平賴壽君）　別ニ御發言モナケレバ本案ノ採決ヲ致シマス、本案ノ第二讀會ヲ開クコトニ御異議ハゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君　直チニ本案ノ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君　贊成

○議長（伯爵松平賴壽君）　西大路子爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス

○議長（伯爵松平賴壽君）　本案ノ第二讀會ヲ開キマス、御異議ガナケレバ全部問題ニ供シマス、本案全部、委員長ノ報告通リデ御異議ハゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君　直チニ本案ノ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君　贊成

○議長（伯爵松平賴壽君）　西大路子爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス

○議長（伯爵松平賴壽君）　本案ノ第三讀會ヲ開キマス、本案全部、第二讀會ノ決議通リデ御異議ハゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス

○議長（伯爵松平賴壽君）　日程第十四、商法ヲ引用スル條文ノ整理ニ關スル法律案、政府提出、第一讀會ノ續、委員長報告、委員長二荒伯爵

商法ヲ引用スル條文ノ整理ニ關スル法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十四年三月十八日

委員長　伯爵二荒　芳德

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

（伯爵二荒芳德君演壇ニ登ル）

○伯爵二荒芳德君　商法ヲ引用スル條文ノ整理ニ關スル法律案ノ委員會ノ經過竝ニ結果ヲ申上ゲマス、本委員會ハ十五日、十八日ノ兩日ニ亙リマシテ開キマシタ、此ノ法律案ハ七十三回議會ニ於キマシテ、商法ノ相續編竝ニ會社編全體ニ亙リマシテ改正ガゴザイマシタノト、又商行爲以下ノ諸規定ニ種々變更ガゴザイマシタ、從ッテ是等ノ變更ノ結果商法ヲ引用致シテ居リマス三十八ノ法律案ノ條文ノ置替ヘガ主ニナッテ居ルノデアリマス、又有限會社法ノ制定ニ伴ヒマシテ、必要ナル改正ヲ要スル結果ト致シマシテ、此ノ法律案ガ出テ居ルノデアリマス、斯カル簡單ナ法律案デアリマスカラ質疑モ別ニゴザイマセヌデアリマシタシ、更ニ討議ニ移リマシタガ別ニ發言者モゴザイマセヌデシタ、而シテ採決ノ結果全會一致ヲ以チマシテ本法律案ハ可決スベキモノト決定致シタノデアリマス、右御報告致シマス

○議長（伯爵松平賴壽君）　別ニ發言モナケレバ本案ノ採決ヲ致シマス、本案ノ第二讀會ヲ開クコトニ御異議ハゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君　直チニ本案ノ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君　贊成

○議長（伯爵松平賴壽君）　西大路子爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス

○議長（伯爵松平賴壽君）　本案ノ第二讀會ヲ開キマス御異議ガナケレバ全部ヲ問題ニ供シマス、本案全部、委員長ノ報告通リガ御異議ハゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君　直チニ本案ノ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君　贊成

○議長（伯爵松平賴壽君）　西大路子爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス

○議長（伯爵松平賴壽君）　本案ノ第三讀會ヲ開キマス、本案全部、二讀會ノ決議通リデ御異議ハゴザイマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス

○議長（伯爵松平賴壽君）　日程第十五、酪農業調整法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長報告、委員長米津子爵

酪農業調整法案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十四年三月十七日

委員長　子爵米津　政賢

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

（子爵米津政賢君演壇ニ登ル）

○子爵米津政賢君　上程サレマシタ酪農業調整法案ノ特別委員會ノ經過竝ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、委員會ハ去ル十六日ノ午前及十七日午前午後ニ亙リマシテ開會致シマシタガ、先ヅ法案ノ要旨ヲ申上ゲマス、我ガ國ノ農業ハ古來米作ト養蠶ヲ主ト致シマシテ、無畜農業ガ本體デゴザイマシタ、ソレニ次デハ家畜ヲ農家ノ副業トシテ飼フヤウナ時代ガゴザイマシタガ、近代ニ於キマシテハ、家畜ハ農業經營ノ中デ缺クベカラザル要素トシテ有畜農業ノ經營ト云フコトニ進化致シタノデゴザイマス、從ヒマシテ其ノ家畜ガ乳牛デゴザイマス場合ニハ、多量ノ乳ガ生產サレマシテ、現ニ價格ニ於テ三千七百萬圓ノ生產ガゴザイマシテ、是ハ精乳トシテ、又煉乳、粉乳、「バター」ノ如キ加工品トシテ、又菓子原料トシテ內地ノ消費ガ莫大デアリマスノミナラズ、海外ノ市場モ獲得致シマシテ、現ニ數百萬圓ノ輸出ヲ致シテ居ルノデゴザイマス、併シ此ノ生產、販賣、加工ノ過程ヲ顧ミテ見マスルト、生產業者ト、販賣業者ト、製造業者トノ間ノ關係ガ非常ニ錯綜シテ居リマス爲ニ、需給ノ圓滑、取引ノ公正ト云フ點ニ於キマシテ遺憾トスベキ點ガ少クナク、將來ノ酪農業ノ發展上障碍ト目セラレル點モ少クナイノデゴザイマス、ソレ故ニ此ノ度本案ヲ制定致シマスコトニ依ッテ、先ヅ生產擴充ノ方針ニ副ッテ乳牛ヲ增產致シマスト共ニ、各業者ニ團體ヲ整備シ、又創設致シマシテ、是等ノ團體ノ自己統制力ヲ強化スルノミナラズ、一方ニハ許可制ニ依リマシテ、製造業、取引ト云フ方面ヲ合理化シマス、併シナガラ共ノ何レノ方面ニモ弊害ニ亙ラナイ爲ニ、豫メ中央及地方ニ官民兩者ヲ以テ組織セラレマスル酪農協議會ヲ作リマシテ、之ニ依リマシテ酪農業ト云フモノヲ全部一ツノ組織ト看做シマシテ、各業者ノ總親和、共榮ノ實績ヲ擧ゲテ行カウト云フノガ法案ノ要旨ナノデゴザイマス、誠ニ此ノ法案ノ趣旨通リニ參リマシタナラバ、根本的ニハ農業經營ヲ非常ニ鞏固ニ致シマシテ、サウシテ銃後ノ農村ノ農民生活ヲ安定ニスルコトモ出來ヨウシ、又牛乳ガ增產普及致シ

マスレバ、國民體位ノ向上ニモ役立ッテアラウシ、又海外ノ輸出ガ増加致シマスレバ、國際貸借上ニモ好マシイ結果ヲ持ッテ來ルノデゴザイマス、斯ウ云フ風ニ各方面ニ重要ナ意義ヲ持ッテ居リマスルガ故ニ、委員會ニ於キマシテハサウ云フ角度カラ種々法案ノ内容ヲ檢討致シタノデゴザイマスガ、此處ニハ一々質疑應答ヲ御紹介ハ申上ゲマセヌデ、總テ速記錄ニ於テ御承知願ヒタイト存ジマス、討論ニ入リマシテモ各委員何等御異議ナク、採決ノ結果ハ全會一致ヲ以テ可決スベキモノト決定致シマシタ次第デゴザイマス、右御報告申上ゲマス

○議長(伯爵松平頼壽君)　別ニ御發言モナケレバ本案ノ採決ヲ致シマス、本案ノ第二讀會ヲ開クコトニ御異議ゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(伯爵松平頼壽君)　御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君　直チニ本案ノ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君　贊成

○議長(伯爵松平頼壽君)　西大路子爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(伯爵松平頼壽君)　御異議ナイト認メマス

○議長(伯爵松平頼壽君)　本案ノ第二讀會ヲ開キマス、御異議ガナケレバ全部ヲ問題ニ供シマス、本案全部、委員長ノ報告通リデ御異議ハゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(伯爵松平頼壽君)　御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君　直チニ本案ノ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君　贊成

○議長(伯爵松平頼壽君)　西大路子爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(伯爵松平頼壽君)　御異議ナイト認メマス

○議長(伯爵松平頼壽君)　本案ノ第三讀會ヲ開キマス、本案全部、第二讀會ノ決議通リデ御異議ハゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(伯爵松平頼壽君)　御異議ナイト認メマス

○議長(伯爵松平頼壽君)　報告ヲ致サセマス

(丸山書記官朗讀)

本日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

臨時資金調整法中改正法律案可決報告書

産金法中改正法律案可決報告書

日本産金振興株式會社法中改正法律案可決報告書

國債整理基金特別會計法中改正法律案可決報告書

明治三十九年法律第三十四號中改正法律案可決報告書

明治四十二年法律第九號中改正法律案可決報告書

昭和十三年法律第六十四號中改正法律案可決報告書

朝鮮銀行券及臺灣銀行券ノ保證發行限度ノ臨時擴張ニ關スル法律案可決報告書

昭和十三年法律第二十三號中改正法律案可決報告書

昭和十二年法律第八十四號中改正法律案可決報告書

昭和十四年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案可決報告書

昭和七年法律第一號中改正法律案可決報告書

支那事變ニ關スル特別賜金トシテ交付スル爲公債追加發行ニ關スル法律案可決報告書

昭和十三年法律第八十七號中改正法律案可決報告書

大正九年法律第五十三號中改正法律案可決報告書

○議長(伯爵松平頼壽君)　只今報告致サセマシタ法案ノ中、昭和十二年法律第八十四號中改正法律案ヲ此ノ際議事日程ニ追加シテ、第一讀會ノ續ヲ開クコトニ致シタイト存ジマス、御異議ハゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(伯爵松平頼壽君)　御異議ナイト認メマス、委員長高橋子爵

昭和十二年法律第八十四號中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十四年三月十九日

委員長　子爵高橋　是賢

貴族院議長伯爵松平頼壽殿

○子爵高橋是賢君　只今議題トナリマシタル昭和十二年法律第八十四號中改正法律案ハ昭和十四年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案ノ特別委員會ニ併託サレマシタノデ、私ヨリ其ノ審議ノ模樣及結果ヲ御報告申上ゲマス、本案ハ本月十七日付託ニナリマシタ、十八日委員會ニ於キマシテ政府當局ヨリ詳細ナル説明ヲ承リマシタガ、本案ノ内容ハ、卽チ支那事變ニ關スル臨時軍事費支辨ノ爲ニ昭和十二年法律第八十四號ニ依リ從來起債シ得ル金額ノ外更ニ三十九億二千四百十萬圓ヲ限リ公債ノ發行限度ヲ増加スル爲改正ヲ必要トスルノデアリマス、本件ハ政府ノ御希望ニ依リマシテ非常ナ緊急ヲ要スルモノト認メマシテ、本日何等ノ意見モナク委員會ハ可決致シマシタ、以上ノ次第デアリマスノデ、緊急ノ上程ヲ願ッタ次第デゴザイマス、以上簡單デゴザイマスガ、御報告ヲ終リト致シマス

○議長(伯爵松平頼壽君)　別ニ御發言モナケレバ本案ノ採決ヲ致シマス、本案ノ第二讀會ヲ開クコトニ御異議ハゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(伯爵松平頼壽君)　御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君　直チニ本案ノ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君　贊成

○議長(伯爵松平頼壽君)　西大路子爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(伯爵松平頼壽君)　御異議ナイト認メマス

○議長(伯爵松平頼壽君)　本案ノ第二讀會ヲ開キマス、御異議ガナケレバ全部ヲ問題ニ供シマス、本案全部、委員長ノ報告通リデ御異議ハゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(伯爵松平頼壽君)　御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君　直チニ本案ノ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君　贊成

○議長(伯爵松平頼壽君)　西大路子爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(伯爵松平頼壽君)　御異議ナイト認メマス

○議長(伯爵松平頼壽君)　本案ノ第三讀會ヲ開キマス、本案全部、第二讀會ノ決議通リデ御異議ハゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(伯爵松平頼壽君)　御異議ナイト認メマス

○議長(伯爵松平頼壽君)　日程第十六、民族優生保護法案、衆議院提出、第一讀會

民族優生保護法案

右本院提出案及送付候也

昭和十四年三月十六日

衆議院議長　小山　松壽

貴族院議長伯爵松平頼壽殿

民族優生保護法

第一條　本法ハ我カ民族ノ優秀ナル素質ヲ保護シ惡質遺傳ヲ防遏スルヲ以テ目的トス

第二條　前條ノ目的ヲ達スル爲精神薄弱者、癲癇者、精神乖離症者、躁鬱病者、ハンチントン氏舞踏病者、強度ナル病的人格者、遺傳性盲者、聾者又ハ強度ナル身體的畸形者ニシテ此等劣等ナル素質ヲ遺傳スル虞顯著ナルモノニ對シ斷種ノ手術ヲ行フモノトス

第三條　本法ニ於テ斷種ト稱スルハ精子又ハ卵ノ輸精管又ハ輸卵管ヲ通過スルコトヲ不可能ナラシムル手術ヲ謂フ

第四條　斷種ハ本人ノ申請ニ基キ又ハ左ノ各號ニ掲クル者ノ申請アリタル場合ニ限リ之ヲ行フコトヲ得

一　戸主

二　法定代理人又ハ保佐人

三　官公立ノ精神病院、刑務所、矯正院又ハ敎護院ノ長

第五條　前條ノ申請ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ地方長官ニ爲スコトヲ要ス

第六條　第四條第一號及第三號ニ掲クル者ノ申請ニハ本人ノ同意ヲ要ス但シ本人無能力者ナルトキハ其ノ配偶者、法定代理人又ハ保佐人ノ同意ヲ以テ足ル

第七條　斷種ノ適否ヲ診定スル爲優生診定委員會ヲ置ク

優生診定委員會ニ關スル組織及權限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條　優生診定委員ハ命令ノ定ムル所ニ依リ厚生大臣之ヲ任命又ハ囑託ス

第九條　地方長官斷種ノ申請ヲ受ケタルトキハ遠ニ之ヲ優生診定委員會ノ議ニ付スヘシ

第十條　優生診定委員會ハ前條ノ付議ヲ受ケタル日ヨリ六月以内ニ斷種ノ適否ニ關スル診定ヲ爲シ之ヲ厚生大臣ニ具申スヘシ

優生診定委員會ハ前項診定ノ爲必要アルトキハ本人ノ出頭ヲ命スルコトヲ得

第十一條　厚生大臣斷種ヲ適當トスル旨ノ具申ヲ受ケタルトキハ一月以内ニ斷種ノ手術ヲ爲サシムヘシ但シ特ニ必要アル場合ハ相當期間之ヲ延期スルコトヲ得

前項ノ手術ハ厚生大臣ノ指定シタル場所ニ於テ任命セラレタル醫師之ヲ行フ

第十二條　斷種ノ手術ヲ爲シタル醫師ハ其ノ手術後三十日以内ニ命令ノ定ムル所ニ依リ手術ノ結果及手術後ノ經過ヲ厚生大臣及優生診定委員會ニ報告スルコトヲ要ス

第十三條　斷種ニ關與シタル者ハ斷種ヲ受ケタル者ノ住所、氏名及斷種ノ狀況ニ付祕密ヲ守ル義務ヲ有ス

第十四條　故ナク前條ノ義務ニ違反シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○子爵戸澤正己君　只今議題トナリマシタ民族優生保護法案ハ、職員健康保險法案外一件ニ關聯致シマスル故ニ、同特別委員ニ併託サレムコトノ動議ヲ提出致シマス

○子爵秋田重季君　贊成

○議長(伯爵松平頼壽君)　戸澤子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(伯爵松平頼壽君)　御異議ナイト認メマス

○議長(伯爵松平頼壽君)　次會ハ明二十日午後二時ヨリ開會致シマス、議事日程ハ決定次第彙報ヲ以テ御通知ニ及ビマス、本日ハ是ニテ散會致シマス

午後零時三十四分散會

貴族院議事速記錄第二十四號正誤

頁	段	行	誤	正
三三三	一	三一	指名	氏名

內閣印刷局

明治二十五年三月三十一日
第三種郵便物認可

官報 號外

昭和十四年三月二十一日

○第七十四回帝國議會貴族院議事速記錄第二十六號

昭和十四年三月二十日（月曜日）午後二時十二分開議

議事日程　第二十六號

昭和十四年三月二十日

午後二時開議

第一　臨時資金調整法中改正法律案（政府提出、衆議院送付）

第一讀會ノ續（委員長報告）

第二　産金法中改正法律案（政府提出、衆議院送付）

第一讀會ノ續（委員長報告）

第三　日本産金振興株式會社法中改正法律案（政府提出、衆議院送付）

第一讀會ノ續（委員長報告）

第四　恩給法中改正法律案（政府提出、衆議院送付）

第一讀會ノ續（委員長報告）

第五　國債整理基金特別會計法中改正法律案（政府提出、衆議院送付）

第一讀會ノ續（委員長報告）

第六　明治三十九年法律第三十四號中改正法律案（政府提出、衆議院送付）

第一讀會ノ續（委員長報告）

第七　明治四十二年法律第九號中改正法律案（政府提出、衆議院送付）

第一讀會ノ續（委員長報告）

第八　昭和十三年法律第六十四號中改正法律案（政府提出、衆議院送付）

第一讀會ノ續（委員長報告）

第九　朝鮮銀行券及臺灣銀行券ノ保證發行限度ノ臨時擴張ニ關スル法律案（政府提出、衆議院送付）

第一讀會ノ續（委員長報告）

第十　昭和十三年法律第二十三號中改正法律案（政府提出、衆議院送付）

第一讀會ノ續（委員長報告）

第十一　昭和十四年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲公債追加發行ニ關スル法律案（政府提出、衆議院送付）

第一讀會ノ續（委員長報告）

第十二　昭和七年法律第一號中改正法律案（政府提出、衆議院送付）

第一讀會ノ續（委員長報告）

第十三　支那事變ニ關スル特別賜金トシテ交付スル爲公債發行ニ關スル法律案（政府提出、衆議院送付）

第一讀會ノ續（委員長報告）

第十四　大正九年法律第五十三號中改正法律案（政府提出、衆議院送付）

第一讀會ノ續（委員長報告）

○議長（伯爵松平賴壽君）　報告ヲ致サセマス

〔丸總書記官朗讀〕

昨十九日本院ニ於テ可決シタル左ノ政府提出案ハ卽日裁可ヲ奏請シ又可決ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ

北海道拓殖銀行法中改正法律案

金資金特別會計法中改正法律案

國境取締法案

軍用資源祕密保護法案

保險業法改正法律案

臺灣事業公債法中改正法律案

酒造業調整法案

昭和十二年法律第八十四號中改正法律案

同日本院ニ於テ可決シタル左ノ政府提出案ハ卽日之ヲ衆議院ニ送付セリ

商法ヲ引用スル條文ノ整理ニ關スル法律案

同日米穀配給統制法案特別委員會ニ於テ當選シタル正副委員長ノ氏名左ノ如シ

委員長　伯爵酒井　忠正君

副委員長　男爵矢吹　省三君

本日委員會ニ於テ當選シタル正副委員長ノ氏名左ノ如シ

映畫法案特別委員會

委員長　公爵岩倉　具榮君

副委員長　男爵紀　俊秀君

船舶建造融資補給及損失補償法案特別委員會

委員長　伯爵後藤　一藏君

副委員長　男爵深尾隆太郎君

本日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

國際電氣通信株式會社法中改正法律案可決報告書

○議長（伯爵松平賴壽君）　是ヨリ本日ノ會議ヲ開キマス、日程第一、臨時資金調整法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長報告、委員長高橋子爵

〔左ノ報告書ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ玆ニ載錄ス　以下之ニ倣フ〕

臨時資金調整法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十四年三月十九日

委員長　子爵高橋　是賢

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

〔子爵高橋是賢君演壇ニ登ル〕

○子爵高橋是賢君　只今議題トナリマシタ臨時資金調整法中改正法律案ハ、三月十三日ニ昭和十四年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案ノ特別委員會ニ付託セラレマシタ、卽日政府當局カラ詳細ナル說明ヲ聽取致シマシタ、本委員會ニ於テハ數回ニ亙リ多クノ重要ナル質問應答ガ行ハレタノデアリマス、是ヨリ其ノ審議ノ經過及結果ニ付テ御報告ヲ申上ゲマス、先ヅ本改正案ノ內容ニ付キマシテ簡單ニ申上ゲマス、改正ノ第一點ハ、資金使用ノ調整ヲ一層效果的ナラシムル爲ニ、事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ニ關シ許可ヲ受クベ

キモノノ範圍ヲ擴大シ、個人及會社以外ノ法人ニモ及スコトニナシタノデアリマス、其ノ第二ノ點ハ生産力擴充資金等、時局ニ緊要ナル産業資金ノ需要増加ノ趨勢ニ對處スル爲ニ、日本興業銀行ノ債券發行限度ヲ、五億圓ヨリ十億圓ニ擴張シ、之ガ元利金支拂ニ對シ政府ノ係證シ得ル限度ヲ、額面金額十億圓迄擴張スルコトト致シタノデアリマス、第三點ハ、貯蓄債券ノ發行限度ヲ二億圓トアリマシタノヲ五億圓ニ擴張シ、以テ政府ガ撒布スル所ノ資金ヲ適當ニ吸收セムトスルコト等デアリマス、玆ニ質問應答ノ主ナルモノノ中、二三御紹介ヲ致シマス、一委員ヨリ、此ノ法律ニ依レバ會社ハ勿論個人ニ於テモ五萬圓以上ノ工事ハ、總テ認可又ハ許可ヲ申請セザレバ著手スルコトガ出來ヌコトニナルガ、其ノ件數ハ定メシ夥シイ口數トナリ、政府トシテハ之ガ可否ヲ斷ズル上ニ、其ノ調査ニ多大ノ時日ト手數ヲ要スベク、從ッテ事業ノ進展ヲ困難ナラシムル虞ガアルト思フガ如何ト云フ質問ガアリマシタ、政府ハ、實際ノ仕事ハ日本銀行ヲシテ取扱ハシメ、事業ハ別ニ其ノ性質、金高等ニ依ッテ一定ノ標準ヲ立テテ居ル故ニ、假令審査會ノ議ヲ經ルトシテモ、約十日間位デ處理出來ル見込デアルカラ、左程困難ハナイト信ズル旨ノ答辯ガアリマシタ、又一員ヨリ、軍需品産業ハ何等支障ナカルベキモ、所謂平和産業ニ關スルモノハ漸次衰退ノ一途ヲ辿ルコトトナルヤウニ思フガ、政府ハ如何ニ考ヘルヤト云フ質問ニ對シ、政府ハ諸般ノ産業ニ付テハ、平時デアルナラバ何モ好ンデ甲乙ヲ付ケル考ハ毛頭ナイガ、現在ノ時局ニ於テハ事變處理ノ目的ニ向ッテ必要ナル産業ノ爲ニハ、平和産業ニ犠牲ヲ拂ッテ貰フコトトナルコトハ事實已ムヲ得ヌ次第デアル、併シナガラ其ノ種類ニ依ッテハ、或ハ輸出品ノ製作等ニ關スルモノハ、十分考慮ヲスルトノ御答ガアリマシタ、又一員ヨリ、此ノ法律ハ日本興業銀行ノ増資ヲ爲シ、債券ノ元利拂ニ對スル保證限度ヲ擴張シタリスルガ、日本興業銀行ヲシテ、軍需工業會社等ノ過剩利益ヲ集收シテ資本化シ、資金ノ不足ノ所ニ向ケテ生産擴充ノ資金ニ融通スルト云フ意味ナノカト云フ質問ガアリマシタ、之ニ對シテ政府ハ、現今利益ノ多クアル産業ト云フノハ先ヅ軍需工業デアラウト思フ、是等ノ會社ハ餘剩利益ガアレバ之ヲ自己ノ擴張ニ使用シ、尚餘剩ガアレバ公債ニ振向ケルナリ、或ハ銀行預金トスルト云フ風ニナルト思フ、併シナガラ之ヲ無駄ニ使ハヌヤウニ、總動員法第十一條ノ經理命令ニ依ッテ、各會社ニ命令シ得ルコトデアリマスルカラ從ッテ各社デ配當制限ニ依ッテ浮イテ來ル金ハ、無駄使ヒヲセヌヤウニシテ貰ヒタイノデアルガ、併シナガラソレニ依ッテ直チニ興業債券ヲ持タセルカドウカト云フ所マデハ考ヘテ居ラヌト云フ御答辯デアリマシタ、以上大要申述ベマシタ質問應答ガ行レマシタ、尚詳細ハ速記ニ依ッテ御了承ヲ願ヒマス、次イデ討論ニ入リ、一委員ヨリ本法施行ニ際シテハ、一般國民ニ本法ノ精神ヲ能ク徹底的ニ了解セシムルヤウ、政府ニ於テ御盡力ヲ願ヒ、又實業界ヤ財界ノ方面ニモ無益ナ脅威ヤ苦痛ヲ與ヘヌヤウニ、例ヘバ平和産業ニ從事シテ居ル人々ヲシテ、一概ニ此ノ仕事ハ駄目ナノダト云ッタヤウナ感ジヲ持タセズニ、是等ノ人々ガ快ク或程度ノ犠牲ヲ拂フト云ッタ氣持ヲ以テ、平和産業モ軍需産業モ、共ニ倶ニ時艱ノ克服ニ向ッテ邁進スルヤウ、政府當局ニ於テ舵ヲ取ッテ、サウシテ政府ノ御提唱ニナル總親和ノ實ヲ擧ゲラレムコトヲ希望スルト云フ意味ノ希望ヲ述ベラレテ、本法案ニ對スル贊成意見ノ開陳ガアリマシタ、採決ノ結果、全會一致ヲ以テ本法案ハ可決セラレマシタ、右御報告申上ゲマス

○議長（伯爵松平賴壽君）　別ニ御發言モナケレバ、本案ノ採決ヲ致シマス、本案ノ第二讀會ヲ開クコトニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君　直チニ本案ノ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君　贊成

○議長（伯爵松平賴壽君）　西大路子爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス

○議長（伯爵松平賴壽君）　本案ノ第二讀會ヲ開キマス、御異議ガナケレバ全部ヲ問題ニ供シマス、本案全部、委員長ノ報告通リデ御異議ハゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君　直チニ本案ノ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君　贊成

○議長（伯爵松平賴壽君）　西大路子爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス

○議長（伯爵松平賴壽君）　本案ノ第三讀會ヲ開キマス、本案全部、第二讀會ノ決議通リデ御異議ハゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス

○議長（伯爵松平賴壽君）　日程第二、産金法中改正法律案、日程第三、日本産金振興株式會社法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長報告、是等ノ二案ヲ一括シテ議題ト爲スコトニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス、委員長井上子爵

産金法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十四年三月十九日

委員長　子爵井上匡四郎

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

日本産金振興株式會社法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十四年三月十九日

委員長　子爵井上匡四郎

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

〔子爵井上匡四郎君演壇ニ登ル〕

○子爵井上匡四郎君　只今議題トナリマシタ二法案ニ付キマシテ御報告ヲ申上ゲマス、特別委員會ハ去ル十四日ヨリ五回ニ亙リ、午前午後ニ亙リマシテ開會致シマシタ、昨十九日午前兩案共原案通リ可決致シマシタ、今其ノ經過ニ付テ簡單ニ御報告申上ゲマス、産業法ハ第七十二議會ニ於キマシテ協贊ヲ與ヘマシタ所ノ、昭和十二年法律第十九號ノ現行法デアルノデアリマス、此ノ法律ニ依リマシテ從來金ハ自由商品デアリマシテタモノヲ、政府ハ金資金確保ノ必要上カラ、政府ノ統制ノ下ニ金ヲ置キマシテ、又此ノ法律ノ施行以來、政府ハ諸般ノ施設ヲ講ジマシテ、極力産金ノ増加ヲ圖リマスト共ニ、或ハ金使用規則ヲ制定シ、國內ニ於ケル金ノ消費ヲ節約シ、或ハ國民ノ協力ヲ得テ民間所在ノ金ノ集中ニ努メテ參ッタノデアリマス、今回此ノ改正案ニ依リマシテ其ノ徹底ヲ期セムトスルモノデアリマス、即チ政府ノ必要ト認メマシタ場合ニ於キマシテハ、金地金ハ勿論、金ヲ主タル材料トスルモノヲ所有スル者ニ對シ、之ガ處分ニ付テ禁止、制限又ハ之ヲ政府若シクハ日本銀行其ノ他政府ノ指定スルモノニ賣却シ得ベキコトヲ命ジ得ル旨ノ法制ヲ、政府ハ整ヘ置キタイトノ趣旨カラノ提案デアリマス、委員會ハ前ニ申シマシタヤウニ、數日ニ亙リ委員諸君ハ最モ熱心ニ論議セラレマシタ、何レモ金ヲ中心トシテ、政府ガ此ノ非常時局ヲ滯リナク克服シ得ルヤトノ憂國ノ赤誠ノ迸リデアリマシテ、勿論委員中ドナタモガ此ノ案ニ積極的ニ反對意見ヲ御持チノ御方ハナカッタヤウニ見受ケマシタ、併シ其ノ論議ハ我ガ國ノ非常時財政ノ中樞ニ觸レ、大藏大臣ハ勿論商工大臣、企畫院總裁、特ニ總理大臣ノ長時間ニ亙ル出席ヲ求メマシテ、愼重審議ヲ致シマシタ、從ッテ其ノ審議ノ大部分ハ速記中止、或ハ祕密會ニ於テ行ハレマシタ故ニ、此處ニ御報告スル自由ヲ有セザルコトヲ遺憾ト致シマス、此ノ審議ノ中ノ主要ナルモノヲ申上ゲマスト、日本國民ノ愛國心ハ法ヲ以テ强制スル必要ハナイデアラウ、又各家ニ傳リマシタ所ノ家寶、美術品、骨董品、工藝品ト云フヤウナモノマデ、之ヲ强制徵發スルト云フコトハ、國民精神道德上ニ及ス影響ガ如何デアラウカ、民間ノ金ヲ徵發セズトモ、新資源ノ開發、國際收支ノ改善等ニ依ッテ、資金獲得ノ途ヲ講ズル方ガモット有效デハナイデアラウカ、今日ハ輸入ヲ仰グ物即チ是ハ金デアル、必ズシモ金ヲ政府ハ持タナクトモ、他ノ資源ニ依ッテ金ヲ獲得スル方法ヲ講ズル方ガ有效デハナイダラウカ、外國ハ日本財政ノ堅實性ニ驚イテ居ル時ニ、斯ウ云フ法律ヲ發布スルト云フコトハ日本財政ノ信用上ドウデアラウカ、ト云フヤウナ趣旨ノ御質問ガ相當澤山アッタノデアリマス、之ニ對シテ政府ハ、金ノ集中ハ國民ノ愛國心ニ愬ヘルト云フコトハ勿論デアルガ、又此ノ法律ガ制定セラレタカラト云ッテ、之ヲ强制スル積リハナイノデアル、唯政府ハ此ノ場合、其ノ權能ヲ確保シテ置キタイト云フノニ止マルノデアル、家寶其ノ他美術、工藝骨董品ノ如キモノデアリマシテ、其ノ中ニ含ンデ居ル金ノ値ヨリモ其ノ物ノ値段ガ頗ル高價ナモノニ對シマシテハ、此ノ場合政府ニ於テ强制シナイ積リデアル、併シ其ノ美術、工藝、骨董品ト雖モ、ソレハ客觀的ノモノデナケレバナラナイノデ、主觀的デハ困ル、例ヘバ金塊ノ如キモノヲ家寶トシテ其ノ家ニ傳ハリ、若シクハ自分ノ尊敬セル先輩等ヨリ形見トシテ貰ッタヤウナモノガアリトシテモ、斯クノ如キモノハ此ノ場合政府ニ提供シテ貰ヒタイ、ソレニ對スル觀念ト云フモノハ、ソレハ、其ノ人ノ主觀的ノモノデアッテ客觀的ノモノデハナイ、又金品ニ對スル御下賜品ノ如キモノハ、勿論此ノ場合申告モ徵セザル積リデアルト云フヤウナ御話デアリマシタ、他ノ方法ニ依ル方ガ、即チ新資源ノ開發、若シクハ國際收支ノ改善ニ依ッテ金ヲ獲得スル方ガ、モット有利デハナイカト云フ質問ニ對シマシテハ、是等ノ方法ハ政府トシテハ既ニ極力盡シテ居ルノデアルト云フ御答辯デアリマシテ、此ノ點ニ關シマシテハ努力ノ程度ノ問題デアルノデアリマシテ、政府ト質問者トノ間ニ必ズシモ一致シタトモ見受ケ兼ネタヤウナ狀態デアリマシタ、最後ノ外國ニ及ス影響如何ト云フ問題ニ對シマシテハ、大藏大臣ハ、非常財政ノ場合、即チ戰時ノ場合ノ如キハ、國民ノ金ヲ徵收スルト云フコトハ是ハ財政家ノ定石デアルノデ、何モ少シモ外國ニ此ノ爲ニ日本ノ財政ノ基礎ガ動搖スルト云フヤウナ感情ヲ與ヘルコトハナイ、財政家トシテハ當然行フベキ所ノ定石デアルノデ、サウ云フ御心配ハ要ラヌト云フコトデアリマシタ、玆ニ特ニ申上ゲテ置キタイコトハ、此ノ委員會ヲ通ジマシテ、大藏大臣ハ、我ガ國ノ金問題ニ付キマシテハ頗ル率直ニ御説明ヲ下サイマシタ、委員一同ハ大イニ之ヲ多トサレタヤウニ見受ケラレマシタ、討論ノ結果同案ハ全會一致ヲ以テ可決セラレマシタ、次ハ日本産金振興株式會社法中改正法律案デアリマス、此ノ法案ハ七十三議會ニ於テ成立致シマシタモノデアリマシテ、成立後マダ此ノ會社ハ營業年度ノ第一年度ヲ數箇月過シタバカリノ會社デアリマス、此ノ會社ノ今迄ノ仕事ハ、金山ニ對シマシテノ資金ノ融通ガ主ナルモノデアッタノデアリマス、十四年一月二十日現在ニ於キマシテ、內地ノ鑛山ニ資金ヲ融通致シマシタモノガ十七件、朝鮮ニ百三十一件、合計百四十八件、其ノ金額三千七百萬圓ニ達シテ居ルノデアリマス、政府ハ産金ノ増加ヲ必要ト致シマスル爲ニ、此ノ改正法律案ニ依リマシテ、此ノ會社ニ對シテ必要ナル産金上ノ命